弘前大学大学院医学研究科・附属病院

自 己 評 価 報 告 書

＝2008年度－2009年度＝

２０１１年３月

弘前大学大学院医学研究科・附属病院自己評価委員会

自己評価報告書の発刊にあたって

弘前大学大学院医学研究科長　佐　藤　　敬

2008～2009 年度の自己点検評価結果がまとまりました。いつものように，この業務を担当された教職員の皆さんに感謝するとともに，すべての教員が自らの実績評価に真摯に，かつ継続的に取り組んでいることに敬意を表します。

自己点検評価が現在のような形で実施されるようになってから 14 年が経ち，2 年ごとに発刊されてきた報告書も 7 冊目となりました。この間，2008 年からは全学の自己評価が開始されことに伴って，個人の実績データは廃止されました。しかしながら，講座等の評価は個人の実績の積み重ねですので，個々の教員が常に自分の実績をチェックしていなければならないという点では以前と変わりありません。その意味で，今回の自己点検評価結果を，改めてゆっくり見つめていただくことを，すべての教員にお願いしたいと思います。

論文の数やインパクトファクターなど，明確な数字をもって示すことが可能な研究業績と，明確な指標を設定するのが必ずしも容易ではない，教育実績をはじめとする，その他の成果を正しく判断するためには，この自己点検評価のように，まず，すべての実績を定量的，定性的に列挙することから始める必要があります。あくまで自己点検評価ですから，客観的指標を用いることは二の次で構わないのではないでしょうか。そして，実績に伴う，例えば報奨などは後からついて来るものです。とにかく先ずは，自分達の実績を真摯にみつめることが私たちの重要な役割でもあります。普段から教育研究に全力であたっている教員にとって，この作業は決して簡単なものではないと思います。しかし，そのような中にあっても，しっかりと自らの実績をみつめていくことに価値を見出したいと思います。当然のように，私たちは皆，自分の教育研究業務がより良いものでありたいと願っていますが，単なる願いで終わるのではなく，実績を振り返ってみつめることは不可欠です。

今後，多少の変更はあるかもしれないものの，基本的に，このような自己点検評価は継続して実施して行かなければなりません。

自己評価報告書 2008－2009 年度版刊行にあたって

弘前大学大学院医学研究科・附属病院自己評価委員会
委員長　若　林　孝　一
（脳神経病理学講座）

弘前大学医学研究科（医学部医学科）・附属病院では，1994年に最初の自己点検評価を行い，その後も自己点検評価を継続するとともに，その内容を報告書として公表してきました。現在，2002年度以降の報告書が医学研究科のホームページからダウンロードすることができるようになっています。この度，2008年度と2009年度の内容をまとめたのがこの報告書であり，これで９回目の報告となります。今回の報告書作成にあたり，これまでの報告書との連続性を維持するため，評価項目としては前回同様に，教育，研究，管理・運営，社会貢献の４分野としました。診療に関する項目は附属病院年報との重複を避けるため，従前どおり含まれておりません。また，2008年度からは個々の教員の自己点検評価は止め，組織（講座および診療科）としての評価のみを行うことになりました。これによって，講座および診療科としての評価は毎年の自己点検評価によって，一方，各教員の評価は全学の評価システムならびに教員任期制の再任申請時になされるという体制ができたように思います。

2007年４月に大学院医学研究科が部局化され，医学研究科，附属病院，保健学研究科はそれぞれが部局になりました。大学院の部局化は単に組織の改組ではなく，大学院の重点化を目的としたものです。特に最近は大学院の充足率が大学のアクティビィティーを示す重要な指標として用いられるようになり，医学研究科でも充足率のアップに努めてきました。その結果，ここ３年間の入学者定員に対する充足率は100パーセント以上を維持し，収容定員に対する充足率も100パーセントを達成することができました。

自己点検評価を継続して行うことは重要なことですが，さらに重要なことは評価結果を何に反映していくかだと思います。そのひとつとして，医学研究科では2008年度から研究費のインセンティブ配分を復活しました。例えば，2010年度は2008年度の自己点検評価をもとに研究科長裁量経費から総額250万円を基礎系３講座，臨床系２講座に配分しました。結果的に重点配分を受けた講座は，教育，研究，社会貢献を含め総合的に評価された講座でした。将来的には，教育，研究，社会貢献の各々に特化して重点配分を行うという方法もあると思います。いずれにしても，評価結果をどのように生かしていくかは自己評価委員会の重要な責務です。

2007年度から弘前大学では全教員を対象とした評価システムが大学全体で動き始めました。医学研究科・附属病院の自己評価項目とは内容的にも重複するところが多く，両者の兼ね合いについては今後検討すべき課題と思われます。

最後に，本報告書の作成にご協力いただいた医学研究科と附属病院のすべての教員と事務職員各位に深謝申し上げます。

目　次

第１章　教育活動

１．　神経解剖・細胞組織学講座…… 1
２．　生体構造医科学講座…… 4
３．　統合機能生理学講座…… 7
４．　ゲノム生化学講座…… 10
５．　病態薬理学講座…… 13
６．　分子病態病理学講座…… 17
７．　病理生命科学講座…… 20
８．　感染生体防御学講座…… 24
９．　社会医学講座…… 28
10.　法医学講座…… 33
11.　消化器血液内科学講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）…… 35
12.　循環呼吸腎臓内科学講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）…… 39
13.　内分泌代謝内科学講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）…… 43
14.　腫瘍内科学講座（診療科：腫瘍内科を含む）…… 46
15.　神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）…… 48
16.　小児科学講座（診療科：小児科を含む）…… 52
17.　胸部心臓血管外科学講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）…… 56
18.　消化器外科学講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）…… 60
19.　整形外科学講座（診療科：整形外科を含む）…… 64
20.　皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）…… 68
21.　泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）…… 71
22.　眼科学講座（診療科：眼科を含む）…… 74
23.　耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）…… 77
24.　放射線科学講座（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）…… 80
25.　産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）…… 83
26.　麻酔科学講座（診療科：麻酔科を含む）…… 86
27.　脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）…… 90
28.　歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）…… 93
29.　形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）…… 97
30.　救急・災害医学講座（2008年度のみ報告）…… 100
31.　臨床検査医学講座…… 102
32.　臨床薬理学講座（2009年度から専任教員なしのため，資料なし）…… 105
33.　小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）…… 106
34.　医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）…… 108
35.　総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）…… 111
36.　薬剤学講座（薬剤部を含む）…… 114

37. 脳神経病理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……116
38. 脳血管病態学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……120
39. 脳神経生理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……123
40. 脳神経内科学講座（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）……125
41. 分子生体防御学講座（附属高度先進医学研究センター）……128
42. 糖鎖工学講座（附属高度先進医学研究センター）……130
43. 附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，感染生体防御学講座で報告）……133
44. 医学教育センター（資料なし）……135
45. 手術部（部長（教授，併任については胸部心臓血管外科学講座で報告）……136
46. 検査部（部長（教授，併任），副部長（准教授，併任）については臨床検査医学講座で報告）……138
47. 放射線部（教員分は放射線科学講座で報告）……140
48. 輸血部（部長（教授，併任）については小児科学講座で報告）……142
49. 集中治療部（部長（教授，併任）については麻酔科学講座で報告）……145
50. 周産母子センター（部長（教授，併任）については産科婦人科学講座で，副部長（准教授，併任）については小児科学講座で報告）…147
51. 病理部（部長（教授，併任）については病理生命科学講座で報告）……149
52. 光学医療診療部（部長（教授，併任）については，消化器血液内科学講座で報告）……151
53. リハビリテーション部（部長（教授，併任）については整形外科学講座で報告）……153
54. 医療安全推進室（室長（教授，兼任）については臨床検査医学講座で報告）……155
（別表）医学部医学科学生について資料１～５……157
大学院生について資料１～９……167

第２章　研究活動

研究活動に関する自己点検・評価（記載説明）

１．神経解剖・細胞組織学講座……175
２．生体構造医科学講座……180
３．統合機能生理学講座……185
４．ゲノム生化学講座……193
５．病態薬理学講座……198
６．分子病態病理学講座……204
７．病理生命科学講座……212
８．感染生体防御学講座……218
９．社会医学講座……224
10. 法医学講座……233
11. 消化器血液内科学講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）……238
12. 循環呼吸腎臓内科学講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）……248
13. 内分泌代謝内科学講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）……257
14. 腫瘍内科学講座（診療科：腫瘍内科を含む）……267
15. 神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）……272
16. 小児科学講座（診療科：小児科を含む）……283
17. 胸部心臓血管外科学講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）……291

18. 消化器外科学講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）……299
19. 整形外科学講座（診療科：整形外科を含む）……307
20. 皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）……319
21. 泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）……327
22. 眼科学講座（診療科：眼科を含む）……336
23. 耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）……343
24. 放射線科学講座（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）……350
25. 産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）……356
26. 麻酔科学講座（診療科：麻酔科を含む）……366
27. 脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）……374
28. 歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）……379
29. 形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）……384
30. 救急・災害医学講座（2008年度のみ報告）……388
31. 臨床検査医学講座……392
32. 臨床薬理学講座（2009年度から専任教員なしのため，資料なし）……398
33. 小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）……401
34. 医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）……405
35. 総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）……409
36. 薬剤学講座（薬剤部を含む）……414
37. 脳神経病理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……418
38. 脳血管病態学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……424
39. 脳神経生理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……430
40. 脳神経内科学講座（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）……435
41. 分子生体防御学講座（附属高度先進医学研究センター）……447
42. 糖鎖工学講座（附属高度先進医学研究センター）……453
43. 附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，感染生体防御学講座で報告）……458
44. 医学教育センター（資料なし）……462
45. 手術部（部長（教授，併任については胸部心臓血管外科学講座で報告）……465
46. 検査部（部長（教授，併任），副部長（准教授，併任）については臨床検査医学講座で報告）……469
47. 放射線部（教員分は放射線科学講座で報告）……472
48. 輸血部（部長（教授，併任）については小児科学講座で報告）……476
49. 集中治療部（部長（教授，併任）については麻酔科学講座で報告）……480
50. 周産母子センター（部長（教授，併任）については産科婦人科学講座で，副部長（准教授，併任）については小児科学講座で報告）…486
51. 病理部（部長（教授，併任）については病理生命科学講座で報告）……491
52. 光学医療診療部（部長（教授，併任）については，消化器血液内科学講座で報告）……494
53. リハビリテーション部（部長（教授，併任）については整形外科学講座で報告）……500
54. 医療安全推進室（室長（教授，兼任）については臨床検査医学講座で報告）……505

第３章　社会貢献活動

１．　神経解剖・細胞組織学講座……511
２．　生体構造医科学講座……513
３．　統合機能生理学講座……515
４．　ゲノム生化学講座……517
５．　病態薬理学講座……519
６．　分子病態病理学講座……521
７．　病理生命科学講座……524
８．　感染生体防御学講座……527
９．　社会医学講座……530
10.　法医学講座……538
11.　消化器血液内科学講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）……540
12.　循環呼吸腎臓内科学講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）……545
13.　内分泌代謝内科学講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）……549
14.　腫瘍内科学講座（診療科：腫瘍内科を含む）……553
15.　神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）……555
16.　小児科学講座（診療科：小児科を含む）……567
17.　胸部心臓血管外科学講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）……572
18.　消化器外科学講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）……575
19.　整形外科学講座（診療科：整形外科を含む）……579
20.　皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）……585
21.　泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）……588
22.　眼科学講座（診療科：眼科を含む）……592
23.　耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）……595
24.　放射線科学講座（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）……599
25.　産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）……602
26.　麻酔科学講座（診療科：麻酔科を含む）……608
27.　脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）……611
28.　歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）……615
29.　形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）……619
30.　救急・災害医学講座（2008年度のみ報告）……621
31.　臨床検査医学講座……623
32.　臨床薬理学講座（2009年度から専任教員なしのため，資料なし）……625
33.　小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）……626
34.　医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）……628
35.　総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）……630
36.　薬剤学講座（薬剤部を含む）……633
37.　脳神経病理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……635
38.　脳血管病態学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……637
39.　脳神経生理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……639

40. 脳神経内科学講座（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）……641
41. 分子生体防御学講座（附属高度先進医学研究センター）……647
42. 糖鎖工学講座（附属高度先進医学研究センター）……649
43. 附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，感染生体防御学講座で報告）……651
44. 医学教育センター（資料なし）……653
45. 手術部（部長（教授，併任については胸部心臓血管外科学講座で報告）……654
46. 検査部（部長（教授，併任），副部長（准教授，併任）については臨床検査医学講座で報告）……656
47. 放射線部（教員分は放射線科学講座で報告）……657
48. 輸血部（部長（教授，併任）については小児科学講座で報告）……660
49. 集中治療部（部長（教授，併任）については麻酔科学講座で報告）……662
50. 周産母子センター（部長（教授，併任）については産科婦人科学講座で，副部長（准教授，併任）については小児科学講座で報告）…664
51. 病理部（部長（教授，併任）については病理生命科学講座で報告）……666
52. 光学医療診療部（部長（教授，併任）については，消化器血液内科学講座で報告）……668
53. リハビリテーション部（部長（教授，併任）については整形外科学講座で報告）……670
54. 医療安全推進室（室長（教授，兼任）については臨床検査医学講座で報告）……672

第４章　管理・運営

Ⅰ．所属委員会（医学研究科・医学部医学科・附属病院・全学）……675
Ⅱ．医学研究科・医学部医学科及び附属病院役付職員一覧……686
Ⅲ．学友会所属サークル一覧（体育系及び文化系）……686
Ⅳ．教員現員並びに諸会議・会合について……689
1．神経解剖・細胞組織学講座……689
2．生体構造医科学講座……689
3．統合機能生理学講座……690
4．ゲノム生化学講座……691
5．病態薬理学講座……691
6．分子病態病理学講座……692
7．病理生命科学講座……693
8．感染生体防御学講座……693
9．社会医学講座……694
10. 法医学講座……694
11. 消化器血液内科学講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）……695
12. 循環呼吸腎臓内科学講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）……696
13. 内分泌代謝内科学講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）……696
14. 腫瘍内科学講座（診療科：腫瘍内科を含む）……697
15. 神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）……698
16. 小児科学講座（診療科：小児科を含む）……699
17. 胸部心臓血管外科学講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）……699
18. 消化器外科学講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）……700
19. 整形外科学講座（診療科：整形外科を含む）……701

20. 皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）……701
21. 泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）……702
22. 眼科学講座（診療科：眼科を含む）……703
23. 耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）……703
24. 放射線科学講座（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）……704
25. 産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）……705
26. 麻酔科学講座（診療科：麻酔科を含む）……705
27. 脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）……706
28. 歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）……707
29. 形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）……708
30. 救急・災害医学講座（2008年度のみ報告）……708
31. 臨床検査医学講座……709
32. 臨床薬理学講座（2009年度から専任教員なしのため，資料なし）……709
33. 小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）……710
34. 医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）……710
35. 総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）……711
36. 薬剤学講座（薬剤部を含む）……712
37. 脳神経病理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……712
38. 脳血管病態学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……713
39. 脳神経生理学講座（附属脳神経血管病態研究施設）……714
40. 脳神経内科学講座（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）……714
41. 分子生体防御学講座（附属高度先進医学研究センター）……715
42. 糖鎖工学講座（附属高度先進医学研究センター）……716
43. 附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，感染生体防御学講座で報告）……716
44. 医学教育センター（資料なし）……717
45. 手術部……717
46. 検査部……718
47. 放射線部……718
48. 材料部……719
49. 救急部（資料なし）……720
50. 輸血部……720
51. 集中治療部……721
52. 周産母子センター……721
53. 病理部……722
54. 光学医療診療部……722
55. リハビリテーション部……723
56. 強力化学療法室（ICTU）……724
57. 地域連携室……724
58. ＭＥセンター……725
59. 治験管理センター……726

60. 卒後臨床研修センター……726
61. 歯科医師卒後臨床研修室……727
62. 腫瘍センター……728
63. 医療支援センター（資料なし）……729
64. 栄養管理部……729
65. 病歴部……729
66. 医療安全推進室……730

教　育　活　動

第1章　教　育　活　動

1．神経解剖・細胞組織学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これまでの組織学，神経解剖学担当分等に加え，系統解剖学実習の一部も担当し，目標に対する到達度は90% 程度である。

これから2年間の目標：

生体構造医科学講座と連携し，解剖学教育の充実に努める。神経解剖学，組織学等を引き続き担当し，教育内容，方法の改善に努める。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	小田桐沙織	助手	基礎ゼミナール	24
09年度	浅野　義哉	助教	基礎ゼミナール	2
	目黒　玲子	助教	基礎ゼミナール	2
	小田桐紗織	助手	基礎ゼミナール	18

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	浅野　義哉	助教	基礎科学実験	18
09年度	浅野　義哉	助教	基礎科学実験	18

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	一戸　紀孝	教授	組織学講義	2	10
	浅野　義哉	助教	組織学講義	2	10
			チュートリアル	3	16
	目黒　玲子	助教	組織学講義	2	10
			チュートリアル	3	8
	小田桐沙織	助手	基礎人体科学演習	1	88
09年度	一戸　紀孝	教授	脳の科学	3	24
			組織学実習講義	2	10
			医学英語	1	28
			基礎医学概論	2	2
	浅野　義哉	助教	組織学実習講義	2	10
			チュートリアル	3	8
			基礎人体科学演習	1	8
	目黒　玲子	助教	組織学実習講義	2	8
			基礎人体科学演習	1	8
			チュートリアル	3	8
	小田桐紗織	助手	基礎人体科学演習	1	56

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	一戸　紀孝	教授	組織学実習	2	60
	浅野　義哉	助教	組織学実習 発展生命科学Ⅰ脳の科学（実習）	2 3	60 22
	目黒　玲子	助教	組織学実習 発展生命科学Ⅰ脳の科学（実習）	2 3	60 22
	小田桐沙織	助手	組織学実習 発展生命科学Ⅰ脳の科学（実習）	2 3	46 22
09年度	一戸　紀孝	教授	系統解剖学実習 組織学実習 脳解剖学実習	2 2 3	192 60 30
	浅野　義哉	助教	組織学実習 脳解剖学実習 系統解剖学実習	2 3 2	60 30 64
	目黒　玲子	助教	組織学実習 脳解剖学実習 系統解剖学実習	2 3 2	60 30 64
	小田桐紗織	助手	脳解剖学実習 系統解剖学実習 組織学実習	3 2 3	24 64 60

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	2名	浅野　義哉，目黒　玲子
09年度	2名	一戸　紀孝，目黒　玲子，小田桐紗織

【大学院】

1）講義　　該当なし。

2）実習　　該当なし。

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	目黒　玲子	助教	チュートリアル FD

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	目黒　玲子	助教	解剖学Ⅱ	56
09年度	浅野　義哉	助教	解剖学Ⅲ	30

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	小田桐沙織	助教	基礎ゼミナール 基礎人体科学演習	98.8 98.8

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度			組織学実習	
09年度	一戸　紀孝	教授	発展生命科学Ⅰ	3.8
	浅野　義哉	助教	組織学実習	4.1
	目黒　玲子	助教	組織学実習	3.8

2）専門教育の評価　2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
脳解剖実習	3	5	30	3.72	
組織学実習	2	15	90	3.93	

2．生体構造医科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

前回の設定目標は

1）解剖学講義実習の改善と充実　2）医の倫理教育　3）教育分野での社会的貢献　の3点に集約される。

この2年間では前教授の定年退任後，専任教授不在の1年となったため，残されたスタッフで，解剖学実習を含む担当領域の教育全般に対応してきた。

設定目標に対するこの2年を総括すると，

1）に対して：ハイビジョンモニターシステムの導入がスタッフ不足を補う大きな力となった。臨床を含む学内外からに協力によって解剖学の講義・実習が進められた。実習プリントの充実が一歩進み，ハイビジョンモニターによる豆テストの実施，実習手技動画の作成等も試みている。従って，講義実習の改善と充実は進んでいると考える。

2）に対して：解剖学実習室は知識を習得する場所であると同時に，医の倫理・生命の尊厳を習得する場であるとの立場から指導をした。医の倫理教育の立場からも解剖学実習は大きな役割を果たしたと考える。

3）に対して：学外からの要望に答えるかたちで，学外解剖学講義・実習に協力した。解剖学教育の立場から社会的貢献ができたと考える。

以上，設定目標に対する到達度は満足しうるものと考える。

これから2年間の目標：

今後の2年間についても前回と同様に

1）解剖学講義実習の改善と充実　2）医の倫理教育　3）教育分野での社会的貢献，に努力し，更に臨床解剖学的要素を深めてと考える。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義　　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	加地　　隆	教授	基礎ゼミナール （前期講義1回（2コマ） 4月21日「ヒトおよび哺乳動物の身体の構造，とくに皮膚について」）	18
	外崎　敬和	准教授	基礎ゼミナール 基礎科学実験（生物）	6 18
	渡邉　誠二	助教	基礎ゼミナール	6
09年度	外崎　敬和	准教授	基礎ゼミナール 基礎科学実験（生物）	10 18
	渡邉　誠二	助教	基礎ゼミナール	10

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	加地　　隆	教授	個体の構成と機能 ＊最終講義 「松果体研究40年」（平成21年2月19日）	2年	32 （16コマ）
	外崎　敬和	准教授	個体の構成と機能	2年	30
	渡邉　誠二	助教	個体の構成と機能	2年	16
09年度	外崎　敬和	准教授	コアB-1個体の構成と機能	2年	48
	渡邉　誠二	助教	コアB-1個体の構成と機能 発展生命科学	2年 4年	18 2
	谷　　利樹	助教	医学英語II	2年	8

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	加地　　隆	教授	研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3年 2年 1年	1クール 3コマ／日 2クール
	外崎　敬和	准教授	研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3年 3年 2年 1年	282 8 210 24
	渡邉　誠二	助教	基礎人体科学演習 研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習	1 3 3 2	24 282 8 210
09年度	外崎　敬和	准教授	研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3 3 2 1	240 6 185
	渡邉　誠二	助教	研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3 3 2 1	240 8 162
	谷　　利樹	助教	人体解剖学実習	2	160

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	2名	外崎　敬和，渡邉　誠二
09年度	2名	外崎　敬和，渡邉　誠二

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	外崎　敬和	准教授	医学概論Ⅰ	院1	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	外崎　敬和	准教授	生体機構学演習	院1	

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
09年度	外崎　敬和	准教授	平成21年度大学院医学研究科教育 FD（7月15日）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	外崎　敬和	准教授	解剖学（非常勤講師）	75
	渡邉　誠二	助教	解剖学（非常勤講師）	40
09年度	外崎　敬和	准教授	解剖学（非常勤講師）	75
	渡邉　誠二	助教	解剖学（非常勤講師）	40

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	加地　　隆	教授	個体の構成と機能 人体解剖学実習	85-100％ 95-100％
	外崎　敬和	准教授	基礎ゼミナール 基礎科学実験（生物） 研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	良好（90-100%）
	渡邉　誠二	助教	基礎人体科学演習 コア B-1 個体の構成と機能 研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習	90％以上
09年度	外崎　敬和	准教授	研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	良好（90-100%）
	渡邉　誠二	助教	研究室研修 チュートリアル 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	良好（90-100%）
	谷　　利樹	助教	人体解剖学実習	良好（90-100%）

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	加地　　隆	教授	個体の構成と機能および人体解剖学実習	A：4.1　B：3.9
	外崎　敬和	准教授	人体解剖実習	A：3.9　B：3.5
	渡邉　誠二	助教	人体解剖実習	A：4.4　B：4.5
09年度	外崎　敬和	准教授	人体解剖学実習	A：4.2　B：4.2
	渡邉　誠二	助教	人体解剖学実習	A：3.9　B：4.0
	谷　　利樹	助教		

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
人体解剖実習	2	35	210	3.7	4.2

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
人体解剖学実習	2	32	192	3.7	3.8

3．統合機能生理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

教授・准教授2名に加え，2008年度に度採用された助教を教育スタッフとして育成ことにより，学部および大学院学生に，高度な教育の実現を目指すとの目標を掲げた。これら教育スタッフ4名で，学部教育に関しては100％の目標を達成した。しかし，この2年間に大学院生の入学がなく，その点での目標は達成できなかった。

これから2年間の目標：

現有の教育スタッフで，まず学部学生に医師として必要な生理学教育を行うと共に，最新の研究動向など高度な教育内容をも含めるよう努力する。これら学部学生への教育活動を基盤に将来の大学院学生の呼び水としたい。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	蔵田　　潔	教授	テーマ科目	基礎ゼミナール 最新医学の現状（J）	30 4
09年度	蔵田　　潔	教授	テーマ科目	基礎ゼミナール	30
	山田　勝也	准教授	テーマ科目	最新医学の現状（J）	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	蔵田　　潔	教授	コアB-1：個体の構成と機能（1） コアB-1：個体の構成と機能（4） 基礎人体科学演習	2年 2年 1年	10 8 30
	相澤　　寛	准教授	コアB-1：個体の構成と機能（1） コアB-1：個体の構成と機能（4） チュートリアル教育	2年 2年 3年	12 8 16
	山田　勝也	准教授	コアB-1：個体の構成と機能（1） コアB-1：個体の構成と機能（4） チュートリアル教育	2年 2年 3年	8 14 8
09年度	蔵田　　潔	教授	コアB-1：個体の構成と機能（1） コアB-1：個体の構成と機能（4） 基礎人体科学演習 発展生命科学Ⅱ	2年 2年 1年 4年	10 10 30 2
	山田　勝也	准教授	コアB-1：個体の構成と機能（1） コアB-1：個体の構成と機能（4） チュートリアル教育 発展生命科学Ⅱ	2年 2年 3年 4年	10 10 8 2
	相澤　　寛	准教授	コアB-1：個体の構成と機能（1） コアB-1：個体の構成と機能（4） チュートリアル教育	2年 2年 3年	10 8 8
	二ノ倉欣久	助教	チュートリアル教育 基礎人体科学演習	3年 1年	16 4

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	蔵田　　潔	教授	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	60
	相澤　　寛	准教授	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	50
	山田　勝也	准教授	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	50
	二ノ倉欣久	助教	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	60
09年度	蔵田　　潔	教授	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	60
	相澤　　寛	准教授	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	60
	山田　勝也	准教授	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	60
	二ノ倉欣久	助教	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2年	60

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	1名 1名	相澤　　寛・蔵田　　潔 山田　勝也
09年度	1名 1名	相澤　　寛・蔵田　　潔 二ノ倉欣久・蔵田　　潔

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	山田　勝也	准教授	弘前大学 FD ワークショップ（H20.11.29-30，青森ロイヤルホテル）
09年度	蔵田　　潔	教授	入試面接 FD
	二ノ倉欣久	助教	チュートリアル教育 FD

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	蔵田　　潔	教授	生理学	4時間
	山田　勝也	准教授	解剖生理学	120時間
09年度	蔵田　　潔	教授	生理学 大学院講義	4時間 6時間
	山田　勝也	准教授	生理学 解剖生理学 解剖生理学実験	60時間 60時間 45時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	蔵田　潔	教授	コアB-1個体の構成と機能（1） コアB-1個体の構成と機能（4） 基礎人体科学演習 統合基礎医学実習A	90% 90% 100% 100%
	相澤　寛	准教授	コアB-1個体の構成と機能（1） コアB-1個体の構成と機能（4） 統合基礎医学実習A チュートリアル教育	80% 80% 80% 80%
	山田　勝也	准教授	コアB-1個体の構成と機能（1） コアB-1個体の構成と機能（4） 統合基礎医学実習A チュートリアル教育	70% 80% 100% 70%
09年度	蔵田　潔	教授	コアB-1個体の構成と機能（1） コアB-1個体の構成と機能（4） 基礎人体科学演習 統合基礎医学実習A 発展生命科学Ⅱ	90% 90% 100% 100% 80%
	相澤　寛	准教授	コアB-1個体の構成と機能（1） コアB-1個体の構成と機能（4） 統合基礎医学実習A チュートリアル教育	80% 80% 80% 80%
	山田　勝也	准教授	コアB-1個体の構成と機能（1） コアB-1個体の構成と機能（4） 統合基礎医学実習A チュートリアル教育 発展生命科学Ⅱ	90% 90% 100% 80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	蔵田　潔	教授	個体の構成と機能	学生評価A　4.1 学生評価B　3.9
	相澤　寛	准教授	個体の構成と機能	4.1
	山田　勝也	准教授	個体の構成と機能	学生評価A　3.5 学生評価B　3.4
09年度	蔵田　潔	教授	コアB-1個体の構成と機能	3.7
	相澤　寛	准教授	コアB-1個体の構成と機能	4.1
	山田　勝也	准教授	コアB-1個体の構成と機能	学生評価A　4.1 学生評価B　4.0

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
統合基礎医学実習A（生理学）	2年 学士3年	10	60	4.4	4.1

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
統合基礎医学実習A（生理学）	2年 学士3年	10	60	3.2	3.7

4．ゲノム生化学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1　学生の理解を確かめながら，思考力，創造力を育成するように講義，実習を行ない，80％程度の成果を得た。

2　成績の評価について，色々な出題形式を試み，改善に努めた。

3　大学院学生の教育について，実験データの解析を通して，知識の具体化を図るように努め，80％程度の成果を得た。

これから2年間の目標：

1　生命活動や病気の物質的基盤を理解するために必要な知識を与え，学生の理解度を確かめながら，学生の思考力，想像力，創造力を育成するように努める。

2　知識，記憶中心の評価から，運用能力，応用力を重視した評価を行なうように，試験問題の改善に努める。

3　大学院学生の研究能力の向上を図るために，生命科学全般について，必要な知識を身につけられよう，教育の充実に努める。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	土田　成紀	教授	人間の尊厳 C	10
09年度	山田　俊幸	准教授	最新医学の現状（J）	6

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	土田　成紀	教授	基礎科学実験（化学）	24
	山田　俊幸	准教授	基礎ゼミナール	30
09年度	土田　成紀	教授	基礎科学実験（化学）	24
	山田　俊幸	准教授	基礎ゼミナール	30

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（6）遺伝と遺伝子	2	30
09年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（6）遺伝と遺伝子 発展生命科学 II	2 4	30 4

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	土田　成紀	教授	統合基礎医学実習 A チュートリアル	2 3	60 32
	山田　俊幸	准教授	基礎人体科学演習 統合基礎医学実習 A	1 2	84 60
	清水　武史	助教	統合基礎医学実習 A チュートリアル	2 3	60 16
09年度	土田　成紀	教授	統合基礎医学実習 A チュートリアル	2 3	60 32
	山田　俊幸	准教授	基礎人体科学演習 統合基礎医学実習 A	1 2	80 60
	清水　武史	助教	チュートリアル 統合基礎医学実習 A	3 2	32 60

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	2名	土田　成紀，山田　俊幸，清水　武史
09年度	2名	土田　成紀，山田　俊幸

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	土田　成紀	教授	生命科学倫理学	1	6
09年度	土田　成紀	教授	生命科学倫理学 がんプロセミナー　がんの分子生物学	1 1	6 2
	山田　俊幸	准教授	生命科学倫理学	1	4

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	土田　成紀	教授	Characterization of hair follicles in Hirosaki hairless rats with deletion of basic hair keratin genes. Enlarged medulla, loss of cuticle and long catagen

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　称　等
08年度	土田　成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム
09年度	土田　成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム
	山田　俊幸	准教授	弘前大学医学教育フォーラム
	清水　武史	助教	弘前大学医学教育フォーラム

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	土田　成紀	教授	4	卒業研究（保健学科）	1年間
	山田　俊幸	准教授	4	卒業研究（保健学科）	1年間
	清水　武史	助教	4	卒業研究（保健学科）	1年間
09年度	土田　成紀	教授	4	卒業研究（保健学科）	1年間
	山田　俊幸	准教授	4	卒業研究（保健学科）	1年間

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
09年度	土田　成紀	教授	青森県立保健大学 がん化学療法看護認定看護師教育課程　腫瘍学概論	2

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（6）遺伝と遺伝子 統合基礎医学実習 A チュートリアル	85％ 100％ 100％
	山田　俊幸	准教授	基礎人体科学演習 統合基礎医学実習 A	100％ 100％
	清水　武史	助教	統合基礎医学実習 A チュートリアル	100％ 100％
09年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（6）遺伝と遺伝子 発展生命科学 II 統合基礎医学実習 A チュートリアル	85％ 85％ 100％ 100％
	山田　俊幸	准教授	基礎ゼミナール 基礎人体科学演習 統合基礎医学実習 A	98％ 98％ 100％
	清水　武史	助教	チュートリアル 統合基礎医学実習 A	100％ 100％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（6）遺伝と遺伝子	A 4.0 ／ B 3.9
09年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（6）遺伝と遺伝子	A 3.8 ／ B 3.6

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A	2	60	360	3.8	3.5

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A	2	60	360	3.9	3.7

5．病態薬理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

（目標）

・医療従事者中心，疾病中心の医療から，患者中心の医療への変化に呼応した教育を実践する。

・大学院生を取り巻く環境の大きな変化を踏まえた上で，大学院生の教育・研究の充実を目指す。

（到達度）

・コアカリキュラムの沿った教育を実践し，相応の成果を上げたと考えられるが，さらに一層，患者中心の医療を念頭に教育内容のブラッシュアップを図る必要があると考える。また大学院生の多くが社会人大学院生となり，じっくり研究に取り組む時間が確保できない状況の中，学位を4名の大学院生に取らせることが出来た。従って到達度は80％程度と考えられる。

これから2年間の目標：

ここ数年で学生の能力，気質が明らかに変化したと感じる。

それに迎合することなく，しかしその変化をいい意味で行かせるような教育を模索し，実践して行きたい。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	元村　　成	教授	導入科目：基礎ゼミナール	30
	古川　賢一	准教授	生物学の基礎 IIB 生物の科学・技術	10 10
09年度	元村　　成	教授	テーマ科目：生活習慣と健康 導入科目：基礎ゼミナール	6 30
	古川　賢一	准教授	基礎教育科目：生物学の基礎 IIB テーマ科目：生物の科学技術	10 10

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	元村　　成	教授	基礎教育科目：基礎科学実験（生物）	20
	古川　賢一	准教授	基礎教育科目：基礎科学実験（生物）	20
09年度	元村　　成	教授	基礎教育科目：基礎科学実験（生物）	20
	古川　賢一	准教授	基礎教育科目：基礎科学実験（生物）	20

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	元村　　成	教授	基礎人体科学演習	1	120
			侵襲と生体応答（薬理学総論）	2	24
			チュートリアル	3	8
			診療の基本的知識（薬理学各論）	4	20
			発展臨床医学 II（東洋医学）	4	6
			循環器と疾患（循環器系の薬理学）	4	2
	古川　賢一	准教授	基礎的診療知識（薬理学各論）	4	20
			チュートリアル授業	3	8
	瀬谷　和彦	助教	チュートリアル授業	3	8
09年度	元村　　成	教授	基礎人体科学演習	1	120
			侵襲と生体応答（薬理学総論）	2	24
			チュートリアル	3	8
			発展生命科学 II	3	2
			診療の基本的知識（薬理学各論）	4	12
			発展臨床医学 II（東洋医学）	4	6
			循環器と疾患（循環器系の薬理学）	4	2

09年度	古川　賢一	准教授	診療の基本的知識（薬理学各論） 発展生命科学 II 侵襲と生体応答（薬理学総論） チュートリアル 特別教育科目（研究室研修）	4 4 2 3 3	20 2 2 16 270
	瀬谷　和彦	助教	チュートリアル 特別教育科目（研究室研修）	3 3	6 270

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	元村　　成	教授	統合基礎医学実習 B	2	30
	古川　賢一	准教授	統合基礎医学実習 B	2	30
	瀬谷　和彦	助教	統合基礎医学実習 B	2	30
	木村　正臣	助教	統合基礎医学実習 B	2	30
09年度	元村　　成	教授	統合基礎医学実習 B	2	36
	古川　賢一	准教授	統合基礎医学実習 B	2	36
	瀬谷　和彦	助教	統合基礎医学実習 B	2	36
	山田　雅大	助教	統合基礎医学実習 B	2	36

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
09年度	山田　雅大	助教	5，6	720

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	2名	古川　賢一，瀬谷　和彦
09年度	1名	古川　賢一
	1名	瀬谷　和彦

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	古川　賢一	准教授	医学研究概論 I	1・2	2
09年度	元村　　成	教授	循環薬理学・講義	1・2	4
	古川　賢一	准教授	医学研究概論 I 機能制御薬理学講義	1・2 1	2 20

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	古川　賢一	准教授	実験薬理学	1・2	4
	瀬谷　和彦	助教	医学研究基礎技術実習	1	6
09年度	元村　　成	教授	循環薬理学・演習 循環薬理学・実習実験	2 3・4	2 2
	古川　賢一	准教授	実験薬理学	1・2	4
	瀬谷　和彦	助教	医学研究基礎技術実習	1	6

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
08年度	古川　賢一	准教授	1. Calcification of Aortic Smooth Muscle Cells Isolated from Spontaneously Hypertensive Rats 2. A Functional RNAi Screen for Runx2-Regulated Genes Associated With Ectopic Bone Formation in Human Spinal Ligaments

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	古川　賢一	准教授	ティーチングポートフォリオ作成：2008年1月29-30日

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	2 名
09年度	2 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	元村　　成	教授	1	保健学科看護学専攻・薬理学	30
	瀬谷　和彦	助教	3・4 1	保健学科 臨床薬理学 教育学部 薬理概論	15 15
09年度	元村　　成	教授	1	保健学科看護学専攻・薬理学	30
	瀬谷　和彦	助教	3・4 1	保健学科 臨床薬理学 教育学部 薬理概論	15 15

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	元村　　成	教授	弘前学院大学看護学部（2年生）薬理学	30
	古川　賢一	准教授	弘前病院附属看護学校（1年生）薬理学Ⅰ 弘前病院附属看護学校（2年生）薬理学Ⅱ	16 30
09年度	元村　　成	教授	札幌医科大学（4年生）薬理学 青森大学薬学部（4年生）臨床医学概論 弘前学院大学看護学部（2年生）薬理学	2 4 30
	古川　賢一	准教授	弘前病院附属看護学校（1年生）薬理学Ⅰ 弘前病院附属看護学校（2年生）薬理学Ⅱ	16 30

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
08年度	元村　　成	教授	基礎人体科学演習 侵襲と生体応答（薬理学総論） チュートリアル 診療の基本的知識（薬理学各論） 発展臨床医学Ⅱ（東洋医学） 循環器と疾患（循環器系の薬理学） 統合基礎医学実習B	100 95 100 95 90 90 100
	古川　賢一	准教授	診療の基本的知識（薬理学各論） チュートリアル	95 100
	瀬谷　和彦	助教	臨床薬理学（保健学科） 薬理概論（教育学部）	98 100
09年度	元村　　成	教授	基礎人体科学演習 侵襲と生体応答（薬理学総論） チュートリアル 発展生命科学Ⅱ 診療の基本的知識（薬理学各論） 発展臨床医学Ⅱ（東洋医学） 循環器と疾患（循環器系の薬理学） 統合基礎医学実習B	100 95 100 90 95 90 90 100
	古川　賢一	准教授	診療の基本的知識（薬理学各論） 発展生命科学Ⅱ 侵襲と生体応答（薬理学総論） チュートリアル	95 95 95 100
	瀬谷　和彦	助教	保健学科 臨床薬理学 教育学部 薬理概論	96 100

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	元村　成	教授	基本的診療知識（薬理学）	3.3
	古川　賢一	准教授	基本的診療知識（薬理学）	4.3
	瀬谷　和彦	助教	臨床薬理学（保健学科） 薬理概論（教育学部）	3.78 4.25
09年度	元村　成	教授	診療の基本的知識（薬理学各論）	3.1
	古川　賢一	准教授	診療の基本的知識（薬理学各論）	4.5
	瀬谷　和彦	助教	保健学科 臨床薬理学 教育学部 薬理概論	3.6 4.0

2）専門教育の評価　該当なし。

6．分子病態病理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

病理学が，最新医学の中で，臨床と密接に関連し，基礎医学と同時に臨床医学の一分野であることを認識させ，更なる関心をもたせることの目標には，学生の学習意欲が向上し，ある程度達成できた。研究を志向する学生を育てることへの目標には，病理学大学院生の増加があり，ある程度達成できた。

授業内容に最新の分子標的治療について解説を加えることが可能であった。臨床科の講義が進んでいない学生には，若干，難しい内容であったと思われる。

これから２年間の目標：

医学の基本的知識体系としての病理学の重要性を認識させる。また，研究への関心を高め，将来の医学を担う人材を育成する。

疾患の分子病態についての最新知見を授業に盛り込むとともに，その臨床応用について，適応や手法，臨床効果について解説を行う。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	矢嶋　信久	助教	基礎ゼミナール	16
09年度	和田　龍一	准教授	生活習慣と健康	4
	矢嶋　信久	助教	基礎ゼミナール	4

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	八木橋操六	教授	基本人体科学演習	1	40
			人体の病理と病態　総論	3	14
			発展生命科学Ⅲ	3	6
			応用病理	4	4
	和田　龍一	准教授	基本人体科学演習	1	10
			病理と病態	3	4
			発展生命科学Ⅲ	3	4
			応用病理	4	4
	水上　浩哉	助教	発展生命科学Ⅲ	3	2
			チュートリアル	3	16
	矢嶋　信久	助教	チュートリアル教育	3	16
09年度	八木橋操六	教授	基本人体科学演習	1年	48
			人体の病理と病態　総論	3年	14
			発展生命科学Ⅲ	3年	8
			応用病理	4年	4
	和田　龍一	准教授	基礎人体科学演習	1年	20時間
			病理と病態	3年	4時間
			発展生命科学Ⅲ	3年	6時間
			病理学実習講義	3年	6時間
			応用病理	4年	4時間
	水上　浩哉	講師	発展生命科学Ⅲ	3年	2
			病理と病態	3年	2
			基礎人体科学演習	1年	2
			チュートリアル	3年	16
	矢嶋　信久	助教	チュートリアル教育	3年	16

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	八木橋操六	教授	病理学実習	3	150
	和田　龍一	准教授	病理学実習	3	150
	矢嶋　信久	助教	人体の病理と病態実習	3	174
09年度	八木橋操六	教授	病理学実習	3年	150
	和田　龍一	准教授	病理学実習	3年	30回
	水上　浩哉	講師	病理学実習	3	
	矢嶋　信久	助教	人体の病理と病態実習	3	174

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	2名	和田　龍一，水上　浩哉
09年度	3名	八木橋操六，和田　龍一，水上　浩哉，矢嶋　信久
	1名	和田　龍一
	1名	水上　浩哉

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	八木橋操六	教授	病理学	1～3年	20
09年度	八木橋操六	教授	病理学	1，2	120
	水上　浩哉	講師	医学研究概論Ⅰ	1	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	八木橋操六	教授	病理学	1～3年	60
09年度	八木橋操六	教授	病理診断実習	2，3，4	120

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
09年度	八木橋操六 和田　龍一	教授 准教授	膵内分泌腫瘍におけるソマトスタチン受容体の発現について

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	八木橋操六	教授	4年	卒業研修	40
	矢嶋　信久	助教	3年	臨地実習病理組織細胞学	84
09年度	八木橋操六	教授	4年	卒業研修	80
	和田　龍一	准教授	保健学科4年	卒業研究	45時間
	矢嶋　信久	助教	3年	臨地実習病理組織細胞学	84

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	和田　龍一	准教授	大学地域連携セミナー	2

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
08年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態　総論	90％
09年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態	95％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
08年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態　総論	3.5
09年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態総論	3.6
	和田　龍一	准教授		(A)（B)

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
病理学実習	3年	30日	180	3.2	

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
病理学実習	3年	30日	150		

7．病理生命科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 常に学生とのコミュニケーションを大切にし，学生が意欲的に勉学に取り組むよう方向付けを行うとともに，学生からの教育評価のフィードバックを受け入れる。
2. 学部教育では，臨床医学の基礎として，主要疾患の病態（疾患機序）を把握することや個体レベルで疾患の重要性を理解することを主眼とする。
3. 大学院教育では，自らが研究データの解析と体系化を行えるよう指導する。
4. コアカリキュラムや最新の知見に基づき，常に授業内容の見直しを図る。

自己評価に加えて，学生授業アンケートでも高い評価をえており，上記の目標に対する到達度は，80％と判断される。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で，(1) 学生とのコミュニケーション，(2) 病態把握に主眼をおいた学部教育，(3) 研究の体系化を重視した大学院教育，(4) 弛まぬ授業内容の見直し，の 4 点を重視する。また，新たに

1. 学部教育では，有意義な病理学実習を実現するため，実習材料の改善を図る。
2. 大学院教育では，研究データの解析と体系化を行えるとともに，研究の客観性と国際性を重要視して英文論文を作成するよう指導する。

ことを，目標に加えたい。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1）講義　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
08年度	鬼島　宏	教授	基礎ゼミナール	30
09年度	鬼島　宏	教授	基礎ゼミナール	30

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授業科目	対象学年	年間担当時間数
08年度	鬼島　宏	教授	医学英語Ⅰ	1年次	30
			病理と病態	3年次	22
			チュートリアル	3年次	8
			発展生命科学Ⅱ	3年次	2
			応用病理	4年次	10
	楠美　智巳	講師	病理と病態	3年次	8
			チュートリアル	3年次	8
			発展生命科学Ⅱ	3年次	2
			応用病理	4年次	4
	佐藤　冬樹	助教	医学英語Ⅰ	1年次	2
			チュートリアル	3年次	16
			応用病理	4年次	4
09年度	鬼島　宏	教授	病理と病態	3年次	20
			チュートリアル	3年次	8
			発展生命科学Ⅱ	3年次	2
			応用病理	4年次	12
	佐藤　冬樹	助教	病理と病態	3年次	8
			チュートリアル	3年次	8
			応用病理	4年次	6
			発展生命科学Ⅱ	3年次	2
	諸橋　聡子	助教	チュートリアル	3年次	8
			応用病理	4年次	2

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	鬼島　　宏	教授	基礎人体科学演習	1年次	30
			人体の病理と病態実習入門	3年次	20
			人体の病理と病態実習	3年次	20
			国家試験対策セミナー講座	6年次	2
	楠美　智巳	講師	基礎人体科学演習	1年次	4
			人体の病理と病態実習入門	3年次	40
			人体の病理と病態実習	3年次	40
	佐藤　冬樹	助教	基礎人体科学演習	1年次	80
			人体の病理と病態実習入門	3年次	50
			人体の病理と病態実習	3年次	50
09年度	鬼島　　宏	教授	基礎人体科学演習	1年次	30
			人体の病理と病態実習入門	3年次	20
			人体の病理と病態実習	3年次	20
			国家試験対策セミナー講座	6年次	4
	佐藤　冬樹	助教	基礎人体科学演習	1年次	80
			人体の病理と病態実習入門	3年次	50
			人体の病理と病態実習	3年次	50
	諸橋　聡子	助教	基礎人体科学演習	1年次	40
			人体の病理と病態実習入門	3年次	30
			人体の病理と病態実習	3年次	30

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	鬼島　　宏	教授	5年次	100
	楠美　智巳	講師	5年次	60
09年度	鬼島　　宏	教授	5年次 BSL 6年次クリクラ	100 80
	佐藤　冬樹	助教	5年次 BSL 6年次クリクラ	60 80
	諸橋　聡子	助教	5年次 BSL 6年次クリクラ	30 80

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	3名	鬼島　　宏，楠美　智巳，佐藤　冬樹
09年度	3名	鬼島　　宏，佐藤　冬樹，諸橋　聡子

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	鬼島　　宏	教授	医学研究概論		2
			最新医学の動向		2
			生体情報病態学		60
			病態病理学		60
			腫瘍病理学		60
09年度	鬼島　　宏	教授	医学研究概論		2
			最新医学の動向		2
			生体情報病態学		60
			病態病理学		60
			腫瘍病理学		60

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	鬼島　　宏	教授	生体情報病態学演習 生体情報病態学実験実習		30 60
	楠美　智巳	講師	病態病理学演習 病態病理学実験実習 腫瘍学演習 腫瘍学実験実習 実習・形態学コース		30 60 30 60 2
	佐藤　冬樹	助教	生体情報病態学演習 生体情報病態学実験実習		30 60
09年度	鬼島　　宏	教授	生体情報病態学演習 生体情報病態学実験実習 病態病理学演習 病態病理学実験実習 腫瘍学演習 腫瘍学実験実習 実習・形態学コース		30 60 30 60 30 60 2
	佐藤　冬樹	助教	生体情報病態学演習 生体情報病態学実験実習 実習・形態学コース		30 60 2
	諸橋　聡子	助教	腫瘍学演習 腫瘍学実験実習 実習・形態学コース		30 60 2

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	鬼島　　宏	教授	Expression of syndecan-1 and E-cadherin is inversely correlated with poor patient' s prognosis and recurrent status of extrahepatic bile duct carcinoma.
09年度	鬼島　　宏	教授	Anti-apoptotic effect of the basic helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 in human breast cancer cells（刘　洋） Vimentin expression of esophageal squamous cell carcinoma and its aggressive potential for lymph node metastasis（神　寛之） Invasive micropapillary variant of the gallbladder and its aggressive potential for lymph node metastasis（原　精一）

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	鬼島　　宏	教授	The Professional and Organizational Development Network in Higher Education, POD Network（2008.10.22. ～ 10.25. Nevada, USA） FD 講演会（2008.11.26. 弘大創立50記念会館） FD ワークショップ Teaching Portfolio の実践（2008.11.29. ～ 11.30. 青森ロイヤルホテル） 大学院 FD 第1回（2009.1.29.MCC）
	楠美　智巳	講師	大学院 FD 第1回（2009.1.29.MCC）
	佐藤　冬樹	助教	FD 講演会（2008.11.26. 弘大創立50記念会館） 大学院 FD 第1回（2009.1.29.MCC）
09年度	鬼島　　宏	教授	FD 講演会（2009.11.25. 文京50周年記念会館） FD ワークショップ（2009.11.28. ～ 11.29. 大鰐　青森ロイヤルホテル） 大学院教育 FD（2010.3.3.MCC）
	佐藤　冬樹	助教	大学院教育 FD（2010.3.3.MCC）
	諸橋　聡子	助教	大学院教育 FD（2010.3.3.MCC）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	6 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	鬼島　宏	教授	4年次 3年次	検査技術科学専攻卒業研究 検査技術科学専攻臨地実習	100 50
	佐藤　冬樹	助教	4年次 3年次	検査技術科学専攻卒業研究 検査技術科学専攻臨地実習	270 315
09年度	鬼島　宏	教授	4年次 3年次	検査技術科学専攻卒業研究 検査技術科学専攻臨地実習	100 50
	佐藤　冬樹	助教	4年次 3年次	検査技術科学専攻卒業研究 検査技術科学専攻臨地実習	270 315
	諸橋　聡子	助教	4年次 3年次	検査技術科学専攻卒業研究 検査技術科学専攻臨地実習	100 50

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
08年度	鬼島　宏	教授	2（広島大学） 3（東海大学） 8（秋田看護福祉大学）	8
	楠美　智巳	講師	10（秋田看護福祉大学） 30（五所川原市立高等医看護学院）	10 30
	佐藤　冬樹	助教	10（秋田看護福祉大学）	10
09年度	鬼島　宏	教授	2（広島大学） 3（東海大学） 10（秋田看護福祉大学） 10（五所川原市立高等医看護学院）	10 10
	佐藤　冬樹	助教	20（秋田看護福祉大学） 20（五所川原市立高等医看護学院）	20 20

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	鬼島　宏	教授	病理と病態 人体の病理と病態実習入門 人体の病理と病態実習	95％ 95％ 95％
	楠美　智巳	講師	病理と病態	90％以上
	佐藤　冬樹	助教	基礎人体科学演習 チュートリアル教育	90％ 100％
09年度	鬼島　宏	教授	病理と病態 人体の病理と病態実習入門 人体の病理と病態実習	95% 95% 95%
	佐藤　冬樹	助教	病理と病態 基礎人体科学演習 チュートリアル教育	90% 以上 90% 100%
	諸橋　聡子	助教	チュートリアル教育	100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	鬼島　宏	教授	応用病理	(A) 4.3，(B) 4.3
	佐藤　冬樹	助教	応用病理	(A) 4.6，(B) 4.6
09年度	鬼島　宏	教授	病理と病態	
	佐藤　冬樹	助教	病理と病態	

2）専門教育の評価　該当なし。

8．感染生体防御学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
2. コアカリキュラムに準拠し，学生が理解しやすい講義を行うよう，研鑽する。
3. カリキュラムの改善を行う。
4. 学生と双方関係を持ちながら授業を進める。

これから2年間の目標：

1. 21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
2. コアカリキュラムに準拠し，学生が理解しやすい講義を行うよう，研鑽する。
3. カリキュラムの改善を行う。
4. 学生と双方関係を持ちながら授業を進める。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
08年度	中根　明夫	教授	基礎ゼミナール 環境と生活C	30 14
09年度	中根　明夫	教授	基礎ゼミナール 環境と生活C	30 14

2）実習

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
08年度	中根　明夫 胡　　東良 差波　拓志 長内　理大	教授 准教授 助教 助教	基礎科学実験	18
09年度	中根　明夫 胡　　東良 差波　拓志 長内　理大	教授 准教授 助教 助教	基礎科学実験	18

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授業科目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習 医の原則I 侵襲と生体応答 チュートリアル	1年 1年 2年 3年	72 4 56 8
	胡　　東良	准教授	侵襲と生体応答 チュートリアル	2年 3年	14 6
	差波　拓志	助教	侵襲と生体応答 チュートリアル	2年 3年	4 8
	長内　理大	助教	侵襲と生体応答 チュートリアル	3年 2年	14 8
09年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習 臨床医学入門 医の原則I 侵襲と生体応答 チュートリアル 発展生命科学II	1年 1年 1年 2年 3年 3年	64 4 4 60 8 2

09年度	胡　東良	准教授	侵襲と生体応答 チュートリアル	2年 3年	14 6
	差波　拓志	助教	侵襲と生体応答 チュートリアル	3年 2年	4 6
	長内　理大	助教	侵襲と生体応答 チュートリアル 発展生命科学 II	3年 2年 3年	16 14 2

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中根　明夫 胡　東良 差波　拓志 長内　理大	教授 准教授 助教 助教	統合基礎医学実習 B	2年	68
09年度	中根　明夫 胡　東良 差波　拓志 長内　理大	教授 准教授 助教 助教	統合基礎医学実習 B	2年	68

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	6名	中根　明夫，胡　東良，差波　拓志，長内　理大，成田　浩司
09年度	6名	中根　明夫，胡　東良，差波　拓志，長内　理大，成田　浩司

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中根　明夫	教授	遺伝発生研究セミナー エネルギーと環境 感染免疫・生体防御学講義 感染免疫・生体防御学演習 免疫制御学講義 免疫制御学演習	1年 全学 2年 2年 2年 2年	2 2 50 60 60 30
	胡　東良	准教授	医学概論 I 感染免疫・生体防御学講義 感染免疫・生体防御学演習	1年 2年 2年	2 10 60
	差波　拓志	助教	免疫制御学演習	2年	60
09年度	中根　明夫	教授	医学研究概論 I エネルギーと環境 感染免疫・生体防御学講義 感染免疫・生体防御学演習 免疫制御学講義 免疫制御学演習	1年 全学 2年 2年 2年 2年	2 2 50 60 60 30
	胡　東良	准教授	医学概論 I 感染免疫・生体防御学講義 感染免疫・生体防御学演習	1年 2年 2年	2 10 60
	差波　拓志	助教	免疫制御学演習	2年	60

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中根　明夫	教授	感染免疫・生体防御学実験実習 免疫制御学実験実習	1年 1年	90 90
	胡　東良	准教授	感染免疫・生体防御学実験実習	1年	90
	差波　拓志	助教	免疫制御学実験実習	1年	90
	長内　理大	助教	感染免疫・生体防御学実験実習	1年	90

09年度	中根　明夫	教授	感染免疫・生体防御学実験実習 免疫制御学実験実習	1年 1年	90 90
	胡　　東良	准教授	感染免疫・生体防御学実験実習	1年	90
	差波　拓志	助教	免疫制御学実験実習	1年	90
	長内　理大	助教	感染免疫・生体防御学実験実習	1年	90

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	中根　明夫	教授	チュートリアル授業チューター育成 FD（前期） チュートリアル授業チューター育成 FD（後期） 第2回 BSL-FD（外科系） 学士編入セミナー
09年度	中根　明夫	教授	学士編入セミナー

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	中根　明夫	教授	教育学部2年	微生物学	30
09年度	中根　明夫	教授	教育学部2年	微生物学	30

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	中根　明夫	教授	微生物学，感染症学	80
09年度	中根　明夫	教授	微生物学，感染症学	76

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習 侵襲と生体応答（微生物） 侵襲と生体応答（免疫） 統合基礎医学実習 B	100％ 95％ 95％ 100％
	胡　　東良	准教授	侵襲と生体応答（微生物）	90％
	長内　理大	助教	侵襲と生体応答（寄生虫）	97％
09年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習 侵襲と生体応答（微生物） 侵襲と生体応答（免疫） 統合基礎医学実習 B	100％ 95％ 95％ 100％
	胡　　東良	准教授	侵襲と生体応答（微生物）	90％
	長内　理大	助教	侵襲と生体応答（寄生虫）	97％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　　価
08年度	中根　明夫	教授	侵襲と生体応答	（A）3.8　（B）4.0
	胡　　東良	准教授	侵襲と生体応答	（A）4.1　（B）3.9
	長内　理大	助教	侵襲と生体応答	（A）4.2　（B）4.2

09年度	中根　明夫	教授	侵襲と生体応答	（A）3.9　（B）3.7
	胡　　東良	准教授	侵襲と生体応答	（A）3.9　（B）3.8
	長内　理大	助教	侵襲と生体応答	（A）4.1　（B）4.0

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2年次 学士3年次	11	68	4.3	4.1

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2年次 学士3年次	12	68	4.3	4.2

9．社会医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

社会性を賦与するための教育の推進と，地域との連携による医療とその向上のための教育を目指す。

これから2年間の目標：

前回と同様，社会性を賦与するための教育の推進と，地域との連携による医療とその向上のための教育を目指す。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	中路　重之	教授	テーマ科目　生活習慣と健康（J）	18
			基礎ゼミナール	30
	松坂　方士	助教	テーマ科目　生活習慣と健康（J）	16
09年度	中路　重之	教授	基礎ゼミナール	28
	梅田　　孝	准教授	運動とリハビリテーション（B）	8

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中路　重之	教授	基礎人体学演習	1	46
			医用統計学	2	2
			研究室研修	3	276
			チュートリアル	3	4
			健康医学	4	32
			発展臨床医学Ⅰ	4	26
			医の原則Ⅰ	1	4
	梅田　　孝	准教授	研究室研修	3	276
			チュートリアル	3	4
			健康医学	4	6
	松坂　方士	助教	研究室研修	3	276
			チュートリアル	3	4
			健康医学	4	2
	檀上　和真	助教	研究室研修	3	276
			チュートリアル	3	4
			健康医学	4	12
09年度	中路　重之	教授	医の原則Ⅰ	1	4
			基礎人体科学演習	1	32
			医用統計学	1	2
			研究室研修	3	240
			健康医学	3	16
			発展臨床医学	3	2
	梅田　　孝	准教授	基礎人体科学演習	1	20
			チュートリアル	1	14
			研究室研修	3	240
			健康医学	3	6
	檀上　和真	助教	基礎人体科学演習	1	20
			チュートリアル	1	18
			研究室研修	3	240
			健康医学	3	2
	高橋　一平	助教	基礎人体科学演習	1	20
			チュートリアル	1	28
			研究室研修	3	240
			健康医学	3	2

09年度	松坂　方士	助教	基礎人体科学演習 チュートリアル 研究室研修 健康医学	1 1 3 3	12 14 240 2

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中路　重之	教授	社会医学実習	3	34
09年度	中路　重之	教授	社会医学実習	3 6	4 4
	梅田　　孝	准教授	社会医学実習	3 6	34 5
	檀上　和真	助教	社会医学実習	3 6	34 5
	高橋　一平	助教	社会医学実習	3 6	34 5
	松坂　方士	助教	社会医学実習	3 6	34 5

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	中路　重之	教授	6	500
	梅田　　孝	准教授	6	300
	松坂　方士	助教	6	300
	高橋　一平	助教	6	300
09年度	中路　重之	教授	6	300
	梅田　　孝	准教授	6	300
	檀上　和真	助教	6	300
	高橋　一平	助教	6	300
	松坂　方士	助教	6	300

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	2名	中路　重之
	2名	梅田　　孝
	1名	檀上　和真
	1名	松坂　方士
09年度	2名	中路　重之
	2名	梅田　　孝
	2名	檀上　和真
	1名	松坂　方士
	2名	高橋　一平

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中路　重之	教授	社会医療総合医学講義 社会医療総合医学演習 生命科学倫理学（癌生物学と生命倫理）	1 1 1	30 30 2
	梅田　　孝	准教授	スポーツ健康科学講義 スポーツ健康科学演習	1 1	30 30
	松坂　方士	助教	生命科学倫理学（癌生物学と生命倫理）	1	2

09年度	中路　重之	教授	医学概論Ⅰ 特別研究セミナー（社会医学方法論） 生命科学倫理学 社会医療総合医学講義 社会医療総合医学演習 スポーツ健康科学講義 スポーツ健康科学演習	1 1 1 1 1 1 1	2 20 2 30 30 30 30
	梅田　　孝	准教授	社会医療総合医学講義 社会医療総合医学演習 スポーツ健康科学講義 スポーツ健康科学演習 特別研究セミナー（社会医学方法論）	1	30 30 30 30 20
	檀上　和真	助教	特別研究セミナー（社会医学方法論）		
	高橋　一平	助教	特別研究セミナー（社会医学方法論）		
	松坂　方士	助教	生命科学倫理学 特別研究セミナー（社会医学方法論）	1	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中路　重之	教授	社会医療総合医学実習	1	30
	梅田　　孝	准教授	スポーツ健康科学実習	1	30
09年度	中路　重之	教授	社会医療総合医学実習 スポーツ健康科学実習	1 1	30 30
	梅田　　孝	准教授	社会医療総合医学実習 スポーツ健康科学実習	1 1	30 30

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	中路　重之	教授	Effects of intense exercise on the physiological and mental condition of female university judoists during a training camp Effects of 2.5-hour sumo training on serum opsonic activity.
09年度	中路　重之	教授	Influence of obesity on neutrophil function（好中球機能に対する肥満の影響） The relationship between exhaled carbon monoxide and human neutrophil function in the Japanese general population（一般住民における呼気中一酸化炭素濃度と好中球機能の関係） The relationship between physical function and body composition/exercise habit among community-dwelling elderly women（成人女性における身体機能身体組成・運動習慣との関連：岩木健康増進プロジェクトでの検討） Relationship between various obesity indices and brachial-ankle pulse wave velocity according to age among japanese females（日本人女性における年代別の各種肥満指標値と腕―足関節間脈波伝播速度との関連） Relationship between respiratory function and body composition among the Japanese general population（一般住民における呼吸機能と身体組成値との関連） Effects of the first training session on the physiological and mental conditions in male university freshmen judoists（大学柔道部新人部員の最初のトレーニングが心身のコンディションに及ぼす影響） Effect of vitamin C supplementation on neutrophil function in male judoists during a training camp（男子柔道選手の強化合宿におけるビタミンCサプリメントが好中球機能に及ぼす影響） 東北・北海道の労働者の抑うつ度に及ぼす社会労働環境因子の検討

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	4 名
09年度	11名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	檀上　和真	非常勤講師	教育学部生涯教育課程健康生活専攻	運動スポーツ医学	2
09年度	中路　重之	教授	2	教育学部　運動スポーツ医学	4
	梅田　　孝	准教授	2	教育学部　運動スポーツ医学	3
	檀上　和真	助教	2	教育学部　運動スポーツ医学	2
	高橋　一平	助教	2	教育学部　運動スポーツ医学	2
	松坂　方士	助教	2	教育学部　運動スポーツ医学	6

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	中路　重之	非常勤講師	生活習慣と疾病（秋田大学医学部3年） 看護基礎 保健行政論（弘前学院大学看護学部4年）	4 16
	松坂　方士	非常勤講師	医療経済学（弘前医療福祉大学）	
09年度	中路　重之	教授	がんと生活習慣（秋田大学医学部3年） 保健行政論（弘前学院大学看護学部4年）	4 22
	梅田　　孝	准教授	弘前実業高校スポーツ科学科　体機能及び体力測定実習 青森北高校スポーツ科学体機能及び体力測定実習	32 16
	檀上　和真	助教	弘前病院附属看護学校	15
	高橋　一平	助教	弘前実業高校スポーツ科学科　体機能及び体力測定実習 青森北高校スポーツ科学体機能及び体力測定実習	32 16
	松坂　方士	非常勤講師	医療経済学（弘前医療福祉大学）	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	中路　重之	教授	基礎人体学演習 医用統計学 研究室研修 チュートリアル 健康医学 発展臨床医学Ⅰ 医の原則Ⅰ	 100 95 95
09年度	中路　重之	教授	医の原則Ⅰ 基礎人体科学演習 医用統計学 研究室研修 健康医学 発展臨床医学	95
	梅田　　孝	准教授	基礎人体科学演習 チュートリアル 研究室研修 健康医学	95%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	中路　重之	教授	発展臨床医学Ⅰ 医の原則Ⅰ	3.71 4.07
09年度	中路　重之	教授	医用統計学 医の原則Ⅰ スポーツ運動学（教育学部）	4.11 4.15 4.23
	梅田　　孝	准教授	運動とリハビリテーション（B）（21世紀教育）	4.01

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
社会医学実習	3	4	34		
クリニカルクラークシップ	6	60	600		

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
社会医学実習	3	14	140		
社会医学実習	6	3	15		
クリニカルクラークシップ	6	60	600		

10. 法医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1 全ての授業について，書籍・文献の検索・読破による自主自学を前提としたものとし，講義自体は，学生の理解の誤りを正し，学習への意欲を掻き立てるための刺激の機会と位置づける。(60/100)
2 授業内容は，コアカリキュラム･国家試験出題ガイドラインに従いながらも，「全てを」「丁寧に」「わかりやすく」「楽しく」教える方法を敢えて放棄し，自主的な学習こそが大学では重要であることを強制的に理解させる。(80/100)
3 上記 1 および 2 を踏まえ，厳しい試験を実施する。(85/100)
4 研究室研修，基礎学生実習において医師となるべきプロフェッショナル意識をもたせるべき可能な限り強力な指導を行う。(85/100)
5 研修・実習内容の見直しを絶えず行う。(100/100)
6 総合して，実りのある講義および実習を目指す。(80/100)

これから２年間の目標：

1 医師になる学生としてのプロフェッショナル意識をもたせるべく，可能な限り強力な指導を行う。
2 全ての授業について，書籍・文献の検索・読破による自主自学を前提としたものとし，講義自体は，学生の理解の誤りを正し，学習への意欲を掻き立てるための刺激の機会と位置づける。
3 授業内容は，コアカリキュラム･国家試験出題ガイドラインに従いながらも，「全てを」「丁寧に」「わかりやすく」「楽しく」教える方法を敢えて放棄し，自主的な学習こそが大学では重要であることを強制的に理解させる。
4 厳しい試験を実施する。
5 研修・実習内容の見直しを絶えず行う。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
08年度	黒田 直人	教授	基礎ゼミナール	28
09年度	黒田 直人	教授	テーマ科目 生活習慣と健康（L） 導入科目 基礎ゼミナール	4時間 56時間

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
08年度	黒田 直人	教授	医の原則Ⅱ 法と医療	2 4	20 16
	美作宗太郎	准教授	法と医療	4	10
09年度	黒田 直人	教授	医の原則Ⅱ 法と医療	2 4	8時間 20時間

2）基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
08年度	黒田 直人	教授	血液型特別実習	4	6
	美作宗太郎	准教授			6
09年度	黒田 直人	教授	基礎人体科学演習 法と医療（特別実習）	1 4	60時間 6時間

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	3名	黒田　直人，美作宗太郎，北　　武（特任講師）
09年度	2名	黒田　直人，北　　武（特任講師）

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	黒田　直人	教授	医学研究概論	1，2	2
09年度	黒田　直人	教授	医学研究概論Ⅰ	1	2時間

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　　目　　名	年間担当時間数
09年度	黒田　直人	教授	放送大学（人の死に学ぶ） 青森県警察学校（刑事専科） 青森地方検察庁（司法修習生教育） 青森海上保安部（海上保安官講義）	16時間 2時間 4時間 2時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
08年度	黒田　直人	教授	医の原則Ⅱ 法と医療	50％ 80％
	美作宗太郎	准教授	法と医療	90％
09年度	黒田　直人	教授	医の原則Ⅱ 法と医療	90％ 95％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
08年度	黒田　直人	教授	法と医療	4.4
	美作宗太郎	准教授	法と医療	
09年度				

（恐らく評価用紙配布失念により，評価が実施出来なかったものと思料される.）

2）専門教育の評価　2009年度

（恐らく評価用紙配布失念により，評価が実施出来なかったものと思料される.）

11. 消化器血液内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 21世紀教育，専門教育，大学院教育，保健学科等多方面にわたる講義・実習を担当する。また講義・実習内容の見直し・改善を絶えず行い，簡潔な知識を学生に提供する。（到達度：80%，各教官が高い授業評価を受けていた）
2. クリニカルクラークシップの位置づけを明確にし，さらに充実させる。（到達度：80%）
3. 卒後初期臨床研修における当科の果たすべき目標達成に向けて，教育システムをさらに充実させる。（到達度：70%）

これから２年間の目標：

1. 21世紀教育，専門教育，大学院教育，保健学科等多方面にわたる講義・実習を担当する。また，講義・実習内容の見直し・改善を絶えず行い，簡潔な知識を学生に提供する。
2. クリニカルクラークシップの位置づけを明確にし，さらに充実させる。
3. 卒後初期臨床研修における当科の果たすべき目標達成に向けて，教育システムをさらに充実させる。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	坂本　十一	准教授	最新医学の現状（M）	6時間

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	福田　眞作	教授	消化器と疾患（前期） 発展現代医学Ⅰ（内科系） 医学英語Ⅲ	3年 2年 4年	4時間 2時間 14時間
	坂本　十一	准教授	消化器と疾患（後期）	4年	6時間
	下山　　克	講師	消化器と疾患（前期）	3年	6時間
	遠藤　　哲	助教	消化器と疾患（前期・後期）	4年	8時間
	三上　達也	助教	消化器と疾患（前期）	3年	4時間
09年度	福田　眞作	教　授	発展現代医学Ⅰ（内科系） 医学英語Ⅲ（前期） 発展現代医学Ⅰ（内科系） 消化器と疾患（後期）	2年次 4年次 学士 3・4年次 3年次	2時間 16時間 2時間 8時間
	坂本　十一	准教授	消化器と疾患（後期）	4年次	6時間
	下山　　克	講　師	消化器と疾患（後期） 腹部問診（後期）	3年次 4年次	6時間 2時間
	山形　和史	講　師	発展現代医学Ⅰ（内科系）	2年次	2時間
	遠藤　　哲	助　教	消化器と疾患（前期・後期）	4年次	8時間
	佐藤　　研	助　教	消化器と疾患（後期）	4年次	4時間

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	福田　眞作	教授	5年	38週
	坂本　十一	准教授	5年	38週
	下山　　克	講師	2年 5年	26時間 38週
	山形　和史	助教	5年	38週

08年度	遠藤　哲	助教	5年	38週
	三上　達也	助教	5年	38週
	吉村　徹郎	助教	5年	38週
	佐藤　研	助教	5年	38週
09年度	福田　眞作	教　授	5年	38週
	坂本　十一	准教授	5年	38週
	下山　克	講　師	2年 5年	26週 38週
	山形　和史	講　師	5年	38週
	遠藤　哲	助　教	5年	38週
	吉村　徹郎	助　教	5年	38週
	佐藤　研	助　教	5年	38週
	花畑　憲洋	助　教	5年	38週
	間山　恒	助　教	5年	8週

4）OSCE

	担当者名	職名
08年度	坂本　十一	准教授
	下山　克	講師
	佐藤　研	助教
09年度	間山　恒	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	1名	下山　克
09年度	1名	下山　克

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	福田　眞作	教授	最新医学の動向	大学院生	2
	坂本　十一	准教授	最新医学の動向	大学院生	1
	下山　克	講師	*Helicobacter pylori* 感染の臨床	1～2年	2
09年度	福田　眞作	教授	最新医学の動向	大学院生	2
	坂本　十一	准教授	最新医学の動向	大学院生	1

2）実習　　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	福田　眞作	教授	Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells.（川口章吾） non-patient IBS と健常者における直腸伸展刺激に対する脳機能の検討（福士嗣海）
09年度	福田　眞作	教授	シクロスポリンによる TGF-β シグナルを介した腸上皮アポトーシスの制御 Cyclosporine regulates intestinal epithelial Apoptosis via TGF-β-related signaling（佐藤裕紀）

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	坂本　十一	准教授	第5回弘前大学 FD ワークショップ

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	4 名
09年度	4 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
09年度	坂本　十一	准教授	3年	保健学科臨床生理系臨地実習	14時間

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	福田　眞作	教授	消化器と疾患（3年） 発展現代医学Ⅰ（内科系）（2年） 医学英語Ⅲ（4年）	90% 90% 95%
	坂本　十一	准教授	消化器と疾患（4年・後期）	85%
	下山　　克	講師	消化器と疾患（3年）	90%
	遠藤　　哲	助教	消化器と疾患（4年・前期／後期）	80%
	三上　達也	助教	消化器と疾患（3年）	90%
09年度	福田　眞作	教　授	発展現代医学Ⅰ（内科系）（2年） 医学英語Ⅲ（前期）（4年） 発展現代医学Ⅰ（内科系）（学士3・4年） 消化器と疾患（後期）（3年）	80% 90% 90% 80%
	坂本　十一	准教授	消化器と疾患（後期）（4年）	80%
	下山　　克	講　師	消化器と疾患（後期）（3年） 腹部問診（後期）（4年）	90% 90%
	山形　和史	講　師	発展現代医学Ⅰ（内科系）（2年）	90%
	遠藤　　哲	助　教	消化器と疾患（前期・後期）（4年）	70%
	佐藤　　研	助　教	消化器と疾患（後期）（4年）	80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	福田　眞作	教授	消化器と疾患（3年） 発展現代医学Ⅰ（内科系）（2年） 医学英語Ⅲ（4年）	4.5
	坂本　十一	准教授	消化器と疾患（4年・後期）	3.9
	下山　　克	講師	消化器と疾患（3年）	4.5
	遠藤　　哲	助教	消化器と疾患（4年・前期／後期）	4.3
	三上　達也	助教	消化器と疾患（3年）	4.5
09年度	福田　眞作	教　授	発展現代医学Ⅰ（内科系）（2年） 医学英語Ⅲ（前期）（4年） 発展現代医学Ⅰ（内科系）（学士3・4年） 消化器と疾患（後期）（3年）	4.5
	坂本　十一	准教授	消化器と疾患（後期）（4年）	4.4
	下山　　克	講　師	消化器と疾疾患（後期）（3年） 腹部問診（後期）（4年）	4.7
	山形　和史	講　師	発展現代医学Ⅰ（内科系）（2年）	
	遠藤　　哲	助　教	消化器と疾患（前期・後期）（4年）	4.4
	佐藤　　研	助　教	消化器と疾患（後期）（4年）	4.6

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	38週		4.7	4.8

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	38週		4.6	4.5

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。 80%
2. 講義内容の見直しを絶えず行う。 100%
3. 出席率の向上を図る。 100%
4. 臨床実習（SGT）教育において，クリニカルクラークシップに基づく実習を充実し，Problem-oriented learning を定着させる。 100%

これから２年間の目標：

1. 共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。 80%
2. 講義内容の見直しを絶えず行う。 100%
3. 出席率の向上を図る。 100%
4. 臨床実習（SGT）教育において，クリニカルクラークシップに基づく実習を充実し，Problem-oriented learning を定着させる。 100%

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
08年度	奥村　謙	教授	生活習慣と健康（I）	4
	長内　智宏	准教授	生活習慣と健康（I）	6
	花田　裕之	講師	生活習慣と健康（I） 最新医学の現状（k）	6 6
	中村　典雄	講師	最新医学の現状（J）	6

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授業科目	対象学年	年間担当時間数
08年度	奥村　謙	教授	医の原則Ⅱ 発展現代医学Ⅰ 循環器と疾患 発展現代医学Ⅰ	2年次 2年次 3年次 4年次	2 2 20 2
	長内　智宏	准教授	循環器と疾患	4年次	10
	高梨　信吾	准教授	発展現代医学Ⅰ 呼吸器と疾患 発展現代医学Ⅰ	2年次 4年次 4年次	2 28 2
	花田　裕之	講師	医療リスクマネジメント 循環器と疾患	4年次 4年次	2 20
	阿部　直樹	助教	チュートリアル教育	5年次	8
	林　彰仁	助教	チュートリアル教育	5年次	8
09年度	奥村　謙	教授	循環器と疾患 発展臨床医学Ⅲ 発展現代医学Ⅰ 発展現代医学Ⅰ 臨床医学入門 医の原則Ⅱ Pre BSL 集中講義	3年 6年 1年 学士3，4年 1年 2年 4年	20 4 2 1 2 2 4
	長内　智宏	准教授	循環器と疾患	4年	10
	花田　裕之	講師	循環器と疾患 医療リスクマネジメント チュートリアル教育	4年 4年 3年	20 2 8

09年度	森本　武史	助教	チュートリアル教育	3年	8
	櫛引　　基	助教	チュートリアル教育	3年	8

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	奥村　　謙	教授	5，6年	190
	長内　智宏	准教授	5，6年	36
	高梨　信吾	准教授	5年	72
09年度	奥村　　謙	教授	5，6年	190
	長内　智宏	准教授	5，6年	72
	中村　典雄	講師	5，6年	72
	大和田真玄	助教	5，6年	36
	阿部　直樹	助教	5，6年	36
	及川　広一	助教	5，6年	9
	林　　彰仁	助教	5，6年	36

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
09年度	奥村　　謙	教授
	櫛引　　基	助教
	伊藤　太平	医員

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	1名	長内　智宏
09年度	1名	長内　智宏

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	奥村　　謙	教授	循環病態内科学講義 腎臓病態内科学講義	1年 1年	30 30
	長内　智宏	准教授	医学研究概論	1年	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	奥村　　謙	教授	循環病態内科学演習	1年	30
	長内　智宏	准教授	循環病態内科学実験実習	2年	30
	中村　典雄	講師	腎臓病態内科学演習 腎臓病態内科学実験実習	2年 1年	30 30

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
08年度	奥村　　謙	教授	Horiuchi D, Iwasa A, Sasaki S, Owada S, Kimura M, Sasaki K, Okumura K. Effect of pilsicainide on dominant frequency in the right and left atria and pulmonary veins during atrial fibrillation: Association with its atrial fibrillation terminating effect. Eur J Pharmacol 2009; 608: 54-61
	奥村　　謙 長内　智宏	教授 准教授	Echizen T, Osanai T, Ashitate T, Yokoyama H, Shibutani S, Tanaka M, Tomita H, Magota K, Okumura K. Upregulation of soluble vascular endothelial growth factor receptor type 1 by endogenous prostacyclin inhibitor coupling factor 6 in vascular endothelial cells: a role of acidosis-induced c-Src activation. Hypertens Res. 2009; 32: 182-7 Ashitate T, Osanai T, Tanaka M, Magota K, Echizen T, Tomita T, Okumura K. Generation and characterization of coupling factor 6-oberexpressing transgenic mice. Hirosaki Medical Journal 2009; 60: 18-26

08年度	奥村　謙 長内　智宏	教授 准教授	Katoh C, Osanai T, Shibutani S, Hanada K, Okumura K. Upregulation of insulin-like growth factor-1 gene expression in cardiac myocytes by hypoxia : mechanism for its cardioprotective effect. Hirosaki Medical Journal 2009; 60: 36-44
	奥村　謙 中村　典雄	教授 講師	Fujita T, Yamabe H, Shimada M, Murakami R, Kumasaka R, Nakamura N, Osawa H, Okumura K. Thrombin enhances the production of monocyte chemoattractant protein-1 and macrophage inflammatory protein-2 in cultured rat glomerular epithelial cells. Nephrol Dial Transplant. 2008; 23: 3412-7.
09年度	奥村　謙 長内　智宏	教授 准教授	Yokoyama H, Saito S, Hanada H, Osanai T, Daitoku K, Fukuda I, Okumura K. Plasma apelin level is decreased in patients with coronary artery disease. Hirosaki Med J. 2010; 61: 58-64. Yokoyama H, Saito S, Daitoku K, Fukuda I, Higuma T, Hanada H, Osanai T, Okumura K.Effects of pravastatin and rosuvastatin on the generation of adiponectin in the visceral adipose tissue in patients with coronary artery disease. Fundam Clin Pharmacol. 2010 in press Yokota T, Osanai T, Okumura K, et al. Effects of telmisartan on markers of ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction: comparison with enalapril. Heart Vessels 2010 in press.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	樋熊　拓未	助教	BSL-FD
09年度	奥村　謙	教授	医学部医学科 FD 講演会 入試面接のための FD

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	奥村　謙	教授	神戸大学大学院講義先端医学トピックス	2
09年度	花田　裕之	講師	救急認定看護師循環器病集中講義	4

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	奥村　謙	教授	循環器と疾患	80%
	長内　智宏	准教授	循環器と疾患	80-90%
	高梨　信吾	准教授	呼吸器と疾患	80%
	花田　裕之	講師	循環器と疾患	80%
09年度	奥村　謙	教授	循環器と疾患	80-90%
	長内　智宏	准教授	循環器と疾患	80-90%
	花田　裕之	講師	循環器と疾患	80-90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	奥村　謙	教授	循環器と疾患	4.4
	長内　智宏	准教授	循環器と疾患	4.3
	高梨　信吾	准教授	呼吸器と疾患	4.7
	花田　裕之	講師	循環器と疾患	未実施

09年度	奥村　　謙	教授	循環器と疾患	未実施
	長内　智宏	准教授	循環器と疾患	4.3
	花田　裕之	講師	循環器と疾患	3.8

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年次	38週		5.0	5.0

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	36週		4.9	4.9

13. 内分泌代謝内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

90％

これから２年間の目標：

病態生理を理解した臨床医の育成

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	須田　俊宏	教授	最新医学の現状	3時間
09年度	松井　　淳	講師	生活習慣と健康（M）	6時間
	丹藤　雄介	講師	生活習慣と健康（M）	6時間

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	須田　俊宏	教授	内分泌学	4年	28.5時間
	玉澤　直樹	准教授	代謝学	3年生	6時間
			侵襲と加齢Ⅰ	3年生	13.5時間
	松井　　淳	講師	発展医学Ⅰ	3年生	1.5時間
			内分泌代謝と疾患	3年生	10.5時間
			侵襲と加齢Ⅰ	3年生	1.5時間
			侵襲と加齢Ⅱ	3年生	3時間
			内分泌代謝と疾患	4年生	10.5時間
			特別教育科目（研究室研修）	3年生	30時間
	丹藤　雄介	講師	侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	3	1.5時間
			内分泌・代謝と疾患	4	4.5時間
	蔭山　和則	講師	内分泌代謝と疾患	3	1.5時間
			症候と病歴聴取のポイント	4	1.5時間
			発展現代医学Ⅰ	1	1.5時間
	崎原　　哲	助教	内分泌学代謝と疾患	4	1.5時間
09年度	須田　俊宏	教授	内分泌・代謝と疾患	4年次	38時間
	玉澤　直樹	准教授	侵襲と加齢Ⅰ	3年次	20時間
			内分泌・代謝と疾患Ⅰ	3年次	10時間
	松井　　淳	講師	侵襲と加齢Ⅰ	3年次	2時間
			侵襲と加齢Ⅱ	3年次	2時間
			内分泌・代謝と疾患Ⅰ	3年次	14時間
			発展現代医学Ⅰ	3年次	2時間
	丹藤　雄介	講師	侵襲と加齢Ⅰ	3年次	2時間
			内分泌・代謝と疾患Ⅰ	3年次	6時間
	蔭山　和則	講師	内分泌・代謝と疾患	4年次	2時間
			発展現代医学Ⅰ	3年次	2時間

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	丹藤　雄介	講師	臨床実地見学実習	2	31.5

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	須田　俊宏 玉澤　直樹 小川　吉司 松井　　淳 丹藤　雄介 蔭山　和則 崎原　　哲 二川　原健 柳町　　幸／村上　　宏 照井　　健	教授 准教授 講師 講師 講師 講師 助教 助教 助教 助教	5年次	通年
09年度	須田　俊宏 玉澤　直樹 小川　吉司 松井　　淳 丹藤　雄介 蔭山　和則 崎原　　哲 二川原　健 村上　　宏 柳町　　幸 照井　　健	教授 准教授 講師 講師 講師 講師 助教 助教 助教 助教 助教	5年次	通年

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	崎原　　哲	助教
09年度	二川原　健	助教
	崎原　　哲	助教
	村上　　宏	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	2名	蔭山　和則
09年度	2名	松井　　淳，蔭山　和則

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	須田　俊宏	教授	医学研究概論	1	3時間

2）実習　　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
08年度	小川　吉司	講師	Hypoxia induces dysfunction and cell death of the rat pancreatic islet.
09年度	玉澤　直樹	准教授	Metformin restores impaired HDL-mediated cholesterol efflux due to glycation.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	丹藤　雄介	講師	第8回東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	須田　俊宏	教授	内分泌代謝学	60%
	玉澤　直樹	准教授	代謝学 侵襲と加齢Ⅰ	70% 70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	須田　俊宏	教授	内分泌代謝学	4.3
	玉澤　直樹	准教授	代謝学	4.2

2）専門教育の評価 2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
内分泌代謝	5			4.7	4.5

14. 腫瘍内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

・2009年より臨床薬理の中で臨床腫瘍学の講義を開始した。

これから２年間の目標：

・臨床腫瘍の基礎を講義・実習を通して，学生が自ら学び修得するよう援助する。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	伊東　重豪	講師	生活習慣と健康 最新医学の現状	6 6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	西條　康夫	教授	医学英語Ⅲ 呼吸器と疾患（前期） 呼吸器と疾患（後期）	4年次 4年次 4年次	16 4 6
09年度	西條　康夫	教授	医学英語Ⅲ 呼吸器と疾患 臨床薬理 医の原理Ⅱ	4年 4年 4年 2年	16 6 4 2
	伊東　重豪	講師	臨床薬理	4年	2
	高畑　武功	助教	臨床薬理	4年	4
	石黒　　敦	助教	臨床薬理	4年	2

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	西條　康夫	教授	5年次	18
	伊東　重豪	講師	5・6年次	400
	高畑　武功	助教	5・6年次	400
09年度	西條　康夫	教授	5・6年生	50
	伊東　重豪	講師	5・6年生	200
	高畑　武功	助教	5・6年生	200
	石黒　　敦	助教	5・6年生	150

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
09年度	伊東　重豪	講師

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	西條　康夫	教授	医学概論Ⅰ 医学研究概論Ⅱ 最新医学の動向 腫瘍内科学講義（前期） 腫瘍内科学講義（後期） 腫瘍内科学演習	1年次 1年次 1年次 1年次 1年次 1年次	2 2 4
	高畑　武功	助教	遺伝発生医学セミナー	1年次	2
	伊東　重豪	講師	最新医学の動向	1年次	4
09年度	西條　康夫	教授	最新医学の動向 医学研究概論Ⅱ	1年 1年	4 2
	伊東　重豪	講師	臨床腫瘍内科学セミナー 最新医学の動向	1年 1年	2 2
	高畑　武功	助教	臨床腫瘍内科学セミナー 最新医学の動向	1年 1年	2 2
	石黒　　敦	助教	臨床腫瘍内科学セミナー	1年	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	西條　康夫	教授	医学研究基礎技術実習	通年	
	伊東　重豪	講師	腫瘍内科学実験実習	2年次	

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　　目　　名	年間担当時間数
09年度	西條　康夫	教授	腫瘍学概論 がん化学療法概論	2 2

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
09年度	西條　康夫	教授	臨床薬理	4.0
	伊東　重豪	講師	臨床薬理	3.5
	高畑　武功	助教	臨床薬理	3.6
	石黒　　敦	助教	臨床薬理	3.6

2）専門教育の評価　該当なし。

15. 神経精神医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

十分到達した。

これから２年間の目標：

これまでの教育内容に加え，精神症状評価尺度についても教え，臨床応用を可能とする。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	兼子　　直	教授	メンタルヘルスA	2
	栗林　理人	講師	メンタルヘルスA	2
	古郡　規雄	講師	メンタルヘルスA	2
	菊池　淳宏	助教	メンタルヘルスA	1
	松岡　貴志	助教	メンタルヘルスA	1
09年度	兼子　　直	教授	メンタルヘルスA	2
	古郡　規雄	准教授	メンタルヘルスA	3
	菊池　淳宏	講師	メンタルヘルスA	2
	松岡　貴志	助教	メンタルヘルスA	1
	斉藤まなぶ	助教	メンタルヘルスA	3

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	兼子　　直	教授	BSL	108
	栗林　理人	講師	BSL	108
	古郡　規雄	講師	BSL	108
	菊池　淳宏	助教	BSL	108
	松岡　貴志	助教	BSL	108
09年度	兼子　　直	教授	BSL	108
	古郡　規雄	准教授	BSL	108
	菊池　淳宏	講師	BSL	108
	松岡　貴志	助教	BSL	108
	斉藤まなぶ	助教	BSL	108

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	兼子　　直	教授	精神と疾患	4年	10
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	3年学士	1
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年学士	1
			医療リスクマネジメント	4年	1
	栗林　理人	講師	精神と疾患	4年	5
	古郡　規雄	講師	精神と疾患	4年	4
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	2年	1
	菊池　淳宏	助教	精神と疾患	4年	5
	松岡　貴志	助教	精神と疾患	4年	1
			チュートリアル	3年	8
09年度	兼子　　直	教授	精神と疾患	4年	10
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	3年学士	1
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年学士	1
			医療リスクマネジメント	4年	1

09年度	古郡　規雄	准教授	精神と疾患 発展現代医学Ⅰ（内科系）	4年 2年	4 1
	菊池　淳宏	講師	精神と疾患	4年	5
	松岡　貴志	助教	精神と疾患 チュートリアル	4年 3年	1 8
	斉藤まなぶ	助教	精神と疾患	4年	1

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	兼子　　直	教授	5年	1年間
	栗林　理人	講師	5年	1年間
	古郡　規雄	講師	5年	1年間
	菊池　淳宏	助教	5年	1年間
	松岡　貴志	助教	5年	1年間
09年度	兼子　　直	教授	5年	1年間
	古郡　規雄	准教授	5年	1年間
	菊池　淳宏	講師	5年	1年間
	松岡　貴志	助教	5年	1年間
	斉藤まなぶ	助教	5年	1年間

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	松岡　貴志	助教
	藤井　　学	助教
09年度	松岡　貴志	助教
	藤井　　学	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	3名	古郡　規雄，菊池　淳宏
09年度	5名	古郡　規雄，菊池　淳宏

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	兼子　　直	教授	精神・神経分子科学講義	1年	30
			精神・神経分子科学演習	1年	60
			精神・発達医療学講義	1年	30
			精神・発達医療学演習	1年	24
			精神・発達医療学実験実習	2年	30
			精神医学	1－4年	前・後期
	古郡　規雄	講師	精神・神経分子科学演習	1年	76
			精神・神経分子科学実験実習	2年	30
			精神医学	1－4年	2
09年度	兼子　　直	教授	精神・神経分子科学講義	1年	30
			精神・神経分子科学演習	1年	60
			精神・発達医療学講義	1年	30
			精神・発達医療学演習	1年	24
			精神・発達医療学実験実習	2年	30
			精神医学	1－4年	前・後期
	古郡　規雄	准教授	精神・神経分子科学演習	1年	76
			精神・神経分子科学実験実習	2年	30
			精神医学	1－4年	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	兼子　　直	教授	神経精神医学	1－4年	1年間
	栗林　理人	講師	臨床実地見学実習	2年	4
	古郡　規雄	講師	臨床実地見学実習	3年	80
	菊池　淳宏	助教			
	松岡　貴志	助教			
09年度	兼子　　直	教授	神経精神医学	1－4年	1年間
	古郡　規雄	准教授	神経精神医学	3年	80
	菊池　淳宏	講師	神経精神医学		
	松岡　貴志	助教	神経精神医学		
	斉藤まなぶ	助教	神経精神医学		

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	兼子　　直	教授	Augmentation of antidepressants with perospirone for treatment-resistant major depressive disorder（治療抵抗性うつ病に対する perospirone 追加投与の効果）
09年度	兼子　　直	教授	・Sexual dysfunction in Japanese patients with schizophrenia treated with antipsychotics.（抗精神病薬服用中の統合失調症圏患者における性機能障害の実態調査） ・Characteristics of the tree-drawing test in chronic schizophrenia.（慢性統合失調症における樹木画テストの特徴）

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	6 名
09年度	6 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	栗林　理人	講師		教育学部（臨床医科学Ⅲ-2） 大学院教育研究科（精神医学特論）	16 16
	松岡　貴志	助教		保健学科（神経・筋・感覚機能学）	12
09年度	斉藤まなぶ	助教		教育学部（臨床医科学Ⅲ-2） 大学院教育研究科（精神医学特論）	8 16
	菅原　知子	助教		教育学部（臨床医科学Ⅲ-2）	8
	松岡　貴志	助教		保健学科（神経・筋・感覚機能学）	12

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
08年度	兼子　　直	教授	15	10
	古郡　規雄	講師	4	4
	松岡　貴志	助教	6	弘前医師会准看護学生
09年度	兼子　　直	教授	15	10
	古郡　規雄	准教授	4	4　青森大学薬学部学生
	藤井　　学	助教	6	弘前医師会准看護学生

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	兼子　直	教授	精神と疾患	80%
	栗林　理人	講師	精神と疾患	80%
	古郡　規雄	講師	精神と疾患	80%
	菊池　淳宏	助教	精神と疾患	80%
	松岡　貴志	助教	精神と疾患	80%
09年度	兼子　直	教授	精神と疾患	80%
	古郡　規雄	准教授	精神と疾患	80%
	菊池　淳宏	講師	精神と疾患	80%
	松岡　貴志	助教	精神と疾患	80%
	斉藤まなぶ	助教	精神と疾患	80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	兼子　直	教授	精神と疾患	A：4.2，B：4.0
	栗林　理人	講師	精神と疾患	A：4.1，B：4.0
	古郡　規雄	講師	精神と疾患	A：4.4，B：4.3
	菊池　淳宏	助教	精神と疾患	A：4.1，B：4.0
	松岡　貴志	助教	精神と疾患	A：4.1，B：4.0
09年度	兼子　直	教授	精神と疾患	A：4.2，B：4.0
	栗林　理人	講師	精神と疾患	A：4.1，B：4.0
	古郡　規雄	講師	精神と疾患	A：4.4，B：4.3
	菊池　淳宏	助教	精神と疾患	A：4.1，B：4.0
	松岡　貴志	助教	精神と疾患	A：4.1，B：4.0

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5年			4.3	4.5

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5年			4.3	4.5

16. 小児科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

講義の内容は，絶えず見直し，プリントやコンピューターを用いた分かり易い講義になるよう改善を加えた。ほぼ目標は達成された。

講義，実習は可能な限り担当したが，出席率の向上に関しては今後も検討の余地がある。

これから２年間の目標：

1. 講義内容の見直しを絶えず行う。
2. 21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
3. 出席率の向上を計る。
4. 教育面で，学生への講義には教官研修会で得た効率的な教育のために，教育学で裏付けされた理論を応用したより分かり易い効率的な講義を行うべく努力する。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	高橋　　徹	准教授	子供の発達：機能的発達 子供の発達：出生前・新生児の病気 最新医学の現状（K）	2 2 6
	田中　　完	講師	子供の発達：乳児の病気 子供の発達：児童・学童の病気	2 2
	土岐　　力	講師	生物学の基礎Ⅱ（A）	10
09年度	伊藤　悦朗	教授	小児の血液腫瘍性疾患と生活習慣病	2
	田中　　完	講師	最新医学の現状（M）	6
	土岐　　力	講師	生物学の基礎Ⅱ	10

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	伊藤　悦朗	教授	小児疾患・成長と発達 発展現代医学Ⅰ（内科系）	4年生 2年生	12 4
	高橋　　徹	准教授	小児疾患・成長と発達 循環器と疾患	4年生 3年生	6 10
	田中　　完	講師	小児疾患・成長と発達 呼吸器と疾患 腎・尿路・男性生殖器と疾患 侵襲と加齢 侵襲と加齢Ⅱ（1） 小児疾患・成長と発達	4年生 4年生 4年生 3年生 3年生 4年生	2 2 6 2 2 2
	照井　君典	助教	小児疾患・成長と発達	4年生	2
	佐々木伸也	助教	小児疾患・成長と発達	4年生	2
09年度	伊藤　悦朗	教授	臨床医学入門 小児疾患・成長と発達 発展現代医学Ⅰ 発展現代医学Ⅰ	4年生 4年生 2年生 学士	4 12 2 2
	高橋　　徹	准教授	循環器と疾患 小児疾患・成長と発達	3年生 4年生	10 6

09年度	田中　　完	講師	呼吸器と疾患 小児疾患・成長と発達 腎・尿路　男性生殖器と疾患 侵襲と加齢（感染症） 侵襲と加齢Ⅱ（1）	4年生 4年生 4年生 3年生 3年生	2 2 6 2 2
	藤田　浩史	助教	小児疾患・成長と発達	4年生	4
	照井　君典	助教	小児疾患・成長と発達	4年生	2
	佐々木伸也	助教	小児疾患・成長と発達	4年生	2

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	田中　　完	講師	5年生	36
	藤田　浩史	助教	5年生	36
	照井　君典	助教	5年生 6年生	36 14
	佐々木伸也	助教	5年生	18
09年度	藤田　浩史	助教	5年生 6年生	36 12
	照井　君典	助教	5年生 6年生	36 12
	佐々木伸也	助教	5年生	27

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	照井　君典	助教
09年度	佐々木伸也	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	1名	土岐　　力
09年度	1名	土岐　　力

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	土岐　　力	講師	がんの生物学と生命倫理 遺伝発生学	1年生 1年生	4 2
	照井　君典	助教	生命科学と倫理	1年生	2
09年度	伊藤　悦朗	教授	医学研究概論Ⅱ	1年生	2
	照井　君典	助教	最新医学の動向	1年生	2

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
09年度	伊藤　悦朗	教授	Mutations in the ribosomal protein genes in Japanese patients with Diamond-Blackfan Anemia.

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	1 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	2 名
09年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	伊藤　悦朗	教授	小児疾患・成長と発達 発展現代医学Ⅰ（内科系）	90% 90%
	高橋　　徹	准教授	小児疾患・成長と発達 循環器と疾患	90% 90%
	田中　　完	講師	小児疾患・成長と発達 呼吸器と疾患 腎・尿路・男性生殖器と疾患 侵襲と加齢 侵襲と加齢Ⅱ（1） 小児疾患・成長と発達	80% 80% 80% 80% 80% 80%
	照井　君典	助教	小児疾患・成長と発達	80%
	佐々木伸也	助教	小児疾患・成長と発達	80%
09年度	伊藤　悦朗	教授	医学入門 小児疾患・成長と発達 発展現代医学Ⅰ 発展現代医学Ⅰ	90% 90% 90% 90%
	高橋　　徹	准教授	循環器と疾患 小児疾患・成長と発達	90% 90%
	田中　　完	講師	呼吸器と疾患 小児疾患・成長と発達 腎・尿路　男性生殖器と疾患 侵襲と加齢（感染症） 侵襲と加齢Ⅱ（1）	80% 80% 80% 80% 80%
	藤田　浩史	助教	小児疾患・成長と発達	80%
	照井　君典	助教	小児疾患・成長と発達	80%
	佐々木伸也	助教	小児疾患・成長と発達	80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	伊藤　悦朗	教授	小児疾患・成長と発達	A：3.8，B：3.7
	高橋　　徹	准教授	小児疾患・成長と発達	A：4.2，B：4.3
	田中　　完	講師	腎・尿路，男性生殖器と疾患	A：4.1，B：4.2
	照井　君典	助教	小児疾患・成長と発達	A：3.5，B：3.3
	佐々木伸也	助教	小児疾患・成長と発達	A：4.3，B：4.2
09年度	伊藤　悦朗	教授	小児疾患・成長と発達	A：4.4，B：4.3
	高橋　　徹	准教授	小児疾患・成長と発達	A：4.4，B：4.3
	田中　　完	講師	小児疾患・成長と発達	A：4.0，B：4.1
	藤田　浩史	助教	小児疾患・成長と発達	A：4.0，B：3.9
	照井　君典	助教	小児疾患・成長と発達	A：3.8，B：3.5
	佐々木伸也	助教	小児疾患・成長と発達	A：4.3，B：4.0

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	200日	1,600	4.3	4.0

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年生	180日	1,440	4.5	4.7

17. 胸部心臓血管外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 講義形式の授業では，学生に自ら学ぶ姿勢を植え付ける。医療リスクマネジメントの講義では，グループ報告を取り入れてこれをまとめて出版する。→達成した。医療リスクマネジメントの演習の毎年度の報告は小冊子として講義担当教員および医学科教授に配布している。
2. 講義では毎回学生からの講義評価を行い，その評価結果は，次回の講義の冒頭で学生に提示し，評価の意義を説明するとともに，次回以降の講義の改善点についても学生に提示する。また，学生からの不適切な意見については，どのような点が不適切であるのか，きちんと説明し，評価の意義を双方向性に生かすように努力する。→達成した。毎回の学生からの講義評価は70％以上がB（秀）以上であり，次回講義の冒頭または次年度の講義の冒頭に提示した。
3. 臨床実習では，基本的診察技能の向上を目指すとともに，クリニカルクラークシップでは，より実践的な診療への参加を促す。→達成した。

これから２年間の目標：

1. 教授の講義の評価は常に高い（4 点以上，毎回の自主評価でB以上）ので改善の余地は少ないが，一般教員の評価は改善の余地があり，評価結果をフィードバックして全員が 4 点以上の評価を目指す。
2. 臨床実習，クリニカルクラークシップでは，現在のレベルを維持する。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	對馬　敬夫	講師	最新医学の現状（N）	6
	皆川　正仁	講師	最新医学の現状（K）	4
	大徳　和之	講師	最新医学の現状（K）	2
09年度	福田　幾夫	教授	最新医学の現状（N）	4
	鈴木　保之	准教授	最新医学の現状（N）	2

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	福田　幾夫	教授	発展現代医学 II（外科系） 基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 医療リスクマネジメント 循環器と疾患	2年次 3年次 4年次 4年次	2 2 12 8
	鈴木　保之	准教授	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 循環器と疾患	3年次 4年次	4 4
	對馬　敬夫	講師	発展現代医学 II（外科系） 呼吸器と疾患	4年次 4年次	2 14
	大徳　和之	講師	循環器と疾患	4年次	4
	皆川　正仁	講師	循環器と疾患	4年次	2
	谷口　　哲	助教	循環器と疾患	4年次	4
	木村　大輔	助教	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理）	3年次	2
09年度	福田　幾夫	教授	発展現代医学 II（外科系） 基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 循環器と疾患 医療リスクマネジメント	2年次 3年次 4年次 4年次	2 2 10 8
	鈴木　保之	准教授	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 循環器と疾患	3年次 4年次	4 4
	對馬　敬夫	講師	発展現代医学 II（外科系） 呼吸器と疾患	学士3年次 学士4年次 4年次	2 14

09年度	大徳　和之	講師	循環器と疾患	4年次	4
	谷口　　哲	助教	循環器と疾患	4年次	4
	木村　大輔	助教	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理）	3年次	2

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	福田　幾夫	教授	5年次	760
	鈴木　保之	准教授	5年次	760
	對馬　敬夫	講師	5年次	760
	皆川　正仁	講師	5年次	380
	大徳　和之	講師	5年次	760
	境　　雄大	助教	5年次	760
	木村　大輔	助教	5年次	760
	谷口　　哲	助教	5年次	760
	北川理映子	助教	5年次	760
	渡辺　健一	助教	5年次	760
09年度	福田　幾夫	教授	5年次	760
	鈴木　保之	准教授	5年次	760
	対馬　敬夫	講師	5年次	760
	大徳　和之	講師	5年次	760
	谷口　　哲	助教	5年次	760
	境　　雄大	助教	5年次	760
	木村　大輔	助教	5年次	760
	渡辺　健一	助教	5年次	760
	山内　早苗	助手	5年次	760

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	境　　雄大	助教
	渡辺　健一	助教
	北川理映子	助教
09年度	境　　雄大	助教
	渡辺　健一	助教
	山内　早苗	助手

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	1名	大徳　和之
09年度	1名	渡辺　健一

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	福田　幾夫	教授	胸部外科学講義 心臓血管外科学講座 再生再建倫理外科学講義	1年次 1年次 1年次	60 60 60
	鈴木　保之	准教授	再建再生理論外科学実験実習	2年次	30
	對馬敬夫	講師	胸部外科学実験実習 最新医学の動向	2年次 1年次	20 2
	皆川正仁	講師	心臓血管外科学実験 再建再生理論外科学実験実習	2年次 2年次	30 30
	大徳和之	講師	心臓血管外科学実験	2年次	30

09年度	福田　幾夫	教授	胸部外科学講義 心臓血管外科学講座 再生再建倫理外科学講義	1年次 1年次 1年次	60 60 60
	鈴木　保之	准教授	再建再生理論外科学実験実習	2年次	60
	對馬　敬夫	講師	胸部外科学実験実習 最新医学の動向	2年次 1年次	20 2
	大徳　和之	講師	心臓血管外科学実験 再建再生理論外科学実験実習	2年次	60 30

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	福田　幾夫	教授	心臓血管外科学演習	1年次	30
	鈴木　保之	准教授	再建再生倫理外科学演習	1年次	30
	對馬　敬夫	講師	胸部外科学演習	1年次	30
	境　　雄大	助教	胸部外科学実験実習	2年次	20
	木村　大輔	助教	胸部外科学実験実習	2年次	20
09年度	福田　幾夫	教授	心臓血管外科学演習	1年次	30
	鈴木　保之	准教授	再建再生倫理外科学演習	1年次	30
	對馬　敬夫	講師	胸部外科学演習	1年次	30
	境　　雄大	助教	胸部外科学実験実習	2年次	20
	木村　大輔	助教	胸部外科学実験実習	2年次	20

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	2 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	大徳　和之	講師	2年次	看護学専攻疾病論 II	2
	境　　雄大	助教	2年次	理学療法学	2
	木村　大輔	助教	2年次	看護学専攻疾病論 II	2
	谷口　　哲	助教	2年次 2年次	理学療法学 看護学専攻疾病論 II	2 2
09年度	福田　幾夫	教授	理工学 理工学	医用システム開発マイスター基礎コース 医用システム開発マイスターアドバンスコース	4 2
	境　　雄大	助教	2年次	疾病論 II	2
	渡辺　健一	助教	2年次	疾病論 II	2
	山内　早苗	助教	2年次	疾病論 II	2

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	福田　幾夫	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 医療リスクマネジメント 循環器と疾患	93% 99% 99% 97%
	鈴木　保之	准教授	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 循環器と疾患	97% 97%
	對馬　敬夫	講師	発展現代医学Ⅱ（外科系） 呼吸器と疾患	85% 85%
	大徳　和之	講師	循環器と疾患	95%
	皆川　正仁	講師	循環器と疾患	95%
	谷口　　哲	助教	循環器と疾患	95%
	木村　大輔	助教	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理）	95%
09年度	福田　幾夫	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 医療リスクマネジメント 循環器と疾患	97% 97% 98% 98%
	鈴木　保之	准教授	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 循環器と疾患	97% 97%
	對馬　敬夫	講師	発展現代医学Ⅱ（外科系） 呼吸器と疾患	90% 90%
	大徳　和之	講師	循環器と疾患	90%
	谷口　　哲	助教	循環器と疾患	95%
	木村　大輔	助教	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理）	95%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	福田　幾夫	教授	基本的診療知識	A：4.3　B：4.2
	鈴木　保之	准教授	循環器と疾患	A：3.8　B：3.7
	對馬　敬夫	講師	呼吸器と疾患	A：4.1　B：4.1
	大徳　和之	講師	循環器と疾患	A：4.0　B：4.0
	谷口　　哲	助教	循環器と疾患	A：4.4　B：4.3
09年度	福田　幾夫	教授	循環器と疾患	4.3
	鈴木　保之	准教授	循環器と疾患 基本的診療知識	3.7 3.7
	大徳　和之	講師	循環器と疾患	3.9
	木村　大輔	助教	基本的診療知識	3.5

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5年次	190	1520	4.2	4.2

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5年次	190	1520	4.4	4.4

18. 消化器外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

前回の目標を引き続き，更なる充実を求める。すなわち，グローバルスタンダードを理解し，国際的視点に立った医師・研究者の育成に努める。また，EBM を踏まえた上で近年求められている患者側にたった医療を提供できる質の高い医師を養成するために，研修医の含めた卒後臨床教育の充実を図る。

これから２年間の目標：

前回の目標を引き続き，グローバルスタンダードの立脚した研究者の育成に努める。加えて，専門医の育成に努める。また，EBM を踏まえた上で患者本位の質の高い医療を提供できる医師を養成するために，研修医も含めた卒後臨床教育の充実を図る。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	袴田　健一	教授		
	吉原　秀一	准教授		
	小田桐弘毅	講師		
	鳴海　俊治	講師	最新医学の現状	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	袴田　健一	教授	医の原則	2年	2
			消化器と疾患	4年	16
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	2年	2
	吉原　秀一	准教授	基本的診療知識	3年	6
			消化器と疾患	4年	8
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年	2
	小田桐弘毅	講師	内分泌代謝と疾患	3年	4
				4年	2
	鳴海　俊治	講師	基本的診療知識	3年	4
	川﨑　仁司	講師	消化器と疾患	3年	8
09年度	袴田　健一	教授	医の原則Ⅱ	2年次	2
			基本的診療知識	3年次	2
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	2年次	2
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	学士4年次	4
			消化器と疾患	4年次	4
			発展臨床医学Ⅲ	6年次	2
	吉原　秀一	准教授	基本的診療知識	3年次	4
			消化器と疾患	4年次	4
	小田桐弘毅	講師	内分泌・代謝と疾患	4年次	6
	鳴海　俊治	講師	基本的診療知識	3年次	2
			消化器と疾患	4年次	4
	川﨑　仁司	講師	消化器と疾患	3年次	4
	豊木　嘉一	助教	消化器と疾患	4年次	2
	村田　暁彦	助教	消化器と疾患	4年次	4
	和嶋　直紀	助教	消化器と疾患	3年次	2
	小山　　基	助教	消化器と疾患	4年次	4
	石戸圭之輔	助教	消化器と疾患	4年次	2
			チュートリアル教育	3年次	2

09年度	宮本　慶一	助教	消化器と疾患 チュートリアル教育	3年次 3年次	2 2

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	袴田　健一	教授	解剖実習	2年次	2

3）臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	年間担当時間数
08年度	袴田　健一	教授	5年	600
	吉原　秀一	准教授	5年	600
	小田桐弘毅	講師	5年	600
	鳴海　俊治	講師	5年	600
	川﨑　仁司	講師	5年	600
	豊木　嘉一	助教	5年	600
	村田　暁彦	助教	5年	600
	小山　　基	助教	5年	600
	鳴海　俊治	講師	4年手術室実習	2
09年度	袴田　健一	教授	5年	600
	吉原　秀一	准教授	5年	600
	小田桐弘毅	講師	5年	600
	鳴海　俊治	講師	5年	600
	川﨑　仁司	講師	5年	600
	豊木　嘉一	助教	5年	600
	村田　暁彦	助教	5年	600
	西　　隆	助教	5年	600
	和嶋　直紀	助教	5年	600
	小山　　基	助教	5年	600
	石戸圭之輔	助教	5年	600
	宮本　慶一	助教	5年 4年手術室実習	600 2

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	豊木　嘉一	助教
	石戸圭之輔	助教
09年度	和嶋　直紀	助教
	小山　　基	助教

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	吉原　秀一	准教授	最新医学の動向	1年	8
09年度	袴田　健一	教授	最新医学の動向	1年次	4
	吉原　秀一	准教授	新医学の動向	1年次	4
	川﨑　仁司	講師	新医学の動向	1年次	2

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	1 名
09年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	吉原　秀一	准教授		外科学	2

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
09年度	小田桐弘毅	講師	がん化学療法概論（青森保健大学）	3

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	袴田　健一	教授	医の原則 消化器と疾患 発展現代医学Ⅱ（外科系）	90％ 90％ 90％
	吉原　秀一	准教授	基本的診療知識 消化器と疾患 発展現代医学Ⅱ（外科系）	90％ 90％ 90％
	小田桐弘毅	講師	内分泌代謝と疾患	90％
	鳴海　俊治	講師	基本的診療知識	90％
	川﨑　仁司	講師	消化器と疾患	90％
09年度	袴田　健一	教授	医の原則Ⅱ 基本的診療知識 発展現代医学Ⅱ（外科系）2年次 〃　（　〃　）学士4年次 消化器と疾患 発展臨床医学Ⅲ	90 90 90 100 90 100
	吉原　秀一	准教授	基本的診療知識 消化器と疾患	90 90
	小田桐弘毅	講師	内分泌・代謝と疾患	90
	鳴海　俊治	講師	基本的診療知識 消化器と疾患	90 90
	川﨑　仁司	講師	消化器と疾患	90
	豊木　嘉一	助教	消化器と疾患	90
	村田　暁彦	助教	消化器と疾患	90
	小山　　基	助教	消化器と疾患	90
	石戸圭之輔	助教	消化器と疾患	90
	宮本　慶一	助教	消化器と疾患	90萬有

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	吉原　秀一	准教授	消化器と疾患	4.1
	小田桐弘毅	講師	内分泌代謝と疾患	3.7
	鳴海　俊治	講師	基本的診療知識	4.6
09年度	袴田　健一	教授	発展現代医学Ⅱ	A：4.6　B：4.5
	小田桐弘毅	講師	内分泌代謝と疾患	A：4.3　B：4.5
	鳴海　俊治	講師	基本的診療知識	A：4.3　B：4.3
	川﨑　仁司	講師	消化器と疾患	A：4.0　B：3.8
	豊木　嘉一	助教	消化器と疾患	A：3.9　B：3.8

09年度	和嶋　直紀	助教	消化器と疾患	A：4.4　B：4.4
	小山　　基	助教	消化器と疾患	A：4.3　B：4.4
	宮本　慶一	助教	消化器と疾患	A：4.0　B：3.8

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年			4.0	3.9

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年			4.2	4.1

19. 整形外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

１．講義内容の見直しを絶えず行ない，学生の学問的興味を維持さえるよう努める。
　概ね達成できたと思われる。

２．Problem-oriented learning を継続し，学生が自ら考えられる様な指導を考慮する。
　特に BSL・クリニカルクラークシップにおいて，実施できた。」

３．医学生（STG，クリニカルクラークシップ）の教育および医員に対する手術指導，論文作成指導
　BSL 教育では，できるだけ機能解剖学的観点から，整形外科疾患を考えられるよう指導した。クリニカルクラークシップは学会にも参加させ，モチベーションを高めることができた。

４．医員に対する手術指導，論文作成指導し大学院生の研究指導・協力を行う
　教室スタッフの指導のもと，大学院生が積極的に海外で発表した。

これから２年間の目標：

１．講義内容の見直しを絶えず行ない，学生の学問的興味を維持さえるよう努める。

２．BSL・クリニカルクラークシップにおいて Problem-oriented learning を継続し，学生が自ら考えられる様な指導を考慮する。

３．医学生（STG，クリニカルクラークシップ）の教育および医員に対する手術指導，論文作成指導

４．医員に対する手術指導，論文作成指導し大学院生の研究指導・協力を行う

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	藤　　哲	教授	発展現代医学 II（外科系） 最新医学の現状 L	2 2
	津田　英一	講師	最新医学の現状	4
	小野　　睦	講師	最新医学の現状；脊髄脊椎疾患	3
	柳澤　道朗	助教	最新医学の現状：骨軟部腫瘍	2
09年度	藤　　哲	教授	発展現代医学 II（外科系） 最新医学の現状 L	2 2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	石橋　恭之	准教授		
09年度	石橋　恭之	准教授		

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	藤　　哲	教授	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	2.5
	石橋　恭之	准教授	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	4
	津田　英一	講師	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	4
	小野　　睦	講師	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	4
	沼沢　拓也	准教	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	6
	柳澤　道朗	准教	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	4

08年度	三井　博正	准教	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	2
09年度	藤　　哲	教授	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	2.5
	石橋　恭之	准教授	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	4
	津田　英一	講師	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	4
	小野　　睦	講師	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	6
	沼沢　拓也	准教	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	6
	柳澤　道朗	准教	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	2
	三井　博正	准教	系統別講義（運動器系） 整形外科	4	2

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	藤　　哲	教授	医学部5・6年	250
	石橋　恭之	准教授	医学部5・6年	200
	津田　英一	講師	医学部5・6年	200
	小野　　睦	講師	医学部5・6年	209
	沼沢　拓也	助教	医学部5・6年	200
	柳澤　道朗	准教	医学部5・6年	200
	三井　博正	准教	医学部5・6年	200
09年度	藤　　哲	教授	医学部5・6年	250
	石橋　恭之	准教授	医学部5・6年	200
	津田　英一	講師	医学部5・6年	200
	小野　　睦	講師	医学部5・6年	200
	沼沢　拓也	助教	医学部5・6年	200
	柳澤　道朗	准教	医学部5・6年	200
	三井　博正	准教	医学部5・6年	200

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	沼沢　拓也	助教
09年度	小野　　睦	講師

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	4名	石橋　恭之，小野　　睦
09年度	2名	津田　英一

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	藤　　哲	教授	運動機能病態修復学講義	前・後期	30回
	石橋　恭之	准教授			
	津田　英一	講師	再生医療	1－4年次	2
	小野　　睦	講師			

09年度	藤　　哲	教授	運動機能病態修復学講義	前・後期	30回
	石橋　恭之	准教授			
	津田　英一	講師		1－4年次	2
	小野　　睦	講師			
	柳澤　道朗	准教			2

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	藤　　哲	教授	1．Lower limb valgus alignment compared with two- and three-dimentional motion analysis during drop jump test
09年度	藤　　哲	教授	1．Roles of ES Cell-Derived Gliogenic Neural Stem/Progenitor Cells in Functional Recovery after Spinal Cord Injury 2．Spinal Cord shift on MRI at 24 hours after cervical laminoplasty

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0名
09年度	2名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	石橋　恭之	准教授	3	臨床医科学 整形外科	16
	小野　　睦	講師	保健学科	筋電図 *ÅE* 神経伝導速度検査	3
09年度	藤　　哲	教授	社会人	「医用システム開発マイスター」養成塾	6
	石橋　恭之	准教授	3	臨床医科学 整形外科	16
	小野　　睦	講師	社会人 保健学科2年	「医用システム開発マイスター」養成塾 神経・筋・感覚機能検査学	1 4
	山本　祐司	助教	保健学科看護学専攻2年	疾病論Ⅲ（運動機能疾患）	6

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	藤　　哲	教授	整形外科における機能解剖 マイクロサージャリと骨延長	70%
09年度	藤　　哲	教授	整形外科における機能解剖 マイクロサージャリと骨延長	70%
	小野　　睦	講師	保健学科　神経・筋・感覚機能検査学	100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	藤　　哲	教授	運動器と疾患	4.0
	石橋　恭之	准教授	整形外科における機能解剖 スポーツ障害と外傷	3.8
	津田　英一	講師	運動器と疾患	3.5
	小野　　睦	講師	運動器と疾患	3.8

08年度	沼沢　拓也	助教	運動器と疾患	4.1
	柳澤　道朗	助教	運動器と疾患	3.9
	三井　博正	准教	運動器と疾患	4.5
09年度	藤　　哲	教授	運動器と疾患	4.5
	石橋　恭之	准教授	整形外科における機能解剖 スポーツ障害と外傷	4.2
	津田　英一	講師	運動器と疾患	4.6
	小野　　睦	講師	運動器と疾患	4.2
	沼沢　拓也	助教	運動器と疾患	3.7
	柳澤　道朗	助教	運動器と疾患	4.5
	三井　博正	准教	運動器と疾患	4.3

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5－6年	160	1120	4.1	4.1
クリニカルクラークシップ	6年	60	480		

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5－6年	160	1120	4.6	4.5
クリニカルクラークシップ	6年	60	480		

20. 皮膚科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

授業を受ける学生の理解の向上に努めるという目標に対し，講義における学生評価の点数が上がったことから，教員の講義に対する意識向上につながり，概ね到達できたと思われるが，試験落第者数は例年並みのため，さらに改善が必要である。

これから２年間の目標：

学生から意見を聞き，授業の向上に反映する。国家試験のガイドラインに則った授業で，国家試験合格率に貢献する。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
08年度	松﨑　康司		最新医学の現状	4
09年度	澤村　大輔		最新医学の現状（N）	2
	金子　高英		最新医学の現状（N）	2

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	澤村　大輔	教授	皮膚と疾患	4年次	2
	中野　　創	准教授	皮膚と疾患	4年次	2
	松﨑　康司	講師	皮膚と疾患	4年次	2
	金子　高英	講師	皮膚と疾患	4年次	2
	会津　隆幸	助教	皮膚と疾患	4年次	2
	中島　康爾	助教	皮膚と疾患	4年次	2
09年度	澤村　大輔	教授	皮膚と疾患 発展現代医学 医学英語 III	4年次 2年次	6 前期 10
	中野　　創	准教授	皮膚と疾患 発展現代医学 国試対策セミナー	4年次 3・4年次	8 前期 2
	松﨑　康司	講師	皮膚と疾患	4年次	6
	金子　高英	講師	皮膚と疾患	4年次	6
	会津　隆幸	助教	皮膚と疾患	4年次	2
	中島　康爾	助教	皮膚と疾患	4年次	2

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	澤村　大輔	教授	4・5年次	
	中野　　創	准教授	4・5年次	
	松﨑　康司	講師	4・5年次	
	金子　高英	講師	4・5年次	
	会津　隆幸	助教	4・5年次	
	中島　康爾	助教	4・5年次	
09年度	澤村　大輔	教授	4・5年次	90日
	中野　　創	准教授	4・5年次	90日
	松﨑　康司	講師	4・5年次	90日
	金子　高英	講師	4・5年次	90日

09年度	会津　隆幸	助教	4・5年次	90日
	中島　康爾	助教	4・5年次	90日

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
09年度	木村　一之	助手

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	4名	中野　　創
09年度	2名	中野　　創

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	澤村　大輔	教授	医学研究科概論Ⅱ 皮膚科学講義 創傷治癒学講義 体表機能形態再建学講義	1～3年次 1年次 1年次 1年次	2 前後期 前後期 前後期
	中野　　創	准教授	皮膚科学演習	1年次	後期
	金子　高英	准教授	皮膚科学演習	1年次	後期
	会津　隆幸	助教			2
09年度	澤村　大輔	教授	皮膚科学講義	1年時	60
	中野　　創	准教授	皮膚科学演習	1年次	60
	金子　高英	准教授	皮膚科学演習	1年次	60

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中野　　創	准教授	皮膚科学実験実習	2年次	前後期
09年度	中野　　創	准教授	皮膚科学実験実習	2年次	60
	松﨑　康司	講師	医学研究基礎技術実習		30

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
09年度	澤村　大輔	教授	

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	1 名
09年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	皆川　智子	助教		臨床医科学 III-1 皮膚科学	12
09年度	松﨑　康司			臨床医科学 III-1 皮膚科学	16
	会津　隆幸			疾病論Ⅲ皮膚疾患	2

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	金子　高英	非常勤講師	疾病論Ⅰ（皮膚科学）	4
09年度	金子　高英	非常勤講師	疾病論Ⅰ（皮膚科学）	4

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	澤村　大輔	教授	皮膚と疾患	80％
	中野　　創	准教授	皮膚と疾患	80％
	松﨑　康司	講師	皮膚と疾患	80％
	金子　高英	講師	皮膚と疾患	80％
	会津　隆幸	助教	皮膚と疾患	80％
	中島　康爾	助教	皮膚と疾患	80％
09年度	澤村　大輔	教授	皮膚と疾患	80％
	中野　　創	准教授	皮膚と疾患	80％
	松﨑　康司	講師	皮膚と疾患	80％
	金子　高英	講師	皮膚と疾患	80％
	会津　隆幸	助教	皮膚と疾患	80％
	中島　康爾	助教	皮膚と疾患	80％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	澤村　大輔	教授	皮膚と疾患	(A) 平均4.6 (B) 平均4.4
	中野　　創	准教授	皮膚と疾患	(A) 平均4.2 (B) 平均4.4
	松﨑　康司	講師	皮膚と疾患	(A) 平均4.0 (B) 平均4.1
	金子　高英	講師	皮膚と疾患	(A) 平均4.0 (B) 平均4.0
	会津　隆幸	助教	皮膚と疾患	(A) 平均3.4 (B) 平均3.2
	中島　康爾	助教	皮膚と疾患	(A) 平均3.0 (B) 平均2.7
09年度	澤村　大輔	教授	皮膚と疾患	(A) 平均4.4 (B) 平均4.3
	中野　　創	准教授	皮膚と疾患	(A) 平均4.5 (B) 平均4.4
	松﨑　康司	講師	皮膚と疾患	(A) 平均4.0 (B) 平均3.8
	会津　隆幸	助教	皮膚と疾患	(A) 平均4.0 (B) 平均3.9
	中島　康爾	助手	皮膚と疾患	(A) 平均3.4 (B) 平均3.4

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	4・5			4	3.8

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5	90日		4.6	4.3

21. 泌尿器科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ100％達成した。

これから２年間の目標：

現在のスペースを維持する。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	大山　　力	教授	最新医学の現状	3
09年度	神村　典孝	准教授	最新医学の現状	6

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	盛　　和行	助教	基礎科学実験（化学）	13.5
09年度	盛　　和行	助教	基礎科学実験（化学）	13.5

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	大山　　力	教授	臨床医学入門実習 発展現代医学 発展現代医学 腎・尿路，男性生殖器と疾患	1 2 4 4	4 2 2 6
	神村　典孝	准教授	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	4
	古家　琢也	講師	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	4
	橋本　安弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	4
	米山　高弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	6
09年度	大山　　力	教授	医の原則Ⅱ 発展現代医学Ⅱ 発展現代医学Ⅱ 腎・尿路，男性生殖器と疾患	2 2 3，4（学士） 4	2 2 2 6
	神村　典孝	准教授	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	4
	古家　琢也	講師	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	4
	橋本　安弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	4
	米山　高弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4	6

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	教　授	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	大山　　力	准教授	5・6	30
	神村　典孝	講　師	5・6	130
	古家　琢也	助　教	5・6	130
	米山　高弘	助　教	5・6	130
	橋本　安弘	助　教	5・6	130
	岩渕　郁哉	助　教	5・6	130
	今井　　篤	助　教	5・6	80
	畠山　真吾	助教	5・6	60

09年度	大山　力	教授	5・6	130
	神村　典孝	准教授	5・6	130
	古家　琢也	講師	5・6	130
	米山　高弘	助教	5・6	130
	橋本　安弘	助教	5・6	130
	工藤　茂将	助教	5・6	80
	岩渕　郁哉	助教	5・6	60
	立和田得志	助教	5・6	60

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	神村　典孝	准教授
	畠山　真吾	助教
09年度	神村　典孝	准教授
	工藤　茂将	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	2名	盛　　和行
09年度	2名	盛　　和行

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	大山　力	教授	医学概論 最新医学の動向	1 1	4 2
09年度	大山　力	教授	医学研究概論Ⅱ 最新医学の動向 泌尿器腫瘍学 泌尿器移植再生医学	1 1 1 1	2 1 180 180

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	大山　力	教授	泌尿器腫瘍学	1，2	140
09年度	神村　典孝	准教授	泌尿器移植再生医学	1	180
	古家　琢也	講師	泌尿器腫瘍学	1	180

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	大山　力	教授	・Positive expressions of *N*-acetylglucosaminyltransferase-V（GnT-V）and 1-6 branching N-linked oligosaccharides in human testicular germ cells diminish during malignant transformation and progression ・Protein profiling of post-prostatic massage urine specimens by surface-enhanced laser desorption/ionization time-of-flight mass spectrometry（SELDI-TOF MS）to discriminate between prostate cancer and benign lesions
09年度	大山　力	教授	・Risk factors for erectile dysfunction in healthy Japanese man.

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	1名
09年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	神村　典孝	准教授		泌尿器科	4
09年度	大山　　力	教授	アドバンストコース	医用機器概論	2
	神村　典孝	准教授	2年	泌尿器科	4

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	古家　琢也	講師	泌尿器科	4
09年度	古家　琢也	講師	泌尿器科	4

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
09年度	大山　　力	教授	腎・尿路，男性生殖器と疾患	95％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	大山　　力	教授	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4.3
	橋本　安弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	3.8
	米山　高弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	3.9
09年度	大山　　力	教授	腎・尿路，男性生殖器と疾患	4.3
	橋本　安弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	3.8
	米山　高弘	助教	腎・尿路，男性生殖器と疾患	3.9

2）専門教育の評価　該当なし。

22. 眼科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

75％

これから２年間の目標：

将来眼科医療を担う若手眼科医候補へ眼科学の魅力を伝える

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	鈴木　幸彦	准教授			

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中澤　　満	教授	眼科学 発展臨床医学 発展臨床医学	4 4 2	28 2 2
09年度	中澤　　満	教授	眼科学（感覚器と疾患） 発展現代医学 II	4 編入生	10 1
	山崎　仁志	講師	眼科学（感覚器と疾患）	4	4

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	中澤　　満	教授	5 6	324 64
	鈴木　幸彦	准教授	5 6	234 64
	山崎　仁志	講師	5 6	234 64
	目時　友美	助教	5 6	164 64
	宮川　靖博	助教	5 6	144 64
	伊藤　　忠	助教	5 6	216 64
	鈴木　　香	助教	5 6	144 64
	竹内　侯雄	助教	5 6	108 64
09年度	中澤　　満	教授	5，6	324
	鈴木　幸彦	准教授	5，6	162
	山崎　仁志	講師	5，6	162
	宮川　靖博	助教	5，6	104
	目時　友美	助教	5，6	104
	伊藤　　忠	助教	5，6	104
	鈴木　　香	助教	5，6	80
	竹内　侯雄	助教	5，6	80

09年度	横井由美子	医員	5，6	80
	盛　　泰子	医員	5，6	80
	木村　智美	医員	5，6	80
	工藤　朝香	医員	5，6	80

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	鈴木　　香	助教
	伊藤　　忠	助教
09年度	鈴木　　香	助教
	伊藤　　忠	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	2名	中澤　　満
09年度	2名	中澤　　満
	2名	鈴木　幸彦
	2名	山崎　仁志

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中澤　　満	教授	眼科診断学	4	40
	鈴木　幸彦	准教授	眼科治療学	4	40
09年度	中澤　　満	教授	眼科診断学	1.2	40
	鈴木　幸彦	准教授	眼科治療学	1.2	40
	山崎　仁志	講師	眼科手術学	1.2	40

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中澤　　満	教授	眼科診断学	4	40
	鈴木　幸彦	准教授	眼科治療学	4	40
	山崎　仁志	講師	眼科治療学	4	40
09年度	中澤　　満	教授	眼科病態学実習	1－4	50
	鈴木　幸彦	准教授	眼科治療学実習	1－4	50
	山崎　仁志	講師	眼科手術学実習	1－4	50

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	中澤　　満	教授	Crystal Deposits on the Lens Capsules in Bietti Crystalline Corneoretinal Dystrophy with a mutation in the *CYP4V2* Gene
09年度	中澤　　満	教授	Crystal Deposits on the Lens Capsules in Bietti Crystalline Corneoretinal Dystrophy with a mutation in the *CYP4V2* Gene.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
09年度	鈴木　　香	助教	OSCE 指導医養成
	鈴木　幸彦	准教授	臨床研修指導

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	4 名
09年度	4 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0名
09年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	鈴木　幸彦	准教授	3	眼科学（保健学科）	6
	山崎　仁志	講師	3	眼科学（保健学科）	6
	目時　友美	助教	3	眼科学（教育学部）	14
09年度	目時　友美	助教	教育・3	眼科学	7
	鈴木　幸彦	准教授	保健・3	眼科学	2
	山崎　仁志	講師	保健・3	眼底写真	2

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	中澤　　満	教授	眼科学（札幌医科大学3年）	2

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	中澤　　満	教授	眼科学	97%
09年度	中澤　　満	教授	感覚器と疾患	97%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	中澤　　満	教授	眼科学	4.0
09年度	中澤　　満	教授	感覚器と疾患	行わず

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
眼科	5	144	1152	3.9	3.9

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5	144日	1152時間	行わず	行わず

23. 耳鼻咽喉科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

講義 1．できるだけポイントを絞って，理解しやすいように行う。80%
2．理解度の確認のため，小テストを講義中に行う。100%
3．教育評価の結果を講義に反映させる。70%
4．講義内容の見直しを行う。80%

実習 1．見学のみの実習を可能な限り廃し，診療に参加できる体制を整える。80%
2．診療を通じて，病歴，検査，診断，治療に至る思考過程を養う。80%
3．可能な限り，救急疾患への対応を学ばせる。70%
4．教育評価の結果を講義に反映させる。70%

これから２年間の目標：

講義 1．できるだけポイントを絞って，理解しやすいようにスライド・プリント・模型等を活用し興味深く，わかりやすい講義を心懸ける。
2．理解度の確認のため，小テストを講義中に行う。
3．教育評価の結果を講義に反映させる。
4．講義内容の見直しを行う。

実習 1．見学のみの実習を可能な限り廃し，診療に参加できる体制を整える。
2．診療を通じて，病歴，検査，診断，治療に至る思考過程を養う。
3．可能な限り，救急疾患への対応を学ばせる。
4．教育評価の結果を講義に反映させる。

（1）教　育

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	新川　秀一	教授	最新医学の現状（k）	2

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	新川　秀一	教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	4 2 4	26 2 2
	松原　　篤	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	4	4
	欠畑　誠治	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	4	6
	阿部　尚央	助教	チュートリアル教育	3	8
	井上　　卓	助教	チュートリアル教育	3	8
09年度	新川　秀一	教授	感覚器と疾患 発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年 3・4年	14 2
	松原　　篤	准教授	感覚器と疾患	4年	4
	欠畑　誠治	准教授	感覚器と疾患	4年	6
	南場　淳司	助教	感覚器と疾患 発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年 2年	2 2
	高畑　淳子	助教	チュートリアル	3年	6
	井上　　卓	助教	チュートリアル	3年	6
	阿部　尚央	助教	チュートリアル	3年	8

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	新川　秀一	教授	5・6	36週・4週
	松原　　篤	准教授	5・6	36週・4週
	欠畑　誠治	准教授	5・6	36週・4週
	南場　淳司	助教	5・6	36週・4週
	佐々木　亮	助教	5・6	36週・4週
	阿部　尚央	助教	5・6	36週・4週
	井上　　卓	助教	5・6	36週・4週
09年度	新川　秀一	教授	5年生	36週
	松原　　篤	准教授	5年生	36週
	欠畑　誠治	准教授	5年生	36週
	南場　淳司	助教	5年生 2年生　臨床実地体験実習	36週 13週
	佐々木　亮	助教	5年生	36週
	高畑　淳子	助教	5年生	36週
	井上　　卓	助教	5年生	36週
	阿部　尚央	助教	5年生	36週

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	欠畑　誠治	准教授
	南場　淳司	助教
09年度	南場　淳司	助教
	佐々木　亮	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	1名	欠畑　誠治
09年度	1名	欠畑　誠治

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	新川　秀一	教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講義 耳鼻咽喉・頭頸部外科学演習	1 1	60 60
09年度	新川　秀一	教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講義	1年	
	南場　淳司	助教	最新医学の動向	1年	1

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	松原　　篤	准教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科学実験	1	30
	欠畑　誠治	准教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科学実験	1	30
09年度	新川　秀一	教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科演習 耳鼻咽喉・頭頸部外科学実験実習	1年 2年	
	松原　　篤	准教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科学実験実習	2年	
	欠畑　誠治	准教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科学実験実習	2年	

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
08年度	新川　秀一	教授	Effects of small interfering RNA targeting thymidylate synthase on survival of ACC3 cell from salivary adenoid cystic carcinoma

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	松原　篤	准教授	2 3 3	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科 神経・筋・感覚機能検査学 臨地実習	14 4 14
	欠畑　誠治	准教授	2	疾病論Ⅲ	4
09年度	松原　篤	准教授	2年	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科（教育学部） 臨床生理学Ⅲ・平衡機能検査（保健学科） 臨床実習・生理学部門（保健学科）	14 4 14
	欠畑　誠治	准教授	2年	疾病論Ⅲ	4

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	新川　秀一	教授	耳鼻咽喉科学	4
09年度	新川　秀一	教授	耳鼻咽喉科学	3

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	新川　秀一	教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	90%以上
	松原　篤	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	90%以上
	欠畑　誠治	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	90%以上
09年度	新川　秀一	教授	感覚器と疾患	90%以上
	松原　篤	准教授	感覚器と疾患	90%以上
	欠畑　誠治	准教授	感覚器と疾患	90%以上

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	新川　秀一	教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	(A) 3.4 (B) 3.1
	松原　篤	助教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	(A) 4.1 (B) 3.9
	欠畑　誠治	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	(A) 4.4 (B) 4.4
09年度	新川　秀一	教授	感覚器と疾患	(A) 3.4 (B) 2.7
	松原　篤	准教授	感覚器と疾患	(A) 3.8 (B) 3.7
	欠畑　誠治	准教授	感覚器と疾患	(A) 4.4 (B) 4.3

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年生	38週		4.2	4.2

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年生	36週		3.9	4.0

24. 放射線科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ほぼ達成した。

これから２年間の目標：
さらに向上するように努力する。

（1）教　育　実　績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	三浦　弘行	講師	最新医学の現状	6 時間
09年度	小野　修一	准教授	最新医学の現状	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	小野　修一	准教授	放射線科画像診断 発展現代医学Ⅰ（内科系）：放射線科学入門	4年生 2年生	12 2
	青木　昌彦	准教授	放射線治療	4年	10
	三浦　弘行	講師	放射線医学	4	8
	長畑　守雄	講師	放射線医学（神経放射線診断学）	4	6
	畑山　佳臣	助教	放射線治療 「チュートリアル」授業	4年 3年	2時間 8時間
09年度	小野　修一	准教授	放射線科学入門 放射線医学	2年生 4年生	2 16
	三浦　弘行	講師	放射線医学	4年生	7.5
	長畑　守雄	講師	放射線医学	4年生	6
	畑山　佳臣	助教	放射線医学 「チュートリアル」教育	4年生 3年生	2 14

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	小野　修一	准教授	5-6年生 6年生	54時間 36時間
	青木　昌彦	准教授	5年	114時間
	三浦　弘行	講師	5	20
	畑山　佳臣	助教	5年，6年	約60時間
09年度	小野　修一	准教授	5年生 6年生	38 60
	三浦　弘行	講師	5年生 6年生	20 20
	畑山　佳臣	助教	5年生 6年生	60 60

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	三浦　弘行	講師

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
08年度	2 名	阿部 由直，小野 修一
09年度	2 名	小野 修一，澁谷 剛一

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
08年度	小野 修一	准教授	放射線科学	3，4年	50
	青木 昌彦	准教授	平成20年度後期大学院講義	1・2年	2時間

2）実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
09年度	小野 修一	准教授	放射線科学	3.4年生	100

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
08年度	長畑 守雄	講師	Incidence of unilateral distal vertebral artery aplasia; evaluation by combining basiparallel anatomic scanning-magnetic resonance imaging (BPAS-MRI) and magnetic resonance angiography.
09年度	小野 修一 長畑 守雄	准教授 講師	Morimoto K et al: Incidence of unilateral distal vertebral artery aplasia: evaluation by combining basiparallel anatomic scanning-magnetic resonance imaging (BPAS-MRI) and magnetic resonance angiography.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

	参加者名	職名	名 称 等
08年度	長畑 守雄	講師	BSL-FD

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	1 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
08年度	小野 修一	准教授	放射線科学	97%
	青木 昌彦	准教授	放射線治療	90%
	長畑 守雄	講師	放射線医学（神経放射線診断学）	70%
09年度	小野 修一	准教授	放射線科学入門 放射線科学	100% 100%
	長畑 守雄	講師	放射線科学	70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
09年度	小野　修一	准教授	放射線科学	2.7
	三浦　弘行	講師	放射線科学	3.2
	長畑　守雄	講師	放射線科学	3.3
	畑山　佳臣	助教	放射線科学	4.3

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
放射線科学	5	180	1080	4.1	4.1

25. 産科婦人科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

分担分に関しては責任をもって講義，実習を行った。臨床実習期間が14日間に増やされたことにより，これまで以上に充実した教育が可能となった。

これから２年間の目標：

引き続き，産婦人科に興味を持ち理解を深めるように工夫する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	横山　良仁	講師	最新の医学	4.5時間
09年度	水沼　英樹	教授	生活習慣と健康	1
	樋口　　毅	講師	生活習慣と健康	2

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	水沼　英樹	教授	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	4年	14
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年	2
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	2年	2
			発展臨床医学Ⅱ先端医学・東洋医学	4年	2
	藤井　俊策	准教授	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	4年	8
	樋口　　毅	講師	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	4年	8
	横山　良仁	講師	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	4年	6
	福井　淳史	助教	チュートリアル教育	4年	4
09年度	水沼　英樹	教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	4年	10
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年	2
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	2年	2
			発展臨床医学Ⅱ先端医学・東洋医学	4年	2
	藤井　俊策	准教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	4年	6
	樋口　　毅	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	4年	6
	横山　良仁	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	4年	8
	福井　淳史	助教	チュートリアル教育	4年	4
	二神　真行	助教	チュートリアル教育	4年	4

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	水沼　英樹	教授	5・6年	実習期間を通じて
	藤井　俊策	准教授	5・6年	実習期間を通じて
	樋口　　毅	講師	5・6年	実習期間を通じて
	横山　良仁	講師	5・6年	実習期間を通じて
	福井　淳史	助教	5・6年	実習期間を通じて
	二神　真行	助教	5・6年	実習期間を通じて
	山本　善光	助教	5・6年	実習期間を通じて
	木村　秀崇	助教	5・6年	実習期間を通じて

09年度	水沼　英樹	教授	5・6年	実習期間を通じて
	藤井　俊策	准教授	5・6年	実習期間を通じて
	樋口　　毅	講師	5・6年	実習期間を通じて
	横山　良仁	講師	5・6年	実習期間を通じて
	福井　淳史	助教	5・6年	実習期間を通じて
	二神　真行	助教	5・6年	実習期間を通じて
	山本　善光	助教	5・6年	実習期間を通じて

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	福井　淳史	助教
09年度	福井　淳史	助教

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	1名	横山　良仁
	1名	福井　淳史
09年度	2名	藤井　俊策
	1名	福井　淳史

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	水沼　英樹	教授	医学研究概論Ⅱ 婦人科腫瘍学 腫瘍制御学	1・2年 大学院生 大学院生	2 4 4
	藤井　俊策	准教授	生殖医療と倫理 遺伝発生学 再生医療	大学院生 大学院生 大学院生	2 2 2
	横山　良仁	講師	卵巣癌の最新情報子宮頸癌と HPV	大学院生	3
09年度	水沼　英樹	教授	婦人科腫瘍学 生殖機能病態学	大学院生 大学院生	60 60
	横山　良仁	講師	子宮頸癌と HPV	大学院生	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	福井　淳史	助教	産科婦人科	1 ～ 4年	通年
09年度	福井　淳史	助教	産科婦人科	1 ～ 4年	通年

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
09年度	水沼　英樹 樋口　　毅	教授 講師	Analysis of Functional Sugar Chains of Proteoglycans in the urine from Women with Osteoporosis,　Hirosakiigaku(in press)
	水沼　英樹 横山　良仁	教授 講師	Efficacy of a methyl ester of 5-aminolevulinic acid in photodynamic therapy for ovarian cancers, JOURNAL OF Cancer Research AND Clinical Oncology, 2010, 136, 1143-1150

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	3 名
09年度	9 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	水沼　英樹	教授	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	60%
	藤井　俊策	准教授	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	50%
	樋口　　毅	講師	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	60%
	横山　良仁	講師	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	70%
09年度	水沼　英樹	教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	60%
	藤井　俊策	准教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	60%
	樋口　　毅	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	60%
	横山　良仁	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	60%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	水沼　英樹	教授	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	4.2
	藤井　俊策	准教授	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	4.2
	樋口　　毅	講師	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	3.3
	横山　良仁	講師	妊娠・分担，女性生殖器と疾患	4.6
09年度	水沼　英樹	教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	A4.2　B4.2
	藤井　俊策	准教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	A4.1　B4.2
	樋口　　毅	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	A3.7　B3.5
	横山　良仁	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	A4.1　B4.2

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
産科婦人科学	5年			4.3	4.0

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
産科婦人科学	5年			4.6	4.4

26. 麻酔科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

①麻酔科を理解してもらえるよう更に内容のレベルアップに努める。

②臨床実習では PBL を基本に，画像を多く用いた教育を行う。

③臨床研修医指導医ワークショップへ教室員を参加させるとともに，タスクフォースの一員としても，県内の臨床研修のより一層の充実に寄与する。

①～③に関して，目標に沿って行ってきたので到達度は90% 以上と考える。

これから２年間の目標：

①麻酔科を理解してもらえるよう更に内容のレベルアップに努める。

②臨床実習では PBL を基本に，画像を多く用いた教育を行う。

③臨床研修医指導医ワークショップへ教室員を参加させるとともに，タスクフォースの一員としても，県内の臨床研修のより一層の充実に寄与する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	石原　弘規	准教授	メンタルヘルス（A）	2
	佐藤　哲観	講師	人間の尊厳 C	6
09年度	石原　弘規	准教授	メンタルヘルス	2時間

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	廣田　和美	教授	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年次 4年次 2年次	4時間 2時間 2時間
	石原　弘規	准教授	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間
	櫛方　哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語	4年次 4年次	2時間 14時間
	佐藤　哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展臨床医学Ⅱ 東洋医学 医の原則Ⅱ	4年次 4年次 2年次	8時間 2時間 2時間 2時間
	北山　真任	助教	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間
09年度	廣田　和美	教授	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	4年次 学士3，4年次 2年次	4時間 1時間 2時間
	石原　弘規	准教授	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間
	櫛方　哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語Ⅲ	4年次 4年次	2時間 14時間
	佐藤　哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展臨床医学Ⅱ・東洋医学 医の原則Ⅱ	4年次 4年次 2年次	8時間 2時間 2時間
	北山　真任	助教	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	廣田　和美	教授	5，6年	200
	石原　弘規	准教授	5，6年	200
	櫛方　哲也	講師	5，6年	200
	佐藤　哲観	講師	5，6年	360
	木村　　太	助教	5，6年	40
	北山　真任	助教	5，6年	320
09年度	廣田　和美	教授	5，6年	200
	石原　弘規	准教授	5，6年	200
	櫛方　哲也	講師	5，6年	200
	佐藤　哲観	講師	5，6年	360
	木村　　太	助教	5，6年	40
	北山　真任	助教	5，6年	320

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	藤田　彩香	医員
	川口　陽子	医員
09年度	丹羽　英智	助教
	川口　陽子	医員

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	1名	佐藤　哲観
09年度	1名	佐藤　哲観

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	廣田　和美	教授	医学研究概論Ⅱ 麻酔・疼痛制御医学講義 集中治療医学講義	1年次 1年次 1年次	2時間
09年度	廣田　和美	教授	麻酔・疼痛制御医学講義 集中治療医学講義	1年次 1年次	30時間 30時間
	佐藤　哲観	講師	最新医学の動向	1，2年次	2時間

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	石原　弘規	准教授	集中治療医学実験実習 集中治療医学演習	2年次 1年次	
	櫛方　哲也	講師	麻酔・疼痛制御医学演習	1年次	
	佐藤　哲観	講師	麻酔・疼痛制御医学演習	1年次	
	工藤美穂子	助教	麻酔・疼痛制御医学実験実習	2年次	
	工藤　　剛	助教	麻酔・疼痛制御医学実験実習	2年次	
09年度	石原　弘規	准教授	集中治療医学実験実習	2年次	30時間
	坪　　敏仁	准教授	集中治療医学演習	1年次	15時間
	櫛方　哲也	講師	麻酔・疼痛制御医学実験実習	2年次	30時間
	佐藤　哲観	講師	麻酔・疼痛制御医学演習	1年次	15時間

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
09年度	廣田　和美	教授	学務委員会主催の FD 講演会

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	1 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
09年度	佐藤　哲観	講師	弘前市内開業医向け緩和ケア勉強会 青森鍼灸マッサージ師会講演会 青森県研修医セミナー	2時間 2時間 2時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	廣田　和美	教授	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	92％ 93％ 93％
	石原　弘規	准教授	基本的診療知識（外科系）	97％
	櫛方　哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語	96％
	佐藤　哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展臨床医学Ⅱ 東洋医学	95％
	北山　真任	助教	基本的診療知識（外科系）	94％
09年度	廣田　和美	教授	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	約98％ 100％ 約90％
	石原　弘規	准教授	基本的診療知識（外科系）	約97％
	櫛方　哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語Ⅲ	約96％ 約95％
	佐藤　哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展臨床医学Ⅱ・東洋医学 医の原則Ⅱ	約95％
	北山　真任	助教	基本的診療知識（外科系）	約97％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	廣田　和美	教授	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	3.7
	石原　弘規	准教授	基本的診療知識（外科系）	3.9
	櫛方　哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語	4.2
	佐藤　哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展臨床医学Ⅱ	4.6
	北山　真任	助教	基本的診療知識（外科系）	3.7

09年度	廣田　和美	教授	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	A：4.3　B：4.3
	石原　弘規	准教授	基本的診療知識（外科系）	A：3.4　B：3.5
	櫛方　哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語Ⅲ	A：3.8　B：3.8
	佐藤　哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展臨床医学Ⅱ・東洋医学 医の原則Ⅱ	A：4.8　B：4.7
	北山　真任	助教	基本的診療知識（外科系）	A：3.4　B：3.0

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習 （麻酔科）	5年			3.4	3.3

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習 （麻酔科）	5年			4.4	4.0

27. 脳神経外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ達成した

これから2年間の目標：

学生教育の充実及び，研修医教育，卒後専門医教育など臨床を介しての教育によりいっそう力を入れていく

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	中野　高広	講師	生活習慣と健康（M）	2
	嶋村　則人	講師	最新医学の現状（L）	6
	浅野研一郎	講師	最新医学の現状（M）	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	大熊　洋揮	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 神経と疾患	2 4 4	2 2 8
	中野　高広	講師	神経と疾患	4	4
	浅野研一郎	講師	神経と疾患	4	4
	嶋村　則人	講師	神経と疾患	4	4
	工藤香名江	助教	チュートリアル教育	3	8
	棟方　　聡	助教	チュートリアル教育	3	8
	奈良岡征都	助教	チュートリアル教育	3	16
09年度	大熊　洋揮	教授	発展現代医学Ⅱ 発展現代医学Ⅰ・Ⅱ 神経と疾患	2 学士 3・4 4	2 2 8
	中野　高広	講師	神経と疾患	4	4
	嶋村　則人	講師	神経と疾患	4	4
	浅野研一郎	講師	神経と疾患 内分泌・代謝と疾患	4 4	4 2

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	大熊　洋揮	教授	5	19週間
	中野　高広	講師	5	19週間
	浅野研一郎	講師	5	19週間
	嶋村　則人	講師	5	19週間
	工藤香名江	助教	5	19週間
	棟方　　聡	助教	5	10週間
	奈良岡征都	助教	5	19週間

09年度	大熊　洋揮	教授	5	18週
	中野　高広	講師	5	18週
	嶋村　則人	講師	5	18週
	浅野研一郎	講師	5	18週
	伊藤　勝博	助教	5	8週
	棟方　　聡	助教	5	18週
	工藤香名江	助教	5	18週

4）OSCE

	担当者名	職名
08年度	浅野研一郎	講師
09年度	浅野研一郎	講師

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	1名	工藤香名江
09年度	1名	棟方聡

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	浅野研一郎	講師	医学概論Ⅰ 最新医学の動向	1 1	2 1
	大熊　洋揮	教授	脳血管障害学講義	1	60
09年度	大熊　洋揮	教授	医学研究概論Ⅱ 脳血管障害学講義 膿腫洋学講義 機能的脳神経外科講義	1 1 1 1	2 60 60 60
	浅野研一郎	講師	最新医学の動向	1	1

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	嶋村　則人	講師	脳血管障害学実験実習 脳血管障害学演習	2 1	60 60
09年度	中野　高広	講師	機能的脳神経外科実験実習	2	60
	嶋村　則人	講師	脳血管障害学実験実習	2	60
	浅野研一郎	講師	脳腫瘍学実験実習	2	60

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	大熊　洋揮	教授	脳動脈瘤性くも膜下出血症例の治療におけるフリーラジカルスカベンジャー，エダラボンの効果について

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0名
09年度	0名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0名
09年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	中野　高広	講師	2 2	疾病論Ⅲ 脳神経外科学	2 4
	浅野研一郎	講師	2	脳神経外科学	6
	嶋村　則人	講師	2 2	疾病論Ⅲ 脳神経外科学	2 4
09年度	中野　高広	講師	2 2	疾病論Ⅲ 脳神経外科学	2 4
	嶋村　則人	講師	2 2	疾病論Ⅲ 脳神経外科学	2 4
	浅野研一郎	講師	2	脳神経外科学	6

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	大熊洋　揮	教授	神経と疾患	93%
	中野　高広	講師	神経と疾患	97%
	浅野研一郎	講師	神経と疾患	91%
	嶋村　則人	講師	神経と疾患	86%
09年度	大熊　洋揮	教授	神経と疾患	97%
	中野　高広	講師	神経と疾患	92%
	嶋村　則人	講師	神経と疾患	90%
	浅野研一郎	講師	神経と疾患	93%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	大熊　洋揮	教授	神経と疾患	4.4
	浅野研一郎	講師	神経と疾患	4.0
	嶋村　則人	講師	神経と疾患	4.2
09年度	大熊　洋揮	教授	神経と疾患	4.5
	中野　高広	講師	神経と疾患	3.1
	嶋村　則人	講師	神経と疾患	4.3
	浅野研一郎	講師	神経と疾患	4.0

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
脳神経外科学	5年次			4.1	3.6

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
臨床実習	5年次	90日	720時間		

28. 歯科口腔外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

木村　博人

○専門教育・大学院教育において講義・実習を積極的に担当する。
○講義・臨床実習における達成目標と評価方法の工夫を絶えず行う。
○講義内容に最新の情報を取り入れて，出席率の向上に努める。
○ＢＳＬにおける実習指導，研究室研修における研究指導を懇切丁寧に行う。
○医学科保健学科および他大学や県内の医療職教育施設における講義依頼に対し協力する。
○学位審査の機会があれば積極的に努める。
○医学部学生の課外活動の指導に努める。

達成度（　90　%）

小林　恒

○講義内容の見直しをはかり，最新の情報をふまえて，興味のわく講義内容とする。
○ BSL における実習指導を積極的に行う。

達成度（　80　%）

佐藤　寿

○共通教育，専門教育の担当時間内における内容の充実を図る。

達成度（　80　%）

成田　憲司

○基礎医学の知識に基づいた歯科口腔外科学の臨床教育を，わかりやすく行うこと。

達成度（　70　%）

榊　宏剛

○ BSL の指導を積極的に行う。

達成度（　80　%）

これから２年間の目標：

木村　博人

○医学科学生に対する講義・BSL にはこれまで以上に積極的に対応する。
○保健学科や学外講義も積極的に対応する。
○学位審査・課外活動などに対しても積極的に努める。

小林　恒

○講義内容の見直しをはかり，最新の情報をふまえて，興味のわく講義内容とする。
○ BSL における実習指導を積極的に行う。

佐藤　寿

○共通教育，専門教育の担当時間内における内容の充実を図る。

榊　宏剛

○ BSL，クリニカルクラークシップの教育および医員に対する手術指導，論文作成指導。

成田　憲司

○基礎医学の知識を臨床にわかりやすく反映すること。
○最新の情報を積極的に教育の場に取り入れること。
○反面，臨床実習に際しては地道さを重視すること。

久保田耕世

○ BSL の実習指導を積極的に行う。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	小林　　恒	准教授	最新医学の現状	6
09年度	木村　博人	教授	生活習慣と健康（L）	4

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	木村　博人	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 顎口腔と疾患	2年次 4年次 4年次	2 2 18
	小林　　恒	准教授	顎口腔と疾患	4年次	4
	佐藤　　寿	講師	チュートリアル	3年次	6
09年度	木村　博人	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 顎口腔と疾患	2年次 3年次学士・4年次学士 4年次	2 1 18
	小林　　恒	准教授	顎口腔と疾患	4年次	4
	榊　　宏剛	助教	チュートリアル	3年次	8
	久保田耕世	助教	チュートリアル	3年次	8

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	木村　博人	教授	5年次	114
	小林　　恒	准教授	5年次	171
	佐藤　　寿	講師	5年次	160
	成田　憲司	助教	5年次	150
	榊　　宏剛	助教	5年次	160
09年度	木村　博人	教授	5年次	114
	小林　　恒	准教授	5年次	171
	佐藤　　寿	講師	5年次	160
	成田　憲司	助教	5年次	150
	榊　　宏剛	助教	5年次	160
	久保田耕世	助教	5年次	150

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	小林　　恒	准教授
	佐藤　　寿	講師
09年度	小林　　恒	准教授
	佐藤　　寿	講師

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	木村　博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3年次	40
	小林　　恒	准教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍制御学	1～3年次	40
09年度	木村　博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3年次	40
	小林　　恒	准教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍制御学	1～3年次	40

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	木村　博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3年次	40
	小林　　恒	准教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍抑制学	1～3年次	40
	佐藤　　寿	講師	顎口腔機能再建学実験実習	1・2年次	2
09年度	木村　博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3年次	40
	小林　　恒	准教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍制御学	1～3年次	40
	成田　憲司	助教	顎口腔機能再建学実験実習	1・2年次	8
	榊　　宏剛	助教	顎口腔機能再建学実験実習	1・2年次	8

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	佐藤　　寿	講師	より良いBSLのために　当科での工夫
	榊　　宏剛	助教	より良いBSLのために　当科での工夫

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	5 名
09年度	4 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	木村　博人	教授	2年次	保健学科・疾病論Ⅱ	4
	小林　　恒	准教授	3年次	教育学部・臨床医学科Ⅲ-1	15
09年度	木村　博人	教授	2年次 1年次	保健学科：疾病論Ⅱ 医用システム開発マイスター養成塾	4 2
	小林　　恒	准教授	3年次 1年次	教育学部：臨床医学科Ⅲ-Ⅰ（歯科） 理学研究科：医療機器概論	15 2

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	木村　博人	非常勤講師	東北大学大学院歯学部：口腔病態外科学Ⅱ 城東学園：臨床歯科医学・口腔外科学 黒石高校：歯科学	2 20 6
		講師	弘前病院附属看護学校：成人看護方法論Ⅲ	6
	小林　　恒	非常勤講師	城東学園：臨床歯科医学・口腔外科学	4
	佐藤　　寿	非常勤講師	城東学園：臨床歯科医学・口腔外科学	2

09年度	木村　博人	非常勤講師	東北大学大学院歯学部：口腔機能形態学 城東学園：臨床歯科医学・口腔外科学 黒石高等学校看護科：歯科学	2 22 6
		講師	弘前病院附属看護学校：成人看護方法論Ⅲ（歯科）	6
	小林　　恒	非常勤講師	城東学園：臨床歯科医学・口腔外科学	4
	佐藤　　寿	非常勤講師	城東学園：臨床歯科医学・口腔外科学	2

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	木村　博人	教授	顎口腔と疾患	97.6%
	小林　　恒	准教授	顎口腔と疾患	96.8%
09年度	木村　博人	教授	顎口腔と疾患	97.6%
	小林　　恒	准教授	顎口腔と疾患	96.8%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	木村　博人	教授	顎口腔と疾患	A：4.3
	小林　　恒	准教授	顎口腔と疾患	A：4.2
09年度	木村　博人	教授	顎口腔と疾患	4.4
	小林　　恒	准教授	顎口腔と疾患	3.7

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
歯科口腔外科学臨床実習	5年次	週5日×19週	760	4.0	3.9

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
歯科口腔外科学臨床実習	5年次	週5日×19週	760時間	4.8	4.8

29. 形成外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

新しい知見を取り入れて，講義を行った。目標はほぼ達成できたと思われる。

これから２年間の目標：

講義内容をその都度見直し，よりわかりやすい講義を行うようにする。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	横井　克憲	講師	最新医学の現状（N）	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	横井　克憲	講師	救急医学（形成担当） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） チュートリアル教育	4 2 4 3	4 2 2 8
	漆舘　聡志	助教	救急医学（形成担当）	4	4
	渡辺　庸介	助教	救急医学（形成担当）	4	2
	三上　　誠	助教	救急医学（形成担当）	4	2
09年度	横井　克憲	講師	発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系） 救急医学（形成担当）	2年次 学士3・4 4年次	2 1 6
	漆舘　聡志	助教	救急医学（形成担当）	4年次	4
	渡辺　庸介	助教	救急医学（形成担当）	4年次	2
	三上　　誠	助教	救急医学（形成担当）	4年次	4

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	横井　克憲	講師	5	19週
	漆舘　聡志	助教	5	19週
	渡辺　庸介	助教	5	19週
	三上　　誠	助教	5	19週
09年度	横井　克憲	講師	5年次・6年次	18週・12週
	漆舘　聡志	助教	5年次・6年次	18週・12週
	渡辺　庸介	助教	5年次・6年次	18週・12週
	三上　　誠	助教	5年次・6年次	18週・12週

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	漆舘　聡志	助教
	渡辺　庸介	助教
09年度	漆舘　聡志	助教
	渡辺　庸介	助教

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	横井　克憲	講師	再生医学医療セミナー		2

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
09年度	漆舘　聡志	助教	3年次	形成外科学	4

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	漆舘　聡志	助教	言語聴覚	4
09年度	漆舘　聡志	助教	形成外科学	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	横井　克憲	講師	救急医学（形成担当）	88.4％
	漆舘　聡志	助教		
	渡辺　庸介	助教		
	三上　　誠	助教		
09年度	横井　克憲	講師	救急医学（形成担当）	97.3％
	漆舘　聡志	助教		88.3％
	渡辺　庸介	助教		85.7％
	三上　　誠	助教		93.9％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	横井　克憲	講師	救急医学（形成担当）	4.3
	漆舘　聡志	助教		4.5
	渡辺　庸介	助教		4.3
	三上　　誠	助教		4.3
09年度	横井　克憲	講師	救急医学（形成担当）	4.7
	漆舘　聡志	助教		4.2
	渡辺　庸介	助教		なし
	三上　　誠	助教		3.6

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5	95日	950時間	4.2	4.2

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5・6年次	18週，12週		4.6	4.7

30. 救急・災害医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	浅利　　靖	教授	救急医学 加齢と侵襲 II	4年次 3年次	8 1
	大川　浩文	講師	加齢と侵襲 II	3年次	1

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数間
08年度	浅利　　靖	教授	5年・6年	114時間
	大川　浩文	講師	5年・6年	133時間
	安達　淳司	助教	5年・6年	95時間
	矢口　慎也	助教	5年・6年	95時間

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	浅利　　靖	教授
	大川　浩文	講師

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	浅利　　靖	教授	倫理的問題点		2

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	浅利　靖	教授	4年次救急医学 3年次加齢と侵襲II	80% 70%
	大川　浩文	講師	3年次加齢と侵襲II	70%

【学生による授業評価】

1）授業評価 該当なし。

2）専門教育の評価 該当なし。

31. 臨床検査医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

学生からの講義評価＞3.0および実習評価＞4.0を目指し，概ね達成できた。

これから２年間の目標：

学生からの講義評価＞3.0および実習評価＞4.0の獲得を目指す。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	保嶋　　実	教授	生活習慣と健康（L）	2
	杉本　一博	准教授	生活習慣と健康（M）	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	対象学年	年間担当時間数
08年度	保嶋　　実	教授	専門科目（臨床検査）	4年	12
	杉本　一博	准教授	専門科目（臨床検査）	4年	10
09年度	保嶋　　実	教授	発展現代医学Ⅰ（内科学） 臨床検査	2・4年生 4年生	3 12
	杉本　一博	准教授	臨床検査	4年生	10

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	保嶋　　実	教授	5年	57
	杉本　一博	准教授	5年 2年	57 6
09年度	保嶋　　実	教授	5年生	54
	杉本　一博	准教授	2年生 5年生	10 54

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	1名	保嶋　　実，杉本　一博
09年度	1名	杉本　一博，保嶋　　実

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	保嶋　　実	教授	分子遺伝検査学 病態検査学	1年 1年	270 270
09年度	保嶋　　実	教授	分子遺伝検査学	1年	270

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	杉本　一博	准教授	分子遺伝検査学 病態検査学	1年 2年	270 270

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
09年度	杉本　一博	准教授	医師臨床研修移動医ワークショップ

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	1 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	保嶋　　実	教授	2，4年	検査管理総論	6
09年度	保嶋　　実	教授	2，4年	検査管理総論	6

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	保嶋　　実	教授	臨床検査診断学通論	2
09年度	保嶋　　実	教授	臨床検査診断学通論	2
	杉本　一博	准教授	医学概論	8

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
08年度	保嶋　　実	教授	専門科目（臨床検査）	90%
09年度	保嶋　　実	教授	臨床検査	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
08年度	保嶋　　実	教授	専門科目（臨床検査）	3.5
	杉本　一博	准教授	専門科目（臨床検査）	3.5
09年度	保嶋　　実	教授	臨床検査	（A）3.7，（B）3.4
	杉本　一博	准教授	臨床検査	（A）3.7，（B）3.5

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5年生	19週	380	3.9	3.6

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5年生	2.5日×18週＝45日	333	3.4	3.5

32. 臨床薬理学講座　（資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

2）実習

【学部教育】

1）講義

2）基礎実習

3）臨床実習

4）ＯＳＣＥ

【研究室研修】

【大学院】

1）講義

2）実習

3）学位論文

【ファカルティ・ディベロップメント】

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	
09年度	

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	
09年度	

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

【他大学・他施設における講義】

【学生授業出席率】

【学生による授業評価】

1）授業評価

2）専門教育の評価

33. 小児外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1）専門教育科目の講義では学生が理解できるように改革した。結果的に出席率の向上につながった

2）学生のアンケートを基に BSL を改変した。学生の評価も良好でクリニカルクラークシップの希望者も多かった。

これから２年間の目標：

1）専門教育では可能な限り講義と実習を担当する。

2）講義の内容には最新の話題を加え，理解しやすいように工夫する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	須貝　道博	講師	最新医学の現状	3回
09年度	須貝　道博	講師	最新医学の現状	3回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	棟方　博文	教授	系統別講義（成長発達）	4年	10回
	須貝　道博	講師	基本的診察知識	4年	1回
09年度	棟方　博文	教授	系統別講義（成長発達系） 発展現代医学	4年 2年	10回 1回
	須貝　道博	講師	基本的診察知識	4年	1回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	棟方　博文	教授	5，6年	18回
	須貝　道博	講師	5，6年	18回
09年度	棟方　博文	教授	5年，6年	18回
	須貝　道博	講師	5年，6年	18回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	須貝　道博	講師
09年度	須貝　道博	講師

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	棟方　博文	教授	生命科学倫理学	1，2年	13回
	須貝　道博	講師	小児固形腫瘍	1，2年	1回
09年度	棟方　博文	教授	生命科学倫理学	1，2年	13回
	須貝　道博	講師	小児固形腫瘍	1，2年	1回

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	3 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	棟方　博文	教授		3回
09年度	棟方　博文	教授		3回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	棟方　博文	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 小児疾患・成長と発達	90% 85%
	須貝　道博	講師	基本的診察知識	70%
09年度	棟方　博文	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 小児疾患・成長と発達	90% 85%
	須貝　道博	講師	基本的診察知識	75%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	棟方　博文	教授	小児疾患・成長と発達	
	須貝　道博	講師	基本的診察知識	
09年度	棟方　博文	教授	小児疾患・成長と発達	A：4.7　B：4.8
	須貝　道博	講師	基本的診察知識	

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 ～ 6年	36日	288時間		

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 ～ 6年	36日	288時間	4.4	4.5

34. 医学医療情報学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	松谷　秀哉	講師	物理学の基礎 II	30
09年度	佐々木賀広	准教授	最新医学の現状（L）	6

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	松谷　秀哉	講師	基礎科学実験（物理） 情報 I 情報 II	78 30 30
09年度	松谷　秀哉	講師	自然系基礎　基礎科学実験（物理） 情報系基礎　情報 I 情報系基礎　情報 II 自然系基礎　物理学の基礎 II（B）	78 30 30 30

【学部教育】

1）講義　　該当なし。

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	松谷　秀哉	講師	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2	48
09年度	松谷　秀哉	講師	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2	48

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	佐々木賀広	准教授	医学科5年	20
	松谷　秀哉	講師	医学科5年	30
09年度	佐々木賀広	准教授	医学科5年次	20
	松谷　秀哉	講師	医学科5年次	36

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義　　該当なし。

2）実習　　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
09年度	佐々木賀広		大学院教育 FD「大学院生の研究力の向上のために」（平成22年3月3日　若林孝一教授）
	羽田　隆吉		

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	松谷　秀哉	講師	3	医療情報学	8
			3	医用情報学演習	20
			2	医用情報機器工学	14
			2	医用情報機器工学実習	30
09年度	松谷　秀哉	講師	3	医療情報学	8
			3	医用情報学演習	20
			2	医用情報機器工学	14
			2	医用情報機器工学実習	30
	佐々木賀広	准教授	受講生	医療機器概論（平成21年度　アドバンストコース）	2

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	羽田　隆吉	非常勤講師	臨床英語（2年次学生）（国立弘前病院附属看護学校）	30
09年度	羽田　隆吉	非常勤講師	臨床英語（2年次学生）（国立弘前病院附属看護学校）	30

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	松谷　秀哉	講師	情報 I	80%
			情報 II	65%
			基礎科学実験（物理）	100%
			統合基礎医学実習 A	95%
			医療情報学	90%
			医用情報学演習	95%
			医用情報機器工学	95%
			医用情報機器工学実習	95%
09年度	松谷　秀哉	講師	情報 I	80%
			情報 II	65%
			基礎科学実験（物理）	100%
			統合基礎医学実習 A	95%
			医療情報学	90%
			医用情報学演習	95%
			医用情報機器工学	95%
			医用情報機器工学実習	95%
			物理学の基礎 II（B）	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
09年度	松谷　秀哉	講師	情報Ⅰ	3.6
			情報Ⅱ	3.8
			医用情報学演習	3.2
			医用情報機器工学	3.4
			医用情報機器工学実習	3.0
			物理学の基礎Ⅱ（B）	3.7

2）専門教育の評価

該当なし。

35. 総合診療医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
クリニカル・クラークシップの充実　70 %

これから２年間の目標：
学習者の主体性を尊重し，価値ある気づきを促進させることにより，医師としてのプロフェッショナリズムを涵養する教育を行う。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	加藤　博之	教授	人間の尊厳（C）	6
	大沢　　弘	講師	生活習慣と健康（1）	6
09年度	加藤　博之	教授	人間の尊厳（C）	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	加藤　博之	教授	症候・病態からのアプローチ	3年次	28
			Pre BSL	4年次	42
			チュートリアル教育	3年次	8
			チュートリアル教育（学生チューターの指導）	3(6)年次	14
	大沢　　弘	講師	系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患）	4年次	10
			Pre BSL	4年次	30
			国試対策セミナー	6年次	2
	大串　和久	講師	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理）	3年次	2
			侵襲と加齢Ⅱ（2）	3年次	2
09年度	加藤　博之	教授	臨床医学入門	1年次	24
			症候・病態からのアプローチ	3年次	28
			チュートリアル教育	3年次	8
			チュートリアル教育（学生チューターの指導）	3(6)年次	12
			侵襲と加齢Ⅱ（2）	3年次	2
			Pre BSL	4年次	42
			後期 OSCE	6年次	6
			国試対策セミナー	6年次	2
	大沢　　弘	講師	系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患）	4年次	10
			Pre BSL	4年次	32
			国試対策セミナー	6年次	2

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	加藤　博之	教授	5年次（BSL） 6年次（クリクラ）	192 160
	大沢　　弘	講師	5年次（BSL） 6年次（クリクラ）	192 160
	大串　和久	講師	5年次（BSL） 6年次（クリクラ）	192 160

09年度	加藤　博之	教授	5年次（BSL） 6年次（クリクラ）	192 160
	大沢　　弘	講師	5年次 (BSL) 6年次（クリクラ）	192 160

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	加糖　博之	教授
	大沢　　弘	講師
	大串　和久	講師
09年度	加藤　博之	教授
	大沢　　弘	講師

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	加藤　博之	教授	地域医療教育 FD 講演会　第1回　平成21年1月30日 地域医療教育 FD 講演会　第2回　平成21年2月10日 AO 入試ワークショップ FD　第1回　平成20年12月4日 AO 入試ワークショップ FD　第２回　平成20年12月11日
	大沢　　弘	講師	第1回および第2回臨床実習ファカルティディベロップメント（BSL-FD）平成20年7月21日，10月16日 平成20年度弘前大学 FD 講演会　平成20年11月26日 AO 入試ワークショップ FD　平成20年12月11日
	大串　和久	講師	第1回および第2回臨床実習ファカルティディベロップメント（BSL-FD）平成20年7月21日，10月16日 平成20年度弘前大学 FD 講演会　平成20年11月26日 AO 入試ワークショップ FD　平成20年12月11日
09年度	加藤　博之	教授	AO 入試ワークショップ FD　第1回　平成21年11月30日 AO 入試ワークショップ FD　第2回　平成21年12月8日
	大沢　　弘	講師	日本内科学会第1回 ICLS 指導者養成ワークショップ（4月12日） 平成21年度大学院教育 FD（7月15日） 弘前大学医学部附属病院緩和ケア講習会（11月11・12日） AO 入試ワークショップ FD　第2回　平成21年12月8日 日本内科学会第1回内科救急指導者養成ワークショップ　（2月20日）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	加藤　博之	教授	佐賀大学医学部救急医学 秋田大学医学部救急医学 青森県立保健大学救急認定看護師教育課程 青森県看護協会訪問看護師養成講習会	1 4 4 4
09年度	加藤　博之	教授	佐賀大学医学部救急医学 秋田大学医学部救急医学 青森県立保健大学救急認定看護師教育課程 青森県看護協会訪問看護師養成講習会	1 4 4 4
	大沢　　弘	講師	共用試験 OSCE 外部評価	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	加藤　博之	教授	症候・病態からのアプローチ Pre BSL チュートリアル教育 チュートリアル教育（学生チューターの指導）	60% 100% 100% 100%
	大沢　　弘	講師	系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患）	70%
	大串　和久	講師	基本的診療知識（3年次）	80%
09年度	加藤　博之	教授	臨床医学入門 症候・病態からのアプローチ Pre BSL チュートリアル教育 チュートリアル教育（学生チューターの指導） 侵襲と加齢Ⅱ（2） 後期 OSCE 国試対策セミナー	90% 60% 100% 100% 100% 60% 100% 60%
	大沢　　弘	講師	系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患） 国試対策セミナー	70% 70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	加藤　博之	教授	症候・病態からのアプローチ	A 4.6　B 4.6
	大沢　　弘	講師	系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患）	A 4.3　B 4.2
	大串　和久	講師	基本的診療知識（3年次）	A 3.5　B 3.2
09年度	加藤　博之	教授	症候・病態からのアプローチ	A 4.6　B 4.7
	大沢　　弘	講師	系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患）	A 4.4　B 4.5

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	38	228	4.7	4.3

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	36	192	4.8	4.4

36. 薬剤学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

パワーポイントならびにその印刷物を使用し講義内容の理解度の向上を図ることができた。

これから２年間の目標：

医学部学生および大学院生の講義ならびに実習において絶えず新しい内容を加えつつ前期の目標を周到し講義内容の向上を図る。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	早狩　　誠	教授	薬物療法の基本原理 医療リスクマネージメント	4年次 4年次	4コマ 1コマ
09年度	早狩　　誠	教授	チュートリアル 侵襲と加齢Ⅱ（2） 薬物療法の基本原理（薬理学各論） 医療リスクマネジメント 臨床薬理学	3年次 3年次 4年次 4年次 4年次	8時間 2時間 8時間 2時間 4時間

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	下山　律子	薬剤師	2年次	13コマ
09年度	下山　律子	主任	2年次	52時間

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	1名	早狩　　誠
09年度	1名	早狩　　誠

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	早狩　　誠	教授	薬毒物分析学 抗がん剤感受性試験	2年次 2年次	
09年度	早狩　　誠	教授	医学研究概論Ⅱ 薬毒物分析学 プロテオソーム解析学	1年次後期 2年次前後期 2年次前後期	2時間

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	早狩　　誠	教授	薬毒物分析学実習 抗がん剤感受性試験実習	2年次 2年次	
09年度	早狩　　誠	教授	生体内薬毒物分析学 薬毒物分析学実験実習 プロテオソーム解析学実験実習	特定なし 2年次前後期 2年次前後期	

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　　目　　名	年間担当時間数
08年度	早狩　　誠	教授	薬理学（青森保健大学）	14時間
09年度	早狩　　誠	教授	薬理学（青森保健大学） 病院薬学（東北大学薬学部）	14時間 4時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
08年度	早狩　　誠	教授	薬物療法の基本原理 医療リスクマネージメント	90% 90%
09年度	早狩　　誠	教授	チュートリアル 侵襲と加齢Ⅱ（2） 薬物療法の基本原理（薬理学各論） 医療リスクマネジメント 臨床薬理学	100% 90% 85% 90% 85%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
08年度	早狩　　誠	教授	薬物療法の基本原理 医療リスクマネージメント	4.0
09年度	早狩　　誠	教授	薬物療法の基本原理（薬理学各論） 医療リスクマネジメント	3.3 3.7

2）専門教育の評価　　該当なし。

37. 脳神経病理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

現在，発展生命科学Ⅰ（3年次），病理と病態（3年次），発展生命科学Ⅲ（3年次），発展生命科学Ⅱ（4年次），応用病理（4年次）の中で脳神経系に関する講義・実習を担当しており，設定した目標は充分達成されたものと考える。

これから２年間の目標：

専門性を発揮し，講義・実習に参加してゆく。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	若林　孝一	教授	基礎ゼミナール	10
	森　　文秋	准教授	基礎ゼミナール	10
09年度	若林　孝一	教授	基礎ゼミナール	10
	森　　文秋	准教授	基礎ゼミナール	10

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ	1年次	30
			基礎人体科学演習	1年次	10
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年次	14
			発展生命科学Ⅲ	3年次	4
			病理と病態	3年次	2
			チュートリアル	3年次	16
			研究室研修	3年次	30
			応用病理	4年次	2
	森　　文秋	准教授	基礎人体科学演習	1年次	2
			チュートリアル	3年次	16
			研究室研修	3年次	90
	丹治　邦和	助教	チュートリアル	3年次	16
			研究室研修	3年次	90
09年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ	1年次	30
			基礎人体科学演習	1年次	10
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年次	10
			発展生命科学Ⅲ	3年次	4
			病理と病態	3年次	2
			チュートリアル	3年次	16
			研究室研修	3年次	30
			応用病理	4年次	2
			発展生命科学Ⅱ	4年次	2
	森　　文秋	准教授	基礎人体科学演習	1年次	2
			チュートリアル	3年次	16
			研究室研修	3年次	90
	丹治　邦和	助教	チュートリアル	3年次	16
			研究室研修	3年次	90

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	若林　孝一	教授	脳解剖学実習 人体の病理と病態実習	3年次 3年次	15 18
	森　　文秋	准教授	脳解剖学実習 人体の病理と病態実習	3年次 3年次	15 18
	丹治　邦和	助教	人体の病理と病態実習	3年次	12
09年度	若林　孝一	教授	脳解剖学実習 人体の病理と病態実習	3年次 3年次	15 18
	森　　文秋	准教授	脳解剖学実習 人体の病理と病態実習	3年次 3年次	15 18
	丹治　邦和	助教	人体の病理と病態実習	3年次	12

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
08年度	2名	丹治　邦和，森　　文秋，若林　孝一
09年度	2名	丹治　邦和，森　　文秋，若林　孝一

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	若林　孝一	教授	病態神経科学講義 神経病理学講義 分子病態学講義 共通科目	1年次 1年次 1年次 1－2年次	60 60 60 2
	森　　文秋	准教授	神経科学研究セミナー	1－2年次	2
	丹治　邦和	助教	神経科学研究セミナー	1－2年次	2
09年度	若林　孝一	教授	病態神経科学講義 神経病理学講義 分子病態学講義 共通科目	1年次 1年次 1年次 1－2年次	60 60 60 2
	森　　文秋	准教授	神経科学研究セミナー	1－2年次	2
	丹治　邦和	助教	神経科学研究セミナー	1－2年次	2

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	森　　文秋	准教授	病態神経科学演習 病態神経科学実験実習 神経病理学演習 神経病理学実験実習 分子病態学演習 分子病態学実験実習	1年次 1年次 1年次 1年次 1年次 1年次	30 60 30 60 30 60
09年度	森　　文秋	准教授	病態神経科学演習 病態神経科学実験実習 神経病理学演習 神経病理学実験実習 分子病態学演習 分子病態学実験実習	1年次 1年次 1年次 1年次 1年次 1年次	30 60 30 60 30 60

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	若林　孝一	教授	TDP-43-immunoreactive neuronal and glial inclusions in the neostriatum in amyotrophic lateral sclerosis with and without dementia

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　称　等
08年度	若林　孝一	教授	平成20年度大学院教育 FD
09年度	若林　孝一	教授	平成21年度大学院教育 FD
	森　　文秋	准教授	平成21年度大学院教育 FD

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	若林　孝一	教授	神経病理学講義（秋田大学）	8

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	若林　孝一	教授	医の原則 I	95-100%
			基礎人体科学演習	95-100%
			発展生命科学 I：脳の科学	95-100%
			発展生命科学 III	95-100%
			病理と病態	95-100%
			チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%
			応用病理	95-100%
	森　　文秋	准教授	基礎人体科学演習	95-100%
			チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%
	丹治　邦和	助教	チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%
09年度	若林　孝一	教授	医の原則 I	95-100%
			基礎人体科学演習	95-100%
			発展生命科学 I：脳の科学	95-100%
			発展生命科学 III	95-100%
			病理と病態	95-100%
			チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%
			応用病理	95-100%
			発展生命科学 II	95-100%
	森　　文秋	准教授	基礎人体科学演習	95-100%
			チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%
	丹治　邦和	助教	チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	若林　孝一	教授	発展生命科学Ⅰ	A：4.7，B：4.7
	森　　文秋	准教授	発展生命科学Ⅰ	A：3.9，B：3.8
09年度	若林　孝一	教授	発展生命科学Ⅰ	A：4.6，B：4.7
	森　　文秋	准教授	発展生命科学Ⅰ	A：3.9，B：3.7

2）専門教育の評価　該当なし。

38. 脳血管病態学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

100％

これから２年間の目標：

与えられる教育活動の機会を積極的に担当する。また，方法，内容について常に見直す。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	吉田　秀見	講師	生物学の基礎 II（A）	10
09年度	佐藤　　敬	教授	基礎ゼミナール	15
	吉田　秀見	講師	生物学の基礎 II（A）	10

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	吉田　秀見	講師	基礎科学実験（化学）	18
	今泉　忠淳	助教	基礎科学実験（生物）	18
	松宮　朋穂	助教	基礎科学実験（生物）	18
09年度	吉田　秀見	講師	基礎科学実験（化学）	18
	今泉　忠淳	助教	基礎科学実験（生物）	18
	松宮　朋穂	助教	基礎科学実験（生物）	18

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	佐藤　　敬	教授	発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年	2
	吉田　秀見	講師	医の原則 I	1年	2
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年	2
			チュートリアル教育	3年	8
	今泉　忠淳	助教	チュートリアル	3年	12
			発展生命科学 I：脳の科学	3年	2
	松宮　朋穂	助教	チュートリアル	3年	16
09年度	佐藤　　敬	教授	基礎人体科学演習	1年	30
			臨床医学入門	1年	2
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年	2
	吉田　秀見	講師	医の原則 I	1年	4
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年	2
			チュートリアル教育	3年	14
	今泉　忠淳	助教	基礎人体科学演習	1年	4
			チュートリアル	3年	12
			発展生命科学 I：脳の科学	3年	2
			発展生命科学 II:	4年	2
	松宮　朋穂	助教	チュートリアル	3年	16

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	3名	吉田　秀見，今泉　忠淳，松宮　朋穂
09年度	1名	吉田　秀見
	1名	今泉　忠淳
	2名	松宮　朋穂

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	吉田　秀見	講師	神経科学研究セミナー	1～3年	2
	今泉　忠淳	助教	神経科学研究セミナー	1～3年	2
09年度	吉田　秀見	講師	神経科学研究セミナー	1～3年	2
	今泉　忠淳	助教	神経科学研究セミナー	1～3年	2

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
09年度	松宮　朋穂 今泉　忠淳 吉田　秀見 佐藤　　敬	助教 助教 講師 教授	Interferon-α2b induces $p21^{cip1/waf1}$ degradation and cell proliferation in HeLa cells

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	佐藤　　敬	教授	2008弘前大学 FD 講演会（2008.11.26） 医学部 FD「よりよい BSL のために」（2008.7.17） 医学部 FD「よりよい BSL のために」（2008.10.16）
	吉田　秀見	講師	FD プロジェクト 2008弘前大学 FD 講演会（講演：Dr. Lynn Talor，土持ゲーリー法一教授，鬼島宏教授）2008.11.26（水）14：30～17：30＠みちのくホール
	今泉　忠淳	助教	FD 講演会・がんプロフェッショナル養成プラン
09年度	佐藤　　敬	教授	・弘前大学 FD 講演会（2009.11.25） ・医学部医学科 FD 講演会（2009.7.15） ・医学研究科大学院教育 FD (2010.3.3)
	吉田　秀見	講師	医学科 FD 講演会（講演：アバディーン大学 Drs. Alan Thompson and Jennifar Cleland） 2009.7.15（水）16：30～18：30＠ MCC
	今泉　忠淳	助教	・医学部医学科 FD 講演会（2009.7.15） ・医学研究科大学院教育 FD（2010.3.3）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	1 名
09年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	今泉　忠淳	助教	放送大学	10
09年度	吉田　秀見	講師	①「傷害・疾病の理解」②「医学の基礎知識Ⅰ」東北女子短期大学（生活科1年）	16

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	佐藤　　敬	教授	発展生命科学Ⅰ：脳の科学	90％
	吉田　秀見	講師	生物学の基礎Ⅱ（A）（全学部1～4年） 基礎科学実験（化学 チュートリアル教育 医の原則Ⅰ（1年次） 発展生命科学Ⅰ：脳の科学	95% 100% 100% 98% 94%
	今泉　忠淳	助教	発展生命科学Ⅰ：脳の科学	90％
09年度	佐藤　　敬	教授	基礎人体科学演習 臨床医学入門 発展生命科学Ⅰ：脳の科学	98％ 95％ 95％
	吉田　秀見	講師	生物学の基礎Ⅱ（A） 基礎科学実験（化学） チュートリアル教育 医の原則Ⅰ 発展生命科学Ⅰ：脳の科学	97% 100% 100% 97% 97%
	今泉　忠淳	助教	発展生命科学Ⅰ：脳の科学	90％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	佐藤　　敬	教授	発展生命科学I: 脳の科学	4.1（A 4.2，B 4.0）
	吉田　秀見	講師	チュートリアル	3.9
	今泉　忠淳	助教	発展生命科学I: 脳の科学	3.3（A 3.4，B 3.2）
09年度	佐藤　　敬	教授	臨床医学入門	3.75（A 3.9，B 3.6）
	吉田　秀見	講師	発展生命科学Ⅰ：脳の科学	4.1（A 4.1，B 4.0）
	今泉　忠淳	助教	発展生命科学Ⅰ：脳の科学	4.15（A 4.2，B 4.1）

2）専門教育の評価　該当なし。

39. 脳神経生理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

教室に来て，実験に加わる学生もおり，到達度は 7 割程度

これから２年間の目標：

科学的，論理的思考を実践するための機会をできるだけ提供する。その上で研究マインドを持つ医師育成に役立てる。学生の向学心を刺激する教育の実践を目指す。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	上野　伸哉	教授	基礎ゼミナール	30
09年度	上野　伸哉	教授	基礎ゼミナール	60

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	上野　伸哉	教授	基礎科学実験（生物）	18
09年度	上野　伸哉	教授	基礎科学実験（生物）	18

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	上野　伸哉	教授	医学英語 II	2	30
			チュートリアル	3	14
			発展生命科学 I	3	6
	右田　啓介	助教	チュートリアル	3	8
	山田　順子	助教	チュートリアル	3	6
09年度	上野　伸哉	教授	医学英語 I	1	30
			チュートリアル	3	16
			発展生命科学 I	3	6
	右田　啓介	助教	チュートリアル	3	8
	山田　順子	助教	チュートリアル	3	8

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	上野　伸哉	教授	基礎人体科学演習	1	120
09年度	上野　伸哉	教授	基礎人体科学演習	1	120

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	2名	上野　伸哉，右田　啓介，山田　順子
09年度	1名	上野　伸哉，右田　啓介，山田　順子

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	右田　啓介	助教	医学研究概論（前期）	1～2	2
	山田　順子	助教	脳神経科学研究セミナー	1～2	2
09年度	上野　伸哉	教授	医学概論Ⅰ 神経生理学講義	1 1	2 30
	右田　啓介	助教	特別研究セミナー	1	2

2）実習　　該当なし。

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
08年度	上野　伸哉	教授	チュートリアル
09年度	上野　伸哉	教授	医学科チュートリアル

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	2 名
09年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	右田　啓介	助教	生 理	32
	山田　順子	助教	生 理	10
09年度	右田　啓介	助教	青森県ヘアアーチスト専門学校 黒石厚生病院附属看護学院	1日50分，4コマ，32日 1日90分，2コマ，15日
	山田　順子	講師	弘前ホスピタリティーアカデミー	1日90分，2コマ，12日

【学生授業出席率】　　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
09年度	上野　伸哉	教授	発展生命科学Ⅰ	3.5

2）専門教育の評価　　該当なし。

40. 脳神経内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

全国標準レベルの卒前，卒後，生涯教育システムを確立し，弘前大学医学部神経内科として発展の基盤を形成し，優秀な神経内科医の育成を目標としたが，神経内科専門医などの育成，神経内科医を目指す学生の増加が達成された。

これから２年間の目標：

全国レベルの神経内科専門医，神経内科学博士，関連病院研修や海外研修を通じて，優秀な神経内科医，研究者の育成を目標とする。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	瓦林　　毅	講師	最新医学の現状（L）	4
	渡辺　光法	助教	最新医学の現状（L）	2

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	東海林幹夫	教授	系統別講義（脳神経系） 系統別講義（加齢と侵襲） 基礎医学英語 II 現代発展医学 I	4年生 3年生 2年生 2年生	6 4 32 2
	瓦林　　毅	講師	系統別講義（脳神経系） 老年医学	4年生 3年生	4 2
	渡辺　光法	助教	系統別講義（神経と疾患）	4年生	2
09年度	東海林幹夫	教授	系統別講義（脳神経系） 系統別講義（加齢と侵襲） 症候と病歴聴取のポイント（1） 基礎医学英語 II	4年生 3年生 3年生 2年生	6 2 2 32
	松原　悦朗	准教授	系統別講義（脳神経系） 系統別講義（加齢と侵襲） 神経診察　症候と病歴聴取のポイント（1）（神経疾患）Pre BSL 講義 発展現代医学 I	4年生 3年生 4年生 学士	4 2 2 2
	瓦林　　毅	講師	系統別講義（脳神経系）	4年生	2
	渡辺　光法	助教	発展現代医学 I（内科系） 神経内科各論 8	2年生 4年生	2 2

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	対象学年	年間担当時間数
09年度	松原　悦朗	准教授	チュートリアル PBL チューター	3年生 3年生	8 6

3）臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
08年度	東海林幹夫	教授	5年生 6年生	300 92
	松原　悦朗	准教授	5年生	20
	瓦林　　毅	講師	5年生	87
	渡辺　光法	助教	5年生	730
09年度	東海林幹夫	教授	5年生 6年生	300 92
	松原　悦朗	准教授	5年生	40
	瓦林　　毅	講師	5年生	20
	渡辺　光法	助教	5年生	1,000

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	松原　悦朗	准教授
	瓦林　　毅	講師
	渡辺　光法	助教
09年度	松原　悦朗	准教授
	瓦林　　毅	講師
	渡辺　光法	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
08年度	2名	渡辺　光法
09年度	3名	東海林幹夫，松原　悦朗

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
08年度	東海林幹夫	教授	医学研究概論	大学院生	2
09年度	東海林幹夫	教授	医学概論 II	大学院生	2

2）実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
08年度	東海林幹夫	教授	実験と論文指導	大学院3年，2年	120
09年度	東海林幹夫	教授	実験と論文指導	大学院4年，3年	120

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
08年度	東海林幹夫	教授	医師臨床研修指導医ワークショップ
	瓦林　　毅	講師	医師臨床研修指導医ワークショップ
09年度	東海林幹夫	教授	平成21年度大学院教育 FD
	松原　悦朗	准教授	平成21年度弘前大学 FD ワークショップ

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	2 名
09年度	2 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	東海林幹夫	教授	脳神経内科学（北海道大学）	2
	瓦林　毅	講師	脳神経内科学（弘前市准看護学院）	2
09年度	東海林幹夫	非常勤講師	北海道大学4年生講義（認知症） 神経内科大学院生教室セミナー	2 2
	松原　悦朗	非常勤講師	特別講演会（アルツハイマー病の発症病態解明に向けて） 北海道大学薬学部3年生講義（高齢者に多い疾患　認知症）	2 2
	瓦林　毅	非常勤講師	弘前市医師会付属准看護学院講義（脳神経疾患）	4

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	東海林幹夫	教授	系統講義，脳神経系	95%
	瓦林　毅	講師	系統講義，脳神経系	93%
09年度	東海林幹夫	教授	系統講義，脳神経系	96%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	東海林幹夫	教授	系統講義，脳神経系	2.7
	瓦林　毅	講師	系統講義，脳神経系	4.1
09年度	東海林幹夫	教授	系統講義，脳神経系	3.2
	松原　悦朗	准教授	系統講義，脳神経系	未実施
	瓦林　毅	講師	系統講義，脳神経系	4.2
	渡辺　光法	助教	系統講義，脳神経系	4.5

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5年	一週間	40時間	4.2	

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5年生	1週間	40時間	4.7	

41. 分子生体防御学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

・大学院教育に関しては講義を可能なかぎり担当した。

・学部教育は可能な限り担当した。

・研究室研修の学部生や大学院生の研究活動を積極的にサポートした

これから２年間の目標：

・大学院教育において，講義を可能なかぎり担当する。

・研究室研修の学部生や大学院生の研究活動を積極的にサポートする。

・他研究室の大学院生とも積極的に共同研究を進める。

・チュートリアル等の学部学生の講義も可能な限り担当する。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	伊東　　健	教授	医学英語Ⅰ	22時間
09年度	伊東　　健	教授	医学英語Ⅰ	22時間

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	丸山　敦史	助教	基礎科学実験（化学）	18時間
	原田　伸彦	助教		

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	三村　純正	講師	チュートリアル	3年	10時間
	丸山　敦史	助教	チュートリアル	3年	10時間
	原田　伸彦	助教	チュートリアル	3年	10時間
	伊東　　健	教授	コア B-1 個体の構成と機能（5）物質と代謝	2年	12時間
09年度	伊東　　健	教授	コア B-1 個体の構成と機能（5）物質と代謝	2年	16時間
	丸山　敦史	助教	チュートリアル教育	3年	16時間
	原田　伸彦	助教	チュートリアル教育	3年	28時間

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	丸山　敦史	助教	統合基礎医学実習 A（生化学実習）酵素	2年	12時間
	三村　純正	講師			
	原田　伸彦	助教			
09年度	三村　純正	講師	統合基礎医学実習 A（生化学実習）酵素	2年次，3年次編入	10時間
	丸山　敦史	助教			
	原田　伸彦	助教			

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
08年度	1名	丸山　敦史
09年度	1名	伊東　　健，三村　純正，丸山　敦史，原田　伸彦

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
08年度	伊東　　健	教授	遺伝発生医学セミナー	1～3年	1.5時間
09年度	伊東　　健	教授	がんの生物学と生命倫理 医学概論Ⅰ	1年 1年	4時間 2時間

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
09年度	三村　純正	講師	弘前大学 FD ワークショップ

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科 目 名	年間担当時間数
08年度	三村　純正	講師	栄養代謝学	30時間
09年度	三村　純正	講師	栄養代謝学	30時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
09年度	伊東　　健	教授	コア B-1 個体の構成と機能（5）物質と代謝	93.5%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
08年度	伊東　　健	教授	コア B-1 個体の構成と機能（5）物質と代謝	
09年度	伊東　　健	教授	コア B-1 個体の構成と機能（5）物質と代謝	評価 A　3.5 評価 B　3.2

2）専門教育の評価　2008年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A（生化学実習） 酵素	2	2	12		

42. 糖鎖工学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

前回の目標は下記の通りである。

1. 21世紀，学部，大学院教育において，講義，実習を可能な限り担当する。
2. 実習，講義の内容と講義様式の改善を絶えず行う。
3. 助手および大学院生の研究指導を行う。

（達成度について）

ほぼ達成されたと思うが，2 については，さらに工夫が必要である。

これから２年間の目標：

1. 21世紀，学部，大学院教育において，講義，実習を可能な限り担当する。
2. 実習，講義の内容と講義様式の改善を絶えず行う。
3. 助教，助手および大学院生の研究指導を行う。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	柿崎　育子	准教授	基礎科学実験（化学）	18時間
09年度	柿崎　育子	准教授	基礎科学実験（化学）	18時間

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	遠藤　正彦	教授(併)	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	2年次・3年次学士	8時間
	柿崎　育子	准教授	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝 ・チュートリアル	2年次・3年次学士 3年次	6時間 6時間
	田所　友美	助教	・チュートリアル	3年次	6時間
09年度	遠藤　正彦	教授(併)	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	2年次・3年次学士	6時間
	柿崎　育子	准教授	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝 ・発展生命科学Ⅱ	2年次・3年次学士 4年次	8時間 2時間
	多田羅洋太	助教	・チュートリアル	3年次	8時間
	小泉　英誉	助手	・チュートリアル	3年次	8時間

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	柿崎　育子	准教授	統合基礎医学実習 A（生化学実習）	2年次・ 3年次学士	36時間
	田所　友美	助教			
09年度	柿崎　育子	准教授	統合基礎医学実習 A（生化学実習）	2年次・3年次学士	36時間
	多田羅洋太	助教			
	小泉　英誉	助手			

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
08年度	1名	柿崎　育子
09年度	1名	柿崎　育子，多田羅洋太

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
08年度	遠藤　正彦	教授(併)	Novel Products in Hyaluronan Digested by Bovine Testicular Hyaluronidase
09年度	遠藤　正彦	教授(併)	Analysis of function sugar chains of proteoglycans in the urine from women with osteoporosis.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
08年度	柿崎　育子	准教授	・平成20年度大学院教育 FD「北東北4大学がんプロフェッショナル養成プラン公開講演会」（平成20年4月24日実施） ・第5回（平成20年度）弘前大学 FD ワークショップ「単位の実質化を踏まえた能動的学習の促進」（平成20年6月21～22日実施）
09年度	柿崎　育子	准教授	・「入試面接のための FD」（2009年10月7日実施） ・「平成22年度 AO 入試ワークショップ FD」（2009年12月8日実施）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科 目 名	年間担当時間数
08年度	柿崎　育子	准教授	生化学（財団法人双仁会厚生病院附属看護学院）	16時間
09年度	柿崎　育子	准教授	生化学（財団法人双仁会厚生病院附属看護学院）	16時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
08年度	遠藤　正彦	教授(併)	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	95%
	柿崎　育子	准教授	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝 ・統合基礎医学実習 ・チュートリアル	95% 99% 95%
	田所　友美	助教	・チュートリアル	95%
09年度	遠藤　正彦	教授(併)	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	98%
	柿崎　育子	准教授	・コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝 ・統合基礎医学実習 A（生化学実習） ・発展生命科学Ⅱ	95% 99% 99%
	多田羅洋太	助教	・チュートリアル ・統合基礎医学実習 A（生化学実習）	99% 99%
	小泉　英誉	助手	・チュートリアル ・統合基礎医学実習 A（生化学実習）	99% 99%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	遠藤　正彦	教授(併)	コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	（A）4.0 （B）3.8
	柿崎　育子	准教授	コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	（A）4.2 （B）4.2
09年度	遠藤　正彦	教授（併）	コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	（A）3.9 （B）3.7
	柿崎　育子	准教授	コア B-1 個体の構成と機能（5）生体物質の代謝	（A）4.0 （B）3.9

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A（生化学実習）	2年次・3年次学士	8日	54時間	3.8	3.5

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A（生化学実習）	2年次・3年次学士	6日	36時間	3.2	3.7

43. 附属動物実験施設

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
実習，研究室研修において学生に対し適切な助言，指導ができたと考える，目標はほぼ到達できたと考える。

これから２年間の目標：
実習，研究室研修において適切な指導をするために，さらに知識・技術を高める。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	成田　浩司	助教	基礎科学実験（生物）	18
09年度	成田　浩司	助教	基礎科学実験	18

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	成田　浩司	助教	チュートリアル	3	8
09年度	成田　浩司	助教	チュートリアル	3	8

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	成田　浩司	助教	統合基礎医学実習 B	2	68
09年度	成田　浩司	助教	統合基礎医学実習 B	2	68

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	1名	成田　浩司
09年度	1名	成田　浩司

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	成田　浩司	非常勤講師	微生物学	30
09年度	成田　浩司	非常勤講師	微生物学	30

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	成田　浩司	助教	統合基礎医学実習 B	100％
09年度	成田　浩司	助教	統合基礎医学実習 B	100％

【学生による授業評価】

1）授業評価　該当なし。

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2年	12	68	4.3	4.1

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2年	12	68	4.3	4.2

44. 医学教育センター　（資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

2）実習

【学部教育】

1）講義

2）基礎実習

3）臨床実習

4）ＯＳＣＥ

【研究室研修】

【大学院】

1）講義

2）実習

3）学位論文

【ファカルティ・ディベロップメント】

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	
09年度	

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	
09年度	

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

【他大学・他施設における講義】

【学生授業出席率】

【学生による授業評価】

1）授業評価

2）専門教育の評価

45. 手術部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
安全教育は80％くらい到達できたと思われる。

これから２年間の目標：
引き続き OSCE における手術室での安全教育，外科手術における感染コントロールなどを教育してゆく。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	橋本　　浩	准教授	麻酔科医の仕事	6

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	橋本　　浩	准教授	臨床実地見学実習	26

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	橋本　　浩	准教授	手術室での実習と安全管理	5年	1.5
09年度	橋本　　浩	准教授	基本的診療知識	4	2

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	橋本　　浩	准教授	5，6年	1000
09年度	橋本　　浩	准教授	5，6年	720

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	橋本　　浩	准教授
09年度	橋本　　浩	准教授

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義　　該当なし。

2）実習　　該当なし。

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	橋本　浩	准教授	手術室における実習と安全管理	90%以上
09年度	橋本　浩	准教授	基本的診療知識	90%以上

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	橋本　浩	准教授	手術室における実習と安全管理	評価なし
09年度	橋本　浩	准教授	基本的診療知識	不明

2）専門教育の評価 該当なし。

46. 検査部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義　該当なし。

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	熊坂隆一郎	助教	5－6年生 2年生	19 x 1=19 1 x 7=7
09年度	村上　礼一	助教	2年生 5年生	14 54

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度				3.3

2）専門教育の評価

2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5年生	19週	19 x 5 x 4=380	3.9	3.6

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5年生	2.5日 x 18週 ＝45日	333	3.4	3.5

47. 放射線部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	青木　昌彦	准教授	放射線治療	4年	22時間

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	藤森　　明	診療放射線技師長	医学科2年次 保健学科3年次 保健学科4年次	26 225 225
09年度	青木　昌彦	准教授	5年	108時間
	藤森　　明	診療放射線技師長	医学科2年次 保健学科3年次 保健学科4年次	12日 20日 20日

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	青木　昌彦	准教授	平成21年度後期大学院講義	1・2年	2時間

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
09年度	青木　昌彦	准教授	呼吸同期 4D-CT を用いた肺癌定位放射線治療計画における 4 次元的線量計算の検討

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
09年度	青木　昌彦	准教授	保健学科4年	卒業論文指導	48時間

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
09年度	青木　昌彦	准教授	放射線治療	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
09年度	青木　昌彦	准教授	放射線治療	不明

2）専門教育の評価　該当なし。

48. 輸血部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

8 割程度は達成できた

これから２年間の目標：

1. 臨床血液学・輸血学に興味を持たせる講義や実習を計画・実行する
2. 血液学・輸血学を通して，一般臨床医学の考え方を学習させる

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	玉井　佳子	講師	最新医学の現状（M）	6時間

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	玉井　佳子	講師	血液（成人）と疾患	4年	20時間
			血液（成人）と疾患	3年	26時間
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	4年	2時間
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	2年	2時間
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	3年	2時間
			国試対策セミナー	6年	4時間
09年度	玉井　佳子	講師	血液（成人）と疾患	4年	20時間
			血液（成人）と疾患	3年	20時間
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	学士（3，4年）	1時間
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	3年	2時間
			国試対策セミナー	6年	4時間

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	玉井　佳子	講師	5年	輸血部247時間 消化器血液内科95時間
09年度	玉井　佳子	講師	5年	輸血部247時間 消化器血液内科95時間

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	玉井　佳子	講師	最新医学の動向		1時間
09年度	玉井　佳子	講師	最新医学の現状		1時間

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	玉井　佳子	講師	3年	医学部保健学科検査技術科臨地実習 （生理検査部門腹部超音波） （輸血学実習）	 14時間 21時間
09年度	玉井　佳子	講師	3年	医学部保健学科検査技術科講義（輸血・免疫学） 医学部保健学科検査技術科臨地実習（輸血学）	2時間 21時間

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	玉井　佳子	講師	血液学（秋田大学）	2時間
09年度	玉井　佳子	講師	血液学（秋田大学）	4時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	玉井　佳子	講師	血液（成人）と疾患（4年） 血液（成人）と疾患（3年） 発展現代医学Ⅰ（内科系）（4年） 発展現代医学Ⅰ（内科系）（2年） 侵襲と加齢Ⅰ（感染症）（3年） 国試対策セミナー（6年）	70% 70% 90% 90% 80% 70%
09年度	玉井　佳子	講師	血液（成人）と疾患 血液（成人）と疾患 発展現代医学Ⅰ（内科系） 侵襲と加齢Ⅰ（感染症） 国試対策セミナー	80% 80% 90% 90% 80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	玉井　佳子	講師	血液と疾患（3年後期） 血液と疾患（4年前期）	評価項目A　4.8 評価項目B　4.8 評価項目A　4.9 評価項目B　4.9
09年度	玉井　佳子	講師	血液（成人）と疾患（3年後期） 血液（成人）と疾患（4年前期）	 4.9

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価A	学生による評価B
輸血部BSL	5，6年	38日	247時間	不明（未着）	不明（未着）
消化器血液内科BSL	5，6年	190日	95時間	不明	不明

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
輸血部 消化器血液学講座	5年 5年	36日	輸血部247時間 消化器血液内科 95時間		

49. 集中治療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ達成した。

これから２年間の目標：

学生からの反応を大切にして講義に反映させる。

医学生の講義，臨床実習において，できるだけ分かりやすく教える。

臨床実習では，学生が自発的に参加，勉強できるよう実習内容を検討する。

卒後まで良いコミュニケーションをとれる教員－学生関係を構築できるよう努力する。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	坪　　敏仁	准教授	運動の科学	3

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	坪　　敏仁	准教授	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間
	橋場　英二	助教	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間
09年度	坪　　敏仁	准教授	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間
	橋場　英二	助教	基本的診療知識（外科系）	4年次	2時間

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	坪　　敏仁	准教授	5，6年	80
	吉田　　仁	助教	5，6年	1年間
	橋場　英二	助教	5，6年	300
09年度	坪　　敏仁	准教授	5，6年	80
	吉田　　仁	助教	5，6年	1年間
	橋場　英二	助教	5，6年	300

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義　　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	坪　　敏仁	准教授	集中治療医学演習 集中治療医学実験実習	1年次 2年次	

09年度	坪　　敏仁	准教授	集中治療医学演習 集中治療医学実験実習	1年次 2年次	

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	坪　　敏仁	准教授	基本的診療知識（外科系）	約94%
	橋場　英二	助教	基本的診療知識（外科系）	約94%
09年度	坪　　敏仁	准教授	基本的診療知識（外科系）	約98％
	橋場　英二	助教	基本的診療知識（外科系）	約98％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	坪　　敏仁	准教授	基本的診療知識（外科系）	3.1
	橋場　英二	助教	基本的診療知識（外科系）	3.1
09年度	坪　　敏仁	准教授	基本的診療知識（外科系）	A：3.8　B：3.6
	橋場　英二	助教	基本的診療知識（外科系）	A：3.9　B：4.0

2）専門教育の評価　2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5，6年次				

50. 周産母子センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

系統講義・臨床実習での学生指導は十分できている，OSCE，大学院講義も担当し，周産期医療を目指す学生が増えたことから到達度90％と判断する。

これから２年間の目標：

シミュレーター，ファントムを用いたより実践的な実習を取り入れ，よりいっそう周産期医療をめざす学生を増やすことを目標とする。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
09年度	尾崎　浩士	准教授	最新医学の現状Ｌ	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	尾崎　浩士	准教授	系統別講義　生殖系	4	12
	田中　幹二	講師	系統別講義　生殖系	4	10
09年度	尾崎　浩士	准教授	系統別講義　生殖系	4年	12
	田中　幹二	講師	系統別講義　生殖系	4年	10
	大谷　勝記	助教	小児疾患・成長と発達	4年	4
	宮本　慶一	助教	消化器と疾患 チュートリアル教育	3年 3年	2 2

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	尾崎　浩士	准教授	5年	40週
	田中　幹二	講師	5年	40週
09年度	尾崎　浩士	准教授	5年	40週
	田中　幹二	講師	5年	40週
	大谷　勝記	助教	5年	36
	宮本　慶一	助教	5年 4年	600 2

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
08年度	田中　幹二	講師
	大谷　勝記	助教
09年度	田中　幹二	講師
	大谷　勝記	助教

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
09年度	尾崎　浩士	准教授	産科学	1，2年	45時間
	田中　幹二	講師	産科学	1，2年	45時間

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	尾崎　浩士	准教授	3	周産期超音波検査	8
09年度	尾崎　浩士	非常勤講師	3	周産期超音波検査	8

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	尾崎　浩士	准教授	系統別講義　生殖系	70%
	田中　幹二	講師	系統別講義　生殖系	60%
09年度	尾崎　浩士	准教授	系統別講義　生殖系	70%
	田中　幹二	講師	系統別講義　生殖系	70%
	大谷　勝記	助教	小児疾患・成長と発達	80%
	宮本　慶一	助教	消化器と疾患	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	尾崎　浩士	准教授	系統別講義　生殖系	
	田中　幹二	講師	系統別講義　生殖系	
09年度	尾崎　浩士	准教授	系統別講義　生殖系	
	田中　幹二	講師	系統別講義　生殖系	
	大谷　勝記	助教	小児疾患・成長と発達	A：4.3，B：4.3
	宮本　慶一	助教	消化器と疾患	A：4.0，B：3.8

2）専門教育の評価　該当なし。

51. 病理部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

病院業務である病理診断学を通じて，卒前・卒後教育への参画を行うことを目標としている。学生実習において標本作製，迅速診断などを通して，病理部の重要性を十分認識させることができたが，臨床実習では十分には参画できなかった。一方，卒後研修医の指導と大学院生の研究指導は十分実行でき，特に指導した学位論文は誌上に公開された。

以上より，設定した目標に対する到達度は，80％と判断される。

これから２年間の目標：

前回の目標と同様で，病院業務である病理診断学を通じて，卒前・卒後教育への参加を積極的に行う。2008年 4 月から，病理部での 5 年次学生の臨床実習（BSL）を開始したので，教育のさらなる参画を進める。学生実習における病理部の重要性を病理診断，標本作製，迅速診断などで認識させる。卒後研修医の指導や大学院生などの研究指導をさらに充実させる。

以上のことを，目標としたい。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	鎌田　義正	准教授	基礎教育科目：生物学の基礎 II	10

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	鎌田　義正	准教授	人体の病理と病態	3年次	6

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	鎌田　義正	准教授	人体の病理と病態	3年次	8
09年度	鎌田　義正	准教授	人体の病理と病態実習	3年次	12

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
08年度	1名	鎌田　義正

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	鎌田　義正	准教授	衛生技術学科3年	病理部臨地実習	56
09年度	鎌田　義正	准教授	3年次	検査技術科学専攻臨地実習	56

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	鎌田　義正	准教授	人体の病理と病態	98％
09年度	鎌田　義正	准教授	人体の病理と病態実習	96％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	鎌田　義正	准教授	人体の病理と病態	3.5
09年度	鎌田　義正	准教授	人体の病理と病態実習	4.1

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5年次	18日	144時間	3・7	3.4

52. 光学医療診療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

自己免疫，腸管免疫について physiology と病態，治療を関連付ける分子病態・制御を中心的内容にする。

これから２年間の目標：

自己免疫，腸管免疫について physiology と病態，治療を関連付ける分子病態・制御と診断を中心的内容にする。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	石黒　　陽	准教授	最新医学の現状	6

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	石黒　　陽	准教授	侵襲と加齢Ⅱ	3年	10
09年度	石黒　　陽	准教授	加齢と侵襲Ⅱ（後期）	3	10

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	石黒　　陽	准教授	5年	190
09年度	石黒　　陽	准教授	5	190

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	石黒　　陽	准教授	大学院共通科目遺伝発生学セミナー	2年	2

2）実習　　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
08年度	石黒　　陽	准教授	Shogo Kawaguchi, Yoh Ishiguro, Tadaatsu Imaizumi, et al. Cyclosporine Regulates Intestinal Epithelial Apoptosis via TGF-{beta} Related Signaling. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-gamma-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. Immunol Letters 123(1) 9-13 2009
09年度	石黒　　陽	准教授	Satoh Y, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S, Nakane A. Cyclosporine regulates intestinal epithelial apoptosis via TGF-beta-related signaling. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 297(3) G514-9 2009

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	石黒　陽	准教授	侵襲と加齢Ⅱ	90％
09年度	石黒　陽	准教授	加齢と侵襲Ⅱ（後期）	50

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	石黒　陽	准教授	侵襲と加齢Ⅱ	（A）3.3　（B）3.2
09年度	石黒　陽	准教授	加齢と侵襲Ⅱ（後期）	5

2）専門教育の評価　2008年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年		190		

2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5		190	4.5	4.5

53. リハビリテーション部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
整形外科およびリハビリテーション医学の臨床教育を行いほぼ目標通り達成した

これから２年間の目標：
これまでの実績を総括し，さらに洗練する。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目　名	年間担当時間数
08年度	中村　吉秀	講師	最新医学の現状	4
	湯川　昌広	助教	最新医学の現状	4
09年度	湯川　昌広	助教	最新医学の現状：上肢の疾患・外傷治療の進歩	4

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	中村　吉秀	講師	外科基本診療 運動器疾患 外科基本診療	3 4 3	2 4 2
	湯川　昌広	助教	運動器疾患 チュートリアル	4 3	2 6
09年度	中村　吉秀	講師	系統別講義（運動器系） 基本的診療知識	4 3	4 2
	湯川　昌広	助教	系統別講義（運動器系） 基本的診療知識	4 3	4 2

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	中村　吉秀	講師	5 6	120 40
	湯川　昌広	助手	5 6	120 10
09年度	中村　吉秀	講師	5 6	240 170
	湯川　昌広	助手	5 6	240 10

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
09年度	湯川　昌広	助教

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
08年度	湯川　昌広	助教	3	筋電図検査	8
09年度	湯川　昌広	助教	3	筋電図検査	8

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度	中村　吉秀	講師	運動器と疾患	3.8
	湯川　昌広	助教	運動器と疾患	3.8

2）専門教育の評価　2009年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
整形外科リハビリ部 BSL	5	120 120	410 250		

54. 医療安全推進室

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ビジュアル機器の活用，レジメの配布，質問時間の設定などにより授業の双方向性も向上し，授業の理解度を深めることができた。

これから２年間の目標：
課題を与え研究結果の発表機会を設けるなど，学生の積極的な授業参加をさらに促進する。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
08年度	福井　康三	准教授	医療リスクマネジメント Pre BSL	4年次 4年次	10時間 2時間
09年度	福井　康三	准教授	医療リスクマネジメント Pre BSL	4年次 4年次	10時間 2時間

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	年間担当時間数
08年度	福井　康三	准教授	5年次	38週
09年度	福井　康三	准教授	5年次	38週

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
08年度	0 名
09年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	科　目　名	年間担当時間数
08年度	福井　康三	准教授	成人看護学	8時間
09年度	福井　康三	准教授	成人看護学	8時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
08年度	福井　康三	准教授	医療リスクマネジメント Pre BSL	99％ 100％
09年度	福井　康三	准教授	医療リスクマネジメント Pre BSL	98％ 100％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
08年度				未実施
09年度	福井　康三	准教授	医療リスクマネジメント	未実施

2）専門教育の評価　該当なし。

（別　表）

【医学部医学科学生について】

資料１　医学部前期・後期入学者の進級状況

	前　　期			後　　期		
入学年度	入学者数	留年数	退学者数	入学者数	留年数	退学者数
08年度	90	43	0	0	0	0
09年度	101	48	0	0	0	0

資料２　国際交流

国際交流として学部学生による外国の大学や施設での研修・実習，および海外からの学生の本学での研修が行われており，これらの活動については国際交流研究委員会が中心となって相手先との打合せや交流学生へ援助の決定などを行っている。一方，海外からの本学部への留学生については学務委員長を中心とする学務委員会が対応している。研究留学については研究科の項で言及する。

(1) 学部留学生

	留学生数	国　　籍	私費又は国費
08年度	0	―	―
09年度	0	―	―

(2) 姉妹校などの交流

1）テネシー大学メンフィス校との学生交流

本医学部は1978年12月14日に米国テネシー州メンフィスにあるテネシー大学保健学科センターと国際交流協定を結んでいる。この協定により，訪問交流の促進，医学教育･研究の情報交換，両大学の共同研究プロジェクトの推進，医学情報等の交換，それに学生・研究生・レジデントなどの相互交流が行われている。５・６年目の学部学生から毎年１～２名がメンフィスに派遣され，有意義な研修を行っている。しかし最近メンフィスから本学に研修に訪れる学生がおらず，相互交流という点で十分とはいえないのが現状である。

	派　　遣		受　　入	
	学生数	期　　間	学生数	期　　間
08年度	2	９／１～９／12	―	―
09年度	2	８／24～９／４	―	―

2）極東総合医科大学との交流

1995年12月14日にロシア国ハバロフスク医科大学と本学との間に学術交流に関する合意書と研究者及び学生交流に関する覚書が取り交わされ，平成８年度から毎年２名の学生の相互研修を行ってきている。なお，ハバロフスク医科大学は極東総合医科大学と改称され，国際交流の合意書の更新が2000年（平成12年９月17日）に行われた。今後は特に問題の生じない限り自動的に更新されることになった。

	派　　遣		受　　入	
	学生数	期　　間	学生数	期　　間
08年度	―	―	―	―
09年度	―	―	―	―

3）三沢米軍病院におけるエクスターンシップ

米軍三沢基地病院（第35医療大隊）の協力を得て，弘前大学医学部専門課程３，４次学生（新カリキュラムでは医学部５，６年生に相当）を対象として同病院における学生の研修受け入れが行われており，平成７年度から１～２名派遣している。アメリカの医療の実態を見学すると共に，アメリカ人医師から直接学習できるよい機会となっている

	派遣学生数	派　遣　期　間
08年度	6	１名＝７／21～７／31，２名＝８／４～８／13，１名＝８／20～８／28，１名＝8/18～8/29，１名＝8/24～8/29
09年度	3	１名＝７／20～７／29，１名＝７／25～８／１，１名＝８／23～９／４

医学部における学生の国際交流は全体として極めて活発とはいえないものの，これが現状で行える最大限ともいえる。その主な理由は国際間の大学における単位の相互互換ができないからである。第二に，カリキュラム日程の相違や，国際交流活動の主たる時期である夏季休業中に試験や東日本医科大学体育大会の組まれていることがあげられよう。第三に学生の意欲の問題である。積極的に海外に出かけ，海外の医学生がどのように勉強しているかに関心を寄せる学生がかつては少なかった。しかし，本学部における教育として医学英語に力を入れており，今後の国際交流が一層盛んになることを期待したい。

資料 3　日本学生支援機構奨学生

	学　生　数	奨　学　生　数		計	比　　率
		第一種	第二種		
08年度	588	74	137	211	35.8%
09年度	602	75	146	221	36.7%

資料 4　医学部（医学科）授業時間割

【平成20年度】

［1〜3年次］

［前　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 (8:40 〜 10:10)	3・4 (10:20 〜 11:50)	5・6 (12:40 〜 14:10)	7・8 (14:20 〜 15:50)	9・10 (16:00 〜 17:30)
月	1		医の原則Ⅰ（p.26）②	基礎人体科学演習（p.23）		（基礎ゼミナール）
	2	個体の構成と機能（p.34〜）／統合基礎医学実習A（p.76）				①
	3	チュートリアル（p.30）				
火	1	（英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ）	（情報処理演習）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2		発展現代医学Ⅰ（内科系）（p.71）②	基礎科学実験（物理・化学・生物）		
	3	発展生命科学Ⅰ（脳科学）／脳解剖学実習（p.66）			①	
水	1	（英語Ⅱ）	（多言語Ⅰ）			
	2			臨床実地見学実習（p.25）		
	3	症候・病態からのアプローチ（p.62）①	病理と病態（p.52）①	侵襲と加齢Ⅰ（p.58）①	発展生命科学Ⅲ（p.69）①	
木	1	（英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ）		（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2		発展現代医学Ⅱ（外科系）（p.73）②	基礎科学実験（物理・化学・生物）		
	3	基本的診療知識（p.63）①	病理と病態（p.52）①	病理学実習（p.84）		
金	1	（多言語Ⅰ）	（英語Ⅱ）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2	個体の構成と機能（p.34〜）／統合基礎医学実習A（p.76）				①
	3	チュートリアル（p.30）				

［後　期］

曜日・学年＼時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	1			基礎人体科学演習 (p.23)		医学英語Ⅰ A (p.18)① 医学英語Ⅰ B (p.19)②
	2	侵襲と生体応答 (p.44 ～)　①		人体解剖学実習 (p.80) ／組織学実習 (p.82)		
	3	チュートリアル (p.31)				
火	1		(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)
	2			人体解剖学実習 (p.80) ／組織学実習 (p.82)		
	3	循環器と疾患 (p.55) ○	消化器と疾患 (p.54) ○	研究室研修 (p.90)		
水	1	(英語Ⅱ)	(多言語Ⅰ)			
	2		医の原則Ⅱ (p.28) ①	人体解剖学実習 (p.80) ／組織学実習 (p.82)		
	3	内分泌・代謝と疾患 (p.56) ○	血液 (成人) と疾患 (p.57) ○	研究室研修 (p.90)		
木	1		(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)
	2	医学英語Ⅱ A (p.20)① 医学英語Ⅱ B (p.21)②	医用統計学 (p.22) コンピューター室	統合基礎医学実習 B (p.77)		
	3	侵襲と加齢Ⅱ (1) (p.59) ○	侵襲と加齢Ⅱ (2) (p.61) ／ 侵襲と加齢Ⅱ (2) (p.60) ○	研究室研修 (p.90)		
金	1	(多言語Ⅰ)	(英語Ⅱ)	(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)	(21 世紀教育科目)
	2	侵襲と生体応答 (p.44 ～)　①				
	3	チュートリアル (p.31)		病理学実習 (p.86)		

*「臨床医学入門実習（1 年次)」: 平成20年 9 月 3 日（水）～ 10日（水）に行う（p.24)。
**「臨床医学入門実習オリエンテーション」: 平成20年 9 月 1 日（月）に行う。
***「臨床医学入門実習反省会（1 年次)」: 平成20年 9 月12日（金）に行う。
［備考］
1．「21世紀教育科目」は総合教育棟、「専門科目」は医学部（医学科）校舎で行う。
2．担当教員は「平成20年度弘前大学医学部（医学科）授業計画〔シラバス〕」を参照のこと。
3．1,2年次「医学英語」のクラス分けは、掲示にて連絡する。
［医学科校舎］　①基礎第一講義室　　②基礎第二講義室　　○臨床小講義室　　◎臨床大講義室

［3 年次編入学生］

［前　期］

曜日・学年＼時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	3	（個体の構成と機能）(p.34 ～) ／ (統合基礎医学実習 A)(p.76) ①				
火	3	発展生命科学 I （脳科学）／脳解剖学実習 (p.66) ／ 社会医学実習 (p.88) ①				
水	3	症候・病態からのアプローチ (p.62) ①	病理と病態 (p.52) ①	侵襲と加齢 I (p.58) ①	発展生命科学III (p.69) ①	
木	3	基本的診療知識 (p.63) ①	病理と病態 (p.52) ①	病理学実習 (p.84)		
金	3	（個体の構成と機能）(p.34 ～) ／ (統合基礎医学実習 A)(p.76) ①				

［後　期］

曜日・学年＼時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	3	（侵襲と生体応答）(p.44 ～) ①		(人体解剖学実習 (p.80) ／組織学実習 (p.82))		
火	3	循環器と疾患 (p.55) ○	消化器と疾患 (p.54) ○	(人体解剖学実習 (p.80) ／組織学実習 (p.82))		
水	3	内分泌・代謝と疾患 (p.56) ○	血液（成人）と疾患 (p.57) ○	(人体解剖学実習 (p.80) ／組織学実習 (p.82))		
木	3	侵襲と加齢 II （1） (p.59) ○	侵襲と加齢 II（2）(p.61) ／侵襲と加齢 II（1） (p.60) ○	(統合基礎医学実習 B)(p.77)		
金	3	（侵襲と生体応答）(p.44 ～) ①		病 理 学 実 習 (p.86)		

［備考］

1．（　）で囲んだ授業は 2 年次開講科目であり，2 年次学生と一緒に受講することになる。

2．担当教員は「平成20年度弘前大学医学部（医学科）授業計画〔シラバス〕」を参照のこと。

［医学科校舎］　①基礎第一講義室　　②基礎第二講義室　　○臨床小講義室　　◎臨床大講義室

［4年以上］

［前　期］

曜日・学年		1・2（8:40 ～ 10:10）	3・4（10:20 ～ 11:50）	5・6（12:40 ～ 14:10）	7・8（14:20 ～ 15:50）	9・10（16:00 ～ 17:30）
月	4	呼吸器と疾患 ◎ (p.35)	消化器と疾患 ◎ (p.26)	循環器と疾患 ◎ (p.28)	感覚器と疾患 ◎ (p.44)	医学英語ⅢA (p.20) ① 医学英語ⅢB ②
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	臨床実習（クリニカル・クラークシップ）				
火	4	妊娠・分娩、女性生殖器と疾患 (p.42) ◎	神経と疾患 ◎ (p.37)	基本的診療知識 ◎ (p.69)	腎・尿路、男性生殖器と疾患 (p.39) ◎	放射線診断 ◎ (p.64)
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	臨床実習（クリニカル・クラークシップ）				
水	4	内分泌・代謝と疾患 ◎ (p.30)	発展現代医学Ⅰ ◎ (p.83)	健康医学 (p.75) ／発展臨床医学Ⅰ (p.80) ◎		
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	臨床実習（クリニカル・クラークシップ）				
木	4	精神と疾患 ◎ (p.48)	小児疾患・成長と発達 ◎ (p.51)	皮膚と疾患 ◎ (p.54)	発展臨床医学Ⅱ (p.82) ／基本的診療知識 (p.69) ◎	
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	臨床実習（クリニカル・クラークシップ）				
金	4		運動器と疾患 ◎ (p.56)	応用病理 ◎ (p.60)	血液（成人）と疾患 ◎ (p.34)	
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	臨床実習（クリニカル・クラークシップ）				

［後　期］

曜日・学年		1・2（8:40 ～ 10:10）	3・4（10:20 ～ 11:50）	5・6（12:40 ～ 14:10）	7・8（14:20 ～ 15:50）	9・10（16:00 ～ 17:30）
月	4	呼吸器と疾患 ◎ (p.36)	消化器と疾患 ◎ (p.27)	循環器と疾患 ◎ (p.29)	基本的診療知識 ◎ (p.72)	感覚器と疾患 ◎ (p.46)
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	総合試験				
火	4	妊娠・分娩、女性生殖器と疾患 (p.43) ◎	神経と疾患 ◎ (p.37)		腎・尿路、男性生殖器と疾患 (p.39) ◎	放射線治療 ◎ (p.65)
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	総合試験				
水	4		発展現代医学Ⅱ ◎ (p.85)	医療・リスクマネージメント (p.22) ◎		
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	総合試験				
木	4	精神と疾患 ◎ (p.48)	救急医学 ◎ (p.67,p.68)	臨床検査 ◎ (p.62)	顎口腔と疾患 ◎ (p.58)	
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	総合試験				
金	4	小児疾患・成長と発達 ◎ (p.53)	法と医療 ◎ (p.77)	臨床薬理学 ◎ (p.66)	内分泌・代謝と疾患 ◎ (p.32)	
	5	臨床実習Ⅰ				
	6	総合試験				

［備考］

1．担当教員は「平成20年度弘前大学医学部（医学科）授業計画〔シラバス〕」を参照のこと。

2．4年次前期「医学英語」のクラス分けは、掲示にて連絡する。

3．5年次の臨床実習Ⅰについては、別に配布する「臨床実習要綱」を参照のこと。

4．6年次の臨床実習（クリニカルクラークシップ）については、別に配布する「クリニカルクラークシップ実習指針」を参照のこと。

［医学科校舎］　①基礎第一講義室　　②基礎第二講義室　　○臨床小講義室　　◎臨床大講義室

【平成21年度】

［1～3年次］

［前　期］

曜日・学年		時限 1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	1	基礎人体科学演習 (p.28)		（基礎ゼミナール）	医の原則Ⅰ (p.24) ②	
	2	個体の構成と機能 (p.42～) ／ 統合基礎医学実習A (p.90) ①				
	3	チュートリアル (p.38)				
火	1		（情報Ⅰ）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2		発展現代医学Ⅰ（内科系） (p.81) ②	基礎科学実験（物理・化学・生物）		
	3	発展生命科学Ⅰ（脳科学） (p.76) ／ 脳解剖学実習 (p.103) ／ 社会医学実習 (p.104) ①				
水	1	（英語ⅡA）	（多言語Ⅰ）	臨床医学入門 (p.29)		
	2			臨床実地見学実習 (p.35)		
	3	症候・病態からのアプローチ (p.72) ①	病理と病態 (p.60) ①	侵襲と加齢Ⅰ (p.67) ①	発展生命科学Ⅲ (p.79) ①	
木	1	（英語Ⅲ）		（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2		発展現代医学Ⅱ（外科系） (p.83) ②	基礎科学実験（物理・化学・生物）		
	3	基本的診療知識 (p.73) ①	病理と病態 (p.60) ①	病理学実習 (p.99)		
金	1	（多言語Ⅰ）	（英語ⅡB）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2	個体の構成と機能 (p.42～) ／ 統合基礎医学実習A (p.90) ①				
	3	チュートリアル (p.38)				

［後　期］

曜日・学年		時限 1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	1	基礎人体科学演習 (p.28)				医学英語ⅠA (p.20) ① 医学英語ⅠB (p.21) ②
	2	侵襲と生体応答 (p.52～) ①		人体解剖学実習 (p.94)／組織学実習 (p.97)		
	3	チュートリアル (p.39)				
火	1		（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21 1 世紀教育科目）
	2			人体解剖学実習 (p.94)／組織学実習 (p.97)		
	3	循環器と疾患 (p.63) ○	消化器と疾患 (p.62) ○	研究室研修 (p.106)		
水	1	（英語ⅡA・Ⅲ）	（多言語Ⅰ）	臨床医学入門 (p.30)		
	2		医の原則Ⅱ (p.36) ①	人体解剖学実習 (p.94)／組織学実習 (p.97)		
	3	内分泌・代謝と疾患 (p.65) ○	血液(成人)と疾患 (p.66) ○	研究室研修 (p.106)		
木	1		（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2	医学英語ⅡA (p.32) ① 医学英語ⅡB (p.33) ②	医用統計学 (p.34) コンピューター室	統合基礎医学実習B (p.91)		
	3	侵襲と加齢Ⅱ(1) (p.69) ○	侵襲と加齢Ⅱ(2) (p.71)／侵襲と加齢Ⅱ(1) (p.70) ○	研究室研修 (p.106)		
金	1	（多言語Ⅰ）	（英語ⅡB）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）	（21世紀教育科目）
	2	侵襲と生体応答 (p.52～) ①				
	3	チュートリアル (p.39)		病理学実習 (p.101)		

［備考］

1．「21世紀教育科目」は総合教育棟、「専門科目」は医学部（医学科）校舎で行う。

2．担当教員は「平成21年度弘前大学医学部（医学科）授業計画〔シラバス〕」を参照のこと。

3．1，2年次「医学英語」のクラス分けは、掲示にて連絡する。

［医学科校舎］　①基礎第一講義室　　②基礎第二講義室　　○臨床小講義室　　◎臨床大講義室

［3 年次編入学生］

［前　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	3	（個体の構成と機能）(p.42 ～)／（統合基礎医学実習 A）(p.90)　①				
火	3	**発展生命科学 I （脳科学）(p.76)／脳解剖学実習 (p.103)／社会医学実習 (p.104)**　①				
水	3	**症候・病態からのアプローチ (p.72)** ①	**病理と病態 (p.60)** ①	**侵襲と加齢 I (p.67)** ①	**発展生命科学III (p.79)** ①	**発展現代医学 I ・ II (p.85)** ②
木	3	**基本的診療知識 (p.73)** ①	**病理と病態 (p.60)** ①	**病理学実習 (p.99)**		
金	3	（個体の構成と機能）(p.42 ～)／（統合基礎医学実習 A）(p.90)　①				

［後　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	3	（侵襲と生体応答）(p.52 ～)　①		（人体解剖学実習 (p.94)／組織学実習 (p.97)）		
火	3	**循環器と疾患 (p.63)** ○	**消化器と疾患 (p.62)** ○	（人体解剖学実習 (p.94)／組織学実習 (p.97)）		
水	3	**内分泌・代謝と疾患 (p.65)** ○	**血液（成人）と疾患 (p.66)** ○	（人体解剖学実習 (p.94)／組織学実習 (p.97)）		
木	3	**侵襲と加齢 II （1） (p.69)** ○	**侵襲と加齢 II (2) (p.71) ／侵襲と加齢 II (1) (p.70)** ○	（統合基礎医学実習 B）(p.91)		
金	3	（侵襲と生体応答）(p.52 ～)　①		**病　理　学　実　習 (p.101)**		

［備考］

1．（　）で囲んだ授業は 2 年次開講科目であり、2 年次学生と一緒に受講することになる。

2．前期水曜日 9・10時限開講の「発展現代医学 I ・ II」は、4 年次学士と一緒に受講する。

3．担当教員は「平成21年度弘前大学医学部（医学科）授業計画〔シラバス〕」を参照のこと。

［医学科校舎］　①基礎第一講義室　　②基礎第二講義室　　○臨床小講義室　　◎臨床大講義室

［4年次以上］

［前　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	4	呼吸器と疾患 ◎ (p.34)	消化器と疾患 ◎ (p.24)	循環器と疾患 ◎ (p.26)	感覚器と疾患 ◎ (p.43)	医学英語Ⅲ ◎ (p.18)
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	臨床実習Ⅱ（クリニカル・クラークシップ）(p.94) ／ 診療技能実習Ⅱ（後期 OSCE）(p.92)				
火	4	妊娠・分娩、女性生殖器と疾患 (p.41) ◎	神経と疾患 ◎ (p.36)	基本的診療知識 ◎ (p.68)	腎・尿路、男性生殖器と疾患 (p.38) ◎	放射線診断 ◎ (p.63)
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	臨床実習Ⅱ（クリニカル・クラークシップ）(p.94) ／ 診療技能実習Ⅱ（後期 OSCE）(p.92)				
水	4	内分泌・代謝と疾患 ◎ (p.30)	発展生命科学Ⅱ ◎ (p.78)	健康医学 (p.72) ／発展臨床医学Ⅰ (p.80) ◎		(発展現代医学Ⅰ・Ⅱ) ② (p.85)
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	臨床実習Ⅱ（クリニカル・クラークシップ）(p.94) ／ 診療技能実習Ⅱ（後期 OSCE）(p.92)				
木	4	精神と疾患 ◎ (p.47)	小児疾患・成長と発達 ◎ (p.50)	皮膚と疾患 ◎ (p.53)	発展臨床医学Ⅱ (p.82) ／基本的診療知識 (p.68) ◎	
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	臨床実習Ⅱ（クリニカル・クラークシップ）(p.94) ／ 診療技能実習Ⅱ（後期 OSCE）(p.92)				
金	4		運動器と疾患 ◎ (p.55)	応用病理 ◎ (p.59)	血液(成人)と疾患 ◎ (p.32)	
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	臨床実習Ⅱ（クリニカル・クラークシップ）(p.94) ／ 診療技能実習Ⅱ（後期 OSCE）(p.92)				

［後　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	4	呼吸器と疾患 ◎ (p.35)	消化器と疾患 ◎ (p.25)	循環器と疾患 ◎ (p.28)	基本的診療知識 ◎ (p.70)	感覚器と疾患 ◎ (p.45)
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	発展臨床医学Ⅲ (p.84) ／ 社会医学実習 (p.90) ／ 総合教育演習Ⅱ（総合試験）(p.97)				
火	4	妊娠・分娩、女性生殖器と疾患 (p.42) ◎	神経と疾患 ◎ (p.36)		腎・尿路、男性生殖器と疾患 (p.38) ◎	放射線治療 ◎ (p.64)
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	発展臨床医学Ⅲ (p.84) ／ 社会医学実習 (p.90) ／ 総合教育演習Ⅱ（総合試験）(p.97)				
水	4	内分泌・代謝と疾患 ◎ (p.31)		医療・リスクマネージメント (p.20) ◎		
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	発展臨床医学Ⅲ (p.84) ／ 社会医学実習 (p.90) ／ 総合教育演習Ⅱ（総合試験）(p.97)				
木	4	精神と疾患 ◎ (p.47)	救急医学 ◎ (p.66,p.67)	臨床検査 ◎ (p.61)	顎口腔と疾患 ◎ (p.57)	
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	発展臨床医学Ⅲ (p.84) ／ 社会医学実習 (p.90) ／ 総合教育演習Ⅱ（総合試験）(p.97)				
金	4	小児疾患・成長と発達 ◎ (p.52)	法と医療 ◎ (p.74)	臨床薬理学 ◎ (p.65)		
	5	臨　床　実　習　Ⅰ (p.93)				
	6	発展臨床医学Ⅲ (p.84) ／ 社会医学実習 (p.90) ／ 総合教育演習Ⅱ（総合試験）(p.97)				

［備考］

1．（　）で囲んだ授業は 4 年次学士対象。3 年次開講科目であり、3 年次学士編入学生と一緒に受講することになる。

2．担当教員は「平成21年度弘前大学医学部（医学科）授業計画〔シラバス〕」を参照のこと。

3．5 年次の臨床実習Ⅰについては、別に配布する「臨床実習要綱」を参照のこと。

4．6 年次の臨床実習Ⅱ（クリニカルクラークシップ）については、別に配布する「クリニカルクラークシップ実習指針」を参照のこと。

［医学科校舎］　①基礎第一講義室　　②基礎第二講義室　　○臨床小講義室　　◎臨床大講義室

資料5　専門教育科目及び単位配当表

【平成20年度以前入学者】

授業科目				単位	年次別単位数												編入学履修科目
					1		2		3		4		5		6		
					前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専門基礎科目	医学英語Ⅰ			1		1											
	医学英語Ⅱ			1				1									
	医学英語Ⅲ			1							1						○
	医用統計学			1				1									
	基礎人体科学演習			4	2	2											
	臨床医学入門実習			1	1												
	臨床実地見学実習			1			1										
	コア科目	基本事項	医の原則Ⅰ	1	1												
			医の原則Ⅱ	1				1									
			医療リスクマネージメント	1								1					○
			チュートリアル	6					3	3							
	計			19	4	3	1	3	3	3	1	1					
専門科目	コア科目	医学一般	個体の構成と機能	6			6										○
			侵襲と生体応答	4				4									○
			病理と病態	2					2								○
		人体各器官の正常構造と機能病態診断治療	消化器と疾患	3						1	1	1					○
			循環器と疾患	3						1	1	1					○
			内分泌・代謝と疾患	3						1	1	1					○
			血液（成人）と疾患	2						1	1						○
			呼吸器と疾患	2							1	1					○
			神経と疾患	2							1	1					○
			腎・尿路，男性生殖器と疾患	2							1	1					○
			妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	2							1	1					○
			感覚器と疾患（眼科疾患・耳鼻科疾患）	2							1	1					○
			精神と疾患	2							1	1					○
			小児疾患・成長と発達	2							1	1					○
			皮膚と疾患	1							1						○
			運動器と疾患	1							1						○
			顎口腔と疾患	1								1					○
			応用病理	1							1						○
			臨床検査	1								1					○
			放射線診断	1							1						○
			放射線治療	1								1					○
			臨床薬理学	1								1					○
			救急医学	1								1					○
		全身におよぶ生理的変化，病態，診断，治療	侵襲と加齢Ⅰ	1					1								○
			侵襲と加齢Ⅱ	2						2							○
		診療の基本	症候・病態からのアプローチ	1					1								○
			基本的診療知識	3					1		1	1					○
			基本的診療技能	1								1					○
		医学・医療と社会	健康医学	2							2						○
			法と医療	1								1					○
	発展科目	発展生命科学Ⅰ（脳科学）		2					2								○
		発展生命科学Ⅱ		1					1								○
		発展生命科学Ⅲ		1					1								○
		発展臨床医学Ⅰ		1							1						○
		発展臨床医学Ⅱ		1								1					○
		発展臨床医学Ⅲ		1											1		○
		発展現代医学Ⅰ		1							1						○
		発展現代医学Ⅱ		1								1					○
	実習科目	統合基礎医学実習A		4			4										○
		統合基礎医学実習B		2				2									○
		人体解剖学実習		6				6									○
		組織学実習		1				1									○
		病理学実習		2					1	1							○
		脳解剖実習		2					2								○
		社会医学実習		1											1		○
		診療技能実習Ⅰ（前期OSCE）		1								1					○
		診療技能実習Ⅱ（後期OSCE）		1											1		○
		臨床実習Ⅰ		40									40				○
		臨床実習Ⅱ（クリニカル・クラークシップ）		10											10		○
	総合教育演習Ⅰ（CBT）			1								1					○
	総合教育演習Ⅱ（総合試験）			1												1	○
	特別教育科目（研究室研修等）			3						3							
	計			141			10	13	12	10	20	22	40		13	1	
合計				160	4	3	11	16	15	13	21	23	40		13	1	140

備考　○印は，第3年次編入学者が修得しなければならない科目を表す。

【平成21年度入学者】

授業科目			単位	年次別単位数												備考
				1		2		3		4		5		6		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専門基礎科目	医学英語Ⅰ		1		1											
	医学英語Ⅱ		1							1						○
	医用統計学		1			1										
	計		3		1	1				1						
専門科目	コア科目	医の原則Ⅰ	1	1												
		医の原則Ⅱ	1			1										
		基礎医学概論	2			2										
		臨床医学概論	2			2										
		地域医療入門	2			2										
		解剖学	4				4									○
		生理学	2				2									○
		生化学	2				2									○
		免疫学	1				1									○
		組織学	1					1								○
		神経科学	1					1								○
		薬理学	3					2	1							○
		病理学	3					2	1							○
		微生物学	3					3								○
		社会医学	2					2								○
		外科学概論	1						1							○
		消化器内科学・外科学Ⅰ	2						2							○
		消化器内科学・外科学Ⅱ	1							1						○
		循環器内科学・外科学Ⅰ	2						2							○
		循環器内科学・外科学Ⅱ	1							1						○
		内分泌・代謝学Ⅰ	2						2							○
		内分泌・代謝学Ⅱ	1							1						○
		血液内科学Ⅰ	1						1							○
		血液内科学Ⅱ	1							1						○
		呼吸器内科学・外科学Ⅰ	1						1							○
		呼吸器内科学・外科学Ⅱ	1							1						○
		感染症学	1						1							○
		臨床免疫学	1							1						○
		神経精神医学Ⅰ	1						1							○
		神経精神医学Ⅱ	1							1						○
		小児科学Ⅰ	1						1							○
		小児科学Ⅱ	1							1						○
		婦人科学	1						1							○
		周産期医学	2							1	1					○
		神経内科学	1							1						○
		腎臓内科学	1							1						○
		症候学	1							1						○
		整形外科学・リハビリテーション医学	2							1	1					○
		麻酔科学・緩和医療学	2							1	1					○
		放射線診断学	1							1						○
		放射線腫瘍学	1								1					○
		臨床腫瘍学	1								1					○
		皮膚科学	1								1					○
		泌尿器科学	1								1					○
		眼科学	1								1					○
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1								1					○
		脳神経外科学	1								1					○
		歯科口腔外科学	1								1					○
		形成外科学	1								1					○
		救急・災害医学	1								1					○
		臨床検査医学	1								1					○
		臨床薬理・和漢薬学	1								1					○
		小児外科学	1								1					○
		病理診断学	1								1					○
		法医学	1								1					○
		医療安全学	1								1					○
		地域医療学	1								1					○
		計	78	1		7	9	11	15	15	20					

	演習・実習科目	基礎人体科学演習	4	2	2												
		臨床医学入門	4	2	2												
		臨床実地体験実習	2			2											
		PBL	6			6											
		解剖学実習	3				3										○
		生理学実習	2				2										○
		生化学実習	2				2										○
		組織学実習	1					1									○
		神経科学実習	1					1									○
		薬理学実習	1					1									○
		病理学実習	2					1	1								○
		微生物学実習	1					1									○
		社会医学実習	2					2									○
		臨床実習入門(PreBSL/OSCE)	1								1						○
		臨床実習Ⅰ(学内BSL)	40									40					○
		臨床実習Ⅱ(クリニカルクラークシップ)	12											12			○
		総合教育演習Ⅰ(CBT)	1								1						○
		総合教育演習Ⅱ(総合試験)	1												1		○
		特別教育科目(研究室研修)	3							3							○
		計	89	4	4	8	7	7	1	3	2	40		12	1		
	計		167	5	4	15	16	18	16	18	22	40		12	1		
合計			170	5	5	16	16	18	16	19	22	40		12	1		

備考　○印は，第3年次編入学者が修得しなければならない科目を表す。

（別表）大学院生について

資料1　領域別入学定員

【08年度】

領域	入学定員	収容定員
分子遺伝情報科学	55名	238名
脳神経科学		
腫瘍制御科学		
循環病態科学		
機能再建・再生科学		
総合医療・健康科学		
感覚統合科学		
病態制御科学		
成育科学		
計	55名	238名

【09年度】

領域	入学定員	収容定員
分子遺伝情報科学	50名	224名
脳神経科学		
腫瘍制御科学		
循環病態科学		
機能再建・再生科学		
総合医療・健康科学		
感覚統合科学		
病態制御科学		
成育科学		
計	50名	224名

資料2　学位授与数

	08年度	09年度
課程修了者(甲)	28名	24名
論文審査(乙)	1名	3名
計	29名	27名

資料3　入学状況

領域＼入学年度		08年度	09年度
分子遺伝情報科学	現員	1名	0名
脳神経科学	現員	6名（3）	6名（2）
腫瘍制御科学	現員	7名（1）〈1〉	5名（2）〈1〉
循環病態科学	現員	4名（1）	3名（2）
機能再建・再生科学	現員	4名　〈1〉	4名
総合医療・健康科学	現員	14名（4）	19名（7）
感覚統合科学	現員	2名	3名（2）
病態制御科学	現員	6名（1）	8名（1）〈1〉
成育科学	現員	2名（2）	3名（2）
計	定員	55名	50名
	現員	46名（12）〈2〉	51名（18）〈2〉

※　現員数については，入学者数を記入した。（　）内数字女子，〈　〉内数字は外国人留学生で内数。

資料4　ティーチングアシスタント及びリサーチアシスタント数

	ティーチングアシスタント	リサーチアシスタント	計
08年度	18名	20名	38名
09年度	17名	18名	35名

資料5　外国人留学生数

		08年度	09年度
留学生数		7名	12名
国別留学生数	韓国	―	1名
	中国	7名	11名
留学生費用別	国費	1名	2名
	私費	6名	10名

資料6　留学国別留学者数

	08年度	09年度
計	0名	0名

資料7　留学期間別留学者数

	08年度	09年度	計
計	0名	0名	0名

資料8　大学院修了者の就職状況

2008年度

専　攻	修了者数	就職者数				
		国立大学教員	医　師	医　員	そ の 他	計
分子細胞科学	5名		3名	1名	1名	5名
脳神経科学	8名	3名	1名	2名	2名	8名
発生・分化再生科学	0名					0名
器官病態科学	14名	3名	7名	4名		14名
健康科学	1名				1名	1名
計	28名	6名	11名	7名	4名	28名

2009年度

専　攻	修了者数	就職者数				
		国立大学教員	医　師	医　員	そ の 他	計
分子細胞科学	2名		1名	1名		2名
脳神経科学	1名	1名				1名
発生分化再生科学	1名		1名			1名
器官病態科学	10名	1名	8名	1名		10名
健康科学	9名	7名	1名		1名	9名
分子遺伝・情報科学	1名	1名				1名
計	24名	10名	11名	2名	1名	24名

資料9　大学院講義

2008年度

前期：4月14日（月）～7月28日（月）の間の月曜日・金曜日

科目名	担当講師	曜日	講義時間	系代表
医学研究概論Ⅰ	佐藤　敬，古川賢一，丹治邦和，長内智宏，西條康夫，澤村大輔，横山良仁，中澤　満，大山　力，玉井佳子，胡　東良，立石智則，東海林幹夫，浅野研一郎	月	17:00～18:30	早狩　誠
生命科学倫理学	中路重之，松坂方士，伊東　健，伊藤悦朗，土田成紀，鬼島　宏，斎藤　博，右田啓介	金	17:00～18:30	土田　成紀

後期：10月3日（金）～2月9日（月）の間の月曜日・金曜日

科目名	担当講師	曜日	講義時間	系代表
医学研究概論Ⅱ	清水徹男，桑野良三，長内智宏，須田俊宏，兼子　直，伊藤悦朗，福田眞作，澤村大輔，大山　力，中澤　満，西條康夫，水沼英樹，廣田和美	月	17:00～18:30	東海林幹夫
最新医学の動向	阿部由直，對馬敬夫，佐藤哲観，西條康夫，青木昌彦，伊東重豪，吉原秀一，福田眞作，坂本十一，玉井佳子，南場淳司，横山良仁，大山　力，三井博正，澤村大輔，照井君典，須貝道博，吉田茂昭，野崎美和子，浅野研一郎	金	17:00～18:30	阿部　由直

2009年度

前期：4月13日（月）～7月27日（月）の間の月曜日・金曜日

科目名	担　当　講　師	曜日	講義時間	系 代 表
医学研究概論Ⅰ	佐藤　敬，黒田直人，中路重之，中根明夫，外崎敬和，田中真奈美，水上浩哉，土田成紀，古川賢一，上野伸哉，伊東　健，相澤　寛，一戸紀孝，森　文秋	月	17:00～18:30	伊東　　健
生命科学倫理学	中路重之，松坂方士，伊東　健，土田成紀，山田俊幸，鬼島　宏，佐藤冬樹，土岐　力	金	17:00～18:30	土田　成紀

後期：10月2日（金）～1月25日（月）の間の月曜日・金曜日

科目名	担　当　講　師	曜日	講義時間	系 代 表
医学研究概論Ⅱ	東海林幹夫，浅野研一郎，長内智宏，須田俊宏，兼子　直，伊藤悦朗，大西洋英，大山　力，澤村大輔，中澤　満，早狩　誠，西條康夫	月	17:00～18:30	福田　眞作
最新医学の動向	袴田健一，西條康夫，青木昌彦，佐藤哲観，福田眞作，吉原秀一，坂本十一，對馬敬夫，片寄喜久，川崎仁司，高畑武功，玉井佳子，伊東重豪，南場淳司，横山良仁，大山　力，柳沢道朗，金子高英，照井君典，須貝道博，浅野研一郎	金	17:00～18:30	西條　康夫

研　究　活　動

研究活動に関する自己点検・評価（記載説明）

自己点検・評価の対象

各講座，診療科，動物実験施設，教員定員のある診療部を対象とし，研究単位ごとにまとめたものです（以下同様）。

基礎講座は各講座を研究単位，臨床講座は診療科又は診療部を合わせて研究単位とし，さらに物実験施設，教員定員のある診療部のうち一部はそれぞれを研究単位としている。

［A］研究単位人員と研究テーマの記載要領

各研究単位の評価年度の研究人員と研究テーマについて記載している。

Ⅰ．研究者人員

それぞれの研究単位の評価年度における教授，准教授，講師，助教，助手，医員，大学院学生，研究生の実数を記載する（看護部は除く）。たとえば，併任教授１，准教授１..... であれば，教授０，准教授１..... と記入している。

なお，講座・診療科と診療部の所属が実質的に区別されていない研究者については，その人員を講座・診療科に加えて記載している。

Ⅱ．研究者テーマ

それぞれの研究単位における研究テーマを評価年度について10項以内を記載している。

［B］研究業績の記載要領

評価年度内の研究業績を対象とする。

Ⅰ．発表論文について

１．論文の分類，その他

（1）すでに発表された論文のみを記載。

（2）論文を原著，総説，著書，その他に分類し，英文，和文に分けている。

（3）英文以外の外国語で書いた論文はその他に入れている。

（4）ここでいう原著とは，レフェリー制をとっている定期刊行物 (Journal) に掲載された学術論文，あるいはその Journal が原著として扱っている論文を指す。

（5）ここでいう総説とは，定期刊行物 (Journal) に掲載された学術論文で，原著，症例報告，その他報告書以外のものを指す。

（6）原著，総説，著書は，当該研究単位（講座・部門等）に所属する者にアンダーラインを引いて，以下の３つのカテゴリーに分けて記載（著書については単著，編集，分担執筆を区別）

Ａ：当該研究単位が主たる発表機関である（筆頭研究単位になっている）

筆頭著者の所属が異動あるいは重複している場合は，現在の所属にかかわらず，筆頭著者の論文に記載した研究単位（Suzuki Y [1), 2)] であれば１の研究単位）が主たる発表機関となる。

Ｂ：当該研究単位が副発表機関である（第２以下に記載されている）

Ｃ：所属研究者が他研究機関で行ったもので，当該研究者は著者として記載されてい

るが，当該研究単位は発表機関としては記載されていない。

なお，同一論文の重複を明らかにするために，ＢとＣについては当学科内の他研究単位がＡ（またはＢ）記載する論文には論文題名の冒頭に (*) を付記する。併任教員のみによる論文は記載していない。

２．記載方法

ａ）原著

著者名全員，論文題名，発表雑誌，発表年，巻数，ページ（始め～終わり）の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

ｂ）総説

原著と同じ方法で記載している。

ｃ）著書

（単著），（編集）

著者（編者）名全員，書名，発行所，発行所地名，発表年の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

（分担）

著者名全員，著述文表題，編者名，書名，ページ（始め～終わり），発行所，発行所地名，発表年の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

ｄ）その他（症例報告等）

これには定期刊行雑誌や紀要などの症例報告，その他報告書等が含まれる。学会抄録は Proceedings (Journal) で発表されていてもここには記載していない。記載方法は a) と同じ。

３．発表論文のまとめ

それぞれの研究単位における論文業績のまとめである。

上記の英文原著，総説については，それぞれＡ，Ｂのみ，雑誌名と Impact Factor（本報告書の表紙に指定した年の JCR を使用，図書館），論文数を発表年別に記載，和文原著，総説については，それぞれＡ，Ｂのみ，雑誌名を発表年別に記載，著書については，単著，編集，分担執筆に分けて発表年別に記載している。

Ⅱ．学会，研究会等での発表業績について

１．記載対象

国際レベル，全国レベルの学術集会での発表のみを対象とし，以下の３つのカテゴリーに分けて記載している。

Ａ．特別（招待）講演

Ｂ．シンポジウム，パネルディスカッション，ワークショップでの講演

Ｃ．一般講演（ポスター発表を含む）

２．記載方法

発表者，発表題名，集会の名称，開催地，開催年を記載，Proceedings (Journal) がある場合は，上記の下に，I-2, a)（原著）の記載方法に従って記載，国内学会の一般講演については，各年度の発表件数のみを記載している。

Ⅲ．学術賞について

当該年度に当該研究単位，所属研究者に与えられた学術賞について，賞の名称受賞者名，受賞研究課題を記載している（学内の賞，民間の賞を含む）。

Ⅳ．共同研究について

国内外の研究機関と共同で行った研究について，その相手研究機関名，研究課題，当該研究単位の代表研究者名を記載している。

ここでいう共同研究には民間等との共同研究など，プロジェクトとして，あるいは正式な契約を交わして行われるものを含む。

Ⅴ．研究助成の獲得について

当該年度に当該研究単位，所属研究者が獲得した研究助成金に関し，文部科学省科学研究費，その他省庁からの研究費，学内の研究助成，民間の研究助成に分け，助成名称，研究種目，研究課題，研究代表者名，配分額（単位：千円）について記載している。

Ⅵ．研究に関する社会活動について

１．国際的な研究連携，国際交流，その他

ａ）国際学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間

ｃ）外国からの留学生，研究生の受け入れ状況

留学生（研究生）名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（3 ヵ月未満）状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

ｅ）外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

２．国内，地域研究機関との連携，その他

ａ）全国レベルの学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

ｂ）地方レベルの学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

ｃ）国内機関からの内地留学受け入れ状況

留学者名，研究機関，国名，滞在期間

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

留学者名，研究機関，国名，滞在期間

VII. その他

特許の取得など，研究に関する特記事項を記載する。

［C］研究単位の目標設定に対する到達度と理念・これから２年間の目標の記載要領

Ⅰ．２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度

２年前の自己点検評価報告書作成時に設定した，研究単位のこれから２年間の目標に対する到達度について記載している。なお，設定目標については，「自己点検評価報告書＝2006年度－2007年度＝」に掲載されている。

Ⅱ．理念，これから２年間の目標

各研究単位の理念，これから２年間の目標について記載している。

第2章　研　究　活　動

1．神経解剖・細胞組織学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

達成度は全体で80％程度。平成18年度は，複数の研究課題について成果を論文として公表した。また，新たな研究課題に着手し，研究助成金を獲得した。これに伴い，新しい研究技術の導入がなされた。国内外での学会発表を行なった。

理念：

現行の研究課題に関する成果の公表を確実に実施するとともに，新たな課題への発展を模索し，研究活動の一層の活性化を図る。

これから2年間の目標：

研究単位として年間1編以上の原著論文を公表し，国内外での学会発表を年1回以上行う。また，研究資金を年間1件以上獲得する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助教　2，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授~助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	一戸　紀孝	1年
	助　教	専　任	浅野　義哉	〃
	助　教	専　任	目黒　玲子	〃
	助　手	専　任	小田桐沙織	〃
研究課題	1．霊長類の大脳皮質の機能構造連関の研究 2．霊長類大脳皮質の分子的／化学的特異性の研究 3．げっ歯類の領野特異的局所回路の研究とその形成機構の解明 4．細胞内微量鉄の高感度可視化による脳の病因遊離鉄生成及び神経細胞変性機序の解明 5．金属キレーター・クリオキノールの神経変性疾患治療効果についての病理学的研究 6．脳発生における辺縁新皮質多層化関連遺伝子及び新皮質化関連遺伝子の解明 7．脳神経系における鉄代謝 8．脳の特に海馬の神経終末における鉄の検索・同定			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　2，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授~助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	一戸　紀孝	1年
	助　教	専　任	浅野　義哉	1年
	助　教	専　任	目黒　玲子	1年
	助　手	専　任	小田桐紗織	1年
研究課題	1．細胞内微量鉄の高感度可視化による脳の病因遊離鉄生成及び神経細胞変性機序の解明 2．金属キレーター・クリオキノールの神経変性疾患治療効果についての病理学的研究 3．脳発生における辺縁新皮質多層化関連遺伝子及び新皮質化関連遺伝子の解明 4．血管内皮細胞損傷が脳の鉄蓄積に及ぼす影響について 5．脳の特に海馬の神経終末における鉄の検索・同定 6．霊長類の大脳皮質の機能構造関連の研究 7．霊長類大脳皮質の分子的／化学的特異性の研究 8．齧歯類の領野特異的局所回路の研究とその形成機構の解明			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Meguro R, Asano Y, Odagiri S, Li C, Shoumura K. Cellular and subcellular localizations of nonheme ferric and ferrous iron in the rat brain: a light and electron microscopicstudy by the perfusion-Perls and -Turnbull methods. Arch Histol Cytol, 71: 205-222 (2008).

A.2. Iwatsuki H, Meguro R, Asano Y, Odagiri S, Li C, Shoumura. K. Chelatable Fe (II) is generated in the rat kidneys exposed to ischemia and reperfusion, and a divalent metal chelator, 2,2'-dipyridyl attenuates the acute schemia/reperfusion-injury of the kidneys: a histochemical study by the perfusion-Perls and -Turnbull method. Arch Histol Cytol, 71: 101-14 (2008).

A.3. Ichinohe N,Hayashi M, Wakabayashi K, Rockland KS. Distribution and progression of amyloid-beta deposits in the amygdala of the aged macaque monkey, and parallels with zinc distribution. Neuroscience 159:1374-1383 (2009).

A.4. Li C, Odagiri S, Meguro R, Asano Y, Shoumura K. Nonheme-iron deposition in the hypothalamo-neurohypophysealsystem of the rat brain. Hirosaki Med J, 60: 63-76 (2009).

B.1. Ichinohe N, Knight A, Ogawa M, Ohshima T, Mikoshiba K, Yoshihar Y, Terashima T, Rockland KS. Unusual patch-matrix organization in the retrosplenial cortex of the reeler mouse and Shaking rat Kawasaki. Cereb Cortex, 18:1125-1138 (2008).

2009 年度

A.1. Asano Y, Koishi K, Frugier T, McLennan IS. Mice with disrupted TGFbeta signaling have normal cerebella development, butexhibit facial dysmorphogenesis and strain-dependent deficits in their body wall. Cell Mol Neurobiol, 29: 621-33 (2009).

C.1. Neurotrophin-3 is involved in the formation of apical dendritic bundles in cortical layer 2 of the rat. Miyashita T, Wintzer M, Kurotani T, Konishi T, Ichinohe N, Rockland KS.Cereb Cortex. 20(1):229-40 (2010).

C.2. Cortical connections to area TE in monkey: hybrid modular and distributed organization.Borra E, Ichinohe N, Sato T, Tanifuji M, Rockland KS.Cereb Cortex. 20(2):257-70 (2010).

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuroscience	3.45	1	3.45
Arch Histol Cytol	0.986	2	1.972
Hirosaki Med J	0	1	0
Cerebral Cortex	6.52	1	6.52
Total		5	11.942

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cell Mol Neurobiol	2.55	0	2.55
Total		0	2.55

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	3	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008 年度

A.1. Anatomical and functional architectures of monkey inferotemporal cortex. -- functional domains and columns, and their anatomical connection --Neurosceince Seminar, July 17, 2008（Parma, Italy）
C.1. *In vivo* imaging of connections in the monkey temporal cortex. Anunal Meeting of Society for Neuroscience, Nov 18, 2008（Washington DC）.

2009 年度

B.1. Ichinohe N, Matsushita A, Ohta K, Rockland KS: Pathway-Specific Utilization of Synaptic Zinc in the Macaque Ventral Visual Cortical Areas. Neuroscience 2009, Chicago, USA, 2009.

（2）全国学術集会

2008 年度

A.1. サル下側頭皮質の線維結合アーキテクチャーと分子アーキテクチャー 第15回知と行動セミナー : April 8, 2008（大阪）
A.2. サル下側頭皮質の線維結合アーキテクチャー : 玉川大学脳科学セミナー：May 19, 2008（東京）
B.1. 大脳皮質のモジュール構造とその形成の分子メカニズム : シンポジウム（座長）脳の形態形成の制御機構 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会：March 28, 2009（岡山）
B.2.「Brain Emotion and basic Neuroanatomy」Brain Science Institute Tutorial Series 2008（和光）
B.3.「サル下側頭葉の機能・構造アーキテクチャー」東京大学・新領域セミナー（2008）
B.4.「物体認知を支えるメカニズム」トヨタ連携センターセミナー（2008）
C.　1 件

2009 年度

B.1. 一戸紀孝：生体内線維連絡イメージングの下側頭葉顔認知システムへの適用．生理学研究所研究会 第 3 回 「大脳皮質 - 大脳基底核連関と前頭葉機能」，岡崎，2009.
B.2. Ichinohe N, Miyashita T, Rockland KS: Anatomically differentiated amygdala subsystems. Symposium “The Amygdala: Crossroad of self and others” at 32t Japan Neurosciecne Meeting, Nagoya, Japan, 2009.
B.3. Ichinohe N, Sato T, Tanifuji M, Kurotani T, Rockland KS: In Vivo Connection Imaging and its Application to Monkey Inferotemporal Cortex. The 56th NIBB Conference “Neocortical Organization”, Okazaki, Japan, 2009.
C.　7 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008 年度

生理学研究所「色の情報処理に関連するサル大脳皮質領域の線維結合の研究」
小松英彦教授
基礎生物研究所「霊長類および齧歯類の周嗅皮質と TE 野において共通に異なる発現をする遺伝子の検索」
山森哲雄教授
理化学研究所「新しく開発した生体内線維結合イメージングーカラムレベルの物体認知情報変換の研究」
谷藤学チームリーダー
理化学研究所「大脳皮質のオーガニゼーションの研究」Kathleen S. Rockland チームリーダー

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として
特定領域研究
「神経回路」公募班員「新しく開発した生体内線維結合イメージングーカラムレベルの物体認知情報変換の研究」：一戸紀孝　240万円

2009 年度

研究代表者として
一戸紀孝
新学術領域・公募班員（代表）「新しく開発した生体内線維結合イメージングーカラムレベルの物体認知情報変換の研究」 2900 千円
特定領域研究・公募班員（代表）「新しく開発した生体内線維結合イメージングーカラムレベルの物体認知情報変換の研究」2400 千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2008 年度

研究代表者として
弘前大学若手萌芽研究
細胞内微量鉄の高感度可視化による脳の病因遊離鉄生成及び神経細胞変性機序の解明　：研究代表者
浅野義哉　60万円

2009 年度

研究代表者として
一戸紀孝：平成21年度科学研究費補助金に係る不採択者支援事業（代表）「新しく開発した生体内線維連絡可視化法を用いたサル下側頭葉の顔の表現形成基盤の研究」500千円
小田桐紗織：大学特別研究助成制度（博士後期課程）後部帯状回への統合失調症関連遺伝子の導入による本症の発症メカニズムの解明　500千円

（4）民間の研究助成

2009 年度

研究代表者として
一戸紀孝：ブレインサイエンス振興財団　研究助成（代表）「線維連絡に基づく他者意図認知の脳基盤」100万円
一戸紀孝：第28回唐牛記念医学研究基金助成金（A賞）（代表）「新しく開発した生体内線維連絡可視化法による他者の意図を認知する脳メカニズムの解明」350万円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

2．生体構造医科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

前回の設定目標は 1）競争的外部資金獲得，2）研究成果の発表，3）肉眼解剖学的研究の推進，4）共同研究の促進にまとめられる。

この 2 年間では前教授の定年退任後，専任教授不在の 1 年となったため，残されたスタッフで，教育／献体業務等の duty work に対応しながら研究を進めてきた。

設定目標を総括すると，

1）に対して：新規の研究代表者の科研費の獲得には至らなかったが，審査結果は「A」とされているので，今後も競争的外部資金獲得に努力する。その他，共同研究・研究協力により，委任経理金として研究資金が得られている。

2）に対して：英文論文の発表，国際学会での発表が行われ，時間的制約ある中，ある程度の成果は得られたと考える。

3）に対して；当講座の教育担当分野の中から肉眼解剖学的研究，解剖学教育について学会で発表してきた。

4）に対して：学内外での共同研究が個々の研究者の立場で行われ推進された。

以上，設定目標に対して，相応の成果は得られたと考える。

理念：

解剖学教育をおろそかにすることなく，その中で個々の研究者は着実に研究成果を発展させ，その成果を論文・学会に発表していく。また，共同研究も推進する。

これから2年間の目標：

解剖学両講座の専任教授不在の中でも，解剖学教育をゆるがせにせず，今後も次の目標で研究を進めていきたい。

1）肉眼解剖学的研究を含め，個々の研究の着実な推進と成果の発表

2）共同研究の促進

3）競争的外部資金獲得

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	加地　　隆	2008.4.1-2009.3.31
	准教授	専　任	外崎　敬和	2008.4.1-2009.3.31
	助　教	専　任	渡邉　誠二	2008.4.1-2009.3.31
研究課題	1．松果体の構造と機能 2．副腎髄質の微細構造と種差 3．視床下部―下垂体中葉系の MSH 神経内分泌調節機構：MSH の新しい機能について （ア）サイトカイン（IL-1β）の知覚過敏・発熱に対する視床下部弓状核 MSH ニューロン・下垂体中葉 MSH 細胞の修飾機構 （イ）冷環境に対する下垂体中葉 MSH の分泌調節機構とその機能 4．マクロ解剖学的研究 （ア）坐骨動脈について （イ）超音波による骨格標本の洗浄について 5．ヒト精子における crater defect の影響 6．ヒト IVM 卵子およびマウス核置換卵子を用いた卵子の老化研究 7．肝細胞培養系を用いた巨核球系細胞の維持と増殖			

2009 年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	外崎　敬和	2009.4.1-2010.3.31
	助　教	専　任	渡邉　誠二	2009.4.1-2010.3.31
	助　教	専　任	谷　　利樹	2009.10.1-2010.3.31
研究課題	1．神経内分泌学的研究 視床下部―下垂体中葉系の MSH 神経内分泌調節機構：MSH の新しい機能について （ア）サイトカイン（IL-1β）の知覚過敏・発熱に対する視床下部弓状核 MSH ニューロン・下垂体中葉 MSH 細胞の修飾機構 （イ）冷環境に対する下垂体中葉 MSH の分泌調節機構とその機能 2．マクロ解剖学的研究 （ア）座骨動脈について （イ）超音波による骨格標本の洗浄について （ウ）マクロ解剖学教育について 3．生殖医学的研究 1．ヒト精子における空胞と DNA 損傷との関連性の検討 2．ヒト IVM 卵子およびマウス核置換卵子を用いた卵子の老化研究 3．精漿 ICSI の臨床的有効性の検討 4．蛍光グルコースを用いたマウス受精卵グルコース利用のリアルタイムモニタリングシステムの検討 5．肝細胞培養系を用いた巨核球系細胞の維持と増殖 6．ヒト体外成熟卵子の染色体分配に対するタキソール処理の効果 4．脳科学的研究 （ア）脳内線維連絡に基づく社会性認知の神経基盤の解明			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Yamauchi T, Kachi T. An electron microscopic study on nerve endings on adrenomedullary adrenaline cells in golden hamsters: position, size and changes due to pinealectomy. Arch Histol Cytol 71:115-122 (2008)

A.2. Kurushima M, Takahashi G, Suzuki T, Hashimoto S, Honma K, Kachi T. Effects of intracranial surgery on pineal lipid droplets, on other structures, and on melatonin secretion. Anat Sci Int 84:17-26 (2009)

B.1. Ono A, Tonosaki Y, Yokoyama T, Aburakawa S, Takeuchi K, Numasawa T, Wada K, Kachi T, Toh S. Surgical anatomy of the nuchal muscles in the posterior cervicothoracic junction: significance of the preservation of the C7 spinous process in cervical laminoplasty. Spine (Phila Pa 1976). 2008 May 15;33(11):E349-54

2009 年度

B.1. Atsushi Tanaka, Motoi Nagayoshi, Shoichiro Awata, Norio Himeno, Izumi Tanaka, Seiji Watanabe, Hiroshi Kusunoki. Metaphase II karyoplast transfer from human in-vitro matured oocytes to enuclueated mature oocytes. *Reproductive BioMedicine Online, Vol. 19, 2009, Pages 514-520*

C.1. Hideki Yoshida, Kazuya Nagata, Hirokazu Narita, Saichi Wakayama: Does instability during standing occur just after transcutaneous xenon light irradiation around the stellate ganglion? J Phys Ther Sci, 21:355-359, 2009.

C.2. Tanaka S, Tani T, Ribot J, Ohashi K, Imamura K: A postnatal critical period for orientation plasticity in the cat visual cortex. PLoS ONE Vol.4 lssue 4 e5380 2009

C.3. Suzurikawa J, Tani T, Nakao M, Tanaka S, Takahashi H: Voltage-sensitive-dye imaging of microstimulation-evoked neural activity through intracortical horizontal and callosal connections in cat visual cortex, J. Neural Eng. 6 066002 2009

和文

2008 年度

A.1. S Watanabe, H Mizunuma, S Fujii, A Fukui, Hidenori Kimura, R Fukuhara, R Nakamura and T Yamada. No Increased Incidence of Chromosomal Aberrations in Human Spermatozoa with Large Vacuoles by Injection into Mouse Oocytes. J Mammal Ova Res. 25 (240-245), 2008.

A.2. S Watanabe, A Tanaka, I Tanaka, S Awata, M Nagayoshi, N Himeno, E Kuwata and Y Takemoto. Chromosomal segregation and activation in mouse oocytes reconstructed using nuclear transfer. Obst Gynecol Prac 57 (1615-1623), 2008.

B.1. A Tanaka, I Tanaka, M Nagayoshi, S Awata, N Himeno, Y Takemoto, E Kuwata, T Akahoshi, S Watanabe and H Kusunoki. Are Crater Defects in Human Sperm Heads Physiological Changes during Spermiogenesis and Epididymal Maturation? J Mammal Ova Res. 25 (259-265), 2008.

B.2. A Tanaka, I Tanaka, S Awata, M Nagayoshi, N Himeno, E Kuwata, Y Takemoto, S Watanabe and H Kusunoki. Genetic risk in ICSI using late spermatocytes from Klinefelter syndrome patients. Obst Gynecol Prac 57 (1587-1595), 2008.

(2) 総説

英文　なし

和文　なし

(3) 著書

英文　なし

和文　なし

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arch Histol Cytol	0.986	1	0.986
Anat Sci Int	1.161	1	1.161
Spine	2.793	1	2.793
Total		3	4.94

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Reproductive BioMedicine Online	2.38	1	2.38
Total		1	2.38

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
J Mammal Ova Res	2	
Obst Gynecol Prac	2	
計	4	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008 年度

A.1. Katsuya Yamada[1], Toshihiro Yamamoto[2], Seiji Watanabe[3], Yuji Nishiuchi[2], Tadashi Teshima[2], Hideaki Matsuoka[4], and Sechiko Suga[5] A new imaging method of glucose transport in live cells. 弘前国際フォーラム, Hirosaki 2009.

2009 年度

C.1. Watanabe Seiji. No relationship between chromosome aberrations and vacuole-like structures on human sperm head. ESURE annual meeting, Amsterdam, 2009.
C.2. Ono A, Numasawa T, Wada,K, Yokoyama T, Tonosaki Y, Kachi T, Toh, S. Surgical anatomy of the nuchal muscles in the posterior cervicothoracic junction; The relationship between the length of the C6 spinous process and anatomy of the nuchal muscles. 55th Ortopaedic Research Society, 2009.
C.3. A. Tanaka, M. Nagayoshi, S. Awata, I. Tanaka, H. Kusunoki, S. Watanabe. A novel trial of nuclear transfer for repairing an aged oocyte ASRM annual meeting　Atlanta　2009
C.4. A. Tanaka, M. Nagayoshi, S. Awata, I. Tanaka, H. Kusunoki, S. Watanabe. A new assay system for distinction between a balanced translocation and a normal karyotype in preimplantation genetic diagnosis（PGD）. ASRM annual meeting, Atlanta, 2009.
C.5. A. Tanaka, M. Nagayoshi, S. Awata, I. Tanaka, H. Kusunoki, S. Watanabe. Are crater defects in human sperm heads physiological changes during spermiogenesis? ASRM annual meeting, Atlanta, 2009.
C.6. 8th IEEE International Conference on Development and Learning（2009. Shanghai, China）Yoshida T, Tani T, Tanaka S: Orientation plasticity in visual cortex of mice reared under single-orientation exposure
C.7. The 36th International Congress of Physiological Sciences（2009. Kyoto）Tani T, Tanaka S: Exposure to orthogonal orientations in the two eyes reorganizes orientation maps robustly in kitten visual cortex

（2）全国学術集会

2008 年度

A.1. Transplantation of second meiotic spindle from aged mouse oocyte into young mouse ooplasm. 26th Annual meeting of Japan society of fertilization and implantation. Fukuoka 2008
B.1. 田中威づみ，田中温，永吉基，粟田松一郎，姫野憲雄，竹本洋一，鍬田恵里，赤星孝子，渡邉誠二，楠比呂志．精子頭部の Crater defect に関する研究，第 26 回日本受精着床学会．福岡 2008.
B.2. 渡邉誠二，田中温，田中威づみ，永吉基，粟田松一郎，姫野憲雄，竹本洋一，鍬田恵里，赤星孝子，タキソール処理ヒト IVM 卵子のチューブリン及びオーロラ蛋白の分布．第 26 回日本受精着床学会．福岡 2008.
C.　9 件

2009 年度

A.1. 渡邉誠二．Top quality の精子とは？　日本 IVF 学会学術総会．仙台 2009.
C.　4 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008 年度

北海道大学大学院医学研究科本間研一教授と
「ラット血中メラトニンレベルに関する実験的研究」 加地

2009 年度

1．弘前大学産婦人科学講座　ヒト精子における空胞と DNA 損傷との関連性の検討　渡邉誠二
2．セントマザー産婦人科　ヒト IVM 卵子およびマウス核置換卵子を用いた卵子の老化研究　渡邉誠二
3．弘前大学産婦人科学講座・セントマザー産婦人科　精漿 ICSI の臨床的有効性の検討　渡邉誠二
4．弘前大学統合機能生理学講座　蛍光グルコースを用いたマウス受精卵グルコース利用のリアルタイムモニタリングシステムの検討　山田勝也
5．弘前大学小児学講座　肝細胞培養系を用いた巨核球系細胞の維持と増殖　伊藤悦朗
6．弘前大学産婦人科学講座・セントマザー産婦人科　ヒト体外成熟卵子の染色体分配に対するタキソール処理の効果　渡邉誠二

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

他研究単位との研究分担者として
文部科学省科学研究費，基盤研究 C，急性巨核球性白血病の表現型における転写因子 BACH1 および GATA-1 の機能解析，土岐力　300

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2009 年度

研究者名：渡邉誠二
研究機関：アデレード大学
国名：オーストラリア
滞在期間（継続）：2010.2.～

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

3．統合機能生理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1）Impact Factor 3 以上の雑誌に研究室の教員が first author として少なくとも年 1 編の論文を発表
50%

2）国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表
100%

3）研究室として科学研究費補助金に 2 件以上採択
100%

理念：

本講座の 2 つの研究グループのそれぞれで，研究に関するさまざまな最新のコンセプトと方法とを導入して世界のトッププランナーの一員としての役割を果たす。

これから２年間の目標：

1）Impact Factor 3 以上の雑誌に研究室の教員が first author として少なくとも年 1 編の論文を発表
2）国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表
3）研究室として科学研究費補助金に 2 件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	蔵田　　潔	2 年
	准教授	専　任	山田　勝也	2 年
	准教授	専　任	相澤　　寛	2 年
	助　教	専　任	二ノ倉欣久	1 年
研究課題	1．ニューロン活動解析による随意運動機構の研究 2．大脳前頭前野における順序動作の企画過程 3．盲視の動物モデル作成及び盲視下視覚伝導路の機能的同定 4．新規蛍光ブドウ糖開発による脳内ブドウ糖輸送の研究 5．神経活動依存的脳血流調節に関する研究 6．中脳黒質網様部の神経－グリア相互作用を含めた多面的研究 7．脳代謝感知機能に関する研究			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	蔵田　　潔	2 年
	准教授	専　任	山田　勝也	2 年
	准教授	専　任	相澤　　寛	2 年
	助　教	専　任	二ノ倉欣久	2 年
研究課題	1．ニューロン活動解析による随意運動機構の研究 2．大脳前頭前野と大脳基底核の連関による順序動作の企画過程 3．脳内埋め込み電極による多点計測急とブレインマシーンインターフェイス応用 4．速眼球運動の制御回路の研究 5．新規蛍光ブドウ糖開発による脳内ブドウ糖輸送の研究 6．神経活動依存的脳血流調節に関する研究 7．中脳黒質網様部の神経－グリア相互作用を含めた多面的研究 8．脳代謝感知機能に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Yamamoto, Toshihiro; Nishiuchi, Yuji; Teshima, Tadashi; Matsuoka, Hideaki; Yamada, Katsuya; Synthesis of 2-NBDLG, a fluorescent derivative of L-glucosamine; the antipode of D-glucose tracer 2-NBDG. **Tetrahedron Lett.** 2008,49:p.6876-6878.

2009 年度

A.1. Kurata, K.: Conditional selection of contra- and ipsilateral forelimb movements by the dorsal premotor cortex in monkeys. J. Neurophysiol. 103: 262-277, 2010. PMID: 19889843

B.2. Shinomoto S, Kim H, Shimokawa T, Matsuno N, Funahashi S, Shima K, Fujita I, Tamura H, Doi T, Kawano K, Inaba N, Fukushima K, Kurkin S, Kurata K, Taira M, Tsutsui K, Komatsu H, Ogawa T, Koida K, Tanji J, Toyama K.: Relating neuronal firing patterns to functional differentiation of cerebral cortex. PLoS Computational Biology 5: e1000433, 2009. PMID: 19593378

和文

2009 年度

B.1. 菅世智子，山田勝也．マウス中脳黒質から急性単離した GABA 作動性ニューロンのグルコース感受性応答 ―穿孔パッチクランプ法による解析―．弘前医療福祉大学紀要　2009;1:67-76.

（2）総説

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 山田勝也．脳とブドウ糖 ～蛍光分子を用いたグルコース輸送研究の新展開～．Priming BioMedicine 2008,3: p.13-24.

2009 年度

A.1. 蔵田　潔．前頭前野．Clinical Neuroscience 27:789-793,2009.

A.2. 山田勝也．大脳基底核におけるグルコース代謝．Brain and Nerve 2009;61:381-388.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Tetrahedron Lett.	2.615	1	2.615
Total		1	2.615

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J. Neurophysiol	3.68	1	3.68
PLoS Computational Biology	5.895	1	5.895
Total		2	9.575

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
Priming BioMedicine	1	
Clinical Neuroscience		1
Brain and Nerve		1
計	1	2

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
弘前医療福祉大学紀要		1
計	0	1

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008 年度

B.1. Yamada, K. A new method for imaging glucose transport in live cells. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Aomori, Japan. 2008.
B.2. Yamada, K. Neocortical thin arteriogenesis and activity- dependent cerebral blood flow increase. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, Satellite Workshop.（弘前国際医学フォーラムサテライトワークショップ）Ajigasawa, Aomori, Japan. 2009.
C.1. Yamada, K. Imaging glucose uptake into single, living mammaliancells. NIPS-JST 国際ワークショップ -From photon to mind-. Advanced Nonlinear Imaging and Fluorescence-based Biosensors. Okazaki, Aichi, Japan. 2008.
C.2. Yamada, K. A tight spatio-temporal coupling of cortical thin penetrating arterioles and neuronal activity-dependent local cerebral blood flow increase. The 36th Annual Conference International Society on Oxygen Transport to Tissue. (ISOTT2008) Sapporo, Hokkaido, Japan. 2008.
C.3. Ninokura, Y. and Graybiel, A.M., Effects of explicit and implicit instruction of multiple targets in numerical representation in the macaque caudate nucleus. Neuroscience 2008, Washington DC, 2008.

2009 年度

A.1. Yamada, K. Cellular Imaging of Metabolic Communications. XXIVth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function & IXth International Conference on Quantification of Brain Function with PET. Chicago, IL, USA. 2009.（教育講演）
A.2. Yamada, K. Gliotransmitter release in response to dopamine. The 32nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Satellite Symposium. The Basal Ganglia in Health & Disease. Aichi, Japan. 2009.
C.1. Kurata, K. Adaptive visuomotor transformations for reaching in human brain revealed by MEG. Int. Union Physiol. Sci. Kyoto, July 27, 2009.
C.2. Kurata, K. Differential Roles of the PMd and PMv in Reaching. Neural Control of Movement, Waikoloa, Hawaii, USA, 2009.
C.3. Yamada, K, Yamamoto T, Watanabe S, Nishiuchi Y, Teshima T, Matsuoka H, Suga S. Imaging stereospecific uptake of glucose using fluorescent D- and L-glucose analogues. The 36th Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS 2009). Kyoto, Japan. 2009.
C.4. Ninokura, Y. and Graybiel, A.M., Effects of explicit and implicit instruction of multiple targets in numerical representation in the macaque caudate nucleus. The Society of Neural control of movements 19th Annual Conference 2009, Hawaii, 2009.

（2）全国学術集会

2008 年度

C.　6 件

2009 年度

B.1. 山田勝也．蛍光グルコース誘導体による単一細胞グルコース輸送の可視化．第 13 回酸素ダイナミクス研究会．東京．2009.（シンポジウム講演）
B.2. 山田勝也．神経系細胞への細胞外グルコース取り込みイメージング．Neuroscience 2009．愛知．2009.（企画シンポジウム講演）
B.3. 山田勝也．高頻度発火単一神経細胞におけるブドウ糖供給のリアルタイムイメージング．第 21 回日本脳循環代謝学会総会．大阪．2009.（会長指名シンポジウム講演）
B.4. 山田勝也．高頻度発火単一神経細胞におけるブドウ糖供給のリアルタイムイメージング．Cerebral Blood Flow and Metabolism（日本脳循環代謝学会機関誌）(in press).
B.5.「尾状核における神経活動の数的表現」自然科学研究機構 生理学研究所共同利用研究会「大脳皮質－大脳基底核連関と前頭葉機能」（第 3 回）生理学研究所．岡崎．2009.
C. 12 件

Ⅲ．学術賞

2008 年度

（財）光科学技術研究振興財団 研究助成金 受賞者：山田勝也
「蛍光指示グルコースを用いた細胞間メタボリックコミュニケーションの解析」

Ⅳ．共同研究

2008 年度

1. 弘前大学医学部神経精神医学講座（脳磁図による高次認知機能に関する研究）
2. 京都大学理学部物理学講座（ニューロン活動の統計学的分析に関する研究）
3. 京都大学大学院医学研究科　糖尿病・栄養内科（稲垣暢也教授）
   研究課題
   「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
   （当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
   「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
4. 神戸大学大学院医学研究科　細胞分子医学（清野進教授）
   研究課題
   「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
   （当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
5. 北海道大学大学院医学研究科　機能形態学講座（渡辺雅彦教授）
   研究課題
   「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
   （当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
6. 岩手大学　農学部獣医学科　細胞システム学（山本欣朗教授）
   研究課題
   「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
7. 自然科学研究機構　岡崎統合バイオサイエンスセンター　細胞生理研究室
   研究課題
   「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
   「遺伝子改変マウスの脳波解析」
8. 守秘義務があるため非公開
   研究課題「組織中の細胞外グルコース濃度計測」
9. ㈱ペプチド研究所（山本敏弘研究室長）
   研究課題「蛍光ブドウ糖トレーサー法の実用化技術の開発」
10. 東京農工大学　工学府生命工学専攻細胞機能工学（松岡英明教授）
    研究課題「蛍光ブドウ糖トレーサー法の実用化技術の開発」

2009 年度

1. 弘前大学医学部神経精神医学講座（脳磁図による高次認知機能に関する研究
2. 京都大学理学部物理学講座（ニューロン活動の統計学的分析に関する研究）
3. 京都大学大学院医学研究科　糖尿病・栄養内科（稲垣暢也教授）
   研究課題
   「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
   （当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
   「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
4. 神戸大学大学院医学研究科　細胞分子医学（清野進教授）
   研究課題
   「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
   （当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
5. 北海道大学大学院医学研究科　機能形態学講座（渡辺雅彦教授）
   研究課題
   「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
   （当該研究単位の代表研究者：山田勝也）

6. 岩手大学　農学部獣医学科　細胞システム学（山本欣朗教授）
研究課題
「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
7. 自然科学研究機構　岡崎統合バイオサイエンスセンター　細胞生理研究室
研究課題
「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
「遺伝子改変マウスの脳波解析」
8. 守秘義務があるため非公開
研究課題「組織内における細胞外グルコース濃度計測」
9. ㈱ペプチド研究所（山本敏弘研究室長）
研究課題「蛍光ブドウ糖トレーサー法の実用化技術の開発」
10. 東京農工大学　工学府生命工学専攻細胞機能工学（松岡英明教授）
研究課題「蛍光ブドウ糖トレーサー法の実用化技術の開発」

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として

特定領域研究「脳の高次機能学（領域代表者：木村實教授）」
研究課題「眼と手の協調運動における制御中枢間の相互調節」
研究代表者　蔵田　潔
課題番号　18020002　2,700 千円

特定領域研究（統合脳）
研究課題「新規蛍光法による神経活動依存的グルコース供給の解析」
代表者　山田勝也　配分金 2008 年度　2,500 千円

特定領域研究（膜輸送）
研究課題「トランスポーターの輸送動態解析法に関する研究」
代表者　山田勝也　配分金 2008 年度　2,300 千円

基盤研究（C）
研究課題「活動依存的脳血流調節における皮質血管の役割と分子機構」
代表者　山田勝也　配分金 2008 年度　1,690 千円

研究種目：（若手スタートアップ）
研究課題名：前頭前野における動作系列の企画過程の解明
研究代表者：二ノ倉 欣久
課題番号 20800003
配分額：1,742（千円）

他研究単位との研究分担者として

基盤研究（B）
分担研究者（研究代表者　矢部博興）
統合失調症における感覚記憶内の時間軸異常に関する研究
課題番号　193902991
分担研究費　100,000 円

2009 年度

研究代表者として

特定領域研究（統合脳）「眼と手の協調運動における制御中枢間の相互調節」
蔵田　潔　2,700 千円

特定領域研究（統合脳）「新規蛍光法による神経活動依存的グルコース供給の解析」山田勝也　2,500 千円

特定領域研究（膜輸送）「トランスポーターの輸送動態解析法に関する研究」山田勝也　2,300 千円

若手スタートアップ
「前頭前野における動作系列の企画過程の解明」
二ノ倉 欣久　1,547（千円）

他研究単位との研究分担者として

基盤研究（B）「統合失調症における感覚記憶内の時間軸異常に関する研究」
蔵田　潔　（研究代表者　矢部博興）分担研究費　100,000 円

（2）その他の省庁からの研究費

2008 年度

研究代表者として
科学技術振興機構重点地域研究開発推進プログラム（育成研究）
研究課題「蛍光ブドウ糖トレーサー法の実用化技術の開発」
代表者　山田勝也　26,000 千円（2008 年度より　3 年間，総額 78,000 千円）

学術国際振興基金助成事業 B-3, 外国人研究者の招聘旅費・滞在費の助成（フランクフルト大学教授，神経科学研究所所長 ヨッケン・レーパー博士）
代表者　山田勝也　500 千円

学術国際振興基金助成事業 B-3, 外国人研究者の招聘旅費・滞在費の助成
（ブリティシュコロンビア大学教授，カナダ神経科学会議議長ブライアン・マクビカール博士）
代表者　山田勝也　500 千円

2009 年度

研究代表者として
科学技術振興機構重点地域研究開発推進プログラム（育成研究）「蛍光ブドウ糖トレーサー法の実用化技術の開発」山田勝也　26,000 千円（2008 年度より 3 年間　総額 78,000 千円）

（3）学内の研究助成

2008 年度

他研究単位との研究分担者として
弘前大学学長指定重点研究
研究課題「認知障害機構を知り解き治す国際拠点の創出」
（代表者：若林孝一）2008 年度配分額 400 千円

弘前大学自己点検評価に基づくインセンティブ配分
分担者 200 千円

2009 年度

他研究単位との研究分担者として
弘前大学機関研究「難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発」（代表者：若林孝一）
蔵田　潔　配分額 300 千円
弘前大学機関研究「難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発」（代表者：若林孝一）
山田勝也　配分額 300 千円

（4）民間の研究助成

2008 年度

研究代表者として
光科学技術研究振興財団研究助成金
研究課題「蛍光指示グルコースを用いた細胞間メタボリックコミュニケーションの解析」
代表者　山田勝也 2,000 千円

生理学研究所計画共同研究
研究課題「黒質網様部 GABA 作動性ニューロンの代謝依存的活動調節機構」
代表者　山田勝也 200 千円

2009 年度

研究代表者として
大学共同利用期間法人 自然科学研究機構 生理学研究所計画共同研究「黒質網様部 GABA 作動性ニューロンの代謝依存的活動調節機構」山田勝也 200 千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2008 年度

The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, Aomori, Japan, 2009 において，ブリティシュコロンビア大学教授・カナダ神経科学会議議長　ブライアン・マクビカール博士，フランクフルト大学教授・神経科学研究所所長　ヨッケン・レーパー博士の両名を招聘

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2008 年度

マサチューセッツ工科大学（アメリカ合衆国・6 ／ 24 ～ 9 ／ 25）

2009 年度

ブライアン・マクビカール博士　ブリティッシュコロンビア大学　カナダ　7.6-7.9 2009.

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2008 年度

東北生理談話会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

2008 年度

特許の出願
国内出願
発明の名称
「D- グルコースの細胞内への特異的な取り込みを評価するための方法」
出願番号
　特願 2008-205708
発明者
　山田勝也，豊島正，山本敏弘，松岡英明
出願日
　2008.8.8

2009 年度

特許の出願
国際特許
発明の名称：「METHOD FOR EVALUATING SPECIFIC INCORPORATION OF D-GLUCOSE INTO CELLS」
発　明　者：山田勝也，豊島正，山本敏弘，松岡英明
出　願　人：国立大学法人弘前大学，国立大学法人東京農工大学
出　願　国：PCT 出願（みなし全指定）
出 願 番 号：PCT/JP2009/064053

出　願　日：2009.8.7
公 開 番 号：WO 2010/016587 A1
公　開　日：2010.2.11

特許（国内優先権主張出願）
発明の名称：「D- グルコースの細胞内への特異的な取り込みを評価するための方法」
発　明　者：山田勝也，豊島正，山本敏弘，松岡英明
出　願　人：国立大学法人弘前大学，㈱ペプチド研究所，
　　国立大学法人東京農工大学
優先権主張国：日本
出 願 番 号：特願 2009-185010
　　（基礎となる出願　特願 2008-205708　主張日 2008.8.8）
出　願　日：2009.8.7
公 開 番 号：特開 2010-57484
公　開　日：2010.3.18
商品化・実用化有

４．ゲノム生化学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1　グルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットを用いて，ペルオキシソーム増殖剤に対する肝発がん感受性は，アラキドン酸代謝や肝非実質細胞の反応性など，複数の要因によることを明らかにした。ヒト肝の同薬剤に対する低反応性は，アラキドン酸代謝の低下による可能性が示唆された。

2　ペルオキシソーム増殖剤によるラット肝発がん過程は，早期の二頭酵素陰性巣の出現と後期のグルタチオン S-トランスフェラーゼ A4 発現の少なくとも二段階で進行することを明らかにした。さらに，遺伝毒性発がん剤によるラット肝前がん病変でもグルタチオン S-トランスフェラーゼ A4 は発現することを明らかにした。従来，ペルオキシソーム増殖剤と遺伝毒性発がん剤によるラット肝発がん過程は異なると考えられていたが，ペルオキシソーム増殖剤による後期の病変は，遺伝毒性発がん剤による病変と類似することを見い出した。

3　弘前ヘアレスラットに抗体産生細胞の低下，T 細胞の分化異常があることを明らかにした。T 細胞の分化異常は，胸腺上皮の異常による可能性が示唆される。弘前ヘアレスラットは，免疫系と上皮細胞の関係を解析するモデルとして有用と考えられた。

4　弘前ヘアレスラットにおける乳腺退縮に係わる要因として，ケラチン遺伝子の異常，アラキドン酸産生酵素遺伝子の欠失，STAT5A の翻訳後修飾の変化などを明らかにした。

理念：

①　スタッフ，大学院学生，その他の人々の英知と創造力を結集して，学術的に意義のある国際的評価を得られる質の高い研究を行なう。

②　学内及び外国を含む学外との共同研究を積極的に行ない，教室の研究を深め，また新たな展開を図るように努める。

③　教室の研究成果を社会に還元するよう努め，また，研究成果の活用を通して，社会及び地域に貢献することを目指す。

④　これらの研究活動を通して教室員の研究能力の向上を図り，研究者としての倫理観と良心を備えたすぐれた研究者の養成，人材の育成に努める。

これから２年間の目標：

①　グルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットを用いて，ペルオキシソーム増殖剤の肝発がん機構（多段階発がん機構）を解明する。さらに遺伝毒性発がん剤の肝発がん機構との異同を明らかにする。

②　ペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性を短期間の投与で評価できる方法を開発する。ペルオキシソーム増殖剤のヒトでの低リスクがどのような要因によるか，解明を進める。

③　弘前ヘアレスラットの免疫異常を解明し，上皮細胞異常との関連を究明する。
　　免疫系と上皮細胞の関係を解析するモデルとしての有用性を明らかにする。

④　弘前ヘアレスラットの乳腺やそのほかの臓器の異常を調べ，原因遺伝子との関連，どのような疾患のモデルになるか検討する。

⑤　その他の教室の研究テーマを継続し，その進展に全力で取組む。

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　1			
教　員（教授~助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	土田　成紀	1 年間
	准教授	専　任	山田　俊幸	1 年間
	助　教	専　任	清水　武史	1 年間
研究課題	1. グルタチオン S-トランスフェラーゼの遺伝子多型と発がん感受性 2. ラット肝前がん病変のマーカーの開発 3. 弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明 4. Mitogen-activated protein kinase 経路の阻害タンパク質の機能 5. がん転移と血管新生におけるカルボニル還元酵素の役割 6. 弘前ヘアレスラットにおける免疫異常の解明 7. ETS ファミリー転写因子とホメオドメインタンパク質の相互作用と血球分化			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	土田　成紀	1 年間
	准教授	専　任	山田　俊幸	1 年間
	助　教	専　任	清水　武史	1 年間
研究課題	1. グルタチオン S-トランスフェラーゼの遺伝子多型と発がん感受性 2. ラット肝前がん病変のマーカーの開発 3. 弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明 4. 弘前ヘアレスラットにおける免疫異常の解明 5. ペルオキシソーム増殖剤によるラット肝発がん機構の解明 6. Mitogen-activated protein kinase 経路の阻害タンパク質の機能 7. がん転移と血管新生におけるカルボニル還元酵素の役割 8. ETS ファミリー転写因子とホメオドメインタンパク質の相互作用と血球分化			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Nanashima N, Akita M, Yamada T, Shimizu T, Nakano H, Fan Y and Tsuchida S. The hairless phenotype of the Hirosaki Hairless Rat is due to the deletion of an 80-kb genomic DNA containing five basic keratin genes. J. Biol. Chem. 283:16868-16875,2008.

A.2. Yamada T, Shimizu T, Sakurai T, Nanashima N, Kihara-Negishi F, Suzuki M, Fan Y, Akita M, Oikawa T and Tsuchida S. Physical and functional interactions between hematopoietic cell-specific ETS transcription factors and homeodomain proteins. Leuk. Res. 33:483-489,2009.

A.3. Fan Y, Yamada T, Shimizu T, Nanashima N, Akita M, Suto K and Tsuchida S. Ferritin expression in rat hepatocytes and Kupffer cells after lead nitrate treatment. Toxicol. Pathol. 37:209-217,2009.

A.4. Akita M, Nanashima N, Yamada T, Nakano H, Shimizu T, Fan Y and Tsuchida S. Characterization of hair follicles in Hirosaki hairless rats with deletion of basic hair keratin genes. Enlarged medulla, loss of cuticle and long catagen. Hirasaki Med. J. 60:1-11,2009.

2009 年度

A.1. Asano J, Kudo T, Shimizu T, Fan Y, Nanashima N, Yamana D, Miura T, Yamada T, Tsuchida S. Histone acetylation and steroid receptor coactivator expression during clofibrate-induced rat hepatocarcinogenesis. Cancer Science 101:869-75,2010.

A.2. Shimizu T, Fan Y, Yamana D, Miura T, Nanashima N, Yamada T, Tsuchida S. Glutathione S-transferase A4 is a positive marker for rat hepatic foci induced by clofibrate and genotoxic carcinogens. Cancer Science 101: 1093-8,2010.

B.1. Hashiguchi K, Tsuchiya H, Tomita A, Ueda C, Akechi Y, Sakabe T, Kurimasa A, Nozaki B, Yamada T, Tsuchida S, Shiota G. Involvement of ETS1 in thioredoxin-binding protein 2 transcription induced by a synthetic retinoid CD437 in human osteosarcoma cells. Biochem Biophys Res Commun 391:621-6,2010.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2009 年度

A.1. Yamada T, Tsuchida S. HOXC13 (Homeobox C13). Atlas Genet Cytogenet Oncol Haematol June 2009. URL:http://AtlasGeneticsOncology.org/Genes?HOXC13ID473ch12q13.html

和文

2008 年度

A.1. 清水武史, 范　　洋, 七島直樹, 秋田美季, 山田俊幸, 土田成紀. グルタチオン S-トランスフェラーゼ（GST）A4-4 は非遺伝子毒性および遺伝子毒性発がん剤によるラット肝前がん病変の陽性マーカーとなる. 第 28 回日本分子腫瘍マーカー研究会誌　2008;pp.78-9.

2009 年度

A.1. 清水武史，七島直樹，山田俊幸，三浦卓也，山名大輔，土田成紀. 遺伝子毒性および非遺伝子毒性物質によるラット肝前がん病変に出現するグルタチオン S-トランスフェラーゼ A4 遺伝子の転写因子の解析. 第 29 回日本分子腫瘍マーカー研究会誌　2009;pp.46-7.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Biol Chem	5.581	1	5.581
Leukemia Res	2.561	1	2.561
Toxicol Pathol	1.897	1	1.897
Hirosaki Med J	0	1	0
Total		4	10.039

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cancer Science	3.771	2	7.542
Biochem Biophys Res Commun	2.548	1	2.548
Total		3	10.09

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
な　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
日本分子腫瘍マーカー研究会誌	1	1
計	1	1

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008 年度

B.1. Tsuchida S, Fan Y, Shimizu T, Yamada T, Nanashima N, Akita M. Development of glutathione S-transferase-P-negative foci accompanying nuclear factor-erythroid 2-related factor 2 expression during early stage of rat hepatocarcinogenesis. GST 2008, August 21-23, 2008, Uppsala, Sweden

（2）全国学術集会

2008 年度

B.1. 清水武史, 范　　洋, 七島直樹, 秋田美季, 山田俊幸, 土田成紀. グルタチオン S-トランスフェラーゼ（GST）A4-4 は非遺伝子毒性および遺伝子毒性発がん剤によるラット肝前がん病変の陽性マーカーとなる，第 28 回日本分子腫瘍マーカー研究会，平成 20 年 10 月 27 日，名古屋

C.　8 件

2009 年度

C.　11 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008 年度

清水武史
東北化学薬品株式会社，第二営業部
遺伝子毒性物質および非遺伝子毒性物質による前がん病変を検出する新規マーカーの開発

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

2008 年度

研究代表者として
土田 成紀
内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究
「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」 1,150 万円
他研究単位との研究分担者として
山田俊幸
内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究
「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」
清水武史
内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究
「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」

2009 年度

研究代表者として
土田 成紀
内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究
「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」 1,000 万円
他研究単位との研究分担者として
山田　俊幸
内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究
「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」
（研究代表者　土田 成紀）
清水　武史
内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究
「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」
（研究代表者　土田 成紀）

（3）学内の研究助成

2008 年度

研究代表者として
清水武史
平成 20 年度 学術国際振興基金助成金，地域産業科学技術の活性化推進事業，遺伝子毒性物質および非遺伝子毒性物質による前がん病変を検出する新規マーカーの開発，500 千円

他研究単位との研究分担者として
山田俊幸
平成 20 年度 学術国際振興基金助成金，地域産業科学技術の活性化推進事業，遺伝子毒性物質および非遺伝子毒性物質による前がん病変を検出する新規マーカーの開発
土田成紀
平成 20 年度 学術国際振興基金助成金，地域産業科学技術の活性化推進事業，遺伝子毒性物質および非遺伝子毒性物質による前がん病変を検出する新規マーカーの開発

2009 年度

医学部研究推進インセンテイブ経費　100 万円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2008 年度

范　　洋 （中国） 研究員（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 8 月 20 日）

d）外国研究機関の視察，研究参加（3 ヵ月未満）状況

2008 年度

土田 成紀　平成 20 年 8 月 21 日—平成 20 年 8 月 23 日　ウプサラ大学医学部，スウエーデン

e）外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

5．病態薬理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

（設定した目標）

1. Impact factor のついた学術雑誌に年 3 報以上の英文論文を発表。
2. 大学院生の研究指導と成果の迅速な論文化
3. 助手，技官への研究助言
4. 国際学会，全国レベルの学会等のシンポジウムで発表
5. 科学研究費あるいは他省庁の研究費に 1 件以上採択

（達成度）

1. IF のついた英文国際学術誌に 2008 年 6 報，2009 年に 5 報発表したので，十分に目標を達成したと考えられる。
2. 指導する大学院生が，国際会議にてシンポジウムのスピーカーに選ばれたことから，指導の成果があったと判断できる。また論文化も順調に実施できているので，目標の達成がなされたと考えている。
3. 日頃十分なディスカッションの時間を持つよう心掛けている。その成果は論文の形で発表されているので，やはり目標は達成されたと考えている。
4. 国際学会で 2 回，全国レベルの 10 回の発表を行ったので，目標を達成したと考えている。
5. 文科省の科研費 1 件，北東北三大学連携 1 件それぞれ採択された。これも目標達成と考えている。

理念：

1. 常に新しいテーマを模索すること。
2. 臨床を視野に入れた基礎研究を指向する。
3. 研究成果を教育に反映させる。
4. 共同研究を推進する。

これから2年間の目標：

1. Impact factor のついた学術雑誌に年 3 報以上の英文論文を発表。
2. 大学院生の研究指導と成果の迅速な論文化
3. 助教，技官への研究助言
4. 国際学会，全国レベルの学会等のシンポジウムで発表
5. 科学研究費あるいは他省庁の研究費に 1 件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	元村　　成	12 ヶ月
	准教授	専　任	古川　賢一	12 ヶ月
	助　教	専　任	瀬谷　和彦	12 ヶ月
	助　教	専　任	木村　正臣	12 ヶ月
研究課題	1．後縦靱帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム 2．血管平滑筋細胞の Ca^{2+} シグナリング 3．房室結節伝導の生理薬理 4．不整脈発症に関連する遺伝子発現変異と治療薬の作用点の解析 5．カルシウム拮抗薬の薬理 6．冠循環の生理薬理 7．天然生理活性物質の薬理作用の解析 8．心筋細胞アポトーシスのミトコンドリア内からの誘導機構の解明 9．心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索 10．異所性骨化のメカニズム解析			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　2			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	元村　　成	12 ヶ月
	准教授	専　任	古川　賢一	12 ヶ月
	助　教	専　任	瀬谷　和彦	12 ヶ月
	助　教	専　任	山田　雅大	12 ヶ月
研究課題	1．後縦靱帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム 2．血管平滑筋細胞の Ca^{2+} シグナリング 3．房室結節伝導の生理薬理 4．不整脈発症に関連する遺伝子発現変異と治療薬の作用点の解析 5．カルシウム拮抗薬の薬理 6．冠循環の生理薬理 7．天然生理活性物質の薬理作用の解析 8．心筋細胞アポトーシスのミトコンドリア内からの誘導機構の解明 9．心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索 10．異所性骨化のメカニズム解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Sawada T, Kishiya M, Kanemaru K, Yokoyama T, Ueyama K, Motomura S, Toh S and Furukawa K-I. Possible role of extracellular nucleotides in ectopic ossification of human spinal ligaments. Journal of Pharmacological Sciences 2008;106:152-161.

A.2. Kanemaru K, Seya K, Miki I, Motomura S and Furukawa K-I. Calcification of aortic smooth muscle cells isolated from spontaneously hypertensive rats. Journal of Pharmacological Sciences 2008; 106: 280-286.

A.3. Kishiya M, Sawada T, Kanemaru K, Kudo H, Numasawa T, Yokoyama T, Motomura S, Ueyama K, Harata S, Toh S and Furukawa K-I. A functional RNAi screen for runx2-regulated genes corresponding to ectopic bone formation in human spinal ligaments. Journal of Pharmacological Sciences 2008;106:404-414.

A.4. Furukawa K-I. Pharmacological aspect of ectopic ossification in spinal ligament tissues. Pharmacology & Therapeutics 2008;118:352-358.

A.5. Ono T, Kawaguchi Y, Kudo M, Kushikata T, Hashiba E, Yoshida H, Kudo T, Furukawa K-I, Douglas SA, Guerrini R, Calo G and Hirota K. Urotensin II evokes neurotransmitter release from rat cerebrocortical slices. Neuroscience Letters 2008;440:275-279.

A.6. Yokoyama J, Higuma T, Tomita H, Abe N, Oikawa K, Fujiwara T, Yokota T, Yokoyama H, Kimura M, Sasaki S, Hanada H, Osanai T, Okumura K. Impact of telmisartan on coronary stenting in patients with acute myocardial infarction compared with enalapril. Int J Cardiol 2009 Feb;132:114-120.

2009 年度

A.1. Seya K, Kanemaru K, Sugimoto C, Suzuki M, Takeo Teruko, Motomura S, Kitahara H, Niwa M, Oshima Y and Furukawa K-I. Opposite effects of two resveratrol tetramers, vitisin A and hopeaphenol on apoptosis of myocytes isolated from adult rat heart. Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics, 2009; 328:90-98.

A.2. Kishiya M, Furukawa K-I, Yokoyama T, Kudo H, Ono A, Numasawa T, Wada K and Toh S. Comparison of cardiovascular parameters between patients with ossification of posterior longitudinal ligament and patients with cervical spondylotic myelopathy. Journal of Spinal Disorders & Techniques 2009;22:361-366.

A.3. Niwa H, Sakai T, Furukawa K-I, Kanemaru K, Motomura S, Hirota K. DNA microarray analysis of the pro-inflammatory gene expression by ketamine in C6 cells. Hirosaki Medical Journal 2009;60:27-35.

B.1. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K-I, Ueno S and Hirota K. Orexin A decreases ketamine-induced anesthesia time in the rat; the relevance to brain noradrenergic neuronal activity. Anesthesia and Analgesia 2009;108:491-495.

B.2. Kawaguchi Y, Ono T, Kudo M, Kushikata T, Hashiba E, Yoshida H, Kudo T, Furukawa K-I, Douglas SA, Hirota K. Effects of benzodiazepines on urotensin II stimulated norepinephrine release from rat cerebrocortical slices. Anesthesia and Analgesia 2009;108:1177-1181.

B.3. Tose Y, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K-I, Ueno S, Hirota K. Interaction between orexinergic neurons and NMDA receptors in the control of locus coeruleus- cerebrocortical noradrenergic activity of the rat. Brain Research 2009;1250:81-87.

B.4. Osanai T, Tomita H, Yamada M, Tanaka M, Ashitate T, Echizen T, Katoh C, Magota K, Okumura K. Coupling factor 6-induced prostacyclin inhibition is enhanced in vascular smooth muscle cells from spontaneously hypertensive rats. Journal of Hypertension 2009;27:1823-1828.

和文

2008 年度

A.1. 瀬谷和彦．高齢者にはどう聞こえる？（薬局のための 高齢者ケアガイドブック）–（高齢者の特徴を知ろう），調剤と情報，14(10)：1183-1188（2008）
A.2. 分子レベルから見た整形外科疾患―脊柱靭帯骨化症に対する薬物治療のターゲットの検索，整形・災害外科，51(1)：2-3（2008）

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 元村　成.「カッツング薬理学」原書 10 版丸善 2009 年 3 月（分担翻訳）
A.2. 木村正臣，奥村　謙．不整脈のアブレーション治療　心房頻拍・非定期型心房粗動アブレーション，CARDIAC PRACTICE　2008;19:153-161　メディカルレビュー社（総説）
A.3. 木村正臣，奥村　謙．臨床現場における不整脈－実践対処法－心房粗動，不整脈クリニカルプラクティス 2009：168-179　南江堂（著書）
A.4. 佐々木真吾, 木村正臣, 奥村　謙．発作性上室性頻拍・心房粗動，　medicina 2009;46:109-114　医学書院（総説）

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Pharmacological Sciences	2.599	3	7.797
Pharmacology & Therapeutics	7.968	1	7.968
Neuroscience Letters	2.085	1	2.085
International Journal of Cardiology	2.878	1	2.878
Total		6	20.728

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Pharmacol. Exp. Therapeut.	4.309	1	4.309
J Spin Disord Tech	1.365	1	1.365
Hirosaki Medical Journal	0	1	0
Anesthesia and Analgesia	2.214	2	4.428
Brain Research	2.218	1	2.218
Journal of Hypertension	5.132	1	5.132
Total		7	17.452

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
調剤と情報	1	
整形・災害外科	1	
計	2	0

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	4	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008 年度

C.1. Seya, K., Ono, K., Fujisawa S., Motomura, S., Furukawa, K-I. Intracellular calcium ion regulates myocardial apoptosis induced by mitochondrial NO-cGMP pathway. 25th Annual Meeting of ISHR, Yokohama, Japan. 2008.

2009 年度

B.1. Kudo H, Furukawa K-I, Ono A, Numasawa T, Wada K, Tanaka S, Asari T, Motomura S, Toh S. Genetic differences in osteogenic differentiation potency based on the classification for the ossification of the posterior longitudinal ligament of the cervical spine. 56rd Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, New Orleans, Lousiana, USA, 2010.

C.1. Kudo, H, Furukawa, K-I, Ono, A, Numasawa, T, Wada, K, Tanaka, S, Motomura, S, Toh, S. Genetic Association in Progression of the Ossification Area of the Posterior Longitudinal Ligament of the Cervical Spine. 55rd Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, Las Vegas, Nevada, USA, 2009.

（2）全国学術集会

2008 年度

B.1. 古川賢一
“メカニカルストレスとしての高血圧と血管平滑筋の形質転換”
第 50 回 日本平滑筋学会
パネルディスカション『血管平滑筋のメカノトランスダクションについて』
オーガナイザー及びパネリストとして発表　弘前，2008

C.　8 件

2009 年度

C.　13 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008 年度

東北大学大学院薬学研究科（大島吉輝教授），名城大学薬学部（丹羽正武教授）：ブドウ科植物に含まれる機能性成分の薬理作用の解明
弘前大学教育学部（北原晴男教授）および大学院理工学研究科（川上淳准教授）：ニンニクに含まれる心臓保護作用を持つ成分の探索

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として
- 古川賢一　科研費基盤研究（C）／脊柱靭帯骨化症の薬物治療戦略を構築するための分子標的の探索　182 万円

2009 年度

研究代表者として
- 古川賢一　科研費基盤研究（C）／脊柱靭帯骨化症の薬物治療戦略を構築するための分子標的の探索　156 万円

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2009 年度

研究代表者として
- 元村　成　北東北国立大学 3 大学連携推進研究プロジェクト　40 万円

(4) 民間の研究助成

2008 年度

研究代表者として
- 元村　成　北東北国立 3 大学連携推進研究プロジェクト／遺伝子改変動物を用いた循環器系解析拠点の確立　200 万円

他研究単位との研究分担者として
- 古川賢一　北東北国立 3 大学連携推進研究プロジェクト／遺伝子改変動物を用いた循環器系解析拠点の確立　40 万円

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3 ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2008 年度

第 82 回 日本薬理学会 年会　2009 年 3 月 16 日－18 日（パシフィコ横浜）
（元村成 年会長，古川賢一 事務局長）

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

６．分子病態病理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

これまで行ってきた研究成果を学会発表でき，論文にまとめるところまできたが，掲載予定に留まった。
その他，症例報告や臨床研究についても，和文，英文論文として準備でき，経過は順調だが，2009 年度内にまとめれなかった。

神経内分泌細胞腫瘍を対象として，悪性腫瘍の細胞機能を標的とした治療を目指した分子診断法を確立することができた。

理念：

基礎研究では疾病の病態の解明や治療に影響を与えるような研究成果を得るように努める。
人体病理では，臨床病理学的な研究を並行させ，新しい知見を蓄積する。

悪性腫瘍の分子病態を明らかにし，新しい治療法の開発を目指すとともに，その治療に直結する病理診断を確立する。

これから２年間の目標：

基礎的な研究では継続的に英文論文を国際誌に 1 ～ 2 報目指す。
人体病理に関しては，学会発表とともに症例報告，臨床研究を数編報告する。

悪性腫瘍の分子病態には，細胞の分化・機能と増殖の，大きく二つの病態がある。細胞機能については，新しい治療標的分子を創出すべく，分子病態解析を行うとともに，分子診断と臨床効果のより詳細な解析を行う。細胞増殖については，増殖シグナルのみならず，細胞の不死化に関わる分子病態の理解と，治療標的分子の創出を目指す。

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	八木橋操六	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	准教授	専　任	和田　龍一	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	水上　浩哉	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	矢嶋　信久	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
研究課題	1．腫瘍・代謝・炎症性疾患の分子病理診断 2．腫瘍分子解析の分子標的医療への応用 3．糖尿病とその合併症の病理学的研究 4．膵疾患の病理学的研究 5．虚血・再灌流障害の機序と対策 6．消化管間質腫瘍の臨床病理学的研究 7．消化管膵神経内分泌細胞腫瘍の臨床病理学的研究			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	八木橋操六	
	准教授	専　任	和田　龍一	
	助　教	専　任	水上　浩哉	2009 年 4 月～ 2009 年 9 月
	講　師	専　任	水上　浩哉	2009 年 10 月～ 2010 年 3 月
	助　教	専　任	矢島　信久	
研究課題	1．腫瘍・代謝・炎症性疾患の分子病理診断 2．腫瘍分子解析の分子標的医療への応用 3．糖尿病とその合併症の病理学的研究 4．膵疾患の病理学的研究 5．虚血・再灌流障害の機序と対策 6．間葉系幹細胞の臨床応用に向けて			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Yamagishi S, Ogasawara S, Mizukami H, Yajima N, Wada R, Sugawara A, Yagihashi S. Correction of protein kinase C activity and macrophage migration in peripheral nerve by pioglitazone, peroxisome proliferator activated-gamma-ligand, in insulin-deficient diabetic rats. J Neurochem 2008;104(2):491-499.

A.2. Mizukami H, Wada R, Yonezawa A, Sugawara A, Yagihashi S. Suppression of post-prandial hyperglycaemia by pioglitazone improved islet fibrosis and macrophage migration in the Goto-Kakizaki rat. Diabetes Obes Metab 2008;10(9):791-794.

A.3. Mizukami H, Wada R, Koyama M, Takeo T, Suga S, Wakui M, Yagihashi S. Augmented beta cell loss and mitochondrial abnormalities in sucrose-fed GK rats. Virchows Arch 2008;452(4):383-392.

A.4. Wada R, Nakano N, Yajima N, Yoneyama T, Wakasaya Y, Murakami C, Yamato K, Yagihashi S. Granulomatous prostatitis due to Cryptococcus neoformans: diagnostic usefulness of special stains and molecular analysis of 18S rDNA. Prostate Cancer Prostatic Dis 2008;11(2):203-206.

A.5. Shirasaki T, Maruya S, Mizukami H, Kakehata S, Kurotaki H, Yagihashi S, Shinkawa H. Effects of small interfering RNA targeting thymidylate synthase on survival of ACC3 cells from salivary adenoid cystic carcinoma. BMC Cancer 2008;26;8:348-352.

B.1. Iijima M, Koike H, Hattori N, Tamakoshi A, Katsuno M, Tanaka F, Yamamoto M, Arimura K, Yagihashi S, Sobue G; Refractory Peripheral Neuropathy Study Group of Japan. Prevalence and incidence rates of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy in the Japanese population. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008;79(9):1040-1043.

2009 年度

A.1. Kawaguchi Y, Ebina M, Sato T, Ishiguro Y, Yagihashi S, Hirota K. A case of trigeminal neuralgia complicated by ipsilateral temporal arteritis. J Anesth 2010;24(1):139-42.

A.2. Miki Y, Mori F, Nunomura J, Ookawa K, Yajima N, Yagihashi S, Wakabayashi K. Sporadic amyotrophic lateral sclerosis with pallido-nigro-luysian degeneration:aTDP-43 immunohistochemical study. Neuropathology 2010;30(2):149-53.

A.3. Yajima N, Mizukami H, Wada R, Saito F, Yagihashi S. Small cell carcinoma with skeletal muscle differentiation of urinary bladder. Pathol Int 2009;59(10):748-51.

A.4. Minakawa S, Nakano H, Takeda H, Mizukami H, Yagihashi S, Satou T, Sawamura D. Chromosome 22q11.2 deletion syndrome associated with severe eczema. Clin ExpDermatol 2009;34(3):410-1.

B.1. Maruya S, Shirasaki T, Nagaki T, Kakehata S, Kurotaki H, Mizukami H, Shinkawa H. Differential expression of topoisomerase IIalpha protein in salivary gland carcinomas: histogenetic and prognostic implications. BMC Cancer. 2009;9:72.

和文

2008 年度

A.1. 杉本一博，八木橋操六，須田俊宏，保嶋　実．糖尿病性神経障害の病態と対策　2 型糖尿病性神経障害と心血管危険因子．糖尿病合併症，2007;21(2):116-119.

A.2. 小林正和，和田龍一，山崎彩子，八木橋裕弥，中野雅之，八木橋操六．肺腺癌における epidermal growth factor receptor の遺伝子異常と蛋白発現．日本胸部臨床，2009;68(2):172-180.

A.3. 水上浩哉，菅原亜希子，八木橋操六，井上敬介，澤登公勇．自然発症糖尿病 GK ラットの糖代謝・膵島病変に対するピタバスタチンの作用．Progress in Medicine　2008;28(4):999-1006.

A.4. 四釜育与，高橋誠司，八木橋信夫，矢嶋信久，和田龍一，八木橋操六．腋窩に発生した皮膚粘液癌の 1 例免疫染色による鑑別診断．皮膚科の臨床　50:1641-1644,2008.

A.5. 武藤　理，棟方正樹，設楽紘平，佐々木聡，嶋谷　泉，佐藤和則，葛西雅治，和田龍一，川村節子，坂田　優．R-CHOP 施行後狭窄を来した胃原発 diffuse large B-cell lymphoma の 1 例．癌と化学療法　36:283-285,2009.

B.1. 佐藤　譲，馬場正之，八木橋操六，須田俊宏，富永真琴，大門　真，渡辺　毅，岡　芳知，豊田隆謙．糖尿病神経障害の発症頻度と臨床診断におけるアキレス腱反射の意義　東北地方 15,000 人の実態調査．糖尿病　2008;50(11):799-806.

B.2. 貝森光大（青森県立中央病院 病理部），矢嶋信久，山岸晋一朗，八木橋操六，真里谷靖，永沢茂行，沼尾　宏，田辺和彦，石田　均，西田　淳，赤坂治枝，久留島徹大，三上泰徳．過去十年間の青森県立中央病院における切除膵腫瘍の臨床病理学的検討（第五報）　膵管内乳頭粘液性腫瘍の六例．青森県立中央病院医誌，2008;52(3):106-114.

B.3. 貝森光大（青森県立中央病院 病理部），矢嶋信久，山岸晋一朗，八木橋操六，真里谷靖，横山慶一，永澤茂行，赤坂治枝，三上泰徳，西田　淳，間瀬　豊．過去十年間の青森県立中央病院における切除膵腫瘍の臨床病理学的検討（第四報）　solid pseudopapillary tumor の二例．青森県立中央病院医誌　2008;52(3):99-105.

B.4. 馬場正之，佐藤　譲，八木橋操六，豊田隆謙．糖尿病性神経障害の頻度　東北地方 15,000 人の実態調査と痛覚に関する追跡調査．末梢神経　2008;19(2):362-364.

B.5. 額田　均，McMorranDenise，馬場正之，和田龍一，八木橋操六．ラット末梢神経の虚血・再灌流傷害に対する FK506（タクロリムス）の効果．末梢神経　2008;18(2):259-262.

B.6. 真里谷靖，貝森光大，矢嶋信久，八木橋操六，桧山美佐江，瀬川　恵，三上泰徳，畑山一郎，三上稔之，石川和子，黒滝日出一．過去十年間の青森県立中央病院における切除膵腫瘍の臨床病理学的検討（第六報）β-catenin 遺伝子点突然変を認めた solid pseudopapillary tumor の一例．青森県立中央病院医誌　2008;52(3)：115-118.

B.7. 八木橋操六，水上浩哉．日本人 2 型糖尿病患者の膵 β 細胞量 - その病理学的背景と病態の指標として -．2 型糖尿病における膵 β 細胞研究の進歩（寺内康夫編）7-17,2008.

B.8. 貝森光大，矢嶋信久，真里谷靖，寺沢儀男，久保恒明，赤木智昭，小倉和外，町田拓哉，奈良美保，佐々木義雄．当院における剖検例から（第一報）MDS 症例における消化管 GVHD．青森県立中央病院医誌　2008;53(1):8-13.

B.9. 會田久美子，高山留美子，笹島知大，安保　亘，工藤協志，間山　淳，矢嶋信久，貝森光大，山田雅文，川村信明，貴田みゆき．BCG 接種後に診断された慢性肉芽腫症（CGD:Chronic Granulomatous Disease）の 1 乳児例青森県立中央病院医誌　2008;53(1):8-13.

B.10. 檜山美佐江，斎藤千世子，永澤茂行，横山慶一，貝森光大，真里谷靖，今井　督，矢嶋信久．胃癌における腹腔洗浄細胞診に関する検討（第 2 報）CY1 の臨床と細胞病理学所見．青森県立中央病院医誌　2008;53(2):65-72.

B.11. 檜山美佐江，斎藤千世子，永澤茂行，横山慶一，貝森光大，真里谷靖，今井　督，矢嶋信久．胃癌における腹腔洗浄細胞診に関する検討（第 3 報）　ClassIII の臨床と細胞病理学所見．青森県立中央病院医誌　2008;53(3):122-128.

B.12. 四釜育与，高橋誠司，八木橋信夫，矢嶋信久，和田龍一，八木橋操六．腋窩に発生した皮膚粘液癌の 1 例　免疫染色による鑑別診断．皮膚科の臨床　2008;50(12):1641-1644.

B.13. 真里谷靖，坂本勇一，貝森光大，矢嶋信久，久保恒明，寺澤儀男，手代森隆一，檜山美佐江，斎藤千世子，高橋一人．PCR 法によるリンパ球系悪性腫瘍クロナリティーおよび BCL-2-IGH 融合遺伝子解析．青森県立中央病院医誌　2008;53(4):175-182.

2009 年度

A.1. 水上浩哉，山岸晋一朗，小笠原早織，稲葉　渉，八木橋操六．脂肪織由来間葉系幹細胞の単離と糖尿病ラット進行期神経障害への効果．末梢神経　2009;20:207-208.

A.2. 小林正和，和田龍一，山崎彩子，八木橋裕弥，中野雅之，八木橋操六．肺腺癌における epidermal growth factor receptor の遺伝子異常と蛋白発現．日本胸部臨床　68:172-180,2009.

B.1. 額田　均，馬場正之，小笠原早織，McMorran D，八木橋操六．高血圧と末梢神経障害：高血圧自然発症ラット末梢神経の虚血に対する脆弱性．末梢神経　2009;20:172-173.

B.2. 武藤　理，棟方正樹，設楽紘平，佐々木聡，嶋谷　泉，佐藤和則，葛西雅治，和田龍一，川村節子，坂田　優．R-CHOP 施行後狭窄を来した胃原発 diffuse large B-cell lymphoma の 1 例．癌と化学療法　36:283-285,2009.

(2) 総説

英文

2008 年度

A.1. Sugimoto K, Yasujima M, Yagihashi S. Role of advanced glycation end products in diabetic neuropathy. Curr Pharm Des 2008;14(10):953-96.

A.2. Yagihashi S, Yamagishi S, Wada R. Pathology and pathogenetic mechanisms of diabetic neuropathy: correlation with clinical signs and symptoms. Diabetes Res Clin Pract 2007;77 Suppl 1:S184-189.

和文

2008 年度

A.1. 八木橋操六．私の診療経験から　糖尿病神経障害の診かた・考え方　トータルケアへの道．臨牀と研究，2008;85(11):1651-1656.

A.2. 杉本一博，保嶋　実，八木橋操六．自律神経の障害とその検査　update. Clinical Neuroscience　2008;26(11):1230-1232.

2009 年度

A.1. 八木橋操六．糖尿病神経障害の病因と病態 Up-to-date．糖尿病　2010;53:76-78.

A.2. 八木橋操六．わかってきた合併症の病態とこれからの治療．神経障害を見逃さないために．内科　2010;105:80-85.

A.3. 八木橋操六，水上浩哉，中山義人．社会問題となった疾患と病理学．糖尿病，膵島変化をもとに疾患概念の変換へ．病理と臨床　2009;27(臨時増刊):246-252.

A.4. 八木橋操六．糖尿病・治療．実地医家による合併症の診療と管理．糖尿病神経障害の成因と治療．その新たな展開は．Medical Practice　2009;26:659-663.

A.5. 八木橋操六．日本人 2 型糖尿病の膵病理．β 細胞の脱落を防ぐために．弘前医学　2009;60:110-113.

A.6. 和田龍一．BRONJ．病理と臨床　27:1003-1005,2009.

A.7. 水上浩哉，八木橋操六．糖尿病血管合併症に対する基礎的アプローチ　脂肪由来間葉系幹細胞の単離と糖尿病合併症（神経障害）への応用，糖尿病合併症　23:183-186,2009.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 八木橋操六．糖尿病神経障害概論　豊田隆謙，八木橋操六編，糖尿病神経障害の新知識，東京医学社，東京，57-87 頁，2008.
A.2. 八木橋操六．糖尿病神経障害の病理・病態，新時代の糖尿病学(4)，河盛隆造編，日本臨床社，大阪，190-198 頁，2008.
A.3. 八木橋操六．糖尿病の疫学・病態・診断学の進歩　糖尿病の病理．新時代の糖尿病学(2)，河盛隆造編，日本臨床，大阪，26-32，2008.
A.4. 杉本一博，八木橋操六．糖尿病自律神経障害の治療　河盛隆造，岩本安彦編，糖尿病最新の治療 2007-2009，南江堂，東京，190-192，2007.
A.5. 八木橋操六．糖尿病多発神経障害の成因と診断　新しい展開．日本糖尿学会編，診断と治療社，東京，糖尿病学の進歩　42 号，205-212，2008.
A.6. 八木橋操六，水上浩哉．日本人 2 型糖尿病患者の膵 β 細胞量―その病理学的背景と病態の指標として．2 型糖尿病における膵 β 細胞研究の進歩．診断と治療社，寺内康夫編，東京，7-17，2008.

(4) その他

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 四釜育与（黒石市国民健康保険黒石病院 臨床検査科），高橋誠司，八木橋信夫，矢嶋信久，和田龍一，八木橋操六．腋窩に発生した皮膚粘液癌の 1 例　免疫染色による鑑別診断(原著論文 / 症例報告 / 抄録あり)．皮膚科の臨床　2008; 50(12):1641-1644.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Virchows Arch	2.251	1	2.251
Diabetes Obes Metab.	4.259	1	4.259
J Neurochem	4.5	1	4.5
Prostate Cancer Prostatic Dis	2.062	1	2.062
BMC Cancer	3.08	1	3.08
J Neurol Neurosurg Psychiatry	4.622	1	4.622
Current Pharm Des	4.414	1	4.414
Total		7	25.188

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Anesth	0.837	1	0.837
Neuropathology	1.727	1	1.727
Pathol Int	1.349	1	1.349
Clin Exp Dermatol	1.779	1	1.779
BMC Cancer	3.087	1	3.087
Total		5	8.779

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
末梢神経	2	2
青森県立中央病院医誌	7	
糖尿病	1	1
糖尿病合併症	1	1
日本胸部臨床	1	1
Progress in Medicine	1	
皮膚科の臨床	2	
癌と化学療法	1	1
2 型糖尿病における膵 β 細胞研究の進歩	1	
臨床と研究	1	
PROGRESS IN MEDICINE.	1	
内科		1

病理と臨床		2
Medical Practice		1
弘前医学		1
計	19	11

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
皮膚科の臨床	1	
計	1	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008 年度

B.1. Yagihashi S. Basic structural changes in animal models of diabetes. Neurodiab Satellite Program: Consensus meeting on indices of neuropathy in animal models of diabetes, Orvieto, Italy, September 2-4, 2008.

B.2. Yagihashi S. Neuropathy in transgenic and gene-targeting animal models. Neurodiab Satellite Program: Consensus meeting on indices of neuropathy in animal models of diabetes, Orvieto, Italy, September 2-4, 2008.

C.1. Yagihashi S, Yamagishi SI, Mizukami H, Ogasawara S, Chung S, Chung SK: Escape phenomenon from polyol pathway to other metabolic cascades may underlie nerve conduction delay in severely hyperglycemic AR-deficient mice. 68th American Diabetes Association, SanFrancisco, USA, June 6-10, 2008.

C.2. Yagihashi S, Mizukami H, Yamagishi SI, Sugawara A, Ogasawara S, Sugimoto K: The effect of transplantation of adipose tissue-derived mesenchymal stem cells on the established stage of experimental diabetic neuropathy. Orvieto, Italy

C.3. Mizukami H, Yamagishi SI, Sugawara A, Ogasawara S, Sugimoto K, Yagihashi S.The effect of transplantation of adipose tissue-derived mesenchymal stem cells on the established stage of experimental diabetic neuropathy. 44th Annual Meeting of European Association of Study of Diabetes, Rome, September 8-11, 2008.

2009 年度

A.1. Yagihashi S. Pathogenetic mechanisms of diabetic neuropathy and direction of treatment. 13th Korea-Japan Diabetes Symposium, Jeju, Korea, November 19-20, 2009.

A.2. Yagihashi S, Mizukami H, Takahashi K, Ogasawara S, Baba M, Sugimoto K, Mori H. Effects of adipose-tissue-derived mesenchymal stem cell transplantation on the established stage of experimental diabetic neuropathy in rats. 15th Meeting of International Peripheral Nerve Society, Wurzburg, Germany, July 3-10, 2009.

A.3. Yagihashi S, Mizukami H, Takahashi K, Ogasawara S, Baba M, Sugimoto K, Mori H. Enhanced nerve fiber regeneration and Neurotrophic support in experimental diabetic neuropathy transplanted with adipose-tissue-derived mesenchymal stem cells. 10th Symposium of International Satellite Symposium on Diabetic Neuropathy, Toronto, Oct 14-18, 2009.

A.4. Mizukami H, Inaba W, Sugawara A, Inoue K, Sawanobori K, Yagihashi S. Augmented beta cell loss in high fat diet-fed GK rats and its prevention by pitavastatin. 69th Scientific session annual meeting of American Diabetes Association, New Orleans, June 5-9, 2009.

（2）全国学術集会

2008 年度

A.1. 八木橋操六．ポリオール代謝ルネッサンス－ ARI の新しい臨床応用に向けて，第 81 回日本内分泌学会総会，5 月 17－18 日，青森市，2008 年

A.2. 和田龍一．3 Genotyping の臨床応用．GIST Expert Conference，大阪，2008 年 4 月 20 日

A.3. 和田龍一，矢嶋信久，水上浩哉，八木橋操六．下部消化管原発内分泌細胞腫瘍におけるソマトスタチンレセプターサブタイプ遺伝子発現．第 97 回日本病理学会，金沢，2008 年 5 月 15－17 日

A.4. 佐藤次生，和田龍一，矢嶋信久，水上浩哉，八木橋操六．散発性 Merkel cell carcinoma における polyomavirus の感染についての検討．第 25 回北日本病理研究会，弘前市，2008 年 5 月 31 日
A.5. 和田龍一，大和健二．前立腺針生検で診断しえた全身性クリプトコッカス感染症の 1 例．平成 20 年度弘前市医師会病理症例懇談会，弘前，2008 年 6 月 26 日
A.6. 和田龍一．甲状腺原発リンパ腫の一例．第 4 回青森悪性リンパ腫研究会 2008，弘前市，2008 年 6 月 27 日
A.7. 和田龍一．分子から見た乳癌の成り立ちと分子標的治療．第 26 回 乳腺疾患研究会，青森，2008 年 7 月 26 日
A.8. 和田龍一，中山義人，八木橋操六．病理組織標本を用いたソマトスタチンレセプターサブタイプ mRNA と蛋白発現解析．第 6 回消化管粘膜下腫瘍研究会，弘前，2008 年 9 月 12 日
B.1. 八木橋操六．糖尿病多発神経障害の成因と診断－新しい展開，第 42 回糖尿病学の進歩　シンポジウム，高松市，2 月 15－16 日，2008.
B.2. 八木橋操六，水上浩哉，山岸晋一朗，和田龍一，馬場正之，額田　均．糖尿病神経障害の成因と治療：炎症論からみた糖尿病性神経障害：新しい治療の方向を目指して．第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京国際フォーラム，東京，5 月 22－24 日，2008.
B.3. 水上浩哉，山岸晋一朗，小笠原早織，稲葉　渉，八木橋操六．脂肪織由来間葉系幹細胞の単離と糖尿病合併症（神経障害）への効果－．第 23 回日本糖尿病合併症学会，東京，日本都市センター，10 月 3－4 日，2008.
B.4. 八木橋操六．糖尿病末梢神経障害の最前線：糖尿病性神経障害の病態生理と病理．第 38 回日本臨床神経生理学会，神戸国際会議場，11 月 12－14 日，2008.
B.5. 八木橋操六．日本人 2 型糖尿病の膵病理―β 細胞の脱落を防ぐために(特別講演)，第 92 回弘前医学会総会，ホテルニューキャッスル，弘前市，6 月 14 日，2008.
B.6. 八木橋操六．糖尿病性神経障害の新しい展開―病態の理解に向けて，第 46 回日本糖尿病学会九州地方会，ランチョンセミナー，久留米市石橋文化センター，10 月 10 日，2008.
B.7. 八木橋操六：AGE と糖尿病神経障害．第 5 回 AGEs 研究会：文部科学省都市エリア産学連携促進事業（発展型）．久留米エリア．福岡県久留米市，11 月 21 日，2008.
B.8. 水上浩哉，八木橋操六．シンポジウム 5：糖尿病血管合併症の発症機序に対する基礎的アプローチ　脂肪由来間葉系幹細胞の単離と糖尿病合併症（神経障害）への効果．第 23 回日本糖尿病合併症学会，於東京，2008 年 10 月 3－4 日
C.　15 件

2009 年度

A.1. 水上浩哉，八木橋操六．シンポジウム 6：ミトコンドリア異常と糖尿病．ミトコンドリア異常と β 細胞．形態の視点から．第 52 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪，2009 年 5 月 21－24 日
A.2. 八木橋操六．シンポジウム：糖尿病性神経障害の成因と治療のイノベーション．糖尿病性神経障害の成因―Overview．第 24 回日本糖尿病合併症学会，岡山，2009 年 10 月 9－10 日
B.1. 水上浩哉．シンポジウム 6　ミトコンドリア異常と糖尿病ミトコンドリア異常と β 細胞　－形態の視点から－第 52 回日本糖尿病学会年次学術集会，於大阪，2009 年 5 月 21－24 日
B.2. 水上浩哉．シンポジウム 1：糖尿病性神経障害の成因と治療のイノベーション脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた糖尿病性神経障害克服へのアプローチ　第 24 回日本糖尿病合併症学会，於岡山，2009 年 10 月 9－10 日
C.　22 件

Ⅲ．学術賞

2009 年度

八木橋操六：2009 年 2 月，日本糖尿病・肥満動物学会米田賞
（Distinguished Investigator Award）
水上浩哉：第 23 回日本糖尿病動物・肥満学会　若手研究奨励賞
第 52 回日本糖尿病学会年次集会　プレジデントポスター受賞

Ⅳ．共同研究

2009 年度

八木橋操六：順天堂大学内科（綿田裕孝教授）・UCSF（USA）（Professor Michael German）
妊娠時の膵島増殖機構について

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として
和田龍一（基盤研究（C））
内皮細胞活性化因子 S1P を標的とした糖尿病合併症の実験的分子標的治療，継続　研究費 70 万円
水上浩哉（若手研究（B））
新規 2 型糖尿病動物モデル膵 β 細胞グルコシルトランスフェラーゼ欠損マウスの解析，1950(千)円

2009 年度

研究代表者として
水上浩哉：平成 21 年度 科学研究費，若手（B）170 万円
膵ベータ細胞スフィンゴ脂質受容体を標的とした新規 2 型糖尿病治療法の開発

（2）その他の省庁からの研究費

2008 年度

研究代表者として
厚生労働省科学研究費：糖尿病等戦略研究事業，糖尿病多発神経障害の臨床病期分類の確立と病期分類に基づいた治療ガイドラインの作成（全国多施設共同研究） 1000 万

他研究単位との研究分担者として
厚生労働省精神・神経疾患委託研究：難治性ニューロパチー研究班（鹿児島大学有村公良主任研究者）
分担研究：糖尿病神経障害の新規治療に関する研究　75 万

2009 年度

研究代表者として
八木橋操六：厚生労働省科学研究費
糖尿病等戦略研究事業，糖尿病多発神経障害の臨床病期分類の確立と病期分類に基づいた治療ガイドラインの作成（全国多施設共同研究） 1270 万

他研究単位との研究分担者として
八木橋操六：厚生労働省精神神経疾患委託研究：難治性ニューロパチー研究班（鹿児島大学有村公良主任研究者）分担研究：糖尿病神経障害の新規治療に関する研究　75 万

（3）学内の研究助成

2009 年度

研究代表者として
水上浩哉：平成 21 年度 弘前大学若手研究者支援事業　50 万円
GLP-1 の膵外分泌に対する影響とその制御
矢嶋信久：平成 21 年度 弘前大学若手研究者支援事業　50 万円

（4）民間の研究助成

2009 年度

研究代表者として
水上浩哉：2009 年度武田科学振興財団研究助成金 医学系研究奨励（生活習慣病）300 万円
脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた進行期糖尿病神経障害への治療の試み
第 17 回（平成 21 年度）膵臓病研究奨励賞　80 万円
GLP-1 の膵外分泌に対する影響とその制御

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2009 年度

北日本病理研究会

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

7．病理生命科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

2004 年 8 月により新教授着任となり，この 5 年余は，病理診断システムおよび学部教育・大学院教育の整備・再構築に重点が置かれた。研究面でも，ゼロからの立ち上げ時期を脱却しつつ，最近成果が出始めたといえる。当講座からの論文も徐々に出始めている。これら，講座再立ち上げ初期から中期への移行であることに鑑み，総合して判断すると，この 2 年間の達成度は，80％といえる。

理念：

A. 遺伝子発現の特異的制御を用いた病態解析学と，医療としての病理診断学とを融合する。

B. 将来の臨床応用を見据えた基礎的探索・研究，たとえば遺伝子治療の基礎的研究を行う。

これから2年間の目標：

2004 年 8 月に新教授着任となり，これまでの 5 年間余は，研究面では講座再立ち上げの苦しい時期を脱却しつつある。今後，特にこの 2 年間は，研究面を一層充実する時期と位置づけられる。科学研究費をはじめとする，研究費獲得にもさらに力を入れたい。具体的な研究内容としては，(1) 腫瘍の発育・進展の解明，(2) 腫瘍の増殖抑制と転移制御，(3) 機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御および細胞機能特性の解明，(4) 病的状態における生物時計（概日リズム）の重要性の解明を遂行する。講座所属の教員・大学院生のみならず，講座を越え大学全体を共同研究の視野に入れながら，幅広い研究を行いたい。また，研究結果は，着実に英文論文として，実績を重ねて行く。

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生（含：講座外大学院生）　6			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	鬼島　　宏	12ヶ月
	講　師	専　任	楠美　智巳	12ヶ月
	助　教	専　任	佐藤　冬樹	12ヶ月
研究課題	1．ヒト腫瘍の病理形態学的検討 2．消化器疾患の病理形態学的検討 3．ヒト腫瘍の増殖・分化に関わる因子の解明 4．ヒト腫瘍の増殖抑制と転移制御 5．機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御と細胞機能特性の解明 6．泌尿器科疾患の病理形態学的検討 7．骨・軟部疾患の病理形態学的検討 8．骨・軟骨形成のメカニズムの解明 9．癌細胞増殖に関わる時間遺伝子 DEC の機能 10．時間遺伝子の概日リズムにおける制御機構の解明			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生（含：講座外大学院生）　6			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	鬼島　　宏	12 ヶ月
	助　教	専　任	佐藤　冬樹	12 ヶ月
	助　教	専　任	諸橋　聡子	12 ヶ月
研究課題	1．ヒト腫瘍の病理形態学的検討 2．消化器疾患の病理形態学的検討 3．ヒト腫瘍の増殖・分化に関わる因子の解明 4．ヒト腫瘍の増殖抑制と転移制御 5．機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御と細胞機能特性の解明 6．乳腺甲状腺疾患の病理形態学的検討 7．泌尿器科疾患の病理形態学的検討 8．癌細胞増殖に関わる時間遺伝子 DEC の機能 9．血管新生に関わる時間遺伝子 DEC の機能 10．時間遺伝子の概日リズムにおける制御機構の解明			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Miyamoto K, Kusumi T, Sato F, Kawasaki H, Shibata S, Ohashi M, Hakamada K, Sasaki M, Kijima H. Decreased expression of claudin-1 is correlated with recurrence status in esophageal squamous cell carcinoma. Biomed Res. 2008;29:71-76.

A.2. Suzuki T, Sato F, Kondo J, Liu Y, Kusumi T, Fujimoto K, Kato Y, Sato T, Kijima H. Period is involved in the proliferation of human pancreatic MIA-PaCa2 cancer cells by TNF-alpha. Biomed Res. 2008;29:99-103.

A.3. Nishi T, Kusumi T, Tanaka M, Sato F, Sasaki M, Kudo H, Kijima H. Establishment of transplantable murine osteosarcoma cell line with endochondral ossification. Anticancer Res. 2008;28:1627-1631.

A.4. Kusumi T, Koie T, Tanaka M, Matsumoto K, Sato F, Kusumi A, Ohyama C, Kijima H. Immunohistochemical detection of carcinoma in radical prostatectomy specimens following hormone therapy. Pathol Int. 2008;58: 687-694.

A.5. Kondo J, Sato F, Kusumi T, Liu Y, Motonari O, Sato T, Kijima H. Claudin-1 expression is induced by tumor necrosis factor-alpha in human pancreatic cancer cells. Int J Mol Med. 2008;22:645-649.

B.1. Miura T, Hakamada K, Ohata T, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Ishido K, Ohashi M, Akasaka H, Jin H, Kubo N, Ono S, Kijima H, Sasaki M. Resection of a locally advanced hilar tumor and the hepatic artery after stepwise hepatic arterial embolization: A case report. World J Gastroenterol. 2008;14:3587-3590.

B.2. Nishime C, Ohnishi Y, Suemizu H, Tamaoki N, Kusumi T, Sato F, Yamazaki H, Nakamura M, Ueyama Y, Kijima H. In vivo chemotherapeutic profile of human gallbladder small cell carcinoma. Biomed Res. 2008;29: 251-256.

B.3. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Ueno S, Mori F, Takahara T, Saito R, Miura Y, Kishi A, Tomiyama M, Sato A, Kojima T, Fukuma G, Wakabayashi K, Hase K, Ohno H, Kijima H, Takano Y, Mitsudome A, Kaneko S, Hirose S. Rats harboring S284L Chrna4 mutation show attenuation of synaptic and extrasynaptic GABAergic transmission and exhibit the nocturnal frontal lobe epilepsy phenotype. J Neurosci. 2008;28:12465-12476.

B.4. Okada K, Kijima H, Imaizumi T, Hirabayashi K, Matsuyama M, Yazawa N, Oida Y, Dowaki S, Tobita K, Ohtani Y, Tanaka M, Inokuchi S, Makuuchi H. Stromal laminin-5gamma2 chain expression is associated with the wall-invasion pattern of gallbladder adenocarcinoma. Biomed Res. 2009;30:53-62.

B.5. Koie T, Yoneyama T, Hashimoto Y, Kamimura N, Kusumi T, Kijima H, Ohyama C. An aggressive course of Xp11 translocation renal cell carcinoma in a 28-year-old man. Int J Urol. 2009;16:333-335.

B.6. Okada K, Kijima H, Imaizumi T, Hirabayashi K, Matsuyama M, Yazawa N, Oida Y, Dowaki S, Tobita K, Ohtani Y, Tanaka M, Inokuchi S, Makuuchi H. Wall-invasion pattern correlates with survival of patients with gallbladder adenocarcinoma. Anticancer Res. 2009;29:685-691.

B.7. Noshiro M, Usui E, Kawamoto T, Sato F, Nakashima A, Ueshima T, Honda K, Fujimoto K, Honma S, Honma K, Makishima M, Kato Y. Liver X receptors（LXRalpha and LXRbeta）are potent regulators for hepatic Dec1 expression. Genes Cells. 2009;14:29-40.

2009 年度

A.1. Ohashi M, Kusumi T, Sato F, Kudo Y, Jin H, Akasaka H, Miyamoto K, Toyoki Y, Hakamada K, Kijima H. Expression of syndecan-1 and E-cadherin is inversely correlated with poor patient's prognosis and recurrent status of extrahepatic bile duct carcinoma. Biomed Res. 2009;30:79-86.

A.2. Sato F, Nagata C, Liu Y, Suzuki T, Kondo J, Morohashi S, Imaizumi T, Kato Y, Kijima H. PERIOD1（PER1）is an anti-apoptotic factor in human pancreatic and hepatic cancer cells. J Biochem. 2009;146:833-838.

A.3. Liu Y, Sato F, Kawamoto T, Fujimoto K, Morohashi S, Akasaka H, Kondo J, Wu Y, Noshiro M, Kato Y, Kijima H. Anti-apoptotic effect of the basic helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 in human breast cancer cells. Genes Cells. 2010 2010;15:315-325.

A.4. Hara S, Kijima H, Okada K, Igarashi Y. Invasive micropapillary variant of the gallbladder adenocarcinoma and its aggressive potential for lymph node metastasis. Biomed Res. 2010; 31: 89-95.

A.5. Jin H, Morohashi S, Sato F, Kudo Y, Akasaka H, Tsutsumi S, Ogasawara H, Miyamoto K, Wajima N, Kawasaki H, Hakamada K, Kijima H. Vimentin expression of esophageal squamous cell carcinoma and its aggressive potential for lymph node metastasis. Biomed Res. 2010;31:105-112.

B.1. Liu Y, Kudo K, Abe Y, Hu DL, Kijima H, Nakane A, Ono K. Inhibition of transforming growth factor-beta, hypoxia-inducible factor-1alpha and vascular endothelial growth factor reduced late rectal injury induced by irradiation. J Radiat Res. 2009;50:233-239.

B.2. Kudo K, Liu Y, Takahashi K, Tarusawa K, Osanai M, Hu DL, Kashiwakura I, Kijima H, Nakane A. Transplantation of mesenchymal stem cells to prevent radiation-induced intestinal injury in mice. J Radiat Res. 2010;51:73-79.

B.3. Mori F, Miki Y, Tanji K, Kusumi T, Kijima H, Wakabayashi K. Widespread occurrence of eosinophilic neuronal cytoplasmic inclusions in an asymptomatic adult: A novel ubiquitin-negative filamentous inclusion. Neuropathology. 2010; 30: 648-653.

C.1. Inoue S, Kijima H, Kidokoro M, Tanaka M, Suzuki Y, Motojuku M, Inokuchi S. The effectiveness of basic fibroblast growth factor in fibrin-based cultured skin substitute in vivo. J Burn Care Res. 2009;30:514-519.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 鬼島　宏．胆道．病理と臨床 2008;26(臨増):168-178.

A.2. 神　寛之，赤坂治枝，大橋大成，工藤康之，楠美智巳，鬼島　宏．食道癌組織発生．臨床消化器内科 2008;23:966-973.

A.3. 佐藤冬樹，鬼島　宏．腫瘍血管新生 ― VEGF に関する最近の知見―．病理と臨床　2008;26:516-517.

A.4. 工藤康之，原　精一，赤坂治枝，神　寛之，大橋大成，佐藤冬樹，楠美智巳，鬼島　宏．胆嚢腺筋腫症の病理．肝胆膵画像　2008;10:299-304.

A.5. 原　精一，大橋大成，神　寛之，工藤康之，佐藤冬樹，楠美智巳，五十嵐良典，鬼島　宏．小腸（炎症）．G.I.Research　2008;16:323-329.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2008 年度

A.1. Kusumi T, Minakawa M, Fukui K, Saito S, Ohashi M, Sato F, Fukuda I, Kijima H. Cardiac tumor comprising two components including typical myxoma and atypical hypercellularity suggesting a malignant change. Cardiovasc Pathol. 2008;18:369-374.

B.1. Asai S, Kijima H, Yamamoto S, Shiraishi S, Suzuki T, Maeda Y, Matsushita H, Miyachi H. Gastroduodenal intussusception secondary to pedunculated gastric carcinoma. J Ultrasound Med. 2008;27:673-676.

和文

2008 年度

A.1. 鬼島　宏，木村宣美，大高明史，土持ゲーリー法一，須藤新一．2008 POD Network/NCSPOD カンファレンスでの成果．21 世紀教育フォーラム　2009;4:61-70.

B.1. 齋藤淳一，小林直之，鬼島　宏，上山義人，岩田憲治，栗原英二 . 膵外性に発育し結腸合併切除を行った非機能性膵内分泌腫瘍の 1 例．臨床外科 2008; 63: 891-895.

B.2. 平尾良範，八木橋信夫，高谷俊一，小野塚直也，楠美智巳，鬼島　宏．乳腺紡錘細胞癌の 1 例．臨床外科 2008;63:1115-1118.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Mol Med	1.88	1	1.88
Biomed Res	1.083	2	2.166
Anticancer Res	1.39	1	1.39
Pathol Int	1.349	1	1.349
J Neurosci	7.452	1	7.452
Genes Cells	3.137	1	3.137
World J Gastroentero	2.081	1	2.081
Biomed Res	1.083	2	2.166
Anticancer Res	1.39	1	1.39
Int J Urol	0.982	1	0.982
Total		12	23.993

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biomed Res	1.083	3	3.249
J Biochem	1.878	1	1.878
Genes Cells	3.137	1	3.137
J Radiat Res	1.462	1	1.462
Neuropathology	1.727	1	1.727
Total		7	11.453

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
病理と臨床	2	
臨床消化器内科	1	
肝胆膵画像	1	
G.I.Research	1	
計	5	0

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pathol Int	1.349	1	1.349
J Ultrasound med	0	1	0
Total		2	1.349

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
21 世紀教育フォーラム	1	
臨床外科	2	
計	3	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008 年度

B.1. Hiroshi Kijima, Fuyuki Sato, Ujjal Kumar Bhawal, Takeshi Kawamoto, Katsumi Fujimoto, Tadaatsu Imaizumi, Tadanobu Imanaka, Jun Kondo, Satoru Koyanagi, Mitsuhide Noshiro, Hidemi Yoshida, Yukio Kato. Basic-helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 negatively regulates vascular endothelial growth factor expression. Symposium-1: Metabolism and stress response of the brain. 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, March 27-28, 2009 (presentation, March 27).

（2）全国学術集会

2008 年度

C.1. 佐藤冬樹，Bhawal UK, 近藤　潤，楠美智巳，加藤幸夫，鬼島　宏．低酸素下における bHLH 型転写因子 DEC2 と Vascular endothelial growth factore（VEGF）発現の制御機構．第 97 回日本病理学会総会，金沢，2008 年 5 月 17 日．（第 97 回日本病理学会会誌　2008;1:262）．

C.2. 楠美智巳，皆川正仁，福井康三，大橋大成，神　寛之，赤坂治枝，工藤康之，佐藤冬樹，鬼島　宏．二相性の組織像を示す心臓腫瘍．第 97 回日本病理学会総会，金沢，2008 年 5 月 15 日．（第 97 回日本病理学会会誌　2008;1:280）．

C.3. 喜友名正也，戸田隆義，鬼島　宏．横行結腸ポリープの形態を呈した神経節腫の 1 症例．第 97 回日本病理学会総会，金沢，2008 年 5 月 15 日．（第 97 回日本病理学会会誌　2008;1:304）．

C.4. 劉　　洋，佐藤冬樹，近藤　潤，楠美智巳，加藤幸夫，鬼島　宏．DEC1 is involved in the apoptosis and proliferation of human breast cancer MCF-7 cells by TNF-α．第 97 回日本病理学会総会，金沢，2008 年 5 月 16 日．（第 97 回日本病理学会会誌　2008;1:326）．

C.5. 奥寺光一，鎌田義正，鬼島　宏．肺原発の節外性濾胞辺縁帯リンパ腫の一例．第 97 回日本病理学会総会，金沢，2008 年 5 月 17 日．（第 97 回日本病理学会会誌　2008;1:377）．

C.6. Sato F, Bhawal UK, Kondo J, Kushumi T, Kato Y, Kijima H. BHLH transcription factor DEC2 negatively regulates vascular endothelial growth factor expression. 第 67 回日本癌学会学術総会，名古屋，2008 年 10 月 29 日．（Proceedings of 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2008）．

C.7. Yang L, Sato F, Kondo J, Kushumi T, Kato Y, Kijima H. DEC1 enhances TNF-alpha-mediated apoptosis of the human breast cancer MCF-7 cells. 第 67 回日本癌学会学術総会，名古屋，2008 年 10 月 29 日．（Proceedings of 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2008）．

C.8. Bhawal UK, Sato F, Ikoma T, Sasahira T, Kuniyasu H, Kijima H, Kubota E. DEC2 negatively regulates VEGF expression in oral squamous cell carcinoma. 第 67 回日本癌学会学術総会，名古屋，2008 年 10 月 29 日．（Proceedings of 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2008）．

C.　8 件

2009 年度

C.　8 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008 年度

1. 独立行政法人　産業技術総合研究所（つくば市）　田中真奈実　ブラディオン・プロジェクト　Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用：癌の早期診断および治療，治療後の長期予後モニターシステム開発
2. 東海大学　医学部　消化器外科　幕内博康　および　救命救急医学　猪口貞樹
ヒト消化器癌の発育・増殖進展に関わる病理形態学的解析
3. 広島大学　大学院医歯薬学総合研究科　口腔生化学講座　加藤幸夫
時計遺伝子 DEC ノックアウトマウスの解析
4. 神奈川歯科大学　顎顔面診断科学講座　槻木恵一，Bhawal UK　口腔癌における時計遺伝子 DEC の発現
5. 九州大学　大学院薬学研究院　薬剤学分野　小柳　悟
血小板由来増殖因子（PDGF）における DEC の機能
6. 弘前大学脳血管病態学講座　今泉忠淳　時計遺伝子 DEC とレチノイン酸誘導因子 RIG-I の分子制御機構

2009 年度

1. 独立行政法人　産業技術総合研究所（つくば市）　田中真奈実　ブラディオン・プロジェクト　Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用：癌の早期診断および治療，治療後の長期予後モニターシステム開発
2. 東海大学　医学部　消化器外科　幕内博康　および　救命救急医学　猪口貞樹
ヒト消化器癌の発育・増殖進展に関わる病理形態学的解析
3. 広島大学　大学院医歯薬学総合研究科　口腔生化学講座　加藤幸夫
時計遺伝子 DEC ノックアウトマウスの解析
4. 神奈川歯科大学　顎顔面診断科学講座　槻木恵一，Bhawal UK　口腔癌における時計遺伝子 DEC の発現
5. 九州大学　大学院薬学研究院　薬剤学分野　小柳　悟
血小板由来増殖因子（PDGF）における DEC の機能
6. 弘前大学脳血管病態学講座　今泉忠淳　時計遺伝子 DEC とレチノイン酸誘導因子 RIG-I の分子制御機構

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として

1. 基盤研究（C）　膵・胆道癌の増殖と腫瘍血管新生を制御する時計遺伝子　代表者・鬼島　宏　1,430 千円
2. 基盤研究（C）　離断性骨軟骨炎の病態：罹患関節による相違と病変の組織学的機序解明
代表者・楠美智巳　1,040 千円
3. 若手研究（B）　口腔癌の病態進展に関わる日内リズムの分子機構の確立　代表者・佐藤冬樹　910 千円

2009 年度

研究代表者として

1. 基盤研究（C） 膵・胆道癌の増殖と腫瘍血管新生を制御する時計遺伝子 代表者・鬼島 宏 1,100 千円
2. 若手研究（B） 口腔癌の病態進展に関わる日内リズムの分子機構の確立 代表者・佐藤冬樹 910 千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2008 年度

1 名（大学院生，中国医科大学）

2009 年度

1 名（大学院生，中国医科大学）

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

8．感染生体防御学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．理念

「研究は第三者から評価されて，はじめて生きるものである。

そのような意味合いも心に留め，斬新でユニークな，オンリーワンの研究を目指す。」としたが，その努力をしているがなかなか結果として結びついてこない。

2．これから 2 年間の目標

「研究基盤を充実させ，業績を伸ばす一方，新たな研究分野を模索する。」としたが，講座をあげて努力してきた。

理念：

研究は第三者から評価されて，はじめて生きるものである。

そのような意味合いも心に留め，斬新でユニークな，オンリーワンの研究を目指す。

これから２年間の目標：

研究基盤を充実させ，業績を伸ばす一方，新たな研究分野を模索する。

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生　1			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中根　明夫	20 年 4 月～ 21 年 3 月
	准教授	専　任	胡　　東良	20 年 4 月～ 21 年 3 月
	助　教	専　任	差波　拓志	20 年 4 月～ 21 年 3 月
	助　教	専　任	長内　理大	20 年 4 月～ 21 年 3 月
研究課題	1．リステリアの病原因子の網羅的解析 2．黄色ブドウ球菌感染防御機構の解析 3．ブドウ球菌エンテロトキシンの分子構造と生物活性の解析 4．リステリア感染モデルを用いた次世代ワクチンの開発 5．黄色ブドウ球菌感染に対するワクチンの開発 6．肥満における免疫系の調節 7．細菌感染ならびに炎症における先天免疫病原体認識機構の解析 8．線虫を用いた細菌感染における自然免疫機構の解析 9．プロテオグリカンの免疫系に対する作用の解析 10．抗菌性を有する天然由来成分の探索			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中根　明夫	21 年 4 月～ 22 年 3 月
	准教授	専　任	胡　　東良	21 年 4 月～ 22 年 3 月
	助　教	専　任	差波　拓志	21 年 4 月～ 22 年 3 月
	助　教	専　任	長内　理大	21 年 4 月～ 22 年 3 月
研究課題	1．リステリアの病原因子の網羅的解析 2．黄色ブドウ球菌感染防御機構の解析 3．ブドウ球菌エンテロトキシンの分子構造と生物活性の解析 4．リステリア感染モデルを用いた次世代ワクチンの開発 5．黄色ブドウ球菌感染に対するワクチンの開発 6．肥満における免疫系の調節 7．細菌感染ならびに炎症における先天免疫病原体認識機構の解析 8．線虫を用いた細菌感染における自然免疫機構の解析 9．プロテオグリカンの免疫系に対する作用の解析 10．抗菌性を有する天然由来成分の探索			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Hu D-L, Omoe K, Inoue F, Kasai T, Yasujima M, Shinagawa K, Nakane A. Comparative prevalence of superantigenic toxin genes in meticillin-resistant and meticillin-susceptible *Staphylococcus aureus* isolates. J Med Microbiol 57(9):1106-12,2008.

A.2. Hu D-L, Omoe K, Sashinami H, Shinagawa K, Nakane A. Immunization with a nontoxic mutant of staphylococcal enterotoxin A, SEA D227A, protects against enterotoxin-induced emesis in house musk shrews. J Infect Dis 199(3):302-10,2009.

B.1. Ono H, Omoe K, Imanishi K, Iwakabe Y, Hu D-L, Kato H, Saito N, Nakane A, Uchiyama T, Shinagawa K. Identification and characterization of two novel staphylococcal enterotoxins, types S and T. Infect Immun 76(11):4999-5005,2008.

2009 年度

A.1. Liu Y, Kudo K, Abe Y, Hu D-L, Kijima H, Nakane A, Ono K. Inhibition of transforming growth factor-β, hypoxia inducible factor-1α and vascular endothelial growth factor reduced late rectal injury induced by irradiation. J Radiat Res 50(3):233-9,2009.

A.2. Hu D-L, Narita K, Hyodo M, Hayakawa Y, Nakane A, Karaolis DKR. c-di-GMP as vaccine adjuvant enhances protection against systemic methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) infection. Vaccine 27(35):4867-73,2009.

A.3. Satoh Y, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S, Nakane A. Cyclosporine regulates intestinal epithelial apoptosis via TGF-β-related signaling. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 297(3):G514-9,2009.

A.4. Kudo K, Liu Y, Takahashi K, Tarusawa K, Osanai M, Hu D-L, Kashiwakura I, Kijima H, Nakane A. Transplantation of mesenchymal stem cells to prevent radiation-induced intestinal injury in mice. J Radiat Res 51(1):73-9,2010.

B.1. Osanai A, Harada S, Sakamoto K, Shimizu H, Inaoka DK, Kita K. Crystallization of mitochondrial rhodoquinol-fumarate reductase from the parasitic nematode *Ascaris suum* with the specific inhibitor flutolanil. Acta Crystallogr Sect F Struct Biol Cryst Commun;65:941-4,2009.

B.2. Niikura M, Kamiya S, Nakane A, Kita K, Kobayashi F. IL-10 plays a crucial role for the protection of experimental cerebral malaria by co-infection with non-lethal malaria parasites. Int J Parasitol 40(1):101-108, 2010.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 差波拓志，中根明夫．肥満による感染防御能の低下．臨床免疫・アレルギー科　50(3):333-8,2008.

2009 年度

A.1. 中根明夫，胡　東良．ブドウ球菌エンテロトキシンの嘔吐誘導活性．化学の領域　25:779-788,2009.

A.2. 中根明夫．肥満・糖尿病における感染症．肥満と糖尿病　8:477-479,2009.

A.3. 中根明夫，差波拓志．肥満と感染防御能の関係は？　肥満と糖尿病　8:497-498,2009.

（3）著書

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 中根明夫，小熊恵二．抗原抗体反応―血清学的な側面から．医科免疫学（菊地浩吉，上出利光，小野江和則編集）．改訂第 6 版，東京：南光堂：2008，p.185-200.

A.2. 中根明夫．生体防御機構．医科細菌学（笹川千尋，林　哲也編集）．改訂第 4 版，東京：南光堂：2008，p.105-112.

A.3. 中根明夫．非特異的防御系．医科細菌学（笹川千尋，林　哲也編集）．改訂第 4 版，東京：南光堂：2008，p.112-119.

A.4. 中根明夫．免疫の破綻と感染症．医科細菌学（笹川千尋，林　哲也編集）．改訂第 4 版，東京：南光堂：2008，p.141-146.

A.5. 中根明夫．感染と免疫．コンパクト微生物学（小熊恵二，堀田　博編集）．改訂第 3 版，東京：南光堂：2009，p.32-45.

2009 年度

A.1. 中根明夫．「微生物の歴史」(p6-17)「微生物の種類と微生物の範囲」(p.20-21)「細菌の構造と機能」．平松啓一・中込　治編集「標準微生物学（第 10 版)」，東京：医学書院：2009，p.64-74.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

2008 年度

A.1. 中根明夫．サルモネラ属の菌体 O 抗原の病原性．日本医事新報　4430:118,2009.

2009 年度

A.1. 加藤博之，中根明夫，上野伸哉，大沢　弘，大串和久．医学部医学科 3 年生に対するチュートリアル導入授業―「ラージクラスチュートリアル」．21 世紀教育フォーラム　4:17-26,2009.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Med Microbiol	2.019	1	2.019
J Infect Dis	6.035	1	6.035
Infect Immun	3.996	1	3.996
Total		3	12.05

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Radiat Res	1.462	2	2.924
Vaccine	3.298	1	3.298
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	3.587	1	3.587
Int J Parasitol	3.752	1	3.752
Acta Crystallogr Sect F Struct Biol Cryst Commun	0.606	1	0.606
Total		6	14.167

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
臨床免疫・アレルギー科	1	
肥満と糖尿病		2
計	1	2

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	5	1

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
日本医事新報	1	
21 世紀教育フォーラム		1
計	1	1

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008 年度

C.1. Hu D-L, Omoe K, Shinagawa K, Nakane A. Staphylococcal enterotoxin A induces emesis through increasing serotonin release in intestine and endogenous cannabinoid system protects against emetic response. 13th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infections, Cairns, Australia, 2008.

C.2. Omoe K, Misu H, Saito M, Nukui T, Hu D-L, Nakane A. Shinagawa K. New SEB-encoding *Staphylococcus aureus* pathigenicity island. 13th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infections, Cairns, Australia, 2008.

C.3. Sawaya Y, Okabe T, Ono H, Nakane A. Antimicrobial activity of Nano Hiba Oil against human pathogens. IUMRS-ICA 2008, Nagoya, 2008.

2009 年度

A.1. 胡　東良，中根明夫．食品安全危害の新たな特徴と動物源性食品安全研究戦略．動物源性食品安全研究国際シンポジウム．特別講演．上海，中国．2009，11 月．

（2）全国学術集会

2008 年度

B.1. 中根明夫，差波拓志，浅野クリスナ．リステリア病原分子に対する宿主免疫応答．シンポジウム「細菌認識の分子基盤」第 73 回日本インターフェロン・サイトカイン学会・第 19 回日本生体防御学会・第 45 回補体シンポジウム合同総会，札幌，2008.

B.2. 胡　東良，重茂克彦，品川邦汎，中根明夫．ブドウ球菌エンテロトキシンの嘔吐誘導とその制御機序．第 2 回日本細菌学・若手コロッセウム，湘南，2008.

B.3. 小野久弥，重茂克彦，今西健一，胡　東良，加藤秀人，中根明夫，内山竹彦，品川邦汎．新規エンテロトキシン SES および SET の生物活性．第 55 回毒素シンポジウム，山梨，2008.

B.4. 小野久弥，重茂克彦，胡　東良，中根明夫，品川邦汎．ブドウ球菌エンテロトキシン A の腸管内動態．ワークショップ「黄色ブドウ球菌・溶連菌」第 82 回日本細菌学会総会，名古屋，2009.

C.　20 件

2009 年度

B.1. 長内理大，差波拓志，浅野クリスナ，李　勝軍，胡　東良，中根明夫．ワークショップ「自然免疫その多様性」．ペプチドグリカン認識タンパク質（PGLYRP-1）はリステリア感染において TNF-α，IFN-γ 産生を介して防御能にはたらく．第 74 回日本インターフェロン・サイトカイン学会　2009 年 6 月 26 日，京都.

B.2. 胡　東良，重茂克彦，差波拓志，品川邦汎，中根明夫．シンポジウム．無毒変異体ブドウ球菌エンテロトキシン A の免疫による嘔吐予防効果．第 56 回トキシンシンポジウム　2009 年 8 月 27 日，長良川.

B.3. 差波拓志，中根明夫．ワークショップ「臓器特異的自己免疫疾患」．サケ軟骨プロテオグリカンは Th17 と制御性 T 細胞の制御により EAE の重症化を抑制する．第 39 回日本免疫学会学術集会　2009 年 12 月 2 日，大阪.

B.4. 長内理大，差波拓志，浅野クリスナ，胡　東良，中根明夫．ワークショップ「細菌感染―各種 PAMP 受容体を介した自然免疫活性化機序を中心に」．ペプチドグリカン認識タンパク質 PGLYRP-1 は TNF-α 産生を介してリステリア感染に対する宿主自然免疫応答に寄与する．第 39 回日本免疫学会学術集会　2009 年 12 月 3 日，大阪.

C.　18 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008 年度

アンデス電気「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」

2009 年度

1.（株）イノセンス「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」
2. 大塚製薬「プロテオグリカンの糖尿病予防効果に関する研究」
3. サンスター「藍の抗菌作用に関する研究」

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として

中根明夫．基盤研究（B）「黄色ブドウ球菌エンテロトキシンファミリーの多様性とその意義」5,070 千円

中根明夫．都市エリア産学官連携促進事業一般型「QOL の向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発」7,817 千円

胡　東良．基盤研究（C）「ブドウ球菌エンテロトキシンの催吐分子メカニズムと細胞レセプターの究明」2,210 千円

2009 年度

研究代表者として

中根明夫．基盤研究（B）「黄色ブドウ球菌エンテロトキシンファミリーの多様性とその意義」5,720 千円

中根明夫．挑戦的萌芽研究「細胞内寄生性細菌に対する抗体治療戦略」1,500 千円

中根明夫．都市エリア産学官連携促進事業一般型「QOL の向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発」9,173 千円

胡　東良．基盤研究（C）「ブドウ球菌エンテロトキシンの催吐シグナル受容体とその分子伝達機構の解明」1,560 千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2008 年度

研究代表者として

差波拓志．平成 20 年度弘前大学若手萌芽研究「肥満が引き起こす感染抵抗性減弱の機序の解明」600 千円

他研究単位との研究分担者として

中根明夫．平成 20 年度学長指定重点研究「難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発」（代表：若林孝一）400 千円

2009 年度

研究代表者として

差波拓志．平成 21 年度弘前大学若手研究支援「肥満状態における脂肪細胞の免疫系に及ぼす作用の解析」500 千円

長内理大．平成 21 年度弘前大学若手研究支援「マウスペプチドグリカン認識タンパク質は自然免疫に必要不可欠か？」500 千円

他研究単位との研究分担者として

中根明夫．平成 21 年度弘前大学機関研究「難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発」（代表：若林孝一）600 千円

（4）民間の研究助成

2008 年度

研究代表者として

中根明夫．平成 20 年度学術国際振興基金助成事業・地域産業科学技術の活性化推進事業「食中毒の要因となる細菌類を検出するためのマルチタイプセンサーチップの開発」500 千円

中根明夫．ヤクルト本社「無毒変異体ブドウ球菌エンテロトキシン A の免疫による嘔吐抑制効果」300 千円

中根明夫．アンデス電気「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」420 千円

2009 年度

研究代表者として

中根明夫．大塚製薬「プロテオグリカンの薬理作用とその応用に関する研究」2,000 千円

中根明夫．ヤクルト本社「クランピングファクター A フィブリノーゲン結合領域ワクチンの黄色ブドウ球菌感染防御効果における IL-17 の役割」300 千円

中根明夫．イノセンス「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」100 千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2008 年度

ケニアからの文科省留学生（研究生）（Edward Kithela Maina）2008 年 10 月 1 日―2009 年 3 月 31 日

2009 年度

ケニアからの文科省留学生（大学院学生）（Edward Kithela Maina）2009 年 4 月 1 日―2010 年 3 月 31 日

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2009 年度

胡　東良．中国農業科学院動物源性食品安全研究センター設立式典．上海，中国．2009．11．6-10.

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

９．社会医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．岩木健康増進プロジェクトにおけるライフスタイルと健康に関する総合的研究：ほぼ良好に遂行した。
2．競技スポーツから健康スポーツまでを包括したスポーツ医学研究の展開。：順調に遂行した。
3．好中球活性酸素種産生能，サイトカイン等の動態に影響を及ぼす物質（薬物，ビタミン等），運動負荷（合宿，減量，マラソン等），ライフスタイルとその機序の研究。：ほぼ順調に遂行した。
4．院内がん登録，地域がん登録の充実。：順調に遂行した。
5．食物繊維の基礎的な消化吸収動態と大腸内における代謝を明らかにする。方法としては，これまで同様内視鏡的逆行性腸管挿管法を用いた小腸液灌流法と呼気水素測定法を用いて行う。食物繊維の体重コントロールに及ぼす効果についても検討したい。：順調に遂行し，ほぼ完了した。

理念：

疫学的研究面では，前述した岩木健康増進プロジェクトを継続するとともに，その研究成果を対象地域住民及び本県民の健康の維持・増進対策に役立てるものとしたい。また，スポーツ医学的研究面では，これまでと同様，様々な環境下で競技スポーツ選手により実施される運動と健康，疲労との関わりを明らかにするとともに，この結果を実際の競技スポーツ選手の健康管理，コンディショニングに役立てる実践的研究成果としたいと考えている。

これから２年間の目標：

今後もスポーツ，疫学に関する新たなフィールド調査を企画，実施するとともに，これまでに得た研究成果をまとめ，各種専門領域で発表，報告して行きたいと考えている。また，得られた研究成果をスポーツ現場や一般住民の健康とその管理に役立つものにし，今後の社会医学及びスポーツ医学のさらなる発展に寄与して行きたいと考えている。また院内がん登録の作業も進めていく。

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　40，研究生　4			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中路　重之	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	准教授	専　任	梅田　　孝	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	檀上　和真	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	松坂　方士	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	高橋　一平	休職
研究課題	1．癌の疫学（主要癌と食生活，喫煙，飲酒との関連） 2．公衆栄養（とくに食物繊維） 3．地域保健（青森県での全般的健康問題の把握，分析及び短命への対応策の構築） 4．スポーツ医学（競技スポーツ選手の減量，合宿時の調査） 5．免疫学的体力・適応力（特に好中球の活性酸素種産生能を指標としたもの）			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　3，助手　0，医員　0，大学院学生　56，研究生　11			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中路　重之	平成 21 年 4 月～ 22 年 3 月
	准教授	専　任	梅田　　孝	平成 21 年 4 月～ 22 年 3 月
	助　教	専　任	檀上　和真	平成 21 年 4 月～ 22 年 3 月
	助　教	専　任	高橋　一平	平成 21 年 4 月～ 22 年 3 月
	助　教	併　任	松坂　方士	平成 21 年 4 月～ 22 年 3 月
研究課題	1．癌の疫学（主要癌と食生活，喫煙，飲酒との関連） 2．公衆栄養（とくに食物繊維） 3．地域保健（青森県での全般的健康問題の把握，分析及び短命への対応策の構築） 4．スポーツ医学（競技スポーツ選手の減量，合宿時の調査） 5．免疫学的体力・適応力（特に好中球の活性酸素種産生能を指標としたもの）			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Takahashi Ippei, Matsuzaka Masashi, Umeda Takashi, Yamai Kiyonori, Nishimura Miya, Danjo Kazuma, Kogawa Terumi, Saito Kazuo, Sato Maki, Nakaji Shigeyuki. Differences in the influence of tobacco smoking on lung cancer between Japan and the United States of America: Possible explanations for the 'smoking paradox' in Japan. Public Health 2008;122(9):891-6.

A.2. Umeda Takashi, Suzukawa Kazuhiro, Takahashi Ippei, Yamamoto Yosuke, Tanabe Masaru, Kojima Arata, Katagiri Tomomi, Matsuzaka Masashi, Totsuka Manabu, Nakaji Shigeyuki, Sugawara Norio. Effects of intense exercise on the physiological and mental condition of female university judoists during a training camp. J Sports Sci 2008;26(9):897-904.

A.3. Shimaya Sen, Shimoyama Tadashi, Fukuda Shinsaku, Matsuzaka Masashi, Takahashi Ippei, Umeda Takashi, Chinda Daisuke, Saito Daisuke, Sakamoto Juichi, Nagura Taizo, Danjo Kazuma, Nakaji Shigeyuki. The recovery rate at the human terminal ileum of an orally administered non-digestive oligosaccharide (raffinose). International Journal of Food Sciences and Nutrition 2008;59(7):87-90.

A.4. Matsuzaka Masashi, Fukuda Shinsaku, Yamai Kiyonori, Tsuya Ryosuke, Fukuoka Yu, Takahashi Ippei, Yaegaki Makoto, Shimoyama Tadashi, Sakamoto Juichi, Umeda Takashi, Nakaji Shigeyuki. Are individuals with lower neutrophil oxidative burst activity more prone to Helicobacter pylori infection? Luminescence 2008;23(3):132-8.

A.5. Yaegaki Makoto, Umeda Takashi, Takahashi Ippei. Yamamoto Yosuke, Kojima Arata, Tanabe Masaru, Yamai Kiyonori, Matsuzaka Masashi, Sugawara Norio, Nakaji Shigeyuki. Measuring neutrophil functions might be a good predictive marker of overtraining in athletes. Luminescence 2008;23(5):281-6

A.6. Yamamoto Yosuke, Nakaji Shigeyuki, Umeda Takashi, Matsuzaka Masashi, Takahashi Ippei, Tanabe Masaru, Danjo Kazuma, Kojima Arata, Oyama Takao. Effects of long-term training on neutrophil function in male university judoists. Br J Sports Med. 2008;42(4):255-9.

A.7. Umeda Takashi, Saito Kazuo, Matsuzaka Masashi, Nakaji Shigeyuki, Totsuka Manabu, Okumura Toshiki, Tsukamoto Toshiaki, Yaegaki Makoto, Kudoh Umi, Takahashi Ippei. Effects of a bout of traditional and original sumo training on neutrophil immune function in amateur university sumo wrestlers. Luminescence. 2008;23:115-20

A.8. Umeda Takashi, Yamai Kiyonori, Takahashi Ippei, Kojima Aarata, Yamamoto Yosuke, Tanabe Masaru, Totsuka Manabu, Nakaji Shigeyuki, Sugawara Norio, Matsuzaka Masashi. The effects of a two-hour judo training session on the neutrophil immune functions in university judoists. Luminescence. 2008;23(1):49-53.

A.9. Danjo Kazuma, Sakamoto Juichi, Iwane Satoru, Tamura Ken, Nakaji Shigeyuki, Fukuda Shinsaku, Murakami Hirofumi, Shimoyama Tadashi, Takahashi Ippei, Umeda Takashi. Effects of cellulose supplementation on fecal consistency and fecal weight. Dig Dis Sci. 2008;53(3):712-8.

2009 年度

A.1. Kamitani H, Danjo K, Matsuzaka M, Yamai K, Iwasaki H, Takahashi I, Umeda T, Totsuka M, Nakaji S. The relationship between physical function and body composition/ exercise habit among community-dwelling women. J Phys Fit Nutr Immunol 2009;19(3):233-8.

A.2. Hirakawa Y, Danjo K, Matsuzaka M, Takahashi I, Umeda T, Tsukamoto T, Ishikawa A, Nakaji S. Relationship between respiratory function and body composition among the Japanese general population. J Phys Fit Nutr Immunol 2009;19(3):239-44.

A.3. Urushidate S, Takahashi I, Matsuzaka M, Danjo K, Umeda T, Inoue R, Yamai K, Nakaji S. J Phys Fit Nutr Immunol 2009;19(3):245-51.

A.4. Kojima A, Umeda T, Saito K, Ookubo Y, Sato J, Nakaji S, Matsuzaka M, Yaegaki M, Ohnishi M, Miyazawa M, Takahashi I. Effects of 2.5-hour sumo training on serum opsonic activity. Luminescence 2009;24(4):224-9.

A.5. Shimaya S, Shimoyama T, Fukuda S, Matsuzaka M, Takahashi I, Umeda T, Chinda D, Saito D, Sakamoto J, Nagura T, Danjo K, Nakaji S. The recovery rate at the human terminal ileum of an orally administered non-digestive oligosaccharide (raffinose). International Journal of Food Sciences and Nutrition 2009;60(4):344-51

B.1. Shimoyama T, Oyama T, Matsuzaka M, Danjo K, Nakaji S, Fukuda S. Comparison of a stool antigen test and serology for the diagnosis of Helicobacter pylori infection in mass survey. Helicobacter 2009;14(2):87-90.

和文

2008 年度

A.1. 古川照美，西村美八，中路重之，松坂方士，山居聖典，高橋一平，下山　克，福田真作，梅田　孝. *Helicobacter pylori* 感染と動脈硬化との関連に関する疫学研究：岩木健康増進プロジェクトにおける一般住民での検討. 体力・栄養・免疫学雑誌 2008;18:43-54.

A.2. 齋藤一雄，梅田　孝，松本　茂，小川光哉，小嶋新太，田辺　勝，山本洋祐，片桐朝美，高橋一平，中路重之. 格技系競技スポーツ選手による 2 時間の稽古の実施が身体的・精神的疲労の出現に及ぼす影響とその特性について　―大学相撲選手と柔道選手の比較―. 体力・栄養・免疫学雑誌 2008;18(1):3-13.

A.3. 田辺　勝，梅田　孝，高橋一平，山本洋祐，古賀稔彦，小嶋新太，斉藤一雄，鈴川一宏，三宅良輔，瀬尾京子，中路重之．高校柔道選手における身体組成の特性とコンディショニングについて．体力・栄養・免疫学雑誌 2008;18(2):99-105.

A.4. 中路重之．癌発生と食生活の関連性からみた癌予防．アンチ・エイジング医学 2008;4(3):336-340.

A.5. 鈴川一宏，小山内弘和，植木貴頼，越智英輔，野井真吾，梅田　孝，伊藤　孝，中路重之．学校生活や生活習慣および身体に関する意識調査　高校生における運動部所属の違いについて．日本体育大学体育研究所雑誌 2008;33:75-7.

B.1. 柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，樋口　毅，水沼英樹，中路重之．一般女性における脂質系と音響的骨評価値の相関に対する検討．Osteoporosis Japan（日本骨粗鬆症学会雑誌）1:432-5,2008.

B.2. 柞木田礼子，阿部和弘，樋口　毅，水沼英樹，中路重之．一般女性における脈波伝播速度とメタボリックシンドローム診断基準項目との相関について．日本更年期医学会雑誌 2008;16(S):109(2008.10)

B.3. 坂本夏海，佐々木亮，欠畑誠治，二井一則，南場淳司，新川秀一，高橋一平，松坂方士．岩木健康増進プロジェクトにおける聴覚検診の試み．Audiology Japan 2008;51:270-78.

2009 年度

A.1. 小山田和行，梅田　孝，山本洋祐，田辺　勝，小嶋新太，古賀稔彦，樗木武治，矢野智彦，野村忠宏，谷本歩実，山田　保，中路重之．大学柔道選手の強化合宿による身体的・精神的疲労の出現とその関連について－血液生化学検査値，POMS を用いた検討－．体力・栄養・免疫学雑誌　2009;19(1):22-31.

A.2. 瀬尾京子，梅田　孝，具志堅幸二，畠田好章，鈴川一宏，田中充洋，田辺　勝，松本秀彦，小山田和行，三宅良輔，高橋一平，中路重之．女子大学器械体操選手の安静時及び運動負荷後の身体的･精神的コンディションの特性と変化について．体力・栄養・免疫学雑誌　2009;19(2):71-80.

A.3. 珍田大輔，檀上和真，斎藤大輔，小山隆男，嶋谷　泉，下山　克，坂本十一，中路重之，福田眞作．内視鏡的逆行性腸管挿入法を用いた小腸液灌流法の検討　非吸収性マーカー polyethylene glycol の有用性について．消化と吸収　2009;31(2):198-202.

A.4. 中路重之，梅田　孝，高橋一平．がんの予防はどのようになされるべきか．臨床腫瘍プラクティス　2009;5(3):279-85.

A.5. 中路重之．青森県から見た日本の産業保健．産業医学ジャーナル　2009;32(4):97-8.

A.6. 鈴川一宏，小山内弘和，植木貴頼，越智英輔，野井真吾，梅田　孝，伊藤　孝，中路重之．高校生の運動部所属の有無が生活・健康状況に及ぼす影響．日本体育大学体育研究所雑誌　2009;34:87-93.

A.7. 鈴川一宏，西山哲成，越智英輔，梅田　孝，伊藤　孝，中路重之．幼児における運動や生活習慣が免疫能に与える影響　唾液中 SIgA からの検討．日本体育大学体育研究所雑誌　2009;34:81-5.

A.8. 中路重之，松坂方士，檀上和真．【最善の緩和医療をめざして】がん対策基本法による緩和ケア．臨床腫瘍プラクティス　2009;5(2):105-9.

A.9. 高橋一平，梅田　孝，鈴川一宏，小山内弘和，古賀稔彦，矢野智彦，野村忠宏，谷本歩実，瀬尾京子，田辺　勝，中路重之．大学運動選手の身体組成と競技特性について．臨床スポーツ医学　2009;26(11):1455-64.

B.1. 柞木田礼子，阿部和弘，樋口　毅，水沼英樹，中路重之．一般女性におけるサイトカインと音響的骨評価値の相関に関する検討．Osteoporosis Japan　2009;17(3):457-60.

B.2. 陳　俊輔，沼沢拓也，横山　徹，小野　睦，和田簡一郎，梅田　孝，高橋一平，中路重之，藤　　哲．健常者における 10 秒テストと身体機能の相関．臨床整形外科　2009;44(5):473-8.

(2) 総説

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 中路重之，梅田　孝，横山良仁．がんの疫学　子宮がん．臨床腫瘍プラクティス　2008;4:284-292.

A.2. 中路重之，檀上和眞，玉井佳子．がんの疫学 骨髄腫．臨床腫瘍プラクティス　2008;4:197-203.

A.3. 中路重之，梅田　孝，松坂方士．がんの疫学 膵がん．臨床腫瘍プラクティス　2008;4:104-10.

A.4. 松坂方士，中路重之，松谷秀哉．がんの疫学がん登録 その概要と青森方式の紹介．臨床腫瘍プラクティス 2008;4:73-83.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 中路重之，檀上和真，他共著：食物繊維：基礎と応用，第一出版，2008.

(4) その他

英文　なし

和文

2008 年度

A.1.「平成 20 年度　岩木健康増進プロジェクト　報告書」
A.2.「平成 20 年度三沢市立三沢病院委託研究報告書
A.3.「三沢市立三沢病院院内がん登録と青森県地域がん登録のリンクに伴う個人情報保護に関する方法論の検討」
A.4.「青森県がん医療・施設調査報告書」

2009 年度

A.1.「平成 21 年度　岩木健康増進プロジェクト　報告書」
A.2.「平成 21 年度三沢市立三沢病院委託研究報告書」
A.3. 平成 21 年度青森県国民健康保険団体連合会支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」研究成果報告書
A.4.「平成 21 年度　がん登録推進に係る調査研究　報告書」

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Public Health	1.029	1	1.029
J Sports Sci	1.441	1	1.441
International Journal of Food Sciences and Nutrition	0	0	0
Luminescence	1.317	4	5.268
Br J Sports Med	2.463	1	2.463
Dig Dis Sci	1.319	1	1.319
Total		8	11.52

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Phys Fit Nutr Immunol	0	3	0
Luminescence	1.183	1	1.183
International Journal of Food Sciences and Nutrition	0.91	1	0.91
Helicobacter	2.47	1	2.47
Total		6	4.563

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
体力・栄養・免疫学雑誌	3	2
アンチ・エイジング医学	1	
日本体育大学体育研究所雑誌	1	2
Osteoporosis Japan	1	1
日本更年期医学会雑誌	1	
臨床腫瘍プラクティス	4	2
消化と吸収		1
産業医学ジャーナル		1
臨床スポーツ医学		1
臨床整形外科		1
計	11	11

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
「平成 20 年度　岩木健康増進プロジェクト　報告書」	1	
「平成 20 年度三沢市立三沢病院委託研究報告書」	1	
「三沢市立三沢病院院内がん登録と青森県地域がん登録のリンクに伴う個人情報保護に関する方法論の検討」	1	
「青森県がん医療・施設調査報告書」	1	
「平成 21 年度　岩木健康増進プロジェクト　報告書」		1
「平成 21 年度三沢市立三沢病院委託研究報告書」		1
平成 21 年度青森県国民健康保険団体連合会支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」研究成果報告書		1
「平成 21 年度　がん登録推進に係る調査研究　報告書」		1
計	4	4

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008 年度

B.1. C. Shiroto, S. Nakaji, T. Umeda. Transition of devices of diode laser for pain attenuation in Japan. The IALMSS Symposium（5th）［New strategy for pain control］. Nov. 29, 2008, Tokyo.

B.2. T Yokoyama, A Ono, T Numasawa, K Wada, K Takeuchi, K Ueyama, S Toh, S Nakaji. Epidemiological Study of Symptoms Related to Cervical Myelopathy in Community. The Annual Meeting of the AUA, May2008, Orlando, FL, USA

B.3. T. Yokoyama, A. Ono, T. Numasawa, K. Wada, S. Toh, S. Nakaji, K. Ueyama. Relationship between axial symptoms and quality of life in a Japanese population. Spine week 2008, 2008.5/26-31, Geneve

C.1. K. Yamai, T. Umeda, R. Inoue, R. Tsuya, K. Iwane, K. Sumikawa, T. Shimoyama, J. Sakamoto, S. Fukuda, M. Matsuzaka, I. Takahashi, K. Danjo, S. Nakaji. The relationship between Helicobacter pylori infection and arterial stiffness in the Japanese general population (P0068). Helicobacter pylori: 16th United European Gastroenterology Week, October 18-22, 2008, Austria Center Vienna, Vienna, Austria

C.2. M. Matsuzaka, K. Danjo, K. Yamai, R. Tsuya, R. Inoue, K. Iwane, T. Koga, I. Takahashi, T. Shimoyama, J. Sakamoto, S. Fukuda, T. Umeda, S. Nakaji. Are individuals with lower neutrophil oxidative burst activity more prone to Helicobacter pylori infection?. 16th United European Gastroenterology Week October 18-22, 2008 Austria Center Vienna Vienna, Austria

C.3. M. Matsuzaka, K. Danjo, K. Yamai, R. Tsuya, R. Inoue, K. Iwane, T. Tsubakihara, I. Takahashi, T. Shimoyama, J. Sakamoto, S. Fukuda, T. Umeda, S. Nakaji. The positive association between chronic atrophic gastritis and serum opsonic activity of peripheral blood neutrophils. 16th United European Gastroenterology Week October 18-22, 2008 Austria Center Vienna Vienna, Austria

C.4. M. Matsuzaka, K. Danjo, K. Yamai, R. Tsuya, R. Inoue, K. Iwane, S. Kurauchi, I. Takahashi, T. Shimoyama, J. Sakamoto, S. Fukuda, T. Umeda, S. Nakaji. No association between green tea consumption and chronic atrophic gastritis: The Iwaki health promotion study. 16th United European Gastroenterology Week October 18-22, 2008 Austria Center Vienna Vienna, Austria

C.5. K. Danjo, M. Matsuzaka, K. Yamai, K. Iwane, R. Tsuya, R. Inoue, T. Yano, T. Kumagai, I. Takahashi, T. Umeda, S. Nakaji. The relationship between irritable bowel syndrome and depression among the general population in Japan (P1350). 16th United European Gastroenterology Week October 18-22, 2008 Austria Center Vienna Vienna, Austria

C.6. K. Yamai, T. Umeda, T. Shimoyama, J. Sakamoto, S. Fukuda, R. Inoue, R. Tsuya, K. Iwane, H. Ito, M. Matsuzaka, I. Takahashi, K. Danjo, S. Nakaji. The relationship between breath hydrogen and functional gastrointestinal disorders in the Japanese population (P1382). 16th United European Gastroenterology Week October 18-22, 2008 Austria Center Vienna Vienna, Austria

C.7. K. Yamai, T. Umeda, R. Inoue, R. Tsuya, K. Iwane, T. Chisyaki, M. Matsuzaka, I. Takahashi, K. Danjo, S. Nakaji. The prevalence of irritable bowel syndrome among the Japanese general population. 16th United European Gastroenterology Week October 18-22, 2008 Austria Center Vienna Vienna, Austria

C.8. C. Shiroto, S. Nakaji, T. Umeda. Transition of devices of diode laser for pain attenuation in Japan. 2nd Congress of the International Phototherapy Association. NZ Laser 2008, Laser Therapy & Phototherapy : from New Zealand to the World.Queenstown, New Zealand April 26-27th 2008

2009 年度

B.1. 中路重之．座長．第 18 回国際レーザー医学会．シンポジウム Sports and Laser Medicine．グランドヒル市ヶ谷 2009.12.3

（Nakaji S, Matsuzaka M, Takahashi I, Danjo K, Iwane K, Tsuya R, Yamai K, Iwasaki T, Hasebe T, Inoue R, Umeda T. Low-level Laser irradiation attenuates production of reactive oxygen species by human neutrophils.

The 18th World Congress of the International Society for Laser Surgery and Medicine, Tokyo, Japan, 2009.）

B.2. 梅田　孝．第 18 回国際レーザー医学会．シンポジウム Sports and Laser Medicine．グランドヒル市ヶ谷 2009.12.3

（Umeda T, Takahashi I, Matsuzaka M, Danjo K, Iwane K, Tsuya R, Yamai K, Iwasaki T, Hasebe T, Inoue R, Nakaji S. Assessments of physiological and psychoiologicl stresses in rugby players, marathon runners and judoists and application potentiakity of phototherapy to reduce those stresses. The 18th World Congress of the International Society for Laser Surgery and Medicine, Tokyo, Japan, 2009.）

C.1. Shiroto C, Nakaji S, Umeda T. Extended experience in diode laser therapy (LLLT) for pain attenuation. The 18th World Congress of the International Society for Laser Surgery and Medicine, Tokyo, Japan, 2009.

（2）全国学術集会

2008 年度

A.1. 中路重之．予防医学，健康科学からみた学校（健康）教育への提言．第 63 回日本体力医学会大会．教育講演 4．2008.9.20，別府ビーコンプラザ（別府市）．

A.2. 中路重之．研修 6「社会医学におけるスポーツ医学」第 18 回 弘前大学整形外科　夏の研修会．平成 20 年 7 月 31 日（木）～ 8 月 3 日（日）会場：国民宿舎・おおわに山荘

A.3. 中路重之．「地域におけるがん対策の問題点と対策 青森県における検討」一次，二次予防の観点から．第 57 回東北公衆衛生学会 特別講演 2008.07．青森市

A.4. 中路重之．特別講演「岩木健康増進プロジェクトでの腸内細菌の検討とその経緯」．第 2 回フローラテック研究会．2008．2．27．理化学研究所，和光市．

B.1. 梅田　孝，山本洋祐，古賀稔彦，田辺　勝，矢野智彦，瀬尾京子，三宅良輔，鈴川一宏，中路重之．競技スポーツ選手の健康管理とコンディショニングに対する低反応レベルレーザー応用の可能性について―さまざまな場面でのメディカルチェック結果を考慮した場合―．第 12 回日本レーザー・スポーツ医科学学会学術集会．シンポジウム「スポーツ医科学における電磁波（光線）の応用」東京，都市センターホテル，H20.11.29.

B.2. 梅田　孝，高橋一平，檀上和真，山居聖典，井上　亮，岩根かほり，中路重之．地域住民の生活習慣病の予防を目指す健康増進対策の取り組み―『岩木健康増進プロジェクト』を具体例として―．第12回日本レーザー・スポーツ医科学学会学術集会．シンポジウム「肥満・メタボリック症候群に対する取り組み」．東京，都市センターホテル，H20.11.29.

B.3. 山居聖典．運動による好中球機能の変動について．シンポジウム 2　運動・身体活動の指標としての免疫．第 63 回日本体力医学会大会．シンポジウム．2008.9.18，別府ビーコンプラザ（別府市）．

C.　45 件

2009 年度

B.　梅田　孝，山居聖典，古賀稔彦，田辺　勝，野村忠宏，瀬尾京子，高橋一平，檀上和真，松坂方士，中路重之．トップアスリートの健康管理とコンディショニングに対する低反応レベルレーザー応用の可能性について－長距離陸上選手及びプロサッカー選手を例として－．第 21 回日本レーザー治療学会，神戸市，2009.

C.　49 件

Ⅲ．学術賞

2008 年度

1. 檀上和真「競技力向上に向けた青森県スキー（アルペン，クロスカントリー）ジュニア選手のメディカルチェック」平成 20 年度青森県スポーツ医学研究会研究助成．H20.9.6
2. 檀上和真「第 17 回三島賞（体力・栄養・免疫学会学術賞）」．H20.8.31 体力・栄養・免疫学雑誌 17 巻 3 号掲載（The debate on the preventive effect of dietary fiber against colon cancer:Quo vadis?）

2009 年度

1. 第 24 回日本衛生学会奨励賞　梅田孝．「各種運動実施環境下における好中球機能動態の検討」
2. Umeda T. The good speech award, The 18th World Congress of the International Society for Laser Surgery and Medicine, Tokyo, Japan, 2009. 11.

Ⅳ．共同研究

2009 年度

1. 岩木健康増進プロジェクト　2009 年度事業　（弘前市）
2. 日本体育大学運動方法（柔道研究室，器械体操研究室，陸上競技研究室）とのスポーツ医科学研究
3. 全日本柔道連盟とのスポーツ医科学に関する共同研究
4. 環太平洋大学とのスポーツ医科学に関する共同研究
5. 湘南ベルマーレサッカーチームとのスポーツ医科学研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として

文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（A），研究課題「アレルギー疾患と腸内細菌叢の関連：地域住民での検討」，平成 18-21 年度．中路重之．5,800 千円

文部科学省科学研究費補助金・萌芽研究，研究課題「呼気テストによる腸内細菌叢のパターン化に関する研究」，平成 18-20 年度．中路重之．700 千円

文部科学省大学改革推進等補助金・現代的教育ニーズ取組支援プログラム，事業名「地域医療型クリニカルクラークシップ教育」，平成 18 ～ 20 年度．中路重之．14,217 千円

文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B），研究課題「高齢者の日常生活活動及び身体機能と免疫機能の関連の実態とこれに対する介入研究」，平成 18-20 年度．梅田孝．3,600 千円

文部科学省科学研究費補助金・若手研究（スタートアップ），研究課題「腸内細菌叢が動脈硬化に及ぼす研究」，平成 20 年度，平成 20-21 年度．檀上和真　1,250 千円

文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B），研究課題「質量分析法を用いた呼気ガス分析による生活習慣病の新しいスクリーニング法の研究，平成 20-21 年度，松坂方士．1,600 千円

2009 年度

研研究代表者として

1. 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（A），「アレルギー疾患と腸内細菌叢の関連：地域住民での検討」，平成 18-21 年度　中路重之，平成 21 年度　3,700 千円
2. 文部科学省科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究，「新たな健康指標としての腸内細菌叢の可能性－運動・生活習慣との関連からの検証－」，平成 21-23 年度　梅田　孝，平成 21 年度　1,500 千円
3. 文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B），「腸内細菌叢が動脈硬化に及ぼす大規模疫学研究」，平成 21-23 年度　檀上和真，平成 21 年度　1600 千円
4. 文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B），「質量分析法を用いた呼気ガス分析による生活習慣病の新しいスクリーニング法の研究，平成 20-21 年度，松坂方士，平成 21 年度　1,700 千円

他研究単位との研究分担者として

1. 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C），「変形性膝関節症および膝前十字靭帯の発生要因および予防に関する疫学的研究」，平成 21-25 年度，石橋恭之（整形），平成 21 年度 1,400 千円
2. 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C），「親である壮年期男性における生活習慣改善に資する親性活性化プログラムの開発」，平成 21-23 年度，古川照美（保健学），平成 21 年度 1,100 千円
3. 文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B），「運動介入による主観的睡眠評価と健康関連 QOL に関する縦断的研究」，平成 21-23 年度，西村美八（大学院生，保健学），平成 21 年度，900 千円

（2）その他の省庁からの研究費

2008 年度

研究代表者として

中路重之（研究代表者），青森県による受託研究，「青森県がん医療水準基礎調査」，平成 20 年度，2,940 千円

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金．厚生労働省　循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業．健康づくりのための休養や睡眠の在り方に関する研究．平成 20 年度．中路重之（代表．兼板佳孝（日本大学）800 千円

平成 20 年度　北東北における総合的がん専門医療人の養成「がん多発地域におけるがん医療均てん化のための全人的がんプロフェッショナル育成システムの構築」（文部科学省　平成 19 年度（平成 19-23 年度）がんプロフェッショナル養成プラン），秋田大学担当（岩手医科大学，弘前大学）1,000 千円

2009 年度

研究代表者として

中路重之（研究代表者），青森県による受託研究，「がん登録推進に係る調査研究」，平成 21 年度，2,922 千円

（3）学内の研究助成

2008 年度

研究代表者として

競争的資金 - 腸内細菌とヘリコバクター・ピロリ感染がアレルギー発症に及ぼす影響に関する研究．松坂方士，500 千円

競争的資金 - 地域健康科学アドバイザー．梅田孝 500 千円

競争的資金 - 介護予防の指導に向けた骨・関節情報の活用．中路重之，500 千円

競争的資金 - 多学部で行う健康リーダー育成プログラム．中路重之，1,000 千円

競争的資金 - 競技スポーツ指導者育成医学教育プログラム．中路重之，1,000 千円

シニアサマーカレッジ．40 千円，中路重之，松坂方士．（JTB 共同）

2009 年度

研究代表者として

平成 21 年度弘前大学大型ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ研究者支援事業．中路重之．520 千円
平成 21 年度自己点検評価に基づくインセンティブ経費．中路重之．500 千円
平成 21 年度弘前大学若手研究者支援事業．檀上和真．500 千円
平成 21 年度弘前大学若手研究者支援事業．高橋一平．500 千円
平成 21 年度弘前大学若手研究者支援事業．松坂方士．500 千円
2009 年弘前大学シニアサマーカレッジ事業．中路重之．20 千円
2009 年弘前大学シニアサマーカレッジ事業．檀上和真．20 千円

（4）民間の研究助成

2008 年度

研究代表者として

中路重之（研究代表者），青森医学振興会助成事業，弘前大学医学部附属病院院内がん登録整備事業，平成 20 年度，895 千円

中路重之（研究代表者），三沢市立三沢病院による受託研究，「院内がん登録システムの構築」，平成 20 年度，950 千円

他研究単位との研究分担者として

佐藤　敬（研究代表者），青森県国民健康保険団体支援事業，「弘前大学医学部研究開発支援事業」：青森県住民における生活習慣の特徴と脳卒中危険因子の実態及び青森県産農産物中の降圧物質，平成 20 年度，2,000 千円

2009 年度

研究代表者として

中路重之（研究代表者），青森医学振興会助成事業，弘前大学医学部附属病院院内がん登録整備事業，平成 21 年度，1,425 千円
中路重之（研究代表者），平成 21 年度青森県国民健康保険団体連合会医学振興研究開発事業，生活習慣病の予防に向けた集学的研究　―岩木健康増進プロジェクトでの検討―．平成 21 年度，4,750 千円
中路重之（研究代表者），三沢市立三沢病院による受託研究，「院内がん登録システムの構築」，平成 21 年度，950 千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2009 年度

Prof. David Baxter，Otago University，Australia，4 日（12 月 2-5 日）
「ニュージーランドにおける理学療法教育システムについて」の講演
Steve Tumilty（Lecturer），Otago University，Australia，4 日（12 月 2-5 日）
「ニュージーランドにおける理学療法の実態について」の講演

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2008 年度

高橋一平（助教），オタゴ大学（オーストラリア）
平成 19 年 12 月 11 日 - 平成 21 年 3 月 4 日

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2008 年度

1. 第 67 回日本産業衛生学会東北地方会．2008.7.26．青森市
2. 第 57 回東北公衆衛生学会．2008.07．青森市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2009 年度

発明　腸内細菌叢の様態による食生活改善プログラムの開発
受理番号　発開示 09-21（弘前大学）
整理番号　PA09-19
共同出願人　理化学研究所　特別招聘研究員　辨野義巳
株式会社テクノスルガ・ラボ　望月　淳，久田貴義
インフォコム株式会社　濱崎洋一郎，前田　勉，後藤康丞

10. 法医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

ア）国内学術雑誌に対して各教員が年平均 1 編以上の first author となる論文投稿を志向する。(1/2)

イ）国内学術雑誌に対して各教員が年平均 3 編以上の co-author となる論文投稿を志向する。(2/2)

ウ）国際学術雑誌に対して各教員が 1 縮以上の first author となる論文投稿を志向する（1/2)。

エ）国際学術雑誌に対して各教員が 1 編以上の co-author となる論文投稿を志向する（2/2)。

オ）国際学会に対して，各教員が chief presenter として 1 編以上 co-presenter として 1 編以上を発表する（3/2)。

カ）全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年 3 演題以上を発表する。(2/2)

キ）研究助成を各教員 1 件以上確保する。(1/2)

理念：

法医学は基礎医学ではなく，実践医学あるいは応用医学に位置づけられる。すなわち，実務への応用が法医学研究の直接且つ究極の目的であり，鑑定実例に対して問題意識をもつことから研究のアイディアがスタートする。

一方，法医学が裁判医学・法廷医学と別称されるように，国家医学としての幾能を果たしてこそこの学問の存在意義が認められるのであるから，我が国の社会秩序維持・国民の安全確保を旨とした司法活動に直接関わる研究を行うことこそが責務と言える。ところが我が国のみならず，法医学の研究環境は悪化の一途を辿り，特に evidence-based な鑑定研究が疎かになっており，法医学の瓦解に拍車が懸かっている危機的な状況にある。

そこで我が講座における研究では，法医学の初心に戻り，いかに精密な剖検（解剖だけでなくその後の詳細な組織学的検査を含む）を行い，精度と客観性に優れ，且つわかりやすい法医学研究を展開してゆくことを念頭に置きながら努力しようと考えている。

これから２年間の目標：

ア）国内学術雑誌に対して各教員が年平均 1 編以上の first author となる論文を投稿する。

イ）国内学術雑誌に対して各教員が年平均 3 編以上の co-author となる論文を投稿する。

ウ）国際学術雑誌に対して各教員が 1 編以上の first author となる論文を投稿する。

エ）国際学術雑誌に対して各教員が 1 編以上の co-author となる論文を投稿する。

オ）国際学会に対して，各教員が chief presenter として 1 編以上，co-presenter として 1 編以上を発表する。

カ）全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年 3 演題以上を発表する。

キ）研究助成を各教員 1 件以上確保する。

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	黒田　直人	2008.04.01 ～ 2009.03.31
	准教授	専　任	美作宗太郎	2008.04.01 ～ 2009.02.28
	特任講師	(非常勤)	北　　武	2008.04.01 ～ 2009.03.31
研究課題	1. 死体解剖診断学 2. 法医解剖全般に関する症例研究 3. 小児虐待の定量的評価法に関する研究 4. 脳外傷の症例分析学的研究 5. 脳固定法に関する研究 6. 日本人臓器における ABH 型物質分布に関する研究 7. 新手法による検体処理に基づいた型的二重結合法および解離試験法による腐敗死体の迅速 ABO 式血液型判定法に関する研究			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	黒田　直人	21.04.01 ～ 22.03.31
	特任講師	併　任	北　　武	21.04.01 ～ 22.03.31
研究課題	1．脳損傷の組織病理学的研究 2．心臓刺激伝導系異常に関する組織病理学的研究 3．致死的低体温症に関する組織病理学的研究 4．型的二重結合反応法を応用した，腐敗死体の血液型判定法の開発に関する法医免疫学的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2009 年度

B.1. Miki Y, Mori F, Wakabayashi K, Kuroda N, Orimo S.: Incidental Lewy body disease restricted to the heart and stellate ganglia. Mov Disord. 24(15):2299-301,2009.

和文

2008 年度

A.1. 北　　武，美作宗太郎，黒田直人．型的二重結合法によるヒト臓器の ABH 血液型抗原活性について．法医学の実際と研究．51:205-209,2008.

A.2. 美作宗太郎，大島　徹，大津由紀，是枝亜子，米満孝聖，恒成茂行，北　　武，黒田直人．急性心筋炎による突然死における不整脈の関連性．法医学の実際と研究．51:211-217,2008.

C.1. 美作宗太郎．医療現場における患者の急死について．熊本県警察医会会報「無冤」，20-21, 5-15, 2008.

2009 年度

A.1. 北　　武，美作宗太郎，黒田直人：型的二重結合反応法および凝集阻止試験法によるヒト臓器の ABH 血液型抗原活性について．法医学の実際と研究，52:35-40,2009.

（2）総説

なし

（3）著書

英文　なし

和文

2008 年度

B.1. 法医学．福島弘文編．南山堂，2008 年

B.2. 医学大事典（第 2 版），伊藤正男，井村裕夫，高久史麿総編集，医学書院，2009 年 2 月 15 日．

2009 年度

B.1. 著者：福島弘文，舟山眞人，齋藤一之，村井達哉，福永龍繁，黒田直人，上野易弘，鈴木廣一，那谷雅之，安達　登，太田正穂，浅村英樹，水口　清，岩志和一郎，吉田謙一．（著述文表題）4 外因による死　Ⅲ異常環境による死　「1. 温度異常，2. 放射線傷害，3. 感電，4. 異常気圧による傷害，5. 爆発」編者名：福島弘文．法医学（第 2 版），99-108 ページ．南山堂，東京，2009 年

（4）その他

英文

2008 年度

C.1. Mimasaka S, Oshima T, Tsunenari S. A rare case of sudden death due to thrombus from the internal iliac vein. J. Forensic and Legal Med. 15:101-103,2008.

C.2. Oshima T, Mimasaka S, Yonemitsu K, Kita K, Tsunenari S. Vertebral arterial injury due to fatal dog bites. J. Forensic and Legal Med. 15:529-532,2008.

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Mov Disord	2.83	1	2.83
Total		1	2.83

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
法医学の実際と研究	2	1
熊本県警察医会会報「無冤」	1	
計	3	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	1

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
な　し	0	0
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008 年度

C.1. Mimasaka S. Observation of bruises using ultrasonography. 19th International Symposium on the Forensic Sciences. Melbourne. 2008.

C.2. Kuroda N, Mimasaka S, Kita T, Tani A. Significance of fatal head injuries associated withsubependimal hemorrhages at anterior horn of lateral ventricles（A-31）. The 7th InternationalSymposium ADVANCES IN LEGAL MEDICINE（ISALM）. Osaka. 2008.

2009 年度

C.1. Kuroda N, Mimasaka S, Kita T, Tani A.: Significance of fatal head injuries associated with subependymal hemorrhage at the anterior horns of lateral ventricles. Leg Med（Tokyo）. 2009 Apr;11 Suppl 1:S180-1.

C.2. Saito K, Takada A, Kuroda N, Hara M, Arai M, Ro A. Traumatic dissection of extracranial vertebral artery with massive subtentorial cerebral infarction: report of an autopsy case. Leg Med（Tokyo）. 2009 Apr;11 Suppl 1:S520-2. Epub 2009 Mar 6.

（2）全国学術集会

2008 年度

A.　4 件
B.　1 件
C.　1 件
　　合計 6 件

2009 年度

C.　3 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として

- 黒田直人：科学研究費補助金（基盤研究（C）「頭部外傷・新生児等の脆弱脳に対する自動浮遊固定装置の開発に関する法医病理学的研究」1,170 千円（うち間接経費 270 千円）
- 美作宗太郎：平成 19 年度（継続）・科学研究費（若手 B）・2,500 千円

2009 年度

研究代表者として

1）科学研究費補助金・基盤研究（C）頭部外傷・新生児等の脆弱脳に対する自動浮遊固定装置の開発に関する法医病理学的研究．780,000 円（間接経費を含む．）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

11. 消化器血液内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1. 英文学術誌へ論文を投稿するよう指導する。
   到達度：50％
   大学院生の論文が和文として提出されているものもあり，英文では 4 編しか採択されていない。
2. 国際学会，全国レベルの学会における発表数の増加に心掛けるとともに，その研究結果については可能な限り学術誌へ投稿するように指導する。
   到達度：70％
   発表数は例年並みであるが，英文での公表にいたったものは少なかった。
3. 科学研究費補助金の採択数を維持する。
   到達度：50％
   新規採択一件のみであった。

理念：

臨床講座として消化器病，血液病，膠原病，心身医学についての臨床研究をさらに発展させるとともに，関連する基礎講座との連携により基礎的な研究を推進させる。

これから２年間の目標：

（ア）英文学術誌へ論文採択数を増やす。
（イ）国際学会，全国レベルの学会において発表した研究結果については，可能な限り学術誌へ投稿するように指導する。
（ウ）科学研究費補助金の採択数を向上させる。

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　5，助手　1，医員　5，大学院学生　8，研究生　4			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	福田　眞作	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	准教授	専　任	坂本　十一	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	講　師	専　任	下山　　克	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	山形　和史	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	遠藤　　哲	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	三上　達也	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	吉村　徹郎	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　教	専　任	佐藤　　研	2008 年 4 月～ 2009 年 3 月
	助　手	専　任	山口　公平	2008 年 12 月～ 2009 年 3 月
研究課題	1．消化器疾患の光学的定量法による診断に関する研究 2．*Helicobacter pylori* に関する研究 3．消化器疾患の内視鏡的治療に関する研究 4．炎症性腸疾患の成因に関する研究 5．大腸癌集団検診に関する研究 6．食物繊維による大腸癌の予防に関する研究 7．消化器悪性腫瘍に対する化学療法に関する研究 8．消化管機能性疾患の病態生理に関する研究 9．慢性肝炎からの発癌予防に関する研究 10．定量的出血時間に関する研究			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　9，大学院学生　8，研究生　4			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	福田　眞作	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	准教授	専　任	坂本　十一	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	講　師	専　任	下山　　克	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	講　師	専　任	山形　和史	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	助　教	専　任	遠藤　　哲	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	助　教	専　任	吉村　徹郎	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	助　教	専　任	佐藤　　研	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	助　教	専　任	花畑　憲洋	2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
	助　教	専　任	間山　　恒	2010 年 1 月～ 2010 年 3 月
研究課題	1．消化器疾患の光学的定量法による診断に関する研究 2．*Helicobacter pylori* に関する研究 3．消化器疾患の内視鏡的治療に関する研究 4．炎症性腸疾患の成因に関する研究 5．大腸癌集団検診に関する研究 6．食物繊維による大腸癌の予防に関する研究 7．消化器悪性腫瘍に対する化学療法に関する研究 8．消化管機能性消化器疾患の病態生理に関する研究 9．慢性肝炎からの発癌予防に関する研究 10．定量的出血時間に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Yoshiya G, Takahata T, Hanada N, Suzuki K, Ishiguro A, Saito M, Sasaki M, Fukuda S. Influence of cancer-related gene polymorphisms on clinicopathological features in colorectal cancer. J Gastroenterol Hepatol 2008;23(6):948-53.

A.2. Sawaya M, Yoshimura T, Shimoyama T, Munakata A, Fukuda S. Difference of p53AIP1 mRNA expression in gastric mucosa between patients with gastric cancer and chronic gastritis infected with *Helicobacter pylori.* J Clin Gastroenterol 2008;42(4):351-5.

A.3. Nakasato F, Shimoyama T, Yoshimura T, Mikami T, Munakata A, Fukuda S. Infection of *sabA*-positive *H.pylori* does not induce anti-Lewis X antibody in host. Hepatogastroenterology 2008;55(84):1122-5.

A.4. Shimoyama T, Oyama T, Matsuzaka M, Danjo K, Nakaji S, Fukuda S. Comparison of a Stool Antigen Test and Serology for the Diagnosis of *Helicobacter pylori* Infection in Mass Survey. Helicobacter 2009;14:87-90.

A.5. Kawaguchi S, Ishiguro Y , Imaizumi T, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Ota K, Sakuraba H, Yamagata K, Sato Y, Tanji K, Haga T, Wakabayashi K, Fukuda S, Sato K. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. Immunology Letters 2009;123(1): 9-13.

B.1. * Takahata T, Ookawa K, Suto K, Tanaka M, Yano H, Nakashima O, Kojiro M, Tamura Y, Tateishi T, Sakata Y, Fukuda S. Chemosensitivity determinants of irinotecan hydrochloride in hepatocellular carcinoma cell lines. Basic Clin Pharmacol Toxicol 2008;102(4):399-407.

B.2. * Sasaki Y, Fukuda S, Mikami T, Hada R. Endoscopic quantification of mucosal surface roughness for grading severity of ulcerative colitis. Digestive Endoscopy 2008;20(2):67-72.

B.3. * Matsuzaka M, Fukuda S, Yamai K, Tsuya R, Fukuoka Y , Takahashi I, Yaegaki M, Shimoyama T, Sakamoto J, Umeda T, Nakaji S. Are individuals with lower neutrophil oxidative burst activity more prone to *Helicobacter pylori* infection? Luminescence 2008;23(3):132-8.

B.4. * Oyama T, Fukuda S, Shimoyama T, Takahashi I, Umeda T, Danjo K, Saito D, Chinda D, Sakamoto J, Nakaji S. The oro-ileal transit of cellulose. J Food Sci 2008;73:229-34.

B.5. * Shimaya S, Shimoyama T, Fukuda S, Matsuzaka M, Takahashi I,Umeda T, Chinda D, Saito D. The recovery rate at the human terminal ileum of an orally administered non-digestive oligosaccharide (raffinose). Int J Food Sci Nutr 2009;60(4):344-51.

B.6. Fukuda Y, Shimoyama T, Ohmura T, Nakabayashi N, Takahashi R, Fujioka T, Mitchell H.Mitchell, Shimoyama T. Characterization and Application of a New Monoclonal Antibody with High Specificity for Helicobacter hepaticus. Helicobacter 2009;14:66-71.

B.7. * Imaizumi T, Matsumiya T, Yoshida H, Naraoka T, Uesato R, Ishibashi Y, Ota K, Toh S, Fukuda S, Sato K.

Tumor-necrosis factor-alpha induces retinoic acid-inducible gene-Ⅰin rheumatoid fibroblast-like synoviocytes. Immunology Letters 2009;122(1):89-93.

2009年度

A.1. Shimoyama T, Oyama T, Matsuzaka M, Danjo K, Nakaji S, Fukuda S. Comparison of a stool antigen test and serology for the diagnosis of Helicobacter pylori infection in mass survey. Helicobacter 2009;14(2):87-90.

A.2. Shimoyama T, Kato C, Kodama M, Kobayashi I, Fukuda Y. Applicability of Monoclonal Antibody-Based Stool Antigen Test to Evaluate the Results of *Helicobacter pylori* Eradication Therapy. Japanese Journal of Infectious Diseases 2009;62(3):225-7.

A.3. Sato Y, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S, Nakane A. Cyclosporine regulates intestinal epithelial apoptosis via TGF-beta-related signaling. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2009;297(3):G514-9.

A.4. Ota K, Matsumiya T, Sakuraba H, Imaizumi T, Yoshida H, Kawaguchi S, Fukuda S, Satoh K. Interferon-α2b induces p21cip1/waf1 degradation and cell proliferation in HeLa cells. Cell Cycle 2010;1;9(1):131-9.

和文

2008年度

A.1. 島谷孝司，石黒　陽，川口章吾，佐藤裕紀，平賀寛人，山口佐都子，桜庭裕丈，藤田　均，山形和史，福田眞作．治療抵抗性潰瘍性大腸炎における Transforming growth facter－β受容体の発現抑制．弘前医学 2008;59(2-4):90-7.

B.1. 木村聖路，田中正則，工藤敏啓，相澤　弘，福田眞作．大腸内視鏡における同時性多発腫瘍の頻度．日本大腸肛門病学会誌　2008;61(5):240-6.

B.2. 木村聖路，田中正則，工藤敏啓，相澤　弘，福田眞作．当施設の大腸内視鏡における腺腫，粘膜内癌，浸潤癌別に比較した男女差の検討．日本大腸肛門病学会誌　2008;61(6):333-8.

B.3. 岡本　豊，三上達也，高橋　修，川部汎康，福田眞作．EST・EPBD 併用法の検討．胆と膵　2008;29(7):661-6.

B.4. * 佐々木賀広，福田眞作，三上達也，羽田隆吉．潰瘍性大腸炎の内視鏡的重症度評価のための粘膜表面粗造度の定量．Gastroenterological Endoscopy 2008;50(11):2891-8.

B.5. 木村聖路，田中正則，工藤敏啓，相澤　弘，福田眞作．大腸癌患者に同時併存する大腸腺腫の検討．日本大腸肛門学会雑誌　2009;62(3):154-9.

2009年度

A.1. 佐藤　研，福土嗣海，櫻庭美耶子，福田眞作，佐々木大輔．一般住民における IBS の有病率ライフスタイル，心理社会的背景，個人素因の関連についての検討．消化器心身医学　2009;16(1):112-20.

B.1. 木村聖路，田中正則，福田眞作．内視鏡検査における同時性多発腫瘍の大腸内分布．日本大腸肛門病学会雑誌　2010;63(1):15-20.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 山形和史，石黒　陽，佐藤裕紀，福田眞作，棟方昭博．潰瘍性大腸炎の治療方針．臨床消化器内科 2008;23(5):557-64.

A.2. 山形和史，石黒　陽，櫻庭裕丈，樋口博之，福田眞作，棟方昭博．潰瘍性大腸炎の診断．診断と治療 2008;96(12):2468-75.

A.3. 福田眞作，三上達也．合併症を併発した大腸憩室疾患の診断と治療－出血－．日本大腸肛門病学会雑誌 2008;61(10):1031-5.

A.4. 遠藤　哲，三上達也，福田眞作．膵がんの予後と QOL 向上のための努力　ステント．臨床腫瘍プラクティス　2008; 4(2):151-3.

A.5. 吉村徹郎，下山　克，福田眞作．胃炎．医学と薬学　2008;59(4):498-503.

A.6. 佐藤　研，佐々木大輔．ストレスと心身医療（内科系疾患）　ストレスと消化器疾患．日本心療内科学会誌　2008;12(2):86-91.

A.7. 佐藤　研，福土嗣海，櫻庭美耶子，福田眞作，佐々木大輔．IBS 患者における非消化管由来の共存病態，併存症状の有無と QOL，自己効力感の検討．消化器心身医学　2008;15(1):32-7.

A.8. 吉村徹郎，福田眞作．胃癌．The IG Forefront 2008;4(2):112-5.

A.9. 菊池英純，石黒　陽，福田眞作．炎症性腸疾患の長期予後と QOL の向上に向けて：炎症性腸新患患者の妊娠・出産時の治療のこつ．Medicina 2008;45(5):872-5.

A.10. 下山　克，福田眞作．便中 *H.pylori* 抗原検出法を用いた効率のよい除菌，潰瘍治療戦略．消化器科 2008;46(1):1-4.

B.1. * 石黒　陽，山形和史，櫻庭裕丈，樋口博之，福田眞作．薬の知識　クローン病維持療法に対するインフリキシマブ（レミケード）．臨床消化器内科　2008;23(9):1377-84.

B.2. 佐々木大輔，佐藤　研，福土嗣海．機能性腸疾患の診断のポイント．Medicina 2008;45(5):51-5.

B.3. * 玉井佳子，石澤知子，高見秀樹，中嶋　均，福田眞作，棟方昭博．観血的内視鏡手技前の抗血小板療法の管理　―日本人における適切な休薬期間設定．Gastroenterological Endoscopy 2008;50(9):2531-9.

2009 年度

A.1. 工藤康之，原　精一，赤坂治枝，神　寛之，大橋大成，佐藤冬樹，楠美智巳，福田眞作，鬼島　宏．早期胃癌の病理―生検材料の取扱いと病理診断に際しての留意点―．胃と腸　2009;44(4):472-8.

A.2. 遠藤　哲，加藤博之，福田眞作．実地診療における上部消化管症状の診かた―見落とさず適切に対応するために―．Medical Practice 2009;26(5):751-73.

A.3. 遠藤　哲，佐藤　研，福田眞作．症状から考えられる疾患と診断と治療－胸やけ，げっぷ，もたれ感．医学と薬学　2009;61(6):845-52.

A.4. 工藤康之，堤　伸二，原　精一，赤坂治枝，神　寛之，諸橋聡子，佐藤冬樹，花畑憲洋，吉村徹郎，福田眞作，鬼島　宏．慢性萎縮性胃炎と胃癌の発生母地．胃と腸　2009;44(9):1412-22.

A.5. 花畑憲洋，五十嵐崇徳，荒木康光，吉村徹郎，福田眞作．各論―炎症性腸疾患と大腸癌以外の出血をきたす各種腸疾患の画像上の鑑別診断と治療（10）憩室症．INTESTINE 2010;14(1):74-7.

A.6. 工藤康之，原　精一，小笠原紘志，堤　伸二，赤坂治枝，神　寛之，諸橋聡子，佐藤冬樹，吉村徹郎，福田眞作，鬼島　宏．IIb 進展を伴う早期胃癌の病理組織学的特徴．胃と腸　2010;45(1):14-22.

A.7. 川口章吾，今泉忠淳，櫻庭裕丈，石黒　陽，福田眞作．腸管上皮における RIG-I の発見とその解析法．分子消化器病　2010;7(1):61-4.

B.1. * 石黒　陽, 櫻庭裕丈, 樋口博之, 川口章吾, 福田眞作．膠原病・アレルギー疾患領域と消化管疾患皮膚筋炎，全身性硬化症，MCTD における消化管障害．臨床消化器　2009;24(7):887-98.

B.2. * 佐々木賀広，三上達也，吉村徹郎，花畑憲洋，澤谷　学，荒木康光，羽田隆吉，福田眞作．バレット食道の取扱い 画像解析による下部食道柵状血管下端と胃粘膜壁上縁の決定．消化器科　2009;49(1):25-9.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 福田眞作．腹痛の病態生理．year note2009 別冊 Selected Articles. メディックメディア：東京；2008. p307-14.（分担）

A.2. 山形和史, 石黒　陽, 福田眞作. 腸炎．病気と薬パーフェクト BOOK 2009．南山堂：東京；2009. p330-3.（分担）

2009 年度

A.1. 三上達也，福田眞作．消化管憩室．消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010. p196-8.（分担）

A.2. 吉村徹郎, 福田眞作．腸閉塞, イレウス．消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010.p198-201.（分担）

A.3. 澤谷　学, 福田眞作．腸捻転, 腸重積．消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010. p202-3.（分担）

A.4. 福田眞作．吸収不良症候群．消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010. p204-6.

A.5. 福田眞作．蛋白漏出性胃腸症 . 消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010. p207-8.

A.6. 佐藤　研, 福田眞作．過敏性腸症候群. 消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010. p209-10.（分担）

A.7. 山形和史，福田眞作．その他の小腸・大腸疾患．消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010. p211-3.（分担）

A.8. 山形和史, 福田眞作．痔瘻, 痔核, 裂肛．消化器内科学．シュプリンガー・ジャパン：東京；2010. p213-4.（分担）

A.9. 山形和史, 石黒　陽, 福田眞作．腸炎．病気と薬パーフェクト BOOK2010．南山堂：東京；2010. p411-3.（分担）

B.1. * 石黒　陽，山口佐都子，櫻庭裕丈，福田眞作．ベーチェット病の臨床像と病態解析．消化器学の進歩（第 94 回日本消化器病学会総会記念誌）．（財）日本消化器病学会：東京；2009. p275-9.（分担）

(4) その他

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 福田眞作，三上達也．内視鏡室の紹介，弘前大学医学部附属病院　光学医療診療部．Gastroenterological Endoscopy 2008;50(10):2735-38.

A.2. 佐藤　研，福士嗣海，櫻庭美耶子，福田眞作，佐々木大輔．皮下気腫を伴った摂食障害を併発した適応障害の 1 例．心療内科 2008;12(5):397-401.

A.3. 川口章吾，石黒　敦，鈴木一広，花田直之，高畑武功，伊東重豪，谷口　啓，福田眞作．Trousseau 症候群を来した胃癌の 1 例．癌と化学療法 2009;36(2):317-20.

A.4. 島谷孝司，西谷大輔，長谷川裕子，品川博樹，山岸晋一朗，河津俊太郎，福田眞作．嚢胞構造を呈した膵グルカゴノーマの 1 例．青森労災病院医誌 2008;18(2):35-8.

A.5. 花田直之，田中宗雄，西谷大輔，長谷川裕子，品川博樹，河津俊太郎，福田眞作．ループス腎炎に対するステロイドパルス療法中に発症したヘルペス食道炎の 1 例．青森労災病院医誌 2008;18(1):4-7.

A.6. 山口公平，山形和史，玉井佳子，間山　恒，濱舘貴徳，福田眞作，高見秀樹．ステロイド治療が奏効した非典型的な経過を示した血栓性血小板減少性紫斑病の 1 例．東北止血・血栓研究会会誌 2008;XXI(1):31-33.

B.1. * 玉井佳子，山形和史，山口公平，五十嵐崇徳，高橋一徳，福田眞作，小笠原仁，高見秀樹．分娩後 9 ヵ月後に発症した後天性血友病の 1 例．東北止血血栓研究会誌 2008;22(1):11-4.

B.2. 岡本　豊，丹藤雄介，佐藤和則，千葉裕樹，相澤　秀，齋藤正人，八森　久，川部汎康，西村顕正，藤田正弘，田中正則，福田眞作．胆管癌との鑑別が困難であった自己免疫性膵炎の 1 例．膵臓 2009;24(1):116-24.

2009 年度

A.1. 吉村徹郎，福田眞作．消化器診療 示唆に富む症例 皮疹と下血をきたした 1 例．消化器の臨床 2009;12(4):421-2.

A.2. 佐藤　研，福士嗣海，櫻庭美耶子，佐々木大輔．膵炎様の症状を繰り返し，診断に苦慮した機能性消化肝障害の 1 例．心療内科 2009;13(5):409-13.

B.1. 岡本　豊，丹藤雄介，高杉かおり，鈴木一広，佐藤和則，千葉裕樹，相澤　秀，齋藤正人，鈴木英章，八森　久，川部汎康，福田眞作．異所性の胆管狭窄で再燃した自己免疫性膵炎の 1 例．膵臓 2009;24(4):513-20.

B.2. 岡本　豊，下山　克，八森　久，田中正則，福田眞作．保存的治療で軽快した静脈硬化性腸炎の 1 例．内科 2009;104(3):579-83.

B.3. 岡本　豊，鈴木英章，八森　久，川部汎康，高杉かおり，佐藤和則，千葉裕樹，相澤　秀，齋藤正人，福田眞作．内視鏡的粘膜下層剥離術で治癒切除できた直腸カルチノイドの 5 例．治療 2009;91(10):2542-5.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Gastroenterol Hepatol	1.673	1	1.673
J Clin Gasroenterol	2.938	1	2.938
Hepatogastroenterology	0.904	1	0.904
Helicobacter	2.423	1	2.423
Immunology Letters	2.628	1	2.628
Basic Clin Pharmacol Toxicol	1.821	1	1.821
Digestive Endoscopy	0	1	0
Int J Food Sci Nutr	0.878	1	0.878
Luminescence	1.317	1	1.317
J Food Sci	1.255	1	1.255
Helicobacter	2.423	1	2.423
Immunology Letters	2.628	1	2.628
Total		12	20.888

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Helicobacter	2.851	1	2.851
Japanese Journal of Infectious Diseases	1.074	1	1.074
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	3.258	1	3.258
Cell Cycle	4.087	1	4.087
Total		4	11.27

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
弘前医学	1	
日本大腸肛門病学会雑誌	4	
胆と膵	1	
Gastroenterological Endoscopy	2	
臨床消化器内科	2	1
診断と治療	1	
臨床腫瘍プラクティス	1	
医学と薬学	1	1
日本心療内科学会誌	1	
消化器心身医学	1	1
The IG Forefront	1	
Medicina	2	
消化器科	1	1
消化器の臨床	1	
胃と腸		3
Medical Practice		1
INTESTINE		1
分子消化器病		1
計	20	10

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	2
分担執筆	2	8

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（発表論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
Gastroenterological Endoscopy	1	
心療内科	1	1
癌と科学療法	1	
青森労災病院医誌	2	
東北止血・血栓研究会誌	2	
膵臓	1	
消化器の臨床		1
計	7	2

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008 年度

C.1. Kawaguchi S, Ishiguro Y, Imaizumi T, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Ota K, Sakuraba H, Yamagata K, Sato Y, Tanji K, Haga T, Wakabayashi K, Fukuda S, Sato K. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. The 3rd Korea-Japan IBD symposium. Seoul, Korea. 2008.

C.2. Kawaguchi S, Ishiguro Y, Imaizumi T, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Ota K, Sakuraba H, Yamagata K, Sato Y, Tanjo K, Haga T, Wakabayashi K, Fukuda S, Sato K. Possible involvement of retinoic acid –inducible gene-l in Crohn's disease by regulatiog IFN-gamma-induced chemokines. The 3rd Korea-Japan IBD symposium. Seoul, Korea. 2008.

C.3. Shimoyama T, Mizuki I, Yamai K, Endo T, Takahashi R, Fukuda S. Serological analysis of *Helicobacter hepaticus* infection in patients with Hepato-biliary diseases using a specific monoclonal antibody. 16th UEGW. Vienna, Austria. 2008.

C.4. Yamai K, Umeda T, Inoue R, Tsuya R, Iwane K, Sumikawa K, Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S, Matsuzaka M, Takahashi I, Danjo K, Nakaji S. The relationship between helicobacter pylori infection and arterial

stiffness in the Japanese general population. 16th UEGW. Vienna, Austria. 2008.

C.5. Yamai K, Umeda T, Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S, Inoue R, Tsuya R, Iwane K, Ito H, Matsuzaka M, Takahashi I, Danjo K, Nakaji S. The relationship between breath hydrogen and functional gastrointestinal disorders in the Japanese population. 16th UEGW. Vienna, Austria. 2008.

C.6. Yamai K, Umeda T, Inoue R, Tsuya R, Iwane K, Chisyaki T, Matsuzaka M, Takahashi I, Danjo K, Nakaji S. The prevalence of irritable bowel syndrome among the Japanese general population. 16th UEGW. Vienna, Austria. 2008.

C.7. Hanabata N, Igarashi T, Sasaki Y, Mikami T, Aizawa T, Fukuda S. The use of Carbon Dioxide for insufflation reduces Cardiovascular load in the procedure of endoscopic submucosal dissection for colorectal tumors. 16th UEGW. Vienna, Austria. 2008.

C.8. Sawaya M, Sasaki Y, Mikami T, Yoshimura T, Hada R, Fukuda S. Endoswpic localization of the esophago-gastric junction inpatients with Barrett esophagus based on the definitions propesed in japan or Europe - Image processing approach. 16th UEGW. Vienna, Austria. 2008.

C.9. Hiraga H, Ishiguro Y, Kawaguchi S, Sakuraba H, Fukuda S. Lack of vitamin a imparied mucosal barrier funtion and exacerbated DSS-incuced colitis. The 2nd Japan & US Collaboration Conference in Gastroenterology. Tokyo. 2008.

2009 年度

C.1. Shimoyama T, Takahashi R, Abe D, Mizuki I, Endo T, Fukuda S. Serological analysis of *Helicobacter hepaticus* infection in patients with hepato-biliary diseases. 13th Taisho-toyama International Symposium on Gastroenterology. Simoda. 2009.

C.2. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagichi S, Hiraga H, Kawaguchi S, Fukuda S. TNF-α a production was specifically enhanced by Streptococcus sanguis cell wall through PKR related pathway in Behcet's disease. 14th International congress of Mucosal Immunology. Boston. 2009.

C.3. Hiraga H, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Fukuda S. Lack of Vitamin A Impaired innate immunity and exacerbated DSS-induced colitis. 14th International congress of Mucosal Immunology. Boston. 2009.

C.4. Kawaguchi S, Ishiguro Y, Sakuraba H, Hiraga H, Fukuda S. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. 14th International congress of Mucosal Immunology. Boston. 2009.

C.5. Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S. MDR1 Positive CD8β. Dim T Cells were Predominant in Glucocorticoids Refractory Cases with UC. 14th International congress of Mucosal Immunology. Boston. 2009.

C.6. Shimoyama T, Katou C, Kodama M, Kobayashi I, Fukuda Y. Comparison of monoclonal antibody-based stool antigen tests to determine the results of *Helicobacter pyloli* eradication therapy. Asian Pacific Digestive Week 2009. Taipei. 2009.

C.7. Oyama T, Shimoysma T, Matsuzaka M, Danjo K, Nakaji S, Fukuda S. Infection of *Helicobacter pylori* is not associated with ankle brachial index and body mass index in healthy subjects with smoking. Asian Pacific Digestive Week 2009. Taipei. 2009.

C.8. Hanabata N, Shimoyama T, Takahashi R, Endo T, Abe D, Fukuda S. Infection with *Helicobacter pylori* and hepatitis C virus are the risks of *Helicobacter hepaticus* seropositivity in a Japanese population.- a logistic regression multivariable analysis. Asian Pacific Digestive Week 2009. Taipei. 2009.

C.9. Shimoyama T, Takahashi R. Abe D, Ohmura T, Sano Y, Mizuki I, Fukuda S. Serological analysis of *Helicobacter bilis* infection in patients with biliary disorders. 17th United European Gastroenterology Week. London. 2009.

C.10. Shimoyama T, Takahashi R. Abe D, Ohmura T, Sano Y, Sakaedani N, Fukuda S, Fukuda Y. Development of monoclonal antibodies to *Helicobacter bilis*-specific antigens. 17th United European Gastroenterology Week. London. 2009.

(2) 全国学術集会

2008 年度

B.1. 下山　克，高橋良樹，福田眞作．慢性 C 型肝炎および胆・膵疾患患者の *Helicobacter hepaticus* に対する血清抗体陽性率の検討．第 14 回日本ヘリコバクター学会．神戸．2008.

B.2. 下山　克，沢谷　学，吉村徹郎，福田眞作．一般住民健診受診者における *Helicobacter pylori* 感染と胃粘膜委縮の血清脂質濃度との関連．第 14 回日本ヘリコバクター学会．神戸．2008.

B.3. 川口章吾，石黒　陽，山形和史，櫻庭裕丈，島谷孝司，佐藤裕紀，福田眞作．腸管上皮細胞における Retinoic acid-inducible gene-l（RIG-l）の発現調節．第 45 回日本消化器免疫学会総会．京都．2008.

B.4. 川口章吾，石黒　陽，今泉忠淳．腸管上皮細胞における Retinoic acid-inducible gene-l（RIG-l）の発現調節．第 50 回日本消化器病学会大会．東京．2008.

B.5. 下山　克，高橋良樹，福田眞作．Loperamide 惹起ラット便秘モデルに対する Aspergillus oryzae NK 麹含有製剤とその素材の改善効果．第 39 回日本消化吸収学会総会．東京．2008.

B.6. 佐藤　研．当科における IBS ～ comorbidity と治療，non-patient IBS の検討を含めて．第 13 回日本心療内科学会・学術大会．弘前．2008.

C.　11 件

2009 年度

B.1. 櫻庭裕丈，石黒　陽，藤田　均，佐藤裕紀，平賀寛人，川口章吾，福田真作．Heat Shock Protein（HSP）-70 の抗炎症作用と Geranylgeranylacetone（GGA）による誘導効果．第 46 回日本消化器免疫学会総会．松山．2009.

B.2. 櫻庭裕丈，石黒　陽，佐藤裕紀，平賀寛人，川口章吾，福田真作，中根明夫．シクロスポリンによる TGF-β シグナルを介した腸上皮アポトーシスの制御．国際科学振興財団フォーラム分子消化器病学研究会第 17 回浜名湖シンポジウム．浜松．2009.

B.3. 下山　克，福田眞作 . トピックフォーラム：生活習慣病と消化器病疾患一般住民健診受診者における *H. pylori* 感染が動脈硬化へ及ぼす影響についての検討．第 6 回日本消化管学会総会．福岡．2009.

B.4. 三上達也，田中正則，福田眞作．夫婦発症を含む特発性腸間膜静脈硬化症についての検討．第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会．福岡．2009.

B.5. 石黒　陽，櫻庭裕丈，花畑憲洋，吉村徹郎，佐々木賀広，福田眞作．「IBD の手術適応とタイミング（外科，内科の立場から）」クローン病狭窄病変対するステロイド（SH）併用 Infliximab（IFX）に関する再考．第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会．福岡．2009.

C.　18 件

Ⅲ．学術賞

2008 年度

1. The 3rd Korea-Japan IBD symposium, Distinguished Investigator Award. Shogo KAWAGUCHI, Yoh ISHIGURO. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells.
2. 第 71 回消化器心身医学研究会優秀賞．佐藤　研，福士嗣海，櫻庭美耶子，佐々木大輔．一般住民における IBS の有病率とライフスタイル，心理社会的背景，個人素因の関連についての検討．

2009 年度

1. 第 14 回弘前大学医学部学術奨励賞．佐藤裕紀．Cyclosporine protects intestinal epithelial apoptosis via TGF-β-related signaling.
2. 第 6 回日本消化管学会総会学術集会優秀演題賞．吉村徹郎．特発性腸間膜静脈硬化症の 9 症例による原因物質の検討．
3. 第 188 回日本消化器病学会東北支部例会　特別企画　優秀演題賞．五十嵐崇徳．成人後感染した HBVgenotype F 慢性肝炎の 1 例．

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として

1. 文部科学省化学研究費補助金　萌芽研究．抗ヘリコバクター・ヘパティカス抗体測定系の開発と肝胆疾患との関連．下山　克．700 千円．

2009 年度

研究代表者として

1. 文部科学省科学研究費　補助金　若手研究 B. ラット水浸拘束ストレスモデルにおける SSRI,SNRI の大腸運動への効果．佐藤　研．1,950 千円．

（2）その他の省庁からの研究費

2008 年度

研究代表者として

1. 厚生労働省がん研究助成金. ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌の修飾因子に基づく予防策の検討．下山　克．800 千円．

2009 年度

研究代表者として

1. 平成 21 年度厚生労働省がん研究助成金．ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌の修飾因子に基づく予防策の検討．下山　克．1,000 千円．

（3）学内の研究助成

2008 年度

研究代表者として

1. 学術国際振興基金助成事業．Helicobacter pylori による胃粘膜上皮細胞内シグナル伝達の修飾．下山　克．950 千円．
2. 医学部医学科国際化教育奨励賞．下山　克．200 千円

2009 年度

研究代表者として

1. 第 28 回唐牛記念医学研究基金　研究助成金．シクロスポリンによる腸上皮細胞アポトーシスの制御機序の解析．櫻庭裕丈．1,000 千円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2008 年度

石黒　敦．St James's University Hospital. イギリス．

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

2008 年度

1. 第 13 回日本心療内科学会総会学術大会．2008.11.29-30. 弘前．（事務局長：佐藤　研 ）
2. 第 50 回日本平滑筋学会総会．2008.7.2-4. 弘前．（事務局長：佐藤　研）

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2009 年度

1. 菊池英純．社会保険総合病院．東京．2 年間．
2. 澤谷　学．秋田赤十字病院．秋田．6 ヶ月．

Ⅶ. その他

2008 年度

1．川口章吾，石黒　陽，櫻庭裕丈，山形和史，佐藤裕紀，福田眞作．腸管上皮細胞における RIG-I の機能．厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」平成 20 年度第 2 回総会．東京．2009.

2009 年度

1．櫻庭裕丈，石黒　陽，藤田　均，佐藤裕紀，平賀寛人，川口章吾，福田真作．Heat Shock Protein (HSP)-70 の抗炎症作用と Geranylgeranylacetone（GGA）による誘導効果．厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 21 年度第 1 回総会．東京．2009.

2．櫻庭裕丈，石黒　陽，佐藤裕紀，平賀寛人，川口章吾，福田真作．シクロスポリンによる上皮細胞 apotosis 抑制効果機序．厚生労働科学研究費　難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 21 年度第 2 回総会．東京．2010.

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

原著英文論文を 1 年に 10 編以上報告すること。とくに原著論文，英文論文，Impact Factor3 以上の質の高い論文を刊行する。 100%

研究代表者として科学研究費補助金の採択。 50%

教官，医員，大学院生の研究指導を行う。 100%

理念：

近未来の医療の進歩に有用となる情報を世界に向けて発信すること。

大学のスタッフとしてバランスのとれた研究活動，教育，臨床を行う。

これから２年間の目標：

原著英文論文を 1 年に 10 編以上報告すること。とくに原著論文, 英文論文, Impact Factor3 以上の質の高い論文を刊行する。

研究代表者として科学研究費補助金の採択

教官，医員，大学院生の研究指導を行う

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　2，助教　7，助手　0，医員　9，大学院学生　12，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	奥村　　謙	H20.4-H21.3
	准教授	専　任	長内　智宏	H20.4-H21.3
	准教授	専　任	高梨　信吾	H20.4-H21.3
	講　師	専　任	花田　裕之	H20.4-H21.3
	講　師	専　任	中村　典雄	H20.4-H21.3
	助　教	専　任	佐々木真吾	H20.4-H21.3
	助　教	専　任	樋熊　拓未	H20.4-H21.3
	助　教	専　任	阿部　直樹	H20.4-H21.3
	助　教	専　任	及川　広一	H20.4-H21.3（H20.10-H20.12 を除く）
	助　教	専　任	大和田真玄	H20.4-H21.3
	助　教	専　任	林　　彰仁	H20.4-H21.3
	助　教	専　任	森本　武史	H20.10-H21.3
研究課題	1．虚血性心疾患の病態と治療に関する研究 2．冠動脈攣縮の発生機序に関する研究 3．不整脈の病態と治療に関する研究 4．Coupling factor 6 の循環器疾患における役割に関する研究 5．循環器疾患における内因性一酸化窒素合成酵素阻害物質の役割に関する研究 6．心停止患者治療法に関する研究 7．呼気濃縮液の臨床的有用性に関する研究 8．呼気ガスによる気道炎症の評価に関する研究 9．腎疾患と脂肪酸代謝に関する臨床的研究 10．脂肪酸乳剤による実験腎炎の治療効果についての研究			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　8，助手　0，医員　4，大学院学生　14，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	奥村　　謙	H21.4-H22.3
	准教授	専　任	長内　智宏	H21.4-H22.3
	講　師	専　任	花田　裕之	H21.4-H22.3
	講　師	専　任	中村　典雄	H21.4-H22.3
	助　教	専　任	佐々木真吾	H21.4-H22.3
	助　教	専　任	樋熊　拓未	H21.4-H22.3
	助　教	専　任	阿部　直樹	H21.4-H22.3
	助　教	専　任	大和田真玄	H21.4-H22.3
	助　教	専　任	及川　広一	H21.4-H21.6
	助　教	専　任	林　　彰仁	H21.4-H22.3
	助　教	専　任	森本　武史	H21.4-H22.3
	助　教	専　任	櫛引　　基	H21.7-H22.3
研究課題	1．虚血性心疾患の病態と治療に関する研究 2．冠動脈攣縮の発生機序に関する研究 3．不整脈の病態と治療に関する研究 4．Coupling factor 6 の循環器疾患における役割に関する研究 5．循環器疾患における内因性一酸化窒素合成酵素阻害物質の役割に関する研究 6．心停止患者治療法に関する研究 7．呼気濃縮液の臨床的有用性に関する研究 8．呼気ガスによる気道炎症の評価に関する研究 9．腎疾患と脂肪酸代謝に関する臨床的研究 10．脂肪酸乳剤による実験腎炎の治療効果についての研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Saito S, Fujiwara T, Matsunaga T, Minagawa K, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased Adiponectin synthesis in the visceral adipose tissue in men with coronary artery disease treated with pravastatin: A role of the attenuation of oxidative stress. Atherosclerosis 2008;199:378-383.

A.2. Yamada M, Kushibiki M, Osanai T, Tomita H, Okumura K. Vasoconstrictor effect of aldosterone via angiotensin II type 1（AT_1）receptor: possible role of AT_1 receptor dimerization. Cardiovasc Res 2008;79:169-178.

A.3. Fujiwara T, Saito S, Osanai T, Kameda K, Abe N, Higuma T, Yokoyama J, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Okumura K. Decreased plasma and cardiac matrix metalloproteinase activities in patients with coronary artery disease and treated with pravastatin. Eur J Pharmacol 2008;594:146-151.

A.4. Kumagai A, Osanai T, Katoh C, Tanaka M, Tomita H, Morimoto T, Murakami R, Magota K, Okumura K. Coupling factor 6 downregulates platelet endothelial cell adhesion molecule-1 via c-Src activation and acts as a proatherogenic molecule. Atherosclerosis 2008;200:45-50

A.5. Yokoyama J, Higuma T, Tomita H, Abe N, Oikawa K, Fujiwara T, Yokota T, Yokoyama H, Kimura M, Sasaki S, Hanada H, Osanai T, Okumura K. Impact of telmisartan on coronary stenting in patients with acute myocardial infarction compared with enalapril. Int J Cardiol 2009;132:114-20.

A.6. Osanai T, Tomita H, Kushibiki M, Yamada M, Tanaka M, Ashitate T, Echizen T, Katoh T, Magota K, Okumura K. Coupling factor 6 enhances Src-mediated responsiveness to angiotensin II in resistance arterioles and cells. Cardiovasc Res 2009;81:780-7.

A.7. Tomita H, Metoki N, Saitoh G, Ashitate T, Echizen T, Katoh T, Fukuda M, Yasujima M, Osanai T, Okumura K. Elevated plasma brain natriuretic peptide levels independent of heart disease in acute ischemic stroke: Correlation with stroke severity. Hypertens Res 2008;31:1695-702.

A.8. Echizen T, Osanai T, Ashitate T, Yokoyama H, Shibutani S, Tanaka M, Tomita H, Magota K, Okumura K. Upregulation of soluble vascular endothelial growth factor receptor type 1 by endogenous prostacyclin inhibitor coupling factor 6 in vascular endothelial cells: a role of acidosis-induced c-Src activation. Hypertens Res. 2009;32:182-7.

A.9. Ashitate T, Osanai T, Tanaka M, Magota K, Echizen T, Tomita T, Okumura K. Generation and characterization of coupling factor 6-oberexpressing transgenic mice. Hirosaki Medical Journal 2009;60:18-26.

A.10. Katoh C, Osanai T, Shibutani S, Hanada K, Okumura K. Upregulation of insulin-like growth factor-1 gene

expression in cardiac myocytes by hypoxia : mechanism for its cardioprotective effect. Hirosaki Medical Journal 2009;60:36-44.

A.11. Horiuchi D, Osanai T, Echizen T, Ashitate T, Katoh C, Yokoyama H, Hanada K, Shibutani S, Itoh T, Okumura K. Amiodarone Attenuates the Upregulated Matrix Metalloproteinase-2 Activity in a Rat Myocardial Infarction Model. Hirosaki Medical Journal 2009;60:45-53.

A.12. Hasegawa K, Oikawa K, Yoshida I, Ishizuka H, Osanai T, Motomura S, Okumura K. Impairment of calcium-activated potassium channels in endothelium-derived hyperpolarizing factor responses in spontaneously hypertensive rats. Hirosaki Medical Journal 2009;60:86-95.

A.13. Kumasaka R, Nakamura N, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Beneficial effect of neutrophil elastase inhibitor on anti-Thy1.1 nephritis in rats. Nephrology, 2008;13:27-32.

A.14. Nakamura N, Fujita T, Kumasaka R, Murakami R, Shimada M, Shimaya Y, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Serum lipid profile and plasma fatty acid composition in hemodialysis patients - Comparison with chronic kidney disease patients. In vivo 2008;22:609-12.

A.15. Fujita T, Yamabe H, Shimada M, Murakami R, Kumasaka R, Nakamura N, Osawa H, Okumura K. Thrombin enhances the production of monocyte chemoattractant protein-1 and macrophage inflammatory protein-2 in cultured rat glomerular epithelial cells. Nephrol Dial Transplant 2008;23:3412-7.

A.16. Shimada M, Yamabe H, Osawa H, Nakamura N, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Osanai T, Okumura K. Extracellular matrix metalloproteinase inducer is expressed in the proximal tubular epithelial cells of the human kidney. Nephrology 2009;14:171-8.

B.1. Yoshimachi F, Ikari Y, Matsukage T, Masutani M, Mori Y, Saito S, Okumura K. A novel method of percusurge distal protection in a five french guiding catheter without an export aspiration catheter. J Invasive Cardiol. 2008;20:168-72.

B.2. Ohara K, Inoue H, Nozawa T, Hirai T, Iwasa A, Okumura K, Jong-Dae Lee, Shimizu K, Hayano M, Yano K. Accumulation of risk factor enhances the prothrombotic state in atrial fibrillation. Int J Cardiol 2008;126:316-321.

B.3. Murakami R, Murakami S, Tsushima R, Ueda C, Mikami K, Ebina T, Kumasaka R, Nakamura N, Okumura K. Glycaemic control and serum intact parathyroid hormone levels in diabetic patients on haemodialysis therapy. Nephrol Dial Transplant, 2008;23:315-320.

C.1. Ogawa S, Yamashita T, Yamazaki T, Aizawa Y, Atarashi H, Inoue H, Ohe T, OHtsu H, Okumura K, Katoh T, Kamakura S, Kumagai K, Kurachi Y, Kodama I, Koretsune Y, Saikawa T, Sakurai M, Sugi K, Tabuchi T, Nakaya H, Nakayama T, Hirai M, Hirai M, Fukatani M, Mitamura H, for the J-RHYTHM Investigators. Optimal treatment strategy for patients with paroxysmal atrial fibrillation —J-RHYTHM Study— Circ J 2009;73:242-8.

2009 年度

A.1. Horiuchi D, Iwasa A, Sasaki K, Owada S, Kimura M, Sasaki S, Okumura K. Effect of pilsicainide on dominant frequency in the right and left atria and pulmonary veins during atrial fibrillation: Association with its atrial fibrillation terminating effect. Eur J Pharmacol 2009;608:54-61.

A.2. Osanai T, Magota K, Okumura K. Coupling factor 6 as a novel vasoactive and proatherogenic peptide in vascular endothelial cells. Naunyn-Schmied Arch Pharmacol 2009;380:205-214.

A.3. Hanada H, Okumura K. From 4-links to 5-links of "Chain of survival" — Post-resuscitation care is critical for good neurological recovery— Circ J 2009;73:1797-1798.

A.4. Osanai T, Tomita H, Yamada M, Tanaka M, Ashitate T, Echizen T, Katoh C, Magota K, Okumura K. Coupling factor 6-induced prostacyclin inhibition is enhanced in vascular smooth muscle cells from spontaneously hypertensive rats. J Hypertens 2009;27:1823-1828.

A.5. Maeda N, Osanai T, Kushibiki M, Fujiwara T, Tamura Y, Oowada S, Higuma T, Sasaki S, Yokoyama J, Yoshimachi F, Matsunaga T, Hanada H, Okumura K. Increased serum anandamide level at ruptured plaque site in patients with acute myocardial infarction. Fund Clin Pharmacol 2009;23:351-357.

A.6. Yokoyama H, Saito S, Higuma T, Hanada H, Osanai T, Okumura K. Plasma apelin level is decreased in patients with coronary artery disease. Hirosaki Med J 2010;61:58-64.

A.7. Yoshida I, Ishizaka H, Hasegawa K, Satoh K, Osanai T, Motomura S, Okumura K. Adenosine-induced dilation of coronary resistance vessels is impaired in rats with type 2 diabetes mellitus: possible role of atp-sensitive potassium channels and nitric oxide. Hirosaki Med J 2010;61:8-18.

A.8. Osanai T, Fujiwara N, Sasaki S, Metoki N, Saitoh G, Tomita H, Nishimura T, Shibitani S, Yokoyama H, Konta Y, Magota K, Okumura K. Novel pro-atherogenic molecule coupling factor 6 is elevated in patients with stroke: A possible linkage to homocysteine. Ann Med 2010;42:79-86.

A.9. Yamabe H, Shimada M, Nakamura N, Murakami R, Shimaya Y, Fujita T, Okumura K, Kaizuka M: Tissue factor pathway inhibitor (TFPI) production by human podocyte in culture. Thromb Res 2009;126:e57.

A.10. Shimada M, Yamabe H, Osawa H, Nakamura N, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Osanai T, Okumura K. Extracellular matrix metalloproteinase inducer is expressed in the proximal tubular epithelial cells of the human kidney. Nephrology 2009;14:171-178.

B.1. Yamashita T, Ogawa S, Sato T, Aizawa Y, Atarashi H, Fujiki A, Inoue H, Ito M, Katoh T, Kobayashi Y, Koretsune Y, Kumagai K, Niwano S, Okazaki O, Okumura K, Saku K, Tanabe T, Origasa H; the J-BAF Investigators. Dose-Response Effects of Bepridil in Patients With Persistent Atrial Fibrillation Monitored With Transtelephonic Electrocardiograms. Circ J 2009;73:1020-1027.

B.2. Kamakura S, Ohe T, Nakazawa K, Aizawa Y, Shimizu A, Horie M, Ogawa S, Okumura K, Tsuchihashi K, Sugi K, Makita N, Hagiwara N, Inoue H, Atarashi H, Aihara N, Shimizu W, Kurita T, Suyama K, Noda T,

Satomi K, Okamura H, Tomoike H; for the Brugada syndrome investigators in Japan. Long-term prognosis of probands with Brugada-pattern ST Elevation in V1-V3 leads. Circulation / Arrhythmia and Electrophysiology 2009;2:495-503.

B.3. Inoue H, Fujiki A, Origasa H, Ogawa S, Okumura K, Kubota I, Aizawa Y, Yamashita T, Atarashi H, Horie M, Ohe T, Doi Y, Shimizu A, Chishaki A, Saikawa T, Yano K, Kitabatake A, Mitamura H, Kodama I, Kamakura S.Prevalence of atrial fibrillation in the general population of Japan: an analysis based on periodic health examination. Int J Cardiol 2009;137:102-107.

B.4. Shimoyama Y, Nakamura N, Kawaguchi T, Okumura K. Complications after surgery in hemodialysis patients: A comparison between diabetic and non-diabetic patients. Dialysis & Transplantation 2009;38:412-414.

和文

2008 年度

B.1. 三谷智子，藤田正俊，小川久雄，木下法之，水重克文，奥村　謙，木原康樹，竹石恭知，野原隆司，宮崎俊一, 三國谷淳，李　鐘大，平井忠和，渡邊能行．たこつぼ心筋症患者の心理社会的特性に関するケース・コントロール　心臓　2008;40:1081-6.

B.2. 後藤　武，木村正臣，福井康三，佐藤正治，奥村　謙，福田幾夫．新しい補助人工心臓装置による患者搬送経験　体外循環技術　2009;36:28-31.

2009 年度

B.1. 奥寺光一，高梨信吾，林　彰仁，森本武史，中村邦彦，三國谷恵，傳法谷純一，奥村　謙．第 6 レジメンとして S-1 単剤投与により長期の治療効果が得られた肺腺癌例　癌と化学療法　2009;36:1889-1891.

B.2. 相馬里織，岩谷佳奈子，村上信子，村上秀一，藤田　雄，村上礼一，中村典雄，奥村　謙．維持透析患者に対する長期経腸栄養管理の経験　臨床透析　2009;25:1865-1869.

（2）総説

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 奥村　謙．不整脈のアブレーション治療―不整脈アブレーション治療の最前線―CARDIAC PRACTICE 2008;19:129-130.

A.2. 木村正臣，奥村　謙．不整脈のアブレーション治療　心房頻拍・非定期型心房粗動アブレーション CARDIAC PRACTICE　2008;19:153-161.

A.3. 奥村　謙．カテーテルアブレーションの適応・課題・展望　2008;19:209-221.

A.4. 奥村　謙．構造的リモデリングと matrix metalloproteinase（MMP）Medical Practice 2008;25:1015-1016.

A.5. 目時典文，奥村　謙．脳梗塞急性期における薬剤併用療法の意義；自験例における抗血小板薬・脳保護薬併用効果を中心に　Pharma Medica 2008;26(5):121-125.

A.6. 奥村　謙．ホルター記録中の突然死調査委員会および研究グループ　ホルター記録中の突然死について　日本心電学会会誌心電図　2008;28:243-250.

A.7. 奥村　謙．WPW 症候群　メディカルビューポイント Vol.29 No.8

A.8. 奥村　謙．心房細動の疫学と治療における課題　クリニシアン 573 号（2008 年 10 月号）

A.9. 奥村　謙．上室性不整脈　Medical Plactice 2008;25:1527-1533.

A.10. 佐々木真吾，木村正臣，奥村　謙．発作性上室性頻拍・心房粗動　medicina 2009;46:109-114.

2009 年度

A.1. 奥村　謙．New era of catheter ablation for ventricular arrhythmias（新時代に入った心室不整脈のカテーテルアブレーション）　医学のあゆみ　2009;229:479-481.

A.2. 奥村　謙．異型狭心症の原因・病態　日本医事新報　2009;4448:74-76.

A.3. 奥村　謙．なぜ総合的マネージメントが必要なのか　最新医学　2009;64:1629-1630.

A.4. 奥村　謙，目時典文，今田慶行．心房細動患者における脳梗塞予防とその課題　MEDICO　協和企画 2009;40:374-378.

A.5. 大和田真玄，奥村　謙．心不全の診断　胸部 X 線，心電図所見とその重要性 Medical Practice 文光堂 2009;26:1809-1814

A.6. 奥村　謙．心房細動の薬物・非薬物療法の現状と将来展望：Overview　日本薬理学雑誌　2010;135:52-54.

A.7. 長内智宏，奥村　謙，孫田浩二．カップリングファクター 6 の基本的特性と生理作用　循環器内科 2010;67:201-207.

A.8. 大和田真玄，奥村　謙．カテーテルアブレーション：どのような患者が適応となるか？　Current Therapy 2010;28:388-389.

A.9. 中村典雄．CKD 患者の輸液と経腸栄養の指針－ステージ 4・5 患者への対策　Ⅲ脂肪酸輸液の指針　臨床透析 2009;25: 1795-1800.

B.1. 目時典文，齋藤元太，萩井譲士，今田慶行，奥村　謙．心原性脳塞栓症の頻度と機能予後　最新医学 2009;64:1665-1669.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008 年度

A.1. 奥村　謙. 循環器内科治療ガイドライン―最新の診療指針―　2008
A.2. 奥村　謙. 循環器疾患　狭心症　綜合臨床 2008 増刊新版処方計画書
A.3. 奥村　謙. 動悸への対処のしかた　心血管疾患診療のエクセレンス 2008;137(1):S50-S51.
A.4. 奥村　謙. 心不全と心室性不整脈　新・心臓病診療プラクティス 12　冠動脈疾患の病態に迫る
A.5. 奥村　謙. 大学の過疎化は医学教育・研究の衰退につながる　内科　2008;102:888.
A.6. 木村正臣, 奥村　謙. 臨床現場における不整脈－実践対処法－心房粗動　不整脈クリニカルプラクティス 2009.
A.7. 奥村　謙. 頻拍発症機序の解析法　新・心臓病プラクティス 13
A.8. 奥村　謙. 心房細動の治療と管理 Q&A 第 2 版

2009 年度

A.1. 奥村　謙. 心臓リズムマネージメントを究める　メジカルビュー社　2009.7.10
A.2. 奥村　謙. 別冊 NHK 今日の健康　不整脈　突然死を防ぐために　日本放送出版協会　2009.8.20
A.3. 奥村　謙. カラー版メディカルノート　循環器疾患がわかる　西村書店　2009.9
A.4. 奥村　謙. 虚血性心疾患（急性心筋梗塞・陳旧性心筋梗塞・冠攣縮性狭心症）　最新医学別冊　新しい診断と治療の ABC64　最新医学社　2009.8.25
A.5. 奥村　謙. 心室性不整脈を治す　重症心不全の予防と治療　中外医学社　2009.9.25
A.6. 奥村　謙. 徐脈性不整脈　改訂第 7 版内科学書 vol.3 循環器疾患腎尿路疾患　中山書店　2009.11.10
A.7. 奥村　謙. Cace03 意識消失で発症し, β遮断薬で狭心症が憎悪した 43 歳男性　New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ　日本医事新報社　2009.11.18
A.8. 木村正臣, 奥村　謙. 重症不整脈に対するカテーテル・アブレーション療法　循環器疾患最新の治療 2010-2011　南江堂　2010.2
A.9. 奥村　謙. 不整脈の疫学と罹患人口　循環器臨床サピア 5 患者アウトカムからみた不整脈の薬物治療　中山書店　2010.2
A.10. 奥村　謙. 上室性不整脈の治療　心房粗動　患者抄録で究める循環器病シリーズ 2 不整脈　羊土社 2010.3.5
A.11. 奥村　謙. 発作性心房細動の治療戦略　循環器治療薬ハンドブック　中外医学社　2010.3.10
A.12. 奥村　謙. 呼吸困難・動悸, 心悸亢進（dyspnea）・心房粗動（atrial flutter）循環器研修ノート　診断と治療社　2010.3.25
A.13. 奥村　謙. 循環器疾患　不整脈　ガイドライン外来診療 2010 日本メディカル開発　2010.3.29

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著, 総説（A, B のみ）

英文

2008 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Atherosclerosis	4.601	2	9.202
Cardiovasc Res	5.947	2	11.894
Eur J Pharmacol	2.787	1	2.787
Int J Cardiol	3.121	1	3.121
Hypertens Res	3.146	2	6.292
Nephrol Dial Transplant	3.568	1	3.568
Nephrology	1.215	2	2.43
In Vivo	0.99	1	0.99
Int J Cardiol	3.121	1	3.121
Nephrol Dial Transplant	3.568	1	3.568
Total		14	46.973

2009 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Pharmacol	2.787	1	2.787
Naunyn-Schmied Arch Pharmacol	2.83	1	2.83
Circ J	2.387	1	2.387
J Hypertens	5.132	1	5.132
Fund Clin Pharmacol	2.109	1	2.109
Ann Med	5.435	1	5.435
Thromb Res	2.449	1	2.449
Nephrology	1.125	1	1.125
Hirosaki Med J	0	2	0
Circ J	2.387	1	2.387
Circulation / Arrhythmia and Electrophysiology	14.595	1	14.595
Int J Cardiol	3.121	1	3.121
Dialysis & Transplantation	0.297	1	0.297
Total		14	44.654

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
心臓	1	
体外循環技術	1	
癌と化学療法		1
臨床透析		2
医学のあゆみ		1
日本医事新報		1
最新医学		2
MEDICO		1
Medical Practice		1
日本薬理学雑誌		1
循環器内科		1
Current Therapy		1
計	2	12

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008 年度	2009 年度
単　　著	0	0
編　　集	0	1
分担執筆	7	12

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008 年度	2009 年度
な　し	0	0
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008 年度

C.1. Murakami R, Osanai T, Tomita H, Okumura K. P122 protein, a positive regular for phospholipase C- σ1, is upregulated and involved in enhanced calcium signaling in human coronary spasm. AHA 2008, New Orleans, Louisiana.

C.2. Osanai T, Tanaka M, Echizen T, Ashitate T, Tomita H, Okumura K. Overexpression of coupling factor 6 links hypertension to diabetes by C-Src-mediated signaling pathway in mice. AHA 2008, New Orleans, Louisiana.

C.3. Ashitate T. Overexpression of coupling factor 6 causes salt-induced congestive heart failure by tissue acidosis-

mediated reactive oxygen species. AHA 2008, New Orleans, Louisiana. AHA 2008, New Orleans, Louisiana.

C.4. Katho C, Tomita H, Metoki N, Saitho G, Osanai T, Okumura K.Endogenous brain natriuretic peptide (BNP) protects against apoptosis of ischemic human astrocytes in an autocrine fashion.

C.5. Murakami R, Fujita T, Shimaya Y, Kumasaka R, Nakamura N, Okumura K, Narumi S, Sasaki M, Yoneyama T, Koie T, Ohyama C. Improved bone metabolic markers and decreased bone mineral density: One year follow-up in a diabetic renal allograft recipient. XXII International congress of Transplantation Society. August 2008 Sydney, Australia.

C.6. Yamabe H, Fujita T, Shimaya Y, Shimada M, Kumasaka R, Nakamura N, Osawa H, Okumura K, Kaizuka M. Cyclosporine A (CsA) suppresses proliferation of rat glomerular epitherial cells (GEC) in culture and inhibits increase of MCP-1 stimulated by thrombin. 41st Annual Meeting & Scientific Exposition, November, 2008 Pennsylvania Convention Center Philadelphia, Pennsylvania

C.7. Fujita T, Yamabe H, Kumasaka R, Murakami R, Shimada M, Shimaya Y, Nakamura N, Osawa H, Okumura K, Kaizuka M. Thrombin stimulates synthesis of MIP-3 alpha, MCP-1 and IL-8 in human proximal tubular epithelial cells (PTEC) in culture. 41st Annual Meeting & Scientific Exposition, November, 2008 Pennsylvania Convention Center Philadelphia, Pennsylvania

C.8. Owada S, Sasaki S, Kimura M, Horiuchi D, Sasaki K, Ito T, Okumura K.Electrocardiographic characteristics in differentiating the mechnism and the origin of atrial tachycardia. 1st Asia-Pacific Heart rhythm Society Scientific Session. Raffles City Convention Centre, November 2008, Singapore

2009 年度

A.1. Okumura K. Treatment of ICD / Electrical storm: a role of Catheter ablation. 17th Asia-Pacific Congress of Cardiology (APCC) 2009, May 23, Kyoto, Japan.

C.1. Shibutani S, Osanai T, Ashitate T, Echizen T, Tanaka M, Tomita H, Miwa T, Matsubara H, Okumura K. Coronary Vasospasm Induced in Transgenic Mice With Variant Phospholipase C-σ1. AHA Scientific Sessions 2009, Nov 14-18, Orland, USA.

C.2. Oikawa K, Kushibiki M, Yamada M, Osanai T, Okumura K. Angiotensin Type-2 Receptor-mediated Coronary Arteriolar Dilation is Enhanced in Rats With Type-2 Diabetes Mellitus: A Role of Enhanced Nitric Oxide Mechansim via the Overexpression of Bradykinin B2Receptor. AHA Scientific Sessions 2009, Nov 14-18, Orland, USA.

C.3. Osanai T, Tanaka M, Echizen T, Ashitate T, Izumiyama K, Sagara S, Tomita H, Okumura K. Coupling Factor 6 Enhances the Action of Angiotensin II and Causes Insulin Resistance in Mice. AHA Scientific Sessions 2009, Nov 14-18, Orland, USA.

C.4. Hanada H, Higuma T, Abe N, Oikawa K, Kushibiki M, Yamada M, Owada S, Saito S, Osanai T, Okumura K. Reperfusion Therapy With Percutaneous Coronary Intervention During Cardiopulmonary Resuscitation is Useful for Rescuing Cardiac Arrest Patients With Acute Coronary Syndrome and Shock-Refractory Ventricular Fibrillation. AHA Scientific Sessions 2009, Nov 14-18, Orland, USA.

C.5. Sasaki K. Revisit of Typical Atrial Flutter Wave in the ECG: Electroanatomical Analysis of the Component Between the Negative Deflections of Flutter Wave in Isthmus-Dependent Counterclockwise Atrial Flutter. AHA Scientific Sessions 2009, Nov 14-18, Orland, USA.

C.6. Sasaki K. A New, Simple Algorithm for Diagnosing Wide QRS Complex Tachycardia: Comparison With Brugada, Vereckei and aVR Algorithms. AHA Scientific Sessions 2009, Nov 14-18, Orland, USA.

(2) 全国学術集会

2008 年度

C. 14 件

2009 年度

A.1. 奥村　謙.「心臓電気生理検査の進歩：難治性不整脈治療への応用」 第 46 回日本臨床生理学会　アイーナいわて県民情報交流センター　2009.10　盛岡

B.1. 奥村　謙. ビジュアルワークショップ 2 「頻拍性不整脈に対するマッピングシステムの進歩」 第 57 回日本心臓病学会学術集会 2009.9　札幌

B.2. 奥村　謙. JCC-ACC ジョイントシンポジウム「Management of Atrial Fibrillation: Medical or Ablation」第 57 回日本心臓病学会学術集会　2009.9　札幌

B.3. 奥村　謙.「頻発する心室性期外収縮へのアプローチ」第 74 回日本循環器学会　2010.3　京都

B.4. 奥村　謙. パネルディスカッション「CRTP の功罪」第 74 回日本循環器学会　2010.3　京都

C. 33 件

Ⅲ. 学術賞

2008 年度

第 147 回日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 優秀賞,
伊藤太平　左房 CARTO と CT イメージの統合法

2009 年度

- 第 147 回弘前医学会優秀発表賞・中村典雄・「家族性地中海熱が原因と考えられた腎アミロイドーシスの一例」
- 第 93 回弘前医学会総会優秀発表賞・大矢史恵・「大動脈内浮遊性血栓により急性心筋梗塞を発症した一例」
- 第 14 回弘前大学医学部学術奨励賞・山田雅大・「Vasoconstrictor effect of aldosterone via angiotensin II type 1（AT1）receptor:Possible role of AT1 receptor dimerization（アンジオテンシンⅡタイプ 1 受容体を介したアルドステロンの血管収縮反応：AT1 受容体二量体形成の可能性）」
- 医学部医学科国際化教育奨励賞・中村典雄

Ⅳ．共同研究

2009 年度

- 「心房細動例における心原性塞栓症予防のためのワルファリン療法の実態と至適 PT-INR 治療域の確立に関する他施設共同研究（J-RHYTHM Registry）」・富山大学他 20 施設・奥村　謙
- 「心サルコイドーシスの病態診断と治療に関する研究」・国立循環器病センター他 9 施設・奥村　謙

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008 年度

研究代表者として

科学研究費基盤（C）　冠攣縮性狭心症の成因に関する臨床分子生物学的研究：P122 蛋白の役割，奥村　謙，1700 千円

科学研究費基盤（C）　新規昇降物質 Coupling Factor6 の網羅的機能解析と心血管病態形成機序の解明，長内智宏，1700 千円

科学研究費基盤（C）　新規昇圧物質カップリングファクター 6 の心肥大・心不全病態形成の役割，佐々木真吾，1900 千円

2009 年度

研究代表者として

科学研究費基盤（C）　冠攣縮性狭心症の成因に関する臨床分子生物学的研究：P122 蛋白の役割，奥村　謙，1400 千円・継続

科学研究費基盤（C）　新規昇降物質 Coupling Factor6 の網羅的機能解析と心血管病態形成機序の解明，長内智宏，1900 千円

科学研究費基盤（C）　シスプラチン誘発ラット急性腎不全モデルに対する脂肪酸乳剤の効果に関する研究，中村典雄，1300 千円

科学研究費基盤（C）　新規昇圧物質カップリングファクター 6 の心肥大・心不全病態形成の役割，佐々木真吾，1600 千円・継続

（2）その他の省庁からの研究費

2008 年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働省循環器病研究委託事業 20 公 -5，心サルコイドーシスの病態診断と治療に関する研究，奥村　謙，2000 千円

2009 年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働省循環器病研究委託事業 20 公 -5，心サルコイドーシスの病態診断と治療に関する研究，奥村　謙，1800 千円

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2008 年度

他研究単位との研究分担者として

車両競技公益資金記念財研究助成（心臓血管研究所）：心房細動血栓塞栓症の新しい予知，予防に関する研究，奥村　謙，175 千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2009 年度

・奥村謙　Biosense Webster Israel 研究視察　イスラエル国　H20.7.5-10

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2008 年度

・富田泰史　アメリカノースカロライナ大学チャペルヒル校（H19.9～）
・島田美智子　フロリダ大学（H20.4～），コロラド大学（H21.4～）

2009 年度

・富田泰史　ノースカロライナ大学・アメリカ・H19.9～継続
・島田美智子　コロラド大学・アメリカ・H21.4～H22.3
・木村正臣　クリーブランドクリニック・アメリカ・H21.4～継続

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2008 年度

・第 24 回日本心血管インターベンション学会東北地方会（弘前市）

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

13. 内分泌代謝内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

85％

理念：

内分泌代謝学の臨床研究レベルを日本でトップレベルにする。

これから２年間の目標：

内分泌代謝学の啓蒙，若手研究者の育成，内分泌代謝専門医の育成

教科書の改訂，トップジャーナルへの掲載論文を増やす。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　4，助教　5，助手　0，医員　16，大学院学生　5，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	須田　俊宏	
	准教授	専　任	玉澤　直樹	
	講　師	専　任	小川　吉司	
	講　師	専　任	松井　　淳	
	講　師	専　任	丹藤　雄介	
	講　師	専　任	蔭山　和則	
	助　教	専　任	崎原　　哲	
	助　教	専　任	二川原　健	
	助　教	専　任	柳町　　幸 村上　　宏	
	助　教	専　任	照井　　健	
研究課題	1．視床下部―下垂体―副腎系の調節機序 2．ストレス応答機構の解明 3．クッシング症候群およびサブクリニカルクッシング症候群の診断と治療 4．摂食行動における視床下部 - 下垂体 - 副腎皮質機能の関与 5．ウロコルチンの作用とその作用機序 6．膵β細胞の機能調節 7．糖尿病治療薬に関する臨床研究 8．糖尿病と大血管障害（動脈硬化症） 9．慢性膵炎患者における消化吸収障害の評価 10．膵外分泌不全の病態と治療に関する研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　3，助教　5，助手　0，医員　20，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	須田　俊宏	
	准教授	専　任	玉澤　直樹	
	講　師	専　任	松井　　淳	
	講　師	専　任	丹藤　雄介	
	講　師	専　任	蔭山　和則	
	助　教	専　任	崎原　　哲	
	助　教	専　任	二川原　健	
	助　教	専　任	村上　　宏	
	助　教	専　任	柳町　　幸	
	助　教	専　任	照井　　健	

研究課題	1．視床下部―下垂体―副腎系の調節機序 2．ストレス応答機構の解明 3．クッシング症候群およびサブクリニカルクッシング症候群の診断と治療 4．摂食行動における視床下部 - 下垂体 - 副腎皮質機能の関与 5．ウロコルチンの作用とその作用機序 6．膵β細胞の機能調節 7．糖尿病治療薬に関する臨床研究 8．糖尿病と大血管障害（動脈硬化症） 9．慢性膵炎患者における消化吸収障害の評価 10．膵外分泌不全の病態と治療に関する研究

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Kageyama K, Naraoka M, Sakihara S, Ikeda H, Sano T, Suda T. A progressive case of lymphocytic hypophysitis accompanied by paresis of the left abducens nerve. Intern Med 47(13):1245-9,2008.

A.2. Kageyama K, Nigawara T, Sakihara S, Takayasu S, Terui K, Moriyama T, Suda T. Diagnostic usefulness of the growth hormone-releasing peptide-2 test as a substitute for the insulin tolerance test in hypopituitarism. Endocr J 55(4):777-83,2008.

A.3. Ogura E, Kageyama K, Fukumoto S, Yagihashi N, Fukuda Y, Kikuchi T, Masuda M, Suda T. Development of tumor-induced osteomalacia in a subcutaneous tumor, defined by venous blood sampling of fibroblast growth factor-23. Intern Med 47(7):637-41,2008.

A.4. Nigawara T, Sakihara S, Kageyama K, Terui K, Takayasu S, Hatakeyama S, Ohyama C, Sasano H, Suda T. Endothelial cyst of the adrenal gland associated with adrenocortical adenoma: preoperative images simulate carcinoma. Intern Med 2009;48:235-40.

A.5. Kawashima S, Sakihara S, Kageyama K, Nigawara T, Suda T. Corticotropin-releasing factor (CRF) is involved in the acute anorexic effect of a-melanocyte-stimulating hormone: A study using CRF-deficient mice. Peptides 29(12):2169-74,2008.

A.6. Tanabe J, Tamasawa N, Yamashita M, Matsuki K, Murakami H, Matsui J, Sugimoto K, Yasujima M, Suda T. Effects of combined PPARgamma and PPARalpha agonist therapy on reverse cholesterol transport in the Zucker diabetic fatty rat. Diabetes Obes Metab. 2008;10(9):772-9.

A.7. Matsui J, Ogawa Y, Tamasawa N, Yamashita M, Matsuki K, Tanabe J, Murakami H, Suda T. Additional effect in reduction of albuminuria due to the combination therapy of angiotensin-converting-enzyme inhibitor and angirensinⅡ type1 receptor blocker in type2 diabetic patients with the angiotensinogen 235T allele. ***Hirosaki Med J*** 59:59-64,2008.

A.8. Ogura E, Kageyama K, Hanada K, Kasckow J, Suda T. Effect of estradiolon regulation of corticotrophin-releasing factor gene and interleukin-6 production via estrogen receptor type beta in hypothalamic 4B cells. Peptides 29(3):456-464,2008.

B.1. Sugimoto K, Rashid IB, Kojima K, Shoji M, Tanabe J, Tamasawa N, Suda T, Yasujima M. Time course of pain sensation in rat models of insulin resistance, type 2 diabetes, and exogenous hyperinsulinaemia. Diabetes Metab Res Rev. 2008;24(8):642-50.

C.1. Rokunohe D, Nakano H, Ikenaga S, Umegaki N, Kaneko T, Matsuhashi Y, Tando Y, Toyoki T, Hakamada K, Kusumi T, Harada K, Sawamura D. Reduction in epidermal Langerhans cells in patients with necrolytic Migratory erythema. J Dermatol Sci.50:76-80,2008.

2009年度

A.1. Suda T, Kageyama K, Nigawara T, Sakihara S. Evaluation of diagnostic tests for ACTH-dependent Cushing's disease. Endocrine J 56(3):469-476,2009.

A.2. Kageyama K, Sakihara S, Suda T. Regulation and role of p21-activated kinase 3 by CRF in mouse pituitary. Regulatory Peptides 152(1-3):88-94,2009.

A.3. Kageyama K, Hanada K, Suda T. Differential regulation of urocortin 1-3 mRNA in human umbilical vein endotherial cells. Regulatory Peptides 155:131-138,2009.

A.4. Kageyama K, Kushibiki M, Hanada K, Sakihara S, Yasujima M, Suda T. GH-RP2 stimulates secretion and synthesis of ACTH in mouse pituitary. Regulatory Peptides 158:116-120,2009.

A.5. Kageyama K, Suda T. Role and action in the pituitary corticotroph of corticotropin-releasing factor (CRF) in the hypothalamus. Peptides 30(4):810-16,2009.

A.6. Kageyama K, Hanada K, Iwasaki Y, Suda T. Regulation and role of suppressor of cytokine signaling-3 in hypothalamic 4B cells. J Endocrinology 201:369-376,2009.

A.7. Kageyama K, Suda T. Regulatory mechanisms underling CRF gene expression in the hypothalamus. Endocrine J 56(3):335-344,2009.

A.8. Sakihara S, Kageyama K, Matsumoto A, Ikeda H, Tsushima Y, Naraoka M, Terui K, Nigawara T, Suda T. Exaggerated response of ACTH to GHRP2 test in Cushing's disease. Neurologia medicochirurgia 49(8):365-369,2009.

A.9. Kawashima S, Sakihara S, Kageyama K, Nigawara T, Suda T. CRF is involved in the acute anorexic effect of α-MSH : a study using CRF-defecient mice. Peptides 29:2169-2174,2009.

A.10. Takayasu S, Iwasaki Y, Nigawara T, Asai M, Yoshida M, Kageyama K, Suda T. Involvement of NF-κB and Nurr-1 in Cytokine-induced Transcription of Proopiomelanocortin Gene in AtT20 Corticotroph Cells. Neuroimmunomodulation 17(2):88-96,2009.

A.11. Murakami H, Tamasawa N, Yamashita M, Takayasu S, Nigawara T, Matsui J, Suda T. Altered pain perception in schizophrenia. Lancet 375:864,2009.

A.12. Murakami H, Nigawara T, Sakihara S, Kageyama K, Yamashita M, Matsuki K, Tanabe J, Matsui J, Tamasawa N, Suda T. The Frequency of Type 2 Diabetic Patients who Meet the Endocrinological Screening Criteria of Subclinical Cushing's Disease. Endocr J 57(3):269-274,2009.

A.13. Matsuki K, Tamasawa N, Yamashita M, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Imaizumi T, Satoh K, Suda T. Metformin restores impaired HDL-mediated cholesterol efflux due to glycation. Atherosclerosis. 206(2):434-8,Oct.2009.

B.1. Oki Y, Hashimoto K, Hirata Y, Iwasaki Y, Nigawara T, Doi M, Sakihara S, Kageyama K, Suda T. Development and validation of a 0.5 mg dexamethasone suppression test as an initial screening test for the diagnosis of ACTH-dependent Cushing's syndrome. Endocrine J 56(7):897-904,2009.

C.1. Das G, Uchida K, Kageyama K, Suda T, Itoi K. Glucocorticoid dependency of surgical stress-induced FosB/△FosB expression in the paraventricular and supraoptic nuclei of the rat hypothalamus. J Neuroendocrinology 21(10):822-831,2009.

和文

2009年度

A.1. 蔭山和則，須藤亜希子，花田小巻，岩崎泰正，須田俊宏．視床下部の CRF ニューロン抑制機構における inducible cAMP early repressor の関与について：ACTH Related Peptides　19:42-43,2009.

A.2. 照井　健，崎原　哲，高安　忍，森山貴子，川原昌之，川嶋詳子，二川原健，蔭山和則，須田俊宏．当科でのクッシング症候群診断における0.5mg，1mg，8mg デキサメサゾン抑制試験の検討：ACTH RELATED PEPTIDES, Vol.20, p47-48.

A.3. 丹藤雄介，今　昭人，近澤真司，柿崎綾女，松橋有紀，柳町　幸，佐藤江里，松本敦史，田中　光，中村光男．膵石症例の内外分泌機能の特徴（膵性糖尿病・消化吸収障害）―評価と治療の実際：肝胆膵　58：493-500,2009.

A.4. 丹藤雄介，近澤真司，中村光男．【胆膵診療における薬物療法のすべて　予防的投与から治療まで】 代償期慢性膵炎の薬物療法：胆と膵　30:609-612,2009.

A.5. 丹藤雄介，今　昭人，近澤真司，柿崎綾女，松本敦史，佐藤江里，松橋有紀，田中　光，柳町　幸，中村光男．【慢性膵炎診療のベストプラクティス2009】 石灰化慢性膵炎患者の食事療法・薬物療法：胆と膵　30:1361-1366,2009.

A.6. 丹藤雄介，今　昭人，近澤真司，松橋有紀，柳町　幸，佐藤江里，松本敦史，田中　光，中村光男．高齢者膵機能不全患者の栄養管理と血糖コントロール：老年消化器病　21:159-164,2009.

A.7. 丹藤雄介，今　昭人，松橋有紀，中村光男 膵切除後の合併症と対策―特に晩期合併症の膵内外分泌障害について―：成人病と生活習慣病　40:105-109,2010.

A.8. 柳町　幸，丹藤雄介，松橋有紀，佐藤江里，今　昭人，中村光男．機能性消化器疾患へのアプローチ ―病態から的確な診療へ　消化吸収検査　―糞便中排泄物質測定によるアプローチ：消化器内科　24:1623-1632,2009.

A.9. 柳町　幸，丹藤雄介，田中　光，三上恵理，松橋有紀，松本敦史，今　昭人，佐藤江里，中村光男．高齢者の栄養ケア：老年消化器病　21:189-197,2009.

A.10. 柳町　幸，丹藤雄介，中村光男．Grand Rounds 吸収不良症候群．消化器病の臨床　13:5-14,2010.

A.11. 田中　光，丹藤雄介，松川昌勝，中畑　久，東野　博，三上恵理，今　昭人，柿崎綾女，佐藤江里，松本敦史，松橋有紀，柳町　幸，長谷川範幸，小川吉司，須田俊宏，中村光男．鶏卵摂取により高齢者の血清アルブミン値を改善させる試み：消化と吸収　31:70-75,2008.

A.12. 田中　光，丹藤雄介，今　昭人，中畑　久，松川昌勝，松本敦史，柳町　幸，三上恵理，野木正之，中村光男．高齢者の低アルブミン血症に関する検討―食事摂取量及び蛋白消化吸収能を考慮して―：老年消化器病　21:109-113,2009.

A.13. 田中　光，丹藤雄介，中村光男．セラチオペプチダーゼ製剤を用いた低アルブミン血症の治療法：Functional Food 3:106-110,2009.

A.14. 田中　光，丹藤雄介，松川昌勝，中畑　久，今　昭人，松本敦史，柳町　幸，佐藤史枝，三上恵理，中村光男．高齢者栄養障害の原因と対処法：老年消化器病　21:149-155,2009.

A.15. 松本敦史，丹藤雄介，柳町　幸，中村光男．膵外分泌機能検査 13C 呼気試験によるアプローチ：臨床消化器内科　24:1589-1596,2009.

A.16. 松本敦史，丹藤雄介，中村光男．Benzoyl-L-Tyrosyl-［1-13C］Alanine による呼気膵外分泌機能検査法と PFD 試験との比較：消化と吸収　31:176-181,2009.

A.17. 松本敦史，丹藤雄介，柳町　幸，増田光男，今　昭人，近澤真司，柿崎綾女，佐藤江里，松橋有紀，田中　光，中村光男．膵外分泌機能検査―肝硬変患者に関する検討：胆膵の生理機能　25:31-34,2009.

C.1. 中澤三郎，小林　隆，菅野健太郎，関根忠一，高橋信一，徳永健吾，多田知子，丹藤雄介，辻川知之，中

村光男，長谷川範幸，原澤　茂，馬場忠雄，藤山佳秀，前谷　容，松井輝明，森山光彦，芳野純治，鈴木裕子，伊東史弘，野澤　歩，堤坂裕子，角田隆巳．茶カテキンの functional dyspepsia に対する有用性の検討：Prog. Med. 30:211-218,2010.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 蔭山和則，須田俊宏．CRH 負荷，ACTH 負荷試験の診断的有用性．日本内科学学会雑誌　97（4）:45-48,2008.

A.2. 崎原　哲．内分泌疾患に伴う二次性高血圧の診療　臨床病理　56:1112-1117,2008．

A.3. 崎原　哲，須田俊宏．Sub-clinical Cushing 病の診断と問題点．ホルモンと臨床　56(11):1101-1106,2008．

A.4. 二川原　健，須田俊宏．サブクリニカルクッシング病．平田結喜緒，成瀬光栄，島津　章編　クッシング症候群診療マニュアル　p.83-84　診断と治療社　2008　診断と治療社　東京

A.5. 二川原　健，須田俊宏．サブクリニカルクッシング病．平田結喜緒，成瀬光栄編　クッシング症候群診療マニュアル　p.114-115　診断と治療社　2009　診断と治療社　東京

A.6. 二川原　健，須田俊宏．サブクリニカルクッシング病とサブクリニカルクッシング症候群．平田結喜緒，成瀬光栄編　クッシング症候群診療マニュアル　p.252-254　診断と治療社　2009　診断と治療社　東京

A.7. 二川原　健，須田俊宏，小田桐恵美（東京女子医大臨床検査医学）．コルチゾール Medical Practice 編集委員会編　臨床検査ガイド 2009-2010　p.443-447　文光堂　2009　東京

A.8. 二川原　健，須田俊宏．Pre(sub)clinical Cushing 病の診断基準　糖尿病・代謝・内分泌 Annual Review2008　155-161　中外医学者　2008

A.9. 二川原　健，川原昌之，須田俊宏．クッシング病・クッシング症候群．総合臨床　57:415-416,2008.

A.10. 照井　健，須田俊宏．内分泌疾患に伴う糖尿病．糖尿病　第51巻3号　195-198.

A.11. 照井　健，須田俊宏．ACTH 臨床検査　第52巻　第11号増刊号　1197-1202

A.12. 照井　健，須田俊宏．視床下部・下垂体の内分泌機能．脳神経外科エキスパート間脳下垂体（中外医学社）29-36.

A.13. 森山貴子，須田俊宏．「特集　PCOS- 新たな展開 - PCOS とメタボリックシンドローム」．HORMONE FRONTIER　Vol.15:295-300,2008.

A.14. 森山貴子，須田俊宏．クッシング症候群．病気と薬　パーフェクト BOOK　2008（南山堂）　533-535.

A.15. 森山貴子，須田俊宏．PCOS とメタボリックシンドローム．HORMONE FRONTIER Gynecology Vol.15（4）:35-39,2008.

A.16. 玉澤直樹，須田俊宏．新時代の糖尿病学（2）－病因・診断・治療研究の進歩－．IV. 糖尿病診断学の進歩　病型鑑別と鑑別上の留意事項．日本臨床　66巻　増刊号4　P143-149

A.17. 松井　淳，中村光男．胆嚢疾患，目でみる臨床栄養学 UPDATE，p41-48，医歯薬出版，2009.

A.18. 丹藤雄介，中村光男，松本淳史，柿崎綾女，佐藤江里，松橋有紀，田中　光，柳町　幸．ベットサイドの膵外分泌機能検査　臨床消化器内科　23:513-517,2008.

A.19. 丹藤雄介，中村光男．慢性膵炎－治療の基本方針．膵疾患へのアプローチ－下瀬川徹（編）．中外医学社（東京）p105-114，2008.

B.1. 中村光男，柳町　幸，丹藤雄介．膵性糖尿病とは何か？どのように治療するか？ Medicina 46:446-449,2008.

B.2. 岡本　豊，丹藤雄介，佐藤和則，千葉裕樹，相澤　秀，斉藤正人，八森　久，川部汎康，西村顕正，藤田正弘，田中正則，福田眞作．胆管癌との鑑別が困難であった自己免疫性膵炎の1例．膵臓　24:116-124,2008.

B.3. 栗原真澄，三上恵理，佐藤史枝，田中　光，柳町　幸，長谷川範幸，丹藤雄介，中村光男．コレステロール吸収不良は栄養状態に影響を及ぼすか．栄養－評価と治療－　25:501-504,2008.

B.4. 三上恵理，佐藤史枝，栗原真澄，野木正之，松本淳史，田中　光，田村綾女，佐藤江里，松橋有紀，柳町幸，丹藤雄介，中村光男．食事中のたんぱく質と脂質の実測値と食品成分表値の比較検討．栄養－評価と治療－　25:489-492,2008.

B.5. 神澤輝実，柳町　幸，丹藤雄介，中村光男．生活習慣病としての慢性膵炎　老年消化器病　19:171-174,2008.

B.6. 三上恵理，野木正之，小川三由紀，松本淳史，田中　光，田村綾女，佐藤江里，松橋有紀，柳町　幸，丹藤雄介，中村光男．健常者と糖尿病患者における果物の Glycemic Index に及ぼす影響．消化と吸収　30:40-45,2008.

B.7. 中村光男，田中　光，三上恵理，野木正之，松本淳史，柳町　幸，丹藤雄介．高齢者における栄養管理の実際　特に低アルブミン血症に関して．日本高齢消化器病学会誌　10:13-22,2008.

B.8. 中村光男，丹藤雄介，柳町　幸．小腸コレステロールトランスポーター阻害薬．臨床消化器内科　23:649-652,2008.

B.9. 田中　光，松川昌勝，中畑　久，東野　博，田村綾女，佐藤江里，松本敦史，松橋有紀，柳町　幸，長谷川範幸，丹藤雄介，小川吉司，須田俊宏，中村光男．低アルブミン血症が感染症患者に及ぼす影響に関して．消化と吸収　30(1):44-47,2007.

B.10. 田中　光，丹藤雄介，今　昭人，松本敦史，柳町　幸，小川吉司，中村光男．食事摂取量からみた高齢者の消化吸収能の問題点．老年消化器病　20-63-69,2008.

B.11. 松橋有紀，丹藤雄介，中村光男．栄養障害・低蛋白血症に伴う浮腫をどう診るか．Medicina　45:2024-2027,2008.

B.12. 佐藤江里，田村綾女，丹藤雄介，須田俊宏，中村光男，山岸昌一．Spontaneously Diabetic Torii（SDT）ラットにおけるセルレイン誘導急性浮腫性膵炎と Receptor for Advanced Glycation Endproducts（RAGE）の発言．弘前医学　59:110-117,2008.

B.13. 松本淳史，丹藤雄介，柳町　幸，野木正之，柿崎綾女，佐藤江里，松橋有紀，田中　光，小川吉司，中村光男．呼気試験による膵外分泌機能不全診断法　疑陽性を来す疾患に関しての検討．安定同位体と生体ガス　医学応用　1:50-55,2008.

B.14. 松本敦史，柳町　幸，中村光男．Benzoyl-L-Tyrosyl-[l-^{13}C]Alanine による膵性消化吸収不良診断呼気検査法の臨床応用の可能性：消化と吸収　30-2;31-34,2008.

B.15. 松本敦史，野木正之，鈴木理恵，柿崎綾女，佐藤江里，松橋有紀，田中　光，柳町　幸，丹藤雄介，小川吉司，須田俊宏，中村光男．Benzoyl-L-Tyrosyl-[l-^{13}C]Alanine を用いた膵外分泌呼気検査法の信頼性．^{13}C 医学　18;26-27,2008.

B.16. 松本敦史，野木正之，柿崎綾女，佐藤江里，松橋有紀，田中　光，柳町　幸，丹藤雄介，小川吉司，増田光男，中村光男．呼気試験による膵外分泌機能検査法の可能性：胆膵の生理機能　24-1;33-36,2008.

2009年度

B.1. 中村光男，田中　光，丹藤雄介，柳町悟司，今　昭人，近澤真司，松本敦史，柳町　幸．高齢消化器疾患の栄養状態の評価とその治療（の考え方）―総論―：老年消化器病　21:141-148,2009.

（3）著書

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 須田俊宏．クッシング病，CRF，CRFBP，CRF 受容体：医学大辞典　第2版，伊藤正男，井村裕夫，高久史麿 編集，医学書院，2009，東京，p708，p2437.

A.2. 須田俊宏．内分泌疾患 preclinical Cushing 症候群：内科学書　第7版，小川　聡 編集，中山書店，2009，東京，p152-153.

A.3. 須田俊宏．先端巨大症：今日の治療指針，山口徹，北原光夫，福井次矢 編集，医学書院，2009，東京，p572.

A.4. 須田俊宏．下垂体機能低下症，下垂体ホルモン単独欠損症：新臨床内科学　第9版，高久史麿，尾形悦郎，黒川清，矢崎義雄 編集，医学書院，2009，東京，p756-760.

A.5. 須田俊宏．Cushing 病 内科学：金澤一郎，北原光夫，山口徹，小俣政男 編集，医学書院，2009，東京，p2150-2152.

A.6. 二川原健，須田俊宏．subclinical Cushing 病　下垂体腫瘍のすべて：寺本明，長村義之 編集，医学書院，2009，東京，p257-261.

A.7. 二川原健，須田俊宏．サブクリニカルクッシング病：クッシング症候群診療マニュアル，平田結喜緒，成瀬光栄 編集，診断と治療社，2009，p114-115.

A.8. 二川原健，須田俊宏．サブクリニカルクッシング病とサブクリニカルクッシング症候群：クッシング症候群診療マニュアル，平田結喜緒，成瀬光栄 編集，診断と治療社，2009，p252-254.

A.9. 二川原健，須田俊宏．サブクリニカルクッシング病：内分泌代謝専門医ガイドブック　改訂第2版，成瀬光栄，平田結喜緒，島津　章 編集，診断と治療社，2009，p83-84.

A.10. 照井　健，須田俊宏．サブクリニカルクッシング病：内分泌機能検査実施マニュアル，診断と治療社，2009，p42-43.

A.11. 高安　忍，森山貴子，須田俊宏．クッシング病の病態生理・診断：平田結喜緒，成瀬光栄編，クッシング症候群診療マニュアル，診断と治療社，2009，p82-87.

A.12. 玉澤直樹，須田俊宏．糖尿病患者へのステロイド関節注射について，また血糖値との関係などについて：日本医事新報，№4433，p76-77.

（4）その他

英文

2008年度

A.1. Kageyama K, Sakihara S, Yamashita M, Takahashi K, Kawashima S, Tanabe J, Tsutaya S, Yasujima M, Suda T. A case of multiple endocrineneoplasia type II accompanied by thyroid medullary carcinoma and pheochromocytomas expressing corticotropin-releasing factor and urocortins. Am J Med Sci 335(5):398-402, 2008.

A.2. Nigawara T, Kageyama K, Sakihara S, Takayasu S, Kawahara M, Imai A, Ohyama C, Usui T, Sasano H, Suda T. A male case of nonclassical 21-hydroxylase deficiency first manifested in his sixties with adrenocortical incidentaloma. Endocr J 2008;55:291-7.

2009年度

A.1. Kageyama K, Tsushima Y, Tomotsune K, Yanagimachi M, Sakihara S, Suda T. Defi ciency of growth hormone in an adult man case of idiopathic ACTH defi ciency. Inter Med 48:607-610,2009.

A.2. Nigawara T, Sakihara S, Kageyama K, Terui K, Takayasu S, Hatakeyama S, Ohyama C, Sasano H, Suda T. Endotheloal cyst of the adrenal gland associated with adrenocortical adenoma: preoperative images simulate

carcinoma. Inter Med 48:235-240,2009.

A.3. Murakami H, Tamasawa N. Lipomatosis of the tongue. N Engl J Med 360(26):e33,2009.

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Diabetes Obes Metab	4.259	1	4.259
Peptides	2.368	2	4.736
Endocr J	1.600	1	1.600
Intern Med	1.000	3	3.000
Diabetes Metab Res Rev	3.149	1	3.149
J Dermatol Sci	2.973	1	2.973
Total		9	19.717

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Endocrine J	1.806	3	5.418
Regulatory Peptides	2.160	3	6.480
Peptides	2.705	2	5.410
J Endocrinol	2.860	1	2.860
Neurologia med-chir	0.733	1	1
Neuroimmunomodulation	2.034	1	2.034
Lancet	30.758	1	30.758
Atherosclerosis	4.522	1	4.522
Endocrine J	1.806	1	1.806
Total		14	60.288

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
日本内科学学会雑誌	1	
臨床病理	1	
ホルモンと臨床	1	
診断と治療社	3	
臨床検査ガイド	1	
糖尿病・代謝・内分泌 Annual Review2008	1	
総合臨床	1	
糖尿病	1	
脳神経外科エキスパート間脳下垂体	1	
HORMONE FRONTIER	2	
パーフェクト BOOK	1	
日本臨床	1	
目でみる臨床栄養学 UPDATE	1	
臨床消化器内科	1	
膵疾患へのアプローチ	1	
Medicina	2	
膵臓	1	
栄養－評価と治療－	2	
老年消化器病	2	4
消化と吸収	3	2
日本高齢消化器病学会誌	1	
臨床消化器内科	1	1
弘前医学	1	
医学応用	1	
13C 医学	1	
胆膵の生理機能	1	1

ACTH Related Peptides x2		2
肝胆膵		1
胆と膵 x2		2
成人病と生活習慣病		1
消化器内科		1
消化器病の臨床		1
Functional Food		1
計	34	17

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	5
編　　集	0	0
分担執筆	0	7

3．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Med Sci	1.360	1	1.360
Endocr J	1.600	1	1.600
Total		2	2.960

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Inter Med	1.040	2	2.080
N Engl J Med	47.050	1	47.050
Total		3	49.130

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
		17
計	0	17

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Eriko Ogura, Kazunori Kageyama, John Kasckow, and Toshihiro Suda. Estradiol regulates corticotropin-releasing factor gene and interleukin-6 production via estrogen receptor type b in hypothalamic cells. 米国内分泌学会　ENDO08 （San Francisco）6月17日

C.2. Kazunori Kageyama, Satoru Sakihara, and Toshihiro Suda. Corticotropin-releasing factor-induced p21-activated kinase 3 is involved in proliferation of mouse pituitary corticotroph. 米国内分泌学会　ENDO08 (San Francisco) 6月17日

C.3. Kazunori Kageyama, Satoru Sakihara, and Toshihiro Suda. Involvement of corticotropin-releasing factor in regulation and role of prohormone convertase type 1 and p21-activated kinase 3 in mouse pituitary. 生理活性ペプチド国際シンポジウム （艮陵会館，仙台市）8月31日

C.4. Takako Moriyama, Kazunori Kageyama, Takeshi Nigawara, Satoru Sakihara, Toshihiro Suda. Usefulness of the growth hormone-releasing peptide-2 test as a substitute for the insulin tolerance test in hypopituitarism. 米国内分泌学会　ENDO08 （San Francisco）6月17日

C.5. 村上　宏，山下真紀，松木恒太，田辺壽太郎，松井　淳，玉澤直樹，須田俊宏. ***Evaluation of Non-Suppressive Cortisol Secretion in Type 2 Diabetics. The American Diabetes Association's 68th Scientific Sessions*** 6月6日～10日 San Francisco, California

C.6. 68th Scientific Sessions of the American Diabetes Association. June 6-10, 2008・SAN FRANCISCO, CA「Molecular Mechanism of the Reduced Cholesterol Efflux by Glycated HDL」Matsuki K, Tamasawa N, Yamashita M, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Suda T

C.7. Effects of Insulin and Leptin on the Choresterol Efflux from THP-1 derived macrophages. Maki Yamashita, Naoki Tamasawa, Kota Matsuki, Jutaro Tanabe, Hiroshi Murakami, Toshihiro Suda. 68th scientific sessions American Diabetes Associations June 6-10,2008.

C.8. Miyuki Yanagimachi, Yusuke Tando, Eri Sato, Maki Yamashita, Akihito Kon, Yuki Matsuhashi, Toshihiro Suda, Teruo NAKAMURA. Association of autoimmune pancreatitis and insulin secretion IPRF2009 平成21年3月28日 東京

C.9. Pancreatic adenosquamous carcinoma (PASC) arising 13 years after surgical resection for pancreatic adenocarcinoma.-an autopsy case report-Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine. Y. Matsuhashi, A. Kon, S. Chikazawa, E. Sato, A. Matsumoto, H. Tanaka, M. Yanagimachi, Y. Tando, T.Suda. Department of Health Sciences, Hirosaki University School of Medicine. T. Nakamura. The International Pancreatic Research Forum 2009 ［ポスター］2009.3.28（土）東京都 パシフィックホテル東京

C.10. Atsufumi Matsumoto, Yusuke Tando, Miyuki Yanagimachi, Eri Sato, Yoshiji Ogawa, Teruo Nakamura.『The evaluation of exocrine pancreatic insufficiency by the breath test using Benzoyl-L-Tyrosyl-[l-13C]Alanine in pancreatic diabetes』EPC/IAP Joint Meeting 2008, JUNE 28, 2008 ?ÓD?, POLAND

C.11. A Matsumoto, Y Tando, M Yanagimachi, H Tanaka,Y Matsuhashi, E Sato, A Kon, T Nakamura.『The evaluation of exocrine pancreatic insufficiency by the breath test－in case of liver cirrhosis.』ABSTRACT FORM FOR IPRF FORUM 2009, Tokyo, JAPAN March 28, 2009.

2009年度

A.1. Sakihara S, Kageyama K, Takayasu S, Suda T. GHR-2 Can Stimulate TSH Secretion from TSH Secreting Pituitary Adenoma. 米国内分泌学会 ENDO09. 6月10～13日（水～土）Washington, D.C Washington Convention Center.

A.2. Takayasu S, Suda T, Iwasaki Y. Involvement of the NF-B and Nurr-1 in Cytokine-Indused Transcription of the Proopinomelanocortin Gene in AtT20 Corticotroph Cells. 米国内分泌学会 ENDO09. 6月10～13日（水～土）Washington, D.C Washington Convention Center.

A.3. Murakami H, Tamasawa N, Yamasita M, Matsuki K, Tanabe J, Hasegawa N, Matsui J, Suda T. Clinical Evaluation of Cognitive Dysfunction in Senile Type Ⅱ Diabetes in Japan. XV International Symposium on Atherosclerosis. 6月14～18日（日～木）Boston, John B.Hynes Veterans Memorial Convention Center

A.4. Tanabe J, Matsuki K, Murakami H, Yamashita M, Matsui J, Tamasawa N, Suda T. Evaluation of Lipoprotein-Related Indices for CHD in the Patients with Type 2 Diabetes. XV International Symposium on Atherosclerosis. 6月14～18日（日～木）Boston, John B.Hynes Veterans Memorial Convention Center

A.5. Matsuki K, Tamasawa N, Yamasita M, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Suda T, Imaizumi T, Satoh K. Metformin Restores Impaired HDL-Mediated Cholesterol Effl ux Due to Glycation. XV International Symposium on Atherosclerosis. 6月14～18日（日～木）Boston, John B.Hynes Veterans Memorial Convention Center

A.6. Yamashita M, Tamasawa N, Matsuki K, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Suda T. Insulin Decreases Cholesterol Efflux from Macrophages by Inhibiting Cholesteryl Ester Hydrolase. XV International Symposium on Atherosclerosis. 6月14～18日（日～木）Boston, John B.Hynes Veterans Memorial Convention Center

A.7. Yanagimachi M, Tando Y, Matsuhashi Y, Matsumoto A, Suda T, Nakamura T, Takeuchi T. The change of resting energy expenditure in patients with pancreatic diabetes after replacement therapy by pancreatic enzyme and insulin. 40th Anniversary Meeting American Pancreatic Association and Japan Pancreas Society 11月4～7日（水～土）Honolulu, Hilton Hawaiian Village

A.8. Matsuhashi Y, TandoY, Sato E, Kon A, Chikazawa S, Matsumoto A, Suda T, Nakamura T, Takeuchi T. Caerulein Induced Pancreatitis and Expression of Receptor for Advanced Glycation Endoproducts in Spontaneouslydiabetic Torii Rat. 40th Anniversary Meeting American Pancreatic Association and Japan Pancreas Society 11月4～7日（水～土）Honolulu, Hilton Hawaiian Village

A.9. Matsumoto A, Tando Y , Yanagimachi M, Matsuhashi Y, Kon A, Suda T, Nakamura T, Takeuchi T. Comparison of the breath test by using Benzoy1-L-Tyrosy1[1-13C]Alanine and the BT-PABA test for evaluating the pancreatic axocrine function. 40th Anniversary Meeting American Pancreatic Association and Japan Pancreas Society 11月4 ～ 7日（水～土）Honolulu, Hilton Hawaiian Village

A.10. Kon A, Tando Y, Yanagimachi M, Matsumoto A, Sato E, Tanaka H, Suda T, Mikami E, Nakamura T. The study of the long -term effect of the pancreatic enzyme replacement therapy for the pancreatic insufficiency patients. 40th Anniversary Meeting American Pancreatic Association and Japan Pancreas Society 11月4～7日（水～土）Honolulu, Hilton Hawaiian Village

A.11. Suda T, Kageyama K, Nigawara T, Sakihara S, Oki Y, Doi S, Hirata Y, Iwasaki Y, Hashimoto K. Evaluation of diagnostic for ACTH-dependent Cushing' s syndrome. 第14回国際内分泌学会 3月26～30日（金～火）京都市，国立京都国際会館

A.12. Kageyama K, Suda T. Regulation and roles of urocortins in human adrenal H295R cells. 第14回国際内分泌学会 3月26～30日（金～火）京都市，国立京都国際会館

A.13. Sakihara S, Kageyama K, Nigawara T, Terui K, Takayasu S, Moriyama T, Suda T. The suppressive effect of glucocorticoid on ACTH response to GHRP2. 第14回国際内分泌学会 3月26～30日（金～火）京都市，国立京都国際会館

A.14. Nigawara T, Yamashita M, Takayasu S, Murakami H, Suda T. A case of SPY-positive, 46, XX/45, X47, XXX DSD identifi ed in the eighth decade of life. 第14回国際内分泌学会 3月26～30日（金～火）京都市，国立京都国際会館

A.15. Terui K, Sakihara S, Kageyama K, Nigawara T, Takayasu S, Matsuhashi Y, Kon A, Suda T, Sasano H. A Case

of Adrenocortical Oncocytoma Associated with Aldsteronoma. 第14回国際内分泌学会 3月26～30日(金～火) 京都市，国立京都国際会館

A.16. Takayasu S, Kageyama K, Suda T, Iwasaki Y. Orphan receptors Nurr-1/Nur77 are involvement in corticotropin-releasing hormone and urocortin induction of tyrosinase-related protein type 1 in human melanocytes. 第14回国際内分泌学会 3月26～30日（金～火）京都市，国立京都国際会館

（2）全国学術集会

2008年度

A.1. 須田俊宏．会長演題「視野下部・下垂体・副腎系に魅せられて」．第81回日本内分泌学会学術集会

A.2. 須田俊宏　教育講演「クッシング病に関する最近の知見」．内分泌外科学会　2008.6.13　仙台市．

B.1. 柳町　幸，丹藤雄介，中村光男．ワークショップ：膵性糖尿病　膵性糖尿病の臨床的特徴．第39回日本膵臓学会大会　平成20年7月30日～31日　横浜

B.2. 柳町　幸，丹藤雄介，中村光男．シンポジウム：消化管疾患における Nutritional Support　糖尿病性下痢症と栄養．JDDW2008　平成20年10月1日～4日　東京

B.3. 松本敦史，柳町　幸，丹藤雄介，野木正之，柿崎綾女，佐藤江里，松橋有紀，田中　光，小川吉司，中村光男．『膵性糖尿病における膵外分泌機能評価』．第39回日本膵臓学会大会 ワークショップ(膵性糖尿病)，パシフィコ横浜，平成20年7月31日

B.4. 松本敦史，柳町　幸，中村光男．『Benzoyl-L-Tyrosyl-[l-13C]Alanine による呼気膵外分泌機能検査法と PFD 試験との比較』．シンポジウム（呼気をめぐるコンセンサスと将来の展望），第39回日本消化吸収学会総会，平成20年10月4日

C.　36件

2009年度

A.1. 須田俊宏．第24回日本下垂体研究会学術総会 8月28日（金）三沢市 特別講演　下垂体 ACTH 合成・分泌調節機構の基礎と臨床

B.1. 須田俊宏．第36回日本神経内分泌学会 9月4 ～ 5日（金～土）北九州市, 北九州国際会議場 教育講演　クッシング病診断のガイドラインについて

B.2. 須田俊宏 第24回日本更年期医学会学術総会 10月4日（日）青森市 教育講演　更年期とストレス応答機構

B.3. 蔭山和則，崎原　哲，須田俊宏．第19回日本間脳下垂体腫瘍学会 2月28日（土）東京都，サピアタワー　シンポジウム：下垂体前葉機能低下症診断のための検査とその評価

C.　51件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

14. 腫瘍内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

オリジナルな研究を続ける。

これから２年間の目標：

オリジナルな研究を続ける。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	西條　康夫	2008.4 ～ 2009.3
	講　師	専　任	伊東　重豪	2008.4 ～ 2009.3
	助　教	専　任	高畑　武功	2008.4 ～ 2009.3
	助　教	専　任	櫻庭　裕丈	2008.11 ～ 2009.3
研究課題	1．肺癌幹細胞の同定と解析 2．肺幹細胞の同定と解析 3．間葉系幹細胞と腫瘍増殖との関連 4．悪性リンパ腫発症に関わる遺伝子解析 5．消化器癌における Keap1/Nrf2			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　3，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	西條　康夫	4月～3月
	講　師	専　任	伊東　重豪	4月～3月
	助　教	専　任	高畑　武功	4月～3月
	助　教	専　任	櫻庭　裕丈	4月～3月
	助　教	専　任	石黒　　敦	6月～3月
	研究生	専　任	孫　　若文	4月～3月
研究課題	1．間葉系幹細胞による腫瘍増大促進の解析 2．肺幹細胞解析 3．消化器癌における keap1/Nrf2 システム 4．各種癌に対する臨床試験			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Kikuchi H, Itoh J and Fukuda S. Chronic nicotine stimulation modulates the immune response of mucosal T cells to Th1-dominant pattern via AChR by upregulation of Th1-specific transcriptional factor. Neurosci Lett 2008;432:217-221.

A.2. Gen Yoshiya, Takenori Takahata, Naoyuki Hanada, Kazuhiro Suzuki, Atsushi Ishiguro, Masato Saito, Mutsuo Sasaki, Shinsaku Fukuda. Influence of cancer-related gene polymorphisms on clinicopathological features in

colorectal cancer, J Gastroenterol Hepatol 23(6):948-953,2008.

B.1. Inoue A, Sugawara S, Yamazaki K, Maemondo M, Suzuki T, Gomi K, Takanashi S, Inoue C, Inage M, Yokouchi H, Watanabe H, Tsukamoto T, Saijo Y, Ishimoto O, Hommura F, Nukiwa Randomized Phase II Trial Comparing Amrubicin With Topotecan in Patients With Previously Treated Small-Cell Lung Cancer: North Japan Lung Cancer Study Group Trial 0402. J Clin Oncol 26:5401-6,2008.

B.2. Inoue A, Xin H, Suzuki T, Kanehira M, Kuroki Y, Fukuhara T, Kikuchi T, Maemondo M, Nukiwa T, and Saijo Y. Suppression of Surfactant Protein-A by an Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitor Exacerbates Lung Inflammation. Cancer Science, 99:1679-84,2008.

C.1. Narabayashi M, Saijo Y, Takenoshita S, Chida M, Shimoyama N, Miura T, Tani K, Nishimura K, Onozawa Y, Hosokawa T, Kamoto T, Tsushima T; and Advisory Committee for Oxycodone Study. Opioid Rotation from Oral Morphine to Oral Oxycodone in Cancer Patients with Intolerable Adverse Effects: An Open-Label Trial. J Clin Oncol 38:296-304,2008.

C.2. Fukuhara T, Saijo Y, Sakakibara T, Inoue A, Morikawa M, Kanamori M, Nakashima I, and Nukiwa T. Successful treatment of carcinomatous meningitis using gefitinib and the gefitinib concentration in cerebrospinal fluid in a patient with lung adenocarcinoma. Tohoku J Exp Med, 2008:214:359-363.

2009年度

A.1. Satoh Y, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S, Nakane A. Cyclosporine regulates intestinal epithelial apoptosis via TGF-beta-related signaling. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.* 2009 Sep;297(3):G524-519.

A.2. Ken Ota, Tomoh Matsumiya, Hirotake Sakuraba, Tadaatsu Imaizumi, Hidemi Yoshida, Shogo Kawaguchi, Shinsaku Fukuda and Kei Satoh. Interferon-a2b induced $p21^{cipl/wafl}$ degradation and cell proliferation in HeLa cells. Cell Cycle, 2010, Jan ;1:1-9.

B.1. Inoue A, Kobayashi K, Usui K, Maemondo M, Okinaga S, Mikami I, Ando M, Yamazaki K, Saijo Y, Genma A, Miyazawa H, Tanaka T, Ikebuchi K, Nukiwa T, Morita S, and Hagiwara K. First-line gefitinib for advanced non-small cell lung cancer patients having epidermal growth factor receptor mutations without indication for chemotherapy. *J Clin Oncol, 27:1394-400,2009.*

B.2. Xin H, Sun R, Ahmed K, Kanehira M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Nukiwa T, and Saijo Y. Intratracheal delivery of CX3CL1-expressing mesenchymal stem cells to multiple lung tumors. *Mol Med, 15:321-327, 2009.*

和文

2009年度

A.1. 佐藤淳也，照井一史，粟津朱美，伊東重豪，西條康夫．外来化学療法における患者満足度の変遷．癌と化学療法　第36巻11号　1935-1939,2009.

C.1. 佐藤輝幸，井上　彰，福原達朗，榊原智博，太田洋充，海老名雅仁，西條康夫，貫和敏博．EGFR遺伝子活性型変異陽性の非小細胞肺癌患者においてゲフィチニブ治療中に認められた耐性形式の検討．肺癌 49:257-261,2009.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 肺がん伸展期病態と対症療法　モダンフィジシャン　28:2008-6,2008.

A.2. 西條康夫．肺癌と幹細胞　医学のあゆみ　224:999-1003,2008.

2009年度

A.1. 廣瀬勝己，西條康夫．原発不明癌の治療．日本医事新報第4468号:86-87,2009.

A.2. 西條康夫．固形癌の標準的薬物療法（呼吸器癌・乳癌）．日本内科学会雑誌　98巻8号:1860-1865,2009.

A.3. 西條康夫．ことばのカルテ CD133．Medical tribune 42巻37号:52,2009.

A.4. 西條康夫．化学放射線治療向上へ向けて―腫瘍内科医の立場から―．臨床放射線　54:823-828,2009.

A.5. 伊東重豪，西條康夫．造血障害．癌化学療法・分子標的治療（中外医学社　2009年10月30日発行.）

A.6. 伊東重豪．悪性リンパ腫のセカンドライン化学療法．臨床腫瘍プラクティス5（No.3）:267-271,2009（2009年8月10日発行．ISSN 1880-3083）

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 川口章吾，石黒　敦，鈴木一広，花田直之，高畑武功，伊東重豪，谷口　啓，福田眞作．Trousseau 症候群を来した胃癌の1例．癌と化学療法　36:317-320,2009.

2009年度

A. 櫻庭裕丈，石黒　陽，佐藤裕紀，平賀寛人，川口章吾，福田真作．シクロスポリンによる上皮細胞 apotosis 抑制効果機序．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業．難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班平成21年度第2回総会．2010年1月21日-22日

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuroscience Letter	2.085	1	2.085
J Gastroenerol Hepatol	1.673	1	1.673
J Clin Oncol	15.484	1	15.484
Cancer Science	3.165	1	3.165
Total		4	22.407

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Jorunal of Clinical Oncology	17.175	1	17.175
Molecular Medicine	3.411	1	3.411
Total		2	20.586

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2009年度

C. 14th International congress of Mucosal Immunology 2009.7.5-9 Boston, Massashusetts TNF-α production was specifically enhanced by Streptococcus sanguis cell wall through PKR related pathway in Behcet's disease. Hirotake Sakuraba, Yoh Ishiguro, Satoko Yamaguchi, Hiroto Hiraga, Shogo Kawaguchi, Shinsaku Fukuda

（2）全国学術集会

2009年度

A.1. 石黒　敦，高畑武功，伊東重豪，西條康夫．原発性食道小細胞癌に対し肺小細胞癌に準じて治療を行った3 症例．第8回日本臨床腫瘍学会学術集会．東京．2010年3月18日-19日

A.2. 伊東重豪，花田直之，鈴木一広，高畑武功，西條康夫．S-1+DTIC+EPI 併用療法により病変制御が可能となった肝転移を有する胃カルチノイドの一例．第47回日本癌治療学会総会（ポスター）．横浜．2009年10月22日-24日．

A.3. 孫　若文，辛　　紅，高畑武功，伊東重豪，鬼島　宏，貫和敏博，西條康夫．マウス肺の成長過程における肺幹細胞の動態解析．第49回日本呼吸器学会学術講演会．東京．2009年6月12日

A.4. 櫻庭裕丈，石黒　陽，藤田　均，佐藤裕紀，平賀寛人，川口章吾，福田真作．Heat Shock Protein（HSP）-70の抗炎症作用と Geranylgeranylacetone（GGA）による誘導効果．第46回日本消化器免疫学会総会シンポジウム．2009年7月23日-24日

A.5. 石黒　陽，櫻庭裕丈，花畑憲洋，吉村徹郎，佐々木賀広，福田真作．クローン病狭窄病変に対するステロイド（SH）併用 Infliximab（IFX）に関する再考．第64回日本大腸肛門病学会総会．2009年11月6日-7日

A.6. 櫻庭裕丈，石黒　陽，佐藤裕紀，平賀寛人，川口章吾，福田真作，中根明夫．シクロスポリンによる TGF-β シグナルを介した腸上皮アポトーシスの制御．国際科学振興財団フォーラム　分子消化器病学研究会　第17回浜名湖シンポジウム．2009年12月22日-23日

C.　1件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

(1)　助成名称：平成20年度科学研究費補助金
　　研究種目：基盤研究（B）
　　研究課題：肺がん幹細胞分離・分析と治療法開発
　　研究代表者名：西條　康夫
　　配分額：7,150,000円（直接経費5,500,000円＋間接経費1,650,000円）

(2)　助成名称：平成20年度科学研究費補助金
　　研究種目：若手研究（B）
　　研究課題：細胞膜銅輸送タンパク遺伝子発現を用いた白金系抗癌剤薬剤感受性予測の試み
　　研究代表者名：高畑　武功
　　配分額：2,210,000円（直接経費1,700,000円＋間接経費510,000円）

2009年度

研究代表者として

(1)　助成名称：平成21年度科学研究費補助金
　　研究種目：基盤研究（B）
　　研究課題：肺がん幹細胞分離・解析と治療法開発
　　研究代表者名：西條　康夫
　　配分額：4,900,000円

(2)　助成名称：平成21年度科学研究費補助金
　　研究種目：基盤研究（C）
　　研究課題：細胞膜銅輸送タンパク遺伝子発現を用いた白金系抗癌剤感受性予測の試み
　　研究代表者名：高畑　武功
　　配分額：800,000円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2008年度

研究代表者として

（1） 助成名称：平成20年度弘前大学若手萌芽研究
研究種目：
研究課題：骨髄由来間葉系幹細胞を用いた腸管組織修復治療の試み
研究代表者名：櫻庭　裕丈
配分額：600,000円

2009年度

研究代表者として

（1） 助成名称：第28回唐牛記念医学研究基金研究助成
研究種目：助成金（B）
研究課題：シクロスポリンによる腸上皮アポトーシス制御機序の解析
研究代表者名：櫻庭　裕丈
配分額：1,000,000円

（2） 助成名称：弘前大学機関研究
研究種目：若手研究者支援事業
研究課題：ヘリコバクターピロリによる胃癌上皮細胞内シグナル伝達の修飾と分子標的治療の可能性
研究代表者名：石黒　　敦
配分額：500,000円

（4）民間の研究助成

2009年度

研究代表者として

（1） 助成名称：喫煙科学研究財団
研究種目：研究助成金
研究課題：粘膜T細胞の神経伝達物質による免疫制御機構の解析
研究代表者名：伊東　重豪
配分額：2,000,000円

Ⅵ. 研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

なし

Ⅶ. その他

なし

15. 神経精神医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

100% 到達した。

理念：

臨床に還元できる研究を展開する。持続的研究によりその分野で新しい分野を切り拓く。

これから２年間の目標：

・精神神経疾患の個別化治療の開発
・てんかんの根治療法の開発
・リエゾン精神医学，児童思春期精神医学研究の推進

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　3，助教　4，助手　1，医員　2，大学院学生　4，研究生　5			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	兼子　　直	H20.04.01 ～ H21.03.31
	講　師	専　任	栗林　理人	H20.04.01 ～ H21.03.31
	〃	専　任	古郡　規雄	H20.04.01 ～ H21.03.31
	〃	専　任	菊池　淳宏	H20.04.01 ～ H21.03.31
	助　教	専　任	松岡　貴志	H20.04.01 ～ H21.03.31
	〃	専　任	藤井　　学	H20.04.01 ～ H21.03.31
	〃	専　任	楠木　将人	H20.04.01 ～ H20.09.30
	助　手	専　任	小田桐　元	H20.10.01 ～ H21.03.31
研究課題	1．臨床精神神経薬理学分野 ・抗うつ薬，抗不安薬，抗精神病薬の薬物動態，薬物相互作用の機序および薬遺伝学 ・統合失調症，うつ病の個別化治療の開発 ・精神科治療薬の薬物相互作用と臨床効果 ・精神科治療薬の遺伝子多型と臨床効果 ・生物学的精神医学 2．臨床てんかん学分野 ・てんかんの責任遺伝子，分子病態研究 ・てんかんの社会精神医学的研究 ・てんかんの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発 3．神経伝達物質遊離機構に関する研究分野 ・各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する解析 4．精神生理学的研究分野 ・事象関連電位（主にミスマッチ陰性電位）を用いた記憶痕跡に関する研究 ・事象関連電位（主にミスマッチ陰性電位）と精神的臨床症状との関連性に関する研究 5．児童思春期精神医学分野 ・児童思春期分裂病の臨床的研究 ・児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野 6．コンサルテーション・リエゾン精神医学分野 ・電気けいれん療法の有効性と安全性の検討 ・透析患者の精神医学的介入 ・緩和ケアにおける精神医学的介入			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　4，助手　1，医員　2，大学院学生　3，研究生　5			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	兼子　　直	H21.04.01 ～ H22.03.31
	准教授	専　任	古郡　規雄	H21.04.01 ～ H22.03.31
	講　師	専　任	菊池　淳宏	H21.04.01 ～ H22.03.31
	助　教	専　任	松岡　貴志	H21.04.01 ～ H22.03.31
	〃	専　任	斉藤まなぶ	H21.04.01 ～ H22.03.31
	〃	専　任	菅原　知子	H21.04.01 ～ H22.03.31
	〃	専　任	藤井　　学	H21.04.01 ～ H22.03.31
	助　手	専　任	小田桐　元	H21.04.01 ～ H22.03.31
研究課題	1．臨床精神神経薬理学分野 ・抗うつ薬，抗不安薬，抗精神病薬の薬物動態，薬物相互作用の機序および薬遺伝学 ・統合失調症，うつ病の個別化治療の開発 ・精神科治療薬の薬物相互作用と臨床効果 ・精神科治療薬の遺伝子多型と臨床効果 ・生物学的精神医学 2．臨床てんかん学分野 ・てんかんの責任遺伝子，分子病態研究 ・てんかんの社会精神医学的研究 ・てんかんの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発 3．神経伝達物質遊離機構に関する研究分野 ・各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する解析 4．精神生理学的研究分野 ・事象関連電位（主にミスマッチ陰性電位）を用いた記憶痕跡に関する研究 ・事象関連電位（主にミスマッチ陰性電位）と精神的臨床症状との関連性に関する研究 5．児童思春期精神医学分野 ・児童思春期分裂病の臨床的研究 ・児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野 6．コンサルテーション・リエゾン精神医学分野 ・電気けいれん療法の有効性と安全性の検討 ・透析患者の精神医学的介入 ・緩和ケアにおける精神医学的介入			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Yasui-Furukori N, Sato Y, Furukori H, Saito M, Nakagami T, and Kaneko S. Glucose metabolism in Japanese schizophrenia patients treated with risperidone or olanzapine. J Cli Psychiatry. 2009;70(1):95-100.

A.2. Tsuchimine S, Yasui-Furukori N, Kaneda A, Saito M, Nakagami T, Sato K, and Kaneko S. Association between monoamine oxidase A (MAOA) and personality traits in Japanese individuals. Prog neuro-Psychopharmacol Biol Psychiatry. 2008;32(8):1932-5.

A.3. Matsuoka T, Yabe H, Asai R, Hara E, and Kaneko S. Memory trace dependence on number of stimuli in magnetic mismatch negativity. Neuroreport. 2008 Jul 2;19(10):1003-7.

A.4. Yasui-Furukori N, Saito M, Tsuchimine S, Nakagami T, Sato Y, Sugawara N, and Kaneko S. Association between dopamine-related polymorphisms ans plasma concentrations of prolactin during risperiddone treatment in schizophrenic patients. Prog Neuro-Psychopharmacol Biol Psychiatry. 2008 Aug 1;32(6):1491-5.

A.5. Fujii A, Yasui-Furukori N, Nakagami T, Niioka T, Saito M, Sato Y, and Kaneko S. Comparative *in vivo* bioequivalence and *in vivo* dissolution of two valproic acid sustained-release formulations. Drug Design Develop Ther. 2008;2:139-44.

A.6. Sato Y, Yasui-Furukori N, and Kaneko S. New-onset diabetic ketoacidosis in a schizophrenia patients with multiple autoimmune during treatment with risperidone. Prog Neuro-Psychopharmacol Biol Psychiatry. 2008; 32:577-578.

A.7. Kaneko S, Yoshida S, Kanai K, Yasui-Furukori N, and Iwasa H. Clinical perspectives drug safety and adverse drug reactions. Expert Rev Clin Pharmacol 2008;1(5):695-705.

A.8. Yoshida S, Miyashita A, Kuwano R, Kojima T, Sasaki T, Zhu G, Kanai K, Hirose S, and Kaneko S. Genome-wide identification of febrile seizure and related epilepsy phenotype loci. Epilepsy Seizure 2008;1(1):30-9.

B.1. Katagai H, Yasui-Furukori N, Kikuchi A, and Kaneko S. Bemegride lengthens sizure duration during electric convulsive therapy in a schizophrenic patients with increased seizure threshold. J ECT 2009;25(1):61-3.

B.2. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Ueno S, Mori F, Takahara T, Saito R, Miura Y, Kishi A, Tomiyama M, Sato A, Kojima T, Wakabayashi K, Hase K, Ohno H, Kijima H, Takano Y, Mitsudome A, Kaneko S, and Hirose S. Rats harboring S284L Chrma4 mutation show attenuation of synaptic and axtrasynaptic GABAergic transmission and exhibit the nocturmal frontal lobe epilepsy phenotype. J Neurosci. 2008 Nov 19;28(47):12465-76.

B.3. Medina MT, Suzuki T, Alonso ME, Durón RM, Martinez-Juárez IE, Bailey JN, Bai D, Inoue Y, Yoshimura I, Kaneko S, Montoya MC, Ochoa A, Jara Prado A, Tanaka M, Machado-Salas J, Fujimoto S, Ito M, Hamano S, Sugita K, Ueda Y, Osawa M, Oguni H, Rubio-Donnadieu F, Yamakawa K, and Delgado-Escueta AV. Novel mutation in Myoclonin 1/EFHC1 in sporadic and familial juvenile myoclonic epilepsy. Neurology 2008;70(22Pt2);2137-44.

B.4. Niioka T, Miura M, Uno T, Yasui-Furukori N, Hayakari M, Tateishi T, and Suzuki T. Estimation of the area under the concentration-time cutve of racemic lansoprazole by using limited olasma concentration of lansoprazole enantiomers. Eur J Clin Pharmacol 2008;64:503-9.

2009年度

A.1. Sato Y, Yasui-Furukori N, Nakagami T, Saito M, and Kaneko S. Augmentation of antidepressants with perospirone for treatment-resistant mojor depressive disorder. Prog NeuroPsychopharmacol Biol Psychiatry 2009 Apr;33(3):416-8.

A.2. Katagai H, Yasui-Furukori N, Kikuchi A, and Kaneko S. Bemegride lengthens seizure during electric convulsive therapy in a schizophrenic patients with increased seizure threshold. J ECT 2009 Mar;25(1):61-3.

A.3. Tsuchimine S, Yasui-Furukori N, Kaneda A, Saito M, Sugawara N, and Kaneko S. Minor genetic varients of the dopamine D4 receptor (DRD4) polymorphism are associated with novelty seeking in healthy Japanese subjects. Prog NeuroPsychopharmacol Biol Psychiatry 2009 Oct;33(7):1231-5.

A.4. Kikuchi A, Yasui-Furukori N, Fujii A, Katagai H, and Kaneko S. Identification of predictors of post-ictal delirium after electroconvulsive therapy. Psychiatry Clin Neurosci 2009 Apr;63(2):180-5.

A.5. Fujii A, Yasui-Furukori N, Sugawara N, Sato Y, Nakagami T, Saito M, and Kaneko S. Sexual dysfunction in Japanese patients with schizophrenia treated with antipsychotics. Prog NeuroPsychopharmacol Biol Psychiatry 2010 Mar;34(2):288-93.

A.6. Sugawara N, Yasui-Furukori N, and Kaneko S. Case report:Improvement of tardive dyskinesia following zopoclone treatment. Prog NeuroPsychopharmacol Biol Psychiatry 2009 Apr;33:727-8.

A.7. Yasui-Furukori N, Kusunoki M, and Kaneko S. Hallucinations associated with modafinil treatment for narcolepsy. J Clin Psychopharmacol 2009 Aug;29(4):408-9.

A.8. Tsuchimine S, Yasui-Furukori N, Kaneda A, Saito M, Sugawara N, and Kaneko S. Minor genetic variants of the dopamine D4 (*DRD4*) polymorphism are associated with novelty seeking in healthy Japanese subjects. Prog NeuroPsychopharmacol Biol Psychiatry 2009 Oct;33(7):1232-5.

A.9. Kanai K, Yoshida S, Hirose S, Kuwabara S, Sawai S, Hiraga A, Fukuma G, Iwasa H, and Kaneko S. Physicochemical property changes of amino acid residues that accompany missense mutation in SCN1A affect epilepsy phenotype seveity. J med Genet 2009;46(10):671-9.

A.10. Miura J, Kikuchi A, Fujii A, Tateishi T, and Kaneko S. Pathological gambling associated with cabergoline in a case of recurrent depression. Drug Discov Ther 2009;3(4):190-2.

B.1. Ishii A, Fukuma G, Uehara A, Miyajima T, Makita Y, Hamachi A, Yasukochi M, Inoue T, Yasumoto S, Okada M, Kaneko S, Mitsudome A, and Hirose S. A de novo KCNQ2 mutation detected in non-familial benign neonatal convulsions. Brain Dev-Jpn 2009;31:27-33.

B.2. Sugihara Y, Nakatsu F, Hiroyasu K, Ishii A, Hirose S, Okada M, Jibiki I, Ohno H, Kaneko S, and Ugawa Y. Lack of potassium current in W309R mutanat KCNQ3 channel causing benign familial neonatal convulsions (BFNC). Epilepsy Res 2009;84(1):82-5.

B.3. Kurahashi H, Wang JW, IshiiA, Kojima T, Wakai S, Kizawa T, Fujimoto Y, Kikkawa K, Yoshimura K, Inoue T, Yasumoto S, Ogawa A, Kaneko S, and Hirose S. Detetions involving both KCNQ2 and CHRNA4 persent with benign familial neonatal seizures. Neurology 2009;73(15):1214-7.

B.4. Mao M, Matimba A, Scordo GM, Gunes A, Yasui-Furukori N, Masimirembwa C, and Dahl ML. Flavin-containing monooxygenase 3 polymorphisms in 13 ethnic populations from Europe, East Asia and sub-Saharan Africa: frequency and linkage analysis. Pharmacogenomics 2009;10(9):1447-55.

B.5. Nuyoshiagai G, Ono S, Yasui-Furukori N, Nakamura A, MIhara K, and Kondo T. Ther Drug Monit 2009;31(5):592-6.

B.6. Yamada S, Yasui-Furukori N, Akamine Y, Kaneko S, and Uno T. Effects of the P-glycoprotein inducer carbamazepine on fexofenadine pharmacokinetic. Ther Drug Monit 2009;31(6):764-8.

B.7. Miura J, Obua C, Abbo C, Kaneko S, and Tateishi T. Cytochrome P450 2C19 genetic polymorphisms in Ugandans. Eur J Clin Pharmacol 2009;65:319-20.

B.8. Ishii A, Zhang B, Kaneko S, and Hirose S. Positive association between benign familial infantile convulsions and *LG14*. Brain & Dev-Jpn 2009; Epub aheas of print.

和文

2008年度

A.1. 兼子　直. 日本てんかん学会（JES）の正当な国際評価を目指して. てんかん研究　2008;26(1):103-4.

A.2. 兼子　直，小国弘量，辻　貞俊，渡辺英寿．【座談会】てんかん治療新時代．Prog Med 2008;28(9):2157-64.
A.3. 兼子　直．てんかん治療新時代－グローバルスタンダードを目指して－（序文）．Prog Med 2008;28:2099.
A.4. 吉田秀一，太田智佳子，兼子　直．遺伝子診断と臨床開発．Pharma Medica 2008;26(10):57-62.
A.5. 兼子　直．徐放性バルプロ酸ナトリウム製剤の体内薬物動態の比較検討．Pharma Medica 2008;25(11):127-31.
A.6. 兼子　直．てんかん発作．Pharma Medica 2008;25(Suppl):8-9.
A.7. 古郡規雄．ドパミン関連遺伝子と抗精神病薬の薬物反応性との関連．臨床精神薬理　2008;11:1473-80.
B.1. 岩佐博人，兼子　直．てんかん治療におけるアドヒアランス．臨床精神薬理　2008;11:1673-81.
B.2. 岩佐博人，兼子　直．てんかんとグルタミン酸トランスポーター．Clinical neuroscience 2008;26(10):1130-3.
B.3. 山川和弘，兼子　直，廣瀬源二郎，小国弘量．【座談会】てんかん遺伝子研究から臨床へ．Epirepsy 2008;2(1):7-13.
B.4. 和田一丸，兼子　直．てんかん発作．Medical Practice 2008;25(Suuppl):8-9.
B.5. 朝井　廉，矢部博興，原　悦子，晝間臣治，松岡貴志，朝井春子，田中英明，平田幸一，兼子　直．磁気的 MMN に及ぼす注意の影響の検討．臨床脳波　2008;50(3):159-64.
B.6. 和田一丸，兼子　直．新規抗てんかん薬の現状．Pharma Medica 2008;25(11):127-31.
B.7. 大田原俊輔，藤原建樹，兼子　直，飯島正文．海外での新推奨用量による lamotrigine の臨床評価－バルプロ酸ナトリウム服用てんかん患者を対象とした第Ⅲ相試験－．新薬と臨床　2008;57(9):1442-53.
B.8. 深澤　隆，鈴木昭仁，大谷浩一，古郡規雄，兼子　直，井上義政．うつ病患者におけるパロキセチンの治療効果と血漿濃度との関係．臨床薬理の進歩　2008;29:101-5.

2009年度

A.1. 吉田秀一，太田智佳子，小野寺直子，兼子　直．抗てんかん薬の副作用とその予測因子．臨床精神薬理 2009;12:45-52.

(2) 総説

英文

2008年度

A.1. Kaneko S, Yoshida S, Kanai K, Yasui-Furukori N, and Iwasa H. Development of individualized medicine for epilepsy based on genetic information. Expert Rev Clin Pharmacol 2008;1(5):661-81.

和文

2008年度

A.1. 兼子　直．抗てんかん薬－その奇形発現防止策－．2008; Review Lecture 汎用薬の催奇形成を考える
A.2. 兼子　直．てんかんの生物学的背景－病態解明から個別化治療の開発へ－．てんかん－臨床的側面－2008;1002-3.

2009年度

A.1. 岩佐博人，兼子　直．Lamotorigine の作用機序と臨床薬理．臨床精神薬理　2009;12:871-9.
A.2. 兼子　直．抗てんかん薬内服女性の妊娠．脳外誌　2009;18(5):336-41.
A.3. 兼子　直．Lamotrigine の中枢神経系への影響．臨床精神薬理　2009;12(11):2397-407.
A.4. 和田一丸，兼子　直．失神・けいれん．日本医師会雑誌（高齢者診療マニュアル．林泰史，大内尉義，上島国利，鳥羽研二監修・編集）　2009;138(Suppl 2):S280-1.
A.5. 兼子　直，吉田淑子．質疑応答 Q&A　精神神経科：バルプロ酸の副作用のメカニズム．日本医事新報 2009;No.4419:113.
A.6. 佐藤　靖，兼子　直．抗精神病薬による肥満・高血糖の体質は？；抗精神病薬による肥満や高血糖になりやすい体質はありますか？．肥満と糖尿病　2009;8(1):75-7.
A.7. 兼子　直，吉田秀一，小田桐元，太田智佳子，松岡貴志．部分発作治療における topiramate の使い方．臨床精神薬理　2009;12:463-9.
A.8. 小田桐元，吉田秀一，松岡貴志，兼子　直．成人のてんかん．神経内科　2009;70(3):245-51.
A.9. 中神　卓，古郡規雄．Mirtazapine の臨床薬理学的特徴．臨床精神薬理 2009;12(8):1745-53.
A.10. 岩佐博人，兼子　直．クロバザムの臨床薬理とてんかん薬物療法における位置づけ（マイスタン®）．最新精神医学　2009;14(4):327-33.
A.11. 吉田秀一，菅原貴征，和田一丸，兼子　直．抗てんかん薬とファルマコゲノミックス．臨床精神医学 2009;38(8):1059-71.
A.12. 岡田元宏，吉田淑子，上野伸哉，森　秋文，若林孝一，齋藤　亮，高野行夫，廣瀬伸一，兼子　直．ヒトてんかん遺伝子を導入したてんかんモデル動物の開発：てんかんの分子病態の解析．てんかん治療研究振興財団研究年報　2009;20:39-44.
A.13. 古郡規雄．統合失調症治療における臨床薬理遺伝学の臨床応用について．臨床薬理　2009;40(5):243-6.
A.14. 古郡規雄．抗うつ薬，抗精神病薬のファルマコゲノミックス．老年精神医学　2009;20(9):989-994.
A.15. 兼子　直，兼本浩祐，三國信啓，赤松直樹，服部英司．新しい薬の登場によるてんかん治療の進歩．臨床精神薬理　2009;12(11):2435-42.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 兼子　直．Roadmap 抗精神病薬の精神薬理を生かした重度精神疾患個別化治療（Peter JW 他著，Translating the Psychopharmacology of Antipsychotics to Individualized Treatment for Severe Mental Illness; A Roadmap）監訳，2008.7.1，アルタ出版㈱，東京発行，総頁77.

A.2. 吉田秀一，兼子　直．第8章 精神科医療，8-2-7 てんかん．精神保健福祉白書2009年度版．地域移行・地域生活支援はどう進むのか．精神保健福祉白書編集委員会編．2008年12月1日，中央法規出版㈱，東京，発行，総頁208．

A.3. 兼子　直．統合失調症治療における薬物動態・薬物相互作用・副作用に関する文献的考察（その4）－体重増加と遺伝子多型－．精神・神経疾患委託研究費事業18指-7『統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究』総括研究報告書，平成20年3月発行（主任研究者　渡邉義文）2008;85-7.

A.4. 兼子　直．特集：てんかん治療新時代－グローバルスタンダードを目指して－．兼子直編，Progress in Medicine 2008;28(9)別刷，ライフ・サイエンス社，東京，2008年10月3日発行，総頁72．

2009年度

A.1. 兼子　直，太田智佳子．1. 症状把握から診断への道筋．精神科専門医のためのプラクティカル精神科学．山内俊雄総編集，岡崎祐士，神庭重信，小山司，武田雅俊編集．P.221-9. 中山書店，東京．2009年8月31日発行.

A.2. 岩佐博人，兼子　直．5. その他の薬剤による誘発．専門医のための精神科臨床リュミエール14「精神科領域におけるけいれん・けいれん様運動」．兼本浩祐，山内俊雄編．P.124-9. 中山書店，東京，2009発行.

A.3. 岩佐博人，兼子　直．抗てんかん薬と気分安定薬．精神疾患と認知機能．精神疾患と認知機能研究会編集，山内俊雄編集統括．P.259-66. 新興医学出版社，東京．2009年11月7日発行.

A.4. 兼子　直，和田一丸．てんかんの薬物療法．臨床精神薬理ハンドブック第2版．樋口輝彦，小山司監修，神庭信重，大森哲郎，加藤忠史編集．P319-30. 医学書院，東京．2009年11月15日発行.

A.5. 吉田秀一，兼子　直．第8章　精神科医療，8-2-7　てんかん．精神保健福祉白書2010年度版－流動化する障害福祉施策－．精神保健福祉白書編集委員会偏．P.141. 中央法規出版，東京．2009年12月10日発行

(4) その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 兼子　直．てんかん治療におけるガバペンの存在意義．北海道ガバペン講演会集 2008;1-7.

A.2. 兼子　直，坂本卓子，吉田　淳．日常診療におけるうつ病治療を考える．Expert's in Eye in 青森講演集．2008;1-4.

A.3. 兼子　直．精神神経疾患の個別化治療の可能性．Neurosciences 2007; 弘前神経科学研究所紀要 2008;11-12.

A.4. 兼子　直，伊東宗行，木村　滋，小出信雄．多剤併用治療における新しい抗てんかん薬ガバペンの展望．座談会もりおか（ファイザー㈱）2008;1-3.

A.5. 兼子　直．日本からの個別化治療の提案．Activity Report 2008;9:13.

A.6. 兼子　直．Neurontin の有効性発現に至るまでの用量設定－ STEPS 試験－（Morrel MJ: Dosing to effeicacy with neurontine: The STEPS trial. Epilepsia 1999; 40（Suppl 6）:S23-6）．GPN558002A 2008;1-3.

A.7. 兼子　直．抗けいれん剤内服女性の妊娠　①てんかん・妊婦・その子供．脳神経外科ジャーナル 2008;17（Suppl）: 80.

A.8. 兼子　直．統合失調症の薬物治療における遺伝子多型の役割と副作用について．厚生労働省科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業『ゲノム医学を活用した統合失調症及び気分障害に対する個別化治療法の開発』平成17年度～19年度総合研究報告書（主任研究者　染矢俊幸）平成20年3月．2008;16-21.

A.9. 兼子　直．リスペリドンを用いた統合失調症の急性期治療と受容体および血液脳関門関連遺伝子多型の関係について．厚生労働省科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業『ゲノム医学を活用した統合失調症及び気分障害に対する個別化治療法の開発』平成17年度～19年度総合研究報告書（主任研究者　染矢俊幸）平成20年3月．2008;12-4.

A.10. 矢部博興，兼子　直.【大学・精神科紹介 9 】弘前大学神経精神医学教室．最新精神医学　2008;13(1):105-8.

B.1. 岡田元宏，兼子　直．神経伝達機構の解析．精神薬療研究年報　2008;40:18-24.

2009年度

A.1. 兼子　直．クローズアップ　てんかん学会⑪国際活動．波 2009;2:27.

A.2. 兼子　直．P&P Communication 弘前大学医学部附属病院神経科の取り組み，てんかんをもつ妊娠希望者のフォロアップと妊娠・授乳中のポイント．Pharmacist & Patient 2009 Spring, p.9-10, 総頁14.

A.3. 兼子　直．てんかん治療における新規抗てんかん薬トピラマートの使い方．協和発酵キリン㈱パンフレット　2009.

A.4. 古郡規雄．統合失調症の薬効予測－ドパミン D2受容体遺伝子多型を利用して－ Medical Tribune 2009;42(52-53):10.

A.5. 兼子　直．精神科医療の現状と展望．心　こころの健康 2009;48:9-18.

A.6. 兼子　直，大沼悌一，兼本浩祐，井上有史，田中正樹．【座談会】「精神症状」への影響を考慮したてんかん治療－てんかん患者の QOL 向上を目指して－．Pharma Medica 2009;27(12):55-62.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Clin Psychiatry	5.06	1	5.06
J ECT	1.176	1	1.176
Prog Neuro-Psychopharmacol Bio Psychiatry	2.802	3	8.406
Neuroreport	2.163	1	2.163
Drug Design Develop Ther	0	1	0
Expert Rev Clin Pharmacol	0	2	0
Epilepsy Seizure	0	1	0
J Neurosci	7.49	1	7.49
Neurology	6.014	1	6.014
Eur J Clin Pharmacol	2.177	2	4.354
Total		14	34.663

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Prog Neuro-Psychopharmacol Biol Psychiatry	2.638	5	13.19
J ECT	0.974	1	0.974
Psychiatry Clin Neurosci	1.394	1	1.394
J Clin Psychopharmacol	4.371	1	4.371
J Med Genet	5.713	1	5.713
Drug Discov Ther	0	1	0
Brain Dev-Jpn	1.401	2	2.802
Epilepsy Res	2.405	1	2.405
Neurology	7.043	1	3.551
Pharmacogenomics	3.551	1	3.551
Ther Drug Monit	2.14	2	4.28
Eur J Clin Pharmacol	2.787	1	2.787
Total		18	45.018

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
てんかん研究	1	
臨床精神薬理	2	6
Prog Med	2	
Pharma Medica	4	
Clin Neurosci	1	
Epilepsy	1	
Medical Practice	1	
臨床脳波	1	
新薬と臨床	1	
臨床薬理の進歩	1	
日本医事新報		1
肥満と糖尿病		1
神経内科		1
最新精神医学		1
臨床精神医学		1
てんかん治療研究振興財団研究年報		1
臨床薬理		1
老年精神医学		1
日本医師会雑誌		1
脳外誌		1
計	15	16

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	1	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	5

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
北海道ガバペン講演会集	1	
Expert's in Eye In 青森講演集	1	
弘前神経科学研究所紀要	1	
座談会もりおか	1	
Activity Report	1	
GPN558002A	1	
脳神経外科ジャーナル	1	
精神薬療研究年報	1	
精神・神経疾患委託研究費事業18指-7『統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究』総括研究報告書	1	
厚生労働省科学研究費補助金「こころの健康科学」『ゲノム医学を活用した統合失調症及び気分障害に対する個別化治療治療法の開発』平成17年度～19年度総合研究報告書	2	
最新精神医学	1	
波		1
Pharmacist & Patient 2009 Spring		1
協和発酵キリン㈱パンフレット		1
Medical Tribune		1
心　こころの健康		1
Pharma Medica		1
計	12	6

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

B.1. Kaneko S, Yoshida S, Kanai K, Iwasa H, Yasui-Furukori N, and Epilepsy genetic Study Group Japan. S6: Pharmacogenomics based personalized pharmacotherapy development of individualized medicine for epilepsy based upon genetic polymorphisms: Potential in the combination of various research approaches. 2008 International Conference on Pharmacogenomics.（Joint Conference with the 14th Annual Meeting of the PRACP）, Busan, KOREA, April 9-12, 2008.）Abstract Book 2009;88-9.

B.2. Yasui-Furukori N. Clinical pharmacogenetics of antipsychotics. 16th World Congress of Psychiatric Genetics. Osaka, Japan, 11-15 Sept, 2008.

C.1. Yasui-Furukori N, Uemichi T, Nobori T, Mizuno M, Shirahama S, Miyoshi Y, and Kaneko S. Allele frequencies of CYP2D6 in a Japanase population. 2008 International Conference on Pharmacogenomics.（Joint Conference with the 14th Annual Meeting of the PRACP）, Busan, KOREA, April 9-12, 2008.）Abstract Book 2009;143.

C.2. Kaneko S, Yoshida S, and Kanagawa K. Development of individuailized medicine for epilepsy based on genetic polymorphisms.（7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Difficult-to-treat Epilepsies: Issues & Management Tackling Refractory Epilepsy, May 17, 2008, Banquet Holl, Xiamen, CHAINA.（7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Programme & Abstract Book 2008;）.

C.3. Yoshida S, Miyashita A, Kuwano R, Kojima T, Sasaki T, Zhu G, Kanai K, Hirose S, and Kaneko S. Genome-wide identification of febrile seizure and related epilepsy phenotypes loci.（7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Difficult-to-treat Epilepsies: Issues & Management Tackling Refractory Epilepsy, May 15-18, 2008, Banquet Holl, Xiamen, CHAINA.（7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Programme & Abstract Book 2008;）.

C.4. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Ueno S, Wakabayashi K, and Kaneko S. Determination of neurotransmitter

release in novel spontaneous juvenile myoclonic epilepsy. (7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Difficult-to-treat Epilepsies: Issues & Management Tackling Refractory Epilepsy, May 15-18, 2008, Banquet Holl, Xiamen, CHAINA. (7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Programme & Abstract Book 2008;).

C.5. Kaneko S, Yoshida S, and Kanagawa K. Development of individuailized medicine for epilepsy based on genetic polymorphisms. (7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Difficult-to-treat Epilepsies: Issues & Management Tackling Refractory Epilepsy, May 17, 2008, Banquet Holl, Xiamen, CHAINA. (7th Asian Oceanian Epilepsy Congress Programme & Abstract Book 2008;).

C.6. Kaneko S, Yoshida S, Nakagawa K, Epilepsy Genetic Study Group Japan. Development of Individualized Medicine for Epilepsy Based on Genetic Polymorphisms, 1st JES-KES Joint Symposium (June 2008). Abstract 2008,189.

C.7. Miura J, Obua C, Abbo C, Kaneko S, and Tateishi T. Cytochrome P450 2C19 genetic polymorphisms in Ugandans. 17th International Symposium on Misrosomes & Drug Oxidations, Saratoga Springs, New York, July 6-10, 2008). Program & Abstract Book 2008;191.

C.8. Yasui-Furukori N, et al. Clinical response to risperidone in relation to plasma drug concentration in acutely exacerbated schizophrenic patients. 26th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium, Munich, Germany, 13-17 July, 2008.

C.9. Saito M, et al. Comparison on risperidone and dopamine selective inhibitors in acutely exacerbated schizophrenic patients. 26th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium, Munich, Germany, 13-17 July, 2008.

C.10. Nakagami T, et al. Effect of MDR1 genotype on clinical response to risperidone in acutely exacerbated schiazophrenic patients. 26th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium, Munich, Germany, 13-17 July, 2008.

C.11. Sato Y, et al. Comparison of metabolic factors by cookie test between schizophrenic patients during treatment with olanzapine or risperidone. 26th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium, Munich, Germany, 13-17 July, 2008.

C.12. Tsuchimine S, et al. Association between mojor gene polymprphisms of tyrosine hydroxylase (TH), monoamine oxides A (MAOA) and catechol-0-methyltransferase (COMT) and personality trait in Japanese patients. 26th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium, Munich, Germany, 13-17 July, 2008.

C.13. Kaneda A, et al. Can tree drawing test predict the response to pharmacological treatments in schizophrenic patients. 26th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium, Munich, Germany, 13-17 July, 2008.

C.14. Tsuchimine S, Yasui-Furukori N, Kaneda A, Saito M, Nakagami T, and Kaneko S. Gen etic minor variants of dopamine D4 receptor (DRD4) polymorphisms associated with novelty seeking and persistence in Japanese. 16th World Congress of Psychiatric Genetics. Osaka, Japan, 11-15 Sept, 2008.

2009年度

B.1. Kaneko S. Symposium 4 "Tailor-made Pharmacotherapy in Epilpesy": Development of individualized medicine for epilepsy based on genetic information. The 43rd Congress of The Japan Epilepsy Society Pre Congress: International Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. 2009.10.24.

C.1. Yoshida S, Okada M, Yoshida S, and Kaneko S. Effcts of topiramate on gene expression of protein kinase C. 28th International Epilepsy Congress. Budapesut, HUNGARY, 2009.6.28-7.2.

C.2. Yoshida S, Tsuchimine S, Yasui-Furukori N, Onodera N, Yoshida S, Kojima T, Ishidu M, Nakagawa K, and Kaneko S. Analysis of MDR1 and MRP2 polymorphisms in drug-resistant epilepsy. 28th International Epilepsy Congress. Budapesut, HUNGARY, 2009.6.28-7.2.

C.3. Huanga MC, Yoshida S, Okada M, Morita K, Nagafujie H, Hirose S, Kaneko S, and Kojima T. Mutation screening GABRG2 gene in some types of epilepsy patients. The 43rd Congress of The Japan Epilepsy Society Pre Congress: International Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. 2009.10.24.

C.4. Deguchi M, Abe T, Nakagawa T, Seo T, Saruwatari J, Yoshida S, Kaneko S, Ishitsu T, and Nakagawa K. Association between mitochondrial superoxide dismutase genotype and serum transaminase levels in patients treated with valproic acid. The 43rd Congress of The Japan Epilepsy Society Pre Congress: International Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. 2009.10.24.

C.5. Shimosuda M, Okada Y, Seo T, Goto S, Saruwatari J, Yoshida S, Kaneko S, Ishitsu T, and Nakagawa K. Determination of the influence of cytochrome P450 polymorphisms on the pharmacokinetics of carmabazepine in Japanese patient with epilepsy. The 43rd Congress of The Japan Epilepsy Society Pre Congress: International Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. 2009.10.24.

C.6. Sugawara T, Saruwatari J, Yoshida S, Kanai K, Yoshida S, Wada K, Shimizu T, Nakagawa K, Hirose S, Kaneko S, and The Epilepsy Genetic Study Group Japan. Development of a tool for genetic diagnosis of epilepsies. The 43rd Congress of The Japan Epilepsy Society Pre Congress: International Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. 2009.10.24.

C.7. Yoshida S, Kanai K, Iwasa H, Wada K, Shimizu T, Kaneko S, and The Epilepsy Genetic Study Group Japan. The 43rd Congress of The Japan Epilepsy Society Pre Congress: International Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. 2009.10.24.

C.8. Yoshida S, Kanai K, Shimizu T, Kaneko S, and The Epilepsy Genetic Study Group Japan, Constructing database of epilepsy genes and mutations for development of genetic diagnosis system. The 20th International Conference on Genome Informatics. Yokohama, JAPAN, 2009.12.14-16.

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 古郡規雄．統合失調症薬物治療における個別化医療の実践にむけて．第104回日本精神神経学会学術総会．東京都．5.29-31,2008.

B.2. 兼子　直．抗てんかん薬の催奇形性と妊娠中のてんかん診療．第3回日本てんかん学会九州地方会，第3回福岡大学「てんかん分子病態研究センター」セミナー．福岡市．6.21,2008.

B.3. 古郡規雄，佐藤　靖，古郡華子，斉藤まなぶ，中神　卓，兼子　直．リスペリドンあるいはオランザピンで治療中の統合失調症患者における耐糖脳試験．第18回日本臨床精神神経薬理学会＆第38回日本神経精神薬理学会合同年会．東京都．10.1-3,2008.

C.　23件

2009年度

B.1. 古郡規雄．統合失調症治療における臨床精神薬理遺伝学．第19回日本臨床精神神経薬理学会・第39回日本神経精神薬理学会，京都，2009.11.13-15.

B.2. 兼子　直，吉田秀一，猿渡淳二．シンポジウム12 遺伝子異常と臨床神経生理：てんかんの遺伝子同定を超えて．第39回日本臨床神経生理学会学術総会，北九州，2009.11.18-20.

C.　36件

Ⅲ．学術賞

2008年度

日本臨床精神神経薬理学会ポール・ヤンセン賞（古郡規雄，佐藤　靖，古郡華子，斉藤まなぶ，中神　卓, 兼子　直．リスペリドンあるいはオランザピンで治療中の統合失調症患者における耐糖能試験．J.Clin. Psychiatry）

Ⅳ．共同研究

2008年度

・㈱シバタ医理科：神経精神疾患責任遺伝子解析と変異蛋白機能解析
・㈶愛成会：中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析
・東北化学薬品㈱：てんかんの遺伝子診断－遺伝子多型に基づく個別化治療用マイクロアレイ開発.

2009年度

・㈱シバタ医理科：神経精神疾患責任遺伝子解析と変異蛋白機能解析
・㈶愛成会：中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析
・東北化学薬品㈱：てんかんの遺伝子診断－遺伝子多型に基づく個別化治療用マイクロアレイ開発.

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

・兼子　直：基盤研究（S）「てんかんの分子病態の解析」

他研究単位との研究分担者として

・兼子　直：基盤研究（B）「統合失調症における感覚記憶内の時間軸異常に関する研究」
基盤研究(B)「ヒト認知機能を障害させる遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその病態解析」

2009年度

研究代表者として

・吉田秀一：特別研究員奨励費「てんかんの責任遺伝子・AED 代謝関連遺伝子多型に基づく個別化治療」

他研究単位との研究分担者として

・兼子　直：基盤研究（B）「統合失調症における感覚記憶内の時間軸異常に関する研究」
基盤研究(B)「ヒト認知機能を障害させる遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその病態解析」
・松岡貴志：基盤研究（B）「統合失調症における感覚記憶内の時間軸異常に関する研究」

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

他研究単位との研究分担者として

・兼子　直：国立精神・神経センター「統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究」
国立精神・神経センター「てんかんに対する新たな治療法開発と標準化にかんする研究」

2009年度

他研究単位との研究分担者として

・兼子　直：国立精神・神経センター「てんかんに対する新たな治療法開発と標準化に関する研究」

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として

・兼子　直：（財）てんかん治療研究振興財団研究助成
（財）先進医薬研究振興財団研究助成
・古郡規雄：統合失調症研究会
（財）てんかん治療研究振興財団研究助成
・佐藤　靖：（財）先進医薬研究振興財団研究助成

2009年度

研究代表者として

・兼子　直：（財）先進医薬研究振興財団研究助成
・古郡規雄：統合失調症研究会
（財）てんかん治療研究振興財団研究助成

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

2009年度

・The 43rd Congress of The Japan Epilepsy Society Pre Congress: International Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. 2009.10.24.

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2009年度

・Lei Chen（Dept. of Neurology, West China Hospital, Sichuan University 2009. 7.17～2010. 1.14）
・Liu Fang（中国医科大学付属第一臨床病院神経内科 2009.10. 1～2010. 2.26）

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2009年度

・第43回日本てんかん学会（2009.10.22-23, 弘前市）

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2009年度

・猿渡淳二（熊本大学大学院医学薬学研究部薬物治療学分野・助教　2009. 8. 3 ～ 2009.12.25）

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

16. 小児科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

小児科学の発展に寄与する臨床研究および分子生物学を基盤とする基礎研究を行い，実際の臨床に研究成果を還元することを大きな目標に設定したが，約80％の達成度であった。

理念：

先進的な基礎研究および臨床研究を行い，小児科学の発展のために寄与することである。

これから２年間の目標：

1．Diamond-Blackfan 貧血の効果的診断法の確立する。
2．Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の発症機構を解明する。
3．小児がん治療に伴う各種合併症の解析を進める。
4．ヒト培養メサンギウム細胞を用いた retinoic acid-inducible gene- I（RIG-I）を介した炎症機構の解明とその制御について研究する。
5．尿沈渣細胞に発現する各種機能分子の mRNA 発現を用いた非侵襲的な腎病変診断法の開発を開発する。
6．小児腎疾患・リウマチ性疾患を対象としたより非侵襲的かつ効果的な免疫制御療法の開発を行なう。
7．難治てんかんの治療研究を行なう。
8．乳児神経反射の解析を行なう。
9．胎児心疾患の診断と治療に関する有効な診療体制の構築を行なう。
10．組織ドプラ法および3D エコーを用いた小児各種心疾患の心機能解析を進める。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　8，大学院学生　1，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	伊藤　悦朗	1 年
	准教授	専　任	高橋　　徹	1 年
	講　師	専　任	田中　　完	1 年
	講　師	専　任	土岐　　力	1 年
	助　教	専　任	藤田　浩史	1 年
	助　教	専　任	照井　君典	1 年
	助　教	専　任	佐々木伸也	1 年
	助　教	専　任	鈴木　康一	1 年
研究課題	1．Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の発症機構 2．血球分化の分子機構の解析 -BACH 転写因子を中心に 3．小児白血病の多施設共同の治療研究 4．小児血液疾患の原因遺伝子の分子生物学的解析 5．小児心疾患における心筋傷害マーカー 6．胎児心疾患の診断と治療 7．尿沈査細胞に発現する腎疾患の病態に関与する各種機能分子の検討とその病態に関わる機序の研究 8．小児期発症難治性腎疾患，リウマチ性疾患に対する新しい視点から免疫抑制療法の臨床研究 9．Retinoic acid-inducible gene-I（RIG-I）の腎組織上への発現と意義に関する研究 10．小児難治性てんかんの治療			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　10（うち2名大学院生），大学院学生　0，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	伊藤　悦朗	1 年
	准教授	専　任	高橋　　徹	1 年
	講　師	専　任	田中　　完	1 年
	講　師	専　任	土岐　　力	1 年
	助　教	専　任	藤田　浩史	1 年
	助　教	専　任	照井　君典	1 年
	助　教	専　任	佐々木伸也	1 年
	助　教	専　任	工藤　　耕	9 ヶ月
	助　教	専　任	鈴木　康一	3 ヶ月
研究課題	1．Diamond-Blackfan 貧血の効果的診断法の確立 2．Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の発症機構 3．小児がん治療に伴う各種合併症の解析 4．ヒト培養メサンギウム細胞を用いた retinoic acid-inducible gene- I（RIG-I）を介した炎症機構の解明とその制御 5．尿沈渣細胞に発現する各種機能分子の mRNA 発現を用いた非侵襲的な腎病変診断法の開発 6．小児腎疾患・リウマチ性疾患を対象としたより非侵襲的かつ効果的な免疫制御療法の開発 7．難治てんかんの治療研究 8．乳児神経反射の解析 9．胎児心疾患の診断と治療に関する有効な診療体制の構築 10．組織ドプラ法および3D エコーを用いた小児各種心疾患の心機能解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Tanaka H, Oki E, Tsuruga K, Sato N, Matsukura H, Matsunaga A, Kondo Y, Suzuki J. Mizoribine treatment of young patients with severe lupus nephritis: A clinicopathologic study by the Tohoku Pediatric Study Group. **Nephron Clin Pract** 2008;110:c73-c79.

A.2. Oki E, Tsuruga K, Kudo M, Tsugawa K, Suzuki K, Tanaka H. A novel multidrug therapy for difficult cyclosporine-resistant focal segmental glomerulosclerosis. **Pediatr Nephrol** 2009;24:773-775.

A.3. Sato T, Toki T, Kanezaki R, Xu G, Terui K, Kanegane H, Miura M, Adachi S, Migita M, Morinaga S, Nakano T, Endo M, Kojima S, Kiyoi H, Mano H, Ito E. Functional analysis of JAK3 mutations in transient myeloproliferative disorder and acute megakaryoblastic leukaemia accompanying Down syndrome. **Br. J. Haematol.** 2008;141(5):681-688.

A.4. Terui K, Sato T, Kamio T, Kudo K, Sasaki S and Ito E. Two novel variants of *MOZ-CBP* fusion transcripts in spontaneously remitted congenital leukemia with t(1;16;8)(p13;p13;p11), a new variant of t(8;16)(p11;p13). **Haematologica** 2008;93:1591-1593.

A.5. Nara M, Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Ishido K, Sugai M, Munakata H, Ito E, Sasaki M. Living donor liver transplantation for a childwith recurrent pediatric adult-type carcinoma.**Transplant Proc.** 2008;40:2828-9.

A.6. Ogawa J, Kanegane H, Tsuneyama K, Kanezaki R, Futatani T, Nomura K, Ishizawa S, Sasahara M, Ito E, Miyawaki T. Platelet-derived growth factor may be associated with fibrosis in a Down syndrome patient with transient myeloproliferative disorder. **Eur J Haematol.** 2008;81:58-64.

B.1. Kitamura H, Kaneko T, Nakano H, Terui K, Ito E, Sawamura D. Juvenile myelomonocytic leukemia presenting multiple painful erythematous lesions diagnosed as Sweet's syndrome. **J Dermatol** 2008;35:368-370.

B.2. Saito M, Nishikomori R, Kambe N, Fujisawa A, Tanizaki H, Takeichi K, Imagawa T, Iehara T, Takada H, Matsubayashi, T, Tanaka H, Kawakami K, Kagami S, Okafuji I, Yoshioka T, Adachi S, Keike T, Miyachi Y, Nakahata T. Disease-associated CIAS1 mutations induce monocyte death, revealing low-level mosaicism in mutation-negative cryopyrin-associated periodic syndrome patients. **Blood** 2008;111:2132-2141.

2009年度

A.1. Toki T, Kanezaki R, Adachi S, Fujino H, Xu G, Sato T, Suzuki K, Tauchi H, Endo M, Ito E. The key role of stem cell factor / KIT signaling in the proliferation of blast cells from Down syndrome-related leukemia. **Leukemia.** 2009;23(1):95-103.

A.2. Tanaka H, Oki E, Tsuruga K, Yashiro T, Hanada I, Ito E. Management of young patients with lupus nephritis

using tacrolimus administered as a single daily dose. **Clin Nephrol.** 2009;72:430-436.

A.3. Tsuruga K, Oki E, Yashiro T, Ito E, Tanaka H. Use of recombinant human serum albumin in pediatric patients with nephritic syndrome. **Pediatr Nephrol.** 2009;24:2275-2276.

B.1. Oda M, Isoyama K, Ito E, Inoue M, Tsuchida M, Kigasawa H, Kato K, Kato S. Survival after cord blood transplantation from unrelated donor as a second hematopoietic stem cell transplantation for recurrent pediatric acute myeloid leukemia. **Int J Hematol.** 2009;89:374-382.

B.2. Iida A, Inagaki K, Miyazaki A, Yonemori F, Ito E, Igarashi K. Bach1 deficiency ameliorates hepatic injury in a mouse model. **Tohoku J Exp Med.** 2009;217:223-229.

和文

2009年度

A.1. 敦賀和志，八代知美，沖　栄真，田中　完．小児ネフローゼ症候群に対する遺伝子組換え人血清アルブミン製剤の使用経験．**日本小児腎臓病学会雑誌**．2009;22:102-105.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 照井君典, 伊藤悦朗．ダウン症候群に合併する急性巨核芽球性．白血病の発症メカニズム．血液フロンティア 2008;18:583-590.

2009年度

A.1. 土岐　力, 照井君典, 伊藤悦朗．一過性異常骨髄増殖症．小児疾患治療のための病態整理．**小児内科増刊号**．2009;41:1183-1186.

A.2. 工藤　耕，伊藤悦朗．Diamond-Blackfan 貧血．小児疾患診療のための病態整理．**小児内科増刊号**．2009;41:1108-1111.

A.3. 伊藤悦朗，土岐　力，金崎里香，佐藤知彦，照井君典，足立壮一．一過性骨髄増殖性疾患．小児科領域の血液疾患．**日本検査血液学会雑誌**．2009;10(3):457-464.

A.4. 田中　完．小児腎炎・ネフローゼ症候群の免疫抑制療法，シクロフォスファミド．**腎と透析**．2009;66:976-978.

（3）著書

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 伊藤悦朗，照井君典．Down 症候群患者に発症した M7における GATA1遺伝子突然変異．阿部達生編．**血液腫瘍アトラス（第4版）**．日本医事新報社　東京．2009;183-186.

A.2. 伊藤悦朗．Down 症に伴う骨髄増殖症．木崎昌弘，田丸淳一編．**WHO 分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学**．中外医学社　東京．2009;145-149.

（4）その他

英文

2008年度

A.1. Suzuki K, Tsugawa K, Oki E, Morio T, Ito E, Tanaka H. Vesical varices and telangiectasias in a patient with ataxia telangiectasia. **Pediatr Nephrol** 2008;23:1005-1008.

A.2. Oki E, Tsugawa K, Suzuki K, Ito E, Tanaka H. Leukocytapheresis for the treatment of refractory Henoch-Schönlein purpura resistant to both prednisolone and intravenous immunoglobulin therapy. **Rheumatol Int** 2008;28:823-824.

A.3. Oki E, Tsuruga K, Tsugawa K, Suzuki K, Shinagawa T, Nakahata T, Ito E, Tanaka H. Alternative treatment for systemic involvement in a child with postdiarrheal hemolytic-uremic syndrome. **Clin Nephrol** 2008;70:354-35.

2009年度

A.1. Minakawa S, Takeda H, Nakano H, Tono C, Takahashi Y, Sasaki S, Terui K, Ito E, Sawamura D. Successful umbilical cord blood transplantation for intractable eczematous eruption in hypohidrotic ectodermal dysplasia with immunodeficiency. **Clin Exp Dermatol.** 2009 Oct;34(7):e441-2.

A.2. Tsuruga K, Hanada I, Oki E, Suzuki K, Ito E, Echizenya T, Tanaka H. A pediatric case of severe proteinuric purpura nephritis with predominantly subepithelial IgA deposits. **Clin Nephrol.** 2009;71:725-726.

A.3. Suzuki K, Tsugawa K, Oki E, Aita K, Endo M, Waga S, Ito E, Tanaka H. Dense deposit disease presenting as endocapillary proliferative nephritis. **Pediatr Int.** 2009;51:739-741.

和文

2008年度

A.1. 敦賀和志，沖　栄真，鈴木康一，高橋義博，田中　完．末期腎不全前に腹膜透析を導入し，QOLの改善が図れた難治性ネフローゼ症候群の1女子例．日本腎臓学会誌　2009;51:68-73.

A.2. 田中　完．海外論文紹介．日本小児腎臓病学会雑誌　2008;21:77-79.

2009年度

A.1. 花田　勇，田中　完，沖　栄真，敦賀和志，伊藤悦朗，八代知美，越前屋竹寅．タクロリムスが有効であったネフローゼ型紫斑病性腎炎の1例．**腎と透析**．2009;66:883-886.

A.2. 田中　完．海外論文紹介．**日本小児腎臓病学会雑誌**．2009;22:208-210.

A.3. 敦賀和志，沖　栄真，鈴木康一，高橋義博，田中　完．末期腎不全前に腹膜透析を導入し，QOLの改善が図れた難治性ネフローゼ症候群の1女子例．**日本腎臓学会雑誌**．2009;51:68-73.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Nephron Clin Pract	1.535	1	1.535
Pediatr Nephrol	1.936	1	1.936
Br. J. Haematol	4.49	1	4.49
Leukemia	6.924	1	6.924
Haematologica	5.97	1	5.97
Transplant Proc	1.027	1	1.027
Eur J Haematol	2.163	1	2.163
J Dermatol	0.694	1	0.694
Blood	10.896	1	10.896
Total		9	35.635

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Leukemia	8.634	1	8.634
Clin Nephrol	1.373	1	1.373
Pediatr Nephrol	2.321	1	2.321
Int J Hematol	1.283	1	1.283
Tohoku J Exp Med	1.286	1	1.286
Total		5	14.897

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
血液フロンティア	1	
日本小児腎臓病学会雑誌		1
小児内科（増刊号）		2
日本検査血液学会雑誌		1
腎と透析		1
計	1	5

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	2
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pediatr Nephrol	2.321	1	2.321
Clin Nephrol	1.32	1	1.32
Rheumatol Int	1.327	1	1.327
Total		3	4.968

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Nephrol	1.373	1	1.373
Pediatr Int	0.677	1	0.677
Total		2	2.05

和文

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
日本腎臓学会誌	1	1
日本小児腎臓病学会雑誌	1	1
腎と透析		1
計	2	3

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Terui K, Sato T, Kamio T, Kudo K, Sasaki S, Takahashi Y, Toki T, and Ito E. Two novel variants of *MOZ-CBP* fusion transcripts in spontaneously remitted congenital leukemia with t(1;16;8)(p13;p13;p11), a new variant of t（8;16)(p11;p13). Br J Haematol 2008;141:S42.

A.2. T. Toki, R. Kanezaki S. Adachi, H. Fujino, G. Xu, T. Sato, K. Suzuki H. Tauchi, M. Endo and E. Ito. The Essential Role of Stem Cell Factor / KIT Signaling in the Proliferation and Survival of Blast Cells from Transient Leukemia in Neonates with Down Syndrome. The 2008 Annual Meeting of the American Society of Hematology. December 6-9,2008. San Francisco, CA, USA.

A.3. Kamio T, Ito E et al. Relapse of Children with Aplastic Anemia after Immunosuppressive Therapy. The 2008 Annual Meeting of the American Society of Hematology. December 6-9, 2008. San Francisco, CA, USA.

2009年度

C.1. Konno Y, Toki T, Tandai S, Xu G, Terui K, Ohga S, Kojima S, Hasegawa D, Kosaka Y, Kanei R, Imai T, Hongo T, Park M-J, Yanagisawa R, Koike K, Ito E. Mutations in ribosomal protein genes of Diamond-Blackfan anemia patients in Japan. 51th ASH Annual Meeting and Exposition. 2009.12.5-8. New Orleans, LA.

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 田中　完．小児期に発症し長期経過を有する若年ループス腎炎患者におけるタクロリムス1日1回投与法の効果．第51回日本腎臓学会学術総会ランチョンセミナー，2009年5月31．日福岡市.

C.　10件

2009年度

B.1. 伊藤悦朗．Ribosomal protein と赤血球産生障害（Diamond-Blackfan anemia 群と5q 欠失症候群）．第71回日本血液学会学術集会（教育講演）．平成21年10月23日-25日．京都.

C.　11件

Ⅲ．学術賞

2008年度

1. 佐藤知彦．弘前大学医学部学術賞　奨励賞

2009年度

1. 佐藤知彦．第2回日本小児血液学会賞（平成21年11月）．

Ⅳ．共同研究

2008年度

1．小児ネフローゼ症候群に対するネオーラル1日1回投与法と2回投与法の比較検討　有用性と安全性の確認を目的とした東北地区多施設治療研究
（代表世話人，福島県立医科大学保健学科教授　鈴木順造）
2．小児期ループス腎炎に対するミゾリビンパルス療法の検討（代表世話人，福島県立医科大学保健学科教授　鈴木順造）
3．東北大学大学院医学系研究科・生物化学分野　山本雅之教授　GATA1転写因子に関する研究
4．東北大学大学院医学系研究科・生物化学分野　五十嵐和彦教授　BACH 転写因子に関する研究

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
1．特定領域研究（代表　伊藤悦朗）
「ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病の多段階発症の分子機構」
配分額　9400千円
2．科学研究補助金基盤研究（B）（代表　伊藤悦朗）
「GATA-1遺伝子変異による一過性白血病の分子機構の解明と分子標的療法の開発」配分額　6,100千円
3．科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者　土岐力）
「急性巨核球性白血病の発現型における転写因子 BACH1 および GATA-1の機能解析」配分額　1,300千円

2009年度

研究代表者として
1．特定領域研究（研究代表者　伊藤悦朗）
研究課題名：「ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病の多段階発症の分子機構」 配分額　9,400千円.
2．科学研究費補助金基盤研究（B）（研究代表者　伊藤悦朗）
研究課題名：「GATA-1遺伝子変異による一過性白血病の分子機構の解明と分子標的療法の開発」 配分額　6,100千円.
3．科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者　土岐　力）
研究課題名：「急性巨核球性白血病の発現型における転写因子 BACH1 および GATA-1の機能解析」 配分額　1,300千円.
4．科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者　照井君典）
研究課題名：「ダウン症候群の一過性骨髄増殖性疾患と急性巨核性白血病における細胞増殖機構の解明」
配分額　1,300千円.

(2) その他の省庁からの研究費

2009年度

研究代表者として
1．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
（研究代表者　伊藤悦朗）
研究課題名：「先天性赤芽球癆（Diamond-Blackfan 貧血）の効果的診断法の確立に関する研究」
交付基準額　19,550千円（うち配分額10,550千円（うち間接経費2,550千円））.

他研究単位との研究分担者として
1．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業（分担者　伊藤悦朗）
研究課題名：「先天性角化不全症の効果的診断方法の確立と治療ガイドラインの作成に関する研究」 配分額　500千円.
2．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業（分担者　伊藤悦朗）
研究課題名：「ダウン症候群でみられる一過性骨髄異常増殖症の重症度分類のための診断基準と治療指針の作成に関する研究」 配分額　2,000千円.
3．厚生労働省成育医療研究委託費（分担者　伊藤悦朗）
研究課題名：「小児期特異的血液疾患の分子遺伝子学的解析」配分額　1,000千円.
4．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業（分担者　照井君典）
研究課題名；「先天性赤芽球癆（Diamond-Blackfan 貧血）の効果的診断法の確立に関する研究」 配分額　2,000千円.

5．厚生労働省がん助成金（分担者　照井君典）
研究課題名：「胎生期を視野に入れた小児白血病発生のメカニズムの解明を新しい治療法開発に向けた総合戦略」 配分額　300千円.

（3）学内の研究助成

2008年度

他研究単位との研究分担者として
1．厚生労働省成育医療研究委託費（分担　伊藤悦朗）
配分額　1,000千円

2009年度

研究代表者として
1．平成21年度弘前大学若手研究者支援事業（敦賀和志）
「慢性腎炎患者における尿沈渣細胞の各種機能分子 mRNA 発現からみた，腎組織障害の非侵襲的評価法の研究」 配分額　500千円.
2．第28回唐牛記念医学研究基金助成金（敦賀和志）
「慢性腎炎患者における尿沈渣細胞の各種機能分子 mRNA 発現からみた，腎組織障害の非侵襲的評価法の研究」 配分額　1,000千円.

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として
1．田中　完．財団法人　黒住医学研究振興財団第16回研究助成
研究課題：腎糸球体疾患患者の尿沈査細胞を用いた各種機能分子 mRNA 発現の解析．900千円.
2．田中　完．財団法人　母子健康協会第21回小児医学研究助成
研究課題：ヒト培養メサンギウム細胞における retinoic acid-inducible gene-I の発現と意義に関する研究．1,150千円.

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2008年度

日本学術振興会外国人特別研究員（2008年9月末まで） 徐剛（中国）1名

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2009年度

王　汝南，中国医科大学，中国，平成21年6月～（継続）

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2009年度

工藤　耕，セントジュード小児病院，アメリカ合衆国，平成21年9月～（継続）

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2008年度

第147回日本小児科学会青森地方会（会長：伊藤悦朗）弘前市
第148回日本小児科学会青森地方会（会長：伊藤悦朗）八戸市
平成20年度青森県小児保健協会夏期懇談会（会長：伊藤悦朗）八戸市
平成20年度青森県小児保健協会総会・学術集会（会長：伊藤悦朗）弘前市
第27回青森小児血液・腫瘍研究会（会長：伊藤悦朗）青森市
第 2 回弘前大学造血幹細胞移植研究会（会長：伊藤悦朗）弘前市
第38回青森県小児神経談話会（世話人：藤田浩史）弘前市

2009年度

第149回日本小児科学会青森地方会（会長：伊藤悦朗），弘前市
第150回日本小児科学会青森地方会（会長：伊藤悦朗），青森市
平成21年度青森県小児保健協会夏期懇談会（会長：伊藤悦朗），青森市
平成21年度青森県小児保健協会総会・学術集会（会長：伊藤悦朗），青森市
第3回弘前大学造血幹細胞移植研究会（会長：伊藤悦朗），青森市
第28回青森小児血液腫瘍研究会（会長：伊藤悦朗），青森市
第39回青森県小児神経談話会（世話人：藤田浩史），弘前市

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2008年度

鈴木康一　新潟大学大学院医歯学総合研究科附属腎研究施設分子病態学分野，
2008年4月1日～ 2009年3月31日

2009年度

鈴木康一，新潟大学大学院医歯学総合研究科附属腎研究施設分子病態学分野，2009年4月～ 6月

Ⅶ．その他

なし

17. 胸部心臓血管外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

達成した。

理念：

患者に負担の少ない胸部外科・心臓血管外科治療の研究開発

これから２年間の目標：

コンピュータおよび内視鏡支援による外科治療の研究を発展させる。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　3，助教　5，助手　0，医員　3，大学院学生　4，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授		福田　幾夫	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	准教授		鈴木　保之	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	講　師		對馬　敬夫	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	講　師		皆川　正仁	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	講　師		大徳　和之	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教		境　　雄大	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教		木村　大輔	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教		谷口　　哲	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教		北川理映子	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教		渡辺　健一	2008.4.1 ～ 2009.3.31
研究課題	1．血流の可視化による病的大動脈内の血流の研究 2．心臓手術における脳合併症の予防 3．手術後の凝固系機能の変動と手術後静脈血栓塞栓症の予防・治療の研究 4．体外循環侵襲による肺の障害の研究 5．外科医療の効率化の研究 6．肺癌の浸潤，転移に関与する分子生物学的因子の検討 7．転移性肺腫瘍の外科治療成績と予後因子の解析 8．外科感染症の研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　3，助教　4，助手　1，医員　3，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授		福田　幾夫	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	准教授		鈴木　保之	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	講　師		對馬　敬夫	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	講　師		皆川　正仁	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	講　師		大徳　和之	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教		境　　雄大	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教		木村　大輔	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教		谷口　　哲	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教		渡辺　健一	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　手		山内　早苗	2009.4.1 ～ 2010.3.31
研究課題	1．大動脈および心臓弁膜石灰化の機序の研究 2．大動脈および心臓弁におよぼすメカニカルストレスの研究 3．心臓大血管手術における脳神経合併症の予防 4．手術後の凝固系機能の変動と手術後静脈血栓塞栓症の予防・治療の研究 5．肺癌の浸潤，転移に関与する分子生物学的因子の検討 6．転移性肺腫瘍の外科治療成績と予後因子の解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Fukuda I. Management of intraoperative malperfusion syndrome using femoral artery cannulation for repair of acute type A aortic dissection. Invited commentary. Ann Thorac Surg. 2008;85(5):1624

A.2. Ji K, Minakawa M, Fukui K, Suzuki Y, Fukuda I. Increased superoxide radical with a decrease in vascular endothelial growth factor and inducible nitric oxide synthase level lead to the progression of left ventricular hypertrophy in a pressure-overload rat heart model. Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2008;14(4),210-217,2008.

A.3. Fukuda I, Minakawa M, Fukui K, Suzuki Y. Management of an aorto-caval fistula from a ruptured aortic false aneurysm using a covered stent graft. Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2008;6(5):682-684.

A.4. Suzuki Y, Daitoku K, Minakawa M, Fukui K, Fukuda I. Poly-2-methoxyethylacrylate-coated bypass circuits reduce activation of coagulation system and inflammatory response in congenital cardiac surgery. Journal of Artificial Organs 2008;11(3):111-116.

A.5. Suzuki Y, Daitoku K, Minakawa M, Fukui K, Fukuda I. Dynamic cardiomyoplasty using artificial muscle. Journal of Artificial Organs 2008;11(3):160-162.

A.6. Sakai T, Ogura Y, Kimura D, Narita J, Suto T, Fukuda I. Pulmonary embolism and cerebral venous thrombosis after thoracoscopic surgery for benign pulmonary disease. General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2008;56(11):570-574.

A.7. Fujita W, Daitoku K, Taniguchi S, Fukuda I. Endovascular stent placement for acute type-B aortic dissection with malperfusion–an intentional surgical delay and a possible 'bridging therapy'. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2008; 8(2):266-268.

A.8. Suzuki Y, Yamauchi S, Daitoku K, Fukui K, Fukuda I. Extracorporeal membrane oxygenation circulatory support after congenital cardiac surgery. ASAIO Journal. 2009;55(1):53-57.

A.9. Fujita W, Fukuda I, Kitagawa R, Kimura D, Yamada Y, Tsushima T. ESOPHAGEAL SCHWANNOMA PRESENTING WITH CHEST OPPRESSION: REPORT OF A CASE. Hirosaki Medical Journal. 2009;60(2):96-99.

B.1. Itoh K, Minakawa M, Ono Y, Tsushima T, Fukui K, Fukuda I. Role of oxidative stress in hypertrophied myoblasts stimulated by isoproterenol. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2008;56(4):170-176.

B.2. Fujiwara T, Saito S, Osanai T, Kameda K, Abe N, Higuma T, Yokoyama J, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Okumura K. Decreased plasma and cardiac matrix metalloproteinase activities in patients with coronary artery disease and treated with pravastatin. European Journal of Pharmacology. 2008;593:146-151.

2009年度

A.1. Kaiqiang Ji, Minakawa M, Fukui K, Suzuki Y, Fukuda I. Olmesartan improves left ventricular function in pressure-overload hypertrophied rat heart by blocking angiotensin II receptor with synergic effects of upregulation of angiotensin converting enzyme 2. Therapeutic Advances in Cardiovascular Disease 3;2:103-111,2009.

A.2. Fukuda I, Fujimori S, Daitoku K, Yanaoka H, Inamura T. Flow velocity and turbulence in the transverse aorta of a proximally directed aortic cannula: hydrodynamic study in a transparent model. Ann Thorac Surg 87:1866-1871,2009.

A.3. Fukuda I, Osanai S, Shirota M, Inamura T, Yanaoka H, Minakawa M, Fukui K. Computer-simulated fluid dynamics of arterial perfusion in extracorporeal circulation: From reality to virtual simulation Int J Artif Organs 32:362-370,2009.

A.4. Satoshi Taniguchi, Ikuo Fukuda, Kazuyuki Daitoku, Masahito Minakawa, Satoru Odagiri, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui, Kenichiro Asano and Hiroki Ohkuma Prevalence of venous thromboembolism in neurosurgical patients Heart and Vessels 24:491-424,2009.

A.5. Minakawa M, Fukuda I, Igarashi T, Fukui K, Yanaoka H, Inamura T. Hydrodynamics of Aortic Cannulae During Extracorporeal Circulation in a Mock Aortic Arch Aneurysm Model. Artif Organs 34:105-112,2010.

A.6. Yoshiaki Saito, Ikuo Fukuda, Kazuyuki Daitoku, and Satoshi Taniguchi. The semi-clamshell approach for the single-stage treatment of thoracic mycotic aneurysm Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 10(2):322-324,2010.

A.7. Daitoku K, Fukuda I, Taniguchi S, Minakawa M. Endovascular treatment of an aortobronchial fistula caused by a distal aortic arch mycotic aneurysm: report of a case. Surg Today 40:54-56,2010.

A.8. Ikuo Fukuda, Hideki Yanaoka, Takao Inamura, Msahito Minakawa, Kazuyuki Daitoku, and Yasuyuki Suzuki. Experimental Fluid Dynamics of Transventricular Apical Aortic Cannulation Artif Organs 34(3):222-4,2010.

A.9. Yasuyuki Suzuki, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Bidirectional Cavopulmonary Shunt with Additional Pulmonary Blood Flow ASIAN CARDIOVASCULAR & THORACIC ANNALS 18(2):135-140,2010.

B.1. Sutoh Takemichi , Fukuda Ikuo , Kimura Daisuke , Tsushima Takao. Nafamostat Mesilate（FUT-175）Inhibits Cell Growth and Invasion of Malignant Pleural Mesothelioma Cell Line, MSTO-211H THE HIROSAKI MEDICAL JOURNAL　61(1):19-25,2010.

B.2. Tomomi Kusumi,　Masahito Minakawa, Kozo Fukui,　Shin Saito, Motonari Ohashi, Fuyuki Sato, Ikuo Fukuda, Hiroshi Kijima. Cardiac tumor comprising two components including typical myxoma and atypical hypercellularity suggesting a malignant change Cardiovascular Pathology　18(6):369-374,2009.

和文

2008年度

A.1. 渡辺健一，大徳和之，鈴木保之，川村知紀，山内早苗，皆川正仁，福井康三，福田幾夫．肺動脈閉鎖と右鎖骨下動脈起始異常を伴う Fallot 四徴症に対する姑息的右室流出路形成術の１例．胸部外科　2008;61(5):403-406.

A.2. 山田芳嗣，北川理映子，須藤武道，木村大輔，対馬敬夫，福田幾夫．滑膜肉腫肺転移手術後長期生存の１例．日本臨床外科学会雑誌　2008;69(8):1897-1901.

A.3. 境　雄大，小倉雄太，木村大輔，對馬敬夫，福田幾夫．術中心停止をきたした肥大型心筋症を合併した肺癌の１例．日本呼吸器外科学会雑誌　2008;22(7):1027-1032．

A.4. 境　雄大，福田幾夫．心臓血管外科系におけるオンコロジー・エマージェンシーへの対応．癌と化学療法 2008;35(13):2307-2310.

A.5. 山内早苗，鈴木保之，大徳和之，皆川正仁，福井康三，福田幾夫．一期的根治術と持続的血液濾過透析を施行した大動脈弓離断症 B 型の１例．胸部外科　2008;6(13):1161-1164.

A.6. 境　雄大，対馬敬夫，木村大輔，福田幾夫，鎌田義正．CA19-9 産生肺癌の１切除例．日本臨床外科学会雑誌　2008;70(4):1033-1038.

A.7. 渡辺健一，谷口　哲，小田桐聡，山内早苗，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，福田幾夫，河野元嗣．TRISS 法による外傷重症度分類からみた外傷性胸部大動脈損傷の外科治療成績．日本血管外科学会雑誌　2008;18(3):413-420.

A.8. 谷口　哲，福田幾夫，藤田和歌子，渡辺健一，川村知紀，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，佐久間聖仁．日本における急性肺塞栓症に対する外科治療の現況．Therapeutic Research　2008;30(5):645-646.

B.1. 小山内聡史，稲村隆夫，柳岡英樹，福田幾夫，皆川正仁，福井康三．体外循環時における大動脈弓内流れの数値シミュレーション．脈管学　2008;48(3):313-318.

B.2. 北澤淳一，猪股真喜子，山口千鶴，田中一人，玉井佳子，皆川正仁，福井康三，福田幾夫．携帯「不規則抗体カード」が輸血副作用防止に有効であった１例．日本輸血細胞治療学会誌　2008;54(4):503-506.

B.3. 後藤　武，木村正臣，福井康三，佐藤正治，奥村　謙，福田幾夫．新しい補助人工心臓装置による患者搬送経験．体外循環技術　2009;36(1):28-31.

2009年度

A.1. 木村大輔，脇本　剛，北川理映子，須藤武道，山田芳嗣，對馬敬夫，福田幾夫．持続腹膜透析導入を契機に発見された横隔膜交通症の１例．胸部外科　62(10):928-931,2009.

A.2. 福田幾夫．収縮性心膜炎に対する手術のコツ．胸部外科　62:795-759,2009.

A.3. 境　雄大．消化管症候群（第2版）下－その他消化管疾患を含めて－．V 虫垂　膿瘍，癒，肉芽腫　Amyand ヘルニア．別冊日本臨牀　新領域別症候群シリーズ　No.12:688-691,2009.

A.4. 境　雄大，小倉雄太．消化管症候群（第2版）下－その他消化管疾患を含めて－．V 虫垂　膿瘍，癒，肉芽腫　de Garengeot ヘルニア．別冊日本臨牀　新領域別症候群シリーズ　No.12:688-691,2009.

A.5. 境　雄大，對馬敬夫，木村大輔，福田幾夫，鎌田義正．CA19-9 産生肺癌の１切除例．日本臨床外科学会雑誌　70(4):1033-1038,2009.

A.6. 境　雄大，小倉雄太，若山文規，兒玉博之，成田淳一．緊急手術を施行した鼠径部ヘルニア嵌頓症例の検討．手術　63(10):1555-1559,2009.

A.7. 渡辺健一，福井康三，谷口　哲，大徳和之，皆川正仁，鈴木保之，福田幾夫，木村正臣，奥村　謙．左心補助人工心臓装着時に三尖弁形成と一酸化窒素吸入を要した拡張型心筋症．胸部外科　62(10):888-891,2009.

A.8. 渡辺健一，谷口　哲，小田桐聡，山内早苗，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，福田幾夫，河野元嗣．TRISS 法による外傷重傷度分類からみた外傷性大動脈損傷の外科治療成績．日本血管外科学会雑誌　18:413-420,2009.

A.9. 福井康三，野村亜南，小笠原尚志，川村知紀，山内早苗，渡辺健一，谷口　哲，大徳和之，鈴木保之，福田幾夫．大動脈基部病変に対する外科治療－術式選択と手術成績．胸部外科　62(11):958-963,2009.

A.10. 谷口　哲，福田幾夫，藤田和歌子，渡辺健一，川村知紀，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，佐久間聖仁．日本における急性肺塞栓症に対する外科治療の現況．Therapeutic Research　30:645-646,2009.

A.11. 谷口　哲，福田幾夫．肺塞栓除去術．メディチーナ　46:782-874,2009.

A.12. 境　雄大．保存的治療で治癒しえた Helicobacter pylori 陽性の小児十二指腸潰瘍穿孔の１例．日本外科系連合学会誌　34(5):851-855,2009.

A.13. 境　雄大，小倉雄太，若山文規，兒玉博之，成田淳一，水上浩哉．術前に血清 CEA 高値を呈した虫垂粘液嚢胞腺癌の１例．手術　63(12):1875-1878,2009.

A.14. 境　雄大，小倉雄太，成田淳一，若山文規，兒玉博之．肺小細胞癌の化学療法後に発症した大腸憩室炎の１例．日本臨床外科学会雑誌　71(1):145-149,2010.

A.15. 境　雄大．乳癌術前術後に発見された孤立性はい腫瘤切除例の検討．日本外科系連合学会誌　第35巻1号:17-20,2010.

A.16. 境　雄大，木村大輔，対馬敬夫，鈴木真理子，廣瀬勝己，畑中　亮，山田芳嗣，福田幾夫．非小細胞肺癌に対する胸腔鏡補助下手術におけるリンパ節郭清の妥当性の検討．診断と治療　98(2):341-345,2010.

A.17. 境　雄大，木村大輔，畑中　亮，山田芳嗣，対馬敬夫，福田幾夫．血気胸で発症後の持続する気漏に対して待機的手術を施行した Marfan 症候群の1例．日本外科系連合学会誌　35(2):139-143,2010.

A.18. 境　雄大．右側大動脈弓を伴った左肺癌の1例．日本外科系連合学会誌　35(2):139-143,2010.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 福田幾夫，谷口　哲．別冊日本臨床　新領域別症候群シリーズ　No. 6循環器症候群（第2版）　IIIIX. 大動脈疾患．感染性大動脈瘤．日本臨床2008．

A.2. 福田幾夫，谷口　哲．【循環器症候群（第2版）　その他の循環器疾患を含めて】大動脈疾患　感染性大動脈瘤，日本臨床社，日本臨床　2008;298-39.

A.3. 福田幾夫．冠動脈の構造と冠循環の特徴，学習研究社，月刊ナーシング　2008;28(6):80-83.

A.4. 福田幾夫．胸痛，学習研究社，月刊ナーシング　2008;28(増刊号):186-189.

A.5. 福田幾夫．冠動脈疾患の危険因子と心筋虚血，学習研究社，月刊ナーシング　2008;28(128),129.

A.6. 大徳和之，鈴木保之，福田幾夫．呼吸不全（呼吸機能障害）合併患者の手術適応と周術期管理　胸部外科　2008;61(8):624-629.

（3）著書

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 福田幾夫．大動脈気管支瘻．脈管専門医のための臨床脈管学．日本脈管学会編．2010.2.1　東京.

A.2. 福田幾夫．胸痛．呼吸・循環イラストレーテッド．稲田英一編．学研．2010.1.30　東京

A.3. 福田幾夫．冠動脈疾患の危険因子と心筋虚血．呼吸・循環イラストレーテッド．稲田英一編．学研．2010.1.30　東京.

A.4. 福田幾夫．冠動脈の構造と冠循環の特徴．呼吸・循環イラストレーテッド．稲田英一編．学研．2010.1.30　東京.

A.5. 福田幾夫．標準血管外科学 II．重松宏編．メディカルトリビューン．2009.11.2　東京.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Ann Thorac Surg	2.689		2.689
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	0		0
Cardiovasc Thorac Surg.	0		0
Journal of Artificial Organs　×2	0		0
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	0		0
ASAIO Journal	1.631		1.631
European Journal of Pharmacology	2.787		2.787
Total		0	7.107

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Therapeutic Advances in Cardiovascular Disease	0	1	0
Artif Organs	1.827	2	3.654
Surgery Today	1.05	1	1.05
Ann Thorac Surg	2.689	1	2.689
Int J Artif Organs	1.299	1	1.299
Hear Vessels	1.351	1	1.351
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	0	1	0
ASIAN CARDIOVASCULAR & THORACIC ANNALS	0	1	0
Cardiovascular Pathology	1.626	1	1.626
Hirosaki Med J	0	1	0
Total		11	11.669

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
胸部外科	3	4
日本臨床外科学会雑誌	2	2
日本呼吸器外科学会雑誌	1	
癌と化学療法	1	
日本血管外科学会雑誌	1	1
Therapeutic Research	1	1
日本臨床	2	
月刊ナーシング	3	
日本外科系連合学会誌		4
別冊日本臨牀		2
手術		2
メディチーナ		1
診断と治療		1
計	14	18

2．著書数（A，B のみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	5

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文

雑誌名	2008年度	2009年度
な　し		
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Chikashi Aoki, Kaziyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui. OPERATIVE OUTCOMES AND STRATEGIES TO PREVENT STROKE IN TOTAL AORTIC ARCH REPLACEMENT. Aortic Symposium 2008　New York City　2008.5.8-9

C.2. Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Congenital heart disease in Adults. The 2nd Asia-Pacific Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery　Korea Jeju　2008.5.27-30

C.3. Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Sanae Yamauchi, Satoshi Taniguchi, Masahito Minakawa, Kozo Fukui,

and Ikuo Fukuda. Surgical procedure for patent ductus arteriosus with and without cardiopulmonary bypass. The 2nd Asia-Pacific Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery　Korea Jeju　2008.5.27-30

C.4. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Takashi Ogasawara, Chikashi Aoki, Satoshi Taniguchi, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui. Non-Invasive Evaluation Of The Rigth Gastroepiploic Artery In Coronary Revascularization Using Total Arterial Graft 2008 Annual Scientific Meeting　Boston　2008.6.11-14

C.5. Yasuyuki Suzuki, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Extracorporeal Membrane Oxygenation Circulatory Support After Congenital Cardiac Surgery. The Fourth International Conference on PEDIATRIC MECHANICAL CIRCUITRY SUPPORT SYSTEM PEDIATRIC CARDIOPULMONARY PERFUSION　Oregon　2008.5.21-24

C.6. Takemichi Sutoh, Daisuke Kimura, Rieko Kitagawa, Yoshitugu Yamada,Takao Tushima, Ikuo Fukuda. Nafamostat mesilate (FUT-175) inhibits cell growth and cell invasiveness in human malignant mesothelioma cell. XIXth International Congress on Fibrinolysis and Proteolysis　Vienna, Austria　2008.7.8

C.7. Ikuo Fukuda, Masahito Minakawa, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Takao Inamura, Hideki Yanaoka. Hydrodynamic analysis of transventricular apical aortic cannulation. XXIVth European Society for Artificial Organs　Geneva-Switzerland　2008.9.5

C.8. Ikuo Fukuda, Masahito Minakawa, Takao Inamura, Hideki Yanaoka. Hydrodynamics of arterial perfusion in extracorporeal circulation : from reality to virtual simulatio. XXIVth European Society for Artificial Organs　Geneva-Switzerland　2008.9.5

C.9. R Kitagawa, N Yasui-Furukori, T Tsushima, S Kaneko, I Fukuda. Communication between patients and surgical staff: To what degree are emotional complaints by surgical patients reflected in clinical charts?" International Conference on Communicaation in Healthcare　Oslo　2008.9.4

C.10. T.Sakai, D.Kimura, T.Tsushima, Y.Yamada, R.Kitagawa, R.Hatanaka, F.Wakayama, T.Suto, I.Fukuda. Surgical results for locally advanced non-small cell lung cancer- evaluation for patients who underwent pulmonary resection combined with pericardium or left atrium. 14th Congress of the European Society of Surgical Oncology　The Hague, Netherlands　2008.9.10

C.11. T.Sakai, Y.Ogura, J.Narita, D.Kimura, F.Wakayama, T.Suto, H.Kodama, S.Takahashi, R.Hatanaka, T.Tsushima, I.Fukuda. Evaluation of clinical and pathological factors affecting postoperative recurrence in patients who underwent curative surgery for Stage II colorectal cancer. 14th Congress of the European Society of Surgical Oncology　The Hague, Netherlands　2008.9.10

C.12. T.Sakai, Y.Ogura, J.Narita, F.Wakayama, D.Kimura, H.Kodama, S.Takahashi. Clinical and pathological study pf multiple carcinoma of the colon and rectum. XXXVI Biennial World Congress of the International College of Surgeons　Vienna, Austria　2008.12.3

C.13. T.Sakai, T.Tsushima, D.Kimura, Y.Yamada, R.Kitagawa, R.Hatanaka, F.Wakayama, T.Suto, I.Fukuda. The feasibility of node dissection by video-assisted thoracic surgery (VATS) for patients with non-small cell lung cancer (NSCLC)" XXXVI Biennial World Congress of the International College of Surgeons　Vienna, Austria　2008.12.3

2009年度

A.1. Yasuyuki Suzuki. Dynamic cardiomyoplasty using artificial muscle. 26th Association of Cardiac Meeting Surgeons リスボン 2009.6.25

C.1. Minakawa Masahito,Ji Kaiqiang,Koza Fkui, Yasuyuki Suzuki, Ikuo Fukuda. Olmesartan improves left ventricular function in hypertrophied rat heart. 8th international congress on coronary artery disease チェコ 2009.10.11

C.2. Kenichi Watanabe, Satoshi Taniguchi, Anan Nomura, Takashi Ogasawara, Tomonori Kawamura, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Yasuyuki Suzuki, Ikuo Fukuda. RESULTS AFTER OPEN SURGERY OF RUPTURED ABDOMINAL AORTIC ANEURYSM. Asian Chapter Meeting of the International Union of Angiology Tokyo 2009.10.29

C.3. Kenichi Watanabe, Yasuyuki Suzuki, Takeshi Goto, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Ikou Fukuda. Continuous hemodiafiltration in children after cardiac surgery. 5th Annual Pediatric Mechanical Circulatory Support Systems & Cardiopulmonary Perfusion Conference アメリカ合衆国 2009.5.27

C.4. R Kitagawa, N Yasui-Furukori, D Kimura, T Sakai, T Tsushima, S Kaneko, I Fukuda. Changes in mental status before and after operation in patients treated with thoracic surgery. International Conference on Communication in Healthcare Miami, USA 2009.10.4

C.5. T.Sakai, Y.Ogura, J.Narita, F.Wakayama, H.Kodama, D.Kimura, I.Fukuda. Clinical and pathological evaluation of the patients who underwent resection for primary lesions of the colorectal cancer with simultaneous hepatic metastasis. International Surgical Week 2009 Adelaide, Australia 2009.9.6

C.6. Fujita W, Fukuda I, Minakawa M, Daitoku K, Suzuki Y, Fukui K, Inamura Y, Yanaoka H. Hydrodynamic analysis of new dispersive aortic perfusion cannula. 36th European Society for Artificial Organs フランス 2009.9.3

C.7. T.Sakai, T.Tsushima, D.Kimura, , R.Kitagawa R.Hatanaka, Y.Yamada, I.Fukuda. Clinical and Pathological evaluation for malignant pulmonary tumors surgically treated after therapy for pharyngeal or laryngeal cancer. 44th Congress of the European Society for Surgical Research Nimes, France 2009.5.20

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 谷口　哲，渡辺健一，小笠原尚志，山内早苗，青木哉志，皆川正仁，大徳和之，福井康三，鈴木保之，福田幾夫．急性肺塞栓症の治療戦略．第36回日本血管外科学会学術総会　東京都　2008.4.17

B.2. 谷口　哲，藤田和歌子，川村知紀，小笠原尚志，山内早苗，渡辺健一，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，福田幾夫．急性肺塞栓症に対する外科治療の検討．第14回日本血管内治療学会総会　東京都　2008.7.26

B.3. 對馬敬夫，北川理映子，須藤武道，木村大輔，畑中　亮，山田芳嗣，福田幾夫．胸壁悪性腫瘍疾患に対するEPTFE soft tissue patchを用いた切除再建術式の検討．第108回日本外科学会定期学術集会　長崎市　2008.5.15-17

B.4. 對馬敬夫，北川理映子，須藤武道，木村大輔，境　雄大，畑中　亮，山田芳嗣，福田幾夫．間質性肺炎合併肺癌の手術成績に関わる臨床・病理学的因子の検討．第70回日本臨床外科学会総会　東京都　2008.11.27-29

B.5. 大徳和之，山内早苗，川村知紀，渡辺健一，谷口　哲，皆川正仁，鈴木保之，福井康三，福田幾夫．心臓血管外科領域における感染制御に対する総合戦略．第21回日本外科感染症学会総会　札幌市　2008.11.6

C.　43件

2009年度

A.1. 福田幾夫．APTEの外科治療法と最近の成績．第29回日本静脈学会総会．肺血栓塞栓症フォーラムin名古屋　名古屋市　2009.7.3

B.1. 谷口　哲，藤田和歌子，渡辺健一，川村知紀，山内早苗，大徳和之，福井康三，鈴木保之，福田幾夫．急性肺血栓塞栓症の治療戦略．第29回日本静脈学会総会　名古屋市　2009.7.2

B.2. 大徳和之，福田幾夫，福井康三，鈴木保之，皆川正仁．EF40％未満の低左心機能患者に対するCABG-CABGのみを施行した患者の長期・遠隔期成績-　第62回日本胸部外科学会定期学術集会　横浜市　2009.10.14

C.　29件

Ⅲ．学術賞

2008年度

第12回弘前大学医学部国際化教育奨励賞受賞（大徳和之）
第11回弘前大学医学部附属病院診療奨励賞受賞（谷口　哲他6名）

Ⅳ．共同研究

2008年度

1．固形癌患者の核酸代謝酵素mRNA発現に関する母集団調査，大鵬薬品工業株式会社，平成15年～
2．非小細胞肺癌転移巣に対する外科治療の有効性評価（Phase II trial），東北呼吸器外科研究グループ，平成16年～

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2009年度

研究代表者として
福田幾夫　　基盤B　339202

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として
大血管内の血流のシミュレーション・システムの開発（福田幾夫）

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2009年度

1名

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2008年度

視察：皆川正仁

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2008年度

ペンシルバニア大学　皆川正仁

2009年度

ペンシルバニア大学　皆川正仁

ｆ）その他

なし

(2) 国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2009年度

第20回健脚を血管病から守る公開シンポジウム

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

18. 消化器外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．国際学会での発表や全国学会での発表
到達度：発表は出来ていると思うが，更なる増加が必要

2．有資格者の外科学会専門医・指導医，消化器外科学会専門医・指導医などの資格取得の徹底
到達度：順調に増加している

3．英文論文の倍増
到達度：十分ではない。今後積極的に論文発表を行っていきたい

理念：

グローバルスタンダードな医師を育成するにあたり，国際学会，全国学会での発表，論文発表を通して育成を行う。また資格取得も行う。

これから２年間の目標：

1．国際学会での発表件数の増加と，全国学会の上級演題での発表数増加を目指す

2．有資格者の外科学会専門医・指導医，消化器外科学会専門医・指導医などの資格取得の徹底

3．英文論文投稿数の増加

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　3，助教　6，助手　0，医員　12，大学院学生　2，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	袴田　健一	H20.4.1 ～ H21.3.31
	准教授	専　任	吉原　秀一	H20.4.1 ～ H21.3.31
	講　師	専　任	小田桐弘毅	H20.4.1 ～ H21.3.31
	講　師	専　任	鳴海　俊治	H20.4.1 ～ H21.3.31
	講　師	専　任	川﨑　仁司	H20.4.1 ～ H21.3.31
	助　教	専　任	村田　暁彦	H20.4.1 ～ H21.3.31
	助　教	専　任	豊木　嘉一	H20.4.1 ～ H21.3.31
	助　教	専　任	柴田　　滋	H20.4.1 ～ H21.3.31
	助　教	専　任	小山　　基	H20.4.1 ～ H21.3.31
	助　教	専　任	石戸圭之輔	H20.4.1 ～ H21.3.31
研究課題	1．肝不全に対する人工肝臓の開発 2．成人間生体肝移植後肝再生調節機構の解明 3．がんの遺伝子診断・遺伝子治療 4．抗がん剤治療の基礎研究 5．低侵襲大腸手術の研究 6．直腸癌に対する機能温存手術 7．膵液中の複合糖質についての研究 8．炎症性大腸炎疾患に対する複合糖質の有効性 9．胆道・膵領域の難治性消化器癌に対する QOL の向上を目的とした術式の開発 10．肝細胞癌治療の合理化と遺伝子診断の開発			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　3，助教　5，助手　0，医員　13，大学院学生　12，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	袴田　健一	H21.4.1 ～ H22.3.31
	准教授	専　任	吉原　秀一	H21.4.1 ～ H22.3.31
	講　師	専　任	小田桐弘毅	H21.4.1 ～ H22.3.31
	講　師	専　任	鳴海　俊治	H21.4.1 ～ H22.3.31
	講　師	専　任	川﨑　仁司	H21.4.1 ～ H22.3.31
	助　教	専　任	村田　暁彦	H21.4.1 ～ H22.3.31
	助　教	専　任	豊木　嘉一	H21.4.1 ～ H22.3.31
	助　教	専　任	和嶋　直紀	H21.4.1 ～ H22.3.31
	助　教	専　任	小山　　基	H21.4.1 ～ H22.3.31
	助　教	専　任	石戸圭之輔	H21.4.1 ～ H22.3.31
	助　教	専　任	宮本　慶一	H21.4.1 ～ H22.3.31
研究課題	1．肝不全に対する人工肝臓の開発 2．成人間生体肝移植後肝再生調節機構の解明 3．がんの遺伝子診断・遺伝子治療 4．抗がん剤治療の基礎研究 5．低侵襲大腸手術の研究 6．直腸癌に対する機能温存手術 7．膵液中の複合糖質についての研究 8．炎症性大腸炎疾患に対する複合糖質の有効性 9．胆道・膵領域の難治性消化器癌に対する QOR の向上を目的とした術式の開発 10．肝細胞癌治療の合理化と遺伝子診断の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Ishido K, Miura T, Kubo N, et al. An easier method for performing a pancreaticojejunostomy for the soft pancreas using a fast-absorbable suture. World J Gastroenterol 2008;14:1091-6.

A.2. Hakamada K, Kimura N, Miura T, Morohashi H, Ishido K, Nara M, Toyoki Y, et al. Des-gamma-carboxy prothrombin as an important prognostic indicator in patients with small hepatocellular carcinoma. World J Gastroenterol 2008;14:1370-7.

A.3. Miyamoto K, Kusumi T, Sato F, Kawasaki H, Shibata S, Ohashi M, Hakamada K, et al. Decreased expression of claudin-1 is correlated with recurrence status in esophageal squamous cell carcinoma. Biomed Res 2008;29:71-6.

A.4. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Oohashi M, Miura T, Jin H, et al. Intraoperative ultrasound as an educational guide for laparoscopic biliary surgery. World J Gastroenterol 2008;14:2370-6.

A.5. Sugo T, Hakamada K, Narumi S, Sasaki M　Decreased postprandial gallbladder emptying in patients with black pigment stones. World J Gastroenterol 2008;14:2825-31.

A.6. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Nara M, Ishido K, Sasaki M. Hemosuccus pancreaticus: problems and pitfalls in diagnosis and treatment. World J Gastroenterol 2008;14:2776-9.

A.7. Umehara M, Totsuka E, Ishizawa Y, Nara M, Hakamada K, Umehara Y, Sasaki M　A bioartificial liver that combines plasma dialysis and whole liver perfusion.　Hepatogastroenterology 2008;55:1216-21.

A.8. Takahashi K, Umehara Y, Umehara M, Nishimura A, Narumi S, Toyoki Y, Hakamada K, et al.　Plasma exchange-based plasma recycling dialysis system as an artificial liver support. Ther Apher Dial 2008;12:264-70.

A.9. Kimura A, Toyoki Y, Hakamada K, Yoshihara S, Sasaki M　Characterization of heparan sulfate on hepatocytes in regenerating rat liver.　J Hepatobiliary Pancreat Surg 2008;15(6):608-14.

A.10. Ota S, Yoshihara S, Ishido K, Tanaka M, Takagaki K, Sasaki M.　Effects of proteoglycan on dextran sulfate sodium-induced experimental colitis in rats.　Dig Dis Sci. 2008;53:3176-83.

A.11. 中井　款，吉原秀一，諸橋　一，石戸圭之輔，佐々木睦男．Effects of hyaluronan synthase inhibitors, 4-methylumbelliferone and 4-methylesculetin on human pleural malignant mesothelioma cells (NCI-H2052)　弘前医学 2008;59:118-27.

2009年度

A.1. Ohashi M, Kusumi T, Sato F, Kudo Y, Jin H, Akasaka H, Miyamoto K, Toyoki Y, Hakamada K, Kijima H. Expression of syndcan-1 and E-cadherin is inversely correlated with poor patient's prognosis and recurrent status of extrahepatic bile duct carcinoma. Biomed Res. 2009;30(2):79-86.

B.1. Itabashi Y, Baba T, Kato S, Hakamada K. Laparoscopy-assisted distal gastrectomy (LADG) for early gastric cancer: A review of forty cases. Hirosaki Med J 2010;61:1-7.

和文

2009年度

A.1. 工藤大輔，堤　伸二，赤坂治枝，神　寛之，大橋大成，室谷隆裕，長谷部達也，坂本義之，石戸圭之輔，小山　基，豊木嘉一，村田暁彦，鳴海俊治，鬼島　宏，袴田健一．大腸癌肝転移切除術前に施行された化学療法による背景肝の病理組織学的肝障害度を予測する因子に関する検討　癌と化学療法　2009;36:2025-2027.

A.2. 高橋研太郎，梅原　豊，梅原　実，西村顕正，鳴海俊治，袴田健一．血漿交換排液浄化循環透析（劇症肝炎）日本アフェレシス学会雑誌　2009;28:203-210.

A.3. 小山　基，村田暁彦，坂本義之，諸　橋一，木村憲央，袴田健一，森田隆幸．家族性大腸腺腫症に対する予防的大腸手術の治療戦略．家族性腫瘍　2010;10(1):27-31.

A.4. 工藤大輔，大橋大成，赤坂治枝，神　寛之，小山　基，豊木嘉一，村田暁彦，鳴海俊治，鬼島　宏，袴田健一．大腸癌肝転移切除症例における科学療法による肝障害度の病理組織学的検討．日本消化器外科学会雑誌　2010;43(1):20-26.

(2) 総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 高橋研太郎，梅原　豊，梅原　実，西村顕正，豊木嘉一，鳴海俊治，袴田健一，吉原秀一，佐々木睦男．急性肝不全に対する血液浄化法の有効性と限界 ブタ劇症肝炎モデルに対する血漿交換排液浄化循環透析の有効性の検討．ICU と CCU 2008;32:S87-9.

A.2. 川崎仁司，佐々木睦男．癌対策の現状　胃癌　泉孝英　編，ガイドライン外来診療2008　東京，日経メディカル開発，2008;471-4.

2009年度

A.1. 川﨑仁司，柴田　滋，袴田健一．【消化管症候群（第2版）その他の消化管疾患を含めて】 胃　胃 stromal cell tumor　消化管症候群（第2版）（上）別冊日本臨牀　新領域別症候群 No12，東京，日本臨牀社；2009;257-260.

A.2. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，木村　寛，袴田健一，西川晋右，青木計積，畑山佳臣．肛門管癌－実際の治療－　消化器外科　2009;32:939-44.

A.3. 小山　基，森田隆幸 【VI肛門　腫瘍】 肛門類基底細胞癌　消化管症候群（第2版）（下）別冊日本臨牀　新領域別症候群 No12，東京，日本臨牀社　2009;759-762.

A.4. 袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，石戸圭之輔，工藤大輔，三浦卓也，堤　伸二，室谷隆裕．膵癌 borderline resectable 症例に対する膵頭十二指腸切除術　消化器外科　2009;32(13):1927-1937.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 小田桐弘毅．リンパ浮腫診療ガイドライン 2008年度版　リンパ浮腫診療ガイドライン作成委員会編，リンパ浮腫診療ガイドライン2008年度版　東京，金原出版，2008．

(4) その他

英文

2008年度

A.1. Hakamada K, Miura T, Kimura A, Nara M, Toyoki Y, Narumi S, Sasak M. Anaplastic carcinoma associated with a mucinous cystic neoplasm of the pancreas during pregnancy: report of a case and a review of the literature. World J Gastroenterol 2008;14:132-5.

A.2. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Nara M, Kudoh D, Ishido K, Sasaki M. A case of invasive hemolymphangioma of the pancreas. World J Gastroenterol 2008;14:2932-4.

A.3. Miura T, Hakamada K, Ohata T, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Ishido K, et al. Resection of a locally advanced hilar tumor and the hepatic artery after stepwise hepatic arterial embolization: a case report. World J Gastroenterol 2008;14:3587-90.

A.4. Miyamoto K, Shibata S, Kawasaki H. Carcinosarcoma of the esophagus producing granulocyte-colony stimulating factor: report of a case Esophagus 2008;5:171-5.

A.5. Narumi S, Hakamda K, Toyoki Y, Ishido K, Nara M, Yoshihara S, Sasaki M. Biliary hemorrhage after removal of an expandable metallic stent during liver transplantation. iver Transpl. 2008;14:1578-81.

和文

2008年度

A.1. 宮本慶一，川崎仁司，柴田　滋，石戸圭之輔，赤坂治枝，佐々木睦男．気管前リンパ節再発巣を外科的切除した食道胃接合部発生食道腺扁平上皮癌の1例．日臨外会誌 2008;69:790-4.

A.2. 松谷英樹，村田暁彦，小山　基，佐々木睦男．α-fetoprotein 産生結腸癌の2例．日臨外会誌　2008;69:1725-32.

A.3. 村田暁彦，小山　基，木村　寛，西村顕正，久保寛仁，佐々木睦男．骨盤内悪性腫瘍の膀胱浸潤例に対する膀胱拡大術．日臨外会誌 2008;69:1578-84.

A.4. 工藤大輔，長谷部達也，堤　伸二，小田桐弘毅，袴田健一．乳癌術後補助化学療法中に皮下埋め込み型中心静脈カテーテルの断裂をきたした 1 例．日臨外会誌 2008;69:2766-9.

A.5. 西澤雄介，諸橋　一，太田　栄，小山　基，村田暁彦，佐々木睦男．直腸に病変の及んだ Ogilvie 症候群の2症例．日消外学誌 2008;41:1848-53.

2009年度

A.1. 諸橋聡子，諸橋　一，赤坂治枝，西村顕正，小田桐弘毅，袴田健一．乳腺原発 large cell neuroedocrine carcinoma の 1 例．日臨外会誌 2009;70:2955-2959.

A.2. 諸橋聡子，諸橋　一，斎藤ちひろ，小田桐弘毅．Exemestane が著効した乳癌肝転移の1例．癌と化学療法 2009;36:811-814.

A.3. 諸橋　一，豊木嘉一，石戸圭之輔，工藤大輔，鳴海俊治，袴田健一．FDG-PET 陽性集積により膵癌との鑑別に難渋した自己免疫性膵炎の1例．日本臨床外科学会雑誌　2010;71(2):500-505.

A.4. 石戸圭之輔，豊木嘉一，池永照史郎一期，堤伸二，鳴海俊治，袴田健一．膵・胆管合流異常を伴わない先天性胆道拡張症に対する分流手術後13年で膵内遺残胆管に発生した胆管癌の1例．日本消化器外科学会雑誌 2010;43(2):172-178.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
World Journal Gastroenterol	2.081		
Biomed Res	2.198		
Hepatogastroenterology	1.000		
Ther Apher Dial	1.288		
J Hepatobiliary Pancreat Surg	1.914		
Dig Dis Sci	1.583		
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biomed Res.	1.146		
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
ICU と CCU	1	
ガイドライン外来診療2008	1	
計	2	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	2

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	1	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	4

3．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
World Journal Gastroenterol	2.081	0	0
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

和文

雑　誌　名	2008年度	2009年度
日本臨床外科学会雑誌	4	2
日本消化器外科学会雑誌	1	
癌と化学療法		2
計	5	4

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

B.1. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Ishido K, Nishimura A, Miura T, Ogasawara H. Video Presentation: Balanced pancreaticoduodenectomy for advanced pancreatic head cancer in the era of multidetector-row computed tomography. 18th World Congress of the International Association of Surgeons, Gatroenterologists and Oncologists（IASGO） Istanbul　平20.10.8 ～ 11

C.1. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Nara M, Ishido K, Sasaki M. Surgical management of hilar cholangiocarcinoma: single center experience　第8回 AHPBA annual meeting Ft. Lauderdale　平20.3.26 ～ 30

C.2. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Ishido K, Miura T.「AGA Institute: Biliary Tract Disorders」. Decreased postprandial gallbladder emptying in patients with black pigment stones: A comparative study in patients with cholesterol stones and normal subjects.（Selected as the top abstract in the area of the biliary tract disorders at DDW 2008）Digestive Disease Week（DDW 2008）San Diego　平20.5.17 ～ 22

C.3. Narumi S, Hakamada K, Toyoki Y, Nara M, Yohihara S, Sasaki M.「Surgery」Biliary Hemorrhage after removal of expandable metallic stent during liver transplantation. International Congress of Transplantation Society　Sydney　平20.8.10 ～ 14

C.4. Hashimoto N, Odagiri H, Morohashi S, Akasaka H.「Breast cancer」Usefulness of three-dimensional muntidetector-row computed tomographic lymphography for sentinel lymph node biopsy in breast cancer. 14th Congress of European Society of Surgical Oncology　The Hague　平20.9.10 ～ 12

C.5. Kawasaki H, Shibata S, Nara M, Miyamato K, Tsutsumi S, Matsuura O, Hakamada K.「Stomach」Neoadjuvant chemotherapy in N3/bulkyN2 advanced gastric cancer. 18th World Congress of the International Association of Surgeons, Gatroenterologists and Oncologists（IASGO） Istanbul　平20.10.8 ～ 11

C.6. Hakamada K, Sugo T, Matsuura O, Narumi S, Toyoki Y, Ishido K, Nishimura A, Miura T. Pathogenesis of black pigment stone（Selected as the 3rd Place of Oral Presentations in the Congress）. 18th World Congress of the International Association of Surgeons, Gatroenterologists and Oncologists（IASGO） Istanbul　平20.10.8 ～ 11

2009年度

C.1. Odagiri H, Hashimoto N, Morohashi S, Akasaka H, Nishimura A, Hakamada K. Usefulness of three-dimensional multidetector-row computed tomographic lymphography for sentinel lymph node biopsy in breast cancer. Kyoto Breast Cancer Consensus Conference International Convenation 2009　京都

C.2. Narumi S, Hakamada K, Toyoki Y, Ishido K. Lymph node metastasis is an important factor for long-term survival of patients with gallbladder cancer who underwent curative surgery　DDW2009　平21.5.30 ～ 6.4 Chicago

C.3. Kawasaki H, Shibata S, Wajima N, Nara M, Miyamoto K, Nishimura A, Hakamada H　S-1 based neoadjuvant chemotherapy in N3/bulky N2 advanced gastric cancer　第8回 International Gastric Cancer Congress　平21.6.10 ～ 13　ポーランド

C.4. Hakamada K. Pathogenesis of black pigment stone　IASGO 2009（第19回 International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists）　平21.9.23 ～ 26　北京

C.5. Hakamada K, Narumi S, Toyoki S, Nara M, Ishido K, Nishimura A, Miura T, Ogasawara H. Video Festival:Balanced Pancreaticoduodenectomy for Advanced Pancreatic Head Cancer in the Era of Multidetector-row Computed Tomography IASGO 2009（第19回 International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists） 平21.9.23 ～ 26 北京

C.6. Kawasaki H, Wajima N, Miyamoto K, Ikenaga S, Muroya T, Hakamada K. Video Festival: Gastric Surgery & Advanced Laparoscopic Procedure Long-segment Pedicled Jejunal Flap with the Use of Vascular Anastomosis for Thoracic Esophageal IASGO 2009（第19回 International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists） 平21.9.23 ～ 26 北京

C.7. Narumi S, Toyoki Y, Ishido K, Kudoh D, Morohashi H, Hakamada K. Current strategy for cancer of the distal pancreas-importance of MDCT and anterior approach 第40回 Anniversary Meeting of American Pancreatic Association and Japan Pancreas Society 平21.11.4 ～ 7 Hawaii

C.8. Hakamada K. A new image-analyzing system facilitating loco-regional treatment for multiple colorectal liver metastases 第1回 International Forum of Regional and Targeting therapies for Cancer 平21.11.7 ～ 8 上海

C.9. Miura T, Hakamada K. Resection of alocally advanced hilar tumor and the hepatic artery after stepwlse hepatic arterial embolization: a case report. 第1回 International Forum of Regional and Targeting therapies for Cancer 平21.11.7 ～ 8 上海

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 小山 基，村田暁彦，木村 寛，坂本義之，西村顕正，池永照史郎一期，森田隆幸．パネルディスカッション「直腸癌に対する肛門温存手術後の QOL」 下部直腸癌に対する肛門温存手術の術後排便機能と QOL-ISR の適応と限界 - 第63回日本大腸肛門病学会総会 東京 平20.10.17 ～ 18

B.2. 小山 基，村田暁彦，木村 寛，橋本直樹，坂本義之，小笠原紘志，森田隆幸．シンポジウム「下部直腸癌に対する括約筋温存手術の適応と限界」 下部直腸癌に対する内肛門括約筋切除を伴う肛門温存術の適応と限界 第70回日本臨床外科学会総会 東京 平20.11.27 ～ 29

C. 37件

2009年度

A.1. 袴田健一．ランチョンセミナー講演「抑えておきたい肝胆膵外科領域における経口栄養管理」 第109回日本外科学会定期学術集会 平21.4.2 ～ 4 福岡

B.1. 川﨑仁司，柴田 滋，奈良昌樹，宮本慶一，長谷部達也，袴田健一．サージカルフオーラム「胃癌（集学的治療2）」TS-1を中心とした術前化学療法を施行した BulkyN2/N3 リンパ節転移を伴った胃癌の検討 第109回日本外科学会定期学術集会 平21.4.2 ～ 4 福岡

B.2. 小山 基，村田暁彦，木村 寛，橋本直樹，坂本義之，池永照史郎一期，袴田健一，森田隆幸．パネルディスカッション「術後 QOL と長期成績からみた炎症性腸疾患に対する外科治療」潰瘍性大腸炎の J 型回腸嚢肛門（管）吻合における術後 QOL と長期成績 -IAA と IACA の比較検討 - 第109回日本外科学会定期学術集会 平21.4.2 ～ 4 福岡

B.3. 小山 基，村田暁彦，木村 寛，坂本義之，太田 栄，矢越雄太，袴田健一，森田隆幸．シンポジウム「家族性大腸癌の診療における標準化の意義と課題」 家族性大腸腺腫症に対する予防的大腸手術の治療戦略 第15回日本家族性腫瘍学会学術集会・市民公開講座 平21.6.12 ～ 13 東京

B.4. 小山 基，村田暁彦，木村 寛，坂本義之，加藤雅志，工藤大輔，池永照史郎一期，袴田健一，森田隆幸 シンポジウム「直腸肛門管癌に対する ISR の適応と手技」 当教室における直腸肛門管癌に対する ISR の長期術後成績 第64回日本消化器外科学会総会 平21.7.16 ～ 18 大阪市

B.5. 村田暁彦，小山 基，木村 寛，加藤雅志，工藤大輔，坂本義之，池永照史郎一期，山名大輔，袴田健一 ワークシヨツプ「大腸中分化型腺癌への対応」 直腸癌における中分化腺癌の特徴と側方郭清・肛門温存への影響 第64回日本消化器外科学会総会 平21.7.16 ～ 18

B.6. 鳴海俊治，豊木嘉一，袴田健一．ワークショップ「胆道専門医によるこだわりの PTC ～経皮的な手技を見直す～」こだわりの PTCD：どの道具をどのように使うか 第45回日本胆道学会学術集会 平21.9.16 ～ 18 東京

B.7. 小山 基，村田暁彦，木村 寛，坂本義之，太田 栄，袴田健一，森田隆幸．パネルディスカッション「下部直腸癌に対する括約筋切除術の治療成績」 下部直腸・肛門管癌に対する ISR の長期術後成績 第64回日本大腸肛門病学会学術集会 平21.11.6 ～ 7 福岡

B.8. 坂本義之，村田暁彦，小山 基，木村 寛，太田 栄，袴田健一．ワークショップ「IBD の手術適応とタイミング」 潰瘍性大腸炎に対する手術適応と治療方針 第64回日本大腸肛門病学会学術集会 平21.11.6 ～ 7 福岡

B.9. 鳴海俊治，豊木嘉一，石戸圭之輔，工藤大輔，諸橋 一，袴田健一．サージカルフォーラム「胆嚢癌の補助療法は予後に寄与するか」胆嚢癌に対する術後補助化学療法の意義 第71回日本臨床外科学会総会 平21.11.19 ～ 21 京都

B.10. 宮本慶一，川﨑仁司，和嶋直紀，池永照史郎一期，室谷隆裕，袴田健一．サージカルフォーラム「PET の有用性と問題点」食道癌の治療戦略における PET の可能性 第71回日本臨床外科学会総会 平21.11.19 ～ 21 京都

B.11. 小山 基，村田暁彦，坂本義之，太田 栄，室谷隆裕，矢越雄太，袴田健一，森田隆幸．シンポジウム「ISR を併用した超低位直腸切除術 - 外科解剖に基づく適応・手技と長期成績 -」．ISR を併用した超低位直腸切除術における手術手技の工夫と長期術後成績 第71回日本臨床外科学会総会 平21.11.19 ～ 21 京都

C. 69件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

平成20年度科学研究費補助金　基盤研究（C）一般 「間葉系幹細胞を用いた移植免疫操作の開発と応用」 鳴海　俊治　1,400,000円

2009年度

研究代表者として

平成21年度科学研究費補助金　基盤研究（C）一般 「大腸癌肝転移に対する合理的集学的治療体系の確立に関する基礎研究」 袴田　健一　1,900,000円

平成21年度科学研究費補助金　基盤研究（C）一般 「薬剤感受性判定を目指した乳がん細胞発現蛋白検索法開発」 小田桐　弘毅　1,000,000円

平成21年度科学研究費補助金　基盤研究（C）一般 「間葉系幹細胞を用いた移植免疫操作の開発と応用」 鳴海　俊治　1,000,000円

平成21年度科学研究費補助金　基盤研究（C）一般 「大腸癌の浸潤および転移とヒアルロン酸の関連性～大腸癌の再発ゼロを目指して～」 村田　暁彦　1,000,000円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2008年度

第19回内視鏡外科フォーラム東北

2009年度

袴田　健一 「第24回東北静脈経腸栄養研究会」 青森市

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

19. 整形外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。数は少ないが達成できた。

2．大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究への指導。

2 人の論文がアクセプトされた。

3．国際学会，全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究を進める。

海外にてシンポジウムに招かれ発表した。

4．科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究を進める。

1 件認められた。

5．工学部との共同研究の推進

特許を取得することができた

理念：

整形外科治療成績の向上に寄与するような臨床研究および基礎研究の推進若手研究者の育成

これから２年間の目標：

1．Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。

2．大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究への指導。

3．国際学会，全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究を進める。

4．科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究を進める。

5．工学部との共同研究の推進

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　7，大学院学生　11，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	藤　　哲	1年
	助教授	専　任	石橋　恭之	1年
	講　師	専　任	津田　英一	1年
	講　師	専　任	小野　　睦	1年
	助　教	専　任	沼沢　拓也	1年
	助　教	専　任	三井　博正	1年
	助　教	専　任	柳澤　道朗	1年
	助　教	専　任	菊池　　明	1年（2009.3.31 異動）
研究課題	1．膝前十字靭帯損傷の治療と予防 2．膝関節軟骨修復に関する基礎的研究：プロテオグリカンの軟骨培養における効果 3．膝関節バイオメカニクス 4．弘前大学式セメントレス人工股関節の臨床応用と長期成績の解析 5．特発性大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術の長期成績の解析と新しい治療法の開発. 6．脊髄症の手術治療 7．脊椎・脊髄腫瘍の診断と治療 8．頚椎後縦靭帯骨化症の異所性骨化機序の解明 9．医療用マイクロマシーンの開発 10．骨延長における治療期間短縮への基礎的 / 臨床的研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　7，大学院学生　10，研究生　2			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	藤　　哲	1年
	助教授	専　任	石橋　恭之	1年
	講　師	専　任	津田　英一	1年
	講　師	専　任	小野　　睦	1年
	助　教	専　任	沼沢　拓也	1年
	助　教	専　任	三井　博正	1年
	助　教	専　任	柳澤　道朗	1年
	助　教	専　任	山本　祐司	1年
研究課題	1．膝前十字靭帯損傷の治療と予防 2．膝関節軟骨修復に関する基礎的研究：プロテオグリカンの軟骨培養における効果 3．膝関節バイオメカニクス 4．弘前大学式セメントレス人工股関節の臨床応用と長期成績の解析 5．特発性大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術の長期成績の解析と新しい治療法の開発. 6．脊髄症の手術治療 7．脊椎・脊髄腫瘍の診断と治療 8．頚椎後縦靭帯骨化症の異所性骨化機序の解明 9．医療用マイクロマシーンの開発 10．骨延長における治療期間短縮への基礎的 / 臨床的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Ishibashi Y, Tsuda E, Fukuda A, Tsukada H, Toh S: Intraoperative biomechanical evaluation of anatomic anterior cruciate ligament reconstruction using a navigation system: comparison of hamstring tendon and bone-patellar tendon-bone graft. Am J Sports Med (2008) 36:1903-1912.

A.2. Yamamoto Y, Ishibashi Y, Tsuda E, Tsukda H, Kimura Y, Toh S: Validation of computer-asisted open-wedge high tibial osteotomy using three demensional navigation. Orthopedics (2008) 31: s68-s71.

A.3. Ono A, Tonosaki Y, Yokoyama T, Aburakawa S, Takeuchi K, Numasawa T, Wada K, Kachi T, Toh S. Surgical anatomy of the nuchal muscles in the posterior cervicothoracic junction: significance of the preservation of the C7 spinous process in cervical laminoplasty. Spine 33;E349-54,2008.

A.4. Yamasaki Y, Narita S, Toh S, Kashima I. The evaluation of lengthened callus by callotasis with analysis of mathematical morphology. J Orthop Sci. 13:211-217,2008.

A.5. Uesato R, Ishibashi Y,Ohshika S, Naraoka T, Toh S. Effect of Exogenous Proteoglycans on Chondrogenesis of bone marrow mesenchymal stem cells. 弘前医学 59:98-103,2008.

A.6. Tsuda E, Ishibashi Y, Fukuda A, Tsukada H, Toh S. Comparable Results Between Lateralized Single- and Double-bundle ACL Reconstructions. Clin Orthop Relat Res. 7. 2008.

A.7. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi. Computer-navigated double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction. Oper Tech Sports Med (2008) 16:165-170.

A.8. Hayashi Y, Ishibashi Y,Tsuda E, Yamamoto Y, Tsukada H, Kimura Y, Toh S. Lower Limb varugus alignment compared with two-and three-dimensional motion analysis during drop jump test. 弘前医学 60:77-85,2009.

B.1. Imaizumi T, Arikawa T, Sato T, Uesato R, Matsumiya T, Yoshida H, Ueno M, Yamasaki S, Nakajima T, Hirashima M, Sakata K, Ishibashi Y, Toh S, Ohyama C, Satoh K: Involvement of retinoic acid-inducible gene-I in inflammation of rheumatoid fibroblast-like synoviocytes. Clin Exp Immunol (2008) 15:240-244.

B.2. Matsunaga S, Nakamura K, Seichi A, Yokoyama T, Toh S, Ichimura S, Satomi K, Endo K, Yamamoto K, Kato Y, Ito T, Tokuhashi Y, Uchida K, Baba H, Kawahara N, Tomita K, Matsuyama Y, Ishiguro N, Iwasaki M, Yoshikawa H, Yonenobu K, Kawakami M, Yoshida M, Inoue S, Tani T, Kaneko K, Taguchi T, Imakiire T, Komiya S. Radiographic predictors for the development of myelopathy in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament: a multicenter cohort study. Spine 33:2648-2650,2008.

B.3. Takashi Mineta, Yuki Tanahashi, Eiji Makino, Satoshi Toh, Takahiro Kawashima, Takayuki Shibata. Thermal Type Blood Flow Sensor on Titanium Micro Needle. Sensors and Materials 20:341-349,2008.

B.4. Shiozaki T, Otsuka H, Nakata Y, Yokoyama T, Takeuchi K, Ono A, Numasawa T, Wada K, Toh S. Spinal cord shift on magnetic resonance imaging at 24 hours after cervical laminoplasty. Spine (Phila Pa 1976). 2009 Feb 1;34(3):274-9.

B.5. Imaizumi T, Matsumiya T, Yoshida H, Naraoka T, Uesato R, Ishibashi Y, Ota K, Toh S, Fukuda S, Satoh K.

Tumor-necrosis factor-alpha induces retinoic acid-inducible gene-I in rheumatoid fibroblast-like synoviocytes. Immunol Lett. 122:89-93,2009.

2009年度

A.1. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh: Comparable results between lateralized single- and double-bundle ACL reconstructions. Clin Orthop. (2009) 467:1042-1055.

A.2. Ishibashi Y, Tsuda E, Yamamoto Y, Tsukada H, Toh S. Navigation Evaluation of the Pivot-Shift Phenomenon During. Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: Is the Posterolateral Bundle More Important? Arthroscopy 2009;25:488-495.

A.3. Gentaro Kumagai1,2,3, Yohei Okada1,4,5, Junichi Yamane2, Narihito Nagoshi1,2, Kazuya Kitamura1,2, Masahiko Mukaino1,6, Osahiko Tsuji1,2, Kanehiro Fujiyoshi1,2, Hiroyuki Katoh2, Seiji Okada7, Shinsuke Shibata1, Yumi Matsuzaki1, Satoshi Toh3, Yoshiaki Toyama2, Masaya Nakamura2*, Hideyuki Okano1. Roles of ES Cell-Derived Gliogenic Neural Stem/ Progenitor Cells in Functional Recovery after Spinal Cord Injury. PLoS ONE | www.plosone.org 2 November 2009 | Volume 4 | Issue 11 | e7706.

B.*1. Nakamura Y, Mitsui H, Kikuchi A, Toh S, Katano H. Total Hip Arthroplasty Using a Cylindrical Cementless Stem in Patients With a Small Physique. J Arthroplasty. 2010 Jan 21.

B.*2. Nakamura Y, Echigoya N, Toh S. Synovial osteochondromatosis of the hip treated through a surgical dislocation - a case report. The Journal of Arthroplasty 24:1143e15-9,2009.

B.*3. Kishiya M, Furukawa K, Yokoyama T, Kudo H, Ono A, Numasawa T, Wada K, Toh S. Comparison of cardiovascular parameters between patients with ossification of posterior longitudinal ligament and patients with cervical spondylotic myelopathy. J Spinal Disord Tech. 2009 Jul;22(5):361-6.

和文

2008年度

A.1. 井上　亮，石橋恭之，津田英一，山本祐司，塚田晴彦，藤　　哲．ナビゲーションを用いた人工膝関節置換術の下肢アライメント - 従来法との比較 -．東日本整災会誌（2008）20:528-532.

A.2. 林　慶充，石橋恭之，津田英一，福田　陽，塚田晴彦，藤　　哲，佐藤秀一．2 次元動作解析法及び三次元動作解析法を用いたジャンプ - 着地動作中における下肢アライメントと関節キネマティクスの評価 -．日本臨床スポーツ医学会誌（2008）16:24-29.

A.3. 津田英一，石橋恭之，福田　陽，塚田晴彦，藤　　哲．鏡視下腱板修復術後の肩峰下滑液包内ロピバカイン持続投与．肩関節（2008）32:389-392.

A.4. 沼沢拓也，横山　徹，小野　睦，和田簡一郎，藤　　哲．脊椎手術における術前抗菌薬単独投与のみの感染管理．臨床整形外科　2008;43(10):1005-1009.

A.5. 沼沢拓也，横山　徹，小野　睦，竹内和成，和田簡一郎，藤　　哲．頚椎椎弓形成術後の包括的健康関連 QOL　頚部日常生活運動機能および軸性疼痛との関連．臨床整形外科　2008;43(10):997-1003.

A.6. 三井博正，澤田利匡，秋田　護，長沼慎二，小松　尚，伊藤淳二．大腿骨近位部骨折後の肺血栓塞栓症．東日本整形災害外科学会雑誌　2008;20(4):607-611.

A.7. 三井博正，片野　博，赤石孝一，秋田　護．TARGON PF nail を用いた大腿骨頸部骨折骨接合術．Hip Joint 2008;34:572-576.

A.8. 三井博正，井口普敬，秋田　護，菊池　明，中村吉秀，藤　　哲．Revelation stem を用いたセメントレス人工股関節後のレントゲン所見．日本人工関節学会誌　2008;38:564-565.

A.9. 菊池　明，中村吉秀，三井博正，藤　　哲．Secur Fit HA ステムの中期成績．日本人工関節学会誌　38:530-531,2008.

A.10. 岸谷正樹，中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．特発性大腿骨頭壊死症に対する転子間大腿骨頭前方回転骨切り術の成績－大骨螺子と F システムによる固定の比較．東北整形災害外科学会雑誌　52:17-21,2008.

A.11. 田中　直，中村吉秀，三井博正，菊池　明，岸谷正樹，藤　　哲．特発性大腿骨頭壊死症に対する大腿骨頭回転骨切り術の成績—就労状況を中心に．東日本整災会誌　20:44-47,2008.

A.12. 福田　陽，石橋恭之，津田英一，塚田晴彦，藤　　哲．自家骨軟骨移植術におけるドナー部の MRI による検討．東日本整災会誌　20:48-52,2008.

A.14. 和田簡一郎，横山　徹，小野　睦，沼沢拓也，藤　　哲，植山和正．脊柱変形手術ににおける術中脊髄機能モニタリング．脊柱変形　23:75-79,2008.

B.1. 中村吉秀，菊池　明，秋田　護，藤　　哲．日本人変形性股関節症に対するセメントレス大腿骨ステムの開発 -HPF ステムの中期成績．別冊整形外科　53:142-147,2008.

B.2. 中村吉秀, 藤　　哲．大腿骨頭回転骨切り術と血管柄付き腸骨移植の合併手術による大腿骨頭壊死の治療．日本マイクロ会誌　21:12-19,2008.

B.3. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．越後谷直樹．大腿骨頭壊死症に対する人工骨頭置換術の成績 - 職業復帰を中心に．第 16 回 MX 人工股関節研究会記録集

B.4. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，岸谷正樹，藤　　哲．特発性大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存手術の長期成績．Hip Joint　34:96-100,2008.

B.5. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．大腿骨頭壊死症に対する人工骨頭置換術の就労状況を中心とした臨床成績 - 転子間大腿骨頭回転骨切り術との比較．日本人工関節学会誌　38:160-161,2008.

C.1. 山本祐司，大塚博徳，山本倫子．成長期スポーツ選手における腰椎疲労骨折．整スポ会誌（2008）27:59-64.

C.2. 山本祐司，植山和正，三戸明夫，佐藤　衛，片野　博．仙腸関節固定術を施行した 3 例．青森骨盤外科研究会誌（2008）14:25-29.

C.3. 内藤敬太，長尾基史，村上　明，宮田　寛，加藤幸三，油川修一，小野　睦，横山　徹，藤　　哲．脊柱の前方屈曲時における椎間板の変形挙動．生体医工学　46:557-566,2008.

2009年度

A.1. 津田英一，石橋恭之．特発性膝骨壊死症に対する高位脛骨骨切り術．整・災外（2009）52:1507-1514.

A.2. 津田英一，石橋恭之，山本祐司，塚田晴彦，林　充慶，木村由佳，藤　　哲，佐藤秀一．当科における膝前十字靱帯損傷予防の試み―動的下肢アライメント評価と予防トレーニングの効果．臨スポ会誌（2009）17:429-434.

A.3. 陳　俊輔，沼沢拓也，横山　徹，小野　睦，和田簡一郎，梅田　孝，高橋一平，中路重之，藤　　哲．健常者における10秒テストと身体機能の相関．臨整外，2009;414:473-478.

A.4. 熊谷玄太郎，小野　睦，田中　大，他．非骨傷性頚髄損傷患者に対する多施設後ろ向き調査．臨整外，2009;44:549-554.

A.5. 山本祐司，石橋恭之，津田英一，塚田晴彦，大塚博徳，藤　　哲．後十字靱帯温存型人工膝関節置換術の屈曲ギャップ計測―ナビゲーションによる術中評価．臨床バイオメカニクス　2009;30:357-362.

A.6. 井上　亮，梅田　孝，小枝周平，澄川幸志，岩間孝暢，塚本利昭，山本祐司，津田英一，石橋恭之，藤　哲，中路重之．中高年者における移動能力の低下と変形性膝関節症・肥満の関係．体力・栄養・免疫学雑誌．2009;19:149-151.

A.7. 木村由佳，石橋恭之，津田英一，山本祐司，塚田晴彦，林　慶充，藤　　哲．バドミントンの膝前十字靱帯損傷の受傷機転と膝関節バイオメカニクス．スポーツ傷害（2009）14:29-31.

A.8. 菊池　明，中村吉秀，三井博正，藤　　哲．大腿骨頭壊死症に対して施行した血管柄付き腸骨移植術後の骨頭病理所見．Hip Joint　35:365-369,2009.

A.9. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．大腿骨頭壊死症に対する関節温存手術の就労状況を中心とした長期臨床成績．Hip Joint　35:378-382,2009.

A.10. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．日本人のために開発されたHPFセメントレスステム使用THAの成績　解剖学的形状のステムはストレス遮蔽を回避しうるか（原著論文）．日本人工関節学会誌　39:142-143,2009.

A.11. 岩崎弘英，藤　　哲，湯川昌広，山本倫子，保村昌宏．舟状骨偽関節に対する遊離骨移植術の限界と血管柄付き骨移植術の適応，日本手の外科学会誌　25:496-500,2009.

A.12. 岩崎弘英，藤　　哲，湯川昌広，山本倫子．浮遊母指に対する遊離骨移植および有茎皮弁による母指再建，日本マイクロサージャリー学会雑誌　22:221-227,2009.

B.1. 越後谷直樹，植山和正，藤　　哲，小野　睦，沼沢拓也，和田簡一郎．神経線維腫症に対する頸椎重度後弯変形に対する血管柄付き腓骨移植を用いた前方再建術．脊椎脊髄，2009;22:552-557.

C.1. 柳澤道朗，柿崎　寛，近江洋嗣．大腸癌手術後補助化学療法中に発症した骨巨細胞腫の1例．東北整災　2009;53:90-93.

C.2. 大鹿周佐，柳澤道朗，板橋泰斗，近江洋嗣，田澤浩司，柿崎　寛．前腕皮下に発生した明細胞肉腫の1例．東北整災　2009;53:163-166.

C.3. 山本祐司，佐々木斉，井上　亮．人工膝関節置換術後に過伸展を呈した1例－Navigationを用いたrevision術中評価－．東北整災誌　2009;53:137-141.

C.4. 井上　亮，山本祐司，佐々木斉．劇症型A群連鎖球菌感染症に陥った化膿性膝関節炎の1例．東北整形災害外科学会雑誌　2009;53:167-170.

（2）総説

英文

2008年度

A.1. Yamamoto Y, Ishibashi Y, Tsuda E, Tsukda H, Toh S: Single-versus double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction results using navigation: The Japanese experience. Op Tech Orthop（2008）18:173-180.

A.2. Tsuda E, Ishibashi Y: Computer-navigated double bundle anterior cruciate ligament reconstruction. Oper Tech Sports Med（2008）16:165-170.

A.3. Ishibashi Y, Tsuda E, Fukuda A, Tsukada H, Toh S. Stability evaluation of single-bundle and double-bundle reconstruction during navigated ACL reconstruction. Sports Med Arthrosc（2008）16:77-83.

和文

2008年度

A.1. 石橋恭之，津田英一．膝蓋腱を用いる前十字靱帯一束再建術（transtibial technique）．OS NOW Instruction（2008）9:24-30.

A.2. 石橋恭之，塚田晴彦，藤　　哲．上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する自家骨軟骨移植術．関節外科（2008）27:1068-1073.

A.3. 石橋恭之，津田英一．Image-free navigation. OS NOW Instruction（2008）5:125-138.

2009年度

A.1. 津田英一，川岸利光．肩関節周囲炎に対するマニピュレーション．MB Orthopaedics（2010）23(2):1-7.

A.2. 藤　　哲，湯川昌広，山本倫子，岩崎弘英，神　裕道．舟状月状骨解離の治療 - 経皮的ピンニング，関節外科　28:474-479,2009.

A.3. 津田英一，石橋恭之．特発性膝骨壊死症に対する高位脛骨骨切り術．整災外（2009）52:1507-1514.

A.4. 石橋恭之，津田英一．ACL 再建術に対する再建術式と治療成績 - 自家腱を用いた一束再建術の長期成績；ハムストリング -. MB Orthop（2009）22:9-14.

A.5. 塚田晴彦，石橋恭之．前十字靭帯再建術 - 膝蓋腱を用いる方法 -. J MIOS（2009）50:28-34.

B.*1. 楠美智巳，津田英一，石橋恭之，楠美昭則，鬼島　宏．関節内遊離体の臨床病理：離断性骨軟骨炎を中心に．臨床と病理（2009）27:275-282.

B.*2 伊藤郁恵，塚本利昭，石橋恭之，佐藤英樹：腱板損傷を担当した時．理学療法ジャーナル（2009）43:73-80.

B.3. 佐々木泰輔，山本祐司．肩関節の疾患．Medicina 2009;46:390-395.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 藤　　哲．医学書院医学大辞典　第2版医学書院医学大辞典　第2版　2009　医学書院　東京

A.2. 藤　　哲．組織移植後の血行不全と対策．整形外科医のための新マイクロサージャリー：Basic to Advance，2008メジカルビュー社　東京

（4）その他

英文

2008年度

A.1. Nakamura Y, Mitsui H, Toh S, Hayashi Y. Femoral nerve palsy associated with iliacus hematoma following pseudoaneurysm after revision hip arthroplasty - A case report. The Journal of Arthroplasty 23:1240e1-1240e4,2008.

2009年度

A.1. Kimura Y, Ishibashi Y, Tsuda E, Fukuda A, Tsukada H. Sagittal realignment osteotomy for increased posterior tibial slope after opening-wedge high tibial osteotomy: a case report. Sports Med Arthrosc Rehabil Ther Technol（2009）1:26

A.* 2. Nakamura Y, Mitsui H, Toh S, Echigoya N. Osteochondral Lesion of the Femoral Head in a Fencer: A Case Report. The American Journal of Orthopedics 38:356-359,2009.

和文

2008年度

A.1. 木村由佳，石橋恭之，津田英一，福田　陽，山本祐司，塚田晴彦，林　慶充，藤　　哲，佐藤秀一．バトミントン選手のオーバーヘッドストロークにおける膝関節バイオメカニクス．青森スポ研誌(2008)17:1-5.

A.2. 瓜田一貴，塚本利昭，伊藤郁恵，佐藤美紀，対馬栄輝，井上　亮，石橋恭之，梅田　孝，中路重之．青森県高校スキー選手における膝関節の等速性筋力の評価 - アルペンスキーとクロスカントリースキーの比較 - 青森スポ研誌（2008）17:5-10.

A.3. 浅利　亨，石橋恭之，津田英一，山本祐司，塚田晴彦，藤　　哲．剣道選手に生じた尺骨疲労骨折の2例．青森スポ研誌（2008）17:41-44.

A.4. 石橋恭之．膝のスポーツ障害．マルホ整形外科セミナー（2008）18:45-48.

A.5. 上里涼子，石橋恭之，津田英一，福田　陽，塚田晴彦，藤　　哲．受傷後3日目に膝窩動脈損傷が判明した膝複合靭帯損傷の1例　東北整災誌　52:94-98,2008.

A.6. 木村由佳，石橋恭之，津田英一，福田　陽，塚田晴彦，藤　　哲．両側上腕骨小頭離断性骨軟骨炎と診断した少年野球選手の 1 例　東日本整災会誌　20:253-257,2008.

A.7. 青木　恵，中村吉秀，中田善博，秋田　譲，藤　　哲．若年性特発性関節炎に対し人工関節置換術を施行した 2 例　東日本整災会誌　20,262-266,2008.

A.8. 木村由佳，石橋恭之，津田英一，福田　陽，塚田晴彦，藤　　哲．高位脛骨骨切り術後に矯正骨切り術を行った 2 例．東北膝関節研究会誌　18:7-30,2008.

C.1. 佐々木泰輔，石橋恭之，塚田晴彦，対馬栄輝，斎藤陽子，佐藤英樹．肩関節包損傷の MR 関節造影所見．青森スポ研誌（2008）17:15-18.

C.2. 中島菊雄（函館市立函館病院 整形外科），平賀康晴，藤　　哲．MRSA が存在する骨露出創を mesh skin graft にて治療した1例　日本骨・関節感染症学会雑誌　22:82-85,2008.

C.3. 中島菊雄（函館市立函館病院 整形外科），和田誠之，菅原　卓，藤　　哲．創外固定にて治療した上腕骨開放骨折（Gustilo type III）の2例　日本創外固定・骨延長学会雑誌　19:11-17,2008.

2009年度

A.1. 三井博正，中村吉秀，菊池　明，片野　博，赤石孝一．50歳以下の末期股関節症に対する人工股関節置換術．第17回 MX 人工股関節研究会記録集　17:39-42,2009.

A.2. 木村由佳，石橋恭之，津田英一，山本祐司，塚田晴彦，藤　　哲．同側の上腕骨小頭と滑車に発生した離断性骨軟骨炎の1例．東日本整形災害外科学会雑誌　2010;22:72-75.

A.3. 岩崎宏貴，石橋恭之，津田英一，山本祐司，塚田晴彦，藤　　哲．脛骨プラトーに発生した離断性骨軟骨炎の一例．東北膝関節研究会会誌　2009;19:37-40.

A.4. 浅利　享，石橋恭之，津田英一，小野　睦，山本祐司，藤　　哲．下肢伸展挙上テスト陽性を認めた成長期スポーツ選手の腰椎疲労骨折．青森スポ研誌，2009;18:15-19.

A.5. 奈良岡琢哉（弘前大学 整形外科学），小野　睦，秋田　護，和田簡一郎，沼沢拓也，横山　徹，中村吉秀，藤　　哲．局所注射が原因と考えられた感染症の2例（原著論文）　東北整形災害外科学会雑誌（1348-8694）53巻1号　Page79-83（2009.06）53:79-83,2009.

A.6. 岩崎弘英, 藤　　哲, 湯川昌広, 山本倫子．血管柄付き肩甲骨移植にて治療した難治性上腕骨偽関節の1例．東日本整形災害外科学会雑誌　2010;22:93-96.

A.7. 三井博正，中村吉秀，菊池　明，藤　　哲．股関節に発生した色素性絨毛結節性滑膜炎の1例　Hip Joint 35:771-775,2009.

B.1. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．日本人変形性股関節症に対する HPF ステムの中期成績　第17回 MX 人工股関節研究会記録集，49-51,2009.

B.*2. 塚本利昭，伊藤郁恵，瓜田一貴，石橋恭之，津田英一，山本祐司，対馬栄輝，佐藤英樹．投球障害肩と野球肘における投球フォームの比較．青森スポ研誌（2009）18:5-10.

B.3. 中島菊雄，和田誠之，藤　　哲．上腕骨遠位端 Coronal Shear Fracture の2例．日本肘関節学会学会雑誌 16:113-117,2009.

C.*1. 佐々木泰輔，淀野　啓，川島慎二，金子　雅，佐々木知行，石橋恭之，津田英一．オーバーヘッド動作による棘上筋の筋損傷が疑われた5例の MRI 所見．青森スポ研誌（2009）18:11-14.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Sports Med	2.694	1	2.694
Orthopedics	0.583	1	0.583
Spine	2.351	1	2.351
J Orthop Sci	0.614	1	0.614
Clin Orthop Relat Res	2.161	1	2.161
Oper Tech Sports Med	0.167	2	0.334
Sports Med Arthrosc	0.241	1	0.241
Op Tech Orthop	0	1	0
弘前医学	0	2	0
Clin Exp Immunol	2.747	1	2.747
Spine	2.351	2	4.702
Sensors and Materials	0.585	1	0.585
Immunol Lett.	2.352	1	2.352
Total		16	19.364

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Orthop Relate Res	1.893	1	1.893
Arthroscopy	2.509	1	2.509
PLoS ONE	4.351	1	4.351
J Arthroplasty	1.556	1	1.556
J Spinal Disord Tech.	1.365	1	1.365
Total		5	11.674

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
肩関節	1	
東日本整災会誌	4	
日本臨床スポーツ医学会誌	1	
臨床整形外科	2	
Hip Joint	2	2
日本人工関節学会誌	3	1
東北整形災害外科学会雑誌	1	
脊柱変形	1	
別冊整形外科	1	
OS NOW Instruction	2	
関節外科	1	1
整・災外		2
臨スポ会誌		1
臨整外		2
臨床バイオメカニクス		1
体力・栄養・免疫学雑誌		1
スポーツ傷害		1
日本手の外科学会誌		1
日本マイクロサージャリー学会雑誌		1
脊椎脊髄		1
MB Orthopaedics 2		2
J MIOS		1
Medicina		1
理学療法ジャーナル		1
臨床と病理		1
計	19	21

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
The Journal of Arthroplasty	1.806	1	1.806
Total		1	1.806

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Sports Med Arthrosc Rehabil Ther Technol	0	1	0
The American Journal of Orthopedics	0	1	0
Total		2	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
東北整災誌	1	1
青森スポ研誌	4	2
東日本整災会誌	2	2
マルホ整形外科セミナー	1	
東北膝関節研究会誌	1	1
日本骨・関節感染症学会雑誌	1	
日本創外固定・骨延長学会雑誌	1	
第17回 MX 人工股関節研究会記録集		2
Hip Joint		1
日本肘関節学会雑誌		1
計	11	10

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Intraoperative kinematics and postoperative stability of the knee joint in double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction. ESSKA, 2008.5.21-24, Portgal, Porto.

A.2. Toh S. Treatment of Scaphoid Fractures: Pitfalls and Pearls First Congress of Serbian Orthopedic Surgeons and Traumatologists. 2008.09.25-26 Belgrade, Servia.

A.3. Satoshi Toh, Masahiro Yukawa, Noriko Yamamoto. Mobilization of a proximal radioulnar synostosis with use of a posterior interosseous artery adipofascial flap. EUROCMICRO 2008. 2008.06.12-14. Turku, Finland.

C.1. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Multidisciplinary investigation for gender difference in risk factors of non-contact anterior cruciate ligament injury in high school basketball players. APOSSM, 2008.4.11-13, Hong Kong.

C.2. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Clinical results of anterior cruciate ligament reconstruction comparing lateralized single-bundle reconstruction with a patellar tendon graft and double-bundle reconstruction with a hamstring tendon graft, ESSKA, 2008.5.21-24, Portgal, Porto.

C.3. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Is dynamic lower limb alignment during landing a predictor of noncontact anterior cruciate ligament injury in high school basketball players?. World Congress on Sports Injury Prevention, 2008.6.26-28, Norway, Tromso.

C.4. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Is postoperative knee laxity in anatomically oriented single-bundle ACL reconstruction with a patellar tendon graft comparable to double-bundle ACL reconstruction with a hamstring tendon graft? Korea–Japan Joint Meeting for Sports Medicine, 2008.9.19, Korea, Seoul.

C.5. Takuya Numasawa, M.D.,Ph.D., Toru Yokoyama, M.D.,Ph.D., Atsushi Ono,M.D.,Ph.D., Kanichiro Wada, M.D.,Ph.D., and Satoshi Toh M.D.,Ph.D. COMPREHENSIVE SURGICAL OUTCOMES OF LAMINOPLASTY IN ELDERLY PATIENTS WITH CERVICAL SPONDYLOTIC MYELOPATHY. 24rd annual meeting of the European Section of the Cervical Spine Research Society（C.S.R.S.）Geneva, Switzerland, May 26th until 31th, 2008.

C.6. Yuji Yamamoto, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Harehiko Tsukada, Yuka Kimura, Satoshi Toh. Validation of computer-assisted open-wedge high tibial osteotomy using three dimensional navigation. Expertise in Orthopaedic Navigation. 2008.9.9-10, Washington DC, USA.

2009年度

B.1. Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., Koei Iwasaki M.D. and Satoshi Toh M.D. Mobilization of a proximal radioulnar synostosis with use of a posterior interosseous artery adipofascial flap. The 18th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium, 2009.4.8-11, Fukuoka.

B.2. Toh S, Yukawa M, Jin H, Yamamoto N, Tsubo K, Iwasaki K. Present Status of Clinical Applications in Vascularized Bone Grafts in the Orthopaedic Field. 5th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery. 2009.6.25-27, Okinawa.

B.3. Toh S, Yukawa M, Iwasaki K, Yamamoto N. Mobilization of a proximal radioulnar synostosis with use of a posterior interosseous artery adipofascial flap. 19th KJCOS, 2009.9.17-18, Korea.

B.4. Toh S. Vascularized metatarsophalangeal joint transfer from second and third toes to reconstruct new elbow joint. 22nd National Congress of the Italian Society for Microsurgery. 2009.10.1～3, Italy.

B.5. Toh S. VFG for congenital pseudoarthrosis of the tibia. 22nd National Congress of the Italian Society for Microsurgery. 2009.10.1～3, Italy.

B.6. Toh S. Vascularized Bone Graft in Orthopaedic Surgery. MICROCHIRURGIA RICOSTRUTTIVA: ATTUALIT_ E PROSPETTIVE FUTURE. 2009.10.5, Italy.

B.7. Ishibashi Y. Anatomical ACL-R with BTB Graft -Surgical Technique and Navigation Evaluation-. 7th Biennial ISAKOS Congress, 2009.4.5-9, Osaka.

B.8. Ishibashi Y. Anatomic versus Non-anatomic ACL Reconstruction. 26th AGA Congress, 2009.9.17-19, Leipzig, Germany.

B.9. Ishibashi Y. Navigation in Ligament Reconstruction of the Knee. 26th AGA Congress, 2009.9.17-19, Leipzig, Germany.

C.1. Ishibashi Y. Navigation Evaluation of Pivot Shift Test During Double-bundle ACL Reconstruction. 7th Biennial ISAKOS Congress, 2009.4.5-9, Osaka.

C.2. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Yuji Yamamoto, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. The Short-Term Results of Anatomically Oriented Anterior Cruciate Ligament Reconstructions: a Patellar Tendon Graft Versus a Hamstring Tendon Graft. ISAKOS, 2009.4.5-9, Osaka.

C.3. Ono, A; Numasawa, T; Wada, K; Yokoyama, T; Tonosaki, Y; Kachi, T; Toh, S. Surgical anatomy of the nuchal muscles in the posterior cervicothoracic junction; The relationship between the length of the C6 spinous process and anatomy of the nuchal muscles. 55th Ortopaedic Research Society, 2/22-2/25, Las Vegas, Nevada, USA.

C.4. Koei Iwasaki M.D., Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., and Satoshi Toh M.D. Reconstruction of floating thumb with free bone graft and pedicle flap. 5th Congress of the World society for Microsurgery.

2009.6.25-27, Okinawa.

C.5. Koei Iwasaki M.D., Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., and Satoshi Toh M.D. Reconstruction of the anterior chest for radiation ulcer and radiation sarcoma by using contralateral pedicled latissimus dorsi flap. XXII National Congress of the Italian Society for Microsurgery. Italy, Modena.

C.6. Yoshihide NAKAMURA, Satoshi TOH, Hiromasa MITSUI, Akira KIKUCHI. Clinical results of vascularized iliac bone graft for treatment of avascular necrosis of the femoral head with an extensive lesion e-poster 10 th The European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFORT) Vienna, Austria 3-6 June 2009.

C.7. Yoshihide NAKAMURA, Satoshi TOH, Hiromasa MITSUI, Norihiro SASAKI. Vascularized iliac bone graft for avascular necrosis of the femoral head with an extensive lesion. XXIII National Congress of the Italian Society for Microsurgery. Modena, Italy, October 1st – 3rd 2009.

C.8. Hirosamasa MITSUI, Nakamura Y Kikuchi A Iguchi H Fetto J Toh S. Short-term radiograhpic results after uncemeted hip replacements using a lateral flare stem in Japanese patients. 22nd International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA). Hawaii, USA 2009.10.22-24.

C.9. Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., Koei Iwasaki M.D. and Satoshi Toh M.D. Clinical Results of Vascularized Fibular Graft for Congenital Pseudathrosis of the Tibia. 5th Congress of the World society for Microsurgery. 2009.6.25-27. Okinawa.

C.10. Noriko Yamamoto M.D., Masahiro Yukawa M.D., Koei Iwasaki M.D. and Satoshi Toh M.D. Bifocal tibial lengthening following vascularized fibula graft for infected non-union of the femur : A case report. 5th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery. 2009.6.25-27, Okinawa.

(2) 全国学術集会

2008年度

B.1. 石橋恭之，津田英一，佐々木知行，福田　陽，山本祐司，塚田晴彦，藤　　哲．膝蓋骨不安定症に対する脛骨粗面前内方移行術．第34回日本膝学会　東京　2008.06.13-14.

B.2. 石橋恭之，津田英一，佐々木知行，福田　陽，山本祐司，塚田晴彦，藤　　哲．当科における膝前十字靭帯再建術の長期成績．第34回日本関節鏡学会　東京　2008.06.13-14.

B.3. 石橋恭之，津田英一，山本祐司，塚田晴彦，林　慶充，木村由佳，藤　　哲．当科における膝前十字靭帯損傷予防の試み - 動的下肢アライメント評価と予防トレーニングの効果 - 日本臨床スポーツ医学会千葉（幕張）2008.11.1-2.

B.4. 石橋恭之，津田 英一，山本 祐司，塚田晴彦，藤　　哲．「ナビゲーションの臨床応用」ナビゲーションを利用した前十字靭帯再建術の術中評価．第35回日本臨床バイオメカニクス学会．大阪　2008.11.14-15.

B.5. 津田英一．膝蓋腱およびハムストリング腱を用いた解剖学的前十字靭帯再建術．日本関節鏡・膝・整形外科スポーツ医学会．2008.6.13-14，東京.

B.6. 津田英一．非接触型膝前十字靭帯損傷に対する予防トレーニングがスポーツ動作時の動的下肢アライメントに及ぶす効果．日本整形外科スポーツ医学会，2008.7.4-5，東京.

B.7. 津田英一．移植腱の治癒機序 ―臨床症例での検討より―．膝関節フォーラム，2008.12.7，東京.

C.　17件

2009年度

A.1. 藤　　哲．手関節の臨床解剖と代表的疾患の治療．第79回日本整形外科学会学術集会．2009. 5.14-17, 福岡.

A.2. 藤　　哲．手指・手関節のスポーツ障害・外傷の治療．第35回日本整形外科スポーツ医学会, 2009.9.26, 群馬.

A.3. 石橋恭之．靭帯再建術における Navigation の現況と展望．第36回日本臨床バイオメカニクス学会，2009.10.16，松山.

B.1. 津田英一，石橋恭之，山本祐司，藤　　哲．反復性膝蓋骨脱臼の病態と治療―Realignment―．JOSKAS, 2009.6.25-27，札幌.

B.2. 津田英一，石橋恭之，山本祐司，前田周吾，藤　　哲．Navigation を利用した ACL 再建術の術中評価．日本臨床バイオメカニクス学会，2009.10.16-17，松山.

B.3. 津田英一，石橋恭之，山本祐司，前田周吾．高度変形膝に対する対応―外反変形．2nd OrthoPilot Navigation Meeting, 2009.11.21, 東京 .

B.4. 石橋恭之．コンピュータナビゲーションを用いた膝前十字靭帯再建術．第82回日整会, 2009.5.14-17, 福岡.

B.5. 石橋恭之．ACL 再建術における Navigation の可能性．第 1 回 JOSKAS，2009.6.25-27，札幌.

B.6. 石橋恭之．ナビゲーションによる ACL 損傷膝および再建術の評価．第20回日本臨床スポーツ医学会，2009.11.14-15，神戸.

B.7. 石橋恭之．離断性骨軟骨炎の病態と治療 - 自家骨軟骨移植術 -．第26回膝関節フォーラム, 2009.12.5, 東京.

C.1. 小野　睦，沼沢拓也，和田簡一郎，藤　　哲，横山　徹，末綱　太，植山和正．脊椎脊髄外科医の疲労蓄積度及び包括的健康状態の評価．第38回日本脊椎脊髄病学会　神戸市　2009.04.23-04.25.

C.2. 小野　睦，沼沢拓也，和田簡一郎，熊谷玄太郎，横山　徹，藤　　哲，加地　隆，外崎敬和，植山和正．C6棘突起長と頚胸移行部 PVM の関係：解剖遺体を用いた検討．第38回日本脊椎脊髄病学会　神戸市　2009.04.23-04.25.

C.3. 小野　睦，沼沢拓也，和田簡一朗，熊谷玄太郎，井上　亮，岩崎宏貴，藤　　哲，中路重之，梅田　孝，横山　徹，植山和正．頚部痛と肩こりに関する疫学調査：第2報　第82回日本整形外科学会　博多市　2009.05.14-05.17　博多市

C.4. 柳澤道朗，三井博正，菊池　明．骨浸潤をきたした Chronic expanding hematoma の1例．第43回日本整

形外科学会骨軟部腫瘍学術集会　東京　2009.07.15-07.16

C.5. 柳澤道朗，柳澤　健，鎌田義正，山岸晋一郎．左鼡径部軟部腫瘍の1例．第16回東北骨軟部腫瘍研究会　山形　2009.10.03

C.6. 三浦一朗，柳澤道朗，藤　　哲．背部筋肉内に発生した巨大褐色脂肪腫の1例．第107回東北整形災害外科学会　新潟　2009.6.19-6.20

Ⅲ．学術賞

2008年度

津田英一：ESSKA poster award: Eiichi Tsuda, Clinical results of anterior cruciate ligament reconstruction comparing lateralized single-bundle reconstruction with a patellar tendon graft and double-bundle reconstruction with a hamstring tendon graft,

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2009年度

研究代表者として

石橋　恭之

基盤研究（C）（平成21 ～ 25年度）：

変形性膝関節症および膝前十字靭帯の発生要因および予防に関する疫学的研究

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

他研究単位との研究分担者として

○平成20年度厚生労働科学研究費補助金．後縦靭帯骨化症に関する調査研究
代表：中村耕三　分担　藤　　哲　1,000千円

2009年度

他研究単位との研究分担者として

○平成21年度厚生労働科学研究費補助金．後縦靭帯骨化症に関する調査研究
代表：戸山芳昭　分担　藤　　哲　1,000千円

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として

日本スポーツ治療医学研究会,「スポーツ動作における動的下肢アライメントと前十字靭帯損傷予防トレーニングの効果」，津田英一，1,000千円

2009年度

研究代表者として

石橋　恭之

日本整形外科学会プロジェクト研究（平成19 ～ 21年度）：

変形性膝関節症および膝前十字靭帯損傷の発生要因の疫学調査および予防に関する研究

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2008年度

① Prof. Joseph F. Slade: Yale University School of Medicine, USA 2008.4.21
② Prof. Chin-Hwa Chen: Chang Gung University, Taiwan 2008.5.26

2009年度

1．2009年4月10日 Andreas B. Imhoff, MD
Professor of Orthopaedic Surgery and Traumatology,
Director Department of Orthopaedic Sports Medicine
Hospital Rechts der Isar, Technical University of Munich, Germany
2．2009年5月18日 Joseph F. Fetto, M. D.
Clinical Associate Professor of Orthopaedic Surgery, New York University Medical Center New York, NY
3．09年7月22日 Donald S. Bae, MD
Department of Orthopaedic Surgery, Children's Hospital Boston
Assistant Professor in Orthopaedic Surgery, Harvard Medical School
4．2009年10月28日 Prof. Hartmuth Kiefer
Lukas Hospital Buende, Germany

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

2008年度

三井博正，ニューヨーク大学，アメリカ，2009.1.19-2.26
藤　　哲，ニューヨーク大学，アメリカ，2008.11.5-11
中村吉秀，ニューヨーク大学，アメリカ，2008.11.5-11

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2008年度

藤　　哲　第35回青森県スポーツ医学研究会（青森市）2008.9.6
藤　　哲　第12回青森県骨粗鬆症研究会（青森市）2008.9.19
藤　　哲　第32回骨を語る会（弘前市）2009.2.20
藤　　哲　第15回骨軟骨シンポジウム（青森市）2009.2.6

2009年度

1．東北マイクロサージャリー研究会　H21.10.31
2．第33回骨を語る会　H22.2.26
3．青森脊椎外科懇話会　H22.2.20
4．第10回青森手の外科懇話会　H21.10.19
5．第16回青森県骨軟骨シンポジウム　H22.2.18
6．第11回青森手の外科懇話会　H22.2.19
7．第13回青森県骨粗鬆症研究会　H21.9.18

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

2009年度

藤　　哲：理工学部との協同研究のマイクロセンサーが特許を認められた。No4452886

20. 皮膚科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

遺伝性疾患の病態の解析と新規治療法の開発の研究を推進でき，また論文も発表できたため，目標は70％達成された。

理念：

皮膚科学の発展に貢献し，それを地域に還元する。

これから２年間の目標：

皮膚科学の発展に貢献し新しい診断や・治療法を開発する。

得られた成果を英語論文等で世界に発信する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　10，大学院学生　6，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	澤村　大輔	平成29年　1月31日
	准教授	専　任	中野　　創	平成22年　3月31日
	講　師	専　任	松﨑　康司	平成23年　3月31日
	講　師	専　任	金子　高英	平成25年　9月30日
	助　教	専　任	会津　隆幸	平成22年　4月30日
	助　教	専　任	中島　康爾	平成24年　4月30日
	助　教	専　任	池永　五月	平成21年　4月30日
	助　教	専　任	神　　可代	平成25年　4月30日
	助　手	専　任	滝吉　典子	平成29年　1月31日
研究課題	1．遺伝性疾患の病態の解析 2．表紙細胞における紫外線の遺伝子発現の及ぼす影響 3．転移性悪性黒色腫に対する新しい治療法の開発 4．皮膚外科学におけるあらたな手術手技の開発 5．皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検 6．表皮の分化にかかる転写因子の発現の解析 7．皮膚の防御能に関する研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　10，大学院学生　6，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	澤村　大輔	平成29年　1月31日
	准教授	専　任	中野　　創	平成22年　3月31日
	講　師	専　任	松﨑　康司	平成23年　3月31日
	講　師	専　任	金子　高英	平成25年　9月30日
	助　教	専　任	会津　隆幸	平成22年　4月30日
	助　教	専　任	中島　康爾	平成24年　4月30日
	助　手	専　任	木村　一之	
	助　手	専　任	六戸　大樹	
研究課題	1．遺伝性疾患の病態の解析 2．表紙細胞における紫外線の遺伝子発現の及ぼす影響 3．転移性悪性黒色腫に対する新しい治療法の開発 4．皮膚外科学におけるあらたな手術手技の開発 5．皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検 6．表皮の分化にかかる転写因子の発現の解析 7．皮膚の防御能に関する研究 8．アトピー性皮膚炎の診断・治療に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Nakajima K, Nakano H, Takiyoshi N, Rokunohe A, Ikenaga S, Aizu T, Kaneko T, Mitsuhashi Y, Sawamura D. Papillon-Lefèvre syndrome and malignant melanoma: a high incidence of melanoma development in Japanese palmoplantar keratoderma patients. Dermatol 2008;217(1):58-62.

A.2. Sato-Jin K, Nishimura EK, Akasaka E, Huber W, Nakano H, Miller A, Du J, Wu M, Hanada K, Sawamura D, Fisher DE, and Imokawa G. Epistatic Connections between MITF and Endothelin Signaling in Waardenburg Syndrome and Other Pigmentary Disorders. FASEB J 2008;22(4):76-80.

A.3. Rokunohe D, Nakano H, Ikenaga S, Umegaki N, Kaneko T, Matsuhashi Y, Tandoh Y, Toyoki Y, Hakamada K, Kusumi T, Harada K, Sawamura D. Reduction in epidermal Langerhans cells in patients with necrolytic migratory erythema. J Dermatol Sci 2008;50(1):76-80.

A.4. Yamamoto C, Tamai K, Nakano H, Matsuzaki Y, Kaneko T, Sawamura D. Vitamin D(3) inhibits expression of bullous pemphigoid antigen 1 through post-transcriptional mechanism without new protein synthesis. J Dermatol Sci 2008;50(2):155-158.

A.5. Nakajima K, Tamai K, Yamazaki T, Toyomaki Y, Nakano H, Uitto J, Sawamura D. Identification of Skn-1n, a splice variant that is induced by high calcium concentration and specifically expressed in normal human keratinocytes. J Invest Dermatol 2008;128(5):1336-1339.

A.6. Kitamura H, Kaneko T, Nakano H, Terui H, Ito E, Sawamura D. Juvenile myelomonocytic leukemia presenting multiple painful erythematous lesions diagnosed as Sweet's syndrome. J Dermatol 2008;35:368-370.

A.7. Aizu T, Tamai K, Nakano H, Rokunohe D, Toyomaki Y, Uitto J, Sawamura D. Calcineurin/NFAT-Dependent Regulation of 230-kD Bullous Pemphigoid Antigen (BPAG1) Gene Expression in Normal Human Epidermal Keratinocytes. J Dermatol Sci 2008;51(1):45-51.

A.8. Yamamoto C, Tamai K, Nakano H, Matsuzaki Y, Kaneko T, Sawamura D. Vitamin D3 inhibits expression of pemphigus vulgaris antigen, desmoglein 3: implication of partial mechanism in pharmacological effect of VD3 on skin diseases. Mol Med Rep 2008.

A.9. Nakano H, Akasaka E, Rokunohe D, Yokoyama S, Toyomaki Y, Umegaki N, Mitsuhashi Y, Sawamura D. A novel homozygous missense mutation in the fatty aldehyde dehydrogenase gene causes Sjogren-Larsson syndrome. J Dermatol Sci 2008;52(2):136-138.

A.10. Tsumaki Y, Kon T, Suginuma A, Imada K, Sekiguchi A, Nenchev DN, Nakano H, Hanada K. Development of a Skincare Robot. Proceedings of the 2008 IEEE International Conference on Robotics and Automation, Pasadena, California, 2008;2963-2968.

B.1. Nishizawa A, Nakajima R, Nakano H, Sawamura D, Takayama K, Satoh T, Yokozeki H. A de novo missense mutation in the keratin 13 gene in oral white sponge nevus. Br J Dermatol 2008;159(4):974-975.

B.2. Nishizawa A, Nakano H, Satoh T, Takayama K, Sawamura D, Yokozeki H. Haber's syndrome may be a clinical entity different from Dowling-Degos disease. Br J Dermatol 2008;160(1):215-217.

B.3. Ochiai T, Nakano H, Rokunohe D, Akasaka E, Toyomaki Y, Mitsuhashi Y, Sawamura D. Novel p.M1T and recurrent p.G301S mutations in cathepsin C in a Japanese patient with Papillon-Lef?vre syndrome: implications for understanding the genotype/phenotype relationship. J Dermatol Sci 2009;53(1):73-75.

B.4. Hamada T, Fukuda S, Ishii N, Sakaguchi S, Ishikawa T, Abe T, Yasumoto S, Hashimoto T, Nakano H, Sawamura D. Genotype-phenotype correlation in non-Hallopeau-Siemens recessive dystrophic epidermolysis bullosa: The splice site mutation c.6216+5G>T in the COL7A1 gene results in aberrant and normal splicings. J Dermatol Sci 2008;50(2):147-50.

C.1. Kivisaari AK, Kallajoki M, Mirtti T, McGrath JA, Bauer JW, Weber F, Königová R, Sawamura D, Sato-Matsumura KC, Shimizu H, Csikós M, Sinemus K, Beckert W, Kähäri VM. Transformation-specific matrix metalloproteinases (MMP)-7 and MMP-13 are expressed by tumour cells in epidermolysis bullosa-associated squamous cell carcinomas. Br J Dermatol 158:778-1785,2008.

C.2. Nagasaki A, Nishie W, Sato K, Oba I, Noguchi E, Akitsu H, Sawamura D, Shimizu H. Clinical and Genetic analysis of Fabry disease: report of 6 cases including 3 heterozygous females. J Dermatol Sci, 52:61-64,2008.

C.3. Shinkuma S, Nishie W, Sawamura D, Natsuga K, Aoyagi S, Shimizu H. Usefulness of thermography techniques for evaluating the disease activity in Kimura's disease. Clin Exp Dermatol, 33:768-771,2008.

C.4. Shinkuma S, Nishie W, Shibaki A, Sawamura D, Ito K, Tsuji-Abe Y, Natsuga K, Chan PT, Amagai M, Shimizu H. Cutaneous pemphigus vulgaris with skin features similar to the classic mucocutaneous type: a case report and review of the literature. Clin Exp Dermatol, 33:724-728,2008.

C.5. Nishie W, Sawamura D, Iitoyo M, Shimizu H. Intravascular histiocytosis associated with rheumatoid arthritis. Dermatology, 217:144-145,2008.

2009年度

A.1. Oshima H, Matsuzaki Y, Takeuchi S, Nakano H, Sawamura D. CD20 positive primary cutaneous T-cell lymphoma presenting as a solitary extensive plaque. Br J Dermatol 2009;160(4):894-896.

A.2. Nakano H, Nakamura Y, Kawamura T, Shibagaki N, Matsue H, Aizu T, Rokunohe Daiki, Akasaka E, Kimura K, Nishizawa A, Umegaki N, Mitsuhashi Y, Shimada S, Sawamura D. Novel and recurrent nonsense mutation of the SLC39A4 gene in Japanese patients with acrodermatitis enteropathica. Br J Dermatol 2009;161(1):184-186.

A.3. Minakawa S, Nakano H, Takeda H, Mizukami H, Yagihashi S, Satou T, Sawamura D. Chromosome 22q11.2 deletion syndrome associated with severe eczema. Clin Exp Dermatol 2009;34(3):410-411.

A.4. Takiyoshi N, Nakano H, Kaneko T, Aizu T, Nakajima K, Akasaka E, Rokunohe D, Sawamura D. Multiple desmoplastic trichoepitheliomas with ossification Clin Exp Dermatol 2009;34(5):634-635.

A.5. Takiyoshi N, Nakano H, Kaneko T, Aizu T, Nakajima K, Kimura K, Akasaka E, Rokunohe D, Nishizawa A, Kusumi T,* Sawamura D. A linear basal cell carcinoma undergoing spontaneous regression. Clin Exp Dermatol 2009;34(7):e411-413.

A.6. Minakawa S, Takeda H, Nakano H, Tono C, Takahashi Y, Sasaki S, Terui K, Ito E and Sawamura D. Successful umbilical cord blood transplantation for intractable eczematous eruption in hypohidrotic ectodermal dysplasia with immunodeficiency. Clin Exp Dermatol 2009;34:441-442.

A.7. Takeuchi S, Nakano H, Rokunohe D, Akasaka E, Nishizawa A, Matsuzaki Y, Sawamura D. Disseminated lupus vulgaris diagnosed more than 63 years after onset due to its initial misdiagnosis as a port-wine stain. Clin Exp Dermatol 2010;35(3):e28-29.

A.8. Matsuzaki Y, Kimura K, Nakano H, Hanada K, Sawamura D. Localized pagetoid reticulosis (Woringer-Kolopp disease) in early childhood. J Am Acad Dermatol 2009;61(1):120-123.

B.1. Ito K, Sawamura D, Goto M, Nakamura H, Nishie W, Sakai K, Natsuga K, Shinkuma S, Shibaki A, Uitto J, Denton CP, Nakajima O, Akiyama M, Shimizu H. Keratinocyte-/Fibroblast-Targeted Rescue of Col7a1-Disrupted Mice and Generation of an Exact Dystrophic Epidermolysis Bullosa Model Using a Human COL7A1 Mutation. Am J Pathol 2009; Nov 5.

B.2. Nishizawa A, Satoh T, Watanabe R, Takayama K, Nakano H, Sawamura D, Yokozeki H. Cowden syndrome: a novel mutation and overlooked glycogenic acanthosis in gingiva. Br J Dermatol 2009;160(5):1116-1118.

B.3. Imada K, Dainichi T, Yokomizo A, Tsunoda T, Song YH, Nagasaki A, Sawamura D, Nishie W, Shimizu H, Fukagawa S, Urabe K, Furue M, Hashimoto T, Naito S. Birt-Hogg-Dubé syndrome with clear-cell and oncocytic renal tumour and trichoblastoma associated with a novel FLCN mutation. Br J Dermatol 2009;160(6):1350-1353.

B.4. Inokuma D, Sawamura D, Shibaki A, Abe R, Shimizu H. Scleroedema adultorum associated with sarcoidosis. Clin Exp Dermatol 2009;34(7):e428-9.

B.5. Goto-Ohguchi Y, Nishie W, Akiyama M, Tateishi Y, Aoyagi S, Tsuji-Abe Y, Sawamura D, Ishii N, Hashimoto T, Shimizu H. A severe and refractory case of anti-p200 pemphigoid resulting in multiple skin ulcers and scar formation. Dermatology 2009;218(3):265-271.

B.6. Hamada T, Fukuda S, Ishii N, Abe T, Nagata K, Koro O, Hatano Y, Nakano H, Sawamura D, Hashimoto T. A Japanese family with dominant pretibial dystrophic epidermolysis bullosa: Identification of a new glycine substitution in the triple-helical collagenous domain of type VII collagen. J Dermatol Sci 2009; 54(3):212-4.

B.7. Hashikawa K, Hamada T, Ishii N, Fukuda S, Kuroki R, Nakama T, Yasumoto S, Tamai K, Nakano H, Sawamura D, Hashimoto T. The compound heterozygote for new/recurrent COL7A1 mutations in a Japanese patient with bullous dermolysis of the newborn. J Dermatol Sci 2009;56(1):66-68.

B.8. Nishie W, Sawamura D, Natsuga K, Shinkuma S, Goto M, Shibaki A, Ujiie H, Olasz E, Yancey KB, Shimizu H. A novel humanized neonatal autoimmune blistering skin disease model induced by maternally transferred antibodies. J Immunol 2009;183(6):4088-4093.

B.9. Nishikawa Y, Kaneko T, Takiyoshi N, Aizu T, Nakajima K, Matsuzaki Y, Nakano H, Sawamura D. Dermoscopy of eccrine poroma with calcification. Journal of Dermatological Case Reports 2009;3(3):38-40.

B.10. Horie M, Nishio K, Fujita K, Endo S, Miyauchi A, Saito Y, Iwahashi H, Yamamoto K, Murayama H, Nakano H, Nanashima N, Niki E, Yoshida Y. Protein adsorption of ultrafine metal oxide and its influence on Cytotoxicity toward cultured cell. Chem Res Toxicol 2009 Feb 16.

和文

2009年度

A.1. 澤村大輔．表皮水疱症の遺伝子診断の実際．MB Derma 2009;151:152-156.

A.2. 澤村大輔．表皮水疱症の現状．医学のあゆみ 2009;230(11):987-990.

A.3. 皆川智子，萩原千尋，西川陽平，松﨑康司，中野　創，澤村大輔，北山友佳子，金澤拓蔵，大見義紀．乾燥性皮膚に対する青森ヒバ抽出エキス配合スキンケア製剤の安全性および有用性に関する検討．西日本皮膚科 2009;71(5):512-516.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 中野　創．ペラグラ．皮膚科サブスペシャリティーシリーズ 1 冊でわかる光皮膚科　皮膚科医に必須の Photodermatology 2008;127-129．

2009年度

A.1. 澤村大輔．やさしい皮膚科学．診断と治療社

（4）その他

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 是川あゆ美，金子高英，池永五月，中島康爾，中野　創，澤村大輔，今田吏律子．生検後に消褪傾向がみられた Merkel 細胞癌．臨床皮膚科 2009;63(6):409-413.

A.2. 池永五月，会津隆幸，澤村大輔．白色癒痕様皮疹を呈した皮膚筋炎．皮膚病診療 2009;31(9):1071-1074.

A.3. 中野　創．世界の皮膚科学者（201）Prof.Alain Mauciel. 西日本皮膚 2009;71(6):625-626.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Dermatol	1.886	1	1.886
FASEB J	6.791	1	6.791
J Dermatol Sci	2.5	4	10
J Invest Dermatol	4.829	1	4.829
J Dermato	0.694	1	0.694
Mol Med Rep	0	1	0
Br J Dermatol	3.334	1	3.334
J Dermatol Sci	2.5	3	7.5
Total		13	35.034

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Dermatol	3.489	2	6.978
Clin Exp Dermatol	1.779	5	8.895
J Am Acad Dermatol	4.081	1	4.081
Am J Pathol	5.697	1	5.697
Br J Dermatol	3.489	2	6.978
Clin Exp Dermatol	1.779	1	1.779
Dermatology	2.227	1	2.227
J Dermatol Sci	2.973	2	5.946
J Immunol	6	1	6
Journal of Dermatological Case Reports	0	1	0
Chem Res Toxicol	3.491	1	3.491
Total		18	52.072

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
MB Derma		1
医学のあゆみ		1
西日本皮膚科		1
計	0	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	1
分担執筆	1	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
臨床皮膚科		1
皮膚病診療		1
西日本皮膚		1
計	0	3

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Sawamura D: Our new findings about genetic skin diseases. 18th Annual Meeting of the Korean Society for Photomedicine. 2008.5.24. Seoul

A.2. Daisuke Sawamura: New topics in epidermolysis bullosa.The 10th China-Japan joint meeting of dermatology 20th anniversary,2008.10.31. Hangzhou（中国杭州）

C.1. 中野　創．骨髄性プロトポルフィリン症の遺伝子診断：本邦15家系の解析結果．第8回国際ポルフィリン・ヘムシンポジウム，2008.10.16-17. 江津

C.2. Akasaka E, Sato-Jin K, Nakano H, Sawamura D, Imokawa G: Intracellular signaling mechanisms involved in endothelin-1-stimulated expression of metallothionein in human melanocytes. International Investigative Dermatology 2008.5.14-17. Kyoto

C.3. Katsumi Hanada, Daisuke Sawamura, Daiki Rokunohe Photoaging: Quantitative analysis of solar elastosis and facial wrinkles. 8th Asian dermatological congress, 2008.10.1-4. Seoul（韓国）

2009年度

C.1. Akasaka E, Nakano H, Sato-Jin K, Kimura K, Rokunohe D, Imokawa G, Sawamura D. The Photorotective Roles Of Endothelin-1/ SCF Induced Heme Oxygenase-1 Expression In Cultured Human Melanocytes. 69th annual meeting of Society of Investigative Dermatology

C.2. Kimura K, Matsuzaki Y, Nishikawa Y, Akasaka E, Rokunohe D, Kitamura H, Nakano H, Imaizumi T, Satoh K, Sawamura D. UVB irradiation for suppression of virus mimickininduced RIG-I gene expression. 39th Annual European Society for Dermatological Resarch（ESDR）Meeting

（2）全国学術集会

2008年度

C.　6件

2009年度

A.1. 澤村大輔．類天疱瘡の基礎と臨床．アレルギー治療学術講演会

A.2. 澤村大輔．表皮にあるコラーゲン．第12回福島皮膚科スプリングセミナー

A.3. 澤村大輔．表皮水疱症の治療開発．第130回神奈川県皮膚科医会例会

A.4. 澤村大輔．水疱性類天疱瘡の最近の考え方．第131回日本皮膚科学会徳島地方会

C.　17件

Ⅲ．学術賞

2008年度

中野　創：
甲午会賞（2008年度）
骨髄性プロトポルフィリン症の遺伝子診断

神　可代：

第13回弘前大学医学部学術賞学術奨励賞

Epistatic connections between icrophthalmiaassociated transcription factor and endothelin signaling in Waardenburg syndrome and other pigmentary disorders.

2009年度

中野　創：骨髄性プロトポルフィリン症の遺伝子診断：本邦16家系の解析結果．第108回日本皮膚科学会総会ポスター賞

Ⅳ．共同研究

2008年度

共同研究（サンスター㈱）
研究課題：無痛性マイクロニードルの開発 - マイクロニードル基本仕様の検討
研究代表者名：澤村大輔（分担　松﨑康司）
研究費：3,000（千円）

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

研究代表者として

研究種目：萌芽研究
研究課題：構造蛋白異常としての表皮水疱症における協調的ヘテロ接合
研究代表者名：澤村大輔（分担　中野　創，松﨑康司）．
配分額：3,200（千円）

研究種目：若手研究（B）
研究課題：音響力学による新しい皮膚癌治療法の開発
研究代表者名：松﨑康司
配分額：900（千円）

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究課題：Ⅶ型コラーゲン遺伝子改変マウスによる栄養障害型と後天性表皮水疱症の新規モデル
研究代表者名：澤村大輔（分担　中野　創，松﨑康司）
配分額：5,500（千円）

研究種目：基盤研究（C）
研究課題：皮膚有棘細胞癌における Raf キナーゼ抑制蛋白の抗腫瘍効果解析と，治療的応用の検討
研究代表者名：六戸大樹（分担　中野　創，松﨑康司）
配分額：1,400（千円）

研究種目：特定領域・細胞感覚・公募研究
研究課題：熱傷における温度セルセンサーを介する表皮細胞の冷却機構
研究代表者名：澤村大輔
配分額：3,400（千円）

他研究単位との研究分担者として

研究種目：基盤研究（B）
研究課題：ヒアルロン酸ノックダウンマウスの老化機構の解明及び抗加齢医薬開発への活用
研究代表者名：澤村大輔
配分額：300（千円）

2009年度

研究代表者として

1. 科学研究費　基盤研究（C）皮膚有棘細胞癌における Raf キナーゼ抑制蛋白の抗腫瘍効果解析と、治療的応用の検討．（代表）六戸大樹（分担）中野　創，松﨑康司．1,000（千円）
2. 科学研究費　基盤研究（C）マイクロニードルによる皮膚を標的とする薬物供給システムの開発．（代表）花田勝美（分担）澤村大輔，松﨑康司．1,600（千円）
3. 科学研究費　基盤研究(C)真皮線維芽細胞からアプローチする毛髪異常疾患の原因究明．(代表)中野　創，（分担）松﨑康司，澤村大輔．1,400（千円）

4. 科学研究費　挑戦的萌芽　表皮細胞におけるオートファジーによる細胞死．（代表）澤村大輔（分担）会津隆幸，中島康爾．3,100（千円）
5. 科学研究費　若手研究（B）悪性黒色腫に対する RT-LAMP 法を用いた超迅速センチネルリンパ節微小転移診断．（代表）金子高英．1,700（千円）
6. 科学研究費　若手研究（B）上皮―間葉転換のマスター転写因子による基底膜蛋白の発現調節．（代表）中島康爾．2,100（千円）
7. 科学研究費　若手研究（B）ウイルスセンサーを標的とするメラノーマの画期的治療法の開発．（代表）松﨑康司．2,000（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 科学研究費　基盤研究（B）ヒアルロン酸ノックダウンマウスの老化機構の解明及び抗加齢医薬開発への活用．（分担）澤村大輔．300（千円）
2. 厚生労働省　平成21年度厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患克服研究事業．（分担）中野　創．4,000（千円）

（3）学内の研究助成

2008年度

研究代表者として

研究種目：競争的資金獲得の支援
研究課題：テーラーメード・アニマルモデルを用いたテーラーメード医療の実用化に関する研究
研究代表者名：澤村大輔（分担　清水　宏，今　　淳，中野　創，松﨑康司）
配分額：500（千円）

研究種目：弘大 GOGO ファンド
研究課題：青森ヒバ抽出エキス配合化粧品の安全性および有用性の検討
研究代表者名：澤村大輔（分担　松﨑康司，皆川智子）
配分額：4,316（千円）

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として

研究種目：第26回唐牛記念医学研究基金助成金（A）
研究課題：VII 型コラーゲンの非コラーゲン領域 2 の機能解析
研究代表者名：澤村大輔（分担　中野　創，松﨑康司，金子高英）
配分額：3,500（千円）

研究種目：平成20年度北東北国立 3 大学連携推進研究プロジェクト
研究課題：接着分子の発現パターンを指標にした皮膚癌の悪性度・転移能の判定
研究代表者名：澤村大輔（分担　金子高英，真鍋　求，安田　準）
配分額：700（千円）

2009年度

研究代表者として

1. 財団法人 日本リディアオリリー協会 平成21年度 研究助成金．新規ウイルスセンサーである RIG-I を標的とした免疫賦活療法の開発．（代表）松﨑康司
2. 平成20年度北東北国立 3 大学連携推進研究プロジェクト．接着分子の発現パターンを指標にした皮膚癌の悪性度・転移能の判定．（代表）澤村大輔（分担）金子高英，真鍋　求，安田　準．900（千円）

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2008年度

主催代表者名，集会名，開催地
澤村大輔，第118回弘前大学皮膚科集談会
日本皮膚科学会青森地方会第342回例会，弘前市
日本皮膚科学会青森地方会第343回例会，青森市
日本皮膚科学会青森地方会第344回例会，弘前市

2009年度

第119回弘前大学皮膚科集団会・日本皮膚科学会青森地方会第346回例会，2009/5/31（弘前市）
日本皮膚科学会青森地方会第346回例会，2009/9/6（八戸市）

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

21. 泌尿器科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

ほぼ100％達成した。

理念：

糖鎖と癌及び移植関係の研究を論文にする。

これから２年間の目標：

特許申請と英文論文（10編以上）を出す。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　6，助手　0，医員　2，大学院学生　4，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大山　　力	1年
	准教授	専　任	神村　典孝	1年
	講　師	専　任	古家　琢也	1年
	助　教	専　任	米山　高弘	1年
	助　教	専　任	橋本　安弘	1年
	助　教	専　任	今井　　篤	6ヶ月（～9月）
	助　教	専　任	畠山　真吾	1年：(休職：～9月，復職：9月～)
	助　教	専　任	岩渕　郁哉	1年
	助　教	専　任	盛　　和行	1年
研究課題	1．前立腺癌の予後因子の研究 2．癌転移における糖鎖の役割 3．尿路感染症における糖鎖を介した自然免疫系の意義 4．血液型不適合移植における血液型糖鎖抗原に関する研究 5．膀胱癌の予後因子の研究 6．尿路変向術 7．BCG 菌体成分の抗腫瘍効果の検討 8．BCG の作用機序の解明			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　7，助手　0，医員　5，大学院学生　4，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大山　　力	1年
	准教授	専　任	神村　典孝	1年
	講　師	専　任	古家　琢也	1年
	助　教	専　任	橋本　安弘	1年
	助　教	専　任	米山　高弘	1年
	助　教	専　任	岩渕　郁哉	6ヶ月（～9月）
	助　教	専　任	工藤　茂将	8ヶ月（8月～）
	助　教	専　任	立和田得志	6ヶ月（10月～）
	助　教	専　任	畠山　真吾	1.5ヶ月：(～5/15)
	助　教	専　任	盛　　和行	1年
研究課題	1．前立腺癌の予後因子の研究 2．癌転移における糖鎖の役割 3．尿路感染症における糖鎖を介した自然免疫系の意義 4．血液型不適合移植における血液型糖鎖抗原に関する研究 5．膀胱癌の予後因子の研究 6．尿路変向術			

研究課題	7．BCG 菌体成分の抗腫瘍効果の検討 8．BCG の作用機序の解明

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Yoneyama T, Ohyama C, Imai A, Ishimura H, Hagisawa S, Iwabuchi I, Mori K, Kamimura N, Koie T, Yamato T, Suzuki T. Low-Dose Instillation Therapy with Bacille Calmette-Guérin Tokyo 172 Strain After Transurethral Resection: Historical Cohort Study. Urology. 2008 Jun;71(6):1161-5.

A.2. Ohyama C. Glycosylation in bladder cancer. Int J Clin Oncol. 2008 Aug;13:308-13.

A.3. Hatakeyama S, Sugihara K, Lee H S, Nadano D, Nakayama J, Ohyama C and Fukuda M N. Enhancement of human sperm Motility by trophinin binding peptide. The Journal of Urology. 2008 Aug;180:767-71.

A.4. Hatakeyama S, Sugihara K, Nakayama J, Akama OT, Wong AS, Kawashima H, Zhang J, Smith DF, Ohyama C, Fukuda M, Fukuda MN. Identification of mRNA splicing factors as the endothelial receptor for carbohydrate-dependent lung colonization of cancer cells. PNAS. 2009 Mar;106(9):3095-100.

A.5. Tsuboi S, Takada H, Hara T, Nochizuki N, Funyu T, Saitoh H, Terayama Y, Yanaya K, Ohyama C, Nonoyama S, Ochs H. FBP17 Mediates a Common Molecular Step in the Formation of Podosomes and Phagocytic Cups in Macrophages. JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY. 2009 Mar;284(13):8548-56.

B.1. Nigawara T, Kageyama K, Sakihara S, Takeyasu S, Kawahara M, Imai A, Ohyama C, Usui T, Sasano H, Suda T: A male case of nonclassical 21-hydroxylase deficiency first manifested in his sixties with adrenocortical incidentalome. Endocrine Journal. 2008 May;55:291-7.

B.2. Imaizumi T, Arikawa T, Sato T, Uesato R, Matsumiya T, Yoshida H, Ueno M, Yamasaki S, Nakajima T, Hirashima M, Sakata K, Ishibashi Y, Toh S, Ohyama C, Satoh K: Invovement of retinoic acid-inducible gene-I in inflammation of rteumatoid fibriblastlike synoviocytes. Clin Exp Immunol. 2008 Aug;153:240-4.

B.3. Kusumi Tomomi, Koie T, Tanaka M, Matsumoto K, Sato F, Kusumi A, Ohyama C, Kijima H. Immunohistochemical detection of carcinoma in radical prostatectomy specimens following hormone therapy. Pathology International. 2008;58:687-94.

B.4. Obara W, Mizutani Y, Ohyama C, Akaza H, Ishii N, Kohri K, Namiki M, Okuyama A, Shima H, Yokoyama M, Shuin T, Miki T, Watanabe Y, Fujioka T: Prospective study of combined treatment with interferon-alpha and active vitamin D3 for Japanese patients with metastatatic renal cell carcinoma. Int J Urology. 2008;15:794-9.

2009年度

A.1. Koie T, Yoneyama T, Hashimoto Y, Kamimura N, Kusumi T, Kijima H, Ohyama C. An aggressive course of Xp11 translocation renal cell carcinoma in a 28-year-old man. Int J Urol. 2009;16:333-5.（IF: 0.769）

A.2. Imai A, Yamamoto H, Hatakeyama S, Iwabuchi I, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Kamimura N, Danjo K, Ohyama C. Risk factors for erectile dysfunction in healthy Japanese man. International Journal of Andrology. 2009; in press（IF:3.040）

A.3. Bao X, Kobayashi M, Hatakeyama S, Angata K, Gullbarg D, Nakayama J, Fukuda MN, Fukuda M: Tumor suppressor function of laminin-binding α-dystroglycan requires a distinct β3-N-acetylglucoseminyltransferase. PNAS. 2009 July;106:12109-14.（IF: 9.598）

A.4. Imai A, Ohyama C. Cauda equine symptoms are closely related to male lower urinary tract symptoms. Urologia Internationalis. 2009; in press（IF: 0.82）

A.5. Lee SH, Hatakeyama S, Yu SY, Bao X, Ohyama C, Khoo KH, Fukuda MN, Fukuda M. Core3 O-glycan synthase suppresses tumor formation and metastasis of prostate carcinoma PC3 and LNCaP cells through down-regulation of alpha2beta1 integrin complex. J Biol Chem. 2009 Jun 19;284(25):17157-69.（IF: 5.581）

A.6. Iida K, Mimura J, Itoh K, Ohyama C, Fujii-Kuriyama Y, Shimazui T, Akaza H, Yamamoto M. Suppression of AhR signaling pathway is associated with the downregulation of UDP-glucuronosyltransferases during BBN-induced urinary bladder carcinogenesis in mice. J Biochem. 2009 Oct 29. ; in press（IF:2.02）

A.7. Rahman NA, Mori K, Mizukami M, Suzuki T, Takahashi N, Ohyama C. Role of peroxynitrite and recombinant human manganese superoxide dismutase in reducing ischemia-reperfusion renal tissue injury. Transplant Proc. 2009 Nov; 41(9):3603-10.（IF: 1.027）

A.8. Yoshida H, Metoki N, Ishikawa A, Imaizumi T, Matsumiya T, Tanji K, Ota K, Ohyama C, Satoh K. Edaravone improves the expression of nerve growth factor in human astrocytes subjected to hypoxia/reoxygenation. Neurosci Res. 2009 Nov 30. ; in press（IF:2.121）

A.9. Koie T, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Kamimura N, Ohyama C. Uterus-, Fallopian Tube-, Ovary-, and Vagina-Sparing Cystectomy Followed by U-shaped Ileal Neobladder Construction for Female Bladder Cancer Patients: Oncological and Functional Outcomes. Urology. 2009 Dec 5.［Epub ahead of print］(IF: 2.134)

A.10. Hatakeyama S, Kyan A, Yamamoto H, Okamoto A, Sugiyama N, Suzuki Y, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Yamada S, Saito H, Arai Y, Fukuda M, Ohyama C. Core 2 N-acetylglucosaminyltransferase-1（C2GnT-1）expression induces aggressive potential of testicular germ cell tumor. Int J Cancer. 2009 Dec 16.［Epub ahead of print］（IF: 4.555）

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 大山　力．Ⅱ浸潤性膀胱癌に対する手術「ミノマム創による膀胱全摘除術」．新 Urologic Surgery シリーズ2　膀胱の手術（メジカルビュー社）2009.4.20;74-81.

A.2. 大山　力, 神村典孝, 米山高弘．Ⅱ Topics of RCC- 分子標的薬の AE-「消化管症状（下痢・口内炎・食欲不振・消化管穿孔）」．Year Book of RCC（メディカルレビュー社）2009.9.10;151-65.

A.3. 大山　力．膀胱拡大術「回腸利用膀胱拡大術」．新 Urologic Surgery シリーズ6　尿路変更・再建術（メジカルビュー社）2010.3.10;136-44.

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

C.1. 三塚浩二，石戸谷滋人，斎藤誠一，荒井陽一，大山　力．インフォームドコンセントにおける泌尿器科手術関連死の取り扱いについての実態調査．泌尿器科紀要　2008;54:543-8.

C.2. 岡本亜希子，古家琢也，橋本安弘，神村典孝，大山　力，石村大史，成田　知．薄筋弁で修復した難治性回腸新膀胱膣瘻の1例．泌尿器科紀要　2008;54:673-6.

C.3. 大山　力．長期尿道留置カテーテル患者のケア．今日の治療指針2009年度版　2009;51:859.

C.4. 盛　和行，山本勇人，岡本亜希子，今井　篤，畠山真吾，岩渕郁哉，米山高弘，橋本安弘，古家琢也，百瀬昭志，神村典孝，大山　力：BCG，ナノパーティクル BCG の直接効果．泌尿器外科　2009;22(2):176-7.

C.5. 米山高弘，岡本亜希子，山本勇人，畠山真吾，岩渕郁哉，橋本安弘，盛　和行，百瀬昭志，古家琢也，神村典孝，大山　力．当科における BCG 上部尿路灌流療法の長期成績．泌尿器外科　2009;22(2):187-8.

2009年度

C.1. 大山　力．長期尿道留置カテーテル患者のケア．今日の治療指針2009年度版　2009;51:859.

C.2. 盛　和行，山本勇人，岡本亜希子，今井　篤，畠山真吾，岩渕郁哉，米山高弘，橋本安弘，古家琢也，百瀬昭志，神村典孝，大山　力：BCG，ナノパーティクル BCG の直接効果．泌尿器外科　2009;22(2):176-7.

C.3. 米山高弘，岡本亜希子，山本勇人，畠山真吾，岩渕郁哉，橋本安弘，盛　和行，百瀬昭志，古家琢也，神村典孝，大山　力．当科における BCG 上部尿路灌流療法の長期成績．泌尿器外科　2009;22(2):187-8.

C.4. 古家琢也，山本勇人，岡本亜希子，今井　篤，岩渕郁哉，米山高弘，橋本安弘，百瀬昭志，神村典孝，大山　力．根治的膀胱全摘除術における手術部位感染の危険因子に関する検討～吸収糸による皮膚埋没縫合に有用性～．泌尿器科紀要　2009;55(2):75-8.

C.5. 大山　力，神村典孝，盛　和行．精巣腫瘍における画像診断の進歩；FDG-PET を中心に．Urology View 2009;7(3):41-5.

C.6. 古家琢也．新膀胱造設術．泌尿器ケア　2009；夏季増刊：87-94．

C.7. 佐藤大志，鹿内ひろみ，相馬真理子，福士明美，古家琢也：回腸新膀胱造設後患者への QOL 調査　―時間排尿が退院後の生活に及ぼす影響について―．泌尿器ケア　2009;14(8):831-6.

C.8. 米山高弘，古家琢也，山本勇人，岡本亜希子，今井　篤，岩渕郁哉，橋本安弘，神村典孝，大山　力．腎 Solitary fibrous tumor の 1 例．泌尿器科紀要　2009;55(8):479-81.

C.9. 村上礼一, 藤田　雄, 嶋谷祐子, 野坂隆一郎, 中村典雄, 奥村　謙, 豊木嘉一, 鳴海俊治, 袴田健一, 米山高弘, 古家琢也，神村典孝，大山　力．拒絶反応との鑑別に苦慮した BK ウイルス腎症の 2 例．第42回日本臨床腎移植学会記録集　腎移植症例集2009;152-5.

C.10. 山本勇人，鈴木裕一朗，杉山尚樹，岡本亜希子，畠山真吾，岩渕郁哉，米山高弘，古家琢也，橋本安弘，百瀬昭志，神村典孝，大山　力．腎周囲脂肪織に発症した多発性炎症性偽腫瘍の 1 例．泌尿器科紀要 2009;55(12):757-9.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Urology	2.134	1	2.134
The Journal of Urology	4.053	1	4.053
PNAS	9.598	1	9.598
JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY	5.581	1	5.581
Endocrine Journal	1.572	1	1.572
Clin Exp Immunol	2.599	1	2.599
Int J Urology	0.769	1	0.769
Pathology International	1.371	1	1.371
Total		8	27.677

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Urol	0.769	0	0.769
International Journal of Andrology	3.04	0	3.04
PNAS	9.598	0	9.598
Urologia Internationalis	0.82	0	0.82
J Biol Chem	5.581	0	5.581
J Biochem	2.02	0	2.02
Transplant Proc	1.027	0	1.027
Neurosci Res	2.121	0	2.121
Urology	2.134	0	2.134
Int J Cancer	4.555	0	4.555
Total		0	31.665

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
な し		
計	0	0

２．著書数（A，B のみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
泌尿器科紀要	2	3
今日の治療指針	1	1
泌尿器外科	2	2
Urology Vie		1
泌尿器ケア		2
日本臨床腎移植学会記録集　腎移植症例集		1
計	5	10

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Yoneyama T, Yamamoto H, Okamoto A, Imai A, Iwabuchi I, Hashimoto Y, Mori K, Koie T, Kamimura N, Ohyama C. Low-dose effects of Bacille Calmette-Guerin perfusion therapy for upper urinary tract urothelial carcinoma in situ. 第103回米国泌尿器科学会　Orlando, 2008;5:17-22.

C.2. Koie T, Yoneyama T, Yamamoto H, Okamoto A, Imai A, Hatakeyama S, Iwabuchi I, Hashimoto Y, Kamimura N, Mori K, Ohyama C. Gynecologic organs sparing cystectomy and U-shaped ileal neobladder for female bladder cancer patients: oncologic and functional outcomes. 第103回米国泌尿器科学会　Orlando, 2008;5:17-22.

C.3. Imai A, Yamamoto H, Okamoto A, Iwabuchi I, Yoneyama T, Hashimoto Y, Mori K, Koie T, Kamimura N, Matsuzaka M, Nakaji S, Ohyama C. Impact of cauda equine type lumbar spinal spinal stenosis on male lower urinary tract symptoms: a community-basudy in Japan. 第103回米国泌尿器科学会　Orlando, 2008;5:17-22.

C.4. Hatakeyama S, Kamimura N, Koie T, Mori K, Hashimoto Y, Iwabuchi I, Yoneyama T, Imai A, Okamoto A, Yamamoto H, Ohyama C, Fukuda N M. Trophinin-binding peptide, GWRQ, promotes human sperm motility. 第103回米国泌尿器科学会　Orlando, 2008;5:17-22.

2009年度

C.1. Hatakeyama S, Kamimura N, Koie T, Hashimoto Y, Iwabuchi I, Yoneyama T, Mori K, Imai A, Okamoto A, Yamamoto H, Ohyama C. Cancer targeting chemotherapy by annexin A1 binding IF7 peptide conjugated with geldanamycin. 第104回米国泌尿器科学会　2009.4.25-5.1　シカゴ

C.2. Koie T, Yamamoto H, Okamoto A, Hatakeyama S, Momose A, Iwabuchi I, Yoneyama T, Hashimoto Y, Kamimura N, Saijo Y : Feasibility and efficacy of gemcitabine and carboplatin neoadjuvant chemotherapy in muscle-invasive bladder cancer. 2009 ASCO Annual meeting. 2009.5.28-6.2　オーランド

C.3. Hatakeyama S,　Tamura N, Akama TO, Fukuda NM：Highly efficient drug delivery targeted to malignant tumors by carbohydrate mimicry peptide IF7. The Annual Conference of The Society for Glycobiology. 2009 Nov. San Diego, CA,USA

C.4. Hatakeyama S, Kyan A, Yamamoto H, Okamoto A, Sugiyama N, Suzuki Y, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Fukuda M, Ohyama C. Core 2 N-acetylglucosaminyltransferase-1（C2GnT-1）expression induces aggressive potential of testicular germ cell tumor（TGCT）. The Annual Conference of the Society for Glycobiology. 2009 Nov. San Diego, CA,USA

（2）全国学術集会

2008年度

A.1. 大山　力．膀胱癌：診療の問題点と解決策．第2回千葉泌尿器オンコロジー研究会　平成20年5月30日　千葉市

A.2. 大山　力．前立腺癌のリスク分類と治療戦略．第2回 Osaka Prostate Cancer Conference　平成20年6月6日　大阪市

A.3. 大山　力．泌尿器科疾患における糖鎖の役割．御殿場研究所講演会　平成20年7月4日　御殿場市

A.4. 大山　力．ミニマム創前立腺全摘除術の手術手技と成績。第3回北海道泌尿器科がんフォーラム　平成20年11月15日　札幌市

A.5. 大山　力．難治性前立腺癌の治療．前立腺癌学術講演会　平成20年12月4日　秋田市

A.6. 大山　力．腸管利用尿路変更術アーカイヴス．第7回東北泌尿器科手術手技研究会　平成21年2月14日　仙台市

A.7. 大山　力．進行尿路上皮癌の治療戦略．尿路上皮癌フォーラム　平成21年2月21日　仙台市

A.8. 神村典孝．過活動膀胱の診断と治療．学術講演会　平成21年2月24日　大館市

A.9. 大山　力．前立腺癌のトータルマネージメント　～ミニマム創手術から HRPC まで～．タキソテール前立腺癌記念講演会　平成21年2月26日　島根県出雲市

B.1. 神村典孝．精巣腫瘍の follow up．第238回日本泌尿器科学会東北地方会　平成20年4月19日　盛岡市

B.2. 古家琢也，山本勇人，岡本亜希子，今井　篤，岩渕郁哉，米山高弘，橋本安弘，神村典孝，大山　力．弘前大学におけるミニマム創手術の現況および導入に向けての提言．第96回日本泌尿器科学会総会　平成20年4月25-27日　横浜市

C.　51件

2009年度

A.1. 大山　力．「特別講演」回腸U字新膀胱―術式と機能評価―．低容量 BCG 膀胱腔内注入療法研究会　平成21年6月6日　東京

A.2. 大山　力．「特別講演」筋層非浸潤性膀胱癌の膀注療法　UP-TO-DATE．北九州市泌尿器科医会　平成21年度第5回研修会　平成21年7月23日　北九州市小倉

A.3. 大山　力．「特別講演」腸管利用尿路変向術の歴史と進歩．第93回山形泌尿器科研究会　平成21年11月7日　山形市

A.4. 大山　力．「特別講演」簡便な回腸新膀胱の作り方．第1回長崎泌尿器科手術講演会　平成21年11月20日　長崎市

A.5. 大山　力．「特別講演」筋層浸潤性膀胱癌に対する GC 療法を用いた術前補助化学療法．Lilly インターネット講演会　平成21年11月27日　弘前市

A.6. 大山　力．「特別講演」限局性前立腺癌の治療と下部尿路機能．第4回仙台泌尿器科疾患フォーラム　平成21年11月28日　仙台市

A.7. 大山　力．「特別講演」泌尿器科手術の進歩．仙台市医師会太白ブロック学術講演会　平成22年2月5日　仙台市

A.8. 大山　力．「特別講演」筋層浸潤膀胱癌の治療．第7回香川泌尿器疾患フォーラム　平成22年2月22日　香川

B.1. 古家琢也.「シンポジウム」尿路再建～当科の秘伝・トラブルシューティング～ 「尿瘻の対処法」. 第240回日本泌尿器科学会東北地方会 平成21年5月16日 仙台市

B.2. 大山 力.「シンポジウム」手術～ミニマム創全摘除術の治療成績～ 第36回尿路悪性腫瘍研究会 平成21年7月18日 東京

B.3. 米山高弘, 古家琢也, 大山 力.「シンポジウム」現局性前立腺がんのリスク群別治療アップデート～手術 vs 放射線治療～「全リスク群 手術」. 第74回日本泌尿器科学会東部総会 平成21年10月28-30日 松本市

B.4. 古家琢也, 米山高弘, 橋本安弘, 神村典孝, 大山 力, 加藤智幸, 冨田善彦, 吉川和暁.「シンポジウム」浸潤性膀胱癌周辺の話題「浸潤性膀胱癌周辺の話題―新膀胱 up-to-date」. 第74回日本泌尿器科学会東部総会 平成21年10月28-30日 松本市

C. 44件

Ⅲ. 学術賞

2008年度

- 橋本安弘. 前立腺全摘術標本の腫瘍体積の検討. (優秀発表賞) 第238回日本泌尿器科学会東北地方会 平成20年4月19日 盛岡市
- 古家琢也. 女性に対して施行したU字回腸新膀胱の手術成績と下部尿路機能. (総会賞) 第96回日本泌尿器科学会総会 平成20年4月25-27日 横浜市

2009年度

- 弘前大学表彰 平成21年5月31日：大山 力, 神村典孝, 古家琢也, 橋本安弘, 米山高弘, 岩渕郁哉, 畠山真吾, 今井 篤, 岡本亜希子, 山本勇人, 百瀬昭志：医療活動において
- 第2回稲田賞・症例報告部門（泌尿器科紀要）平成21年7月25日：岡本亜希子, 古家琢也, 橋本安弘, 神村典孝, 大山 力, 石村大史, 成田 知：薄筋弁で修復した難治性回腸新膀胱膣瘻の1例. 泌尿器科紀要 2008;54:673-6.
- 第241回日本泌尿器科学会東北地方会 優秀発表賞 受賞 平成21年9月19日（福島市）：立和田得志, 岡本亜希子, 岩渕郁哉, 橋本安弘, 古家琢也, 神村典孝, 大山 力；21kg の後腹膜脂肪肉腫の摘出経験.
- 第74回日本泌尿器科学会東部総会 ポスター賞 受賞 平成21年10月28-30日（松本市）：山本勇人, 鈴木裕一朗, 杉山尚樹, 盛 和行, 神村典孝, 大山 力, 畠山真吾, 坪井 滋, 斎藤久夫, 山谷金光, 舟生富寿, 堀川洋平, 羽渕友則：膀胱癌における Core-2 N-acetylglucosaminyltransferase-1（C2GnT-l）発現の臨床的意義.
- 第74回日本泌尿器科学会東部総会 ポスター賞 受賞 平成21年10月28-30日（松本市）：畠山真吾, 山本勇人, 斎藤久夫, 舟生富寿, 杉山尚樹, 鈴木裕一朗, 坪井 滋, 大山 力：精巣腫瘍における Core-2 N-acetylglucosaminyltransferase-1（C2GnT-l）発現の意義.
- 平成21年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞 ―診療技術賞― 受賞 平成22年1月29日：古家琢也, 橋本安弘, 米山高弘, 神村典孝, 工藤茂将, 立和田得志, 杉山尚樹, 鈴木裕一朗；術創トラブルを解消する皮膚縫合法の工夫 ―患者満足度向上と材料費削減の効果―.

Ⅳ. 共同研究

2008年度

- 新潟大学医学部泌尿器科学講座
  「ABO 不適合辞腎移植における糖鎖抗原の研究」 代表者：高橋公太
- 北海道大学大学院理学研究科
  「泌尿器癌における N-glycan の構造解析」 代表者：大山 力
- The Burnham Institute
  「膀胱癌における C2GnT の研究」 代表者：大山 力
- The Burnham Institute
  「精子運動能促進因子の研究」 代表者：大山 力
- UCSF カリフォルニア大学サンフランシスコ校
  「精巣癌細胞 JKT-1 の分化に関する研究」 代表者：大山 力
- 東北大学医学部泌尿器科学講座
  「前立腺癌の再発因子に関する検討」 代表者：荒井陽一
- 札幌医科大学泌尿器科学講座
  「慢性前立腺癌治療法に関する臨床研究」 代表者：塚本泰司
- 生化学工業
  「前立腺癌のバイオマーカー：C2GnT」 代表者：大山 力
- 大阪母子医療センター研究所
  「前立腺特異抗原の糖鎖に関する研究」 代表者：大山 力
- 大阪大学医学部生化学講座
  「泌尿器癌における GnT-V 発現に関する研究」 代表者：大山 力

・ 滋賀医科大学泌尿器科
「前立腺特異抗原のプロテオミクス研究」 代表者：大山　力
・ 神戸薬科大学
「前立腺癌の尿中プロテオグリカンの研究」 代表者：大山　力

2009年度

・ 新潟大学医学部泌尿器科学講座
「ABO 不適合辞腎移植における糖鎖抗原の研究」 代表者：高橋公太
・ 北海道大学大学院理学研究科
「泌尿器癌における N-glycan の構造解析」 代表者：大山　力
・ The Burnham Institute
「膀胱癌における C2GnT の研究」 代表者：大山　力
・ The Burnham Institute
「精子運動能促進因子の研究」 代表者：大山　力
・ UCSF カリフォルニア大学サンフランシスコ校
「精巣癌細胞 JKT-1 の分化に関する研究」 代表者：大山　力
・ 東北大学医学部泌尿器科学講座
「前立腺癌の再発因子に関する検討」 代表者：荒井陽一
・ 札幌医科大学泌尿器科学講座
「慢性前立腺癌治療法に関する臨床研究」 代表者：塚本泰司
・ 生化学工業
「前立腺癌のバイオマーカー：C2GnT」 代表者：大山　力
・ 大阪母子医療センター研究所
「前立腺特異抗原の糖鎖に関する研究」 代表者：大山　力
・ 大阪大学医学部生化学講座
「泌尿器癌における GnT-V 発現に関する研究」 代表者：大山　力
・ 滋賀医科大学泌尿器科
「前立腺特異抗原のプロテオミクス研究」 代表者：大山　力
・ 神戸薬科大学
「前立腺癌の尿中プロテオグリカンの研究」 代表者：大山　力

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
・ 大山　　力：萌芽研究；代表（H 18 ～ 20年）120万円
「精子運動能を改善する合成ペプチドの同定とその機序解明」
・ 盛　　和行：基盤（C）；代表（H 20 ～ 23年）80万円
「ナノパーティクル BCG による副作用にない膀注療法の開発」
他研究単位との研究分担者として
・ 大山　　力：基盤（B）；分担20万円（代表：秋田大　羽渕　友則）
「高脂肪食による前立腺癌の進展促進の分子メカニズムの解明」

2009年度

研究代表者として
・ 盛　　和行：基盤（C）；代表（H 20 ～ 23年）100万円
「ナノパーティクルＢＣＧによる副作用にない膀注療法の開発」
・ 古家　琢也：若手研究（B）；代表（H21 ～ 22年）150万円
「女性における膀胱全摘除術後のＱＯＬを向上させる新膀胱造設術の確立と排尿機序の解明」
・ 岡本亜希子：若手研究（B）；代表（H21 ～ 24年）60万円
「前立腺癌の神経周囲浸潤の責任分子の同定」
他研究単位との研究分担者として
・ 大山　　力：基盤（B）；分担（代表：秋田大　羽渕　友則）10万円
「高脂肪食による前立腺癌の進展促進の分子メカニズムの解明」

(2) その他の省庁からの研究費

2008年度

研究代表者として

- 大山　　力：独立法人　科学技術振興機構（CREST・戦略）1150万円
  「糖鎖生合成の動態理解と前立腺癌コントロールへの応用」
  （代表：阪大　木下タロウ）
- 大山　　力：独立法人　科学技術振興機構（CREST・先端）300万円
  「疾患早期診断のための糖鎖自動分析装置開発」
  （代表：北大　西村紳一郎）

2009年度

研究代表者として

- 大山　　力：独立法人　科学技術振興機構（CREST・戦略）900万円
  「糖鎖生合成の動態理解と前立腺癌コントロールへの応用」
  （代表：阪大　木下タロウ）

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2008年度

- 大山　力，今井　篤，米山高弘，山本勇人：
  第103回 AUA ＆サンディエゴ，5月13－21日
- 古家琢也：第103回 AUA，5月15－21日

2009年度

- 大山　力，神村典孝，米山高弘，畠山真吾，工藤茂将：
  第104回 AUA（シカゴ）＆サンディエゴ；4月24日-5月1日
- 大山　力，古家琢也，橋本安弘，岩渕郁哉：
  ASCO（オーランド）；5月28日-6月2日
- 大山　力，畠山真吾：グライコ（サンディエゴ）；11月12-17日
- 古家琢也：UCSF；12月9-13日

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2008年度

- 畠山真吾　The Burnham Institute Cancer Center（米国）
  平成18年9月25日～平成20年9月24日

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2008年度

- Astra Zeneca 泌尿器科セミナー　平成20年5月8日　弘前市
- 第28回青森県泌尿器科研究会　平成20年6月14日　青森市
- 第29回青森県泌尿器科研究会　平成20年11月22日　青森市
- 第13回青森県前立腺癌研究会　平成21年3月14日　青森市

2009年度

- 第30回青森県泌尿器科研究会　平成21年6月13日　青森市
- 第 3 回夜間頻尿セミナー　平成21年9月8日　弘前市
- 第31回青森県泌尿器科研究会　平成21年11月21日　青森市
- 第68回腎懇話会　平成21年11月30日　弘前市
- 青森県排尿障害研究会　平成22年2月26日　青森市
- 第 5 回臨床糖鎖研究会　平成22年3月4日　弘前市
- 第14回青森県前立腺癌研究会　平成22年3月13日　青森市

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2009年度

- 立和田得志（鹿児島大学より）21年4月1日～ 22年3月31日

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

22. 眼科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

50％　研究を分担している教室員はそれぞれに目標を達しつつあるが，研究を担う人材が教室全体として乏しい。

理念：

臨床での問題点に立脚した独創的な研究を世界に発信する。

これから２年間の目標：

2010年 9 月から助教を 1 人米国に派遣して最先端の研究環境で学ばせ帰国後に当講座での研究発展の糧とする。

助教1名留学中の研究人員不足を補えるように現在の研究レベルを維持する。

入局者の増加を図るべく医局説明会を積極的に開催する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　5，助手　0，医員　4，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中澤　　満	1年
	准教授	専　任	鈴木　幸彦	1年
	講　師	専　任	山崎　仁志	1年
	助　教	専　任	宮川　靖博	1年
	助　教	専　任	伊藤　　忠	1年
	助　教	専　任	鈴木　　香	1年
	助　教	専　任	目時　友美	1年
	助　教	専　任	竹内　侯雄	1年
研究課題	1．遺伝性網膜変性疾患の病態と治療法開発 2．緑内障手術の有効性を高める 3．網膜硝子体疾患における硝子体生化学 4．緑内障臨床研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　5，助手　0，医員　4，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中澤　　満	1年
	准教授	専　任	鈴木　幸彦	1年
	講　師	専　任	山崎　仁志	1年
	助　教	専　任	目時　友美	1年
	助　教	専　任	宮川　靖博	1年
	助　教	専　任	伊藤　　忠	1年
	助　教	専　任	鈴木　　香	1年
	助　教	専　任	竹内　侯雄	1年
	医　員	専　任	横井由美子	1年
	医　員	専　任	盛　　泰子	1年
	医　員	専　任	木村　智美	1年
	医　員	専　任	工藤　朝香	1年
研究課題	1．遺伝性網膜変性疾患の病態解明と治療法の開発 2．網膜循環障害の病態と治療法の開発 3．緑内障の病態と治療法の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Takeuchi K, Nakazawa M, Mizukoshi S. Systemic administration of nilvadipine delays photoreceptor degeneration of heterozygous retinal degeneration slow (rds) mouse. Exp Eye Res 86:60-69,2008.
A.2. Nakazawa M, Kurotaki J, Ruike H. Longterm findings in peripapillary crescent formation in eyes with mild or moderate myopia. Acta Ophthalmol, 86:625-629,2008.
A.3. Suzuki K, Suzuki Y, Mizukoshi S, Metoki T. Nakazawa M. Indocyanine green as useful guid for retinal vrin cannm and injection of tissue plasminogen of tissue plasminogen activator in rabbits. Tohoku J Exp Med 214: 351-358,2008.

2009年度

A.1. Yokoi Y, Nakazawa M, Sato K, Mizukoshi S, Takeuchi K. Crystal Deposits on the Lens Capsules in Bietti Crystalline Corneoretinal Dystrophy with a mutation in the *CYP4V2* Gene. Acta Ophthalmol in press. Published Online: Jun 5 2009 6:52AM DOI: 10.1111/j.1755-3768.2009.01529.x
A.2. Takeuchi K, Nakazawa M, Yamazaki H, Miyagawa Y, Ito T, Ishikawa F, Metoki T. Solid hyaluronic acid prevents postoperative fibrous scar formation in experimental animal eyes. Arch Ophthalmol 127(4):460-464 2009.

和文

2008年度

A.1. 盛　泰子，石川　太，山崎仁志，伊藤　忠，竹内侯雄，木村智美，中澤　満．強膜弁無縫合改良非穿孔トラベクレクトミーの手術成績．あたらしい眼科　25:1443-1446,2008.
A.2. 工藤孝志，鈴木幸彦，鈴木　香，山崎仁志，中澤　満：硝子体出血を生じたため硝子体手術を行った加齢黄斑変性の視力転帰．臨床眼科　62:1723-1726,2008.

2009年度

A.1. 木村智美，石川　太，山崎仁志，目時友美，伊藤　忠，竹内侯雄，中澤　満．各種緑内障手術の成績．あたらしい眼科　26(9):1279-1285,2009.
A.2. 鈴木　香，鈴木幸彦，中澤　満．白内障術後に多発性網膜裂孔がみつかった Wagner 病の 1 家系．臨床眼科　63:1673-1676,2009.
A.3. 伊藤　忠，山崎仁志，横井由美子，目時友美，竹内侯雄，木村智美，中澤　満，楠美智己．内境界膜自然剥離を伴った黄斑円孔症例．あたらしい眼科　26(12):1693-1696,2009.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 中澤　満．網膜色素変性の診療．2．遺伝子異常と症状，遺伝相談．眼科　50:789-795,2008.
A.2. 竹内侯雄，中澤　満．セプラフィルムの前眼部手術への応用の可能性．日本眼科学会雑誌（0029-0203）112巻10号 Page895-896（2008.10）

2009年度

A.1. 中澤　満．網膜色素変性診療をめぐる 3 つのギャップ．臨床眼科　63:1051-1055,2009.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2008年度

A.1. Ito T, Nakazawa M, Metoki T, Yamazaki H, Ishikawa F, Takeichi K, Yokoi Y, Ohguro H, Mashima Y. Topical administration of unoprostone provides retinal protection against retinal degeneration of rhodopsin P23H rats by inhibiting apoptosis. ARVO Abstract Summary Book, Eyes on innovation 176:2194-A542,2008.

A.2. Takeuchi K, Nakazawa M, Ishikawa F, Yamazaki H, Miyagawa Y, Metoshi T, Ito T. Application of solid hyaluronic acid（Seprafilm®）to the ophthalmic surgery. ARVO Abstract Summary Book, Eyes on innovation 287:4145-A195,2008.

A.3. Takeuchi K, Nakazawa M, Ishikawa F, Yamazaki H, Miyagawa Y, Metoshi T, Ito T. Application of solid hyaluronic acid（Seprafilm®）to the ophthalmic surgery.（WOC 2008）Clin Exp Ophthalmol 36（suppl. 1）: A270,2008.

A.4. Nakazawa M, Ito T, Metoki T, Yamazaki H, Ishikawa F, Takeichi K, Yokoi Y, Ohguro H, Mashima Y. Topical administration of unoprostone provides retinal protection against retinal degeneration of rhodopsin P23H rats by inhibiting apoptosis.（WOC 2008）Clin Exp Ophthalmol 36（suppl. 1）:A512,2008.

A.5. Suzuki Y, Suzuki K, Yamazaki H, Nakaawa M. Simultaneous detection method of concentration of cytokines in the vitreous with central retinal vein occlusion.（WOC 2008）Clin Exp Ophthalmol 36（suppl. 1）, A579, 2008.

和文

2008年度

A.1. 鈴木　香，鈴木幸彦，中澤　満．片眼性の成熟白内障でみつかった両眼性前部円錐水晶体の家系．眼科手術　21:508-511,2008.

A.2. 加藤朝香，石川　太，目時友美，宮川靖博，伊藤　忠，竹内侯雄，木村智美，中澤　満．Red-eyed shunt syndrome の逆説的悪化と考えられた 1 例．臨床眼科　62:1717-1721,2008.

A.3. 鈴木　香，鈴木幸彦，目時友美，山崎仁志，中村秀世，中澤　満．健常な若年男性に生じた原因不明の黄斑部網膜下滲出性病変．臨床眼科　62:1901-1905,2008.

A.4. 竹内侯雄，中澤　満，水越小百合．Retinal Degeneration Slow（rds）マウスヘテロ接合体の網膜変性に対するニルバジピンの効果．　厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成19年度総括・分担研究報告書，124-127,2008.

A.5. 佐藤孝太，水越小百合，石黒誠一，中澤　満．網膜色素変性モデルマウスの網膜変性過程における神経栄養因子および受容体の発現変動．厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成19年度総括・分担研究報告書，120-123,2008.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Experimental Eye Research	2.651	1	2.651
Acta Ophthalmologica	1.848	1	1.848
Tohoku Journal of Exp Medicine	1.123	1	1.123
Total		3	5.622

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Ophthalmologica	2,441	1	2.441
Archives of Ophthalmology	3.859	1	3.859
Total		2	6.3

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
眼科	1	
あたらしい眼科	1	2
臨床眼科	1	1
計	3	3

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
眼科手術 臨床眼科 厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成19年度総括・分担研究報告書	1 2 2	
計	5	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

B.1. Nakazawa M. Overview of genetics of eye diseases. In “Update of eye genetics research in Asia”. World Ophthalmology Congress 2008（WOC2008), XXXI International Congress of Ophthalmology, Hong Kong, Jun 28, 2008.

B.2. Nakazawa M. Strategy for mapping disease genes. In “Update of molecular technologies and gene mapping approaches for the ophthalmologist”. World Ophthalmology Congress 2008（WOC2008), XXXI International Congress of Ophthalmology, Hong Kong, July 1, 2008.

C.1. Ito T, Nakazawa M, Metoki T, Yamazaki H, Ishikawa F, Takeichi K, Yokoi Y, Ohguro H, Mashima Y. Topical administration of unoprostone provides retinal protection against retinal degeneration of rhodopsin P23H rats by inhibiting apoptosis. Annual Meeting of ARVO, Fort Lauderdale, April 29, 2008.

C.2. Takeuchi K, Nakazawa M, Ishikawa F, Yamazaki H, Miyagawa Y, Metoki T, Ito T. Application of solid hyaluronic acid（Seprafilm®）to the ophthalmic surgery. Annual Meeting of ARVO, Fort Lauderdale, May 1, 2008.

C.3. Takeuchi K, Nakazawa M, Ishikawa F, Yamazaki H, Miyagawa Y, Metoki T, Ito T. Application of solid hyaluronic acid（Seprafilm®) to the ophthalmic surgery. World Ophthalmology Congress 2008 (WOC2008), XXXI International Congress of Ophthalmology, Hong Kong, July 1, 2008.

C.4. Nakazawa M, Ito T, Metoki T, Yamazaki H, Ishikawa F, Takeuchi K, Yokoi Y, Ohguro H, Mashima Y. Topical administration of unoprostone provides retinal protection against retinal degeneration of rhodopsin P23H rats by inhibiting apoptosis. World Ophthalmology Congress 2008（WOC2008), XXXI International Congress of Ophthalmology, Hong Kong, June 30, 2008.

C.5. Suzuki Y, Suzuki K, Yamazaki H, Nakazawa M. Simultaneous detection method of concentrations of cytokines in the vitreous with central retinal vein occlusion World Ophthalmology Congress 2008, Hong Kong, June 28-July 2, 2008.

2009年度

C.1. Takeuchi K, Nakazawa M, Ebina Y, Sato K, Metoki T. Inhibitory effects of trehalose on fibroblast proliferation and implications for ocular surgery. ARVO annual meeting, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A. May, 2. 2009.

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 中澤　満．網膜疾患か視神経疾患か．教育セミナー．第 44 回北日本眼科学会．盛岡市　2008.7.13

B.2. 鈴木幸彦．シンポジウム　静脈閉塞への治療．第 46 回北日本眼科学会，岩手県，盛岡市民文化ホール，2008.7.12-13

C.1. 鈴木　香，鈴木幸彦，加藤朝香，横井由美子，宮川靖博，山崎仁志，菊地泰弘，佐藤孝太，中澤　満．末端肥大症により重症化した増殖糖尿病網膜症．第 62 回日本臨床眼科学会．東京国際フォーラム　東京 2008.10.24

C.2. 横井由美子，中澤　満，水越小百合，佐藤孝太，臼井知聡，竹内侯雄．CYP4V2 遺伝子変異クリスタリン網膜症における水晶体嚢クリスタリン沈着．第 62 回日本臨床眼科学会．東京国際フォーラム　東京 2008.10.24

C.3. 竹内侯雄，目時友美，山崎仁志，宮川靖博，伊藤　忠，横井由美子，加藤朝香，中澤　満．Light CyclerTM を用いたヘルペス群ウイルスゲノム迅速診断．第 62 回日本臨床眼科学会．東京国際フォーラム

東京　2008.10.26

C.4. 伊藤　忠，中澤　満，目時友美，山崎仁志，石川　太，竹内侯雄、横井由美子、大黒　浩、石黒誠一、真島行彦．イソプロピルウノプロストン点眼液の網膜保護効果の検討．DNA チップ研究会．第 62 回日本臨床眼科学会．東京国際フォーラム　東京　2008.10.23

C.5. 横井由美子，鈴木幸彦，宮川靖博，山崎仁志，鈴木　香，工藤孝志，中澤　満．人工角膜を用いた硝子体手術・角膜移植術を施行した 2 例．第 46 回北日本眼科学会，岩手県，盛岡市民文化ホール，2008.7.12-13

C.6. 鈴木　香，鈴木幸彦，宮川靖博，盛　泰子，加藤　朝香，中澤　満．駆逐性出血に対する待機硝子体手術を行い視機能温存できた 1 例．第 47 回日本網膜硝子体学会総会，京都，国立京都国際会館，2008.11.28-30.

C.7. 加藤朝香，鈴木幸彦，盛　泰子，鈴木　香，宮川靖博，目時友美，中澤　満．両眼に高度な滲出性網膜剥離を呈した小児の原田病の 1 症例．第 47 回日本網膜硝子体学会総会，京都，国立京都国際会館，2008.11.28-30.

C.8. 鈴木幸彦，鈴木　香，山崎仁志，中澤　満．網膜中心静脈閉塞症の硝子体液中のサイトカイン濃度の網羅的解析．第 112 回日本眼科学会総会，横浜，パシフィコ横浜，2008.4.17-20.

C.9. 宮川靖博, 中澤　満, 工藤孝志. 眼球摘出に至った表皮母斑症候群の 1 例. 第 112 回日本眼科学会総会, 横浜，パシフィコ横浜，2008,4.17-20.

C.10. 竹内侯雄，石川　太，山崎仁志，宮川靖博，目時友美，伊藤　忠，中澤　満，セプラフィルム ® の眼科手術への応用について．第 112 回日本眼科学会総会　平成 20年4月17日―4月20日　パシフィコ横浜　横浜市

C.11. 竹内侯雄，石川　太，山崎仁志，宮川靖博，目時友美，伊藤　忠，中澤　満．セプラフィルム ® の斜視手術への応用について．第 64 回日本弱視斜視学会総会・第 33 回日本小児眼科学会総会 合同学会．2008年7月4日(金)～5日(土)　品川プリンスホテル アネックスタワー

C.12. 盛　泰子　佐藤章子．放射線治療が奏効した白血病による浸潤性視神経症の 1 例．第 62 回日本臨床眼科学会，東京，東京国際フォーラム，2008.10.23-26

C.13. 木村智美，石川　太，山崎仁志，目時友美，伊藤　忠，竹内侯雄，加藤朝香，中澤　満．各種緑内障手術成績．第 31 回日本眼科手術学会総会，神奈川県　パシフィコ横浜，2008.2.1-3

C　13 件

2009年度

C.1. 中澤　満，水越小百合，佐藤孝太，目時友美，石黒誠一．RCS ラット網膜変性に対するミトコンドリアカルパインの関与とその制御の時間効果．第 113 回日本眼科学会総会，東京国際フォーラム，2009 年 4 月 16 日～ 19 日，東京.

C.2. 竹内侯雄，蝦名祐一，山崎仁志，宮川靖博，伊藤　忠，目時友美，横井由美子，中澤　満．トレハロースによる結膜および皮膚線維芽細胞の抑制効果について．第 113 回日本眼科学会総会, 東京国際フォーラム，2009 年 4 月 16 日～ 19 日，東京 .

C.3. 鈴木　香，鈴木幸彦，横井由美子，宮川靖博，目時友美，山崎仁志，中澤　満．真菌性眼窩先端症候群との鑑別に苦慮した慢性関節リウマチの 1 症例．第 113 回日本眼科学会総会，東京国際フォーラム，2009 年 4 月 16 日～ 19 日，東京.

C.4. 佐藤孝太，石黒誠一，山崎仁志，中澤　満．RPE65 ノックアウトマウスにおける錐体オプシンおよびロドプシンの発現と局在．第 113 回日本眼科学会総会，東京国際フォーラム，2009 年 4 月 16 日～ 19 日，東京.

C.5. 鈴木幸彦, 鈴木　香, 山崎仁志, 中澤　満．網膜剥離および増殖硝子体網膜症の硝子体液中のサイトカイン・ケモカイン濃度の解析．第 113 回日本眼科学会総会, 東京国際フォーラム, 2009 年 4 月 16 日～ 19 日, 東京.

C.6. 中澤　満，大黒　浩，山崎仁志，目時友美，伊藤　忠，竹内侯雄，横井由美子．ニルバジピンの網膜色素変性に対する進行遅延効果．第 68 回日本臨床眼科学会総会，福岡国際会議場，2009 年 10 月 9 日～ 12 日，福岡.

C.7. 竹内侯雄，伊藤　忠，木村智美，横井由美子，鈴木幸彦，中澤　満．FTA technology を用いた真菌の同定．第 68 回日本臨床眼科学会総会，福岡国際会議場，2009 年 10 月 9 日～ 12 日，福岡.

C.8. 目時友美，山崎仁志，加藤朝香，盛　泰子，鈴木　香，中澤　満，田中惠子，高木峰夫．抗アクアポリン 4 抗体陽性視神経髄膜炎症例．第 68 回日本臨床眼科学会総会, 福岡国際会議場, 2009 年 10 月 9 日～ 12 日，福岡.

C.9. 伊藤　忠，鈴木幸彦，山崎仁志，竹内侯雄，横井由美子，木村智美，中澤　満，吉田恒一．硝子体手術による視神経乳頭マッサージを試みた網膜中心動脈閉塞症の 1 症例．第 68 回日本臨床眼科学会総会，福岡国際会議場，2009 年 10 月 9 日～ 12 日，福岡.

C.10. 宮川靖博，山崎仁志，鈴木幸彦，目時友美，鈴木　香，伊藤　忠，横井由美子，木村智美，盛　泰子，中澤　満．タフルプロスト片眼トライアルによる短期眼圧下降効果．第 20 回日本緑内障学会，沖縄コンベンションセンター，2009 年 11 月 13 日～ 15 日，沖縄.

C.11. 山崎仁志，宮川靖博，目時友美，鈴木　香，伊藤　忠，横井由美子，木村智美，盛　泰子，中澤　満．トラボプロスト点眼の角膜上皮障害に対する影響．第 20 回日本緑内障学会，沖縄コンベンションセンター，2009 年 11 月 13 日～ 15 日，沖縄.

C.　11 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2009年度

RCS ラット網膜変性に対するミトコンドリアカルパインの関与とその制御の時間効果.
弘前大学農学生命科学部応用細胞工学講座

RPE65 ノックアウトマウスにおける錐体オプシンおよびロドプシンの発現と局在.
弘前大学農学生命科学部応用細胞工学講座

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
山崎仁志（若手 B）1 件

2009年度

研究代表者として
基盤研究（C）中澤　満（代表）
「網膜色素変性の臨床像におよぼす加齢黄斑変性関連遺伝子多型の影響」（新規）
195 万円
若手研究（B）目時友美
「視細胞変性へのカルパインの関与とその制御」（新規）
221 万円
若手研究（B）伊藤　忠
「イソプロピルウノプロストンの視細胞保護効果に関する研究」（新規）
221 万円

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2009年度

研究代表者として
日本網膜色素変性症協会（JRPS）平成 21 年度研究助成金　　中澤　満
「網膜色素変性での視細胞死に対するカルパインの作用とカルパイン阻害薬による治療の可能性」
100 万円

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

(2) 国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2008年度

2回　青森眼科集談会

2009年度

5回　青森眼科集談会（2回），青森代謝懇話会，弘前大学眼科セミナー，青森眼科手術懇話会

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

23. 耳鼻咽喉科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
2．外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
3．低侵襲な鼓室形成術を開発する。
4．中耳疾患の診断技術を向上させる。
5．アブミ骨の可能性について解析する。
6．内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
7．好酸球性中耳炎の病態解明と治療につながる基礎的・臨床的研究を進める。

1.2. については，原著論文を発表できた。(60%)
3.4.5. については，国内外の学会で成果を発表した。(70%)
7. については,和文論文を発表した。臨床的研究では,他施設の研究者と共同で診断基準案の作成の段階にきており，十分に目標を達成できたものと考えている。基礎研究についても現在進行中であり，今後の展開に期待の持てるところである。(60%)

理念：

患者の QOL の向上に貢献できる臨床研究とエイジングに伴う障害に関する基礎的研究を行う。

これから２年間の目標：

1．内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
2．外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
3．低侵襲な鼓室形成術を開発する。
4．中耳疾患の診断技術を向上させる。
5．アブミ骨の可能性について解析する。
6．内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
7．好酸球性炎症の病態解明と治療につながる基礎的・臨床的研究の促進
8．青森県におけるアレルギーの疫学的研究，花粉症予防学の推進

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　5，助手　0，医員　2，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	新川　秀一	1年間
	准教授	専　任	松原　　篤	1年間
	准教授	専　任	欠畑　誠治	1年間
	助　教	専　任	二井　一則	1年間
	助　教	専　任	南場　淳司	1年間
	助　教	専　任	佐々木　亮	1年間
	助　教	専　任	阿部　尚央	1年間
	助　教	専　任	井上　　卓	1年間
研究課題	1．外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。 2．低侵襲な鼓室形成術を開発する。 3．内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。 4．中耳疾患の診断技術を向上させる。 5．内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。 6．アレルギー性炎症，好酸球性疾患の臨床研究			

研究課題	7．内耳の神経伝達に関する研究 8．難聴の遺伝子解析 9．虚血性内耳障害の研究

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　5，助手　0，医員　2，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	新川　秀一	1年間
	准教授	専　任	松原　　篤	1年間
	准教授	専　任	欠畑　誠治	1年間
	助　教	専　任	南場　淳司	1年間
	助　教	専　任	佐々木　亮	1年間
	助　教	専　任	高畑　淳子	1年間
	助　教	専　任	阿部　尚央	1年間
	助　教	専　任	井上　　卓	1年間
研究課題	1．外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する 2．低侵襲な鼓室形成術を開発する 3．内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る 4．中耳疾患の診断技術を向上させる 5．内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する 6．アレルギーの疫学的研究 7．好酸球性中耳炎の基礎的・臨床的研究 8．一般地域住民を対象とした聴覚障害を引き起こす関連因子の解明 9．急性感音難聴の治療についての検討 10．難聴の遺伝子解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. T.Shirasaki, S.Maruya, H.Mizukami, S.Kakehata, H.Kurotaki, S.Yagihashi, H. Shinkawa. Effects of small interfering RNA targeting thymidylate synthase on survival of ACC3 cell from salivary adenoid cystic carcinoma. BMC Cancer, 2008.11,8:348,1-12.

A.2. S.Kakehata, Y.Hirose, R.Kitani, K.Futai, S.Maruya, K. Ishii, H.Shinkawa. Autologous Serum Eardrops Therapy With Chitin Membrane for Closing Tympanic Membrane Perforations. Otology & Neurotology, 2008.06,Vol.29,No.6:791-795.

B.1. K.Yamauchi, G Tamura, T Akasaka, T. Chiba, K. Honda, M. KIshi, H. Kobayashi, T. Kuromuma, A. Matsubara, et al. Analysis of the comorbidity of bronchial asthma and allergic rhinitis by questinnaire in 10,009 patients, "jointly worked". Allergolory International, 2009.03,58(1),55-61.

2009年度

A.1. Maruya S, Shirasaki T, Nagaki T, Kakehata S, Kurotaki H, Mizukami H, Shinkawa H. Differential expression of topoisomerase IIalpha protein in salivary gland carcinomas: histogenetic and prognostic implications. BMC Cancer, 27;9:72,2009.

B.1. Minekawa A, Abe T, Inoshita A, Iizuka T, Kakehata S, Narui Y, Koike T, Kamiya K, Okamura HO, Shinkawa H, Ikeda K. Cochlear Outer Hair Cells in a Dominant-Negative Connexin26 Mutant Mouse Preserve Non-Linear Capacitance in spite of Impaired Distortion Product Otoacoustic Emission. Neuroscience. 15;164(3):1312-9. 2009.

和文

2008年度

A.1. 籾山淳子，南場淳司，阿部尚央，新川秀一．青森県における新生児聴覚スクリーニングに関するアンケート調査．Audiology Japan, 2008.Vol.51,P624-632.

A.2. 松原　篤，二井一則，白崎　隆，長岐孝彦，池野敬一，谷田次郎，福士栄治，神　　均，鈴木健策，新川秀一．通年性アレルギー性鼻炎に対する抗アレルギー薬の服薬コンプライアンスに関する検討．耳鼻と臨床，2009.01,55巻1号別冊,39-45.

A.3. 白崎　隆,丸屋信一郎,南場淳司,松原　篤,新川秀一．頭頸部癌に対するS-1の有効性の検討．癌と化学療法，2009.02，第36巻第2号，237-240.

C.4. 坂本夏海，佐々木亮，欠畑誠治，二井一則，南場淳司，新川秀一，高橋一平，松坂方士．岩木健康増進プロジェクトにおける聴覚検査の試み．Audiology Japan, 2008,Vol.51 P270-278.

C.5. 佐々木亮，欠畑誠治，黒田令子，飯田健二，新川秀一．慢性中耳炎に対するレボフロキサシンの効果．耳鼻と臨床，2008.05,54巻3号別冊.

C.6. 松原　篤, 新川秀一．好酸球性中耳炎に対する PDE 阻害薬（イブジラスト）の有用性．アレルギーの臨床，2008.06 第28巻6号，472-476．

C.7. 松原　篤, 他．通年性アレルギー性鼻炎に対する抗アレルギー薬の服薬コンプライアンスに関する検討（共著）．耳鼻と臨床，2009.01，第55巻1号，39-45．

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 欠畑誠治，廣瀬由紀，新川秀一．自己血清点耳液を用いた鼓膜穿孔閉鎖術．耳鼻咽喉科・頭頸部外科，2008.11，第80巻第12号別冊.

A.2. 松原　篤．セレスタミンの適応と限界とは？．「Q & A」でわかるアレルギー疾患，2008.06,3巻6号，595-596.

A.3. 松原　篤．北海道・東北エリアの花粉症．ENT/er, 2008.08, 67巻6号，489-495.

A.4. 白崎　隆，松原　篤．咽頭・喉頭の異物． ENTONI, 2008.12, 96巻，49-53.

A.5. 松原　篤．アレルギー性鼻炎における QOL の評価法について教えてください．JOHNS, 2009.03, 25巻3号，359-362.

A.6. 廣瀬由紀，欠畑誠治．鼓膜切開術．耳鼻咽喉科・頭頸部外科，200804，第80巻第5号増刊号.

A.7. 新川秀一．第20回日耳鼻専門医認定試験を終えて．日本耳鼻咽喉科学会専門医通信，2008.11，第97号，2-3.

A.8. 新川秀一．短期滞在型手術におけるリスクマネージメント．JOHNS, 2008, Vol.24,No.8,1127-1131.

A.9. 欠畑誠治，佐々木亮．鼓膜形成術のための臨床解剖．JOHNS, 2008, Vol24NO.3,299-302.

A.10. 欠畑誠治．耳小骨奇形に対する手術．JOHNS, 2009, Vol25No.1,95-100.

A.11. 欠畑誠治，廣瀬由紀．鼓膜切開術のコツ - 安全に行うために -．耳鼻臨床，2008;101:486-487.

2009年度

A.1. 松原　篤．好酸球性中耳炎．MB ENT 101:40-45,2009.

A.2. 松原　篤．好酸球性中耳炎の診断．耳鼻臨床　103(3):288-289,2010.

A.3. 欠畑誠治，二井一則．耳鼻科外来における低侵襲治療㊦－伝音難聴の内視鏡による診断と治療－，日本医事新報　4422:49-52,2009.

A.4. 欠畑誠治．耳の奇形－耳小骨奇形に対する手術－，JOHNS, 25:95-100,2009.

A.5. 欠畑誠治，廣瀬由紀．中耳炎・いつ手術にふみきるか－私の決断－，急性中耳炎，ENTONI 101:1-7,2009.

A.6. 佐々木亮，欠畑誠治．副腎皮質ステロイドとその投与法に関する基礎的事項－ステロイドの全身投与と局所投与－，Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, 25:949-952,2009.

A.7. 欠畑誠治．私が愛用する手術器具 68，内視鏡下耳科手術に用いる器具－内視鏡，カメラ，手術器械－，JOHNS, 25:1197-1199,2009.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 松原　篤．今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針，反復性耳下腺炎．医学書院，2008.06.15

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 松原　篤, 新川秀一．好酸球性中耳炎に対する PDE 阻害薬（イブジラスト）の有用性．アレルギーの臨床，2008.6,28-6,472-475,2008.

A.2. 佐々木亮，欠畑誠治，新川秀一，太田修司．中耳からの炎症波及が疑われた肥厚性硬膜炎例．耳鼻臨床，2008.8,101:8;574-575.

A.3. 欠畑誠治，廣瀬由紀．鼓膜穿孔に対する血清点耳薬を用いた外来治療．日本医事新報，2008.12,No.4417,49-52.

2009年度

A.1. 新川秀一. 第21回日耳鼻専門医認定試験を終えて. 日本耳鼻咽喉科学会専門医通信　第101号(11):2-3,2009.
A.2. 新川秀一. 第23回日耳鼻専門医講習会を終えて. 日本耳鼻咽喉科学会専門医通信　第102号(2):2-3,2010.
A.3. 新川秀一, 南場淳司. これだけは知っておきたい「がんの話」. 喉頭がん　朝日新聞　24面　05.06.2009
A.4. 新川秀一, 南場淳司, これだけは知っておきたい「がんの話」. 舌がん　朝日新聞　21面　12.06.2009
A.5. 新川秀一, 南場淳司, これだけは知っておきたい「がんの話」. 下咽頭癌がん　朝日新聞　28面　19.06.2009

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
BMC Cancer	2.359	1	2.359
Otology & Neurotology	1.339	1	1.339
Allergolory International	0.237	1	0.237
Total		3	3.935

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
BMC Cancer	3.087	1	3.087
Neuroscience	3.556	1	3.556
Total		2	6.643

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
Audiology Japan	2	
耳鼻と臨床	4	
癌と化学療法	1	
アレルギーの臨床	1	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2	
「Q & A」でわかるアレルギー疾患	1	
ENT/er	1	
ENTONI	1	1
日本耳鼻咽喉科学会専門医通信	1	
JOHNS	4	3
MB ENT		1
耳鼻臨床		1
日本医事新報		1
計	18	7

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	1	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
アレルギーの臨床	1	
耳鼻臨床	1	
日本医師新報	1	
日本耳鼻咽喉科学会専門医通信		2
朝日新聞		3
計	3	5

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Kakehata S, Kitani R, Futai K, Koizumi Y, Shinkawa H. Offi ce-based Endoscopic Procedure for Diagnosis of Mobility of Stapes. XXV Barany Society Meeting, kyoto, 2008.4.2

C.2. Kakehata S, Kitani R, Futai K, Koizumi Y, Shinkawa H. Offi ce-based Endoscopic Procedure for diagnosis of stapes mobility using otoscan laser-assisted myringotomy. The 12th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara, 2008.4.3-5

C.3. Kakehata S, Kitani R, Futai K, Koizumi Y, Shinkawa H. Offi ce-based Endoscopic Procedure for diagnosis of stapes mobility using otoscan laser-assisted myringotomy. 8th International Conference on Cholesteatoma & Ear Surgery, Antalya, Turkey, 2008.6.15-20

C.4. Abe T, Kakehata S, Minekawa A, Kitani R, Nagaki T, Inoshita A, Izuka T, Okamura H, Ikeda K, Shinkawa H. Developmental Expression of the Outer Hair Cell Capacitance in a Dominant-Negative Connexin26 Mutant Mouse. 32nd MidWinter Meeting for the Association for Research in Otolaryngology, Baltimore, USA, 2009.2.14-19

2009年度

B.1. Kakehata S. Application of Endoscopic Transtympanic Procedure to Middle Ear Surgery- Conductive Hearing Loss and Congenital Cholesteatoma-, Panel: Endoscopic approach to the middle ear. Middle ear surgery-controversies and update-, Modena, Italy, 2009.9.24-25

B.2. Kakehata S. Preoperative assessment of the retraction pockets with otoendoscopy versus otomicroscopy, Round table discussion: Session Otology, ENT Endoscopy 2009, Grasse, France, 2009.11.27-28

C.1. Shunji Tamagawa, M Hotomi, D S.Billal, R Sugita, Y Kamide, K Kanesada, Y Uno, F Kudo, M Ito, S Kakehata, M Ogami, N Yamanaka.「Serotype distributions and penicillin resistance of Streptococcus pneumoniae isolated from middle ear fluids of pediatric patients with acute otitis media in Japan」Otitis Media 2009, SOUL 2009.5.6-10

C.2. Kakehata S, Shinkawa H,「Autologous serum eardrops therapy with a chitin membrane for closing tympanic membrane perforations」Otitis Media 2009, SOUL, 2009.5.6-10

C.3. Nagaki T, Kakehata S, Kitani R, Abe T, Shinkawa H, [Effects of MβCD Are Mediated Via G Protein Related Pathway] 33rd Midwinter Research Meeting ARO, Anaheim, USA, 2010.2.6-10

C.4. Futai K, Kakehata S, Shinkawa H. Endoscopic Transtympanic Surgery in the Treatment of Conductive Hearing Loss, Congenital Cholesteatoma. And adhesive otitis media, The 27th *Politzer Society Meeting*, London, UK, 2009.9.3-5

C.5. Kakehata S, Kitani R, Futai K, Koizumi Y, Shinkawa H. Office-Based Endoscopic Procedure for Diagnosis of Stapes Mobility using OtoScan Laser-Assisted Myringotomy, The 27th *Politzer Society Meeting*, London, UK, 2009.9.3-5

C.6. Nagaki T, Kakehata S, Murakoshi M, Wada H, Maruya S, Abe T, Shinkawa H: The Direct Effects of Cholesterol and Mβcd On Outer Hair Cell Motility and Capacitance. 33rd MidWinter Meeting of Association for Research in Otolaryngology, Los Angeles, USA, 2010.2

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 松原　篤．好酸球性中耳炎の病態と治療 - 診断基準の提案 -．第18回日本耳科学会学術講演会，神戸，2008.1016-18

C.　38件

2009年度

B.1. 佐々木亮．加齢性難聴と動脈硬化の関連－岩木健康プロジェクトにおける大規模調査による検討－第9回日本抗加齢医学会総会，東京都，2009年5月28日

B.2. 松原　篤．好酸球性中耳炎，第59回日本アレルギー学会秋季学術，講演，ワークショップ，秋田市2009年

B.3. 欠畑誠治．実技講習会，外来手術シリーズ（耳の小手術1，2）．第23回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会，仙台，2009.11

C.　38件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

若手研究（B）新しいドラッグデリバリーシステムを用いた内耳再生医療へのアプローチ
二井一則，1,600千円

2009年度

研究代表者として

若手研究（B），GJB2遺伝子変異保因率に関する大規模研究
南場淳司，1,400（千円）

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

研究代表者として

日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）
In vivo patch 法による prestin 導入再生内耳の直接的機能解析
欠畑誠治，3,800千円
日本学術振興会科学研究費補助金（萌芽研究）
Lipid raft は OHC 情報伝達を調節する
－運動能における脂質の機能解明－
欠畑誠治，1,200千円
日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））
大規模調査による聴力障害と全身性基礎疾患の関連の解明
佐々木亮，1,350千円
日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））
マウス外有毛細胞 prestin 発現様式特異性の多角的検討
阿部尚央，1,350千円

他研究単位との研究分担者として

日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）
遺伝子改変マウスを用いた遺伝子難聴の治療開発の挑戦
代表者　順天堂大学　池田　勝久
欠畑誠治，200千円

2009年度

研究代表者として

基盤研究（C），好酸球性中耳炎の病態解明と治療戦略確立の新しい展開，
松原篤，1,500（千円）
挑戦的萌芽研究，Prestin 翻訳後修飾機構の解明－ OHC 運動能自己修復による内耳再生への挑戦－，
欠畑誠治，1,600（千円）

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（感覚器障害分野）），
内耳薬物投与システムを応用した感音難聴，耳鳴り治療技術の臨床応用，
代表者　中川隆之，分担者　欠畑誠治，950（千円）

基盤研究（B），遺伝子改変マウスを用いた遺伝子難聴の治療開発の挑戦，
代表者　池田　勝久，分担者　欠畑誠治，200（千円）

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2009年度

研究代表者として

内視鏡医学研究振興財団，内視鏡下経鼓膜的アプローチ法による聴覚機能診断法の開発，欠畑誠治，500（千円）

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

2009年度

1．新川秀一，第23回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会，仙台市

ｂ）地方レベルの学会の主催

2008年度

新川秀一，日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会，弘前市・青森市・八戸市
新川秀一，第23回北奥羽三県地方部会合同学術講演会 （弘前市）

2009年度

1. 新川秀一，日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会，弘前市・青森市・八戸市
2. 新川秀一，第15回北日本頭頸部癌治療研究会，仙台市
3. 新川秀一，Current topics in hearing，弘前市

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

24. 放射線科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

医療，放射線医学，画像診断学，胸部画像診断学に有用な研究に有用と思われる新しい知見の収集，結果の発表に近づきつつあると信じる。

理念：

医療，放射線医学，画像診断学，胸部画像診断学に有用な研究を行う。

これから２年間の目標：

診療，教育，研究と大学に籍を置く医療人に課せられた３本の柱をクリアしながら，研究面に関しては，自己のデータからの論文作成，学会発表を行うと供に，後進の指導にもあたる事を目標とする。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　2，講師　2，助教　3，助手　0，医員　1，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	阿部　由直	H20.04.01-H21.02.09
	准教授	専　任	小野　修一	H20.04.01-H21.03.31
	准教授	専　任	青木　昌彦	H20.04.01-H21.03.31
	講　師	専　任	三浦　弘行	H20.04.01-H21.03.31
	講　師	専　任	長畑　守雄	H20.04.01-H21.03.31
	助　教	専　任	場崎　　潔	H20.04.01-H21.03.31
	助　教	専　任	畑山　佳臣	H20.04.01-H21.03.31
	助　教	専　任	対馬　史泰	H20.04.01-H21.03.31
研究課題	1）放射線治療抵抗性癌に対する基礎的臨床的研究 2）放射線治療の先行予測に関する研究 3）放射線による正常組織障害の克服 4）病理を含めた画像診断の研究と臨床的意義 5）新しい診断技術の開発 6）三次元から四次元に至る診断法の研究と臨床的意義 7）インターベンション治療の最適化 8）再生医学を応用した放射線生物学 9）放射線による正常組織障害の分子生物学的解明 10）癌放射線治療の基礎的研究			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　2，講師　2，助教　2，助手　0，医員　4，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	准教授		小野　修一	
	准教授		青木　昌彦	
	講　師		三浦　弘行	
	講　師		長畑　守雄	
	助　教		澁谷　剛一	
	助　教		畑山　佳臣	
研究課題	1．放射線診断学 2．核医学 3．ポジトロン核医学 4．神経放射線診断学 5．脳血管内治療			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Nagahata M, Abe Y, Ono S, Miura H, Ohata T, Tsushima F, Morimoto K, Seino H, Kakehata S, Basaki K. Bolus injection of contrast gents with various iodine concentrations and delivery rates for intracranial three-dimensional CT angiography: evaluation of intracranial arteriovenous contrast using a multidetector-row CT scanner. Radiation Medicine 2008;26:494-498.

B.1. Chida M, Ono S, Hoshikawa Y, Kondo T. Subclinical idiopathic pulmonary fibrosis is also a risk factor of postoperative acute respiratory distress syndrome following thoracic surgery. Eur J Cardiothorac Surg 34: 878-881,2008.

B.2. Minoru Isomura, Natsuo Oya, Seiji Tachiiri, Yuko Kaneyasu, Yasumasa Nishimura, Tetsuo Akimoto, Masato Hareyama, Tadasi Sugita, Norio Mitsuhashi, Takashi Yamashita, Masahiko Aoki, Heitetsu Sai, Yutaka Hirokawa, Koh-ichi Sakata, Kumiko Karasawa, Akihiro Tomida, Takashi Tsuruo, Yoshio Miki, Tetsuo Noda and Masahiro Hiraoka. IL12RB2 and ABCA1 Genes Are Associated with Susceptibility to Radiation Dermatitis. Clin Cancer Res 2008;14(20):6683-9.

2009年度

A.1. Morimoto K, Nagahata M, Ono S, Miura H, Tsushima F, Seino H, Kakehata S, Basaki K, Uno S.: Incidence of unilateral distal vertebral artery aplasia: evaluation by combining basiparallel anatomic scanning-magnetic resonance imaging (BPAS-MRI) and magnetic resonance angiography. Jpn J Radiol 27;151-155,2009.

A.2. Nagahata M, Ono S, Abe Y, Miura H, Basaki K, Tsushima F, Morimoto K, Shimamura N, Ohkuma H. Dilated outer diameter of the dissected artery: a case of acute anterior cerebral artery dissection evaluated by magnetic resonance cisternography. Interventional Neuroradiology 2009;15:S156.

A.3. Morimoto K, Nagahata M, Ono S, Miura H, Tsushima F, Seino H, Basaki K, Abe y. Do you know the incidence of "non-union" vertebral arteries?: aplasia of the unilateral distal vertebral artery evaluated by the combination of magnetic resonance angiography and basi-parallel anatomic scanning magnetic resonance imaging in asymptomatic population. Interventional Neuroradiology 2009;15:S247.

B.1. Hisateru Ohba, Masakazu Narumi, Yoichiro Hosokawa, Masahiko Aoki. Measuring the inequalities in radiotherapy health resources in Japan: comparison of the Hokkaido-Tohoku and Tokyo districts. Jpn J Radiol 2010;28:20-26.

和文

2008年度

A.1. 対馬史泰，小野修一，清野浩子，森本公平，大畑　崇，長畑守雄，三浦弘行，阿部由直，対馬敬夫，鎌田義正．肺癌胸膜播種の CT 診断 - 原発巣所見との対比 -　弘前医学　59:104-109,2008.

A.2. 長畑守雄，対馬史泰，森本公平，小野修一，三浦弘行，大畑崇，清野浩子，場崎　潔，阿部由直．四肢・体幹部動脈性出血に対する NBCA 塞栓術の有用性．臨床放射線 2008;53:1231-1237.

B.1. 佐藤多智雄，窪田和雄，小野修一，福田　寛：123I-BMIPP の経口投与による胸管シンチグラフィの正常所見の検討　核医学技術　29(2):183-189,2009.

2009年度

B.1. 佐藤多智雄，窪田和雄，小野修一，福田　寛．123I-BMIPP の経口投与による胸管シンチグラフィの正常所見の検討．核医学技術　29(2):183-189,2009.

B.2. 畑山佳臣，青木昌彦，川口英夫，阿部由直．表層進展型肺扁平上皮癌の放射線治療成績．臨床放射線 2009;54:744-8.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 小野修一．Pick-Up Knowledge from Foreign Journals；肺野小結節影の画像診断　画像診断　28(9):960-961,2008.

A.2. 小野修一，阿部由直：COPD の画像診断　画像診断　28(13):1492-1501,2008.

A.3. 小野修一．Pick-Up Knowledge from Foreign Journals；間質性肺炎・肺線維症の画像診断　画像診断　29(2):216-218,2009.

A.4. 対馬史泰，小野修一，阿部由直．気胸・縦隔気腫　「特集　胸部 X 線でここまで読める！」 レジデントノート　11(3):369-378,2009.

2009年度

A.1. 小野修一，阿部由直．比較的稀な肺疾患の画像診断　症例1; 肺蛋白症　日本胸部臨床　68(5):448-451, 2009.

A.2. 小野修一，阿部由直．比較的稀な肺疾患の画像診断　症例2; 肺リンパ脈管筋腫症　日本胸部臨床　68(5): 452-455,2009.

A.3. 対馬史泰，小野修一，阿部由直．気胸・縦隔気腫 「特集　胸部X線でここまで読める！」 レジデントノート　11(3):369-378,2009.

A.4. 小野修一．Pick-Up Knowledge from Foreign Journals；肺の加齢変化の画像診断　画像診断　29(9):1074-1076,2009.

A.5. 青木昌彦，畑山佳臣，川口英夫，掛端伸也，清野浩子，森本公平，渋谷剛一，長畑守雄，三浦弘行，小野修一．頭頚部　特集；PET/CTと治療計画　臨床放射線　54(13):1731-1739,2009.

A.6. 小野修一，三浦弘行，長畑守雄，澁谷剛一，森本公平，清野浩子，掛端伸也，青木昌彦．Dual Energy CTによる肺血栓塞栓症の画像診断　映像情報メディカル　42(1):57-61,2010.

A.7. 小野修一．Pick-Up Knowledge from Foreign Journals；胸部のDual-Energy CT　画像診断　30(2):218-219, 2010.

A.8. 青木昌彦，畑山佳臣，川口英夫，掛端伸也，清野浩子，森本公平，渋谷剛一，長畑守雄，三浦弘行，小野修一．特集　PET/CTと治療計画　頭頚部　臨床放射線　2009;54(13):1731-1739.

A.9. 長畑守雄，阿部由直，小野修一，三浦弘行．（救急画像診断：見逃してはならないポイント集）脳内出血．臨床画像 増刊号　2009;25:14-22.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 青木昌彦．卵巣癌，日本放射線科専門医会・医会，日本放射線腫瘍学会，(社)日本医学放射線学会編，放射線治療計画ガイドライン2008，p239-42，メディカル教育研究社，東京，2008．

A2. 青木昌彦．緩和的放射線療法の考え方，坂田優編，胃がん診療と化学療法　オンコロジストはこう治療している，p.78-80，ヴァンメディカル，東京，2008．

2009年度

A.1. 小野修一．婦人科骨盤MRI　I. 症候編　10. 産科・婦人科系の症候（責任編集：水沼英樹）　金澤一郎・永井良三・総編集　今日の診断指針 第6版　医学書院　東京　pp461-468, 2010.03.15.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Radiation Medicine	0	1	0
Eur J Cardiothorac Surg	2.011	1	2.011
Clin Cancer Res	6.25	1	6.25
Total		3	8.261

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Jpn J Radiol	0	1	0
Total		1	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
弘前医学	1	
臨床放射線	1	2
核医学技術	1	1
画像診断	3	2
レジデントノート	1	1
日本胸部臨床		2
映像情報メディカル		2
計	7	10

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	1

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2009年度

A.1. Nagahata M, Ono S, Abe Y, Miura H, Basaki K, Tsushima F, Morimoto K, Shimamura N, Ohkuma H. Dilated outer diameter of the dissected artery: a case of acute anterior cerebral artery dissection evaluated by MR cisternography. 10th congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN), Montreal, Canada, July, 2009.

A.2. Morimoto K, Nagahata M, Ono S, Miura H, Tsushima F, Seino H, Basaki K, Abe Y. Do you know the incidence of "non-union" vertebral arteries?: aplasia of the unilateral distal vertebral artery evaluated by the combination of MRA and basi-parallel anatomic scanning MRI in asymptomatic population. 10th congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN), Montreal, Canada, July, 2009.

C.1. Ono S, Miura H, Nagahata M, Shibutani K, Morimoto K, Seino H, Kakehata S: Lung perfused blood volume images by the dual energy CT for evaluation of lung perfusion in lung cancer. 22nd ECR European Congress of Radiology, The Annual Meeting of the European Society of Radiology (March 4-8, 2010. Vienna, Austria)

C.2. Morimoto K, Nagahata M, Ono S, Miura H, Tsushima F, Seino H, Basaki K., Abe Y: Do you Know the incidence of "non-union" vertebral arteries? Aplasia of the unilateral distal vertebral artery evaluated by the combination of magnetic resonance angiography and basi-parallel anatomic scanning magnetic resonance imaging in asymptomatic population. 10th congress WFITN (June 2009, Montreal, Canada)

C.3. Nagahata M, Ono S, Abe Y, Miura H, Basaki K, Tsushima F, Morimoto K, Shimamura N, Ohkuma H: Dilated outer diameter of the dissected artery: a case of acute anterior cerebral artery dissection evaluated by magnetic resonance cisternography. 10th congress WFITN (June 2009, Montreal, Canada)

（2）全国学術集会

2008年度

A.1. 小野修一．デリバリー FDG 使用による PET 検査の臨床診断　第44回日本医学放射線学会秋季臨床大会　ランチョンセミナー２　郡山　平成20年10月22日

A.2. 小野修一．胸部領域における造影 CT 法の解析　第44回日本医学放射線学会秋季臨床大会　ランチョンセミナー７　郡山　平成20年10月22日

C.　13件

2009年度

A.1. 長畑守雄，対馬史泰，森本公平，小野修一，三浦弘行，場崎 潔，清野浩子，阿部由直．四肢体幹部 NBCA 塞栓術の安全性と有用性．第68回日本医学放射線学会総会，2009年4月　横浜

A.2. 長畑守雄，森本公平，対馬史泰，掛端伸也，渋谷剛一，清野浩子，小野修一，嶋村則人，奈良岡征都．直線的管腔モデル内における各種離脱式コイルの挙動．第25回日本脳神経血管内治療学会総会，2009年11月，富山

B.1. 青木昌彦．PET/CT と治療計画・頭頚部，第68回日本医学放射線学会総会，横浜，2009.

Ⅲ．学術賞

2009年度

第68回日本医学放射線学会総会，Silver medal

青木昌彦，畑山佳臣，川口英夫，阿部由直

肺腫瘍に対する体幹部定位照射：中等度の線量を用いた線量増加試験

1．Best posters / 10th congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology（WFITN）: Nagahata M, Ono S, Abe Y, Miura H, Basaki K, Tsushima F, Morimoto K, Shimamura N, Ohkuma H. Dilated outer diameter of the dissected artery: a case of acute anterior cerebral artery dissection evaluated by MR cisternography.

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

他研究単位との研究分担者として

青木昌彦：平成20年度科学研究費補助金　基盤研究（A）（1）山田班『早期の癌に対する標準的放射線治療方法確立のための臨床試験』 研究代表者：山田章吾　配分額：11310（千円）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として

研究助成名称：エーザイ2008年度奨学寄付金による研究，研究種目：放射線医学，研究課題：thin-slice CT の多断面再構成画像による肺野病変の観察，研究代表者名：小野修一，配分額：1000千円

2009年度

研究代表者として

助成名称：エーザイ2009年度奨学寄付金，研究種目：放射線科学，研究課題：Dual-source CT の Dual Energy scan を用いた肺血流の検討，研究代表者名：小野修一，配分額：1000（千円）

（株）日本メジフィジクス　研究寄付金，頚動脈ステント留置術　術前脳血流 SPECT の研究，研究代表者：長畑守雄，配分額（300千円）

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2008年度

渡会二郎，第12回北奥羽放射線治療懇話会，八幡平市

2009年度

日本医学放射線学会第120回北日本地方会
日本核医学会第65回北日本地方会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

25. 産科婦人科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

地方大学の特色を活かし，活気あふれる教室を形成，運営することができた。

理念：

青森県の産婦人科医療の向上に向けて努力する。

これから２年間の目標：

弘前大学産科婦人科所属の医師数を増やすよう尽力する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	水沼　英樹	平成20年4月～平成21年3月
	准教授	専　任	藤井　俊策	平成20年4月～平成21年3月
	講　師	専　任	樋口　　毅	平成20年4月～平成21年3月
	講　師	専　任	横山　良仁	平成20年4月～平成21年3月
	助　教	専　任	福井　淳史	平成20年4月～平成21年3月
	助　教	専　任	二神　真行	平成20年4月～平成21年3月
	助　教	専　任	山本　善光	平成20年4月～平成21年3月
	助　教	専　任	木村　秀崇	平成20年4月～平成21年3月
研究課題	1．妊娠の成立と維持に関わる免疫機構の研究 2．血球系幹細胞を用いた前胞状卵胞の体外成熟の研究 3．婦人科悪性腫瘍の発癌機構の解明とその治療法に関する研究 4．妊娠高血圧症候群の原因の解明と予知法の開発に関する研究 5．多胎妊娠の予防法に関する研究 6．早産の治療法に関する研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　2，医員　0，大学院学生　5，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	水沼　英樹	平成21年4月～平成22年3月
	准教授	専　任	藤井　俊策	平成21年4月～平成22年3月
	講　師	専　任	樋口　　毅	平成21年4月～平成22年3月
	講　師	専　任	横山　良仁	平成21年4月～平成22年3月
	助　教	専　任	福井　淳史	平成21年4月～平成22年3月
	助　教	専　任	二神　真行	平成21年4月～平成22年3月
	助　教	専　任	山本　善光	平成21年4月～平成22年3月
	助　教	専　任	木村　秀崇	平成21年4月～平成22年3月
研究課題	1．妊娠の成立と維持に関わる免疫機構の研究 2．血球系幹細胞を用いた前胞状卵胞の体外成熟の研究 3．婦人科悪性腫瘍の発癌機構の解明とその治療法に関する研究 4．妊娠高血圧症候群の原因の解明と予知法の開発に関する研究 5．多胎妊娠の予防法に関する研究 6．早産の治療法に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Yokoyama Y, Takano T, Nakahara K, Shoji T, Sato H, Yamada H, Yaegashi N, Okamura K, Kurachi H, Sugiyama T, Tanaka T, Sato A, Tase T, Mizunuma H. A phase Ⅱ multicenter trial of concurrent chemoradiotherapy with weekly nedaplatin in advanced uterine cervidal carcinoma:Tohoku Gynecologic Cancer Unit Study, ONCOLOGY REPORTS, 2008;19:1551-1556.

A.2. Yokoyama Y, Xin B, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H. Clofibric Acid, a Peroxisome Proliferator-activated Receptor Alpha Ligand, Enhances a Suppressive Effect of Cis-diaminedichloroplatinum on Proliferation of Ovarian Carcinoma Cells, Clinical Medicine:Oncology, 2007;1:1-6.

A.3. Fukui A, Kwak-Kim J, Ntrivalas E, Gilman-Sachs A, Lee SK, Beaman K. Intracellular cytokine expression of peripheral blood natural killer cell subsets in women with recurrent spontaneous abortions and implantation failures, Fertility and Sterility, 2008;89:157-165.

A.4. Yuzawa E, Imaizumi T, Matsumiya T, Yoshida H, Fukuhara R, Kimura H, Fukui A, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K, Fujii S, Mizunuma H, Satoh K. Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon-γ and regulates CXCL11 expression in HeLa cells, Life Sciences, 2008;82:670-675.

A.5. Matsukura D, Yokoyama Y, Tanaka K, Ozaki T, Mizunuma H. CHANGES OF PROTEOGLYCAN EXPRESSION AND GLYCOSAMINOGLYCAN CONSTITUENTS IN THE INTERVILLOUS SPACE OF THE PREGNANCY-INDUCED HYPERTENSION PLACENTA, Hirosaki Medical Journal, 2008;59:128-135.

A.6. Fukuhara R, Fujii S, Nakamura R, Yuzawa E, Kimura H, Fukui A, Mizunuma H. Erythrocytes counteract the negative effects of female ageing on mouse preimplantation embryo development and blastocyst formation, Human Reproduction, 2008;23:2080-2085.

A.7. Fujii S. Biomarkers for embryo quality, J Mamm Ova Res, 2008;25.

2009年度

A.1. Fukuyama A, Yokoyama Y, Wada J, Hashimoto T, Oda T, Sato S, Mizunuma H. Two cases of ovarian cancer at an early stage incidentally detedcted using transvaginal ultrasonography in screening:Importance of interval for ovarian cancer screening and selection of population with a high risk of ovarian cancer, Eur.J.Gynaec. Oncol. 2009;30:208-210.

A.2. Kimura H, Fukui A, Fujii S, Yamagichi E, Kasai G, Mizunuma H, Timed Sexual Intercourse Facilitates the Recruitment of Uterine CD56^{bright} Natural Killer Cells in Women with Infertility, American Journal of Reproductive Immunology, 2009;62:118-124.

A.3. Fukui A, Ntrivalas E, Fukuhara R, Fujii S, Mizunuma H, Gilman-Sachs A, Beaman K, Kwak-Kim J, Correlation Between Natural Cytotoxicity Receptor and Intracellular Cytokine Expression of Peripheral Blood NK Cells in Woman with Recurrent Pregnancy Losses and Implantation Failures, American Journal of Reproductive Immunology, 2009;62:371-380.

B.1. Fujimoto T, Nanjyo H, Fukuda J, Nakamura A, Mizunuma H, Yaegashi N, Sugiyama T, Kurachi H, Sato A, Tanaka T, Endometrioid uterine Cancer:Histopathological risk factors of local and distant recurrence, Gynecologic Oncology, 2009;112:342-347.

B.2. Shigeto T, Yokoyama Y, Wakui M, Mizunuma H, Endostatin inhibits xenografted human ovarian cancer growth, Cancer Therapy, 2009;7:341-346.

B.3. Funahashi M, Nakamura T, Kakizaki I, Mizunuma H, Endo M, Stimulation of small Proteoglycan Synthesis by the Hyaluronan Synthesis Inhibitor 4-Methylumbelliferone in Human Skin Fibroblasts, Connective Tissue Research, 2009;50:194-202.

B.4. Hagino H, Nishizawa Y, Sono T, Morii H, Taketani Y, Nakamura T, Itabashi A, Mizunuma H, Ohashi Y, Shiraki M, Minamide T, Matsumoto T. A double-blinded head-to-head trial of minodronate and alendronate in woman with postmenopausal osteoporosis, Bone, 2009;44:1078-1084.

和文

2008年度

A.1. 二神真行，横山良仁，樋口　毅，水沼英樹，佐藤重美．青森県における子宮がん検診の現状－特に30歳未満の若年者について－，日本臨床細胞学会東北支部連合会会報，2008;10-14.

A.2. 水沼英樹．理事長2期目を迎えて，日本更年期医学会雑誌，2008;16:8.

A.3. 水沼英樹．HRTガイドライン作成に向けて「ガイドライン作成の経過と概要」，日本更年期医学会雑誌，2008;16:172-174.

A.4. 樋口　毅，水沼英樹．骨粗鬆症における長期の服薬コンプライアンスを維持するために，Osteoporosis Japan，2008;16:413.

A.5. 樋口　毅，柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，水沼英樹．服用時間を変えたりリセドロネート投与の骨密度，骨代謝への影響についての検討，Osteoporosis Japan，2008;16:470-472.

A.6. 柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，樋口　毅，水沼英樹，中路重之，一般女性における脂質系と音響的骨評価値の相関に関する検討，Osteoporosis Japan，2008;16:432-435.

A.7. 横山良仁，上皮性卵巣癌の進展に対する血管新生因子の関与：抗血管新生療法をめざして，日本産科婦人科学会東北連合地方部会誌，2008;18-24.

A.8. 水沼英樹，更年期のトピックス，日本産科婦人科学会雑誌，2008;60:1599-1604.

A.9. 福山麻美，山本善光，二神真行，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹，葛西剛一郎．最近の帝王切開後経膣分娩（VBAC）の動向と当科における現状，青森県臨床産婦人科医会誌，2008;23:1-6.

A.10. 齋藤美貴，橋本吏可子，前田由子，藤井俊策．当院における過去5年間の子宮外妊娠症例の検討，青森県臨床産婦人科医会誌，2008;23:7-12.

A.11. 二神真行，横山良仁，松木もえ，重藤龍比古，水沼英樹．婦人科腫瘍における PET/CT 検査の臨床的意義，日本婦人科腫瘍学会雑誌，2008;26:472-480.

A.12. 五十嵐世津子，藤井俊策，木村秀崇，水沼英樹．生殖医療を受けている女性の不安，母性衛生，2008;49:84-90.

A.13. 渡邉誠二，水沼英樹，藤井俊策，福井淳史，木村秀崇，福原理恵，中村理果，山田健市．強拡大下で観察される精子頭部空胞様構造と染色体異常の関連性，J.Mamm.Ova Res，2008;25:240-245.

A.14. 福山麻美，田中幹二，山本善光，二神真行，尾崎浩士，水沼英樹．妊娠中の子宮筋腫核手術は決して禁忌ではない，青森臨産婦誌，2008;23:83-89.

2009年度

A.1. 横山良仁．血管新生阻害を標的とする進行卵巣癌の新規治療法の開発，弘前医学，2009;60:102-104.

A.2. 藤井俊策，福原恵里，福井淳史，Huhner テスト・Miller-Kurzrok テストの適応，方法，臨床的意義について教えてください（特に判定基準について詳しく教えてください）．臨床婦人科産科，2009;63:426-429,4.

A.3. 藤井俊策，福原恵里，福井淳史，抗精子抗体の検出にはどの検査法が優れているのでしょうか．女性側と男性側に分けて，わかりやすく教えてください，臨床婦人科産科，2009;63:431-433,4.

A.4. 藤井俊策，福原恵里，福井淳史；抗精子抗体が陽性の場合は自然妊娠しないのでしょうか．また，陽性の場合は，全体，体外受精に進むべきか教えてください，臨床婦人科産科，2009;63:435-437,4.

A.5. 福井淳史，藤井俊策，水沼英樹．現時点で最適と考えられる調節卵巣刺激法について教えてください．臨床婦人科産科，2009;63:552-554,4.

A.6. 福井淳史，藤井俊策，水沼英樹．ゴナドトロピン反応不良例への調節卵巣刺激法について教えてください．臨床婦人科産科，2009; 63:555-557,4.

A.7. 福井淳史，藤井俊策，水沼英樹．GnRH アンタゴニストを用いた調節卵巣刺激の実際と長所および短所について教えてください．臨床婦人科産科，2009;63:558-560,4.

A.8. 田中幹二，福山麻美，山本善光，尾崎浩士，水沼英樹．分娩時出血の初期対応（止める，入れる，送る）について，青森県臨床産婦人科医会誌，2009;23:8-15,2.

A.9. 樋口　毅，柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，水沼英樹．ホルモン補充療法，加味逍遙散投与の更年期障害に対する効果の比較，産婦人科漢方研究のあゆみ，2009;26:18-23.

A.10. 福井淳史，中村理果，山田健市，福原理恵，木村秀崇，藤井俊策，水沼英樹．着床不全症例における NK 細胞上 Natural Cytotoxicity Receptor 発現と NK 細胞産生サイトカイン，日本受精着床学会雑誌，2009;26:341-347,1.

A.11. 山本善光，飯野香理，福山麻美，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹．非定型的な経過をたどった妊娠高血圧症候群，（PIH）並びに PIH 類似の2症例－妊娠性アンチトロンビン欠乏症との関連について－，青森県臨床産婦人科医会誌，2009;24:13-18,1.

A.12. 福山麻美，田中幹二，山本善光，二神真行，尾崎浩士，水沼英樹，湯澤　映．妊娠中の子宮筋腫核手術は決して禁忌ではない，青森県臨床産婦人科医会誌，2009;23:1-7,2.

A.13. 福山麻美，田中幹二，飯野香理，山本善光，尾崎浩士，水沼英樹．当院における産褥 HELLP 症候群の検討，日本妊娠高血圧学会雑誌，2009;17:226-227.

A.14. 二神真行，福山麻美，横田　恵，重藤龍比古，横山良仁，樋口　毅，水沼英樹．初回治療より13年後に腹腔内に再発した卵巣移行上皮癌の1例，青森県臨床産婦人科医会誌，2010;24:8-13,2.

A.15. 横田　恵，山本善光，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹，佐藤秀平．開胸，血栓摘除術を要した妊娠中発症の肺血栓塞栓症の2例，青森県臨床産婦人科医会誌，2010;24:34-40,2.

A.16. 福山麻美，藤井俊策，阿部和弘，福井淳史，水沼英樹．妊孕性温存療法を行った若年性子宮体癌，青森県臨床産婦人科医会誌，2010;24:41-47,2.

B.1. 中井希紫子，櫛引哲也，遠瀬龍二，丹羽英智，廣田和美，二神真行，横山良仁．術後に予想以上の呼吸不全を来した原発巣不明の癌性胸水の1症例，麻酔，2009;58:195-198,2.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 樋口　毅，柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，水沼英樹．特集「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン（2006年版）の読み方と使い方－エビデンスベースドプラクティスを目指して－」各科からみたガイドラインの使い方，考え方Ⅲ 婦人科，骨粗鬆症治療，2008;7:62-66.

A.2. 柞木田礼子，樋口　毅，水沼英樹．予防と治療「女性ホルモン製剤の使い方」，medicina，2008;45:489-493.

A.3. 横山良仁．境界悪性腫瘍の化学療法，臨床婦人科産科，2008;62:736-739.

A.4. 水沼英樹．特集「メンタルヘルスとリプロダクション」ストレスと生殖機能，HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY，2008;15:105-111.

A.5. 谷口綾亮，樋口　毅，水沼英樹．特集「ホルモン療法－最近の話題－」エストロゲン製剤の臨床応用：その現状と将来，産婦人科治療，2008;96:136-140.

A.6. 藤井俊策，谷口綾亮，木村秀崇，福井淳史．子宮内膜症の ART 療法，産婦人科治療，2008;96:283-287.

A.7. 藤井俊策，谷口綾亮．特集「これからのリプロ・ヘルス」産婦人科でよくみられる疼痛とその対策，産婦人科治療，2008;97:43-49.

A.8. 水沼英樹．特集「更年期・閉経後の健康管理」更年期をめぐる最近の話題，産婦人科治療，2008;98:967-972.

A.9. 阿部和弘，樋口　毅，水沼英樹．特集「鑑別診断としての更年期障害」HRT のリスク，産科と婦人科，2008;75:733-740.

A.10. 水沼英樹．閉経後女性に対するホルモン補充療法，PHYSICIANS' THERAPY MANUAL，2008.

A.11. 水沼英樹．中高年女性のヘルスケア－医療の現状と問題点「わが国の中高年女性医療においてなぜ更年期からの視点がそれほど重要視されていないのか」，更年期と加齢のヘルスケア，2008;7:228-231.

A.12. 水沼英樹．特集「産科婦人科サブスペシャリティー領域の動向」プライマリケア日本更年期医学会，産婦人科の実際，2008;57:1151-1154.

A.13. 田中幹二，水沼英樹．「周産期出血」徹底攻略　子宮外妊娠，子宮内操作後の腹腔内出血，周産期医学，2008;38:847-851.

A.14. 樋口　毅，水沼英樹．特集「骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインをめぐって」エストロゲン療法の最近のエビデンス，CLINICAL CALCIUM，2008;18:1141-1146.

A.15. 水沼英樹．ほてり，のぼせ，不眠，めまい，倦怠感「更年期障害，不定愁訴」，実験 治療，2008;121-123.

A.16. 福山麻美，藤井俊策．性感染症合併妊娠の管理，産婦人科治療，2008;97:466-471.

A.17. 水沼英樹．更年期医療におけるホルモン療法の再評価－患者のリスクとベネフィットを再認識すべき，Medical Tribune，2008;41:60.

A.18. 藤井俊策．子宮内膜症患者の ART outcome vol.8，FUJI Infertility & Menopause News，2008;1.

A.19. 水沼英樹．特集「PCOS －新たな展開－」特集にあたって，HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY，2008;15:270.

A.20. 藤井俊策，水沼英樹．PCOS の疾患概念と新診断基準：何がどう変わったか，HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY，2008;15:271-278.

A.21. 水沼英樹．ホルモン Q&A　Q1「エストロゲン以外でホットフラッシュに有効な薬物は何でしょうか？」Q2「HRT の最近の考え方について教えて下さい」，HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY，2008;15:345-457.

A.22. 藤井俊策．妊娠中の頭痛の機序と対応，日本医事新報，2008;4416:97-98.

A.23. 中路重之，梅田　孝，横山良仁．巻頭連載－がんの疫学（13）子宮がん，臨床腫瘍プラクティス，2008;4:284-292.

A.24. 横山良仁．特集「子宮がんの治療指針」臨床進行期に基づく子宮頸がんの治療，臨床腫瘍プラクティス，2008;4:336-339.

A.25. 水沼英樹，藤井俊策．4.PCOS 治療アルゴリズム案，第3回 PCOS Expert Committee 会議講演録，2008;4.

2009年度

A.1. 柞木田礼子，樋口　毅，水沼英樹．WHI 報告後におけるホルモン補充療法の現状と課題，産婦人科治療，2009;98:461-465.

A.2. 藤井俊策，福原理恵，福井淳史，水沼英樹．着床関連因子（7）NK 細胞，HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY，2009;16:60-67,1.

A.3. 藤井俊策，水沼英樹．卵巣予備能の評価，recFSH －臨床の展開，2009;4:5-9.

A.4. 水沼英樹．新ガイドラインのポイント，臨床婦人科産科，2009;63:781-785,6.

A.5. 藤井俊策，木村秀崇，水沼英樹．生殖医療を受けている女性の不安と人格特性との関連性，母性衛生，2009;49:513-521,4.

A.6. 水沼英樹．Q.54 ビスフォスフォネート製剤とラトキシフェンの，エビデンスも含めた違いについて教えてください，骨粗鬆症治療，2009;8:158-160,2.

A.7. 水沼英樹，二神真行．子宮疾患・子宮内膜症の臨床－基礎・臨床研究のアップデート－，日本臨床，2009;67:66-69,5.

A.8. 水沼英樹，柞木田礼子．骨粗鬆症はどのように予防，治療するのか？薬物療法各論②エストロゲン製剤，SERM，内科，2009;104:485-488,3.

A.9. 福井淳史，福原理恵，木村秀崇，藤井俊策，水沼英樹．受精卵着床不全における NK 細胞の役割，臨床免疫・アレルギー科，2009;52:158-165,2.

A.10. 水沼英樹．婦人科疾患の診断・治療・管理7）Turner 症候群，日本産科婦人科学会雑誌，2009;61:573-575,11.

A.11. 横山良仁，二神真行，水沼英樹．子宮頸部腺癌の術後補助化学療法，青森県臨床産婦人科医会誌，2009;24:1-7,1.

A.12. 水沼英樹．HRT で使用されるエストロゲンにはどのような種類（剤形）があるのでしょうか？ HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY, 2009;16:364-367,4.

A.13. 山本善光，尾崎浩士．妊婦健康診査パーフェクトマニュアル　羊水量，ペリネイタルケア，2010;157-162,373.

A.14. 水沼英樹．子宮病変のある女性の更年期治療における HRT の可否，産婦人科の実際，2010;59:441-445,3.

A.15. 横山良仁，辛兵，二神真行，水沼英樹，梅本実香，葛西亜希子，重藤龍比古．PPAR と卵巣癌，青森県臨床産婦人科医会誌，2010;24:1-7,2.

B.1. 佐藤和雄，水沼英樹，坂元秀樹，若槻明彦，高松　潔．更年期医療とホルモン補充療法，Clinical Ob-Gyne，2009;13:3-7,2.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 山本善光，尾崎浩士．第 5 章…異常分娩の管理と処置 j. 子宮頸管裂傷，MFICU 連絡協議会編集，MFICU 母体・胎児 ICU マニュアル，大阪，メディカ出版，2008;319-323.

A.2. 水沼英樹，産婦人科疾患，山口徹，北原光夫，福井次矢．今日の治療指針 2008 年版，東京，医学書院，2008;32.

A.3. 水沼英樹．産婦人科疾患の治療の動向，山口徹，北原光夫，福井次矢，今日の治療指針 2008 年版，東京，医学書院，2008;913.

A.4. 藤井俊策．多 _ 胞性卵巣症候群，山口徹，北原光夫，福井次矢，今日の治療指針 2008 年版，東京，医学書院，2008;920-921.

A.5. 水沼英樹．更年期の疾患，我部山キヨ子，武谷雄二，助産学講座 2 基礎助産学［2］母子の基礎科学，東京，医学書院，2008;238-239.

A.6. 横山良仁．同時化学放射線療法（CCRT），宇田川康博，八重樫伸生．婦人科がん標準化学療法の実際 - グローバルスタンダードを目指して -，東京，金原出版，2008;31-35.

A.7. 藤井俊策，谷口綾亮，福井淳史．卵管鏡下卵管形成術を施行中の症例です．卵管穿孔を起こしてしまいました．どのように対処すればよいでしょうか．倉智博久編，ここが聞きたい－産婦人科手術・処置とトラブル対処法．東京，医学書院，2008;106-108.

A.8. 藤井俊策，小山　基，鳴海俊治．遊離皮弁移植による造腟術を施行中の症例です．直腸穿孔を起こしてしまいました．どのように対処すればよいでしょうか．倉智博久編，ここが聞きたい－産婦人科手術・処置とトラブル対処法，東京，医学書院，2008;109-111.

2009年度

A.1. 水沼英樹．専門のお医者さんが語るＱ＆Ａ　更年期障害，保健同人社，東京都，2009．

A.2. 樋口　毅，谷口綾亮，水沼英樹．更年期「更年期障害」，久保田俊郎，よくわかる病態生理 12 婦人科疾患，日本医事新報社，東京，2009．

A.3. 水沼英樹．婦人科疾患「産婦人科疾患の治療の動向」，山口徹，北原光夫，福井次矢，今日の治療指針 2009 年版，911，医学書院，東京，2009．

A.4. 藤井俊策．婦人科疾患「性分化異常」，山口徹，北原光夫，福井次矢，今日の治療指針 2009 年版，916-917，医学書院，東京，2009．

A.5. 水沼英樹．ホルモン補充療法，三橋直樹，織部琢哉，産婦人科研修ノート，215-217，診断と治療社，東京，2009．

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
ONCOLOGY REPORTS	1.567	1	1.567
Clinical Medicine:Oncology	1.295	1	1.295
Fertility and Sterility	3.277	1	3.277
Life Sciences	2.389	1	2.389
Human Reproduction	3.769	1	3.769
Total		5	12.297

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur.J.Gynaec.Oncol	0.652	1	0.652
American Journal of Reproductive Immunology	1.743	2	3.486
Gynecologic Oncology	2.319	1	2.319
Cancer Therapy	0	1	0
Connective Tissue Research	1.123	1	1.123
Bone	3.829	1	3.829
Total		7	11.409

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
骨粗鬆症治療	1	1
日本臨床細胞学会東北支部連合会会報	1	
日本更年期医学会雑誌	2	
Osteoporpsis Japan	3	
Medicina	1	
臨床婦人科産科	1	8
HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY	4	1
産婦人科治療	5	1
産科と婦人科	1	
PHYSICIANS' THERAPY MANUAL	1	
日本産科婦人科学会東北連合地方部会誌	1	
更年期と加齢のヘルスケア	1	
産婦人科の実際	1	1
周産期医学	1	
日本産科婦人科学会雑誌	1	1
CLINICAL CALCIUM	1	
実験　治療	1	
Medical Tribune	1	
青森県臨床産婦人科医会誌	3	8
日本婦人科腫瘍学会誌	1	
FUJI Infertility & Menopause News	1	
日本医事新報	1	
母性衛生	1	1
J.Mamm.Ova Res	1	
臨床腫瘍プラクティス	2	
第3回 PCOS Expert Committee 会議講演録	1	
麻酔		1
弘前医学		1
産婦人科漢方研究のあゆみ		1
日本受精着床学会雑誌		1
recFSH- 臨床の展開		1
日本臨床		1
内科		1
Clinical　Ob-Gyne		1
臨床免疫・アレルギー科		1
日本妊娠高血圧学会雑誌		1
ペリネイタルケア		1
計	39	33

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	8	1
編　　集	0	0
分担執筆	0	4

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Fukui A, Nakamura R, Kimura H, Fujii S, Mizunuma H. Expression of natural cytotoxicity receptors and a2V-ATPase on endometrial NK cells in women with recurrent spontaneous abortions and implantation failures, 28th Annual Meeting of the American Society for Reproductive Immunology, Chicago, USA, 2008.

A.2. Kimura H, Fukui A, Nakamura R, Fujii S, Mizunuma H. Expression of natural cytotoxicity receptors and a2V-ATPase on peripheral blood NK cells in pregnant women with repeated abortions, 28th Annual Meeting of the American Society for Reproductive Immunology, Chicago, USA, 2008.

A.3. Yokoyama Y,Takano T, Nakahara K, Shoji T, Sato H, Yamada H, Yaegashi N, Okamura K, Kurachi H, Sugiyama T, Tanaka T, Sato A, Tase T, Mizunuma H. A PHASE Ⅱ MULTICENTER TRIAL OF CONCURRENT CHEMORADIOTHERAPY WITH WEEKLY NEDAPLATIN IN UTERINE CERVICAL CARCINOMA: TOHOKU GYNECOLOGIC CANCER UNIT STUDY, 12th BIENNIAL MEETING INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY-IGCS, Bangkok, Thailand, 2008.

A.4. Futagami M. THE SIGNIFICANCE OF PET/CT SCANNING IN THEGYNECOLOGY TUMOR, 12th BIENNIAL MEETING INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY-IGCS, Bangkok, Thailand, 2008

A.5. Higuchi T, Tarakida A, Abe K, Taniguchi R, Mizunuma H. A COMPARISON OF EFFECTS TO THE BONE BY ORAL RISEDRONATE FOR POSTMENOPAUSAL OSTEOPOROSIS VARIED THE TIME TAKING MEDICINE, 12th World Congress on the Menopause, Madrid, Spain, 2008.

A.6. Futagami M. Necessity of screening for uterine cervical cancer in women younger than age 30.44th American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, Chicago, USA, 2008.

2009年度

C.1. Fukui A, Nakamura R, Yamada K, Fukuyama A, Kimura H, Yamamoto Y, Tanaka K, Ozaki T, Fujii S, Mizunuma H. The expression of natural cytotoxicity receptors and production of NK cell cytokines in pregnant woman with pregnancy-induced hypertension, 29th Annual Meeting American Society for Reproductive Immunology, Orlando, 2009.

C.2. Shimada M, Kigawa J, Nishimura R, Hiura M, Hatae M, Takehara K, Sato A, Kurachi H, Mizunuma H, Sugiyama T. Comparison of the outcome between cervical adenocarcinoma and squamous cell carcinoma patients with adjuvant radiotherapy after radical surgery: SGSG/TGCU intergroup Surveillance, 2009 ASCO Annual Meeting, Orlando, 2009.

C.3. Kumagai S, Shoji T, Yokoyama Y, Takano T, Mizunuma H, Yaegashi N, Sugiyama T. A phase II trial of combination irinotecan and oral etoposide chemotherapy in recurrent ovarian cancer: A Tohoku Gynecologic Cancer Unit（TGCU）study, 2009 ASCO Annual Meeting, Orlando, 2009.

（2）全国学術集会

2008年度

A.1. 水沼英樹．更年期のトピックス，第60回日本産科婦人科学会，学術講演会，横浜市，2008．

A.2. 樋口　毅．HRT ガイドラインの意義（アルゴリズムや注意事項を含め），第60回日本産科婦人科学会学術講演会，横浜市，2008．

A.3. 水沼英樹．エビデンスに基づいたステロイドホルモン補充療法，第81回日本内分泌学会学術総会，青森市，2008．

A.4. 樋口　毅．HRT のアルゴリズムと管理，第2回生殖と女性医，学講演会，東京都，2009．

B.1. 水沼英樹．Women's Health とホルモン療法，第81回日本内分泌学会学術総会，青森市，2008．

B.2. 樋口　毅．「ホルモンの病気について」更年期の病気，第81回日本内分泌学会学術総会（日本ホルモンステーション），青森市，2008．

B.3. 樋口　毅．「更年期から取り組む抗加齢医学」ホルモン補充療法ガイドライン解説，第8回日本抗加齢医学会総会，東京都，2008．

B.4. 福井淳史．着床不全症例における NK 細胞上 Natural Cytotoxicity Receptors 発現と NK 細胞産生サイトカン，第26回日本受精着床学会総会，福岡市，2008．

B.5. 小島章弘，坂本知巳，藤井俊策，水沼英樹．当院における OCTAXpolarAIDE ™を用いた ICSI の成績，第26回日本受精着床学会総会，福岡市，2008．

B.6. 横山良仁．Workshop Ⅲ「卵巣の境界悪性腫瘍」境界悪性腫瘍の臨床像，JSAWI 2008，淡路市，2008．

B.7. 樋口　毅．「更年期精神症状における漢方治療～加味逍遙散を中心に～」ホルモン補充療法，加味逍遙散

投与の更年期障害に対する効果の比較，第28回産婦人科漢方研究会学術集会，宇都宮市，2008．

B.8. 樋口　毅，水沼英樹．「日本における HRT のあり方を探る」医療従事者の抱える HRT 施行上の疑問点，第23回日本更年期医学会，横浜市，2008．

B.9. 水沼英樹．「日本における更年期からのヘルスケアの現状と展望」更年期以降のヘルスケアにおけるホルモン補充療法，第23回日本更年期医学会，横浜市，2008．

C.　34件

2009年度

A.1. 樋口　毅．更年期障害の精神神経症状に対する加味逍遥散投与，ホルモン補充療法の比較－諸症状の推移に及ぼす効果の違いについて－，第29回産婦人科漢方研究会学術集会，東京都，2009．

A.2. 水沼英樹．閉経後女性のヘルスケアとホルモン，第24回日本更年期医学会学術集会，青森市，2009．

B.1. 水沼英樹．更年期障害とホルモン療法，第28回日本アンドロジー学会学術学会，富山市，2009．

B.2. 横山良仁．難治性がんに対する新たな治療戦略２　術後補助療法について，第6回婦人科がん会議，鳥取市，2009．

B.3. 藤井俊策．子宮内膜症の腹腔鏡手術－合併症を回避するために－卵巣予備能の維持，第31回日本エンドメトリオーシス学会，京都市，2009．

C.　25件

Ⅲ．学術賞

2008年度

弘前大学医学部学術特別賞

2009年度

第11回東北産婦人科内視鏡懇話会，福井淳史，不妊症症例に対する Trans-vaginal hydrolaparoscopy の効果

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

基盤研究（C）骨の細胞外マトリックス研究－糖鎖の変化は骨脆弱性イニシエーターか－　樋口　毅　2,200千円

若手研究（B）メラトニンによる抗癌剤の副作用軽減を目指した新しい治療法の開発　二神真行　1,800千円

若手研究（B）ラット卵巣動静脈結紮による発育遅延モデル－血管系の発達に及ぼす影響－　山本善光　500千円

2009年度

研究代表者として

文部科学省，若手研究（B），福井淳史，妊娠の成立と維持に関する子宮内膜および全身における NK 細胞の機能分担と機能発現，1,200千円

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

研究代表者として

厚生労働省　地域医療基盤開発推進研究　女性の健康状態を的確に評価するための調査項目等に関する研究　水沼英樹　2,400千円

青森県 不妊専門相談センター事業の受託研究　1,100千円

日本学術振興会　萌芽研究　メタボロミクスを基にしたヒト胚の品質評価法の開発　藤井俊策　1,200千円

日本学術振興会　基盤研究（C）　卵巣癌に対する新規抗腫瘍剤開発のための基礎的研究　横山良仁　1,950千円

2009年度

研究代表者として

日本学術振興会，萌芽研究，藤井俊策，メタボロミクスを基にしたヒト胚の品質評価法の開発，800千円

日本学術振興会，基盤研究（C），横山良仁，卵巣癌に対する新規抗腫瘍開発のための基礎的研究，800千円

青森県より 不妊専門相談センター事業の受託研究　1,100千円
青森県より 周産期医療従事者増加に係る調査研究　18,000千円

他研究単位との研究分担者として
厚生労働省，子ども家庭総合研究事業，藤井俊策，不育症治療に関する再評価と新たなる治療法の開発に関する研究，700千円

(3) 学内の研究助成

2008年度

研究代表者として
第27回唐牛医学研究基金助成金A
光線力学的療法と新規抗腫瘍剤を併用した卵巣癌治療の開発
横山良仁　3,370千円
平成20年度弘前大学若手萌芽研究
妊娠の成立と維持に関する抹消血免疫担当細胞の機能分担と機能発現
福井淳史　600千円

2009年度

研究代表者として
第27回唐牛記念医学研究基金，癌研究，光線力学的療法と新規抗腫瘍剤を併用した卵巣癌治療療法の開発，横山良仁，3,370千円
弘前大学医学部学術特別賞，癌研究，血管新生阻害を標的とする進行卵巣癌の新規治療療法の開発，横山良仁，300千円
平成21年度弘前大学若手研究者支援事業　妊娠の成立と維持に関する抹消血免疫担当細胞の機能分担と機能発現　福井淳史　500千円
平成21年度弘前大学若手研究者支援事業　早産の新規治療薬開発のための基礎的研究　福山麻美　500千円
第13回弘前大学医学部医学科国際化教育奨励賞　福井淳史　300千円

(4) 民間の研究助成

2009年度

研究代表者として
日本婦人科腫瘍学会公募指定研究助成金，癌研究，卵巣癌に対する光線力学的療法と新規抗腫瘍剤の同時療法の有効性の検討，横山良仁，500千円

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2008年度

王慧　大連医科大学　中国　2007年10月1日から継続

2009年度

王慧　大連医科大学　中国　2007年10月1日から継続

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

2009年度

第24回日本更年期医学会学術集会

ｂ）地方レベルの学会の主催

2008年度

第56回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会総会並びに学術講演会
第270回青森県臨床産婦人科医会
第271回青森県臨床産婦人科医会
第272回青森県臨床産婦人科医会
第273回青森県臨床産婦人科医会

2009年度

第274回青森県臨床産婦人科医会
第275回青森県臨床産婦人科医会
第276回青森県臨床産婦人科医会
第277回青森県臨床産婦人科医会
第278回青森県臨床産婦人科医会

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

26. 麻酔科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

① Medline に収載された英文学術誌に年に 5 編以上論文を発表する。
②国際学会での発表または全国レベル学会での招聘講演（特別，教育講演など）またはシンポジスト（パネルディスカッション，ワークショップ等も含む）を年間のべ 3 人以上出す事を目標とする。
③科学研究費補助金に 2 件以上採択を目指す。
④単独または他大学と共同で著書出版を 2 年間で 1 冊以上を目標とする。
⑤国際交流を活性化するためにも，海外の大学（2 大学以上）との交流を行う。
=> 全ての項目をこの 2 年間でクリアしており，到達度は100％。

理念：

①全静脈麻酔法の全国への普及および推進に努める。
②超音波ガイド下神経ブロックや中心静脈穿刺を全国での普及推進に努める。
③非侵襲的モニターを開発し，臨床応用する。
④研究においては，単独での研究だけでなく，他講座，他大学や研究所（海外を含む）との共同研究を推進する。
⑤周術期管理や疼痛管理を向上させる。臨床研究および基礎研究を行う。

これから２年間の目標：

① Medline に収載された英文学術誌に年に 5 編以上論文を発表する。
②国際学会での発表または全国レベル学会での招聘講演（特別，教育講演など）またはシンポジスト（パネルディスカッション，ワークショップ等も含む）を年間のべ 3 人以上出す事を目標とする。
③科学研究費補助金に 2 件以上採択を目指す。
④単独または他大学と共同で著書出版を 2 年間で 1 冊以上を目標とする。
⑤国際交流を活性化するためにも，海外の大学（2 大学以上）との交流を行う。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　13，大学院学生　9，研究生　1			
教員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	廣田　和美	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	准教授	専　任	石原　弘規	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	講　師	専　任	櫛方　哲也	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	講　師	専　任	佐藤　哲観	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教	専　任	木村　　太	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教	専　任	北山　真任	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教	専　任	工藤　　剛	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教	専　任	工藤美穂子	2008.4.1 ～ 2009.3.31
研究課題	1．単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神経網による全身麻酔機序の一元化 2．生理活性物質オレキシンおよびウロテンシンⅡに関する研究 3．ブドウ糖を指示薬に用いる体液量把握の研究 4．重症患者の体液管理 5．ペインクリニック 6．難治性疼痛 7．全身麻酔の作用機序解明－神経伝達物質の動態の面から 8．超音波画像ガイドによる末梢神経ブロックに関する研究 9．重症患者に対するより良い全身管理の追求 10．鎮痛薬ノイロトロピンの脳内ノルアドレナリン神経への関与			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　10，大学院学生　7，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	廣田　和美	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	准教授	専　任	石原　弘規	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	講　師	専　任	櫛方　哲也	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	講　師	専　任	佐藤　哲観	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教	専　任	木村　　太	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教	専　任	北山　真任	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教	専　任	遠瀬　龍二	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教	専　任	丹羽　英智	2009.10.17 ～ 2010.3.31
	助　教	専　任	工藤美穂子	2009.4.1 ～ 2010.3.31
研究課題	1．単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神経網による全身麻酔機序の一元化 2．生理活性物質オレキシンおよびウロテンシンⅡに関する研究 3．ブドウ糖を指示薬に用いる体液量把握の研究 4．重症患者の体液管理 5．ペインクリニック 6．難治性疼痛 7．全身麻酔の作用機序解明－神経伝達物質の動態の面から 8．超音波画像ガイドによる末梢神経ブロックに関する研究 9．重症患者に対するより良い全身管理の追求 10．鎮痛薬ノイロトロピンの脳内ノルアドレナリン神経への関与			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Ono T, Kawaguchi Y, Kudo M, Kushikata T, Hashiba E, Yoshida H, Kudo T, Furukawa K, Douglas SA, Guerrini R, Calo' G, Hirota K. Urotensin Ⅱ evokes neurotransmitter release from rat cerebrocortical slices. Neuroscience Letters 2008;440(3):275-279.

A.2. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K, Ueno S, Hirota K. Interaction between orexinergic neurons and NMDA receptors in the control of locus coeruleus-cerebrocortical noradrenergic activity of the rat. Brain Research 2009;1250:81-87.

A.3. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K, Ueno S, Hirota K. Orexin A decreases ketamine-induced anesthesia time in the rat: the relevance to brain noradrenergic neuronal activity. Anesth Analg 2009;108(2):491-495.

C.1. Ibba M, Kitayama M, McDonald J, Calo G, Guerrini R, Farkas J, Toth G, Lambert DG. Binding of the novel radioligand [^{3}H] UFP-101 to recombinant human and native rat nociceptin/orphanin FQ receptors. Naunyn-Schmiedeberg's Arch Pharmacol 2008;378(6):553-561.

2009年度

A.1. Kawaguchi Y, Ono T, Kudo M, Kushikata T, Hashiba E, Yoshida H, Kudo T, Furukawa K, Douglas SA, Hirota K. The effects of benzodiazepines on urotensin Ⅱ -stimulated norepinephrine release from rat cerebrocortical slices. Anesth Analg 2009;108(4):1177-1181.

A.2. Niwa H, Sakai T, Hirota K, Furukawa K, Kanemaru K. A large-scale gene expression screening on anti-inflammatory effects of ketamine and sevoflurane in rat C6 glioma cells. Hirosaki Med J 2009;60(1-4):27-35.

A.3. Hirota K, Imai A, Kudo M, Hashimoto H, Kushikata T. Efficacy of a single 24-hour pre-anesthetic dose of proton pump inhibitors. J Gastroenterol Hepatol 2009;24(7):1244-1247.

B.1. Yoshida H, Kushikata T, Tose R, Kudo M, Kudo T, Hirota K. Nitrous oxide and xenon increases noradrenaline release in the cerebral cortex in vivo and in vitro. Neurosci Lett 2010;469:199-203.

和文

2008年度

A.1. 佐藤哲観，蝦名正子，川口陽子，廣田和美，加藤博之．医学部医学科学生における医療用麻薬に関する知識―系統講義による変化―．緩和医療学　2009;11(1):52-58.

B.1. 大川浩文，橋場英二，遠瀬龍二，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．肺毛細管楔入圧が正常な急性心筋梗塞患者における胸郭インピーダンス法と肺動脈カテーテルを用いた肺内水分状態および血行動態の検討．日本集中治療医学会雑誌　2008;15(3):301-306.

2009年度

A.1. 佐藤哲観，蝦名正子，川口陽子，廣田和美．大学病院の緩和ケアチームにおける麻酔科医の活動　その1「どっぷり型」．日本臨床麻酔学会誌　2009;29(5):587-596.

A.2. 丹羽英智，橋場英二，大川浩文，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．持続血液濾過透析施行時における抗凝固薬：メシル酸ナファモスタットの先発医薬品と後発医薬品との薬効効果の相違について．ICU と CCU 2009;33(7):575-579.

B.1. 佐藤淳也，照井一史，川口陽子，蝦名正子，菊池淳宏，佐藤哲観，早狩　誠．携帯型インフューザーポンプを使用したフルルビプロフェンアキセチル（ロピオン® 静注）．日本緩和医療薬学雑誌 2009;2:87-92.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 廣田和美．麻酔前投薬としての H2 拮抗薬の耐性とプロトンポンプ阻害薬の有用性．臨床麻酔　2008;32(10):1615-1621.

A.2. 石原弘規，廣田和美．術前の輸液管理：周術期全体のなかでの術前を考えよ．LiSA 2009;16(1):2-5.

2009年度

A.1. 廣田和美，櫛方哲也．大脳皮質のノルアドレナリン分泌ニューロンのオレキシン刺激と NMDA 受容体．生体の科学　2009;60(5):354-355.

A.2. 櫛方哲也，廣田和美．ケタミンを用いた全静脈麻酔法－ PFK，PRK の紹介－．臨床麻酔　2009;33(9):1415-1421.

A.3. 櫛方哲也，廣田和美．オレキシン：麻酔一炊の夢となるか．LiSA　2010;17(2):144-146.

A.4. 佐藤哲観．第8章　Ⅱ．緩和ケア概論．日本泌尿器科学会2010年卒後教育テキスト　2010;15(1):182-188.

A.5. 佐藤哲観．第8章　Ⅲ．がん性疼痛．日本泌尿器科学会2010年卒後教育テキスト　2010;15(1):189-196.

A.6. 佐藤哲観，蝦名正子，廣田和美．各種身体症状に対するケア―呼吸困難に対して．臨床腫瘍プラクティス　2010;6(2):197-200.

B.1. 橋場英二，石原弘規．Q5　ショック誘発物質とは？救急・集中治療　2009;21(7･8):847-853.

B.2. 橋場英二，石原弘規．Initial Distribution Volume of Glucose（IDVG）ブドウ糖初期分布容量．体液・代謝管理　2009;25:41-47.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A. 単行本（編集）

1. 廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）．研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）東京，克誠堂（2008）

分担執筆

1. 北山真任．第1章　基礎編　A　携帯エコーで何を診る？　2. 超音波解剖学入門　－ Basic Sonoanatomy －．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）6-32　東京，克誠堂（2008）
2. 北山真任．第1章　基礎編　A　携帯エコーで何を診る？　4. 穿刺する針やカテーテルはどのように見えるか．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）35-40　東京，克誠堂（2008）
3. 廣田和美．第1章　基礎編　A　携帯エコーで何を診る？　5. 清潔域でプローブを操作する手順と準備するもの．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）41-44　東京，克誠堂（2008）
4. 櫛方哲也．診断編　B　表在用高周波プローブでできること　1. 下肢深部静脈血栓症　－大腿静脈，膝窩静脈－．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）66-71　東京，克誠堂（2008）
5. 櫛方哲也．診断編　B　表在用高周波プローブでできること　2. 頸動脈，椎骨動脈計測 IMT 廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）72-76　東京，克誠堂（2008）
6. 北山真任．処置編2　A　高周波リニア型プローブでできること　1. 上肢の手術，鎮痛のために－腕神経叢ブロック，正中･尺骨･筋皮神経ブロックなど－　3）正中神経，尺骨神経，橈骨神経，筋皮神経ブロック．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）141-145　東京，克誠堂（2008）
7. 廣田和美．処置編2　A　高周波リニア型プローブでできること　2. 下肢の手術，鎮痛のために－前方からのアプローチによる下肢の神経ブロック－．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）146-154　東京，克誠堂（2008）
8. 廣田和美．処置編2　A　高周波リニア型プローブでできること　4. 持続末梢神経ブロック．廣田和美，

北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）170-174　東京，克誠堂（2008）

9. 北山真任．処置編2　B　汎用コンベックス型プローブでできること　1. 腰椎穿刺（硬膜外・脊髄くも膜下麻酔）のための利用法．廣田和美, 北山真任, 佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）175-180　東京，克誠堂（2008）
10. 石原弘規．基礎編3　ブドウ糖初期分布容量，飯島毅彦（編）For Professional Anesthesiologists 周術期の輸液　41-60　東京，克誠堂（2008）

2009年度

A.1. 北山眞任, 廣田和美．第3章　スキルアップ　4 エコーガイド下硬膜外ブロック．岡本浩嗣, 鈴木利保（編）硬膜外麻酔・脊椎麻酔　視覚と感覚で確実に施行する基本とコツ　106-111　東京，羊土社（2009）

A.2. 北山眞任，廣田和美．4章　超音波ガイド下神経ブロック手技　8. 橈骨，正中，尺骨神経ブロック大瀬戸清茂（編）透視下神経ブロック法，283-286　東京，医学書院（2009）

B.1. 橋場英二，石原弘規．Q5 ショック誘発物質とは？回答　篠澤洋太郎，岡元和文（特集編集）ショック管理 Q&A －迅速で，的確な対応のために－ 847-853　東京，総合医学社（2009）

（4）その他

英文

2008年度

B.1. Hashimoto H, Nakamura H, Hirota K. Marked reduction in bispectral index with severe bradycardia without hypotension in a diabetic patient undergoing ophthalmic surgery. J Anesth 2008;22(3):300-303.

B.2. Hashiba E, Ishihara H, Tsubo T, Okawa H, Hirota K. Use of initial distribution volume of glucose to determine fluid volume loading in pulmonary thromboembolism and right ventricular myocardial infarction. J Anesth 2008;22(4):453-456.

2009年度

A.1. Kawaguchi Y, Ebina M, Sato T, Ishiguro Y, Yagihashi S, Hirota K. A case of trigeminal neuralgia compicated by ipsilateral temporal arteritis. J Anesth 2010;24(1):139-142.

和文

2008年度

A.1. 櫛方哲也．第55回日本麻酔科学会最優秀演題賞を受賞して．医学部ウォーカー　2008;(46):3.

A.2. 斎藤淳一，橋場英二，大川浩文，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．肺炎桿菌性敗血症ショックによる電撃性紫斑病の一例．日本集中治療医学会雑誌　2009;16(1):83-84.

A.3. 中井希紫子，櫛方哲也，遠瀬龍二，丹羽英智，廣田和美，二神真行，横山良仁．術後に予想以上の呼吸不全を来した原発巣不明の癌性胸水の 1 症例．麻酔　2009;58(2):195-198.

B.1. 吉田　仁，廣田和美．質疑応答　パーキンソン病患者の麻酔管理の注意点について．臨床麻酔　2008;32(4):766-768.

2009年度

A.1. 丹羽英智，橋場英二，大川浩文，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．高度四肢壊死を呈した methicillin-resistant Staphylococcus aureus による toxic shock syndrome の一救命例．日本集中治療医学会雑誌 2009;16(4):471-476.

A.2. 藤田彩香，橋場英二，高平陽子，北山眞任，坪　敏仁，廣田和美．呼吸管理に難渋した両側巨大ブラの麻酔経験．麻酔　2009;58(10):1274-1277.

A.3. 斎藤淳一，木村　太，石原弘規，廣田和美．自律神経反射亢進にニカルジピン静脈内投与が有効であった1症例．麻酔　2009;58(12):1528-1530.

A.4. 丹羽英智．グラスゴー大学における医学教育の視察を終えて．医学部ウォーカー　2009;(48):6.

A.5. 川口陽子，櫛方哲也，高瀬　肇，吉田　仁，北山真任，廣田和美．生体肝移植術における連続的中心静脈酸素飽和度測定の使用経験―大量出血に対する有用性―．麻酔　2010;59(2):242-245.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurosci Lett	2.085	1	2.085
Brain Research	2.218	1	2.218
Anesth Analg	2.214	1	2.214
Total		3	6.517

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anesth Analg	2.59	1	2.59
Hirosaki Med J	0	1	0
J Gastroenterol Hepatol	2.275	1	2.275
Neurosci Lett	2.2	1	2.2
Total		4	7.065

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
日本集中治療医学会雑誌	1	
臨床麻酔	1	1
緩和医療学	1	
LiSA	1	1
日本臨床麻酔学会誌		1
ICU と CCU		1
日本緩和医療薬学雑誌		1
生体の科学		1
日本泌尿器科学会2010年卒後教育テキスト		2
臨床腫瘍プラクティス		1
救急・集中治療		1
体液・代謝管理		1
計	4	11

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	1	0
分担執筆	10	3

３．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Anesth	0	2	0
Total		2	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Anesth	0	1	0
Total		1	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
医学部ウォーカー	1	1
臨床麻酔	1	
日本集中治療医学会雑誌	1	1
麻酔	1	3
計	4	5

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Kitayama M. Ultrasound guided peripheral nerve block. Department Anesthesia Pusan National University Summer Conference 2008（Pusan, Korea）June 20（2008）

C.1. Wada M, Tsubo T, Ono T, Ishihara H, Hirota K. Additive effects of almitrine and nitric oxide on pulmonary blood flow during one-lung ventilation. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（Orlando, U.S.A）Oct. 20（2008）

C.2. Hirota K, Kushikata T, Kudo M, Salvadori S, Calo' G. Effects of icv neuropeptide S on ketamine anaesthesia in rats. Winter Scientific Meeting of the Anaesthetic Research Society（London, U.K.）Nov. 20（2008）

2009年度

C.1. Kitayama M, Hashimoto H, Kudo T, Kudo M, Takada N, Wada M, Hirota K. Plasma concentration of ropivacaine after ultrasound guided rectus sheath blocks for lower abdominal surgery Spring Scientific Meeting of the Anaesthetic Research Society（Edinburgh, UK）May 29（2009）

C.2. Kushikata T. Orexin A attenuates sleep-disturbance following ketamine anesthesia.. 12th EuroSIVA Meeting（Milan, Italy）June 5（2009）

C.3. Hashimoto H, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Clinical study of perioperative hemodilutional autologous blood transfusion in cardiovascular surgery. 8th Meeting of the Asian Society of Cardiothoracic Anesthesia inconjunction with 14th Annual Meeting of Japanese Society of Cardiovascular Anesthesiologists（Tokyo, Japan）Sep. 11（2009）

C.4. Tsubo T, Nishimura M, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Evaluation of Comet-Tail artifacts using Transesophageal echography. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（New Orleans, U.S.A）Oct. 17-21（2009）

C.5. Tsubo T, Hashiba E, Okawa H, Ishihara H, Hirota K. Transesophageal echography observation during partial liquid ventilation. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（New Orleans, U.S.A）Oct. 17-21（2009）

C.6. Nishimura M, Tsubo T, Hirota K. Where do Comet-Tail artifacts come from in acute lung injury? Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（New Orleans, U.S.A）Oct. 17-21（2009）

（2）全国学術集会

2008年度

教育講演

A.1. 櫛方哲也．オレキシンと全身麻酔―ノルアドレナリンを架け橋として―．第28回日本臨床麻酔学会（京都）平成20年11月20日（2008）

シンポジウム

B.1. 櫛方哲也，吉田　仁，工藤　剛，工藤美穂子，遠瀬龍二，廣田和美．ノルアドレナリン神経ネットワークと全身麻酔機序．第55回日本麻酔科学会（横浜）平成20年6月13日（2008）

B.2. 佐藤哲観，蝦名正子，廣田和美．大学病院の緩和ケアチームにおける麻酔科医の活動　その1「どっぷり型」第28回日本臨床麻酔学会（京都）平成20年11月21日（2008）

ワークショップ

B.3. 北山真任．術後鎮痛のための超音波ガイド下局所麻酔の実際：単回投与 vs. カテーテル留置　下肢．第28回日本臨床麻酔学会（京都）平成20年11月22日（2008）

C.　24件

2009年度

B.1. 橋場英二.（シンポジウム）体液量把握に関するシンポジウム　Initial Distribution Volume of Glucose（IDVG）ブドウ糖初期分布容量．第24回体液・代謝管理研究会（東京）平成21年1月31日（2009）

B.2. 佐藤哲観．（シンポジウム）緩和医療の教育の現状と課題－何をいかに教え学ぶか－．第14回日本緩和医療学会（大阪）平成21年6月19日（2009）

B.3. 佐藤哲観，蝦名正子，川口陽子，菊池淳宏，工藤恵子，照井一史，廣田和美．（シンポジウム）当院ならびに青森県内における緩和ケア教育の現状と課題．第14回日本緩和医療学会学術大会（大阪）平成21年6月19日（2009）

B.4. 廣田和美．（シンポジウム）レミフェンタニルとシバリング対策．第56回日本麻酔科学会（神戸）平成21年8月17日（2009）

B.5. 北山眞任．（シンポジウム）超音波ガイドの現状と今後の領域：下腹部腹壁ブロック．第29回日本臨床麻酔学会（浜松）平成21年10月29日（2009）

B.6. 北山眞任．（パネルディスカッション）超音波ガイド下区域麻酔－安全と QOL（講演）プレスキャン・ポストスキャン時に安全のために行う超音波画像検査．第56回日本麻酔科学会（神戸）平成21年8月17日（2009）

B.7. 櫛方哲也．（パネルディスカッション）12th EuroSIVA 参加報告．第16回日本静脈麻酔学会（松本）平成21年9月26日（2009）

C.　18件

Ⅲ．学術賞

2008年度

櫛方哲也　日本麻酔科学会第55回学術集会最優秀演題賞

「脳内ノルアドレナリン作動性神経活性はケタミン麻酔機序に関与する」

櫛方哲也　第15回日本静脈麻酔学会 JSIVA 賞

「全身麻酔とオレキシン動態の検討」

石原弘規　青森県医師会学術奨励特別賞

Ⅳ．共同研究

2008年度

1. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室，代表・廣田和美，全身麻酔薬の神経伝達物質放出に及ぼす影響と作用機序に関する研究
2. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室，代表・廣田和美，生理　活性物質ウロテンシンⅡの薬理学的作用に関する研究
3. 共同研究・米国グラクソスミスクライン株式会社，代表・廣田和美，UT-HEK293細胞を用いたウロテンシンⅡ受容体リガンドに関する研究
4. 慶応義塾大学，岡山大学，日本光電工業など．多施設協同研究による脈波伝搬時間を用いた非侵襲心拍出量に関する研究．代表研究者：石原弘規

2009年度

1. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室，代表・廣田和美，全身麻酔薬の神経伝達物質放出に及ぼす影響と作用機序に関する研究
2. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室，代表・廣田和美，生理活性物質ウロテンシンⅡの薬理学的作用に関する研究
3. 共同研究・米国グラクソスミスクライン株式会社，代表・廣田和美，UT-HEK293細胞を用いたウロテンシンⅡ受容体リガンドに関する研究
4. 慶応義塾大学，岡山大学，日本光電工業など．多施設協同研究による脈波伝搬時間を用いた非侵襲心拍出量に関する研究．代表研究者：石原弘規

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

廣田和美　平成20年度文部科学省科学研究費160万円（萌芽研究）
生理活性物質ウロテンシンⅡの全身麻酔および睡眠への関与
櫛方哲也　平成20年度文部科学省科学研究費80万円（基盤研究C）
上行賦活系を応用した麻酔覚醒機序の検討：速やかな覚醒と穏やかな回復を目指して

2009年度

研究代表者として

廣田和美　平成21年度文部科学省科学研究費90万円（萌芽研究）
生理活性物質ウロテンシンⅡの全身麻酔および睡眠への関与
廣田和美　平成21年度文部科学省科学研究費260万円（基盤研究（B））
加齢及び麻酔関連睡眠障害の機序とその治療に関する研究
櫛方哲也　平成21年度文部科学省科学研究費190万円（基盤研究（C））
上行賦活系を応用した麻酔覚醒機序の検討：速やかな覚醒と穏やかな回復を目指して

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2008年度

研究代表者として

橋場英二，石原弘規，大川浩文，坪　敏仁，廣田和美
平成20年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞（診療技術賞）
「集中治療室におけるブドウ糖希釈法による重症患者の体液量評価」

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2008年度

1．Dr Hyeon-Jeong Lee，釜山大学医学部，韓国，12月6～7日

2009年度

1．Dr Ji-Young Yoon，釜山大学麻酔科，大韓民国，12月5～6日
2．Dr Alan Thomson，アバディーン大学附属アバディーン王立病院麻酔科，英国，7月15日
3．Dr Jennifer Cleland，アバディーン大学医歯学教育部門，英国，7月15日
4．Prof. Bernhard Panning，ハノーヴァー医科大学麻酔科，ドイツ，10月12～19日

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2009年度

遠瀬龍二，イギリスレスター大学留学，平成21年10月17日～平成22年10月1日

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2008年度

会長　石原弘規　第24回体液・代謝管理研究会（東京）

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2009年度

神里興太，琉球大学麻酔科，平成21年11月1日～平成22年2月28日
（4ヶ月）

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2009年度

工藤隆司，琉球大学麻酔科，平成21年11月1日～平成22年2月28日
（4ヶ月）

Ⅶ. その他

なし

27. 脳神経外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

前回掲げた目標に対し，これを達成すべく各研究グループが研究活動に取り組んできた。その結果目標に達したと判断し得る。

理念：

脳神経外科領域において重要な課題でもある，くも膜下出血，悪性脳腫瘍の治療，深部脳腫瘍の手術治療などに焦点を当てて研究活動を行っていく。

これから２年間の目標：

これまでの研究成果を基に，これをさらに発展させ，英文原著論文数および国際学会における発表の増加に結びつけていく。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　3，助教　3，助手　0，医員　2，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大熊　洋揮	2008年4月～2009年3月
	講　師	専　任	中野　高広	2008年4月～2009年3月
	講　師	専　任	浅野研一郎	2008年4月～2009年3月
	講　師	専　任	嶋村　則人	2008年4月～2009年3月
	助　教	専　任	工藤香名江	2008年4月～2009年3月
	助　教	専　任	棟方　　聡	2008年10月～2009年3月
	助　教	専　任	奈良岡征都	2008年4月～2009年3月
	医　員	専　任	小笠原ゆかり	2008年4月～2009年3月
	医　員	専　任	竹田　哲司	2008年4月～2009年3月
研究課題	1．くも膜下出血後の脳血管攣縮の病態解明 2．くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療法の開発 3．脳動脈瘤の発生機序の解明 4．解離性脳動脈瘤の疫学的研究 5．悪性脳腫瘍の治療法の開発 6．深部脳腫瘍手術時のモニタリング法の開発 7．脳内血腫に対する神経内視鏡併用手術法の開発 8．脳血管内治療における機器と技術研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　3，助教　3，助手　0，医員　3，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大熊　洋揮	2009年4月～2010年3月
	講　師	専　任	中野　高広	2009年4月～2010年3月
	講　師	専　任	嶋村　則人	2009年4月～2010年3月
	講　師	専　任	浅野研一郎	2009年4月～2010年3月
	助　教	専　任	伊藤　勝博	2009年11月～2010年3月
	助　教	専　任	工藤香名江	2009年4月～2010年3月
	助　教	専　任	棟方　　聡	2009年4月～2010年3月
研究課題	1．くも膜下出血後の脳血管攣縮の病態解明 2．くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療法の開発 3．脳動脈瘤の発生機序の解明 4．解離性脳動脈瘤の疫学的研究 5．悪性脳腫瘍の治療法の開発 6．深部脳腫瘍手術時のモニタリング法の開発 7．脳内血腫に対する神経内視鏡併用手術法の開発 8．脳血管内治療における機器と技術研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2009年度

A.1. Nakano T, Ohkuma H, Asano K, Ogasawara Y. Endoscopic treatment for deep-seated or multiple intraparenchymal tumors: technical note. Minimally Invasive Neurosurgery 2009;52:49-52.

A.2. Munakata A, Ohkuma H, Nakano T, Shimamura N, Asano K, Naraoka M. Effect of a free radical scavenger, edaravone, in the treatment of patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage. Neurosurgery, 2009;64:423-429.

A.3. Shimamura N, Ogasawara Y, Naraoka M, Ohnkuma H. Irrigation with thrombin solution reduces recurrence of chronic subdural hematoma in high-risk patients: preliminary report. J Neurotrauma. 2009;26(11):1929-33.

A.4. Shimamura N, Matsuda N, Katayama K, Ohkuma H. Novel rat middle cerebral artery occlusion model: Trans-femoral artery approach combined with preservation of the external carotid artery. J Neurosci Methods. 2009;184(2):195-8.

A.5. Asano K, Nakano T, Takeda T, Ohkuma H, Risk factors for postoperative systemic complications in elderly patients with brain tumors. [J Neurosurg, 111(2), (2009), 258-264]

A.6. Asano K, Takeda T, Nakano T, Ohkuma H, Correlation of MIB-1 staining index and (201) T1-SPECT retention index in preoperative evaluation of malignancy of brain tumors. [Brain Tumor Pathol, 27(1), (2009), 1-6]

和文

2008年度

A.1. 嶋村則人，大熊洋揮，菊池　潤，棟方　聡，中野高広，浅野研一郎，過疎地域におけるくも膜下出血治療の現状と問題点，脳卒中の外科　2008;36:29-32.

A.2. 伊藤勝博，竹村篤人，奈良岡征都，畑山　徹，鈴木重晴，大熊洋揮，青森県における脳神経外科救急の現状，Neurosurg Emerg　2008;13:9-14.

A.3. 嶋村則人，奈良岡征都，中野高広，小笠原ゆかり，竹田哲司，大熊洋揮，超高齢者破裂脳動脈瘤における局所麻酔下コイル塞栓術および選択的局所動注療法の役割について -preliminary report-, 脳神経外科；2008;36(10):873-878.

A.4. 嶋村則人，奈良岡征都，長畑守雄，菊池　潤，大熊洋揮，高齢者破裂脳動脈瘤における局所麻酔下血管内治療の有益生－クリッピング術との比較検討－ Neurosurg Emerg　2008;13:162-167.

2009年度

A.1. 中野高広，大熊洋揮，脳内出血に対する軟性鏡手術と硬性鏡手術の比較，脳卒中の外科　2009;37:100-103.

A.2. 小笠原ゆかり，棟方　聡，中野高広，大熊洋揮，破裂脳動脈瘤急性期における再破裂と血圧管理の意義，第30回東北脳血管障害懇話会記録集　2009;15-20.

A.3. 棟方　聡，大熊洋揮，奈良岡征都，吉川朋成，スパズム治療の標準化に向けて―どの施設でも行いうる combination therapy の提案―．脳血管攣縮　2009;25:7-9.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 大熊洋揮，棟方　聡，嶋村則人，前交通動脈瘤－解剖と手術手技，脳神経外科　2008;36(1):27-43.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 伊藤勝博，竹村篤人，畑山　徹，鈴木重晴，多様な病態を呈した頭部外傷の1例，Neurosurg Emerg 2008;13:218-222.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　　し			
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Minimally Invasive Neurosurgery	0.709	1	0.709
Neurosurgery	3.398	1	3.398
J Neurotrauma	3.528	1	3.528
J Neurosci Methods	2.092	1	2.092
Total		4	9.727

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
脳神経外科	2	
脳卒中の外科	1	1
Neurosurg Emerg	2	
第30回東北脳血管障害懇話会記録集		1
脳血管攣縮		1
計	5	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2009年度

C.1. Shimamura N, Munakata A, Ohkuma H, Recent management of high elderly subarachnoid hemorrhage patients, 10th Conference of the ICCV, chongqing, China, 2009

C.2. Munakata A, Effectof a free radical scavenger, edaravone, on free radical reaction – related signal. 10th Conference of the ICCV, chongqing, China, 2009

C.3. Norihito Shimamura, Akira Munakata, Masato Naraoka, Takahiro Nakano, Hiroki OHkuma Decomempressive Hemi-Craniectomy is not Necessary to Rescue Supratensive Intracerebral Hemorrhage Patients: Consecutive Single Center Experience. 3th International Conference on Intracerebral Hemorrhage. Rancho Mirage, USA, 2010

C.4. Akira Munakata. Tree-dimension computed tomography scans assisted volemic analysis of an intracerebral hemorrhage. 3th International Conference on Intracerebral Hemorrhage. Rancho Mirage, USA, 2010

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 棟方　聡．地方大学病院脳神経外科と周辺地域初期診療施設との連携 - 救急医療における現状と問題点 -，第14回日本脳神経外科救急学会，さいたま市，2008年

C.2. 棟方　聡，スパズム治療の標準化に向けて - どの施設でも行い得る combination therapy の提案 -，第25回スパズムシンポジウム，松江市，2008年

C.　19件

Ⅲ．学術賞

弘前大学医学部学術奨励賞，棟方聡，Effect of a free radical scavenger, edaravone, in the treatment of patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage.

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

a. 平成20年度科学研究費補助金（基盤研究（C)），脳循環自動調節能のメカニズムに関する分子生物学的研究，大熊洋揮，1,560千円

b. 平成20年度科学研究費補助金（基盤研究（C)），分子標的治療薬とプロティオグリカンによるグリオーマ細胞吸着療法の開発，浅野研一郎，1,300千円

2009年度

研究代表者として

・平成21年度科学研究費補助金，基盤研究（C)，脳循環自動調節能のメカニズムに関する分子生物学的研究，大熊洋揮，1,560千円

・平成21年度科学研究費補助金，基盤研究（C)，分子標的治療薬とプロティオグリカンによるグリオーマ細胞吸着法の開発，浅野研一郎，1,170千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2008年度

研究代表者として

平成20年度弘前大学若手萌芽研究，VEGF 直接阻害による Neurovascular Unit 保護法の開発，嶋村則人，600千円

2009年度

研究代表者として

平成21年度科学研究費補助金不採択者支援事業，若手研究（B)，嶋村則人，100千円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2008年度

John H Zhang, Loma Linda University, USA, 4日間

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

28. 歯科口腔外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

達成度（60%）

理念：

大学院大学臨床系講座に所属する教員として，口腔顎顔面領域に発生する難治性疾患の病態解析とそれに対する治療法の開発を目標とし，基礎的・臨床的研究活動に従事する。

また，教員各自の研究テーマをさらに飛躍させ，研究活動を活性化させる。

これから２年間の目標：

（1）基礎研究では,口腔癌の新規治療法の開発に関わる研究ならびに病的顎骨吸収のメカニズムに関する研究を推進する。

（2）臨床研究では，本院歯科口腔外科における症例動態を分析し，適切な病診連携の在り方を検討する。また，先進医療である口腔インプラントについては，安全かつ安心な術式確立のための，臨床研究を積極的に行う。

（3）症例報告では，稀有な症例あるいは新たなる手術術式の工夫などを積極的に行う。

以上の目標を達成するため，研究成果は国内外の学会で発表し，直ちに Impact Factor のついた学会雑誌に掲載発表されるよう努力する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　3，助手　0，医員　7，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	木村　博人	H 20.04.01 ～H 21.03.31
	准教授	専　任	小林　　恒	H 20.04.01 ～H 21.03.31
	講　師	専　任	佐藤　　寿	H 20.07.01 ～H 21.03.31
	助　教	専　任	佐藤　　寿	H 20.04.01 ～H 20.06.30
	助　教	専　任	成田　憲司	H 20.04.01 ～H 21.03.31
	助　教	専　任	榊　　宏剛	H 20.04.01 ～H 21.03.31
研究課題	1．顎骨嚢胞ならびに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究 2．病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性 3．骨細胞の機能と骨吸収に関する分子生物学的研究 4．口腔粘膜および骨の再生医療研究 5．悪性腫瘍細胞の増殖抑制因子と治療法に関する緩研究 6．口腔癌患者の特異的・非特異的免疫能と予後との関連 7．光線力学療法の抗腫瘍メカニズムの解析 8．顎関節滑液分析による関節疾患の成因と治療法に関する研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　3，助手　0，医員　7，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	木村　博人	H 21年4月1日～H 22年3月31日
	准教授	専　任	小林　　恒	H 21年4月1日～H 22年3月31日
	講　師	専　任	佐藤　　寿	H 21年4月1日～H 22年3月31日
	助　教	専　任	成田　憲司	H 21年4月1日～H 22年3月31日
	助　教	専　任	榊　　宏剛	H 21年4月1日～H 22年3月31日
	助　教	専　任	久保田耕世	H 21年4月1日～H 22年3月31日
研究課題	1．顎骨嚢胞ならびに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究 2．病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性 3．骨細胞の機能と骨吸収に関する分子生物学的研究 4．口腔粘膜および骨の再生医療研究 5．悪性腫瘍細胞の増殖抑制因子と治療法に関する緩研究			

研究課題	6．口腔癌患者の特異的・非特異的免疫能と予後との関連 7．光線力学療法の抗腫瘍メカニズムの解析 8．顎関節滑液分析による関節疾患の成因と治療法に関する研究

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Hirotaka Sakaki, Hisashi Sato, Wataru Kobayashi, Kenji Narita, Tomoaki Asano, and Hiroto Kimura. Pleomorphic Adenoma of the Palate Detected by Positron Emission Tomography / Computed Tomography Screening. Asian J Oral Maxillofac Surg. 20:97-101,2008.

2009年度

B.1. Tomoh Matsumiya, Ken Ota, Tadaatsu Imaizumi, Hidemi Yoshida, Hiroto Kimura and Kei Satoh. Characterization of Synergistic Induction of CX3CL1/Fractalkine by TNF-α and IFN-γ in Vascular Endothelial Cells: An Essential Role for TNF-α in Post-Transcriptional Regulation of CX3CL1. The Journal of Immunology. 2010;184;4205-4214; originally published online Mar 15 2010.

和文

2009年度

B.1. 野口　誠，津野宏彰，吉田敬子，野口　映，新井直也，後藤昌昭，木村博人．「医学部附属病院口腔外科における口腔インプラント治療の現状」．日本顎顔面インプラント学会誌　第8巻1号　P 41-46.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

C.1. 木村博人．「不整脈の患者さんが来院したら」．白川正順／監著．「ピンポイントで読む　チームのための有病者歯科医療」．クインテッセンス出版株式会社，東京都，2008年7月10日

C.2. 木村博人．「口腔環境と摂食・嚥下障害」．山口　徹・北原光夫・福井次矢／総編集．「今日の治療指針2009年版（Volume 51）」．株式会社　医学書院，東京都，2009年1月1日

2009年度

B.1. 著者名：木村博人／榊　宏剛
著述文表題：「口腔感染症とその対策」
編集委員：福田仁一／瀬戸晥一／栗田賢一／木村博人／野間弘康／浅波惣一郎
書名：「別冊　Quintessence 口腔外科　YEAR BOOK　一般臨床家，口腔外科医のための口腔外科ハンドブック '09」　P 147 ～ 161
発行所：クインテッセンス出版株式会社
発行所地名：東京都文京区本郷3丁目2-4
発表年：2009年4月10日

B.2. 著者名：木村博人
著述文表題：「嚢胞」
監修：日野原重明・井村裕夫
編集：山本悦秀
書名：「看護のための最新医学講座　［第2版］　23　歯科口腔系疾患」　P 103 ～ 117
発行所：山中書店
発行地名：東京都文京区白山1-25-14
発表年：2009年8月31日

B.3. 編集委員：野間弘康／瀬戸晥一／福田仁一／栗田賢一／木村博人／浅波惣一郎
書名：「日本口腔外科学会編　イラストでみる口腔外科手術」

発行所：クインテッセンス出版株式会社
発行地名：東京都文京区本郷3丁目2-6
発表年：2010年1月10日

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
The Journal of Immunology	5.646	1	5.646
Total		1	5.646

和文（論文数）

雑　誌　名	2008年度	2009年度
日本顎顔面インプラント学会誌		1
計	0	1

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	1	0
編　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	2
分担執筆	0	2

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Wataru Kobayashi, Beng Gwan Teh, Hirotaka Sakaki, Hiroto Kimura H, and Morio Nagahata. Concurrent chemoradiation with intra-arterial docetaxel-nedaplatin for advanced oral cancers. 12th International Congress on Oral Cancer, Shanghai,May 22-25, 2008.

C.2. Beng Gwan Teh, Wataru Kobayashi, Hisashi Sato, and Hiroto Kimura. Clinical Study of metachronous multiple oral cancers. 12th International Congress on Oral Cancer, Shanghai, May 22-25, 2008.

C.3. Hisashi Sato, Wataru Kobayashi, Hirotaka Sakaki, Roh Fukui, and Hiroto Kimura. Concurrent chemoradiation with intra-arterial docetaxel- nedaplatin for advanced oral cancers. 8th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, Bangkok, November 3-7, 2008.

C.4. Kousei Kubota, Hisashi Sato, Wataru Kobayashi, and Hiroto Kimura. A case of congenital ranula. 8th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, Bangkok, November 3-7, 2008.

（2）全国学術集会

2008年度

C.　5件

2009年度

A.1.　木村博人.「医科系大学附属病院歯科口腔外科から見た口腔医学」. 第36回福岡歯科大学学会総会. 福岡市, 平成21年12月23日

B.1.　小林　恒／佐藤　寿／中川　祥／久保田耕世／今　敬生／木村博人.「口腔癌に対する化学放射線同時併用療法後の救済手術」. 第28回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. 東京都, 平成22年1月28・29日

C.　6件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

若手研究（B）

「新規分化誘導遺伝子　RIG-I の導入による新たなる口腔治療法の開発」榊　宏剛, 1,600千円

2009年度

研究代表者として

1．若手研究（B）

「新規遺伝子　RIG-I を用いた細胞周期制御による癌治療法の開発」

榊　宏剛, 1,500（千円）

2．若手研究（B）

「口腔癌における PDT の革新的治療法・基礎的研究」

中川　祥, 2,300（千円）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2009年度

研究代表者として

1．弘前大学若手研究者支援事業

「歯肉線維芽細胞の病原体認識機構を利用した新規口腔癌免疫法の開発」

久保田耕世

470（千円）

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

（1）国際交流, 国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

29. 形成外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

学会発表，論文作成とも増やすことができたが，十分とはいえず，今後も努力が必要と思われた。

理念：

形成外科の発展につながる研究を行う。

これから２年間の目標：

学会発表，論文作成を活発に行う。

臨床に応用できる研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　3，助手　0，医員　3，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	主任教授	併　任	澤村　大輔	2008．4．1～2009．3．31
	講　師	専　任	横井　克憲	2008．4．1～2009．3．31
	助　教	専　任	漆舘　聡志	2008．4．1～2009．3．31
	助　教	専　任	渡辺　庸介	2008．4．1～2009．3．31
	助　教	専　任	三上　　誠	2008．4．1～2009．3．31
研究課題	1．創傷治癒に関する研究 2．組織移植に関する研究 3．皮弁生着に関する研究 4．組織培養に関する研究			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　3，助手　0，医員　3，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	澤村　大輔	2009.4.1～2010.3.31
	講　師	専　任	横井　克憲	2009.4.1～2010.3.31
	助　教	専　任	漆舘　聡志	2009.4.1～2010.3.31
	助　教	専　任	渡辺　庸介	2009.4.1～2010.3.31
	助　教	専　任	三上　　誠	2009.4.1～2010.3.31
研究課題	1．創傷治癒に関する研究 2．組織移植に関する研究 3．皮弁生着に関する研究 4．組織培養に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. Ezoe K, Yotsuyanagi T, Saito T, Ikeda K, Yamauchi M, Arai K, Urushidate S, Yokoi K. A circumferential incision technique to release wide scar contracture. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2008;61(9):1059-1064.

2009年度

A.1. Urushidate S,Takahashi I, Matsuzaka M, Danjo K, Umeda T, Inoue R, Yamai K, Nakaji S. Influence of obesity on neutrophil function. J Physical Fitness Nutrition and Immunology. 2009;62(8):1020-1024.

B.1. Yamauchi M, Yotsuyanagi T, Ezoe K, Saito T, Yokoi K, Urushidate S. Estlander flap combined with an extended upper lip flap technique for large defects of lower lip with oral commissure. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2009;62:997-1003.

B.2. Saito T, Yotsuyanagi T, Ezoe K, Ikeda K, Yamauchi M, Arai K, Urushidate S, Mikami M. The acute surgical management of injury to the helix and antihelix in patients with large body surface area burns. J Plast Reconstr Aesthet Surg 2009;62:1020-1024.

和文

2009年度

B.1. 四ッ柳高敏，新井孝志郎，須田哲也，山下　建，斉藤　有，漆舘聡志．耳介熱傷瘢痕拘縮に対する皮弁再建．形成外科　2009;52:1407-1415,2009.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 三上　誠，四ッ柳高敏，樋熊有子，漆舘聡志，横井克憲．小耳症におけるドレッシングの工夫．日形会誌 2009;29:302-306.

B.1. 山内　誠，四ッ柳高敏，横井克憲，漆舘聡志，樋熊有子，三上　誠．慢性円板状エリテマトーデス患者の下口唇に発生した有棘細胞癌の2例．皮膚科の臨床　2009;51:937-940.

B.2. 萩原千尋，北村英夫，石川博康，原田　研，渡辺庸介，樋熊有子，横井克憲，橋本　功．フッ化水素酸による化学熱傷の2例．青県病誌　2010;55:4-6.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Plast Reconstr Aesthet Surg	0.623	1	0.623
Total		1	0.623

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Physical Fitness Nutrition and Immunology	0	0	0
J Plast Reconstr Aesthe Surg	1.235	2	2.47
Total		2	2.47

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
形成外科	0	1
計	0	1

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
日本形成外科学会誌		1
皮膚科の臨床		1
計	0	2

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2009年度

C.1. Urushidate S, Yotsuyanagi T, Higuma Y, Ezoe K, Yamauchi M, Mikami M, Watanabe Y, Saito M, Saito Y. Our technique of ear elevation for lobule-type microtia. The 10th congress of the international confederation for plastic reconstructive and aesthetic surgery-Asian Pacific Section. October 8-10.2009.

（2）全国学術集会

2008年度

C.　3 件

2009年度

C.　1 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2009年度

日本褥瘡学会東北地方会
日本熱傷学会東北地方会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

30. 救急・災害医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	浅利　　靖	12か月
	講　師	専　任	大川　浩文	12か月
	助　教	併　任	安達　淳司	12か月
	助　教	併　任	矢口　慎也	12か月
研究課題	1．AED 内部データの取り出しと AED の効果の検証体制構築の研究 2．青森県における汚染傷病者の搬送・治療についての研究 3．極寒・吹雪の環境下で温暖な医療環境を構築するための研究 4．毒薬物による急性中毒での病態生理の研究 5．急性中毒初期治療における活性炭の効果および体内動態の研究 6．放射線災害時の初期トリアージ技術の研究 7．キレート剤の安全性に関わる研究 8．心肺蘇生法の効果的な教育についての研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. *Eiji Hashiba, Hironori Ishihara, Toshihito Tsubo, Hirobumi Okawa, Kazuyoshi Hirota. Use of initial distribution volume of glucose to determine fluid volume loading in pulmonary thromboembolism and right ventricular myocardial infarction. Journal of anesthesia. 2008;22(4):453-456.

和文

2008年度

B.1. * 大川浩文，遠瀬龍二，橋場英二，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．肺毛細血管楔入圧が正常な急性心筋梗塞患者における胸郭インピーダンス法と肺動脈カテーテルを用いた肺内水分状態および血行動態の検討．日本集中治療医学会雑誌　2008;15(3):301-306.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 大川浩文．顔面・気道熱傷．救急医学　2009;33(1):61-64.

A.2. 浅利　靖. 急性中毒治療の原則. 今日の治療指針2008．2008;110-111.

A.3. 浅利　靖.「救急診療ガイドライン」 急性中毒の標準治療. 救急医学　32(10):1133-1137

(3) 著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 浅利　靖. 救急救命に役立つ基礎知識　⑦放射線障害の予防と緊急時の対応，田中秀治編. 救急救命レビューノート，294-297，文光堂，東京，2008.

A.2. 浅利　靖. 第12章中毒・環境要因による疾患, 中毒性疾患, 6. 毒劇物中毒, 7. アジ化ナトリウム, 83 青酸（シアン）中毒. 高久史麿，尾形悦郎，黒川清，矢崎義雄編. 新臨床内科学第9版，医学書院，東京，2009.

A.3. 浅利　靖. 6. 災害対策，3）災害時の医療の原則，ｃ．病院での医療. 山本保博，鵜飼卓，杉本勝彦編. 災害医学，214-219，南山堂，2009.

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度
日本集中治療医学会雑誌	1
救急医学	1
計	2

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

和文

種　　目	2008年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	3

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度
な　　し	
計	0

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2008年度

C.1. * Hirobumi Okawa, Tomoko Ono, Eiji Hashiba, Toshihito Tsubo, Hironori Ishihara, Kazuyoshi Hirota. EFFECTS OF DEXMEDETOMIDINE ON DIURNAL HORMONE SECRETION IN ARTIFICALLY VENTILATED INTENSIVE CARE PATIENTS: A COMPARATIVE STUDY WITH PROPOFOL. International Anesthesia Research Society. San Diego (USA).2009.

(2) 全国学術集会

2008年度

B.1. 浅利　靖. 活性炭と下剤による消化管除染. 第30回日本中毒学会学術集会. 和歌山. 2008.

B.2. 浅利　靖．急性中毒の標準治療―わが国における中毒治療の現状，活性炭について．第30回日本中毒学会学術集会．和歌山．2008．

C.1. * 小野朋子，橋場英二，大川浩文，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．塩酸デクスメデトミジン投与にもかかわらず強度せん妄を来した症例の検討．第55回日本麻酔科学会．横浜．2008．

C.2. * 橋場英二，石原弘規，小野朋子，大川浩文，坪　敏仁，廣田和美．敗血症性ショック時の体液量評価におけるブドウ糖初期分布容量の有用性の検討．第55回日本麻酔科学会．横浜．2008．

C.3. 矢口慎也，安達淳治，大川浩文，大串和久，大沢　博，加藤博之，浅利　靖．極寒・吹雪の環境下で医療救護所を設営するための検討．第36回日本救急医学会．札幌．2008．

C.4. * 大串和久，大沢　博，加藤博之，矢口慎也，安達淳司，大川浩文，浅利　靖．ER 流 KYT を用いた救急外来におけるリスクマネジメント教育の実践．第36回日本救急医学会．札幌．2008．

C.5. * 大川浩文，小野朋子，橋場英二，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．オフポンプ冠動脈バイパス術後患者におけるプレセデックスの制吐作用の検討．第36回日本集中治療医学会学術集会．大阪．2008．

C.6. 浅利　靖，小菅宇之，長谷敦子，畑中哲夫，坂本哲也，安井大雅，矢口慎也，安達淳治，大川浩文，丸川征四郎．AED 内部データの取り出しとその検証を推進するための検討．第36回日本救急医学会．札幌．2008．

C.7. 冨岡譲二，村田厚夫，吉岡敏治，遠藤容子，奥村　徹，白川洋一，亀井徹正，浅利　靖，嶋津岳士，坂本哲也．急性中毒に対する血液浄化法．日本中毒学会が推奨する急性中毒の標準治療とその現状．第36回日本救急医学会．札幌．2008．

C.　9件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

他研究単位との研究分担者として

1. 浅利　靖，「救急医療機関の役割の検証」，平成20年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」（主任研究者　山本保博　日本医科大学名誉教授），「救急医療体制の推進に関する研究」の分担研究　配分額　90万円

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

31. 臨床検査医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

2008年度にはインパクファクター＞3の原著論文2本，同＞4の総論1本を発表することができ概ね達成できたと評価している。

理念：

疾患の診断，病態評価，治療法の選択・効果判定，そして予後予測における不確実性を軽減し得る新たな検査法の開発・実用化に貢献可能な研究を行う。

これから２年間の目標：

インパクトファクター＞5の国際学術雑誌に筆頭著者として論文を発表する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	保嶋　　実	12 ヶ月
	准教授	専　任	杉本　一博	12 ヶ月
研究課題	1．高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査法同定の確立 2．糖尿病性腎症感受性遺伝子多型および変異の検査法同定の確立 3．病院内感染対策防止策に貢献する検査部医療情報システムの構築 4．糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割 5．糖尿病性神経障害の臨床診断と評価法の検討			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　1，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	保嶋　　実	12 ヶ月
	准教授	専　任	杉本　一博	12 ヶ月
研究課題	1．高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査法同定の確立 2．糖尿病性腎症感受性遺伝子多型および変異の検査法同定の確立 3．病院内感染対策防止策に貢献する検査部医療情報システムの構築 4．糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割 5．糖尿病性神経障害の臨床診断と評価法の検討			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Sugimoto K, Rashid IB, Kojima K, Shoji M, Tanabe J, Tamasawa N, Suda T, Yasujima M. Time course of pain sensation in rat models of insulin resistance, type 2 diabetes, and exogenous hyperinsulinaemia. Diabetes Metab Res Rev 24(8):642-650,2008.

B.1. Suzuki C, Watanabe M, Tomiyama M, Sugimoto K, Nanba E, Jackson M, Kimura T, Seino Y, Wakasaya Y, Kawarabayashi T, Miki Y, Yamamoto-Watanabe Y, Shoji M. A Novel Mutation in the Arylsulfatase A Gene Associated with Adult-Onset Metachromatic Leukodystrophy without Clinical Evidence of Neuropathy. Eur Neurol 60(6):310-311,2008.

B.2. Tanabe J, Tamasawa N, Yamashita M, Matsuki K, Murakami H, Matsui J, Sugimoto K, Yasujima M, Suda T. Effects of combined PPARgamma and PPARalpha agonist therapy on reverse cholesterol transport in the

Zucker diabetic fatty rat. Diabetes Obes Metab 10(9):772-779,2008.

B.3. Tomita H, Metoki N, Saitoh G, Ashitate T, Echizen T, Katoh C, Fukuda M, Yasujima M, Osanai T, Okumura K: Elevated plasma brain natriuretic peptide levels independent of heart disease in acute ischemic stroke: correlation with stroke severity. Hypertens Res 31(9):1695-1702,2008.

B.4. Hu DL, Omoe K, Inoue F, Kasai T, Yasujima M, Shinagawa K, Nakane A. Comparative prevalence of superantigenic toxin genes in meticillin-resistant and meticillin-susceptible Staphylococcus aureus isolates. J Med Microbiol 57(9):1106-1112,2008.

B.5. Kageyama K, Sakihara S, Yamashita M, Takahashi K, Kawashima S, Tanabe J, Tsutaya S, Yasujima M, Suda T. A case of multiple endocrine neoplasia type II accompanied by thyroid medullary carcinoma and pheochromocytomas expressing corticotropin-releasing factor and urocortins. Am J Med Sci 335(5):398-402, 2008.

2009年度

B.1. Kageyama K, Kushibiki M, Hanada K, Sakihara S, Yasujima M, Suda T. Growth hormone-releasing peptide-2 stimulates secretion and synthesis of adrenocorticotropic hormone in mouse pituitary. Regul Pept, 158:116-120,2009.

B.2. Suzuki K, Nishimaki K, Okuyama K, Katoh T, Yasujima M, Chihara J, Suwabe A, Shibata Y, Takahashi C, Takeda H, Ida S, Kaku M, Watanabe A, Nukiwa T, Niitsuma K, Kanemitsu K, Takayanagi M, Ohno I. Trends in antimicrobial susceptibility of Streptococcus pneumoniae in the Tohoku district of Japan: a longitudinal analysis from 1998 to 2007. Tohoku J Exp Med, 220:47-57,2010.

和文

2008年度

B.1. 新岡丈典，岡村祐嗣，工藤正純，齋藤　武，木村有希，木村正彦，小島佳也，保嶋　実，早狩　誠．レボフロキサシン適正使用のための PK/PD を考慮したサーベイランスの試み．日本病院薬剤師会雑誌　44(6):897-900,2008.

（2）総説

英文

2008年度

A.1. Sugimoto K, Yasujima M, Yagihashi S. Role of advanced glycation end products in diabetic neuropathy. Curr Pharm Des 14(10):953-961,2008.

和文

2008年度

A.1. 杉本一博，保嶋　実．検査専門集団の特性を活かした「臨床検査科」の対応．臨床病理　56:684-688,2008.

A.2. 杉本一博，保嶋　実，八木橋操六．糖尿病神経障害 - 成因・診断・治療の新展開：糖尿病性神経障害におけるインスリン分泌・作用異常の関与．糖尿病合併症　22:34-39,2008.

A.3. 杉本一博，保嶋　実，八木橋操六．糖尿病ニューロパチー．Clinical Neuroscience，26:1230-1232,2008.

2009年度

A.1. 保嶋　実，蔦谷昭司．地域住民におけるサイアザイド感受性 Na-Cl 共輸送体（SLC12A3）遺伝子変異頻度について－岩木町健康増進プロジェクト．臨床病理 57:391-396,2009.

A.2. 保嶋　実，蔦谷昭司．サイアザイド感受性 Na-Cl 共輸送体（SLC12A3）遺伝子異常による低 K 血症．BIO Clinica，24:927-931,2009.

A.3. 杉本一博．糖尿病性神経障害の成因に関する基礎的研究：インスリン作用異常の役割．弘前医学 61:65-68,2010.

A.4. 杉本一博．糖尿病多発神経障害研究の展開 Up-to-date．糖尿病 53:86-89,2010.

B.1. 櫛引美穂子，崎原　哲，保嶋　実．唾液中コルチゾール測定はクッシング症候群の診断に有用か？．検査と技術 37:766-768,2009.

B.2. 熊坂隆一郎，保嶋　実．注目される新しい検査　血管内皮マーカー　エンドセリン．Medical Technology，37:551-553,2009.

B.3. 庄司　優，保嶋　実．【高血圧（第4版）　日本における最新の研究動向】 臨床編 臓器障害進展予測検査の進歩　BNP．日本臨床67巻増刊号7高血圧（下）:187-190,2009.

B.4. 庄司　優，保嶋　実．【高血圧（第4版）　日本における最新の研究動向】 基礎編 循環生理活性物質の最新知見　血管作動性物質　生合成，分泌，生理作用　バソプレシン．日本臨床67巻増刊号6高血圧(上):212-215,2009.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 保嶋　実．内分泌学的検査その他　血漿レニン活性／総レニン／活性型レニン．編集，伊藤機一他；監修，櫻林郁之介，熊坂一成．最新　臨床検査項目辞典，pp437-438，医歯薬出版，東京，2008.

A.2. 保嶋　実．内分泌学的検査その他　アンジオテンシンⅠ．編集，伊藤機一他；監修，櫻林郁之介，熊坂一成；最新　臨床検査項目辞典，pp438-439，医歯薬出版，東京，2008.

A.3. 保嶋　実．内分泌学的検査その他　アンジオテンシンⅡ．編集，伊藤機一他；監修，櫻林郁之介，熊坂一成；最新　臨床検査項目辞典，pp439-440，医歯薬出版，東京，2008.

A.4. 保嶋　実. 内分泌学的検査その他　心房性Na利尿ペプチド. 編集, 伊藤機一他；監修, 櫻林郁之介, 熊坂一成；最新　臨床検査項目辞典，pp440，医歯薬出版，東京，2008.

A.5. 保嶋　実．内分泌学的検査その他　脳性 Na 利尿ペプチド．編集, 伊藤機一他；監修, 櫻林郁之介, 熊坂一成；最新　臨床検査項目辞典，pp440-441，医歯薬出版，東京，2008.

A.6. 保嶋　実. 内分泌学的検査その他　脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント. 編集, 伊藤機一他；監修, 櫻林郁之介，熊坂一成；最新　臨床検査項目辞典，pp441，医歯薬出版，東京，2008.

A.7. 保嶋　実．生化学検査／ D. アミノ酸および含窒素化合物　尿素窒素（BUN）．編集，和田攻他；臨床検査ガイド2001 ～ 2010，pp221-222，分光堂，東京，2009.

A.8. 保嶋　実．病理志向的アプローチ（臨床医学総論）病因論と病理学．編集，岩谷力他；監修，中村隆一；入門リハビリテーション医学第3版，pp48-64，医歯薬出版，東京，2008.

A.9. 保嶋　実．病理志向的アプローチ(臨床医学総論) 診断学概要(臨床検査)．編集, 岩谷力他；監修, 中村隆一；入門リハビリテーション医学第3版，pp93-97，医歯薬出版，東京，2008.

A.10. 杉本一博．運動神経優位の末梢神経障害を示した糖尿病症例 . 編集，八木橋操六；監修，豊田隆謙；診療に役立つ糖尿病神経障害の新知識，pp47-52，東京医学社，東京，2008.

A.12. 杉本一博．糖尿病神経障害の治療 . 編集，八木橋操六；監修，豊田隆謙；診療に役立つ糖尿病神経障害の新知識，pp98-103，東京医学社，東京，2008.

2009年度

B.1. 小川美歌，保嶋　実．がんの臨床的特徴とリハビリテーションの意義．上月正博編集，新編内部障害のリハビリテーション．375-376，医歯薬出版，東京，2009.

B.2. 小川美歌，保嶋　実．がんリハビリテーションの実際．上月正博編集，新編内部障害のリハビリテーション．377-383，医歯薬出版，東京，2009.

B.3. 小川美歌，保嶋　実．終末期ケア（ターミナルケア）と疼痛対策．上月正博編集，新編内部障害のリハビリテーション．384-385，医歯薬出版，東京，2009.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Diabetes Metab Res Rev	3.087	1	3.087
Curr Pharm Des	4.868	1	4.868
Diabetes Obes Metab	3.441	1	3.441
Eur Neurol	1.323	1	1.323
Hypertens Res	2.951	1	2.951
J Med Microbiol	2.091	1	2.091
Am J Med Sci	1.618	1	1.618
Total		7	19.379

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Regul Pept	2.160	1	2.160
Tohoku J Exp Med	1.347	1	1.347
Total		2	3.507

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
臨床病理	1	1
糖尿病合併症	1	
Clinical Neuroscience	1	
BIO Clinica		1
弘前医学		1
糖尿病		1
検査と技術		1
Medical Technology		1
日本臨床		2
計	3	8

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	12	3

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Sugimoto K, Rashid IB, Baba M, Tanabe J, Tamasawa N, Suda T, Yasujima M. Pioglitazone Delays or Prevents Small Fiber Dysfunction in Zucker Diabetic Fatty Rats. 68th Scientific sessions of the American Diabetes Association, San Francisco, USA, June 6-10,2008.

C.2. Tsutaya S, Yasujima M. Mutational analysis of SLC12A3 gene in 43 patients with Gitelman's syndrome. 22th Scientific Meeting International Society of Hypertension, Berlin, Germany, June 14-19,2008.

C.3. Tsutaya S, Yasujima M. Mutational analysis of SLC12A3 gene in a Japanese population with hypokalemia. 22th Scientific Meeting International Society of Hypertension, Berlin, Germany, June 14-19,2008.

2009年度

C.1. Tsutaya S, Sugimoto K, Yasujima M. T180K variant in the SLC12A3 is associated with impaired glucose tolerance in a Japanese population. The Iwaki Health Promotion Project. World Congress of Nephrology, Milan, Itary, May 22-26,2009.

C.2. Tsutaya S, Sugimoto K, Yasujima M. Mutational analysis of SLC12A3 gene in a Japanese population. The Iwaki Health Promotion Project. World Congress of Nephrology, Milan, Itary, May 22-26,2009.

C.3. Sugimoto K, Baba M, Yasujima M. Angiotensin II type-1 receptor blocker olmesartan increases neuronal expression of angiotensin II receptors in dorsal root ganglia and ameliorates diabetic peripheral neuropathy in Zucker diabetic fatty rats. 45th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes. Vienna, Austria. September 30-October 2,2009.

C.4. Sugimoto K, Yasujima M. Effects of Treatment with Angiotensin II Type-1 Receptor Blocker on Peripheral Nerve Dysfunction in Zucker Diabetic Fatty Rats. 69th Scientific sessions of the American Diabetes Association, New Orlenans, USA, June 5-9,2009.

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 保嶋　実，蔦谷昭司．血圧異常と低K血症におけるサイアザイド感受性 Na-Cl 共輸送体（SLC12A3）遺伝子解析の意義．第15回 日本遺伝子診療学会，宮城県仙台市，2008.

C.　15件

2009年度

B.1. 杉本一博，保嶋　実．シンポジウム「医学教育における臨床検査医学の重要性とその貢献」弘前大学医学部医学科における臨床検査医学教育の現状と課題．第33回日本臨床検査医学会東北支部例会，宮城県仙台市，2009.11.14

C.　11件

Ⅲ．学術賞

2009年度

弘前大学医学部学術特別賞受賞（杉本一博）
日本臨床検査医学会学会賞奨励賞（杉本一博）

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
基盤研究（C）課題番号19590546 研究代表者：保嶋　実　配分額：104万円
「糖尿病性腎症感受性遺伝子マーカーとしてのSLC12A3遺伝子多型の意義」

2009年度

研究代表者として
基盤研究（C）課題番号19590546 研究代表者：保嶋　実　配分額：91万円
「糖尿病性腎症感受性遺伝子マーカーとしてのSLC12A3遺伝子多型の意義」
基盤研究（C）課題番号21590609 研究代表者：杉本一博 配分額：104万円
「糖尿病多発神経障害における表皮内神経線維脱落の進行様式と分子機構の解明」

（2）その他の省庁からの研究費

2009年度

他研究単位との研究分担者として
杉本一博：厚生労働科学研究費補助金（糖尿病戦略等研究事業）80万円

（3）学内の研究助成

2009年度

研究代表者として
保嶋　実：青森医学振興会助成金　95万円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2008年度

例会長　保嶋　実，日本臨床検査自動化学会第22回春季セミナー，弘前市

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

32. 臨床薬理学講座　（資料なし）

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

（2）総説

（3）著書

（4）その他

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total			

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
計		

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

和文

種　　目	2008年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

３．その他（A，B のみ）

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

（2）全国学術集会

Ⅲ．学術賞

Ⅳ．共同研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

（2）その他の省庁からの研究費

（3）学内の研究助成

（4）民間の研究助成

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

ｆ）その他

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

ｂ）地方レベルの学会の主催

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

Ⅶ．その他

33. 小児外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

小児外科の現人員から主眼は多忙な診療と学部教育（臨床実習，系統別講義等）に置かざるを得ないが，それでも原著英文が英文誌に掲載された。

理念：

小児外科疾患への日常診療の中から未解決の問題点を研究課題とし，患者の QOL に貢献する。

これから２年間の目標：

1）小児肝胆道系疾患の病因，病態の解明

2）QOL を目指した鏡視下手術の開発

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	棟方　博文	1年
	講　師	専　任	須貝　道博	1年
研究課題	1．肝胆道系疾患の病因・病態解明に関する基礎的・臨床的研究 2．先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究 3．小児外科疾患に対する超音波診断と超音波治療 4．QOL を目指した手術法の開発			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	棟方　博文	1年
	講　師	専　任	須貝　道博	1年
研究課題	1．肝胆道疾患の病因・病態解明に関する基礎的・臨床的研究 2．先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関するの基礎的研究 3．小児外科疾患に対する超音波診断学，超音波治療 4．QOL を目指した手術法の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Oohashi M, Miura T, Jin H, Yoshihara S, Sugai M, Sasaki M. Intraoperative ultrasound as an educational guide for laparoscopic biliary surgery World Journal of Gastroenterology 2008;14:2370-2376.

2009年度

A.1. Sugai M, Ishido K, Endoh M, Hada R, Munakata H. Sonogephic determination of wall thickness of the gallbladder in pediatric patients with pancreatico-biliary maljunction. J Hepatobiliary Pancreat Sci 2010;17:345-348.

和文

2008年度

A.1. 須貝道博，石戸圭之輔，棟方博文，照井君典，伊藤悦朗，袴田健一，鎌田義正．小児肝細胞癌に対する臨床病理学的検討．小児がん　2008;45:243-248.

（2）総説

英文

2008年度

A.1. Sugai M, Ishido K, Munakata H. Ultrasonographic diagnosis of duodenal stenosis. Correlation between ultrasonography and pathologic forms. J Ultrasound in Medicine 2008;27(3):S104.

和文

2009年度

A.1. 須貝道博，丸山将輝，石戸圭之輔，棟方博文．声門下狭窄：2ヶ月男児．気管切開を勧められた．小児外科，2009;41:788-789.

A.2. 須貝道博，丸山将輝，石戸圭之輔，棟方博文．舌小帯短縮症．3歳，女児．発語に問題はないが手術を勧められた．小児外科，2009;41:780-781.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2009年度

A.1. Umehara M, Sugai M, Kudo D, Hakamada K, Sasaki M, Munakata H. Torsion of an accesory lobe of the liver in a child; report of a case. Sug Today 2009;39:80-2.

和文

2009年度

A.1. 池永照史郎一期，須貝道博，坂本義之，棟方博文．先天性十二指腸膜様狭窄症に対し内視鏡切開を施行した1例．日臨外会誌　2009;70:1383-1387.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
World J Gastroenterology	2.092	0	0
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Hepatobiliary Pancreat Sci	1.87	0	0
Surg today	1.05	0	0
Total		0	0

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
日本小児がん	1	
計	1	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Ultrasound in Medicine	0.87	0	0.87
Total		0	0.87

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
小児外科		2
日臨外会誌		1
計	0	3

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Sugai M, Kimura A, Munakata H, Tsushima T. Thoracoscopic surgery for metastaic lung tumors in children. 11th World Congress of Endoscopic Surgery September 2-5 於 Yokohama.

2009年度

A.1. Sugai M, Ikenaga S, Ishido K, Sakamoto Y, Munakata H. Usefulness of preoperative ultrasonography in pediatric female unilateral inguinal hernia. 12 th Cogress of the World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology. Aug 30-Sep 3, 2009 Sydney, Australia.

（2）全国学術集会

2008年度

A.1. 須貝道博，脇屋太一，遠藤正章， 棟方博文.「ワークショップ 2」消化管疾患の超音波診断－今日的意義と明日への展望－小児外科領域の超音波診断．第81回日本超音波医学会　平成20.5.23 ～ 25　於神戸.

A.2. 須貝道博，池永照史郎，棟方博文，吉原秀一．シンポジウム－ 4　幽門狭窄症　当科における腹腔鏡下幽門筋切開術．第24回日本小児外科学会秋季シンポジウム　平成20.11.1 ～ 2　於沖縄.

A.3. 池永照史郎，須貝道博，棟方博文．シンポジウム12：癒着性イレウス－治療方針と手術適応－小児癒着性イレウスの手術のタイミング．第70回日本臨床外科学会総会　平成20.11.27 ～ 29　於東京.

C.　5件

2009年度

A.1. 須貝道博，坂本義之，棟方博文，照井君典，伊藤悦朗．シンポジウム「悪性腎腫瘍」悪性腎腫瘍に対する治療戦略．第46回日本小児外科学会総会　平21.6.1-3　大阪

C.　7件

Ⅲ．学術賞

2008年度

学術賞　優秀ポスター賞：11th World Congress of Endoscopic Surgery. September 2-5 於 Yokohama.

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2009年度

第39回青森県周生期医療研究会ｓ

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

34. 医学医療情報学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

50%

理念：

診療情報の病院内外間の流通促進

臨床応用を指向した情報分析方法の開発

これから２年間の目標：

医療地域連携に係る情報ネットワークシステムの構築

IT 化医療画像診断技術の開発

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	羽田　隆吉	11年
	准教授	専　任	佐々木賀広	4 年
	講　師	専　任	松谷　秀哉	2 年
研究課題	1．医療地域連携に係る『情報ネットワークシステムの在り方』 2．生体情報の定量化『高度先進医療技術―特に IT 化医療画像診断技術の開発』 3．画像特徴量抽出 4．表在型胃癌・食道癌の自動抽出			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	羽田　隆吉	12年
	准教授	専　任	佐々木賀広	5 年
	講　師	専　任	松谷　秀哉	3 年
研究課題	1．医療地域連携に係る『情報ネットワークシステムの在り方』 2．生体情報の定量化『高度先進医療技術―特に IT 化医療画像診断技術の開発』 3．画像特徴量抽出 4．表在型胃癌・食道癌の自動抽出			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 佐々木賀広，福田眞作，三上達也，羽田隆吉．潰瘍性大腸炎の内視鏡的重症度評価のための粘膜表面粗造度の定量　Gastroenterol Endosc 50;2891-2898,2008.

2009年度

B.1. 松谷秀哉．三つの異なるアンケートによる「情報Ⅰ」に対する状況の把握と改善の検討．弘前大学21世紀教育センター 21世紀フォーラム，5:49-56,2010.

B.2. 横田潤児，大場久照，松谷秀哉，渋谷　博，門前　暁，柏倉幾郎．保健学科の医療情報学教育における理解度調査（第3報）．弘前大学医学部保健学科紀要，9:135-142,2010.

（2）総説

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 佐々木賀広，三上達也，吉村徹郎，花畑憲洋，澤谷　学，荒木康光，羽田隆吉，福田眞作．像解析による下部食道柵状血管下端と胃粘膜ひだ上縁の決定．消化器科　2009;49:25-29.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

B.1. 弘前大学21世紀教育情報テキスト作成グループ，オープンソースソフトウェアによる情報リテラシー，共立出版，2008.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
Gastroenterol Endosc	1	
弘前大学21世紀教育センター21世紀フォーラム		1
弘前大学医学部保健学科紀要		1
消化器科		1
計	1	3

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	1	0

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Manabu Sawaya, Yoshihiro Sasaki, Tatsuya Mikami, Tetsuro Yoshimura, Ryukichi Hada* and Shinsaku Hukuda. Endoscopic localization of the esophago-gastric junction in patients with Barrett esophagus based on the definitions proposed in Japan or Europe - image processing approach. 16th United European Gastroenterology Week. Held at Wien October 2008.

C.2. Norihiro Hanabata, Takasato Igarashi, Yoshihiro Sasaki, Tatsuya Mikami, Tadashi Aizawa, *Shinsaku Fukuda. The use of carbon dioxide for insufflation reduces cardiovascular load in the procedure of endoscopic submucosal dissection for colorectal tumors. 16th United European Gastroenterology Week. Held at Wien October 2008.

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 佐々木賀広，羽田隆吉，福田眞作．ヘモグロビン壁内分布の描出と早期癌自動抽出システム．Gastroenterol Endosc 50 Supp1. 1;653,2008. 第75回日本消化器内視鏡学会総会シンポジウム1，横浜，2008年5月

B.2. 佐々木賀広，三上達也，福田眞作．画像解析による下部食道柵状血管下端と胃粘膜ひだ上縁の決定 Gastroenterol Endosc 50 Supp1. 2;1939,2008. 第76回日本消化器内視鏡学会総会ワークショップ15，東京，2008年10月

C.1. 大場久照，松谷秀哉，柏倉幾郎．放射線技術科学専攻学生の情報リテラシーに関する調査研究，第64回日本放射線技術学会総会学術大会，横浜，2008年4月

C.2. 松谷秀哉，松坂方士，中路重之，羽田隆吉．弘前大学附属病院における DPC 情報による院内がん登録と評価，第28回医療情報学連合大会，横浜，2008年11月

2009年度

B.1. 佐々木賀広，三上達也，福田眞作．胃粘膜模様と組織学的粘膜萎縮・腸上皮化成との相関．第77回日本消化器内視鏡学会総会　ワークショップ（東京）．

Ⅲ．学術賞

2008年度

***Travel Grants* to 16th United European Gastroenterology Week.**

Norihiro Hanabata, Takasato Igarashi, Yoshihiro Sasaki, Tatsuya Mikami, Tadashi Aizawa, Shinsaku Fukuda. The use of carbon dioxide for insufflation reduces cardiovascular load in the procedure of endoscopic submucosal dissection for colorectal tumors.

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

35. 総合診療医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

ERにおけるピットフォールを医学生や研修医に伝えるよう努める（70%）
外来診療における基本的臨床技能および臨床推論に関する教育法の開発（40%）
医師の生涯教育の方法論とその実践方法の研究（50%）
進行性腎疾患の進行機序に関する基礎的および臨床的研究（10%）

理念：

総合診療部は各診療科と連携して総合的な医療環境を構築し，これを通じて地域医療を支える全人的医療が行なえるような臨床医の基盤の養成を目指す。そのためには卒前・卒後教育に積極的に関わると同時に，教育内容のレベルアップのための研究を推進する。

これから２年間の目標：

卒前・卒後教育内容のレベルアップのための研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　2，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	加藤　博之	2008年4月～2009年3月
	講　師	専　任	大沢　弘	2008年4月～2009年3月
	講　師	専　任	大串　和久	2008年4月～2009年3月
研究課題	1．北米型ERにおける研修医，医学生の教育法の研究 2．北米型ERにおけるピットフォールの研究 3．症候学の教育法の研究 4．EBMに基づいた医療面接および身体診察に関する教育法の研究 5．進行性腎疾患の進行機序に関する基礎的および臨床的研究 6．医師の生涯教育－生涯現役で公正な能力をもった医師として活動するため－の方法論と実践方法の研究 7．総合診療を通じた地域社会への貢献策の検討と実践 8．総合診療と救急医療の統合による医学生および研修医の教育方法の研究 9．卒前医学教育における総合診療外来実習の効果的利用方法の検討 10．生涯教育の観点から見た医学生の診療録作成実習の教育的意義の検討			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　2，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	加藤　博之	2009年4月～2010年3月
	講　師	専　任	大沢　弘	2009年4月～2010年3月
	講　師	専　任	大串　和久	2009年4月～2009年9月
研究課題	1．北米型ERにおける研修医，医学生の教育法の研究 2．北米型ERにおけるピットフォールの研究 3．症候学の教育法の研究 4．EBMに基づいた医療面接および身体診察に関する教育法の研究 5．進行性腎疾患の進行機序に関する基礎的および臨床的研究 6．医師の生涯教育－生涯現役で公正な能力をもった医師として活動するため－の方法論と実践方法の研究 7．総合診療を通じた地域社会への貢献策の検討と実践 8．総合診療と救急医療の統合による医学生および研修医の教育方法の研究 9．卒前医学教育における総合診療外来実習の効果的利用方法の検討 10．生涯教育の観点から見た医学生の診療録作成実習の教育的意義の検討			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

C.1. Nakamura N, Fujita T, Kumasaka R, Murakami R, Shimada M, Shimaya Y, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Serum lipid profile and plasma fatty acid composition in hemodialysis patients -comparison with chronic kidney disease patients. in vivo 22:609-612,2008.

C.2. Fujita T, Yamabe H, Shimada M, Murakami R, Kumasaka R, Nakamura N, Osawa H, Okumura K. Thrombin enhances the production of monocyte chemoattractant protein-1 and macrophage inflammatory protein-2 in cultured rat glomerular epithelial cells. Nephrol Dial Transplant 23:3412-3417,2008.

2009年度

B.1. Shimada M, Yamabe H, Osawa H, Nakamura N, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Osanai T, Okumura K. Extracellular matrix metalloproteinase inducer is expressed in the proximal tubular epithelial cells of the human kidney. Nephrology 2009;14:171-178.

和文

2008年度

A.1. 大串和久，大沢　弘，加藤博之．医学部医学科臨床入門科目「PreBSL」における模擬患者による医療面接実習の教育効果　21世紀教育フォーラム　2009;4:11-16

A.2. 加藤博之，中根明夫，上野伸哉，大沢　弘，大串和久．医学部医学科 3 年生に対するチュートリアル導入授業 -「 ラージクラス・チュートリアル 」による試み - 21世紀教育フォーラム　2009;4:17-26

A.3. 佐藤哲観，蝦名正子，川口陽子，廣田和美，加藤博之．医学部医学科学生における医療用麻薬に関する知識－系統講義による変化－．緩和医療学　11(1):52-58,2009.

2009年度

A.1. 加藤博之，大沢　弘．医学生に対する診断の思考過程教育における POS 診療録記載演習の意義．21世紀教育フォーラム，2010;5:31-37.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 大串和久，大沢　弘，加藤博之．用手的気道確保　救急医学 33:19-22,2009.

2009年度

A.1. 大串和久，大沢　弘，加藤博之．前立腺炎．救急医学　2009，33:1406-1409.

B.1. 遠藤　哲，加藤博之，福田眞作．実地診療における上部消化管症状の診かた－見落とさずに適切に対応するために－．Medical Practice 2009;26(5):751-757.

B.2. 鬼島　宏，加藤博之．CPC（臨床病理検討会）．病理と臨床　2009;27:25-35.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 加藤博之（翻訳）：PALS プロバイダーマニュアル　AHA ガイドライン2005準拠 日本語版．p90-92. American Heart Association 著．NPO 日本小児集中治療研究会監修．シナジー　東京，2008.7.10

2009年度

A.1. 加藤博之．研修医指導の実践現場における Question．救急科でよくあるつまづきポイントは何ですか？ 畑尾正彦編集　臨床研修指導医のための Question & Nice Answer 2009． p52-57，羊土社，東京　2009.4.1

A.2. 加藤博之．動悸．林寛之編集　いきなり名医！もう困らない救急・当直．p112-118，日本医事新報社，東京，2009.4.25

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 加藤博之．医療人 GP の採用と医師確保の具体策　地域医療教育が救う地域医療の崩壊．新医療　35(9):146-149,2008.

A.2. 加藤博之：ER に学ぶ日常診療のピットフォール－卒前・卒後教育の新時代を踏まえて－．弘前市医師会報　43(4):28-29,2008.

A.3. 加藤博之：「新医師臨床研修制度」を巡る視点－制度5年目の雑感．Doctor's Magazine 109(12):2,2008.

A.4. 加藤博之：エディトリアル　気道確保は恐れず，侮らず．救急医学　33(1):1,2009.

2009年度

A.1. 加藤博之．熱烈な応援団より．ER マガジン2009;6(3):504-505.

A.2. 加藤博之．思考過程が表れる ER 流点滴ルートの取りかた．研修医通信2009,No.28:4-7.

B.1. 今田恒夫，佐藤秀隆，石川瑞恵，前田邦彦，玉井佳子，宮崎真理子，大沢　弘．東北支部教育セミナーまとめ　急性腎不全を呈した血管内リンパ腫の1例．日内会誌　2009;98:175-181.

B.2. 松原光伸，中鉢明彦，真田　覚，佐藤　博，鈴木昌幸，高橋直人，大沢　弘．東北支部教育セミナーまとめ　多臓器腫大と全身性浮腫の1例．日内会誌　2009;98:226-232.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Nephrology	1.219	1	1.219
Total		1	1.219

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
21世紀教育フォーラム	2	1
緩和医療学	1	
救急医学	1	1
Medical Practice		1
病理と臨床		1
計	4	4

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	2

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
新医療	1	
弘前市医師会報	1	
Doctor's Magazine	1	
救急医学	1	
ER マガジン		1
研修医通信		1
日本内科学会誌		2
計	4	4

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2008年度

C.　6 件

2009年度

C.　3件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

36. 薬剤学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

これまでの 2 年間はレニン - アンジオテンシン系抑制薬の新たな機能解析を行って来た。中枢移行性 ACE 阻害剤の服用は記憶の消失を予防するとの報告を踏まえ，代表的中枢移行性 ACE 阻害剤，カプトプリルを投与したラット脳において発現変化するペプチド類を明らかにすることができた。

理念：

臨床にフィードバックできるような研究テーマを見出し，安全かつ適切な薬物療法に貢献することを目指す。

これから２年間の目標：

・レニン - アンジオテンシン系抑制剤の記憶時機構への関与の機序の解明

・臨床での業務に貢献できる研究テーマの推進

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	早狩　　誠	1年間
研究課題	1. レニン - アンジオテンシン系抑制薬の新たな薬理効果の解析 2. ヒトがん組織の抗がん剤耐性における関連物質の発現変化と治療への貢献			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	早狩　　誠	1年間
研究課題	1. レニン - アンジオテンシン系抑制薬の新たな薬理効果の解析 2. ヒトがん組織の抗がん剤耐性における関連物質の発現変化と治療への貢献			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. Bile duct-bound growth of precursor cells of preneoplastic foci inducible in the initiation stage of rat chemical hepatocarcinogenesis by 2-acetylaminofluorene. Satoh K, Yamakawa D, Sugio H, Kida K, Sato T, Hosoi K, Hayakari M. Jpn J Clin Oncol. 38:604-10,2008.

B.2. Estimation of the area under the concentration-time curve of racemic lansoprazole by using limited plasma concentration of lansoprazole enantiomers. Niioka T, Miura M, Uno T, Yasui-Furukori N, Hayakari M, Tateishi T, Suzuki T. Eur J Clin Pharmacol. 64(5):503-9,2008.

2009年度

A.1. CYP2C19 genotype-based (R)-warfarin disposition assessment: some views on data analysis. Niioka T, Uno T. J Clin Pharm Ther, 34:611-2,2009.

A.2. Early phase limited sampling strategy characterizing tacrolimus and mycophenolic acid pharmacokinetics adapted to the maintenance phase of renal transplant patients. Miura M, Satoh S, Niioka T, Kagaya H, Saito M, Hayakari M, Habuchi T, Suzuki T. Ther Drug Monit. 31:467-74,2009.

A.3. Comparative in vivo bioequivalence and in vitro dissolution of two valproic acid sustained-release formulations. Fujii A, Niioka T et al. Drug Des Devel Ther. 2:139-44,2009.

和文

2008年度

B.1. 佐藤淳也，照井一史，佐藤哲観，蛯名正子，菊地淳宏，浅利三和子，野戸結花，三上恵理，工藤恵子，早狩誠．オピオイドローテーションにおける薬剤経済学的検討．日本緩和医療薬学雑誌　2:13-9,2009.

2009年度

A.1. 佐藤淳也，照井一史，川口陽子，蛯名正子，菊地淳宏，佐藤哲観，早狩　誠．携帯型インフューザーポンプを使用したフルルビプロフェンアキセチル（ロピオン静注）持続流出の精度調査．日本緩和医療薬学雑誌　2(3):87-92,2009.

A.2. 佐藤淳也，照井一史，粟津朱美，伊東重豪，西條康夫．外来化学療法における患者満足度の変遷　2005年と2008年の比較．癌と化学療法　36(11):1935-1939,2009.

A.3. 照井一史 , 早狩　誠，柏倉幾郎．がん拠点病院における内服抗がん剤 S-1 の院外処方箋　- 弘前大学医学部附属病院での実態調査 -．医療薬学　36(2):99-103,2010.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Jpn J Clin Oncol	0	1	0
Eur J Clin Pharmacol	2.029	1	2.029
Total		2	2.029

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J CLIN PHARM THER	1.364	1	1.364
Ther Drug Monit	2.392	1	2.392
Total		2	3.756

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
日本緩和医療薬学雑誌	1	1
医療薬学		1
癌と化学療法		1
計	1	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Jpn J Clin Oncol	0	1	0
Eur J Clin Pharmacol	2.029	1	2.029
Total		2	2.029

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

和文

雑　誌　名	2008年度	2009年度
日本緩和医療薬学雑誌	1	
計	1	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2008年度

C.　7件

2009年度

C.　8件

Ⅲ．学術賞

2009年度

新岡丈典　日本薬学会　東北支部奨励賞
「CYP2C19活性評価および薬物血中濃度モニタリングにおける Limited Sampling Strategy に関する研究」

Ⅳ．共同研究

2008年度

1.「ACE 阻害剤および ARB による記憶保持増強効果の解析」（共同研究）
（中外製薬株式会社，100万円）
2.「ラットにおけるレニン - アンジオテンシン系による脂肪形成に関わるメカニズムの検討」（受託研究）
（萬有製薬株式会社，150万円）

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2009年度

研究代表者として
金澤　佐知子　平成21年度科学研究費補助金（奨励研究）
「脳内における ACE の内在性基質と記憶保持との関連」 38万円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2009年度

他研究単位との研究分担者として
早狩　誠．弘前大学機関研究「弘前大学における遺伝子資源の資産化」

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

2008年度

日本病院薬剤師会　国際交流委員会主催　国際交流シンポジウム
「米国での薬学教育」（Dennis M Williams 博士，Univ. North Calolina）
（2009.2.27　弘前市）

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2009年度

日本病院薬剤師会　国際交流事業　Dennis M. Williams 准教授
（School of Pharmacy, University of North Carolina, Chapel Hill）

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2008年度

日本医療薬学会主催　第 32 回医療薬学公開シンポジウム
（2008.11.22　青森市）

2009年度

医薬品相互作用シンポジウム，平成 21 年 5 月 23 日，24 日，弘前市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

37. 脳神経病理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1）部門として年間 5 編以上の英語論文を発表する

Impact factor の付いた英文学術誌に 2008 年度は 12 編，2009 年度は 4 編の論文を発表した（到達度 100%）。

2）学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める

2008 年度は共同研究により 11 編，2009 年度は共同研究により 3 編の論文を発表した（到達度 100%）。

3）若手研究者（大学院生）の育成を行う

2006 年 4 月に受け入れた中国医科大学からの大学院生が 1 年の修業年限短縮にて 2009 年 3 月に卒業した。また，2008 年に他の大学院生が 1 年間に筆頭著者として 5 編の英文原著論文を発表した（到達度 100%）。

理念：

当講座は附属脳神経血管病態研究施設に属しており，施設の目的である「脳血管障害と認知症を含めた脳神経疾患に関する学理及びその応用の研究」を行うことを立脚点としている。

これから２年間の目標：

1）部門として年間 5 編以上の英語論文を発表する

2）学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める

3）若手研究者（大学院生）の育成を行う

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	若林　孝一	1年
	准教授	専　任	森　　文秋	1年
	助　教	専　任	丹治　邦和	1年
研究課題	1. 神経変性疾患における封入体形成と細胞死 2. グリア細胞の機能と各種病態における変化 3. てんかんモデル動物を用いた病態解析			

2009 年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	若林　孝一	1年
	准教授	専　任	森　　文秋	1年
	助　教	専　任	丹治　邦和	1年
研究課題	1. 神経変性疾患における封入体形成と細胞死 2. グリア細胞の機能と各種病態における変化 3. てんかんモデル動物を用いた病態解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008 年度

A.1. Zhang H-X, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K. Epitope mapping of 2E2-D3, a monoclonal antibody directed against human TDP-43. Neurosci Lett 434:170-174,2008.

A.2. Mori F, Tanji K, Zhang H, Kakita A, Takahashi H, Wakabayashi K. α-Synuclein pathology in the neostriatum in Parkinson's disease. Acta Neuropathol 115:453-459,2008.
A.3. Mori F, Tanji K, Zhang H-X, Nishihira Y, Tan C-F, Takahashi H, Wakabayashi K. Maturation process of TDP-43-positive neuronal cytoplasmic inclusions in amyotrophic lateral sclerosis with and without dementia. Acta Neuropathol 116:193-203,2008.
B.1. Yuzawa E, Imaizumi T, Matsumiya T, Yoshida H, Fukuhara R, Kimura H, Fukui A, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K, Fujii S, Mizunuma H, Satoh K. *Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon-γ and regulates CXCL11 expression in HeLa cells. Life Science 82:670-675,2008.
B.2. Yamauchi K, Wada K, Tanji K, Tanaka M, Kamitani T. Ubiquitination of E3 ubiquitin ligase TRIM5α and its potential role. FEBS J 275:1540-1555,2008.
B.3. Orimo S, Uchihara T, Nakamura A, Mori F, Kakita A, Wakabayashi K, Takahashi H. Axonal α-synuclein aggregates herald centripetal degeneration of cardiac sympathetic nerve in Parkinson' s disease. Brain 131: 642-650,2008.
B.4. Sugeno N, Takeda A, Hasegawa T, Kobayashi M, Kikuchi A, Mori F, Wakabayashi K, Itoyama Y. Serine 129 phosphorylation of α-synuclein induces unfolded protein response-mediated cell death. J Biol Chem 283: 23179-23188,2008.
B.5. Ikeuchi T, Kakita A, Shiga A, Kasuga K, Kaneko H, Tan CF, Idezuka J, Wakabayashi K, Onodera O, Iwatsubo T, Nishizawa M, Takahashi H, Ishikawa A. Patients homozygous and heterozygous for SNCA duplication in a family with parkinsonism and dementia. Arch Neurol 65:514-519,2008.
B.6. Orimo S, Uchihara T, Nakamura A, Mori F, Kakita A, Wakabayashi K, Takahashi H. Cardiac sympathetic denervation in Parkinson's disease linked to SNCA duplication. Acta Neuropathol 116:575-577,2008.
B.7. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Ueno S, Mori F, Takahara T, Saito R, Miura Y, Kishi A, Tomiyama M, Sato A, Kojima T, Fukuma G, Wakabayashi K, Hase K, Ohno H, Kijima H, Takano Y, Mitsudome A, Kaneko S, Hirose S. *Rats harboring S284L Chrna4 mutation show attenuation of synaptic and extrasynaptic GABAergic transmission and exhibit the nocturnal frontal lobe epilepsy phenotype. J Neurosci 28:12465-12476,2008.
B.8. Ichinohe N, Hayashi M, Wakabayashi K, Rockland KS. *Distribution and progression of amyloid-β deposits in the amygdala of the aged macaque monkey, and parallels with zink distribution. Neuroscience 159:1374-1383, 2009.
B.9. Kawaguchi S, Ishiguro Y, Imaizumi T, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Ota K, Sakuraba H, Yamagata K, Sato Y, Tanji K, Haga T, Wakabayashi K, Fukuda S, Satoh K. *Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. Immunol Lett 123:9-13,2009.

2009年度

A.1. Miki Y, Mori F, Hori E, Kaimori M, Wakabayashi K. Hippocampal sclerosis with four-repeat tau-positive round inclusions in the dentate gyrus: a new type of four-repeat tauopathy. Acta Neuropathol 117:713-718,2009.
A.2. Mori F, Tanji K, Miki Y, Wakabayashi K. Decreased cystatin C immunoreactivity in spinal motor neurons and astrocytes in amyotrophic lateral sclerosis. J Neuropathol Exp Neurol 68:1200-1206,2009.
A.3. Miki Y, Mori F, Wakabayashi K, Kuroda N, Orimo S. Incidental Lewy body disease restricted to the heart and stellate ganglia. Mov Disord 24:2299-2301,2009.
A.4. Miki Y, Mori F, Nunomura J, Ookawa K, Yajima N, Yagihashi S, Wakabayashi K. Sporadic amyotrophic lateral sclerosis with pallido-nigro-luysian degeneration: a TDP-43 immunohistochemical study. Neuropathology 30: 149-153,2009.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 若林孝一．"全身病"としてのパーキンソン病の病理．医学のあゆみ 225:373-377,2008.
A.2. 若林孝一．パーキンソン病の病理：レビー小体は悪玉か善玉か？ 臨床神経学 48:981-983,2008.
A.3. 若林孝一．CBD の病理．Clinical Neuroscience 27:307-310,2008.

2009年度

A.1. 若林孝一，丹治邦和，森　文秋．大脳基底核の病理学 - 神経変性疾患を中心に．Brain Nerve 61:429-439, 2009.
A.2. 若林孝一．神経変性疾患．病理と臨床 27:295-301,2009.
A.3. 若林孝一，高橋　均．パーキンソン病 - 基礎・臨床研究のアップデート -．III. 病理・病態　神経病理学的特徴　末梢自律神経．日本臨床 67（増刊号 4）:151-155,2009.
A.4. 若林孝一．脳出血の肉眼像．Brain Medical 21:307-309,2009.
B.1. 高橋　均，若林孝一．パーキンソン病 - 基礎・臨床研究のアップデート -．III. 病理・病態　神経病理学的特徴　中枢神経．日本臨床 67（増刊号 4）:146-150,2009.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

2009年度

B.1. 岡田元宏，吉田淑子，兼子　直，上野伸哉，森　文秋，若林孝一，斎藤　亮，高野行夫，廣瀬伸一．ヒトてんかん遺伝子を導入したてんかんモデル動物の開発：てんかんの分子病態の解析．てんかん治療研究振興財団研究年報 20:39-44,2009.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurosci Lett	2.085	1	2.085
Acta Neuropathol	3.179	2	6.358
Life Science	2.257	1	2.257
FEBS J	3.263	1	3.263
Brain	8.568	1	8.568
J Biol Chem	5.581	1	5.581
Arch Neurol	5.783	1	5.783
Acta Neuropathol	3.179	1	3.179
J Neurosci	7.49	1	7.49
Neuroscience	3.352	1	3.352
Immunol Lett	2.628	1	2.628
Total		12	50.544

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Neuropathol	5.31	1	5.31
J Neuropathol Exp Neurol	5.14	1	5.14
Mov Disord	3.898	1	3.898
Neuropathology	1.727	1	1.727
Total		4	16.075

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
医学のあゆみ	1	
臨床神経学	1	
Clinical Neuroscience	1	
Brain Nerve		1
日本臨床		2
病理と臨床		1
Brain Medical		1
計	3	5

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
てんかん治療研究振興財団研究年報		1
計	0	1

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

B.1. Wakabayashi K. Neuropathology of Parkinson's disease and related disorders. Symposium "Ubiquitin pathway and oxidative stress in neurodegeneration". The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science（2009. 3. 27-28, Hirosaki, Japan）

C.1. Zhang HX, Tan CF, Mori F, Tanji K, Kakita A, Takahashi H, Wakabayashi K. TDP-43-immunoreactive neuronal and glial inclusions in the neostriatum in amyotrophic lateral sclerosis with and without dementia. First Congress of Asian Society of Neuropathology（2008. 5. 22, Tokyo, Japan）

C.2. Zhang H, Tanji K, Yoshida H, Hayakari M, Mori F, Wakabayashi K. 15-Deoxy-$\Delta^{12,14}$-prostaglandin J_2 modifies profiles of nuclear TDP-43 protein through its direct binding: Implication for the pathogenesis of TDP-43 proteinopathy. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science（2009. 3. 27-28, Hirosaki, Japan）

C.3. Mori F, Wakabayashi K. Cystatin C immunoreactivity and neuronal degeneration in amyotrophic lateral sclerosis. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science（2009. 3. 27-28, Hirosaki, Japan）

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 若林孝一．パーキンソン病の病理：レビー小体は悪玉か善玉か？．シンポジウム「パーキンソン病の臨床，基礎の最前線」．第 49 回日本神経学会総会（2008.5.15-17, 横浜）

C.　5 件

2009年度

B.1. 若林孝一：系統的病理診断講習会「脳神経系疾患の病理」．第 98 回日本病理学会総会（2009.5.1-3, 京都）

C.　8 件

Ⅲ．学術賞

2009年度

三木康生．平成21年度学生表彰

Ⅳ．共同研究

2008年度

大正製薬医薬研究所，シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究，吉本　真

2009年度

大正製薬医薬研究所，シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究，吉本　真

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

科学研究費補助金（基盤研究 B）
若林孝一（代表）：シヌクレイノパチーに特異的な蛋白分解異常：ナブオパチーの提唱と分子病態解明
4,100,000 円
科学研究費補助金（基盤研究 C）
森　文秋（代表）：夜間前頭葉てんかんの治療法の確立：てんかん抑制機構の分子病態解明
1,300,000 円

科学研究費補助金（基盤研究 C）
丹治邦和（代表）：神経変性疾患における封入体の役割と結合異常タンパク質の同定
1,700,000 円

2009年度

研究代表者として
科学研究費補助金（基盤研究 B）
若林孝一：シヌクレイノパチーに特異的な蛋白分解異常：ナブオパチーの提唱と分子病態解明
3,400,000 円
科学研究費補助金（基盤研究 C）
森　文秋：夜間前頭葉てんかんの治療法の確立：てんかん抑制機構の分子病態解明
1,100,000 円
科学研究費補助金（基盤研究 C）
丹治邦和：神経変性疾患における封入体の役割と結合異常タンパク質の同定
1,000,000 円

（2）その他の省庁からの研究費

2009年度

研究代表者として
平成 21 年度精神・神経疾患研究開発事業
若林孝一：レビー小体病における封入体形成と神経細胞変性に関する研究
1,500,000 円

（3）学内の研究助成

2008年度

研究代表者として
平成 20 年度弘前大学学長指定重点研究
若林孝一（代表）：難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発
4,000,000 円

2009年度

研究代表者として
平成 21 年度弘前大学機関研究
若林孝一：難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発
8,000,000 円
平成 21 年度弘前大学若手研究者支援事業
丹治邦和：シナプスの異常を標的とするパーキンソン病の病態解明
500,000 円

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として
平成 20 年度北東北国立 3 大学連携推進プロジェクト
若林孝一（代表）：加齢に伴う脳変性疾患の予防法の開発
2,900,000 円
学術国際振興基金研究助成（完成度の高く波及効果の大きい研究への助成）
若林孝一：新規核タンパク質（TDP-43）を標的とする神経難病の病態解明
5,000,000 円
学術国際振興基金研究助成（外国人研究者の招へい旅費・滞在費の助成）
若林孝一：第 11 回弘前国際医学フォーラム
500,000 円
てんかん治療研究振興財団研究助成
森　文秋：ヒトてんかん遺伝子導入ラットを用いたてんかんの分子病態解明と予防的治療法の開発
1,600,000 円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

2008年度

The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science（共同開催）

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2008年度

神谷　哲教授（Medical College of Georgia, USA）

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2008年度

張　海心（大学院生），中国医科大学（中国），2006.5 ～現在

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2009年度

第 26 回北日本病理研究会（2009.6.20, 弘前）

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

38. 脳血管病態学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

75%

理念：

脳研をはじめ，学内外の研究グループとの共同研究を推進し，より質の高い研究成果をできるだけ多く挙げることを目指し，脳血管障害をはじめとする脳神経疾患を中心としつつも，特にテーマを限定することなく研究活動を実施していく。

これから２年間の目標：

・講座としての原著論文を，年間 3 編以上発表する。
・科学研究費補助金を講座内から代表として，毎年 1 件以上獲得する。
・講座構成員による学会発表を，毎年 1 件以上実施する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	佐藤　　敬	1年
	講　師	専　任	吉田　秀見	1年
	助　教	専　任	今泉　忠淳	1年
	助　教	専　任	松宮　朋穂	1年
研究課題				

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	佐藤　　敬	1年間
	講　師	専　任	吉田　秀見	1年間
	助　教	専　任	今泉　忠淳	1年間
	助　教	専　任	松宮　朋穂	1年間
研究課題	1．血管系細胞の細胞生物学的研究 2．脳血管障害の危険因子に関する研究 3．炎症関連遺伝子の分子生物学的研究 4．グリア細胞の細胞生物学的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Imaizumi T, Arikawa T, Sato T, Uesato R, Matsumiya T, Yoshida H, Ueno M, Yamasaki S, Nakajima T, Hirashima M, Ishibashi Y, Toh S, Ohyama C, Satoh K. Involvement of retinoic acid-inducible gene-I in inflammation of rheumatoid fibroblast-like synoviocytes. **Clin Exp Immunol** 2008;153:240-244.

A.2. Imaizumi T, Matsumiya T, Yoshida H, Naraoka T, Uesato R, Ishibashi Y, Ota K, Toh S, Fukuda S, Satoh K: Tumor-necrosis factor-α induces retinoic acid-inducible gene-I in rheumatoid fibroblast-like synoviocytes. **Immunol Lett** 2009;122:89-93.

A.3. Matsumiya T, Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K, Topham MK, Stafforini DM: The levels of retinoic acid-inducible gene I are regulated by heat shock protein 90-α. **J Immunol** 2009;182:2717-2725.

B.1. Yamada Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Yokoi K, Matsuo H, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Aoyagi Y, Yasunaga K, Park H, Tanaka M, Nozawa Y. Genetic risk for myocardial infarction determined by polymorphisms of candidate genes in Japnanese individuals. **J Med Genet** 2008;45:216-221.

B.2. Yamada Y, Kato K, Oguri M, Yoshida T, Yokoi K, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Aoyagi Y, Yasunaga A, Park H, Tanaka M, Nozawa Y. Association of genetic variants with atherothrombotic cerebral infarction in Japanese individuals with metabolic syndrome. **Int J Mol Med** 2008;21:801-808.

B.3. Ichihara S, Yamada Y, Kato K, Hibino T, Yokoi K, Matsuo H, Kojima T, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Yasunaga Y, Park H, Tanaka M, Nozawa Y: Association of a polymorphism of *ABCB1* with obesity in Japanese individuals **Genomics** 2008;91:512-516.

B.4. Zhang M, Wu X, Lee AJ, Jin W, Chang M, Wright A, Imaizumi T, Sun SC: Regulation of IκB kinase-related kinases and antiviral responses by tumor suppressor CYLD. **J Biol Chem** 2008;283:18621-18626.

B.5. Yamada Y, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Kato K, Hibino T, Yokoi K, Watanabe S, Ichihara S, Aoyagi Y, Yasunaga A, Park H, Tanaka M, Nozawa Y: Genetic factors for ischemic and hemorrhagic stroke in Japanese individuals. **Stroke** 2008;39:2211-2218.

B.6. Kato K, Oguri M, Kato N, Hibino T, Yajima K, Yoshida T, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Watanabe S, Yokoi K, Murohara T, Yamada Y: Assessment of genetic risk factors for thoracic aortic aneurysm in hypertensive patients. **Am J Hypertens** 2008;21:1023-1027.

B.7. Yoshida T, Kato K, Fujimaki T, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Tanaka M, Nozawa Y, Yamada Y: Association of a polymorphism of apolipoprotein E gene with chronic kidney disease in Japanese individuals with metabolic syndrome. **Genomics** 2009;93:221-226.

B.8. Kawaguchi S, Ishiguro Y, Imaizumi T, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Ota K, Sakuraba H, Yamagata K, Sato Y, Tanji K, Haga T, Wakabayashi K, Fukuda S, Satoh K: Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. **Immunol Lett** 2009;123:9-13.

B.9. Oguri M, Kato K, Yokoi K, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Yoshida H, Nozawa Y, Yamada Y: Association of polymorphisms of *THBS2* and *HSPA8* with hypertension in Japanese individuals with chronic kidney disease. **Mol Med Rep** 2009;2:205-211.

2009年度

A.1. Yoshida H, Metoki N, Ishikawa A, Imaizumi T, Matsumiya T, Tanji K, Ota K, Ohyama C, Satoh K: Edaravone improves the expression of nerve growth factor in human astrocytes subjected to hypoxia/reoxygenation. **Neurosci Res** 66(3):284-289,2010.

B.1. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Suzuki T, Nozawa Y, Yamada Y: Association of genetic variants with chronic kidney disease in Japanese individuals with type 2 diabetes mellitus. **Int J Mol Med** 23(4): 529-537,2009.

B.2. Fujimaki T, Kato K, Yoshida T, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Tanaka M, Nozawa Y, Kimura G, Yamada Y: Association of genetic vriants with myocardial infarction in Japanese individuals with chronic kidney disease. **Thromb Haemost** 101(5):963-968,2009.

B.3. Yoshida T, Kato K, Fujimaki T, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Tanaka M, Nozawa Y, Kimura G, Yamada Y: Association of genetic variants with chronic kidney disease in Japanese individuals. **Clin J Am Soc Nephrol** 4(5):883-890,2009.

B.4. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of candidate gene polymorphisms with chronic kidney disease in Japanese individuals with hypertension. **Hypertens Res** 32(5):411-418,2009.

B.5. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of gene polymorphisms with chronic kidney disease in high- or low-risk subjects defined by conventional risk factors. **Int J Mol Med** 23(6):785-792,2009.

B.6. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of genetic variants with chronic kidney disease in individuals with different lipid profiles. **Int J Mol Med** 24(2):233-246,2009.

B.7. Oguri M, Kato K, Yokoi K, Yoshida T, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Tanaka M, Nozawa Y, Yamada Y: Association of a polymorphism of *BCHE* with ischemic stroke in Japanese individuals with chronic kidney disease. **Mol Med Rep** 2(5):779-785,2009.

B.8. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of gene polymorphisms with chronic kidney disease in Japanese individuals. **Int J Mol Med** 24(4): 539-547, 2009.

B.9. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of genetic variants with myocardial infarction in individuals with or without hypertension or diabetes mellitus. **Int J Mol Med** 24(5):701-709,2009.

B.10. Matsuki K, Tamasawa N, Yamashita M, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Imaizumi T, Satoh K, Suda T: Metformin restores impaired HDL-mediated cholesterol efflux due to glycation. **Atherosclerosis** 206 (2) : 434-438, 2009.

B.11. Oguri M, Kato K, Yokoi K, Itoh T, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nishigaki Y, Tanaka M, Nozawa Y, Yamada Y: Association of genetic variants with myocardial infarction in Japanese individuals with metabolic syndrome. **Atherosclerosis** 206(2):486-493,2009.

B.12. Papon L, Oteiza A, Imaizumi T, Kato H, Brocchi E, Lawson TG, Akira S, Mechti N: The viral RNA recognition sensor RIG-I is degraded during encephalomyocarditis virus (EMCV) infection. **Virology** 393(2):311-318, 2009.

B.13. Yamada Y, Fuku N, Tanaka M, Aoyagi Y, Sawabe M, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Kato K, Watanabe S, Nozawa Y, Hasegawa A, Kojima T: Identification of *CELSR1* as a susceptibility gene for ischemic stroke in Japanese individuals by a genome-wide association study. **Atherosclerosis** 207(1):144-149,2009.

B.14. Sato F, Nagata C, Liu Y, Suzuki T, Kondo J, Morohashi S, Imaizumi T, Kato Y, Kijima H: PERIOD1 (PER1) is an anti-apoptotic factor in human pancreatic and hepatic cancer cells. **J Biochem** 146(6):833-838,2009.

B.15. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of genetic variants with chronic kidney disease in Japanese individuals with or without hypertension or diabetes mellitus. **Exp Ther Med** 1(1):137-145,2010.

B.16. Ota K, Matsumiya T, Sakuraba H, Imaizumi T, Yoshida H, Kawaguchi S, Fukuda S, Satoh K: Interferon-α2b induces $p21^{cip1/waf1}$ degradation and cell proliferation in HeLa cells. **Cell Cycle** 9(1):131-139,2010.

B.17. Oguri M, Kato K, Yokoi K, Yoshida T, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of a polymorphism of *SDK1* with hypertension in Japanese individuals. **Am J Hypertens** 23(1):70-77,2010.

B.18. Yoshida T, Kato K, Yokoi K, Oguri M, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nozawa Y, Yamada Y: Association of genetic variants with ischemic stroke in Japanese individuals with metabolic syndrome. **Int J Mol Med** 25(2):281-286,2010.

B.19. Oguri M, Nagahiro T, Kamiya H, Ohno M, Kato K, Yokoi K, Yoshida T, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Nozawa N, Yamada Y: Association of a polymorphism of *ROR2* with ischemic stroke in Japanese individuals with chronic kidney disease. **Exp Ther Med** 1(2):377-384,2010.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 佐藤　敬．脳卒中と遺伝子―血漿 PAF-AH 欠損症．**Brain and Nerve** 2008;60:1319-1324.

A.2. 佐藤　敬：脂質メディエータ研究の新展開と心血管疾患―PAF と血管・血栓．**分子心血管病** 2008;9:588-594.

2009年度

B.1. 川口章吾，今泉忠淳，櫻庭裕丈，石黒　陽，福田眞作．腸管上皮細胞における RIG-I の発現とその解析法．**分子消化器病** 7(1):61-64,2010.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Exp Immunol	2.599	1	2.599
Immunol Lett	2.628	1	2.628
J Immunol	6.086	1	6.086
J Med Genetics	5.535	1	5.535
Int J Mol Med	1.847	1	1.847
Genomics	3.613	2	7.226
J Biol Chem	5.581	1	5.581
Stroke	6.926	1	6.926
Mol Med Rep	0	1	0
Am J Hypertens	3.102	1	3.102
Immunol Lett	2.628	1	2.628
Total		12	44.158

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurosci Res	2.473	1	2.473
Int J Mol Med	1.88	6	11.28
Thromb Haemost	3.803	1	3.803
Clin J Am Soc Nephrol	4.361	1	4.361
Hypertens Res	3.146	1	3.146
Mol Med Rep	0	1	0
Atherosclerosis	4.601	3	13.803
Virology	3.539	1	3.539
J Biochem	1.878	1	1.878
Cell Cycle	4.12	1	4.12
Exp Ther Med	0	2	0
Am J Hypertens	3.122	1	3.122
Total		20	51.525

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
Brain and Nerve	1	
分子心血管病	1	
分子消化器病		1
計	2	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

B.1. Yoshida H, Mimura J, Imaizumi T, Matsumiya T, Ishikawa A, Metoki N, Tanji K, Kosaka K, Itoh K, Satoh K. Free radical scavenger edaravone and an Nrf2-inducer synergistically enhance the expression of nerve growth factor in cultured human astrocytes under hypoxia/reoxygenation. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Japan. Mar. 28, 2009.

B.2. *Kijima H, Sato F, Bhawal UK, Kawamoto T, Fujimoto K, Imaizumi T, Imanaka T, Kondo J, Koyanagi S, Noshiro M, Yoshida H, Kato Y. Basic-helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 negatively regulates vascular endothelial growth factor expression. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Japan. Mar. 27, 2009.

C.1. *Zhang H-X, Tanji K, Yoshida H, Hayakari M, Mori F, Wakabayashi K. 15-Deoxy-$\Delta^{12,14}$-prostaglandin J_2 modifies porofiles of nuclear TDP-43 protein through its direct binding: implication for the pathogenesis of TDP-43 proteinopathy. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Japan. Mar. 27, 2009.

2009年度

C.1. Matsumiya T, Imaizumi T, Yoshida H, Topham MK, Stafforini DM, Satoh K: Heat shock protein 90 protects degradation of retinoic acid-inducible gene-I. 96th Annual Meeting, The American Association of Immunologists. 2009. 5. 8-12, Seattle, WA, USA.

（2）全国学術集会

2008年度

C.　2件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008年度

三重大学生命科学研究支援センター，山田芳司．生活習慣病の遺伝的危険因子に関する研究．佐藤　敬

2009年度

三重大学生命科学研究支援センター，山田芳司．生活習慣病の遺伝的危険因子に関する研究．佐藤　敬

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

⑴ 基盤研究 C(2)，肺，気道の免疫応答における新しい Toll 様受容体関連シグナル分子の意義．今泉忠淳，500,000 円

⑵ 基盤研究 C(2)，女性生殖器特異的な I 型インターフェロンの遺伝子制御機構の解明．松宮朋穂，1,100,000 円

他研究単位との研究分担者として

⑴ 基盤研究(2)(一般)，神経変性疾患における封入体の役割と結合異常タンパク質の同定．丹治邦和，1,700,000 円

2009年度

研究代表者として

⑴ 基盤研究 2(C)．今泉忠淳，石黒　陽，石橋恭之，吉田秀見，松宮朋穂，佐藤　敬：TNF-α 誘導性細胞質 RNA 受容体を標的とする関節リウマチの治療法開発．　800,000 円

⑵ 基盤研究 2(C)．松宮朋穂，今泉忠淳，吉田秀見：女性生殖器特異的な I 型インターフェロンの遺伝子制御機構の解明．　1,300,000 円

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

研究代表者として

⑴ 独立行政法人科学技術振興機構（JST）シーズ発掘試験，Nrf2 活性化に基づく脳血管障害予後改善評価法の開発．吉田秀見，1,818,000 円

（3）学内の研究助成

2008年度

研究代表者として

⑴ 平成 20 年度弘前大学「競争的資金獲得のための支援」，メタボリックシンドロームの遺伝学的背景による危険因子解明に向けた，脂肪酸トランスポーターの遺伝子多型に関する検討．佐藤　敬，500,000 円

（4）民間の研究助成

2009年度

研究代表者として

⑴ 鈴木謙三記念財団法人医科学応用研究財団平成 21 年度調査研究助成
松宮朋穂，今泉忠淳，佐藤　敬：細胞内ウイルスセンサー RIG-I を応用した新しいインフルエンザ治療の開発．1,000,000 円

⑵ 財団法人神澤医学研究振興財団　平成 21 年度（第 13 回）研究助成金
松宮朋穂：女性生殖器特異的な新規 I 型インターフェロンの局所免疫応答における意義の解明．1,000,000 円

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

(2) 国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

39. 脳神経生理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

●再生神経可視化動物の作成に関しては，動物作出を行いその評価中である。

●痙攣モデル動物の機能解析，GABA 受容体輸送タンパク異常を持つ動物の痛み応答異常の解析を行い，論文投稿した。

理念：

遺伝子機能解析において遺伝子改変動物（トランスジェニック動物，遺伝子ノックアウトマウス）が果たしてきた役割は極めて大きいものの，遺伝子改変に伴う動物の機能解析を詳細に検討することによって，形態や致死性に注目した表現型だけでは明らかにできない遺伝子の機能を明確にすることが求められる。行動解析および，生理，分子生物的なアプローチにより中枢神経機能，“こころ”のしくみの解明をめざす。

これから２年間の目標：

●再生神経可視化動物のフェノタイプ解析

●GABA 受容体輸送タンパク異常を持つマウスを用い tonic GABA 応答異常と行動異常の解明を目指す。

●摂食異常を持つマウスを用い，抑制系神経伝達機構との関連をさぐる。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　1			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	上野　伸哉	1年
	助　教	専　任	右田　啓介	1年
	助　教	専　任	山田　順子	1年
研究課題	1. 再生神経の可視化動物作成 2. けいれん発作モデル動物の異常興奮発生機構の解明 3. 慢性疼痛モデル動物作成とその機能評価 4. 麻酔薬のシナプス応答への効果 5. 大脳皮質および大脳辺縁系における GABA 作動性トニックシグナルと不安のメカニズム 6. モデルマウスを用いた不安障害（パニック障害）の分子機構の解明 7. イオンチャネル型プリン受容体の gating 機構			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0（1），助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0（1）			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	上野　伸哉	2009年4月～2010年3月
	講　師	専　任	山田　順子	2009年10月～2010年3月
	助　教	専　任	山田　順子	2009年4月～2009年9月
	助　教	専　任	右田　啓介	2009年4月～2010年3月
研究課題	1. 再生神経の可視化動物作成 2. けいれん発作モデル動物の異常興奮発生機構の解明 3. 慢性疼痛モデル動物作成とその機能評価 4. 麻酔薬のシナプス応答への効果 5. 大脳皮質および大脳辺縁系における GABA 作動性トニックシグナルと不安のメカニズム 6. モデルマウスを用いた不安障害（パニック障害）の分子機構の解明 7. イオンチャネル型プリン受容体の gating 機構			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Ueno S, Mori F, Takahara T, Saito R, Miura Y, Kishi A, Tomiyama M, Sato A, Kojima T, Fukuma G, Wakabayashi K, Hase K, Ohno H, Kijima H, Takano Y, Mitsudome A, Kaneko S, Hirose S.: Rats Harboring S284L Chrna4 Mutation Show Attenuation of Synaptic and Extrasynaptic GABAergic Transmission and Exhibit the Nocturnal Frontal Lobe Epilepsy Phenotype. **J. Neurosci.** 28:2008,12465-12476.

A.2. Migita, K.Moriyama, T.Koguchi, M.Honda, K.Katsuragi, T.Takano, Y.Ueno, S. Modulation of P2X receptors in dorsal root ganglion neurons of streptozotocin-induced diabetic neuropathy.: **Neurosci Lett** 452:2009,200-203.

B.1. Katsuragi T, Sato C, Usune S, Ueno S, Segawa M, Migita K.: Caffeine-inducible ATP release is mediated by Ca2+-signal transducing system from the endoplasmic reticulum to mitochondria.: **Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol.** 378:2008;93-101.

B.2. Tose, R. Kushikata, T. Yoshida, H. Kudo, M. Furukawa, K. Ueno, S. Hirota, K.: Interaction between orexinergic neurons and NMDA receptors in the control of locus coeruleus-cerebrocortical noradrenergic activity of the rat. **Brain Res**. 1250:2009;81-87.

B.3. Tose, R. Kushikata, T. Yoshida, H. Kudo, M. Furukawa, K. Ueno, S. Hirota, K. Orexin A decreases ketamine-induced anesthesia time in the rat: the relevance to brain noradrenergic neuronal activity. **Anesth Analg**. 108: 2009;491-495.

2009年度

B.1. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K, Ueno S, Hirota K. Interaction between orexinergic neurons and NMDA receptors in the control of locus coeruleus-cerebrocortical noradrenergic activity of the rat. Brain Research, 2009;1250:81-87.

B.2. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K, Ueno S, Hirota K. Orexin A dexreases ketamine-induced anesthesia time in the rat: the relevance to brain noradrenergic neuronal activity. Anesthesia and Analgesia. 2009;108(2):491-495.

B.3. Zhao Y, Migita K, Sun J, Katsuragi T. MRP transporters as membrane machinery in the bradykinin-inducible export of ATP. Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol. 2010;381(4):315-320.

C.1. Sipilä S, Huttu K, Yamada J, Afzalov R., Voipio J, Blaesse P, and Kaila K. Compensatory enhancement of intrinsic spiking upon NKCC1 disruption in neonatal hippocampus. 2009 J. Neurosci. 29(21):6982-8.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Neurosci	7.49	1	7.49
Neurosci Lett	2.085	1	2.085
Anesth Analg	2.214	1	2.214
Brain Res	2.218	1	2.218
Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol	2.161	1	2.161
Total		5	16.168

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brain Research	2.494	1	2.494
Anesthesia and Analgesia	2.59	1	2.59
Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol	2.16	1	2.16
Total		3	7.244

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
な し		
計	0	0

２．著書数（A，B のみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Yamada, J., Migita, K., Ueno, S. PRIP-1 is involved in GABAA receptor-mediated tonic inhibition in basolateral amygdala. ***37th Annualmeeting of Society for Neuroscience***, Washington DC, USA Nov 15-19., 2008.

C.2. Masahiko Tomiyama, Akira Arai, Tamaki Kimura, Fumiaki Mori, Motohiro Okada, Shinya Ueno. Enhanced GABA release and GABAA receptor stimulation in the medial globus pallidus induces levodopa-induced dyskinesia in a rat model of Parkinson's disease. ***37th Annual Meeting of Society for Neuroscience***, Washington DC, USA. Nov 15-19, 2008.

C.3. Matsumoto E., Honda K., Akimoto N., Matsuzaki Y., Kawata S., Migita K., Ueno S., Saito R., Takano Y. The spinal microglia contributes to the development of neuropathic pain in mice. ***37th Annual Meeting of Society for Neuroscience***, Washington DC, USA. Nov 15-19, 2008.

C.4. Matsumoto E., Kawata S., Akimoto N., Honda K., Matsuzaki Y., Migita K., Ueno S., Saito R., Takano Y. Involvement of spinal glial cells in neuropathic pain. 3rd Asian Pain Symposium Fukuoka 7.19-20, 2008.

C.5. Keisuke Migita, Kenji Honda, Junko Yamada, Yukio Takano and Shinya Ueno. Involvement of $P2X_2$ and $P2X_3$ receptors in dorsal root ganglion neurons of streptozotocin-induced diabetic neuropathy. **Hirosaki International Forum2009 弘前医学国際フオーラム第 11 回学術集会** March 27-28 2009 Hirosaki

2009年度

C.1. Ueno S, Yamada J, Migita K, Gang Z, Yoshida S, Kanematsu T, Hirata M, okada M, Kaneko S. Tonic GABAergic transmission is suppressed in PRIP-1 KO mice with epileptic phenotype. 28th International Epilepsy Congress Budapest. Hungary, 2009.

C.2. Ueno S, Yamada J, Migita K, Gang Z, Yoshida S, Kanematsu T, Hirata M, okada M, Kaneko S. Tonic GABAergic transmission is reduced in phospholipase C related, but catalytically inactive protein(PRIP)-1 KO mice associated with spontaneous seizure. 36th International Congress of Physiological Sciences. Kyoto, 2009.

C.3. Yamada J, Migita K, Ueno S.DOWNREGULATION OF GABAA RECEPTOR-MEDIATED TONIC INHIBITION IN THE BASOLATERAL AMYGDALA OF PRIP-1 KO MICE. 36th International congress of physiological sciences. Kyoto, 2009.

C.4. Furukawa T, Yamada J, Inoue K, Yanagawa Y, Matsushima Y, Fukuda A. The Effect of Ambient GABA and Taurineon Cortical Plate Cells in Developing Cortex. 36th International congress of physiological sciences. Kyoto, 2009.

C.5. Egawa K, Yamada J, Furukawa T, Yanagawa Y, Fukuda A. strocytic Responses to GABA Spill-Over by Interneuron Firings in CA1 Stratum Lacunosum-Moleculare（SLM）. 36th International congress of physiological sciences. Kyoto, 2009.

C.6. Yamada J, Migita K, Tomiyama M, Kanamatsu T, Hirata M, Ueno S. Pharmacological properties of tonic GABAergic inhibition in the amygdala neurons of PRIP1-KO mice. NEUROSCIENCE2009. Chicago, USA, 2009.

C.7. Migita K, Honda K, Yamada J, Tomiyama M, Takano Y and Ueno S. The association with P2X2 and P2X3 receptors in dorsal root ganglion on streptozotocin-induced diabetic neuropathy. NEUROSCIENCE2009. Chicago, USA, 2009.
C.8. Tomiyama M, Arai A, Mori F, Yamada J, Wakabayashi K, Ueno S. Morphologic changes of spines in the striatum of a rat model of levodopa-induced dyskinesia. NEUROSCIENCE2009. Chicago, USA, 2009.

（2）全国学術集会

2008年度

C. 7件

2009年度

A.1. 山田 順子，右田 啓介，上野 伸哉．PRIP1-KOマウス扁桃体ニューロンにおけるトニック抑制の減少．第32回日本神経科学大会．名古屋．2009.
B.1. 上野伸哉．てんかんモデル動物における GABA 応答の機能変異．第43回日本てんかん学会．弘前．2009.
C. 5件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
科学研究費補助金 （基盤研究 B）
上野伸哉：ヒトてんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその比較ゲノミクス的病態解析
5,600,000 円
科学研究費補助金 基盤研究（C）
山田順子：大脳皮質および大脳辺縁系における GABA 作動性トニックシグナルと不安のメカニズム
1,800,000 円
科学研究費補助金 若手研究（B）
右田啓介：糖尿病性神経因性疼痛における上位中枢プリン受容体の役割
1,300,000 円
他研究単位との研究分担者として
科学研究費補助金 基盤研究（C）
中枢性コリン作動性神経を標的とした神経因性疼痛伝達機構の解明と治療薬の開発
分担者 右田啓介 100,000 円
科学研究費補助金 基盤研究（S） てんかん分子病態の解析
分担者 上野伸哉

2009年度

研究代表者として
平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））
研究課題：大脳皮質および大脳辺縁系におけるＧＡＢＡ作動性トニックシグナルと不安のメカニズム
研究代表者名：山田 順子
配分額：1,100 円 （単位：千円）
平成 21 年度科学研究費補助金（若手研究（B））
研究課題：糖尿病性神経因性疼痛における上位中枢プリン受容体の役割
研究代表者名：右田 啓介
配分額：1,000 円 （単位：千円）
平成 21 年度科学研究費補助金（若手研究（B））
研究課題：神経伝達物質測定によるレボドパ誘発ジスキネジアの解明
研究代表者名：新井 陽
配分額：910 円 （単位：千円）

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

研究代表者として
JST 科学技術振興機構
平成 20 年度シーズ発掘型試験（A: 発掘型）
ナチュラルプロモーターを利用した再生神経の可視化ラットの作成
上野伸哉
2,000,000 円

(3) 学内の研究助成

2008年度

研究代表者として
学術国際振興基金 A － 1 ② 先進的な研究への助成
山田順子：モデルマウスを用いた不安障害（パニック障害）の分子機構の解明
3,000,000 円
他研究単位との研究分担者として
平成 20 年度大学学長指定重点研究
難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発
上野伸哉　　400,000 円

2009年度

他研究単位との研究分担者として
弘前大学機関研究　　研究分担者　上野伸哉　　600 円 （単位：千円）
若手支援事業　研究代表者　右田啓介　500 円　　（単位：千円）

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

40. 脳神経内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

脳血管障害，認知症，神経難病の臨床的・基礎的な研究を行い，新しい診断法や治療法を開発し，世界的な業績を発信するための研究環境の整備を着実におこない，Alzheimer 病や神経変性疾患の診断・治療において世界的な業績を論文として弘前大学から発信の開始ができた。

理念：

青森県の地域医療と全国レベルでの神経内科としての臨床・研究・教育の飛躍的な発展を行う。優秀な人材およびスタッフを確保し，世界的な臨床・教育・研究業績のための基盤を整備する。

これから２年間の目標：

これまでの研究の成果から，Alzheimer 病と神経変性疾患の診断・治療において画期的な開発を行う。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　1，助手　0，医員　3，大学院学生　3，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	東海林幹夫	H20. 4. 1 ～ H21. 3.31
	准教授	専　任	松原　悦朗	H20.11. 1 ～ H21. 3.31
	講　師	専　任	瓦林　　毅	H20. 4. 1 ～ H21. 3.31
	助　教	専　任	渡辺　光法	H20. 9. 1 ～ H21. 3.31
研究課題	1. アルツハイマー病の関連遺伝子解明，生物学的マーカーの開発，アルツハイマー病の病態解析と根本的治療法の開発．非アルツハイマー型認知症の病態解明と治療法の解明 2. 脳血管障害の臨床疫学と治療法の開発．脳血管性認知症とアミロイドアンギオパチーの関連遺伝子解明と治療法の開発 3. 神経変性疾患の診断マーカーの開発，モデル動物の作成，病態解明と治療法の開発 4. 神経変性疾患における原因遺伝子解明，病態解析と治療法の開発 5. 神経再生機序の解明と治療法への応用 6. アルツハイマー病の病態解明と新規診断・治療法の開発 7. 変異 senataxin による神経細胞死の分子病態解明 8. 神経変性疾患における脳脊髄液シスタチン C の測定			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　1，助手　0，医員　3，大学院学生　3，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	東海林幹夫	H21. 4. 1 ～ H22. 3.31
	准教授	専　任	松原　悦朗	H21. 4. 1 ～ H22. 3.31
	講　師	専　任	瓦林　　毅	H21. 4. 1 ～ H22. 3.31
	助　教	専　任	渡辺　光法	H21. 4. 1 ～ H22. 3.31
研究課題	1. アルツハイマー病の関連遺伝子解明，生物学的マーカーの開発，アルツハイマー病の病態解析と根本的治療法の開発．非アルツハイマー型認知症の病態解明と治療法の解明 2. 脳血管障害の臨床疫学と治療法の開発．脳血管性認知症とアミロイドアンギオパチーの関連遺伝子解明と治療法の開発 3. 神経変性疾患の診断マーカーの開発，モデル動物の作成，病態解明と治療法の開発 4. 神経変性疾患における原因遺伝子解明，病態解析と治療法の開発 5. 神経再生機序の解明と治療法への応用 6. アルツハイマー病の病態解明と新規診断・治療法の開発 7. 遺伝性神経疾患の遺伝学的検査 8. 変異 senataxin による神経細胞死の分子病態解明 9. 神経変性疾患における脳脊髄液シスタチン C の測定			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Watanabe M, Monai N, Jackson M, Yamamoto-Watanabe Y, Ikeda Y, Suzuki C, Tomiyama M, Kawarabayashi T, Kimura T, Seino Y, Wakasaya Y, Miki Y, Matsubara E, Shoji M. A small trinucleotide expansion in the TBP gene gives rise to a sporadic case of SCA17 with abnormal putaminal findings on MRI. Intern Med. 2008;47(24):2179-82.

A.2. Suzuki C, Watanabe M, Tomiyama M, Sugimoto K, Nanba E, Jackson M, Kimura T, Seino Y, Wakasaya Y, Kawarabayashi T, Miki Y, Yamamoto-Watanabe Y, Shoji M. A novel mutation in the arylsulfatase A gene associated with adult-onset metachromatic leukodystrophy without clinical evidence of neuropathy. Eur Neurol. 2008;60(6):310-1.

A.3. Xu W, Kawarabayashi T, Matsubara E, Deguchi K, Murakami T, Harigaya Y, Ikeda M, Amari M, Kuwano R, Abe K, Shoji M.Plasma antibodies to Abeta40 and Abeta42 in patients with Alzheimer's disease and normal controls.Brain Res. 2008 Jul 11;1219:169-79. Epub 2008 Mar 4.

A.4. Arai A, Tomiyama M, Kannari K, Kimura T, Suzuki C, Watanabe M, Kawarabayashi T, Shen H, Shoji M. Reuptake of L-DOPA-derived extracellular DA in the striatum of a rodent model of Parkinson's disease via norepinephrine transporter. Synapse. 2008 Aug;62(8):632-5.

A.5. Tomiyama M, Arai A, Kimura T, Suzuki C, Watanabe M, Kawarabayashi T, Shoji M. Exacerbation of chronic pancreatitis induced by anticholinesterase medications in myasthenia gravis. Eur J Neurol. 2008 May;15(5):e40-1.

B.1. Ikeda M, Kawarabayashi T, Harigaya Y, Sasaki A, Yamada S, Matsubara E, Murakami T, Tanaka Y, Kurata T, Wuhua X, Ueda K, Kuribara H, Ikarashi Y, Nakazato Y, Okamoto K, Abe K, Shoji M. Motor impairment and aberrant production of neurochemicals in human alpha-synuclein A30P+A53T transgenic mice with alpha-synuclein pathology. Brain Res. 2009 Jan 23;1250:232-41.

B.2. Miyashita A, Arai H, Asada T, Imagawa M, Shoji M, Higuchi S, Urakami K, Toyabe S, Akazawa K, Kanazawa I, Ihara Y, Kuwano R. GAB2 is not associated with late-onset Alzheimer's disease in Japanese. Eur J Hum Genet. 2008 Oct 15.

B.3. Kurata T, Hayashi T, Murakami T, Miyazaki K, Morimoto N, Ohta Y, Takehisa Y, Nagai M, Kawarabayashi T, Takao Y, Ohta T, Harigaya Y, Manabe Y, Kamiya T, Shoji M, Abe K. Differentiation of PA from early PSP with different patterns of symptoms and CBF reduction. Neurol Res. 2008 Oct;30（8）:860-7.

B.4. Jin G, Inoue M, Hayashi T, Deguchi K, Nagotani S, Zhang H, Wang X, Shoji M,Hasegawa M, Abe K. Sendai virus-mediated gene transfer of GDNF reduces AIF translocation and ameliorates ischemic cerebral injury. Neurol Res. 2008 Sep;30(7):731-9.

B.5. Sasaki A, Kawarabayashi T, Murakami T, Matsubara E, Ikeda M, Hagiwara H, Westaway D, George-Hyslop PS, Shoji M, Nakazato Y. Microglial activation in brain lesions with tau deposits: comparison of human tauopathies and tau transgenic mice TgTauP301L. Brain Res. 2008 Jun 12;1214:159-68. Epub 2008 Mar 8.

B.6. Wati H, Kawarabayashi T, Matsubara E, Kasai A, Hirasawa T, Kubota T, Harigaya Y, Shoji M, Maeda S.Transthyretin accelerates vascular Abeta deposition in a mouse model of Alzheimer's disease. Brain Pathol. 2009 Jan;19(1）:48-57.

2009年度

A.1. Wakasaya Y, Watanabe M, Tomiyama M, Suzuki C, Jackson M, Fujimuro M, Kimura T, Seino Y, Kawarabayashi T, Yamamoto-Watanabe Y, Matsubara E, Shirahama I, Takamura A, Nakahata N, Shoji M. An unusual case of chronic relapsing tetanus associated with mandibular osteomyelitis. Intern Med. 2009;48(15):1311-3.

B.1. Anheim M, Monga B, Fleury M, Charles P, Barbot C, Salih M, Delaunoy JP, Fritsch M, Arning L, Synofzik M, Schols L, Sequeiros J, Goizet C, Marelli C, Le Ber I, Koht J, Gazulla J, De Bleecker J, Mukhtar M, Drouot N, Ali-Pacha L, Benhassine T, Chbicheb M, M' Zahem A, Hamri A, Chabrol B, Pouget J, Murphy R, Watanabe M, Coutinho P, Tazir M, Durr A, Brice A, Tranchant C, Koenig M. Ataxia with oculomotor apraxia type 2: clinical, biological and genotype/phenotype correlation study of a cohort of 90 patients. Brain. 2009; 132(Pt 10):2688-98.

B.2. Perkins EM, Clarkson YL, Sabatier N, Longhurst DM, Millward CP, Jack J, Toraiwa J, Watanabe M, Rothstein JD, Lyndon AR, Wyllie DJ, Dutia MB, Jackson M. Loss of beta-III spectrin leads to Purkinje cell dysfunction recapitulating the behavior and neuropathology of spinocerebellar ataxia type 5 in humans. J Neurosci. 2010; 30(14):4857-67.

B.3. Hirohata M, Yoshita M, Ishida C, Ikeda S-I, Tamaoka A, Kuzuhara S, Shoji M, Ando Y, Tokuda T, Yamada M. Clinical features of non-hypertensive lobar intracerebral hemorrhage related to cerebral amyloid angiopathy. European Journal of Neurology 2010 Feb 11. [Epub ahead of print]

B.4. Takei N, Miyashita A, Tsukie T, Arai H, Asada T, Imagawa M, Shoji M, Higuchi S, Urakami K, Kimura H, Kakita A, Takahashi H, Tsuji S, Kanazawa I, Ihara Y, Odani S, Kuwano R; Japanese Genetic Study Consortium for Alzheimer Disease. Genetic association study on in and around the APOE in late-onset Alzheimer disease in Japanese. Genomics. 2009; 93(5):441-8.

B.5. Ono K, Ikemoto M, Kawarabayashi T, Ikeda M, Nishinakagawa T, Hosokawa M, Shoji M, Takahashi M, Nakashima M. A chemical chaperone, sodium 4-phenylbutyric acid, attenuates the pathogenic potency in human alpha-synuclein A30P+A53T transgenic mice. Parkinsonism Relat Disord. 2009 Nov;15(9):649-54.

B.6. Ikeda M, Kawarabayashi T, Harigaya Y, Sasaki A, Yamada S, Matsubara E, Murakami T, Tanaka Y, Kurata T, Wuhua X, Ueda K, Kuribara H, Ikarashi Y, Nakazato Y, Okamoto K, Abe K, Shoji M. Motor impairment and aberrant production of neurochemicals in human alpha-synuclein A30P+A53T transgenic mice with alpha-synuclein pathology. Brain Res. 2009;1250:232-41.
B.7. Miyashita A, Arai H, Asada T, Imagawa M, Shoji M, Higuchi S, Urakami K, Toyabe S, Akazawa K, Kanazawa I, Ihara Y, Kuwano R. GAB2 is not associated with late-onset Alzheimer' s disease in Japanese. Eur J Hum Genet. 2009;17(5):682-6.
B.8. Wati H, Kawarabayashi T, Matsubara E, Kasai A, Hirasawa T, Kubota T, Harigaya Y, Shoji M, Maeda S. Transthyretin accelerates vascular Abeta deposition in a mouse model of Alzheimer's disease. Brain Pathol. 2009;19(1):48-57.

和文

2008年度

A.1. 東海林幹夫．認知症の臨床と病態．臨床神経学．2008;48:467-475.
A.2. 鈴木千恵子，新井　陽，冨山誠彦，馬場正之，東海林幹夫．パンダサインを呈したサルコイドーシス神経内科．神経内科，68(2):215-6,2008.

（2）総説

英文

2008年度

A.1. Kawarabayashi T, Shoji M. Plasma biomarkers of Alzheimer's disease. Curr Opin Psychiatry. 2008 May;21(3):260-7. Review.

和文

2008年度

A.1. 東海林幹夫．EBM に基づく認知症の薬物療法の評価．老年医学．2009;47:47-52.
A.2. 東海林幹夫．認知症の臨床と病態．臨床神経学．2008;48:467-475.
A.3. 東海林幹夫．バイオマーカーはどこまで進歩したのか．－脳脊髄液・血液マーカーの現状と課題―．老年精神医学．増刊－ I.2008;19:64-69.
A.4. 東海林幹夫．テロメアの短縮は認知症の発症と予後に関連する危険因子である．Medical Briefs in Brain and Nerve. 2008;16;3:4-5.
A.5. 松原悦朗，柳澤勝彦．アルツハイマー病 Clinical Neuroscience, 2008;26:866-868.
A.6. 松原悦朗．アルツハイマー病の抗体治療．臨床検査　2008;52:297-300.
A.7. 針谷康夫，東海林幹夫，認知症（高齢者），睡眠とその障害．Clinical Neuroscience, 2009;27:203-205.
A.8. 瓦林　毅，東海林幹夫．動物実験から予防を考える．生活習慣病．認知症予防．Modern Physician 2008;28:1477-1484.
A.9. 瓦林　毅，東海林幹夫．アルツハイマー病の早期診断法．臨床検査．2008;52:281-287.
A.10. 瓦林　毅，東海林幹夫．脂質管理による認知症の予防．分子脳血管病学．2008;7:66-71.
A.11. 瓦林　毅，ダッチタイプおよびアイスランドタイプ遺伝性脳出血．神経内科．2009;70:172-179.
A.12. 瓦林　毅，東海林幹夫，動物モデルからみた神経変性疾患．前頭側頭型認知症．神経内科 2008;68(2):119-128.
A.13. 渡辺光法，瓦林　毅，冨山誠彦，東海林幹夫．アルツハイマー病の新規バイオマーカーの開発．BIO Clinica. 2008;23:47-51.
A.14. 渡辺光法，瓦林　毅，冨山誠彦，東海林幹夫．Alzheimer 病 - 分子標的治療への展望　神経治療学　2008;25:19-24.
A.15. 渡辺光法，瓦林　毅，冨山誠彦，東海林幹夫．アルツハイマー病のバイオマーカー　カレントテラピー 2008;26:45-49.
A.16. 渡辺光法，瓦林　毅，冨山誠彦，東海林幹夫．認知症のバイオマーカー　臨床と研究　2008;85:489-492.
A.17. 渡辺光法，木村珠喜，鈴木千恵子，瓦林　毅，冨山誠彦，東海林幹夫 多系統萎縮症　Modern Physician 2008;28:629-633.
A.18. 渡辺光法，瓦林　毅，冨山誠彦，東海林幹夫．アルツハイマー病　3 診断と治療のためのバイオマーカー　治療学　2008;42:53-56.

2009年度

A.1. 東海林幹夫．Alzheimer 病：病態解明と治療研究の進歩．神経治療学．2009;26(6):773-778.
A.2. 東海林幹夫．パーキンソン病・レビー小体型認知症にみられる認知症．老年医学．2009;47:957-960.
A.3. 東海林幹夫．アルツハイマー病の生化学的マーカーとしての Aß －この 10 年とこれから－．老年精神医学 2010;21:49-55.
A.4. 東海林幹夫．診断のための生化学検査，アルツハイマー病におけるバイオマーカー神経内科．特別増刊号　認知症診療マニュアル　2010;72 Suppl.6:284-289.
A.5. 東海林幹夫．アルツハイマー病の生化学バイオマーカー　②アミロイドβ蛋白（Aß）：Cognition and Dementia 2009;8(4):270-275.
A.6. 松原悦朗．シリーズ　アルツハイマー病の治療薬 - 現状と将来展望　PET Journal 2009;5:13-15.
A.7. 針谷康夫，東海林幹夫．神経疾患と睡眠障害．認知症（高齢者）．Clinical Neuroscience 2009;27:203-205.

A.8. 針谷康夫，東海林幹夫．脳血管アミロイドーシス．アミロイドーシスと神経疾患．神経内科 70(2):165-171, 2009.
A.9. 瓦林　毅，東海林幹夫．認知症治療の進歩．神経治療学．2009;26(4):445-449.
A.10. 瓦林　毅．ダッチタイプおよびアイスランドタイプ遺伝性脳出血．神経内科 70(2);172-179,2009.
A.11. 瓦林　毅，東海林幹夫．血管因子からみた認知症 Up To Date：生活習慣病とアルツハイマー型認知症．分子脳血管病　2010;9(2):154-159.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 東海林幹夫．ヘルペス脳炎．今日の治療指針（山口徹，北原光夫，福井次矢編），医学書院，東京，2009, pp650-652
A.2. 東海林幹夫．アルツハイマー病．神経疾患最新の治療（小林祥泰，水澤英洋編），南江堂，東京，2009; pp179-183
A.3. 東海林幹夫．アルツハイマー病．認知症テキストブック（認知症学会編），中外医学社，東京，2008, pp234-251
A.4. 東海林幹夫．認知症．新版，処方計画法．綜合臨床，増刊．2008;57:1387-1391
A.5. 東海林幹夫．アルツハイマー病の診断．1）診断基準．3）b.b）Aß．アルツハイマー病，日本臨床，増刊号，2008;66:213-219
A.6. 東海林幹夫，清野祐輔，若佐谷保仁，瓦林　毅．脳卒中はどんな症状ではじまるのか．からだの科学．日本評論社．東京，260：13-16，2009
A.7. 東海林幹夫．認知症治療の最前線－ニコチン治療を中心として－（中村重信編）．メジカルビュー社．大阪，2008，pp9，11，13，14
A.8. 松原悦朗，柳澤勝彦．図説　分子病態学　4 版（一瀬白帝，鈴木宏治　編著）　IV. 疾患の分子病態学 H. 脳神経疾患　1.Alzheimer 病．pp326~330，中外医学社，東京，2008
A.9. 松原悦朗，柳澤勝彦．ナノメディシン：ナノテクの医学応用（宇理須恒夫　編）第 3 章生体分子情報・ナノバイオロジー　3-3　神経変性疾患研究の最近の動向　pp234-238，オーム社，東京，2008
A.10. 松原悦朗．最新臨床検査項目辞典（櫻林郁之介，熊坂一成　監修）5. 免疫学検査　C 血漿蛋白 タウ蛋白　pp506，医歯薬出版株式会社，東京，2008
A.11. 松原悦朗．最新臨床検査項目辞典（櫻林郁之介，熊坂一成　監修）5. 免疫学検査　C 血漿蛋白 アミロイド β 蛋白　pp506-507，医歯薬出版株式会社，東京，2008
A.12. 松原悦朗，柳澤勝彦．日本臨床 66 巻増刊号 1　アルツハイマー病 - 基礎研究から予防・治療への新しいパラダイム - II 基礎編　アルツハイマー病に関する基礎知識，Aß の化学構造と分解過程，Aß の化学構造．pp61-66，日本臨床社，大阪，2008
A.13. 松原悦朗．日本臨床 66 巻増刊号 1　アルツハイマー病 - 基礎研究から予防・治療への新しいパラダイム - III 臨床編 アルツハイマー病の診断，生物学的マーカー検査　脳脊髄液　タウ．pp247-251，日本臨床社，大阪，2008
A.14. 松原悦朗，柳澤勝彦．日本臨床 66 巻増刊号 1　アルツハイマー病 - 基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム - III 臨床編 アルツハイマー病の新しい治療法の開発　新規医薬品　Aß 凝集抑制薬．pp493-497，日本臨床社，大阪，2008.
A.15. 松原悦朗．日本臨床 66 巻増刊号 1　アルツハイマー病 - 基礎研究から予防・治療への新しいパラダイム - III 臨床編 アルツハイマー病の新しい治療法の開発　Aß クリアランス経路を標的とした治療法の開発．pp542-546，日本臨床社，大阪，2008
A.16. 瓦林　毅，東海林幹夫．MCI と認知症－リスクファクター．Annual Review 神経．中外医学社，東京，2009; pp184-196
A.17. 瓦林　毅．特殊なアルツハイマー病　遺伝性脳アミロイドーシス．ダッチタイプ遺伝性脳出血（HCHWA-D）　日本臨床　66 巻　増刊号 1（通巻第 929 号）　アルツハイマー病 日本臨床社，大阪，2008，p313-317
A.18. 瓦林　毅．特殊なアルツハイマー病　遺伝性脳アミロイドーシス．アイスランドタイプ遺伝性脳出血（HCHWA-I）アルツハイマー病 日本臨床社，大阪，2008，p319-323

2009年度

A.1. 東海林幹夫．血管性認知症　今日の治療指針　（山口徹，北原光夫，福井次矢）医学書院　東京 2010 p732-733
A.2. 東海林幹夫．脳アミロイドーシスに対する Aß 免疫療法．アミロイドーシス　uptodate，別冊・医学のあゆみ（山田正仁編）医歯薬出版株式会社，東京　2010 p93-96
A.3. 東海林幹夫．パーキンソン病　重粒子線，きらずに治る癌治療と医療最前線　（財，群馬健康医学会編）上毛出版社　前橋，2010 pp52-58
A.4. 東海林幹夫．5. 認知症②　レビー小体型認知症，前頭側頭型認知症　研修医のための神経内科診療（阿部康二編）新興医学出版社東京 2010 p164-170
A.5. 東海林幹夫．アルツハイマー病．神経疾患最新の治療　2009-2011　（小林祥泰，水澤英洋編）　南江堂　東京 2009 p179-183
A.6. 東海林幹夫．脳血管性認知症の治療は EBM　2009-2010 神経疾患の治療（岡本幸市，棚橋紀夫，水澤英洋編）中外医学社，東京，2009 p158-163
A.7. 東海林幹夫．パーキンソン病にはときどき認知症を伴うと聞きましたが，その頻度，発症機序，責任病巣について教えて下さい．パーキンソン病診療　Q&A 110（水野美邦編）　中外医学社 東京 2009 p270-272

A.8. 東海林幹夫．臨床分子細胞生物学　メデイカルイビュー社．（花岡炳雄，永倉）東京 2009 p215-221
A.9. 東海林幹夫，清野祐輔，若佐谷保仁，瓦林　毅．脳卒中はどんな症状ではじまるのか．からだの科学．日本評論社．東京，260:13-16,2009.
A.10. 東海林幹夫．日本臨床 67 巻増刊号 8　広範囲血液・尿化学検査　免疫学的検査　第 7 版 1- その数値をどう読むか - II 一般検査（尿・髄液・糞便検査を含む）B. 髄液検査 8. 脳脊髄液 tau，Aβ. pp199-204，日本臨床社，大阪，2009
A.11. 松原悦朗．日本臨床 67 巻増刊号 8　広範囲血液・尿化学検査　免疫学的検査　第 7 版 1- その数値をどう読むか - III 生化学的検査 [1] A. 蛋白関係 19. α1- アンチキモトリプシン（ACT）．pp304-306，日本臨床社，大阪，2009
A.12. 瓦林　毅, 東海林幹夫. MCI と認知症－リスクファクター－ Annual Review 2009 神経　柳澤信夫, 篠原幸人, 岩田誠，清水輝夫，寺本明編，中外医学社，東京　2009 pp184-196
A.13. 瓦林　毅，東海林幹夫．新しい診断と治療の ABC 66 認知症　検査所見 2．生化学的マーカー．最新医学社　大阪，2010 pp148-160
A.14. 瓦林　毅. Alzheimer 病モデル. 疾患モデルマウス・ラット活用ハンドブック. 秋山徹, 河府和義, 奥山隆平編, 羊土社，東京，（印刷中）
A.15. 若佐谷保仁．脳卒中を疑う症状．弘前大学出版会「脳を知る」シリーズ, 第 1 巻「脳卒中を知る」佐藤敬, 若林孝一編　（印刷中）

（4）その他

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 東海林幹夫．運動による認知機能低下の予防効果，急がれる認知機能リハビリテーションのエビデンス．MMJ 2009;5(4):210-211.
A.2. 東海林幹夫．症状こそ診断と治療の基本．漢方医学．2010; 34(2):102-104.
A.3. 東海林幹夫，中畑直子，若佐谷保仁，清野祐輔，渡辺有希子，渡辺光法，瓦林　毅，松原悦朗．弘前大学神経内科におけるもの忘れ外来の確立と脳脊髄液診断．厚生労働科学研究費補助金，難治性疾患克服研究事業．アミロイドーシス調査研究班．平成 20 年度　総括・分担研究報告書．2009 年 3 月
A.4. 東海林幹夫，瓦林　毅，若佐谷保仁，清野祐輔，高村歩美，中畑直子，渡辺有希子，渡辺光法，松原悦朗．lipid rafts における蛋白凝集体の蓄積について．厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患克服研究事業．アミロイドーシス調査研究班．平成 20 年度　総括・分担研究報告書．2009 年 3 月
A.5. 前田秀一郎，竹本恵子，廬山，Henny Wati，川上佳紀，瓦林　毅，松原悦朗，東海林幹夫，樋口京一．アミロイドーシス発症への血清アミロイド P 成分の関与に関する研究．厚生労働科学研究費補助金，難治性疾患克服研究事業．アミロイドーシス調査研究班．平成 20 年度　総括・分担研究報告書．2009 年 3 月
A.6. 東海林幹夫．弘前大学大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設　報告書（1999.4 ～ 2009.3）　2009 年 6 月
A.7. 東海林幹夫．アルツハイマー病研究会　第 10 回学術シンポジウム速記記録集 2009; p9-10
A.8. 東海林幹夫．2009 年を振り返って．認知症の人と家族の会　こなゆき　第 5 号　2010 年 1 月 25 日
A.9. 松原悦朗．厚生労働科学研究費補助金　長寿科学総合研究事業　血液，尿等，生体への侵襲が少ないバイオマーカーを用いた診断方法に関する研究　平成 20 年度総括・分担研究報告書　研究代表者　松原悦朗　平成 21（2009）年 3 月
A.10. 松原悦朗．厚生労働科学研究費補助金　長寿科学総合研究事業　アルツハイマー病の根本的治療薬開発に関する研究　平成 21 年度総括・分担研究報告書　研究代表者　道川誠平成 21（2009）年 3 月
A.11. 瓦林　毅，東海林幹夫．コレステロール代謝制御によるアルツハイマー病の根本的治療法の開発．代謝異常研究基金研究業績集（35 集）2008
A.12. 中畑直子．もの忘れ外来の軽度認知障害診断における日本版 Wechsler memory scale revised の有用性　第 11 回日本早期認知症学会　報告集　2009 年 p79-80

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Intenral Medicine	0.574	1	0.574
European Neurology	1.323	1	1.323
Brain Res	2.218	1	2.218
Synapse	2.524	1	2.524
Eur J Neurol	2.58	1	2.58
Curr Opin Psychiatry	2.599	1	2.599
Brain Res	2.218	2	4.436
Eur J Hum Genet	4.003	1	4.003
Neurol Res	1.634	2	3.268
Brain Pathol	3.655	1	3.655
Total		12	27.18

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Internal Medicine	1.002	1	1.002
Brain	9.603	1	9.603
Journal of Neuroscience	7.452	1	7.452
European Journal of Neurology	2.51	1	2.51
Genomics	3.327	1	3.327
Brain Res	2.463	1	2.463
Eur J Hum Genet	3.564	1	3.564
Brain Pathol	5.903	1	5.903
Total		8	35.824

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
臨床神経学	1	
神経内科	1	3
神経治療学		2
老年医学		1
老年精神医学		1
Cognition and Dementia		1
PET Journal		1
Clinical Neuroscience		1
分子脳血管病		1
計	2	11

2．著書数（A，B のみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	18	15

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
MMJ		1
漢方医学		1
難治性疾患克服研究事業．アミロイドーシス調査研究班．報告書		5
弘前大学大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設報告書		1
アルツハイマー病研究会　第10回学術シンポジウム速記記録集		1
認知症の人と家族の会　こなゆき		1
代謝異常研究基金研究業績集（35集）		
第11回日本早期認知症学会　報告集		1
計	0	11

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Etsuro Matsubara. Is Aβ Immunotherapy Working ? Asian Core Symposium-Nano and Biomedical Molecular Science-. Institute for Molecular Science. February 7, 2009.

B.2. Etsuro Matsubara. The recent progress and the future of Aβ immunotherapy in Alzheimer's disease. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

B.3. Mikio Shoji. Immune response to Aβ40 and Aβ42 in normal controls and patients with Alzheimer's disease. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.1. Takeshi Kawarabayashi, Yusuke Seino, Yasuhito Wakasaya, Mitsunori Watanabe, Tamaki Kimura, Chieko Suzuki, Masahiko Tomiyama, Etsuro Matsubara, Koichi Ishiguro, David Westaway, Peter St.George-Hyslop, Mikio Shoji, CSF Tau correlates with Brain Tau In Tau Transgenic Mice, ICAD2008, Jul, 26-31, 2008,

Chicago

C.2. Kurata T, Kawarabayashi T, Ikeda Y, Murakami T, Miyazaki K, Morimoto N, Ota Y, Takehisa Y, Nagai M, Ikeda M, Matsubara E, Westaway D, Hyslop P-S-G, Harigaya Y, Shoji M, Abe K. Enhanced accumulation of phophorylated α-synuclein in doubly transgenic mice expressing mutant βAPP and PS-1. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.3. Kawarabayashi T, Seino Y, Wakasaya Y, Takamura A, Nakahata N, Watanabe M, Matsubara E, Shoji M. Accumulation of protein in lipid rafts in mouse model of neurodegenerative diseases. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.4. Watanabe M, Jackson M, Fujimuro M, Kawarabayashi T, Seino Y, Wakasaya Y, Yamamoto-Watanabe Y, Matsubara E, Shoji M. Clinical and molecular genetic study of ataxia-ocular apraxia 2 and functional analysis of senataxin. The 38th annual meeting of the Society for Neuroscience November 15-19, 2008, Washington, DC

C.5. Jackson M, Clarkson YL, Longhurst DM, Jack J, Toraiwa J, Watanabe M, Rothstein JD, Lyndon AR, Perkins EM.・・III spectrin deficient mice-a new model of cerebellar ataxia. The 38th annual meeting of the Society for Neuroscience November 15-19, 2008, Washington, DC

C.6. Watanabe M, Fujimuro M, Jackson M, Yamamoto-Watanabe Y, Kawarabayashi T, Takamura A, Nakahata N, Shirahama I, Wakasaya Y, Seino Y, Matsubara E, Shoji M. Clinical and molecular genetic study of ataxia-ocular apraxia 2 and functional analyses of senataxin. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.7. Yamamoto-Watanabe Y, Watanabe M, Akimoto H, Sugimoto K, Yasujima M, Jackson M, Kawarabayashi T, Takamura A, Nakahata N, Shirahama I, Wakasaya Y, Seino Y, Matsubara E, Shoji M. Measurement of cystatin C in the cerebrospinal fluid of neurodegenerative disorders. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.8. Seino Y, Kawarabayashi T, Wakasaya Y, Takamura A, Nakahata N, Watanabe Y, Watanabe M, Matsubara E, Shoji M. Aβ amyloid accelerates accumulation of phosphorylated tau in neuronal cytoplasm and processes of double transgenic mice. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.9. Wakasaya Y, Kawarabayashi T, Seino Y, Takamura A, Nakahata N, Watanabe Y, Watanabe M, Matsubara E, Shoji M. Analysis of factors that induce neuronal death in tau transgenic mice. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.10. Takamura A, Kawarabayashi T, Shoji M, Matsubara E. Development of a novel predictive biological marker for amyloid β accumulation in the brain. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.11. Nakahata N, Kawarabayashi T, Seino Y, Wakasaya Y, Takamura A, Watanabe Y, Watanebe M, Matsubara E, Shoji M. Establishment of outpatient memory clinic in Hirosaki University Hospital. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

C.12. Ikeda Y, Kurata T, Hayashi T, Murakami T, Miyazaki K, Morimoto N, Ohta Y, Takehisa Y, Nagai M, Kawarabayashi T, Takao Y, Ohta T, Harigaya Y, Manabe Y, Kamiya T, Shoji M, Abe K. SPECT analysis in useful in differentiation of pure akinesia from early progressive supranuclear palsy. The 11the meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. March 27-28, 2009, Hirosaki

2009年度

A.1. Mikio Shoji. Recent advances of Alzheimer disease research: diagnosis and therapy. The 2009 International Symposium on early detection and rehabilitation of dementia. Okayama December 11-12, 2009.

B.1. Etsuro Matsubara. Is Aβ Immunotherapy Working ? Asian Core Symposium-Nano and Biomedical Molecular Science-. Institute for Molecular Science. February 7, 2009.

C.1. Kawarabayashi T, Wakasaya Y, Seino Y, Takamura A, Nakahata N, Watanabe Y, Watanabe M, Matsubara E, Shoji M. Accumulation of protein in lipid rafts in mouse models of neurodegenerative diseases. Neuroscience 2009, the Society for Neuroscience, 39th Annual Meeting, Chicago, Oct 17-21, 2009.

C.2. Miyagawa T, Iwata A, Kowa H, Kawarabayashi T, Shoji M, Tsuji S, Momose T, Kojima Y. The clinical characterization of the Japanese pedigree of FAD with PS1 H163R mutation. Alzheimer's Association 2009 International Conference on Alzheimer's disease (ICAD), Vienna, Jul 11-16, 2009.

(2) 全国学術集会

2008年度

A.1. 東海林幹夫. 認知症：診断と治療. 第 2 回 文京ニューロサイエンスフォーラム. 日本医科大学. 2008, 2 月 1 日

B.1. 東海林幹夫. 認知症の早期診断と治療～その最前線～. 日本神経学会市民公開講座. 特別講演. 福山生涯学習プラザ. 2008, 8 月 9 日

B.2. 東海林幹夫, 脳アミロイドーシス (1) アルツハイマー病. アミロイドーシス研究班 夏のワークショップ. KKR ホテル金沢. 2009, 8 月 22 日

B.3. 東海林幹夫. 認知症の画像診断. 第 20 回 日本脳循環代謝学会総会. ランチョンセミナー. 東京ドームホテル. 2008, 11 月 6 日

B.4. 松原悦朗. アルツハイマー病の画期的創薬. アルツハイマー病における Aβ オリゴマー特異的受動免疫療法. 日本薬学会第 128 会：2008 年 3 月 28 日：横浜

B.5. 松原悦朗. アルツハイマー病治療の進歩. 2008 老年医学サマーセミナー. 軽井沢プリンスホテル. 2008, 7 月 31 日

B.6. 松原悦朗 . 神経毒性 Aβ オリゴマーはアルツハイマー病発症の分子基盤である. 文部科学省科学研究費補

助金・特定領域研究「病態脳」5 領域 夏のワークショップ，札幌．2008，8 月 9 日
7. 松原悦朗．Aβ 蓄積とアルツハイマー病．アミロイド夏のワークショプ，金沢，2008，8 月 21 日
8. 松原悦朗．Aβ ワクチン療法 overview と複合作用機序支持派からみた Aβ ワクチン療法の展望：第 27 回日本認知症学会 シンポジウムⅠ，前橋．2008，10 月 10 日
9. 松原悦朗．Aβ ワクチン療法の現況と展望．日本神経学会東北地方会　生涯教育講演会．フォレスト仙台．2009，3 月 14 日

C. 76 件

2009年度

A.1. 東海林幹夫．AD の生化学マーカーとしての Aβ「最近の進歩」．アルツハイマー病研究会，第 10 回学術シンポジウム，東京，グランドプリンス新高輪，2009 年 4 月 8 日
A.2. 東海林幹夫．認知症の診断と治療．ランチョンセミナー，第 50 回日本神経学会総会．2009 年 5 月 20 日，仙台
A.3. 東海林幹夫．認知症～治療の現状と展望～．第 18 回日本脳ドック研究会，東京ドームホテル　2009 年 6 月 4 日
A.4. 東海林幹夫．脳アミロイドとしての Alzheimer 病．第 27 回日本神経治療学会シンポジウム３．2009 年 6 月 11 日 -12 日，熊本
A.5. 東海林幹夫．認知症：診断と治療．第 19 回日本臨床精神神経薬理学会，第 39 回日本神経精神薬理学会，ランチョンセミナー　京都，国際会館，2009 年 11 月 14 日
B.1. 松原悦朗．アルツハイマー病のメカニズムと求められる新薬像．情報機構セミナー，2009 年 7 月 17 日，東京
C.1. Watanabe M, Yamamoto-Watanabe Y, Akimoto H, Sugimoto K, Yasujima M, Kawarabayashi T, Takamura A, Nakahata N, Shirahama I, Wakasaya Y, Matsubara E, Shoji M. Measurement of cystatin C in cerebrospinal fluid of neurological disorders and analyses of +73 G/A polymorphism. 第 32 回日本分子生物学会年会 2009 年 12 月 9-12 日，横浜
C.2. 今川正樹，松原悦朗，桑野良三，東海林幹夫．鉄剤療法におけるアルツハイマー病患者の鉄剤服用前後の plasmaAβ1-40，Aβ1-42 値について．第 28 回日本認知症学会．2009 年 11 月 20 日，仙台
C.3. 瓦林　毅，若佐谷保仁，渡辺有希子，中畑直子，高村歩美，渡辺光法，松原悦朗，東海林幹夫．Niemann-Pick type C1 遺伝子の loss of function は lipid rafts で tau 蓄積を促進する．第 28 回日本認知症学会学術集会 2009 年 11 月 20-22 日　仙台
C.4. 中畑直子，若佐谷保仁，高村歩美，渡辺有希子，渡辺光法，瓦林　毅，松原悦朗，東海林幹夫．もの忘れ外来の軽度認知障害診断における日本版 Wechsler memory scale revised の有用性（第二報）第 28 回日本認知症学会学術集会 2009 年 11 月 20-22 日　仙台
C.5. 高村歩美，岡本康秀，中畑直子，若佐谷保仁，渡辺有希子，渡辺光法，瓦林　毅，東海林幹夫，松原悦朗．Aβ オリゴマー特異的モノクローナル抗体の作用機序と Aβ オリゴマー毒性発現機序の解明．第 28 回日本認知症学会学術集会 2009 年 11 月 20-22 日　仙台
C.6. 瓦林　毅，中畑直子，渡辺光法，渡辺有希子，若佐谷保仁，松原悦朗，東海林幹夫．軽度認知障害診断に日本版 Wechsler memory scale revised は有用である．第 20 回日本老年医学会東北地方会，2009 年 10 月 31 日，盛岡
C.7. 中畑直子，清野祐輔，若佐谷保仁，高村歩美，渡辺有希子，渡辺光法，瓦林　毅，松原悦朗，東海林幹夫．もの忘れ外来の軽度認知障害診断における日本版 Wechsler memory scale revised の有用性．第 11 回日本早期認知症学会，2009 年 10 月 10-11 日，八戸
C.8. 瓦林　毅，清野祐輔，若佐谷保仁，渡辺有希子，渡辺光法，松原悦朗，東海林幹夫，林由起子，西野一三．Four-and-a-half LIM domain 1 (FHL1) 遺伝子に異常を認めた reducing body myopathy の 1 例．第 85 回日本神経学会東北地方会，2009 年 9 月 12 日，福島
C.9. 東海林幹夫，中畑直子，瓦林　毅，松原悦朗．もの忘れ外来の軽度認知障害診断における日本版ウエクスラー記憶検査法（WMS-R）の有効性．第 51 回日本老年医学会学術集会，2009 年 6 月 18-20 日，横浜
C.10. 松原悦朗，高村歩美，瓦林　毅，東海林幹夫．ApoE-Aβ 複合体がアルツハイマー病患者脳脊髄液中で増加している．第 50 回日本神経学会総会　2009 年 5 月 20 日，仙台
C.11. 若佐谷保仁，瓦林　毅，清野祐輔，渡辺有希子，渡辺光法，松原悦朗，東海林幹夫．Tauopathy による神経細胞死を誘導する因子の解析．Tauopathy による神経細胞死を誘導する因子の解析．第 50 回日本神経学会総会　2009 年 5 月 20-22 日，仙台
C.12. 渡辺光法，渡辺有希子，秋元広之，杉本一博，保嶋　実，瓦林　毅，高村歩美，中畑直子，白濱育美，若佐谷保仁，清野祐輔，松原悦朗，東海林幹夫．神経変性疾患における脳脊髄液シスタチン C の測定．第 50 回日本神経学会総会　2009 年 5 月 20-22 日，仙台
C.13. 清野祐輔，瓦林　毅，若佐谷保仁，渡辺有希子，高村歩美 , 中畑直子，渡辺光法，松原悦朗，東海林幹夫．Aβ アミロイドによるタウ蓄積促進の検討．第 50 回日本神経学会総会　2009 年 5 月 20-22 日，仙台
C.14. 瓦林　毅，清野祐輔，若佐谷保仁，渡辺有希子，渡辺光法，松原悦朗，東海林幹夫．Niemann-Pick type C1 遺伝子の loss of function は lipid rafts で tau 蓄積を起こす．第 50 回日本神経学会総会　2009 年 5 月 20-22 日，仙台
C.15. 倉田智子，林　　健，村上哲郎，宮崎一徳，森本展年，太田康之，池田雅美，武久康，永井真貴子，池田佳生，瓦林　毅，高尾芳樹，大田泰正，針谷康夫，真邊泰宏，神谷達司，東海林幹夫，阿部康二．PA と PSP の重要な画像上の鑑別点．第 50 回日本神経学会総会，2009 年 5 月 20-22 日，仙台
C.16. 清野祐輔，若佐谷保仁，渡辺有希子，渡辺光法，瓦林　毅，松原悦朗，東海林幹夫．多発白質病変を認めた難治性神経ボレリア症の 1 例．第 84 回日本神経学会東北地方会，2009 年 3 月 14 日　仙台
C.17. 渡辺有希子，渡辺光法，引地基文，白濱育美，池田佳生，神成一哉，若佐谷保仁，清野裕輔，高村歩美，中畑直子，飯沼　要，瓦林　毅，松原悦朗，東海林幹夫．青森県における常染色体優性遺伝性脊髄小脳変性症の地域特異性．第 54 回日本人類遺伝学会，2009 年 9 月 23-26 日，東京．
C.18. 渡辺有希子，渡辺光法，若佐谷保仁，瓦林　毅，松原悦朗，東海林幹夫，若林孝一，佐藤冬樹，鬼島　宏，元村政勝．Critical illness polyneuropathy を併発した行 MuSK 抗体陽性重症筋無力症の 1 剖検例．第 86 回

日本神経学会東北地方会，2010 年 3 月 6 日　仙台

C.19. 渡辺光法，足立芳樹，渡辺有希子，白濱育美，高村歩美，中畑直子，若佐谷保仁，瓦林　毅，松原悦朗，東海林幹夫．複数の脳血管障害のリスクファクターを有し，高齢で発症した CADASIL の 1 例．第 35 回脳卒中学会総会，2010 年 4 月 15 日 -17 日，岩手

C　19 件

Ⅲ．学術賞

2008年度

1. 平成20年度学術国際振興基金　B-3
   代表　東海林幹夫
2. 代謝異常研究基金平成20年度研究助成金
   代表　東海林幹夫　コレステロール代謝制御によるアルツハイマー病の根本的治療法の開発
3. 第92回弘前医学会総会優秀発表賞
   瓦林　毅　平成20年6月15日

2009年度

東海林幹夫：代謝異常治療研究基金助成金

Ⅳ．共同研究

2009年度

① 松原悦朗：研究課題：分子科学研究所，神経毒性 Aβ 重合体の解析とその中和分子スクリーニング系の開発，協力研究者（生命・錯体分子科学研究領域，生体分子情報研究部門，宇理須恒雄教授）

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として

文部科学省研究費補助金（基盤研究 B）研究代表者　東海林幹夫
研究課題名：神経障害性オリゴマー制御によるアルツハイマー病の新規診断・治療法開発と臨床応用
文部科学省研究費補助金（基盤研究 C）研究代表者　瓦林　毅
研究課題名：リピドラフトのアミロイドβ蛋白オリゴマーを指標とした治療法の開発

他研究単位との研究分担者として

文部科学省研究費補助金（知的クラスター創成事業さっぽろバイオクラスター”Bio-S）
研究分担者　東海林幹夫　研究課題名：認知症診断バイオマーカー探索と神経変性抑制素材評価

2009年度

研究代表者として

文部科学省研究費補助金（基盤研究 B）研究代表者　東海林幹夫
研究課題名：神経障害性オリゴマー制御によるアルツハイマー病の新規診断・治療法開発と臨床応用
文部科学省研究費補助金（挑戦的萌芽研究）研究代表者　松原悦朗　1,800 千円
研究課題名：新規 Aβ オリゴマー分解酵素によるアルツハイマー病発症病態・神経変性機構の解明
文部科学省研究費補助金（基盤研究 C）研究代表者　瓦林　毅
研究課題名：神経変性疾患のリピドラフト病因蛋白オリゴマーを標的にした治療法の開発

他研究単位との研究分担者として

文部科学省研究費補助金（知的クラスター創成事業さっぽろバイオクラスター”Bio-S）
研究課題名：認知症診断バイオマーカー探索と神経変性抑制素材評価

(2) その他の省庁からの研究費

2008年度

研究代表者として

厚生労働科学研究費（長寿科学総合研究事業）研究代表者　松原悦朗
研究課題名：血液，尿等，生体への侵襲が少ないバイオマーカーを用いた診断方法に関する研究

他研究単位との研究分担者として

経済産業省戦略的技術開発委託費　研究分担者　東海林幹夫
研究課題名：組み替えダイズによるワクチンペプチドの開発
厚生労働科学研究補助金　研究分担者　東海林幹夫
研究課題名：特定疾患対策研究事業，アミロイドーシスに関する調査研究
厚生労働科学研究補助金　研究分担者　東海林幹夫　研究課題名：認知症の画像データベースの構築
厚生労働科学研究費（長寿科学総合研究事業）研究分担者　松原悦朗

研究課題名：アルツハイマー病の根本的治療薬開発に関する研究
医薬基盤研究所，保健医療分野における基礎研究推進事業　研究分担者　松原悦朗
研究課題名：老年期痴呆の画期的予防・治療法の開発
独立行政法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構，基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発・橋渡し促進技術開発　研究分担者　松原悦朗
研究課題名：AD，MCI 診断マーカーに関する技術開発

2009年度

研究代表者として
厚生労働科学研究費（長寿科学総合研究事業）研究代表者　松原悦朗
研究課題名：血液，尿等，生体への侵襲が少ないバイオマーカーを用いた診断方法に関する研究
他研究単位との研究分担者として
経済産業省戦略的技術開発委託費　研究分担者　東海林幹夫
研究課題名：組み替えダイズによるワクチンペプチドの開発
経済産業省戦略的技術開発委託費　研究分担者　東海林幹夫
J-ADNI
厚生労働科学研究補助金　研究分担者
研究課題名：特定疾患対策研究事業，アミロイドーシスに関する調査研究
アミロイドーシス診療ガイドラインの作製　東海林幹夫
厚生労働科学研究費（長寿科学総合研究事業）研究分担者　松原悦朗
研究課題名：アルツハイマー病の根本的治療薬開発に関する研究
独立行政法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構，基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発・橋渡し促進技術開発 研究分担者　松原悦朗
研究課題名：AD，MCI 診断マーカーに関する技術開発
長寿医療研究委託費　研究分担者　　松原悦朗
研究課題名：高齢者の健康及び疾病状態の把握のための新たなマーカー（遺伝子・蛋白等）の探索と分析に係る研究

（3）学内の研究助成

2008年度

研究代表者として
学術国際振興基金　平成 20 年度　B-3　研究代表者　東海林幹夫
弘前大学　競争的資金獲得のための支援　研究代表者　東海林幹夫
他研究単位との研究分担者として
平成 20 年度弘前大学学長指定重点研究　研究分担者　研究課題名：難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発

2009年度

研究代表者として
平成 21 年度　弘前大学大型プロジェクト研究者支援事業　東海林幹夫
平成 21 年度　弘前大学大型プロジェクト研究者支援事業　松原悦朗
平成 21 年度　弘前大学若手研究者支援事業　若佐谷保仁
平成 21 年度　弘前大学若手研究者支援事業　中畑直子
教育研究高度化のための支援体制整備事業
平成 21 年度弘前大学戦略的経費　150 千円
senataxin による選択的神経細胞死の分子病態解明とその臨床応用
他研究単位との研究分担者として
弘前大学　心の遺伝子リポジトリ形成
弘前大学機関研究　難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発
（若林孝一代表）分担研究

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として
代謝異常研究基金平成 20 年度研究助成金　研究代表者　東海林幹夫
研究課題名：コレステロール代謝制御によるアルツハイマー病の根本的治療法の開発

2009年度

研究代表者として
代謝異常治療研究基金
課題名：コレステロール代謝制御によるアルツハイマー病の根本的治療法の開発
第 27 回（平成 21 年度）持田記念研究助成金
変異 senataxin による神経細胞死の分子病態解明

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

2008年度

青森県による中国人医師　1名　10ヶ月受けいれ

2009年度

1名

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2008年度

1. 第2回青森パーキンソン病懇話会世話人会　ホテル青森，2008年1月11日
2. 第6回　神経内科学セミナー（松原悦朗室長，鷲見幸彦部長），2008年1月18日
3. 第2回もの忘れフォーラム in 弘前打合会，ホテルニューキャッスル，2008年2月6日
4. 青森神経内科談話会世話人会（青森国際ホテル）2008年2月16日
5. 第7回神経内科学セミナー（玉岡　晃教授）2008年2月18日
6. 第6回青森県脳卒中フォーラム（阿部康二教授）青森国際ホテル，2008年3月1日
7. 東北脳障害研究会（片山泰朗教授）仙台，2008年3月7日
8. 第82回日本神経学会東北地方会幹事会，2008年3月8日
9. 第2回弘前脳卒中セミナー（卜部貴夫先生）弘前文化センター，2008年3月14日
10. もの忘れフォーラム in 五所川原，プラザマリュー五所川原，2008年3月16日
11. 第2回もの忘れフォーラム in 弘前　（朝田　隆教授），弘前文化センター，2008年3月29日
12. アルツハイマー病研究会世話人会，ホテルニューオータニ．2008年4月5日
13. Fighting Vascular Events in Hirosaki.（橋本洋一郎先生，棚橋紀夫教授），ホテルニューキャッスル．2008年4月4日
14. 第3回J-ADNI総会，東京，砂防会館，2008年4月6日
15. 第1回弘前地区認知症医療連携交流会（瓦林　毅先生），ホテルニューキャッスル，2008年4月16日
16. 第2回弘前地区認知症医療連携交流会（瓦林　毅先生），ホテルニューキャッスル，2008年11月12日
17. 弘前地区認知症医療連携相談会（瓦林　毅）ベストウエスタンホテルニューシティー弘前，2008年4月24日
18. バイオクラスター，Bio-S，弘前meeting．2008年5月1日
19. Prof．Heinz Reichmann PDセミナー，ベストウエスタンホテルニューシテー，2008年5月22日
20. 第3回青森神経内科談話会　（岩坪　威教授）．ホテルニューキャッスル．2008年5月24日
21. 平成20年度　弘前大学医学部神経内科同門会いちい会，ホテルニューキャッスル，2008年6月7日
22. 森松光紀先生，弘前大学神経内科回診，2008年6月14日
23. 第3回青森パーキンソン病懇話会（森松光紀先生），ホテルニューキャッスル，2008年6月14日
24. 弘前脳疾患勉強会　（瓦林　毅）ホテルニューキャッスル2008年7月16日

25．第 5 回弘医生涯教育講座 （瓦林　毅） ベストウエスタンホテルニューシティー弘前，
2008 年 9 月 25 日
26．弘前市学術講演会（藤本健一先生）．ベストウエスタンニューシチー弘前．2008 年 10 月 14 日
27．第 8 回神経内科セミナー（桑野良三先生），弘前大学，2008 年，10 月 20 日
28．第 3 回　神経内科深慮勉強会（小森哲夫先生）ホテルクラウンパレス青森．2008 年 10 月 24 日
29．西津軽郡医師会講演会 （瓦林　毅）ホテルサンルート五所川原　2008 年，10 月 29 日
30．第 3 回青森多発性硬化症（MS）講演会と医療相談（田中恵子先生）県民福祉プラザ．
2008 年 11 月 1 日
31．日本神経学会市民公開講座（山田正仁教授）．弘前文化センター．2008 年 11 月 29 日
32．弘前大学神経内科学講座教室説明会．4F 多目的コミュニケーションスペース，2008 年 11 月 25 日
33．第 8 回青森 MG 研究会（野村恭一教授）アスパム．2008 年 12 月 13 日

2009年度

11 件

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2008年度

新聞報道，ラジオ出演など
東海林幹夫
東奥日報
認知症に理解深める，もの忘れフォーラム「周りの協力が大切」2008 年 3 月 31 日
「認知症には早期診断を」県支部準備会，東海林弘大教授訴え　2008 年 7 月 22 日
毎日新聞
認知症にどう向き合うか「家族の会」県準備会弘大教授と勉強会　2008 年 7 月 23 日
青森長寿セミナー．青森放送ラジオ 2008 年 6 月 23 日
松原悦朗
Japan Medicine. Academic News.
第 27 回日本認知証学会学術集会．アルツハイマー病根治薬が焦点に．今年度から専門医制度がスタート．
臨床研究も強化 2008 年 10 月 31 日（金）．
Medical Tribune.
新春企画 2009 年のトレンドを探る．アミロイドを標的に実現化に進む AD の早期診断・治療　2009 年
1 月 22 日．
特許取得および申請
東海林幹夫
パーキンソン病モデルトランスジェニックマウス　特許番号　第 4174212 号　2008 年，8 月 22 日
ワクチンを蓄積する形質転換ダイズ植物およびその理由　発開示 08-21
松原悦朗
Aβ オリゴマーに特異的に結合する抗体およびその利用　特願 2008-201058

41. 分子生体防御学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

・各研究員がそれぞれ筆頭著者として海外学術誌に年 1 報以上論文を発表することに関しては目標が到達できなかった。今後努力を継続していきたい。

・国際学会，全国大会レベルの学会等で各研究員が年 1 回以上発表を行うという目標は達成できなかった。今後努力を継続していきたい。

・各研究員がそれぞれ研究代表者として科学研究費に 1 件以上採択されることに関しては目標が達成できなかった。今後努力を継続していきたい。

理念：

教官，大学院生とともに，学術的に意義のある，さらに国際的な評価を得られるような研究を行う。
国内外の共同研究を積極的に行い，幅広い研究を進める。
研究活動を通じ，教室員の研究能力を高めるとともに，優れた倫理感を持った研究を行なう。また，人材の交流および研究材料の交換を通して国際レベルでの研究活動に参画する。

これから２年間の目標：

・各研究員がそれぞれ筆頭著者として海外学術誌に年 1 報以上論文を発表する。

・国際学会，全国大会レベルの学会等で各研究員が年 1 回以上発表を行う。

・各研究員がそれぞれ研究代表者として科学研究費に 1 件以上採択される。

・弘前大学医学部の各研究室との共同を通して，競争力のある基礎研究を進めていく。

・研究室員個人レベルでの目標を達成することにより，研究室として未知なる領域の開拓に挑み，国際的な評価を得る研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	伊東　　健	2008.04.01 ～ 2009.03.31
	講　師	専　任	三村　純正	2008.04.01 ～ 2009.03.31
	助　教	専　任	丸山　敦史	2008.04.01 ～ 2009.03.31
	助　教	専　任	原田　伸彦	2008.04.01 ～ 2009.03.31
研究課題	1. 酸化ストレス応答転写因子の活性化機構の解析 2. Nrf2による鉄代謝調節とその生理的機能 3. Nrf2による動脈硬化症防御の解析 4. Nrf2の抗炎症作用メカニズムの解明 5. Nrf2活性化による脳変性疾患の防御機構の解析 6. 親電子性物質の神経細胞に与える影響 7. Nrf2による NGF 遺伝子誘導メカニズムの解明 8. Nrf2による遺伝子発現分子機構の解析 9. 遺伝子発現活性化における Z-DNA の役割 10. Z-DNA 形成と疾患の関与			

2009年度

研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	伊東　　健	2009.04.01 ～ 2010.03.31
	講　師	専　任	三村　純正	2009.04.01 ～ 2010.03.31
	助　教	専　任	丸山　敦史	2009.04.01 ～ 2010.03.31
	助　教	専　任	原田　伸彦	2009.04.01 ～ 2010.03.31

研究課題	1. 酸化ストレス応答性転写因子の活性化機構の解析 2. Nrf2による鉄代謝調節とその生理的機能 3. Nrf2による動脈硬化症防御の解析 4. Nrf2による抗炎症作用メカニズムの解明 5. Nrf2活性化による脳変性疾患の防御機構の解析 6. 親電子性物質の神経細胞に与える影響 7. Nrf2による NGF 遺伝子誘導メカニズムの解明 8. Nrf2による遺伝子発現制御機構の解析 9. 遺伝子発現制御および疾患における Z-DNA の役割

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Maruyama A, Tsukamoto S, Nishikawa K, Yoshida A, Harada N, Motojima K, Ishii T, Nakane A, Yamamoto M, Itoh K. Nrf2 regulates the alternative first exons of CD36 in macrophages through specific antioxidant response elements. Arch. Biochem. Biophys. 2008;477:139-145.

B.1. Satoh T, Harada N, Hosoya T, Tohyama K, Yamamoto M, Itoh K. Keap1/Nrf2 system regulates neuronal survival as revealed through study of keap1 gene-knockout mice. Biochem Biophys Res Commun. 2009;6:380(2):298-302.

B.2. Higgins LG, Cavin C, Itoh K, Yamamoto M, Hayes JD. Induction of cancer chemopreventive enzymes by coffee is mediated by transcription factor Nrf2. Evidence that the coffee-specific diterpenes cafestol and kahweol confer protection against acrolein. Toxicol Appl Pharmacol. 2008;226(3):328-337.

B.3. Kawachi Y, Xu X, Taguchi S, Sakurai H, Nakamura Y, Ishii Y, Fujisawa Y, Furuta J, Takahashi T, Itoh K, Yamamoto M, Yamazaki F, Otsuka F. Attenuation of UVB-Induced Sunburn Reaction and Oxidative DNA Damage with no Alterations in UVB-Induced Skin Carcinogenesis in Nrf2 Gene-Deficient Mice. J Invest Dermatol. 2008;128:1773-1779.

B.4. Satoh T, Izumi M, Inukai Y, Tsutsumi Y, Nakayama N, Kosaka K, Shimojo Y, Kitajima C, Itoh K, Yokoi T, Shirasawa T. Neurosci Lett. Carnosic acid protects neuronal HT22 Cells through activation of the antioxidant-responsive element in free carboxylic acid- and catechol hydroxyl moieties-dependent manners. Neurosci Lett. 2008;434(3):260-265.

B.5. Harada H, Sugimoto R, Watanabe A, Taketani S, Okada K, Warabi E, Siow R, Itoh K, Yamamoto M, Ishii T. Differential roles for Nrf2 and AP-1 in upregulation of HO-1 expression by arsenite in murine embryonic fibroblasts. Free Radic Res. 2008;2(4):297-304.

B.6. Kanki K, Umemura T, Kitamura Y, Ishii Y, Kuroiwa Y, Kodama Y, Itoh K, Yamamoto M, Nishikawa A, Hirose M. A Possible Role of Nrf2 in Prevention of Renal Oxidative Damage by Ferric Nitrilotriacetate. Toxicol Pathol. 2008;36(2):353-361.

B.7. Kusano Y, Horie S, Shibata T, Satsu H, Shimizu M, Hitomi E, Nishida M, Kurose H, Itoh K, Kobayashi A, Yamamoto M, Uchida K. Keap1 Regulates the Constitutive Expression of GST A1 during Differentiation of Caco-2 Cells. Biochemistry 2008;47(23):6169-6177.

B.8. Yoh K, Hirayama A, Ishizaki K, Yamada A, Takeuchi M, Yamagishi S, Morito N, Nakano T, Ojima M, Shimohata H, Itoh K, Takahashi S, Yamamoto M. Hyperglycemia induces oxidative and nitrosative stress and increases renal functional impairment in Nrf2-deficient mice. Genes Cells. 2008;13:1159-1170.

C.1. Baba T, Shima Y, Owaki A, Mimura J, Oshima M, Fujii-Kuriyama Y and Morohashi KI. Disruption of aryl hydrocarbon receptor (AhR) induces regression of the seminal vesicle in aged male mice. Sex Dev. 2008;2:1-11.

C.2. Ema M, Mori D, Niwa H, Hasegawa Y, Yamanaka Y, Hitoshi S, Mimura J, Kawabe Y,Hosoya T, Morita M, Shimosato D, Uchida K, Suzuki N, Yanagisawa J, Sogawa K, Rossant J, Yamamoto M, Takahashi S and Fujii-Kuriyama Y. Krüppel-like factor 5 is essential for blastocyst development and the normal self-renewal of mouse ESCs. Cell Stem Cell. 2008;3:555-67.

2009年度

B.1. Prince M, Li Y, Childers A, Itoh K, Yamamoto M, Kleiner HE. Comparison of citrus coumarins on carcinogen-detoxifying enzymes in Nrf2 knockout mice. Toxicol Lett. 2009;185(3):180-186.

B.2. Higgins LG, Kelleher MO, Eggleston IM, Itoh K, Yamamoto M, Hayes JD. Transcription factor Nrf2 mediates an adaptive response to sulforaphane that protects fibroblasts in vitro against the cytotoxic effects of electrophiles, peroxides and redox-cycling agents. Toxicol Appl Pharmacol. 2009;237(3):267-280.

B.3. Homma S, Ishii Y, Morishima Y, Yamadori T, Matsuno Y, Haraguchi N, Kikuchi N, Satoh H, Sakamoto T, Hizawa N, Itoh K, Yamamoto M. Nrf2 enhances cell proliferation and resistance to anticancer drugs in human lung cancer. Clin Cancer Res. 2009;15(10):3423-3432.

B.4. Kimura S, Warabi E, Yanagawa T, Ma D, Itoh K, Ishii Y, Kawachi Y, Ishii T. Essential role of Nrf2 in keratinocyte protection from UVA by quercetin. Biochem Biophys Res Commun. 2009;387(1):109-114.

B.5. Takagi T, Naito Y, Okada H, Ishii T, Mizushima K, Akagiri S, Adachi S, Handa O, Kokura S, Ichikawa H, Itoh

K, Yamamoto M, Matsui H, Yoshikawa T. Lansoprazole, a proton pump inhibitor, mediates anti-inflammatory effect in gastric mucosal cells through the induction of heme oxygenase-1 via activation of NF-E2-related factor 2 and oxidation of kelch-like ECH-associating protein 1. J Pharmacol Exp Ther. 2009;331 (1) :255-264.

B.6. Monzen S, Takahashi K, Yoshino H, Kasai-Eguchi K, Abe Y, Maruyama A, Itoh K, Kashiwakura I. Heavy ion beam irradiation regulates the mRNA expression in megakaryocytopoiesis from human hematopoietic stem/progenitor cells. J Radiat Res (Tokyo). 2009;50(5):477-486.

B.7. Kosaka K, Mimura J, Itoh K, Satoh T, Shimojo Y, Kitajima C, Maruyama A, Yamamoto M, Shirasawa T. Role of Nrf2 and p62/ZIP in the neurite outgrowth by carnosic acid in PC12h cells. J Biochem. 2010;147(1):73-81.

B.8. Iida K, Mimura J, Itoh K, Ohyama C, Fujii-Kuriyama Y, Shimazui T, Akaza H and Yamamoto M. Suppression of AhR signaling pathway is associated with the downregulation of UDP-glucuronosyltransferases during BBN-induced urinary bladder carcinogenesis in mice. J Biochem. 2010;147(3):353-360.

B.9. Kikuchi N, Ishii Y, Morishima Y, Yageta Y, Haraguchi N, Itoh K, Yamamoto M, Hizawa N. Nrf2 protects against pulmonary fibrosis by regulating the lung oxidant level and Th1/Th2 balance. Respir Res. 2010;11:31.

C.1. Sekine H, Mimura J, Oshima M, Okawa H, Kanno J, Igarashi K, Gonzalez FJ, Ikuta T, Kawajiri K, Fujii-Kuriyama Y. Hypersensitivity of aryl hydrocarbon receptor-deficient mice to lipopolysaccharide-induced septic shock. Mol Cell Biol. 2009;29:6391-400.

C.2. Kawajiri K, Kobayashi Y, Ohtake F, Ikuta T, Matsushima Y, Mimura J, Pettersson S, Pollenz RS, Sakaki T, Hirokawa T, Akiyama T, Kurosumi M, Poellinger L, Kato S, Fujii-Kuriyama Y. Aryl hydrocarbon receptor suppresses intestinal carcinogenesis in ApcMin/+ mice with natural ligands. Proc Natl Acad Sci U S A. 2009;106:13481-6.

C.3. Oshima M, Mimura J, Sekine H, Okawa H, Fujii-Kuriyama Y. SUMO modification regulates the transcriptional repressor function of aryl hydrocarbon receptor repressor. J Biol Chem. 2009;284:11017-26.

和文　なし

(2) 総説

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 伊東　健. Nrf2 酸化ストレス応答系による病態制御. 生化学　2009;81:447-455.

A.2. 伊東　健. Nrf2/Keap1 酸化ストレス応答系による活性酸素シグナル制御. 実験医学増刊 Vol.27, No 15, pp225-231, 2009.

(3) 著書

英文　なし

和文　なし

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arch. Biochem. Biophys.	2.578	1	2.578
Biochem Biophys Res Commun	2.749	1	2.749
Toxicol Appl Pharmacol.	3.846	1	3.846
J Invest Dermatol	4.829	1	4.829
Neurosci Lett.	2.085	1	2.085
Free Radic Res.	2.925	1	2.925
Toxicol Pathol.	1.897	1	1.897
Biochemistry	3.368	1	3.368
Genes Cells	3.299	1	3.299
Total		9	27.576

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Toxicol Lett	3.249	1	3.249
Toxicol Appl Pharmacol	3.364	1	3.364
Clin Cancer Res	6.488	1	6.488
Biochem Biophys Res Commun	2.648	1	2.648
J Pharmacol Exp Ther	4.309	1	4.309
Respir Res	3.874	1	3.874
J Biochem	1.878	2	3.756
Journal of Radiation Research (Tokyo)	1.462	1	1.462
Total		9	29.15

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
生化学		1
実験医学増刊		1
計	0	2

２．著書数（A，B のみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
な　し		
計	0	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Harada N, Maruyama A, Hosoya T, Yoshida A, Yamamoto M, Itoh K, Nrf2 enhances iron efflux in macrophages via up-regulation of FPN1. Lipid Peroxidation, Karuizawa, Japan, 2008.

C.2. Harada N, Maruyama A, Hosoya T, Toki T, Kanayama M, Yoshida A, Yamamoto M, Itoh K, Nrf2 enhances iron efflux in macrophages via up-regulation of FPN1. Molecular mechanism of environmental response to food and oxygen III, Sendai, Japan, 2009.

C.3. Harada N, Maruyama A, Hosoya T, Toki T, Kanayama M, Yoshida A, Yamamoto M, Itoh K, Nrf2 enhances iron efflux in macrophages via up-regulation of FPN1. The 11th meeting of hirosaki international forum of medical science, Hirosaki, Japan, 2009.

C.4. Atsushi Maruyama, Keizo Nishikawa, Masayuki Yamamoto, Ken Itoh. KAP1 activates Nrf2-dependent transcription.Molecular mechanism of environmental response to food and oxygen III, Sendai, Japan, 2009.

C.5. Junsei Mimura, Atsushi Maruyama, Kunio Kosaka, Yosuke Shimojo, Takumi Sato, Chieko Kitajima, Koichi Asada, Takuji Shirasawa, Masayuki Yamamoto and Ken Itoh Carnosic acid promotes Nrf2-dependent neurite outgrowth through activation of p62 in PC12h cells. The International Symposium on Lipid Peroxidation Karuizawa, Japan, 2008.

C.6. Junsei Mimura, Atsushi Maruyama, Kunio Kosaka, Yosuke Shimojo, Takumi Sato, Chieko Kitajima, Koichi Asada, Takuji Shirasawa, Masayuki Yamamoto and Ken Itoh. Carnosic acid promotes Nrf2-dependent neurite outgrowth through activation of p62 in PC12h cells. Molecular Mechanism of Environmental Response to Food and Oxygen III, Sendai, Japan, 2009.

C.7. Junsei Mimura, Atsushi Maruyama, Kunio Kosaka, and Ken Itoh. Carnosic acid-induced expression of NGF by Nrf2-dependent pathway. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, Japan, 20090.

2009年度

B.1. Ken Itoh. Role of Nrf2 in neural protection and differentiation. SFRR International Free Radical School in Japan 2009, Echigoyuzawa, 2009.
B.2. Ken Itoh. Nrf2 co-activator for HO-1 gene regulation. 6th Interntional Congress on Heme oxygenase, Florida, 2009.
B.3. Ken Itoh. Role of Nrf2 in the neurotrophic action of the electrophiles. The 9th Internatin Symposium on "Recent Trends in Pharmaceutical Scinces", Gyeongsan, 2009.
C.1. Junsei Mimura, Carnosic acid-induced expression of NGF by Nrf2-dependent pathway, International Symposium 2009 on Signaling Functions of Reactive Oxygen Species, Kumamoto, 2009.

（2）全国学術集会

2008年度

C. 1件

2009年度

A.1. 伊東　健.「Nrf2-HO-1経路の制御機構と生理機能」第6回 Heme Oxygenase 研究フォーラム, 京都, 2009年.
B.1. 伊東　健.「Nrf2 経路を介した活性酸素シグナル制御機構の解析」. 第82回生化学会大会，神戸，2009年.

Ⅲ．学術賞

2008年度

第146回弘前医学会例会優秀発表賞，原田伸彦，転写因子 Nrf2 の動脈硬化症への役割

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
平成20年度科学研究費補助金，特定領域研究，Nrf2 を介した転写制御機構の分子基盤の解析，伊東　健，3,100千円.
平成20年度科学研究費補助金，新学術領域型，活性酸素シグナルの転写制御機構の解明，伊東　健，19,000千円

2009年度

研究代表者として
1．平成21年度科学研究費補助金，新学術領域型，活性酸素シグナルの転写制御機構の解明，伊東　健，17,000千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2008年度

他研究単位との研究分担者として
平成20年度学長指定重点研究(特定研究), 難治性脳疾患の統合病態解析と根本的治療法の開発, 伊東　健，400千円

2009年度

研究代表者として
1．平成21年度大型プロジェクト研究者支援事業，伊東　健，520千円
2．平成21年度弘前大学若手研究者支援事業，Nrf2 依存的 SQSTM1 発現増強を介した神経変性疾患防御機構の解明，丸山敦史，500千円

他研究単位との研究分担者として
1．平成21年度弘前大学機関研究，難治性脳疾患の統合病態解析と根本的治療法の開発，伊東　健，600千円
2．平成21年度北東北国立大学3大学連携推進研究プロジェクト，生体防御機構を分子標的として動脈硬化を制御する，伊東　健，1,500千円

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として
第 37 回（2008 年度）内藤記念特定研究助成金，伊東　健，500 千円
鈴木謙三記念平成 20 年度調査研究助成，動脈硬化症における酸化ストレス応答性転写因子 Nrf2 の役割，伊東　健，1,000 千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

2008年度

伊東　健，第 11 回弘前国際医学フォーラム，弘前

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

42. 糖鎖工学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1. Impact factor のついた学術雑誌に first author として年1報の論文を発表する。
2. 国際学会，全国レベルの学会で演者として発表する。
3. 研究代表者として科学研究費補助金に1件採択を目指す。
4. 他機関との共同研究を大切にする。

達成度は，1.　50%
2.　50%
3. 100%
4. 100%

理念：

ポストゲノム研究の鍵である糖鎖，複合糖質を中心とした研究に少しでも貢献するために，また，長年育まれてきた弘前大学（特に旧生化学第一講座）の糖鎖工学の研究の発展に少しでも貢献するために，独創性を意識して研究に取り組む。他の研究領域にも興味を持ち，小さな発見を大切にする。

これから２年間の目標：

1. Impact factor のついた学術雑誌に first author として年1報の論文を発表する。
2. 国際学会，全国レベルの学会で演者として発表する。
3. 研究代表者として科学研究費補助金，競争的資金に応募し，1件採択を目指す。
4. 他機関との共同研究を大切にする。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	遠藤　正彦	2008年4月1日～2009年3月31日
	教　授	兼　任	伊東　　健	2008年4月1日～2009年3月31日
	准教授	専　任	柿崎　育子	2008年4月1日～2009年3月31日
	助　教	専　任	田所　友美	2008年4月1日～2008年9月30日
研究課題	1. ヒアルロン酸ハイブリッドプロテオグリカンの合成 2. ウシ精巣性ヒアルロニダーゼの加水分解機構について 3. サケプロテオグリカンの構造に関する研究 4. マラリアの母子感染阻止を目指した糖鎖工学 5. ヒアルロニダーゼ阻害剤に関する研究 6. 創薬を目指した疾患関連糖鎖の探索			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	遠藤　正彦	2009年4月1日～2010年3月31日
	教　授	兼　任	伊東　　健	2009年4月1日～2010年3月31日
	准教授	専　任	柿崎　育子	2009年4月1日～2010年3月31日
	助　教	専　任	多田羅洋太	2009年4月1日～2010年3月31日
	助　手	専　任	小泉　英誉	2009年4月1日～2010年3月31日
研究課題	1. サケプロテオグリカンの構造に関する研究 2. マラリアの母子感染阻止を目指した糖鎖工学 3. ヒアルロニダーゼ阻害剤に関する研究 4. 創薬を目指した疾患関連糖鎖の探索			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. Achur, R. N., Kakizaki, I., Goel, S., Kojima, K., Madhunapantula, S. V., Ohta, M., Kumar, S., Takagaki, K., and Gowda, D. C.: Structural Interactions in Chondroitin 4-Sulfate-mediated Adherence of *Plasmodium falciparum*-infected Erythrocytes in Human Placenta During Pregnancy-Associated Malaria. Biochemistry 2008;47(47): 12635-12643.

2009年度

A.1. Chen, Fengchao., Kakizaki, I., Yamaguchi, M., Kojima, K., Takagaki, K., and Endo, M.: Novel products in hyaluronan digested by bovine testicular hyaluronidase. Glycoconj. J. 2009;26:559-566.

A.2. Funahashi, M., Nakamura, T., Kakizaki, I., Mizunuma., and Endo, M.: Stimulation of small proteoglycan synthesis by the hyaluronan synthesis inhibitor 4-methylumbelliferone in human skin fibroblasts. Connect. Tissue Research 2009;50:194-202.

C.1. Tatara, Y., Lin, Yi-Chin, Bamba, Y., Mori, T., and Uchida, U.: Dipentamethylene thiuram monosulfide is a novel inhibitor of Pin1. Biochem. Biophys. Res. Commun. 2009;384:394-398.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文

2008年度

A.1. Kakizaki, I., and Takagaki, K.: Endoglycosidases（Glycosaminoglycans）in *Experimental Glycoscience – Glycoscience* edited by Taniguchi, N. , Suzuki, A., Ito, Y., Narimatsu, H., Kawasaki, T., and Hase, S., Springer, Berlin, Germany, 173-176（2008）

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 柿崎育子．表皮ヒアルロン酸代謝における紫外線照射の影響．太陽紫外線防御研究委員会学術報告書(2008); 18(1):1-6.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochemistry	3.386	1	3.386
Total		1	3.386

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Glycoconjugate Jouranal	1.743	1	1.743
Connective Tissue Research	1.113	1	1.113
Total		2	2.856

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2008年度

C.　1 件

2009年度

B.1　柿崎育子,「医学応用を目指したプロテオグリカンの糖鎖工学」, 日本応用糖質科学会平成 21 年度大会（第 58 回）大会 特別シンポジウム【東北から発信する糖質関連新技術】, 弘前, 2009 年
C.　4 件

Ⅲ．学術賞

2008年度

・平成 20 年度（第 13 回）弘前大学医学部学術賞 学術特別賞
柿崎育子,「生体内糖鎖の構造と機能に関する研究（医学応用を目指して）

Ⅳ．共同研究

2008年度

・大塚製薬株式会社医薬製品事業部,「疾患関連糖鎖の探索」, 柿崎育子
・（株）角弘 プロテオグリカン研究所,「サケ皮の糖鎖探索」, 柿崎育子
・Pennsylvania State University, College of Medicine, U.S.A.,「Minimal Sulfate Requirement for the Efficient Adherence of *Plasmodium falciparum*-infected Erythrocytes to the Dodecasaccharide Motif of the Human Placental Chondroitin 4-Sulfate Receptor」, 柿崎育子

2009年度

・大塚製薬株式会社 探索第三研究所,「疾患関連糖鎖の探索 2」, 柿崎育子
・Pennsylvania State University, College of Medicine, U.S.A,「Minimal Sulfate Requirement for the Efficient Adherence of *Plasmodium falciparum*-infected Erythrocytes to the Dodecasaccharide Motif of the Human Placental Chondroitin 4-Sulfate Receptor」, 柿崎育子

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
・ 基盤研究（C),「マラリアの母子感染阻止を目指した糖鎖工学的アプローチ」, 柿崎育子, 900 千円

2009年度

研究代表者として
- 基盤研究（C),「マラリアの母子感染阻止を目指した糖鎖工学的アプローチ」, 柿崎育子, 1,100 千円

（2）その他の省庁からの研究費

2008年度

他研究単位との研究分担者として
- 平成 20 年度地域科学技術振興事業費補助金（文部科学省）都市エリア産学官連携促進事業（一般型), QOL の向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発, 柿崎育子, 9,880 千円

2009年度

他研究単位との研究分担者として
- 平成 21 年度地域科学技術振興事業費補助金（文部科学省）都市エリア産学官連携促進事業（一般型）・QOL の向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発,「プロテオグリカンの新糖鎖創薬への応用」, 柿崎育子, 10,800 千円

（3）学内の研究助成

2008年度

研究代表者として
- 平成 20 年度（第 13 回）弘前大学医学部学術賞学術特別賞の研究助成,「生体内糖鎖の構造と機能に関する研究（医学応用を目指して)」, 柿崎育子, 300 千円

2009年度

研究代表者として
- 平成 21 年度弘前大学若手研究者支援事業,「プロテオグリカンの糖鎖が結合するセリン残基の同定」, 多田羅洋太, 494 千円
- 平成 21 年度弘前大学若手研究者支援事業,「ヒアルロニダーゼ阻害活性を有するグリコサミノグリカン糖の探索」, 小泉英誉, 500 千円

（4）民間の研究助成

2008年度

研究代表者として
- JST 地域イノベーション創出総合支援事業重点地域研究開発推進プログラム平成 20 年度シーズ発掘試験 (A: 発掘型),「糖鎖改変ウリナスタチンの医薬品への応用」, 柿崎育子, 2,000 千円
- 平成 20 年度学術国際振興基金 A-1-①（若手研究者への助成),「ヒアルロン酸ハイブリッドプロテオグリカンの機能探索」, 柿崎育子, 1,000 千円
- 平成 20 年度学術国際振興基金 C-1（(地域企業と大学の共同研究の助成),「創薬を目指した疾患関連糖鎖の探索」, 柿崎育子, 500 千円
- 平成 20 年度学術国際振興基金 C-1（地域企業と大学の共同研究の助成),「サケ皮の糖鎖探索」, 柿崎育子, 500 千円
- 平成 20 年度学術国際振興基金 B-3（外国人研究者の招へい旅費・滞在費の助成), 柿崎育子, 450 千円

Ⅵ. 研究に関する社会活動

（1）国際交流, 国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2008年度

Dr. Arivalagan Muthusamy
Department of Orthopaedics & Rehabilitation Penn State University College of Medicine, U.S.A.（米国ペンシルバニア州立大学医学部整形外科リハビリテーション部門・講師), 2008 年 9 月 7 日～ 14 日

ｃ）外国人からの留学生, 研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察, 研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2008年度

・柿崎育子，第８回プロテオグリカン研究会代表，弘前市
・柿崎育子，第２回東北糖鎖研究会世話人（教育学部教授・加藤陽治先生と共に実行），弘前市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

43. 附属動物実験施設

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

研究テーマに関しては，英文雑誌への投稿にむけてデータ収集を完了することができた。また全国レベルの学会で発表した，この点についての達成度は80％と考える。学会発表を通じて医学，社会に貢献できたと考える。文部科学省科学研究費に関しては獲得には至らなかったが，十分努力したと考える。総じて２年前に設定した目標はほぼ到達できたと考える。

理念：

研究を通して医学，さらに社会に貢献する

これから２年間の目標：

1）現在の研究テーマに関し，英文雑誌に発表する
2）現在の研究テーマに関し，全国学会で発表する
3）文部科学省科学研究費を獲得できるよう努力する

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	助　教	専　任	成田　浩司	2008年4月から2009年3月
研究課題	1. 黄色ブドウ球菌接着因子ワクチンの感染防御効果と防御機構の解明 2. 黄色ブドウ球菌病原因子 SSL5 ワクチンの感染防御効果と防御機構の解明 3. 黄色ブドウ球菌接着因子 Map とスーパー抗原 TSST-1 の相互作用の解析			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	助　教	専　任	成田　浩司	2009年4月から2010年3月
研究課題	1. 黄色ブドウ球菌接着因子ワクチンの感染防御効果と防御機構の解明 2. 黄色ブドウ球菌病原因子 SSL5 ワクチンの感染防御効果と防御機構の解明 3. 黄色ブドウ球菌スーパー抗原 TSST-1 ワクチンの感染防御効果における IL-17 の関与			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2009年度

B.1. Dong-Liang Hu, Kouji Narita, Mamoru Hyodo, Yoshihiro Hayakawa, Akio Nakane, David K.R. Karaolis. c-di-GMP as a vaccine adjuvant enhances protection against systemic methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) infection. Vaccine 2009;27(35):4867-4873.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

B.1. 中根明夫，成田浩司，胡　東良．黄色ブドウ球菌に対するワクチンの開発．臨床免疫・アレルギー科 2008;50(5):543-550.

(3) 著書

英文　なし

和文　なし

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し		0	0
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し	3.377	1	3.377
Total		1	3.377

和文（論文数）

雑　誌　名	2008年度	2009年度
臨床免疫・アレルギー科	1	
計	1	0

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2008年度

C.1. Kouji Narita, Dong-Liang Hu, Akio Nakane. The role of interleukin-17 in the protective effect of an immunization with clumping factor A against Staphylococcus aureus infection. The 11th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki. 2009.

(2) 全国学術集会　なし

2008年度

C.　2件

2009年度

C.　1件

Ⅲ．学術賞

2008年度

平成19年度弘前医学会優秀論文賞．成田浩司．Protective effect of intranasal vaccination with nontoxic mutant toxic shock syndrome toxin 1 against *Staphylococcus aureus* infections.

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

44. 医学教育センター　（資料なし）

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

和文

（2）総説

英文

和文

（3）著書

英文

和文

（4）その他

英文

和文

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total			

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
計		

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著		
編　　集		
分担執筆		

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著		
編　　集		
分担執筆		

3．その他（A，B のみ）

英文

和文

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

（2）全国学術集会

Ⅲ．学術賞

Ⅳ．共同研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

（2）その他の省庁からの研究費

（3）学内の研究助成

（4）民間の研究助成

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

ｆ）その他

(2) 国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

ｂ）地方レベルの学会の主催

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

Ⅶ．その他

45. 手術部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

到達度は50％くらいである。

理念：

手術の安全

これから２年間の目標：

1）周術期感染の減少に関わる研究

2）手術に関連した医療事故の発生要因の研究

3）手術部要員の感染事故（針刺し事故など）の要因と対策

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	橋本　浩	1年
研究課題	1. プロトンポンプ阻害薬とヒスタミン２レセプター拮抗薬についての臨床的研究 2. 体外循環中の胸部大動脈内における血流の評価 3. 心臓血管麻酔中の脳波と局所脳内酸素飽和度に関する臨床的研究			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	橋本　浩	1年
研究課題	1. 心臓血管麻酔中の脳波と局所脳内酸素飽和度に関する臨床的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. Minakawa M, Fukuda I, Fukui K, Daitoku K, Suzuki Y, Inamura T, Yanaoka H, Hashimoto H. Hydrodynamic evaluation of axillary artery perfusion for normal and diseased aorta Gen Thorac Cardiovasc Surg 2008;56:215-221.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 橋本　浩．処置編 1 A　高周波リニア型プローブでできること　5. 大腿静脈穿刺　廣田和美，北山眞任，佐藤裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）109-115　東京　克誠堂 2008

A.2. 橋本　浩．処置編 2 A　高周波リニア型プローブでできること　3. 腹壁の筋弛緩，術後鎮痛や処置のために　廣田和美，北山眞任，佐藤裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）155-169　東京　克誠堂 2008

2009年度

A.1. 橋本　浩．はじめに，中心静脈カテーテル挿入手技に関する安全指針，1，弘前，弘前大学医学部附属病院医療安全推進室，2009

A.2. 橋本　浩．総論，中心静脈カテーテル挿入手技に関する安全指針，2-7，弘前，弘前大学医学部附属病院医療安全推進室，2009

A.3. 橋本　浩．各論 1，内頚静脈カテーテル挿入，中心静脈カテーテル挿入に関する安全指針，弘前大学医学部附属病院医療安全推進室，2009

（4）その他

英文

2008年度

A.1. Hashimoto H, Nakamura H, Hirota K. Marked reduction in bispectral index with severe bradycardia without hypotension in a diabetic patient undergoing ophthalmic surgery. J Anesth 2008;22:300-303.

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Gen Thorac Cardiovasc Surg	0	1	0
Total		1	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
な　　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	3

3．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Anesth	0	1	0
Total		1	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑　誌　名	2008年度	2009年度
な　し		
計	0	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2009年度

A.1. Hashimoto H. Hemodilutional autologous transfusion (HAT) in Hirosaki University Hospital, Department Anesthesia Pusan National University, Summer Conference 2009, Pusan, Korea, July 3, 2009.

C.1. Hashimoto H. Hashiba E. Ishihara H. Hirota K. Clinical study of perioperative hemodilutional autologous blood transfusion in cardiovascular surgery, 8th Meeting of the Asian Society of Cardiothoracic Anesthesia in conjunction with 14th Annual Meeting of Japanese Society of Cardiovascular Anesthesiologists, Tokyo, Japan, Sep. 11, 2009.

C.2. Kitayama M, Hashimoto H. Kudo T. Kudo M. Takada N. Wada M. Hirota K. Plasma concentration of ropivacaine after ultrasound guided rectus sheath blocks for lower abdominal surgery, Spring Scientific Meeting of the Anaesthetic Research Society, Edinburgh, UK, May. 29, 2009.

（2）全国学術集会

2008年度

C.　5件

2009年度

C.　2件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

46. 検査部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	助　教	専　任	熊坂隆一郎	12 ヶ月
研究課題				

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	助　教	専　任	村上　礼一	12 ヶ月
研究課題				

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. Nakamura N, Fujita T, Kumasaka R, Murakami R, Shimada M, Shimaya Y, Osawa H, Yamabe H and Okumura K. Serum lipid profile and plasma fatty acid composition in hemodialysis patients--comparison with chronic kidney disease patients. *In Vivo* 22:609-11,2008.

B.2. Fujita T, Yamabe H, Shimada M, Murakami R, Kumasaka R, Nakamura N, Osawa H and Okumura K. Thrombin enhances the production of monocyte chemoattractant protein-1 and macrophage inflammatory protein-2 in cultured rat glomerular epithelial cells. *Nephrol Dial Transplant* 23:3412-7,2008.

B.3. Kumasaka R, Nakamura N, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Osawa H, Yamabe H and Okumura K. Beneficial effect of neutrophil elastase inhibitor on anti-Thy1.1 nephritis in rats. *Nephrology (Carlton)* 13:27-32,2008.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
IN VIVO	1.143	1	1.143
NEPHROL DIAL TRANSPL	3.167	1	3.167
NEPHROLOGY	1.241	1	1.241
Total		3	5.551

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
な　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

なし

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

47．放射線部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Y.LIU, K.KUDO, Y.ABE, M.AOKI, Dong-LiangHU, H.KIJIMA and A.NAKANE［Hypoxia Expression in Radiation-induced Late Rectal Injury］Reprinted from Journal of Radiation Radiation Research 2008;49（3）:261-268.

A.2. Minoru Isomura, Natsuo Oya, Seiji Tachiiri, Yuko Kaneyasu, Yamasumasa Nishimura, Testuo Akimoto, Msato Hareyama, Tadashi Sugita, Norio Mitsuhashi, Takashi Yamashita, Msahiko Aoki, Heitetsu Sai, Yutaka Hirokawa, Koh-ichi Skakata, Kumiko Karasawa, Akihiro Tsuruo, Yoshio Miki, Tetsuo Noda and Masahiko Hiraoka［IL12RB2 and ABCA1 Genes Are Associated with Susceptibility to Radiation Dermatitis］Clin Cancer Res. 2008;14（20）:6683-6689.

2009年度

B.1. Hisateru Ohba, Masakazu Narumi, Yoichiro Hosokawa, Masahiko Aoki. Measuring the inequalities in radiotherapy health resources in Japan: comparison of the Hokkaido-Tohoku and Tokyo districts. Jpn J Radiol 2010;28:20-26.

和文

2008年度

A.1. 青木昌彦「緩和的放射線療法の考え方」坂田優監修「胃がん診療と化学療法　オンコロジストはこう治療している」2008．ヴァンメディカル　p.78-80

A.2. 青木昌彦「卵巣癌」日本放射線科専門医会・日本放射線腫瘍学会・（社）日本医学放射線学会編「放射線治療計画ガイドライン・2008」2008．メディカル教育研究社　p.239-242

2009年度

B.1. 畑山佳臣，青木昌彦，川口英夫，阿部由直．表層進展型肺扁平上皮癌の放射線治療成績．臨床放射線 2009;54:744-8.

（2）総説

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 青木昌彦，畑山佳臣，川口英夫，掛端伸也，清野浩子，森本公平，渋谷剛一，長畑守雄，三浦弘行，小野修一「特集　PET/CT と治療計画　頭頸部」臨床放射線　2009;54(13):1731-1739.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

2009年度

A.1. 青木昌彦「最善の緩和医療をめざして，緩和的放射線治療の進め方」坂田優監修　臨床腫瘍プラクティス．ヴァンメディカル　2009;5(2):155-159.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
な　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2008年度

A.1. 全国国立大学放射線技師会第 14 回オータムセミナー.「フィルムレス化の今後の課題」 長内　恒美. 2008.11.28

2009年度

A.1. 第 20 回日本高精度放射線外部治療研究会，仙台 2009.7.18　清野守央
B.1. 青木昌彦．PET/CT と治療計画・頭頚部，第 68 回日本医学放射線学会総会，横浜，2009.
C.　1 件

Ⅲ．学術賞

2009年度

第 68 回日本医学放射線学会総会，Silver medal
青木昌彦，畑山佳臣，川口英夫，阿部由直
肺腫瘍に対する体幹部定位照射：中等度の線量を用いた線量増加試験

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2009年度

①第 14 回北奥羽放射線治療懇話会，八幡平　2009.9.26
②第 5 回青森 CT・MRI 診断技術研究会，弘前　2009.9.25
③第 24 回青森県放射線治療技術研究会，青森　2009.10.31

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

48. 輸血部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

8 割程度は達成できたと考える

理念：

臨床に直接役立つような，臨床研究・症例報告を行う

これから２年間の目標：

全国学会レベルで年間 1 回以上の発表あるいは発表者の指導を行う

学会誌への投稿論文を 1 件以上作成する

【研究人員及び研究課題】

2008 年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	伊藤　悦朗	2008．4.1 ～ 2009．3.31
	講　師	専　任	玉井　佳子	2008．4.1 ～ 2009．3.31
研究課題	1．抗血小板薬の血小板機能と止血機能に及ぼす経時的影響 2．定量的出血時間の臨床応用 3．高リスク骨髄異形成症候群に対する化学療法 4．安全で適正な輸血療法の構築			

2009 年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授~助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	部　長	併　任	伊藤　悦朗	2009．4.1 ～ 2010．3.31
	講　師	専　任	玉井　佳子	2009．4.1 ～ 2010．3.31
研究課題	1．抗血小板薬の血小板機能と止血機能に及ぼす経時的影響 2．定量的出血時間の臨床応用 3．高リスク骨髄異形成症候群に対する化学療法 4．安全で適正な輸血療法の構築			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2009 年度

B.1. 玉井佳子，北澤淳一，田中一人，兎内謙始，小舘昭示，村上知教，棟方千里，立花直樹．輸血業務に関わる看護師へのアンケート調査の解析．日本輸血細胞治療学会誌．2010;56:57-61.

B.2. 北澤淳一，田中一人，兎内謙始，嶋田雄介，村上知教，小舘昭示，玉井佳子，立花直樹．青森県内医療機関を対象として行った輸血後肝炎対策に関するアンケート調査の解析．日本輸血細胞治療学会誌．2009;55:392-506.

B.3. 今田恒夫，佐藤秀隆，石川瑞穂，前田邦彦，玉井佳子，宮崎真喜子，大沢　弘．急性腎不全を呈した血管内リンパ腫の 1 例．日本内科学会雑誌．2009;98:175-181.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

B.1. 玉井佳子．問題 080 ～ 082 目でみるトレーニング　－認定内科医・認定内科専門医受験のための 151 題 medicina 編集委員会監修．責任編集　岡崎仁昭．医学書院，東京，2008.

2009年度

B.1. 玉井佳子．pp136-138（Q50）　－脳卒中の再発を防ぐ！知っておきたい Q&A76．編著　橋本洋一郎，岡田靖，矢坂正弘，宮本享．南山堂，東京，2009.

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 玉井佳子，石澤(小松)知子，高見秀樹，中嶋　均，福田眞作，棟方昭博．観血的内視鏡手技前の抗血小板療法の管理　－日本人における適切な休薬期間設定－．Gastroenterological Endoscopy,2008;50:2531-2539.（Second publication）

A.2. 玉井佳子，山形和史，山口公平，五十嵐崇徳，高橋一徳，福田眞作，小笠原仁，高見秀樹．分娩後 9 ヶ月後に発症した後天性血友病の一例．東北止血・血栓研究会会誌，2008;XXII:11-14.

B.1. 北澤淳一，猪股真喜子，山口千鶴，田中一人，玉井佳子，皆川正仁，福井康三，福田幾夫．携帯「不規則抗体カード」が輸血副作用防止に有効であった 1 例．日本輸血細胞治療学会誌．2008;54:503-506.

B.2. *中路重之，檀上和真，玉井佳子．巻頭連載―がんの疫学　(12)　骨髄腫．臨床腫瘍プラクティス，2008;4:197-203.

B.3. *山口公平，山形和史，玉井佳子，間山　恒，濱舘貴徳，福田眞作，高見秀樹．ステロイド治療が奏効した非典型的な経過を示した血栓性血小板減少性紫斑病の一例．東北止血・血栓研究会会誌，2008;XXI:31-33.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
日本輸血・細胞治療学会誌		2
日本内科学会雑誌		1
計	0	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	1

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
Gastroenterological Endoscopy	1	
東北止血・血栓研究会会誌	2	
日本輸血細胞治療学会誌	1	2
臨床腫瘍プラクティス	1	
日本内科学会誌		1
計	5	3

Ⅱ．学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2008年度

C. 1件

2009年度

C. 1件

Ⅲ．学術賞

2009年度

第71回日本血液学会学術集会　優秀ポスター賞

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2008年度

他研究単位との研究分担者として
助成名称：厚生労働省「平成19年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業」
研究課題：青森県における適正で安全な輸血療法実現のための協力体制の構築
研究代表者名：立花直樹（青森県立中央病院輸血部）
配分額：740千円

2009年度

他研究単位との研究分担者として
助成名称：厚生労働省「平成19年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業」
研究課題：青森県における適正で安全な輸血療法実現のための協力体制の構築
研究代表者名：立花直樹（青森県立中央病院輸血部）
配分額：760千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

49. 集中治療部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

ほぼ到達した。

理念：

常に診療技術の向上に努めながら，教育と研究に従事する。

これから２年間の目標：

臨床に基づいた研究テーマを持ち，継続した研究を行う。

臨床経験を症例報告として発表し，自己の臨床技術の整理と発展に努める。

年 1 回以上の国際学会とできるだけ多くの国内学会への参加，発表を目標とする。

年 1 編以上の英語の論文と 2 編以上の邦文の論文を発表する。

海外の研究者と連絡を密に取り，共同研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	坪　　敏仁	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教	専　任	吉田　　仁	2008.4.1 ～ 2009.3.31
	助　教	専　任	橋場　英二	2008.4.1 ～ 2009.3.31
研究課題	1. 経食道エコーによる肺病変の観察 2. 超音波を用いた重症患者の観察 3. 全身麻酔機序の解明（神経伝達物質を主とする） 4. 全身麻酔と睡眠との関連 5. 全身麻酔中の脳波の変化			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	坪　　敏仁	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教	専　任	吉田　　仁	2009.4.1 ～ 2010.3.31
	助　教	専　任	橋場　英二	2009.4.1 ～ 2010.3.31
研究課題	1. 経食道エコーによる肺病変の観察 2. 超音波を用いた重症患者の観察 3. 全身麻酔機序の解明（神経伝達物質を主とする） 4. 全身麻酔と睡眠との関連 5. 全身麻酔中の脳波の変化			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. Ono T, Kawaguchi Y, Kudo M, Kushikata T, Hashiba E, Yoshida H, Kudo T, Furukawa K, Douglas SA, Guerrini R, Calo' G, Hirota K. Urotensin Ⅱ evokes neurotransmitter release from rat cerebrocortical slices. Neuroscience Letters 440(3):275-279(2008)

B.2. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K, Ueno S, Hirota K. Interaction between orexinergic

neurons and NMDA receptors in the control of locus coeruleus-cerebrocortical noradrenergic activity of the rat. Brain Research 1250:81-87(2009)

B.3. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Furukawa K, Ueno S, Hirota K. Orexin A decreases ketamine-induced anesthesia time in the rat: the relevance to brain noradrenergic neuronal activity. Anesth Analg 108(2): 491-495(2009)

2009年度

B.1. Kawaguchi Y, Ono T, Kudo M, Kushikata T, Hashiba E, Yoshida H, Kudo T, Furukawa K, Douglas SA, Hirota K. The effects of benzodiazepines on urotensin Ⅱ -stimulated norepinephrine release from rat cerebrocortical slices. Anesth Analg 2009;108(4):1177-1181.

和文

2008年度

B.1. 大川浩文，橋場英二，遠瀬龍二，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．肺毛細管楔入圧が正常な急性心筋梗塞患者における胸郭インピーダンス法と肺動脈カテーテルを用いた肺内水分状態および血行動態の検討．日本集中治療医学会雑誌　15(3):301-306(2008)

2009年度

B.1. 丹羽英智, 橋場英二, 大川浩文, 坪　敏仁, 石原弘規, 廣田和美．持続血液濾過透析施行時における抗凝固薬：メシル酸ナファモスタットの先発医薬品と後発医薬品との薬効効果の相違について．ICU と CCU　2009;33(7):575-579.

(2) 総説

英文　なし

和文

2009年度

A.1. 橋場英二，石原弘規．Q5　ショック誘発物質とは？救急・集中治療　2009;21(7･8):847-853.

A.2. 橋場英二，石原弘規．Initial Distribution Volume of Glucose（IDVG）ブドウ糖初期分布容量．体液・代謝管理　2009;25:41-47.

(3) 著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 坪　敏仁．第 2 章　診断編　A 汎用心エコー用プローブ, コンベックス型プローブでできること　2. 心臓：携帯エコーでの異常所見の画像と説明－心不全を疑った場合－　廣田和美，北山真任，佐藤裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）52-57　東京，克誠堂（2008）

A.2. 坪　敏仁．第 2 章　診断編　A 汎用心エコー用プローブ，コンベックス型プローブでできること　3. 肺の超音波診断．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）58-61　東京，克誠堂（2008）

A.3. 橋場英二．診断編　B　表在用高周波プローブでできること　3. 気管，甲状腺と周辺　－麻酔手技領域での診断－．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）77-81　東京，克誠堂（2008）

A.4. 吉田　仁．処置編 1　A　高周波リニア型プローブでできること　1. 末梢静脈穿刺　－橈側皮静脈・尺側皮静脈－．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）87-91　東京，克誠堂（2008）

A.5. 吉田　仁．処置編 1　A　高周波リニア型プローブでできること　2. 動脈血採血のための大腿動脈穿刺．廣田和美, 北山真任, 佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）92-94　東京，克誠堂（2008）

A.6. 吉田　仁．第 3 章　処置編 1　A　高周波リニア型プローブでできること　3. 内頸静脈穿刺．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）95-102　東京，克誠堂（2008）

A.7. 橋場英二．処置編 1　A　高周波リニア型プローブでできること　4. 鎖骨下静脈（腋窩静脈）穿刺．廣田和美, 北山真任, 佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）103-108　東京，克誠堂　2008

A.8. 橋場英二．処置編 1　A　高周波リニア型プローブでできること　6. 動脈へのカニュレーション　廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）116-122　東京，克誠堂　2008

A.9. 坪　敏仁．処置編 1　B　汎用コンベックス型プローブでできること　2. 膀胱穿刺．廣田和美，北山真任，佐藤裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）126-127　東京，克誠堂（2008）

A.10. 坪　敏仁．第 3 章　処置編 1　B　汎用コンベックス型プローブでできること　3. 胸腔穿刺　－ドレーン

留置の際の利用－．廣田和美，北山真任，佐藤　裕（編）研修医のための携帯エコー活用法（ポケットマニュアル）128-129　東京，克誠堂（2008）

2009年度

A.1. 橋場英二，石原弘規．Q5 ショック誘発物質とは？回答　篠澤洋太郎，岡元和文（特集編集）ショック管理 Q&A －迅速で，的確な対応のために－ 847-853　東京，総合医学社（2009）

（4）その他

英文

2008年度

A.1. Hashiba E, Ishihara H, Tsubo T, Okawa H, Hirota K. Use of initial distribution volume of glucose to determine fluid volume loading in pulmonary thromboembolism and right ventricular myocardial infarction. J Anesth 22(4): 453-456(2008)

和文

2008年度

A.1. 吉田　仁，廣田和美．質疑応答　パーキンソン病患者の麻酔管理の注意点について．臨床麻酔　32(4): 766-768
B.1. 斎藤淳一，橋場英二，大川浩文，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．肺炎桿菌性敗血症ショックによる電撃性紫斑病の一例．日本集中治療医学会雑誌　16(1):83-84(2009)

2009年度

B.1. 丹羽英智，橋場英二，大川浩文，坪　敏仁，石原弘規，廣田和美．高度四肢壊死を呈した methicillin-resistant Staphylococcus aureus による toxic shock syndrome の一救命例．日本集中治療医学会雑誌 2009;16(4):471-476.
B.2. 藤田彩香，橋場英二，高平陽子，北山眞任，坪　敏仁，廣田和美．呼吸管理に難渋した両側巨大ブラの麻酔経験．麻酔　2009;58(10):1274-1277.
B.3. 川口陽子，櫛方哲也，高瀬　肇，吉田　仁，北山真任，廣田和美．生体肝移植術における連続的中心静脈酸素飽和度測定の使用経験―大量出血に対する有用性―．麻酔　2010;59(2):242-245.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurosci Lett	2.085	1	2.085
Anesth Analg	2.214	1	2.214
Brain Res	2.218	1	2.218
Total		3	6.517

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Aneth Analg	2.59	1	2.59
Total		1	2.59

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
日本集中治療医学会雑誌	1	
ICU と CCU		1
救急・集中治療		1
体液・代謝管理		1
計	1	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	10	1

3．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Anesth	0	1	0
Total		1	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑　誌　名	2008年度	2009年度
臨床麻酔	1	
日本集中治療医学会雑誌	1	1
麻酔		2
計	2	3

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Hashiba E. Perioperative application of transesophageal echocardiography. 中日米国際麻酔フォーラム（Harbin, China）Sept. 21（2008）
A.2. Hashiba E. Total intravenous anesthesia（TIVA）in Hirosaki. 中日米国際麻酔フォーラム（Harbin, China）Sept. 21（2008）
B.1. Hashiba E, Kushikata T, Kudo T, Kudo M, Hirota K. Effects of cardiovascular surgery on plasma urotensin Ⅱ concentrations. European Opioid Conference European Neuropeptide Club 2008 joint Meeting（Ferrara, Italy）April 8-11（2008）
B.2. Wada M, Tsubo T, Ono T, Ishihara H, Hirota K. Additive effects of almitrine and nitric oxide on pulmonary blood flow during one-lung ventilation. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（Orlando, U.S.A）Oct. 20（2008）

2009年度

A.1. Yoshida H. Clinical anesthesia and Resident education in Hirosaki, Japan. 第2回中日美国際麻酔会議（Harbin, China）Sept. 12（2009）
B.1. Hashimoto H, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Clinical study of perioperative hemodilutional autologous blood transfusion in cardiovascular surgery. 8th Meeting of the Asian Society of Cardiothoracic Anesthesia inconjunction with 14th Annual Meeting of Japanese Society of Cardiovascular Anesthesiologists（Tokyo, Japan）Sep. 11（2009）
B.2. Tsubo T, Nishimura M, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Evaluation of Comet-Tail artifacts using Transesophageal echography. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（New Orleans, U.S.A）Oct. 17-21（2009）
B.3. Tsubo T, Hashiba E, Okawa H, Ishihara H, Hirota K. Transesophageal echography observation during partial liquid ventilation. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（New Orleans, U.S.A）Oct. 17-21（2009）
B.4. Nishimura M, Tsubo T, Hirota K. Where do Comet-Tail artifacts come from in acute lung injury? Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists（New Orleans, U.S.A）Oct. 17-21（2009）

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 櫛方哲也，吉田　仁，工藤　剛，工藤美穂子，遠瀬龍二，廣田和美．ノルアドレナリン神経ネットワークと全身麻酔機序．第 55 回日本麻酔科学会（横浜）平成 20 年 6 月 13 日 (2008)
C.　14 件

2009年度

B.1. 橋場英二.（シンポジウム）体液量把握に関するシンポジウム　Initial Distribution Volume of Glucose（IDVG）ブドウ糖初期分布容量．第 24 回体液・代謝管理研究会（東京）平成 21 年 1 月 31 日（2009）
C.　10 件

Ⅲ．学術賞

2008年度

橋場英二，石原弘規，大川浩文，坪　敏仁，廣田和美
平成 20 年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞（診療技術賞）
「集中治療室におけるブドウ糖希釈法による重症患者の体液量評価」

Ⅳ．共同研究

2009年度

1. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室，代表・廣田和美，全身麻酔薬の神経伝達物質放出に及ぼす影響と作用機序に関する研究
2. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室，代表・廣田和美，生理　活性物質ウロテンシンⅡの薬理学的作用に関する研究
3. 共同研究・米国グラクソスミスクライン株式会社，代表・廣田和美，UT-HEK293 細胞を用いたウロテンシンⅡ受容体リガンドに関する研究
4. 慶応義塾大学，岡山大学，日本光電工業など．多施設協同研究による脈波伝搬時間を用いた非侵襲心拍出量に関する研究．代表研究者：石原弘規

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2008年度

研究代表者として
吉田　仁．平成 20 年度文部省科学研究費　70 万円（基盤研究 C）
新しい睡眠調節理論の全身麻酔機序解明への応用

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2009年度

1. Dr Alan Thomson，アバディーン大学附属アバディーン王立病院麻酔科，英国，7 月 15 日
2. Dr Jennifer Cleland，アバディーン大学医歯学教育部門，英国，7 月 15 日
3. Prof. Bernhard Panning，ハノーヴァー医科大学麻酔科，ドイツ，10 月 12 ～ 19 日
4. Dr Ji-Young Yoon，釜山大学麻酔科，韓国，12 月 5 ～ 6 日

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3 ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

50. 周産母子センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

Impact factor を有する英文雑誌の採択は共著としてはあったが，first author のものはなかった。国内での全国学術集会での発表は目標通り行えたが，国際学会での発表がなかった。研究代表者としての科学研究補助金獲得はなかったが，研究分担者として民間団体の研究助成金を獲得できたことから，到達度80％と判断する。

理念：

臨床につながる研究を引き続き進め，新知見を得て，impact foctor を有する英文雑誌に first author として投稿し，研究代表者としての科学研究補助金を獲得できることを目標とする。

これから２年間の目標：

プロテオグリカンの子宮頸管熟化抑制作用，プロゲステロン腟坐剤の切迫早産治療への応用研究，早産予知に関する研究を進める。また，超低出生体重児に生じやすい消化管穿孔の病態を解明するために基礎的実験を行い，臨床へ役立つような知見を得ることを目標とする。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	部　長	併　任	水沼　英樹	12ヶ月
	副部長	併　任	高橋　　徹	12ヶ月
	副部長	専　任	尾崎　浩士	12ヶ月
	講　師	専　任	田中　幹二	12ヶ月
	助　教	専　任	大谷　勝記	12ヶ月
	助　教	専　任	奈良　昌樹	12ヶ月
研究課題	1．子宮内環境の胎児・新生児に及ぼす影響について 2．妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育遅延の予知・予防について 3．子宮頚管無力症新規治療薬開発のための研究 4．ＭＵのヒアルロン酸合成抑制機序の研究 5．骨代謝異常におけるプロテオグリカンの役割についての研究 6．小児循環器学一般 7．先天性心疾患の出生前診断 8．肝不全の病態解明			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	水沼　英樹	12ヶ月
	准教授	併　任	高橋　　徹	12ヶ月
	准教授	専　任	尾崎　浩士	12ヶ月
	講　師	専　任	田中　幹二	12ヶ月
	助　教	専　任	大谷　勝記	12ヶ月
	助　教	専　任	奈良　昌樹	12ヶ月
研究課題	1．子宮内環境の胎児・新生児に及ぼす影響について 2．妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育遅延の予知・予防について 3．子宮頚管無力症新規治療薬開発のための研究 4．ＭＵのヒアルロン酸合成抑制機序の研究 5．骨代謝異常におけるプロテオグリカンの役割についての研究 6．小児循環器学一般 7．先天性心疾患の出生前診断 8．肝不全の病態解明			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Nara M, Ishido K, Miura T, Kubo N, Sasaki Ml. An easier method for performing a pancreaticojejunostomy for the soft pancreas using a fast-absorbable suture. World J Gastroenterol 2008;14:1091-6.

A.2. Hakamada K, Kimura N, Miura T, Morohashi H, Ishido K, Nara M, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M. Des-gamma-carboxy prothrombin as an important prognostic indicator in patients with small hepatocellular carcinoma. World J Gastroenterol 2008;14:1370-7.

A.3. Narumi S, Hakamda K, Toyoki Y, Ishido K, Nara M, Yoshihara S, Sasaki M. Biliary hemorrhage after removal of an expandable metallic stent during liver transplantation. Liver Transpl. 2008;14:1578-81.

和文

2008年度

A.1. 福山麻美，田中幹二，山本善光，二神真行，尾崎浩士，水沼英樹．妊娠中の筋腫核出術は決して禁忌ではない．青森県臨床産婦人科医会誌，23巻:83-89,2008.

A.2. 福山麻美，山本善光，二神真行，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹．CNSループスの一症例．日本妊娠高血圧学会雑誌 . 16:160-161,2008.

A.3. 佐藤　工，米坂　勧，高橋　徹，上田知実，北川陽介，江渡修司，大谷勝記，伊藤悦朗．右心耳・右室自由壁間に副伝導路を有する潜在性WPW症候群の小児例．小児科臨床，61巻:841-1846,2008.

2009年度

A.1. 山本善光，飯野香理，福山麻美，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹．非定型的な経過をたどった妊娠高血圧症候群（PIH）並びにPIH類似の2症例　妊娠性アンチトロンビン欠乏症との関連について．青森県臨床産婦人科医会誌，24巻:13-18,2009.

A.2. 大谷勝記，佐藤　啓，杉本和彦，野村由美子，田中加奈子，工藤香里，真鍋麻美，佐藤春夫．地域周産期母子医療センターにおける新生児搬送例の検討．小児科臨床，62巻:299-303,2009.

A.3. 横田　恵，山本善光，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹．開胸，血栓摘徐術を要した妊娠中発症の肺血栓塞栓症の2例．青森県臨床産婦人科医会誌，24:82-88,2009.

（2）総説

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 田中幹二，水沼英樹．子宮外妊娠，子宮内操作後の腹腔内出血．周産期医学，37巻:847-851,2008.

A.2. 田中幹二，福山麻美，山本善光，尾崎浩士，水沼英樹．分娩時出血への初期対応．青森県臨床産婦人科医会誌，23巻:90-97,2008.

A.3. 福山麻美，山本善光，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹．最近の帝王切開後経腟分娩（VBAC）の動向と当科における現状．青森県臨床産婦人科医会誌，23巻:1-6,2008.

2009年度

A.1. 田中幹二，福山麻美，山本善光，尾崎浩士，水沼英樹．分娩時出血の初期対応（止める，入れる，送る）について．青森県臨床産婦人科医会誌，23巻:90-97,2009.

A.2. 田中幹二，木村秀崇，山本善光，福井淳史．【婦人科的基礎疾患を合併する妊娠・分娩の対応とその問題点】子宮筋腫核出術後の妊娠・分娩管理．産婦人科の実際，58巻:981-986,2009.

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 山本善光，尾崎浩士．異常分娩の管理と処置　j . 子宮頚管裂傷．MFICUマニュアル，メディカ出版，319-323,2008.

C.1. 尾崎浩士．胎児水腫．今日の治療指針2009，医学書院，952-953,2009.

2009年度

C.1. 尾崎浩士．過期妊娠：2010今日の治療指針，1048-1049.

C.2. 尾崎浩士．巨大児と肩甲難産：2010 今日の診断指針，1786-7,2010.
C.3. 山本善光，尾崎浩士．妊婦健康診査のポイント　妊娠後期から分娩まで（妊娠 28 週以降）　検査・スクリーニング　羊水量，ペリネイタルケア：157-162,2010.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Liver Transplant	3.724	1	3.724
World G Gastroentero	2.092	2	4.184
Total		3	7.908

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
周産期医学	1	
青森県臨床産婦人科医会誌	2	
計	3	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	2	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文

雑誌名	2008年度	2009年度
な　し		
計	0	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Kawasaki H, Shibata S, Wajima N, Nara M, Miyamoto K, Nishimura A, Hakamada H. S-1 based neoadjuvant chemotherapy in N3/bulky N2 advanced gastric cancer.「Chemotherapy」 第 8 回 International Gastric Cancer Congress　ポーランド

2009年度

C.1. Kawasaki H, Shibata S, Wajima N, Nara M, Miyamoto K, Nishimura A, Hakamada H. S-1 based neoadjuvant chemotherap y in N3/bulky N2 advanced gastric cancer. 第 8 回 International Gastric Cancer Congress. 平 21.6.10 ～ 13　ポーランド
C.2. Kawasaki H, Wajima N, Miyamoto K, Ikenaga S, Muroya T, Hakamada K. Video Festival: Gastric Surgery & Advanced Laparoscopic Procedure」Long-segment Pedicled Jejunal Flap with the Use of Vascular Anastomosis for Thoracic Esophageal IASGO 2009（第 19 回 International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists）平 21.9.23 ～ 26　北京

（2）全国学術集会

2009年度

B.1. 宮本慶一，川﨑仁司，和嶋直紀，池永照史郎一期，室谷隆弘，袴田健一．サージカルフオーラム「PETの有用性と問題点」食道癌の治療戦略におけるPETの可能性　第71回日本臨床外科学会総会　平21.11.19～21　京都

B.2. 川﨑仁司，柴田　滋，奈良昌樹，宮本慶一，長谷部達也，袴田健一．サージカルフオーラム「胃癌（集学的治療2)」TS-1を中心とした術前化学療法を施行したBulkyN2/N3リンパ節転移を伴った胃癌の検討　第109回日本外科学会定期学術集会　平21.4.2～4　福岡

C.　14件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2009年度

他研究単位との研究分担者として

おぎゃー献金研究助成金　「ラット胎仔腸間膜動脈血流に及ぼす因子に関する基礎的研究」水沼英樹，尾崎浩士，田中幹二，山本善光，福山麻美　49万円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

51. 病理部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

外科的に切除された病理組織について，形態学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的，分子生物学的な手法を用いて解析し，evidence-based な外科病理学的な研究を行うとともに，得られた知見を病理診断の精度の向上と個々の患者の治療に役立てる。

論文公刊という成果には直接結びついていないが，臨床各科の発表の病理所見に貢献するなどの実績は上げられた。従って，全体の目標到達度としては，7－8割方達成できた。

理念：

外科的に切除された病理組織について，形態学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的，分子生物学的な手法を用いて解析し，evidence-based な外科病理学的な研究を行うとともに，得られた知見を病理診断の精度の向上と個々の患者の治療に役立てる。

これから２年間の目標：

これまでの実績および上記理念の通り，今後も「肺癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査」および「中心性線維化を伴う小型肺癌における血管内皮増殖因子について」の臨床病理学的研究を継続し，データを追加しながら癌の個別化治療の実現に見据えた研究として発展させたい。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	鎌田　義正	1年
研究課題	1．肺癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査 2．小型肺癌における血管内皮増殖因子の臨床病理学的研究			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	鎌田　義正	12 ヶ月
研究課題	1．肺癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査 2．小型肺癌における血管内皮増殖因子の臨床病理学的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. K. Murata, Y. Kamata, H. Munakata, M. Sugai, M. Sasaki. Immunohistochemical study on liver fibrosis in biliary atresia. Hepato-Gastroenterology 2008;55:179-183.

和文

2008年度

B.1. 境　雄大，對馬敬夫，木村大輔，福田幾夫，鎌田義正．CA19-9産生肺癌の1切除例．日本臨床外科学会雑誌 2009;70:1033-1038.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

2008年度

B.1. 對馬敬夫，木村大輔，鎌田義正．肺原発悪性線維性組織球腫．日本臨牀（別冊 No.10），2009;10:129-132.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepato-Gastroenterology	0.904	1	0.904
Total		1	0.904

和文（論文数）

雑　誌　名	2008年度	2009年度
日本臨牀	2	
計	2	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　目	2008年度	2009年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2008年度

C.　4件

2009年度

C.　5件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2008年度

固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査：対馬敬夫（第一外科），大鵬薬品と共同研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

52. 光学医療診療部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

炎症性腸疾患について病態解析と臨床への還元を目的とした研究を続ける。

１．BIOMARKER の確立

２．新たな治療法のアルゴリズムの確立にむけた検討

３．炎症性腸疾患の病態解析（特に上皮細胞と自然免疫系との相互作用について）

潰瘍性大腸炎の病態解析を目的とし，上皮細胞の APOPTOSIS の制御に関しする報告を行い，Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Nakane A. Blockade of TGF-beta accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis. Biochem Biophys Res Commun. 2007 Aug 3;359(3):406-12，更にシクロスポリンの治療標的が上皮細胞死であることを明らかにした。1: Satoh Y, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S, Nakane A. Cyclosporine Regulates Intestinal Epithelial Apoptosis via TGF-β Related Signaling. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2009 Jul 16. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 19608730.

また，上皮細胞の生理学的粘膜防御機構してケモカイン産生に果たす役割を報告した。Kawaguchi S, Ishiguro Y, Imaizumi T, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Ota K, Sakuraba H, Yamagata K, Sato Y, Tanji K, Haga T, Wakabayashi K, Fukuda S, Satoh K. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-gamma-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. Immunol Lett. 2009 Mar 24;123(1):9-13. Epub 2009 Feb 6. PubMed PMID: 19201382.

今後は IBD の上皮細胞の病態における意義を明らかにしたい。現時点で 70% の達成率である。

理念：

理念炎症性腸疾患について病態解析と臨床への還元を目的とした研究を続ける。

これから２年間の目標：

1. BIOMARKER の確立
2. 新たな治療法のアルゴリズムの確立にむけた検討（厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」他施設共同研究である）
3. 炎症性腸疾患の病態解析（特に上皮細胞と自然免疫系との相互作用について）（上記についての継続）

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	福田　眞作	2008年4月～ 2009年3月
	准教授	専　任	石黒　　陽	2008年4月～ 2009年3月
研究課題	1. クローン病，潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の病因・病態の解明 2. マウス実験腸炎モデルを用いた炎症性腸疾患の治療における標的因子の検索 3. 炎症性腸疾患におけるステロイドなどの薬物療法の選択，さらに効果的な治療法の開発 4. 難治性炎症性疾患における生物製剤の適正使用に関する検討			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	部　長	併　任	福田　眞作	
	副部長	専　任	石黒　　陽	
研究課題	1. クローン病，潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の病因・病態の解明。 2. マウス実験腸炎モデルを用いた炎症性腸疾患の治療における標的因子の検索。 3. 炎症性腸疾患におけるステロイドなどの薬物療法の選択，さらに効果的な治療法の開発。 4. 難治性炎症性疾患における生物製剤の適正使用に関する。			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

A.1. Shogo Kawaguchi, Yoh Ishiguro, Tadaatsu Imaizumi, Fumiaki Mori, Tomoh Matsumiya, Hidemi Yoshida, Ken Ota, Hirotake Sakuraba, Kazufumi Yamagata, Yuki Sato, Kunikazu Tanji, Toshihiro Haga, Koichi Wakabayashi, Shinsaku Fukuda, Kei Satoh. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. Immunology Letters. 2009 Mar 24;123(1):9-13.

2009年度

A.1. Satoh Y, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S, Nakane A. Cyclosporine regulates intestinal epithelial apoptosis via TGF-beta-related signaling Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2009;297(3):G514-9.

A.2. Kawaguchi Y, Ebina M, Sato T, Ishiguro Y, Yagihashi S, Hirota K. A case of trigeminal neuralgia complicated by ipsilateral temporal arteritis. J Anesth. 2010 Feb;24(1):139-42.

和文

2009年度

A.1. 石黒　陽，山口佐都子，櫻庭裕丈，福田眞作．ベーチェット病の臨床像と病態解析．飯田三雄 編　消化器学の進歩－第94回日本消化器病学会総会記念誌．財団法人日本消化器病学会　東京　275-279,2009.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 山形和史，石黒　陽，櫻庭裕丈，樋口博之，福田真作，棟方昭博．潰瘍性大腸炎の診断．診断と治療．96(12):2468-75,2008.

A.2. 石黒　陽，山形和史，櫻庭裕丈，樋口博之，福田真作．薬の知識　クローン病維持療法に対するインフリキシマブ（レミケード）．臨床消化器内科．23(9):1377-84,2008.

A.3. 石黒　陽．新しいIBD診療の飛躍に向かって―東北地区編―．IBD Research. 2(1):4-14,2008.

（4）その他

英文　なし

和文

2008年度

A.1. 石黒　陽．Th-1型反応と腸管上皮における RIG-I 発現調節．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成20年度 総括・分担研究報告書．p.104-105.

2009年度

A.1. 石黒　陽．シクロスポリンによるＴＧＦ－βを介した腸管上皮アポトーシスの制御　厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成21年度　総括・分担研究報告書　p.135-136.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
immunol letters	2.7	1	2.7
Total		1	2.7

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	3.587	1	3.587
J Anestheology	0	1	0
Total		2	3.587

和文（論文数）

雑誌名	2008年度	2009年度
財団法人日本消化器病学会		1
計	0	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種目	2008年度	2009年度
単著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種目	2008年度	2009年度
単著	1	0
編集	0	0
分担執筆	2	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文

雑誌名	2008年度	2009年度
な　し		
計	0	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

A.1. Hiroto Hiraga, Yoh Ishiguro, Shogo Kawaguchi1, Hirotake Sakuraba, Shinsaku Fukuda. Lack of vitamin a imparied mucosal barrier funtion and exacerbated DSS-incuced colitis. The 2nd Japan & US Collaboration Conference in Gastroenterology. InterContinental TOKYO BAY, Tokyo. November 20-21,2008.

B.1. Shogo Kawaguchi, Yoh Ishiguro , Tadaatsu Imaizumi, Fumiaki Mori, Tomoh Matsumiya, Hidemi Yoshida, Ken Ota, Hirotake Sakuraba, Kazufumi Yamagata, Yuki Sato, Kunikazu Tanji, Toshihiro Haga, Koichi Wakabayashi, Shinsaku Fukuda, Kei Satoh. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFNγ-stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells. The 3rd Korea-Japan IBD symposium0 Grand Hilton Seoul Hotel. September 20 (Sat), 2008.

2009年度

A.1. Hiroto Hiraga, Yoh Ishiguro, Hirotake Sakuraba, Shogo Kawaguchi, Shinsaku Fukuda. Lack of Vitamin A Imparied Innate Immunity and Exacerbated Dss-induced Colitis 4th International Congress of Mucosal Immunology Boston Marriott Copley Place 2009

A.2. Shogo Kawaguchi, Yoh Ishiguro, Hirotake Sakuraba, Hiroto Hiraga, Shinsaku Fukuda. Retinoic Acid-inducible Gene-I is Constitutively Expressed and Involved in IFN-γ-stimulated CXCL9-11 Production in Intestinal Epithelial Cells 14th International Congress of Mucosal Immunology Boston Marriott Copley Place 2009

A.3. Yoh Ishiguro, Hirotake Sakuraba, Shogo Kawaguchi, Hiroto Hiraga, Shinsaku Fukuda. MDR1 Positive CD8β. Dim T Cells were Predominant in Glucocorticoids Refractory Cases with UC 14th International Congress of Mucosal Immunology Boston Marriott Copley Place 2009

A.4. Hirotake Sakuraba, Yoh Ishiguro, Satoko Yamaguchi, Hiroto Hiraga, Shogo Kawaguchi, Shinsaku Fukuda TNF-α. Production was Specifically Enhanced by Streptococcus Sanguis Cell Walls through PKR Related Pathway in Behçet' s Disease 14th International Congress of Mucosal Immunology Boston Marriott Copley Place 2009

(2) 全国学術集会

2008年度

B.1. 川口章吾，石黒　陽，今泉忠篤．腸管上皮細胞における RIG-I の発現調節：Panel Discussioni 12　腸管炎症に影響を与える栄養素の吸収代謝．第 50 回日本消化器病学会大会．グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール．2008 年 10 月 3 日．

B.2. 川口章吾，石黒　陽，櫻庭　裕丈，山形　和史，佐藤　裕紀，福田真作，今泉忠篤．腸管上皮細胞における RIG-I の発現調節：シンポジウム 2：消化器疾患における自然免疫・獲得免疫のクロストーク．第 45 消化器免疫学会．メルパルク京都．2008 年 7 月 4 日．

B.3. 石黒　陽，櫻庭　裕丈，福田　真作．ベーチェット病の臨床像と病態の解析．ワークショップ 3「多臓器病変を呈する消化器疾患」. 第94回日本消化器病学会大会. 福岡国際会議場 メインホール. 2008年5月10日.

C.　7 件

2009年度

A.1. 石黒　陽，櫻庭裕丈，花畑憲洋，吉村徹郎，佐々木賀広，福田眞作．“ワークショップ 1「IBD の手術適応とタイミング（外科，内科の立場から）」．クローン病狭窄病変に対するステロイド（SH）併用 Infliximab（IFX）に関する再考”．“第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会”．福岡国際会議場．2009

A.2. 櫻庭裕丈，石黒　陽，藤田　均，佐藤裕紀，川口章吾，平賀寛人，福田眞作．“シンポジウム 炎症性腸疾患の免疫病態と治療法の新しい展開．Heat Shock Protein（HSP）- 70 の抗炎症作用と Geranylgeranylacetone（GGA）による誘導効果”．第 46 回日本消化器免疫学会総会．松山全日空ホテル．2009

Ⅲ．学術賞

2008年度

1. Distinguished Investigator Award. The 3rd Korea-Japan IBD symposium（Seoul）. Shogo KAWAGUCHI, Yoh ISHIGURO. Retinoic acid-inducible gene-I is constitutively expressed and involved in IFN-γ stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells.

2009年度

弘前医学学術奨励賞

Satoh Y, Ishiguro Y, Sakuraba H, Kawaguchi S, Hiraga H, Fukuda S, Nakane A. Cyclosporine regulates intestinal epithelial apoptosis via TGF-beta-related signaling Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 297(3): G514-9,2009.

Ⅳ．共同研究

2008年度

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」研究協力者として

①クローン病患者の QOL に関する多施設共同研究
②潰瘍性大腸炎の危険因子に関する多施設共同・症例対照研究
③潰瘍性大腸炎長期経過例へのサーベイランスシステムの確立・狙撃生検と step biopsy の有用性に関する比較検討
④クローン病の外科治療と infliximab の併用療法
⑤潰瘍性大腸炎に合併するサイトメガロウイルス感染例における Ganciclovir・adacolumn 併用効果に関する検討

他

① Infliximab 治療により導入された関節リウマチの低疾患活動性の維持に関する研究
研究代表者　田中良哉　産業医科大学

2009年度

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」研究協力者として

①クローン病患者の QOL に関する多施設共同研究
②潰瘍性大腸炎の危険因子に関する多施設共同・症例対照研究
③潰瘍性大腸炎長期経過例へのサーベイランスシステムの確立・狙撃生検と step biopsy の有用性に関する比較検討
④クローン病の外科治療と infliximab の併用療法
⑤潰瘍性大腸炎に合併するサイトメガロウイルス感染例における Ganciclovir・adacolumn 併用効果に関する検討

他

① Infliximab 治療により導入された関節リウマチの低疾患活動性の維持に関する研究
研究代表者　田中良哉　産業医科大学

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2008年度

他研究単位との研究分担者として
1. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」研究協力者

2009年度

他研究単位との研究分担者として
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」研究協力者として

①クローン病患者の QOL に関する多施設共同研究
②潰瘍性大腸炎の危険因子に関する多施設共同・症例対照研究
③潰瘍性大腸炎長期経過例へのサーベイランスシステムの確立・狙撃生検と step biopsy の有用性に関する比較検討
④クローン病の外科治療と infliximab の併用療法
⑤潰瘍性大腸炎に合併するサイトメガロウイルス感染例における Ganciclovir・adacolumn 併用効果に関する検討

他

① Infliximab 治療により導入された関節リウマチの低疾患活動性の維持に関する研究
研究代表者　田中良哉　産業医科大学

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

53. リハビリテーション部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

研究の成果は学会で発表してきた。

臨床研究の到達度は良好であるが，今後基礎研究分野も充実させたい。

理念：

整形外科学教室との連携のもと，各種運動器疾患・外傷の治療，リハビリテーションに関する研究を行う。

既存の方法に満足せず，より優れた機能を獲得する術式や後療法を目指す。

これから２年間の目標：

変形性股関節症　大腿骨頭壊死を中心とした股関節疾患の保存的治療，手術的治療，リハビリテーションの臨床研究を継続する。

従来の手の疾患・外傷に対する治療法の利点・欠点を整理し，さらなる進歩を目指す。

血管柄付き骨移植術の利点とその限界を考察し，術式の改良を検討する。

従来の手の疾患・外傷に対する治療法の利点・欠点を整理し，さらなる進歩を目指す。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　1，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	藤　　哲	1年
	講　師	専　任	中村　吉秀	1年
	助　教	専　任	湯川　昌広	1年
研究課題	1. 手の疾患・外傷治療の検討 2. 血管柄付き骨移植による広範囲骨欠損の治療法の検討 3. 上肢の先天異常に対する再建法の検討 4. 日本人変形性股関節症に対する人工股関節の開発と臨床応用 5. コンピューターナビゲーションシステムを応用した人工股関節手術術式の確立 6. 大腿骨頭壊死症に対する関節温存手術治療体系の確立			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　0，講師　1，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	藤　　哲	1年
	講　師	専　任	中村　吉秀	1年
	助　教	専　任	湯川　昌広	1年
研究課題	1. 手の疾患・外傷治療の検討 2. 血管柄付き骨移植による広範囲骨欠損の治療法の検討 3. 上肢の先天異常に対する再建法の検討 4. 日本人変形性股関節症に対する人工股関節の開発と臨床応用 5. コンピューターナビゲーションシステムを応用した人工股関節手術術式の確立 6. 大腿骨頭壊死症に対する関節温存手術治療体系の確立			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2009年度

A.1. Nakamura Y, Mitsui H, Toh S, Echigoya N. Osteochondral Lesion of the Femoral Head in a Fencer: A Case Report. The American Journal of Orthopedics 38:356-359,2009.
A.2. Nakamura Y, Echigoya N, Toh S. Synovial osteochondromatosis of the hip treated through a surgical dislocation - a case report. The Journal of Arthroplasty 24:1143e15-9,2009.

和文

2008年度

C.1. 中村吉秀，菊池　明，秋田　護，藤　　哲．日本人変形性股関節症に対するセメントレス大腿骨ステムの開発 -HPF ステムの中期成績．別冊整形外科　53:142-147,2008.
C.2. 中村吉秀, 藤　　哲．“大腿骨頭回転骨切り術と血管柄付き腸骨移植の合併手術による大腿骨頭壊死の治療．日本マイクロ会誌　21:12-19,2008.
C.3. 田中　直，中村吉秀，三井博正，菊池　明，岸谷正樹，藤　　哲．特発性大腿骨頭壊死症に対する大腿骨頭回転骨切り術の成績―就労状況を中心に．東日本整災会誌　20:44-47,2008.
C.4. 青木　恵，中村吉秀，中田善博，秋田　護，藤　　哲．若年性特発性関節炎に対し人工股関節置換術を施行した2例．東日本整形災害外科学会雑誌（1342-7784）20巻2号 Page262-266（2008.06）　20:262-266,2008.
C.5. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲，越後谷直樹．大腿骨頭壊死症に対する人工骨頭置換術の成績 - 職業復帰を中心に．第16回 MX 人工股関節研究会記録集
C.6. 岸谷正樹，中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．特発性大腿骨頭壊死症に対する転子間大腿骨頭前方回転骨切り術の成績－大骨螺子と F システムによる固定の比較．東北整形災害外科学会雑誌　52:17-21,2008.
C.7. 大鹿周佐，新戸部泰輔，中村吉秀，小渡健司，若井裕司，小笠原紘志．寛骨臼骨折の有無による骨盤骨折の検討 - 外傷重症度に関して 東北整形災害外科学会雑誌　52:33-37,2008.
C.8. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，岸谷正樹，藤　　哲．特発性大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存手術の長期成績　Hip Joint　34:96-100,2008.
C.9. 菊池　明，中村吉秀，三井博正，藤　　哲．Secur Fit HA ステムの中期成績．日本人工関節学会誌　38:530-531,2008.
C.10. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．大腿骨頭壊死症に対する人工骨頭置換術の就労状況を中心とした臨床成績 - 転子間大腿骨頭回転骨切り術との比較．日本人工関節学会誌　38:160-161,2008.
C.11. 三井博正，井口晋敬（名古屋市立大学大学院関節再建医学），秋田　護（青森県立中央病院），菊池　明，中村吉秀，藤　　哲．Revelation hip system を用いたセメントレス股関節置換術後のレントゲン所見．日本人工関節学会誌　38:564-565,2008.

2009年度

A.1. 菊池　明，中村吉秀，三井博正，藤　　哲．大腿骨頭壊死症に対して施行した血管柄付き腸骨移植術後の骨頭病理所見．Hip Joint　35:365-369,2009.
A.2. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．大腿骨頭壊死症に対する関節温存手術の就労状況を中心とした長期臨床成績．Hip Joint　35:378-382,2009.
A.3. 三井博正，中村吉秀，菊池　明，藤　　哲．股関節に発生した色素性絨毛結節性滑膜炎の1例．Hip Joint 35:771-775,2009.
A.4. 奈良岡琢哉（弘前大学 整形外科学），小野　睦，秋田　護，和田簡一郎，沼沢拓也，横山　徹，中村吉秀，藤　　哲．局所注射が原因と考えられた感染症の2例（原著論文）．東北整形災害外科学会雑誌（1348-8694）53巻1号 Page79-83（2009.06）　53:79-83,2009.
A.5. 中村吉秀（弘前大学 大学院医学研究科整形外科学講座），三井博正，菊池　明，藤　　哲．日本人のために開発された HPF セメントレスステム使用 THA の成績　解剖学的形状のステムはストレス遮蔽を回避しうるか（原著論文）．日本人工関節学会誌　39:142-143,2009.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2008年度

A.1. Nakamura Y, Mitsui H, Toh S, Hayashi Y. Femoral nerve palsy associated with iliacus hematoma following pseudoaneurysm after revision hip arthroplasty - A case report. The Journal of Arthroplasty 23:1240e1-1240e4,2008.

和文

2009年度

A.1. 中村吉秀，三井博正，菊池　明，藤　　哲．日本人変形性股関節症に対する HPF ステムの中期成績．第17回 MX 人工股関節研究会記録集　49-51,2009.
A.2. 佐藤美紀，塚本利昭，瓜田一貴，伊藤郁恵，対馬栄輝，中村吉秀．Hirosaki Press-Fit stem による人工股関節全置換術症例の理学療法評価と臨床評価．青森県理学療法士会誌　理学療法研究　26:20-24,2009.
B.1. 三井博正，中村吉秀，菊池　明，片野　博，赤石孝一．50歳以下の末期股関節症に対する人工股関節置換術．第17回 MX 人工股関節研究会記録集　17:39-42,2009.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total		0	0

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Arthroplasty Am. J. Orthop	1.556	1 1	1.556
Total		2	1.556

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
別冊整形外科ほか Hip Joint ほか	11	 8
計	11	8

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Arthroplasty	1.806	1	1.806
Total		1	1.806

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total		0	0

和文

雑誌名	2008年度	2009年度
な し		
計	0	0

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2009年度

B.1. Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., Koei Iwasaki M.D. and Satoshi Toh M.D. Mobilization of a proximal radioulnar synostosis with use of a posterior interosseous artery adipofascial flap. The 18th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium, 2009.4.8-11. Fukuoka.

C.1. Koei Iwasaki M.D., Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., and Satoshi Toh M.D. Reconstruction of floating thumb with free bone graft and pedicle flap. 5th Congress of the World society for Microsurgery. 2009.6.25-27, Okinawa.

C.2. Koei Iwasaki M.D., Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., and Satoshi Toh M.D. Reconstruction of the anterior chest for radiation ulcer and radiation sarcoma by using contralateral pedicled latissimus dorsi flap. XXII National Congress of the Italian Society for Microsurgery. Italy, Modena.

C.3. Yoshihide NAKAMURA, Satoshi TOH, Hiromasa MITSUI, Akira KIKUCHI. Clinical results of vascularized iliac bone graft for treatment of avascular necrosis of the femoral head with an extensive lesion e-poster 10 th The European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFORT) Vienna, Austria 3-6 June 2009.

C.4. Yoshihide NAKAMURA, Satoshi TOH, Hiromasa MITSUI, Norihiro SASAKI. Vascularized iliac bone graft for avascular necrosis of the femoral head with an extensive lesion. XXIII National Congress of the Italian Society for Microsurgery. Modena, Italy, October 1st - 3rd 2009.

C.5. Hirosamasa MITSUI, Nakamura Y Kikuchi A Iguchi H Fetto J Toh S. Short-term radiograhpic results after uncemeted hip replacements using a lateral flare stem in Japanese patients. 22nd International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA). Hawaii, USA 2009.10.22-24. 2009;10:22-24.

C.6. Masahiro Yukawa M.D., Noriko Yamamoto M.D., Koei Iwasaki M.D. and Satoshi Toh M.D. Clinical Results of Vascularized Fibular Graft for Congenital Pseudathrosis of the Tibia. 5th Congress of the World society for Microsurgery. 2009.6.25-27. Okinawa.

C.7. Noriko Yamamoto M.D., Masahiro Yukawa M.D., Koei Iwasaki M.D. and Satoshi Toh M.D. Bifocal tibial lengthening following vascularized fibula graft for infected non-union of the femur : A case report. 5th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery. 2009.6.25-27, Okinawa.

（2）全国学術集会

2008年度

C. 16件

2009年度

C. 15件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

(2) 国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

54. 医療安全推進室

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１．関連分野について，学内または学外研究者との共同研究を積極的にすすめる。
未到達：国立大学附属病院の医師専任リスクマネジャーとの共同研究を検討中

２．全国レベルの学会等のシンポジウムで発表する。
なし

理念：

医療安全に関連した学際的研究を推進する。

これから２年間の目標：

1）学内外研究者との共同研究を積極的にすすめる。

2）全国レベルの学会等のシンポジウムで発表する。

【研究人員及び研究課題】

2008年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	福井　康三	2008.4.1 ～ 2009.3.31
研究課題	1. 胸部外科領域の医療安全対策 2. 急性大動脈解離と医療連携 3. 医学生に対する医療安全教育のあり方			

2009年度

研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専　任	福井　康三	2009.4.1 ～ 2010.3.31
研究課題	1. 胸部外科領域の医療安全対策 2. 急性大動脈解離と医療連携 3. 医学生に対する医療安全教育のあり方			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2008年度

B.1. Ji K, Minakawa M, Fukui K, Suzuki Y, Fukuda I. Increased superoxide radical with a decrease in vascular endothelial growth factor and inducible nitric oxide synthase level lead to the progression of left ventricular hypertrophy in a pressure-overload rat heart model. Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2008;14(4):210-217.

B.2. Fukuda I, Minakawa M, Fukui K, Suzuki Y. Management of an aorto-caval fistula from a ruptured aortic false aneurysm using a covered stent graft. Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2008;6(5):682-684.

B.3. Suzuki Y, Daitoku K, Minakawa M, Fukui K, Fukuda I. Poly-2-methoxyethylacrylate-coated bypass circuits reduce activation of coagulation system and inflammatory response in congenital cardiac surgery. Journal of Artificial Organs 2008;11(3):111-116.

B.4. Suzuki Y, Daitoku K, Minakawa M, Fukui K, Fukuda I. Dynamic cardiomyoplasty using artificial muscle. Journal of Artificial Organs 2008;11(3):160-162.

B.5. Suzuki Y, Yamauchi S, Daitoku K, Fukui K, Fukuda I. Extracorporeal membrane oxygenation circulatory support after congenital cardiac surgery. ASAIO Journal. 2009;55(1):53-57.
B.6. Itoh K, Minakawa M, Ono Y, Tsushima T, Fukui K, Fukuda I. Role of oxidative stress in hypertrophied myoblasts stimulated by isoproterenol. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2008;56(4):170-176.
B.7. Fujiwara T, Saito S, Osanai T, Kameda K, Abe N, Higuma T, Yokoyama J, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Okumura K. Decreased plasma and cardiac matrix metalloproteinase activities in patients with coronary artery disease and treated with pravastatin. European Journal of Pharmacology. 2008;593:146-151.

2009年度

B.1. Kaiqiang Ji, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Yasuyuki Suzuki, Ikuo Fukuda. Olmesartan improves left ventricular function in pressure-overload hypertrophied rat heart by blocking angiotensin II receptor with synergic effects of upregulation of angiotensin converting enzyme 2. Ther Adv Cardiovasc Dis 2009;1-9.
B.2. Ikuo Fukuda, Satoshi Osanai, Minori Shirota, Takao Inamura, Hideki Yanaoka, Masahito Minakawa, Kozo Fukui. Computer-simulated fluid dynamics of arterial perfusion of extracorporeal circulation: From reality to virtual simulation. Int J Artif Organs 2009;32:362-370.
B.3. Satoshi Taniguchi, Ikuo Fukuda, Kazuyuki Daitoku, Masahito Minakawa, Satoru Odagiri, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui, Kenihiro Asano, Hiroki Ohkuma. Prevalence of venous thromboembolism in neuro surgical patients. Heart Vessels 2009;24:425-428.
B.4. Yasuyuki Suzuki, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Bidirectional Cavopulmonary Shunt with Additional Pulmonary Blood Flow. Asian Cardiovasc Thorac Ann 2010; 18 135-40.
B.5. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Takao Igarashi, Kozo Fukui, Hideki Ynaoka, Takao Inamura. Hydrodymamics of Aortic Cannulae During Extracorporeal Circulation in a Mock Aortic Arch Aneurysm Model. Artificial Organs 2010;34:105-112.
C.1. Tomomi Kusumi, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Shin Saito, Motonari Ohashi, Fuyuki Sato, Ikuo Fukuda, Hiroshi Kijima. Cardiac tumor comprising two components including typical myxoma and atypical hypercellularity suggesting a malignant change. Cardiovascular Pathology 2009;18:369-374.

和文

2008年度

B.1. 渡辺健一，大徳和之，鈴木保之，川村知紀，山内早苗，皆川正仁，福井康三，福田幾夫．肺動脈閉鎖と右鎖骨下動脈起始異常を伴う Fallot 四徴症に対する姑息的右室流出路形成術の1例，胸部外科 2008;61(5):403-406.
B.2. 山内早苗，鈴木保之，大徳和之，皆川正仁，福井康三，福田幾夫．一期的根治術と持続的血液濾過透析を施行した大動脈弓離断症 B 型の1例，胸部外科　2008;6(13):1161-1164.
B.3. 渡辺健一，谷口　哲，小田桐聡，山内早苗，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，福田幾夫，河野元嗣．TRISS 法による外傷重症度分類からみた外傷性胸部大動脈損傷の外科治療成績．日本血管外科学会雑誌 2008;18(3):413-420.
B.4. 谷口　哲，福田幾夫，藤田和歌子，渡辺健一，川村知紀，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，佐久間聖仁．日本における急性肺塞栓症に対する外科治療の現況．Therapeutic Research 2008;30(5):645-646.
B.5. 小山内聡史，稲村隆夫，柳岡英樹，福田幾夫，皆川正仁，福井康三．体外循環時における大動脈弓内流れの数値シミュレーション．脈管学 2008;48(3):313-318.
B.6. 北澤淳一，猪股真喜子，山口千鶴，田中一人，玉井佳子，皆川正仁，福井康三，福田幾夫．携帯「不規則抗体カード」が輸血副作用防止に有効であった1例．日本輸血細胞治療学会誌 2008;54(4):503-506.
B.7. 後藤武，木村正臣，福井康三，佐藤正治，奥村　謙，福田幾夫．新しい補助人工心臓装置による患者搬送経験．外循環技術　2009;36(1):28-31.

2009年度

A.1. 福井康三，野村亜南，小笠原尚志，川村知紀，山内早苗，渡辺健一，谷口　哲，大徳和之，鈴木保之，福田幾夫．大動脈基部病変に対する外科治療—術式選択と手術成績．胸部外科 2009;62:958-963.
B.1. 渡辺健一, 谷口　哲, 小田桐　聡, 山内早苗, 大徳和之, 皆川正仁, 福井康三, 鈴木保之, 福田幾夫, 河野元嗣．TRISS 法による外傷重症度分類からみた外傷性胸部大動脈損傷の外科治療成績．日血外会誌 2009;18:413-420.
B.2. 渡辺健一，福井康三，谷口　哲，大徳和之，皆川正仁，鈴木保之，福田幾夫，木村正臣，奥村　謙．左心補助人工心臓装着時に三尖弁形成と一酸化窒素吸入を要した拡張型心筋症．胸部外科 2009;62:888-891.

(2) 総説

英文　なし

和文　なし

(3) 著書

英文　なし

和文

2009年度

A.1.（分担）福井康三．疾患別栄養療法：うっ血性心不全．清野　裕，門脇　孝，中村丁次，本田佳子編集．NST臨床栄養療法スタッフマニュアル，427-428，432-433．医学書院，東京，2009年11月．
A.2.（分担）福井康三．和田　攻，南　裕子，小峰光博総編集，看護大辞典（第2版），1707，1708，1718，1725, 1728, 1751, 1753, 1754, 1756．医学書院，東京，2010年3月．

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2008年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Artificial Organs　×2	0	0	0
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	0	0	0
ASAIO Journal	1.631	0	1.631
European Journal of Pharmacology	2.787	0	2.787
Total		0	4.418

2009年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Ther Adv Cardiovasc Dis	0	0	0
Int J Artif Organs	0	0	0
Heart Vessels	0	0	0
Asian Cardiovasc Thorac Ann	0	0	0
Artificial Organs	0	0	0
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2008年度	2009年度
胸部外科	2	2
日本血管外科学会雑誌	1	
Therapeutic Research	1	
脈管学	1	
日本輸血細胞治療学会誌	1	
体外循環技術	1	
日本心臓血管外科学会誌		1
計	7	3

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2008年度	2009年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	2

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2008年度

C.1. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Chikashi Aoki, Kaziyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui. OPERATIVE OUTCOMES AND STRATEGIES TO PREVENT STROKE IN TOTAL AORTIC ARCH REPLACEMENT. Aortic Symposium 2008　New York City　2008.5.8-9

C.2. Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Congenital heart disease in Adults. The 2nd Asia-Pacific Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery　Korea Jeju　2008.5.27-30

C.3. Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Sanae Yamauchi, Satoshi Taniguchi, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, and Ikuo Fukuda. Surgical procedure for patent ductus arteriosus with and without cardiopulmonary bypass. The 2nd Asia-Pacific Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery　Korea Jeju　2008.5.27-30

C.4. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Takashi Ogasawara, Chikashi Aoki, Satoshi Taniguchi, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui. Non-Invasive Evaluation Of The Rigth Gastroepiploic Artery In Coronary Revascularization Using Total Arterial Graft. 2008 Annual Scientific Meeting　Boston　2008.6.11-14

C.5. Yasuyuki Suzuki, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Extracorporeal Membrane Oxygenation Circulatory Support After Congenital Cardiac Surgery. The Fourth International Conference on PEDIATRIC MECHANICAL CIRCUITRY SUPPORT SYSTEM PEDIATRIC CARDIOPULMONARY PERFUSION　Oregon　2008.5.21-24

2009年度

C.1. Kenichi Watanabe,Yasuyuki Suzuki,Takeshi Goto, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Ikou Fukuda. Continuous hemodiafiltration in children after cardiac surgery.　5th Annual Pediatric Mechanical Circulatory Support Systems & Cardiopulmonary Perfusion Conference. USA,　2009.5.27

C.2. Kenichi Watanabe, Satoshi Taniguchi, Anan Nomura, Takashi Ogasawara, Tomonori Kawamura, Sanae Yamauchi, Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Yasuyuki Suzuki, Ikuo Fukuda. RESULTS AFTER OPEN SURGERY OF RUPTURED ABDOMINAL AORTIC ANEURYSM. Asian Chapter Meeting of the International Union of Angiology.　Tokyo, 2009.10.29

C.3. Fujita W, Fukuda I, Minakawa M, Daitoku K, Suzuki Y, Fukui K, Inamura Y, Yanaoka H. Hydrodynamic analysis of new dispersive aortic perfusion cannula. 36th European Society for Artificial Organs. France, 2009.9.3

C.4. Minakawa Masahito,Ji Kaiqiang,Koza Fkui, Yasuyuki Suzuki, Ikuo Fukuda. Olmesartan improves left ventricular function in hypertrophied rat heart. 8th international congress on coronary artery disease. Czech Republic, 2009.10.11

（2）全国学術集会

2008年度

B.1. 谷口　哲，渡辺健一，小笠原尚志，山内早苗，青木哉志，皆川正仁，大徳和之，福井康三，鈴木保之，福田幾夫．急性肺塞栓症の治療戦略．第36回日本血管外科学会学術総会　東京都　2008.4.17

B.2. 谷口　哲，藤田和歌子，川村知紀，小笠原尚志，山内早苗，渡辺健一，大徳和之，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，福田幾夫．急性肺塞栓症に対する外科治療の検討．第14回日本血管内治療学会総会　東京都　2008.7.26

B.3. 大徳和之，山内早苗，川村知紀，渡辺健一，谷口　哲，皆川正仁，鈴木保之，福井康三，福田幾夫．心臓血管外科領域における感染制御に対する総合戦略．第21回日本外科感染症学会総会　札幌市　2008.11.6

2009年度

B.1. 谷口　哲，藤田和歌子，渡辺健一，川村知紀，山内早苗，大徳和之，福井康三，鈴木保之，福田幾夫．急性肺血栓塞栓症の治療戦略．第29回日本静脈学会総会　シンポジウム．名古屋市．2009/7/12.

B.2. 大徳和之，福田幾夫，福井康三，鈴木保之，皆川正仁．EF40％未満の低左心機能患者に対するCABG―CABGのみを施行した患者の長期・遠隔期成績―．第62回日本胸部外科学会定期学術集会　シンポジウム．横浜市．2009/10/14.

B.3. 福井康三．周術期静脈血栓塞栓症予防の当院の試み．医療安全全国フォーラム　ワークショップ．東京都．2009/11/23.

C.　29件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

社会貢献活動

第３章　社会貢献活動

１．神経解剖・細胞組織学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
75% 程度

これから２年間の目標：
社会貢献活動の機会に対して積極的に取り組む

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　2，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　0，助教　2，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本解剖学会 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会 弘前医学会	評　議　員 プログラム委員 評　議　員	一戸　紀孝		2 日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Frontiers in Neuroanatomy Neuroscience Neuroscience Research Cerebral Cortex	Reviewer	一戸　紀孝		2 日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(10) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学白菊会総会・会員の集いの準備及び出席	教　　授 助　　教 助　　教 助　　手	一戸　紀孝 浅野　義哉 目黒　玲子 小田桐紗織		1日
09年度	白菊会総会	教　　授 助　　教 助　　教 助　　手	一戸　紀孝 浅野　義哉 目黒　玲子 小田桐紗織	弘前文化センター	1日

2．生体構造医科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

前回の設定目標は，1）篤志献体団体「弘前大学白菊会」へ協力，2）大学の社会貢献としての学外医学教育の協力，3）教育研究分野でのメディアへのアピール，の3点である。

設定目標を総括すると，

1） について:弘前大学白菊会は本学の医学･解剖学教育の根幹を支える外郭団体である。当講座は白菊会の事務局として，また献体業務の窓口としてその業務全般を担当し，また，篤志解剖全国連合会の直接的窓口として業務を推進してきた。

2） について：大学の社会貢献の立場から，学外の要望に応える形で可能な範囲で，解剖学講義・解剖学見学実習に応じている。

3） について：一般対象の講演／雑誌取材にも応じている。

これから2年間の目標：

1） 篤志献体団体「弘前大学白菊会」へ協力を第一とする。特に，学生定員増に伴う解剖学実習ご遺体の不足が懸念される中，「弘前大学白菊会」と親密に連携しながら献体業務に取り組みたい。

2） 大学の社会貢献としての学外医学教育の協力の取り組む

3） その他，教育研究分野で社会貢献できることがあれば積極的に取り組む。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	日本解剖学会学術評議委員会／総会	評　議　員	外崎　敬和	3/29（盛岡）	1日
	篤志解剖全国連合会第40会総会／第35回団体部会・大学部会合同研修会	代　議　員		3/26-27（盛岡）	2日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前医学	査　　読	加地　　隆		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前市医師会　　生涯教育講座 「松果体とメラトニン　—とくに抗老化説とその問題点」 平成21年1月10日（弘前） 弘前市医師会報 （通巻323号） 第44巻（1号）：30-31（2009）	教　　授	加地　　隆		1日（準備などに30日）

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学白菊会事務局 　役員会開催 　総会開催 　会報発行	 教　　授 准 教 授 助　　教	 加地　　隆 外崎　敬和 渡邉　誠二		通年 7/24 10/5 2/17
	学外解剖学実習協力 　弘前学院大学看護学部 　医師会附属准看護学校 　城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	 准 教 授 助　　教	 外崎　敬和 渡邉　誠二		
	インタビューの雑誌上での発表： 　Anti-aging　不老への挑戦 「脳の中の抗酸化ホルモン　メラトニン」 　Medi Café vol 3(4): 8-9 (2008) 東医体医学生体育大会	教　　授 理　　事	加地　　隆		1日（準備など30日） 7日
	弘前大学教育学部附属中学校教育後援会	監　　事	外崎　敬和		
09年度	弘前大学白菊会 　事務局 　役員会開催 　総会開催 　会報発行	 准 教 授 助　　教 助　　教	 外崎　敬和 渡邉　誠二 谷　　利樹		 通年 7/16 10/24 2/26
	学外解剖学実習協力 　弘前学院大学看護学部 　医師会附属准看護学校	 准 教 授 助　　教	 外崎　敬和 渡邉　誠二		 9/18 1/29
	弘前大学教育学部附属中学校教育後援会	准 教 授	外崎　敬和	監事	
	弘大メルマガ（No.103）	准 教 授	外崎　敬和		10/15

3．統合機能生理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

「社会貢献が地域にのみとらわれることなく，全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす」との目標を掲げたが，国際的トップジャーナルである J. Neurophysiology 誌の Editorial Board や文部科学省プロジェクトの委員に継続的に任ぜられていること，さらに文部科学省科学研究費の審査員など，到達度は 100% である

これから2年間の目標：

社会貢献が地域にのみとらわれることなく，全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　2，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本神経科学学会動物倫理委員会	委　員	蔵田　潔	横浜	1 日
	日本生理学会動物倫理委員会			東京	1 日
09年度	日本神経科学学会動物倫理委員会	委　員	蔵田　潔	横浜	1 日
	日本生理学会研究倫理委員会	委　員	蔵田　潔	東京	1 日
	第87回日本生理学会（2010,5,19-21）	プログラム委員	蔵田　潔 山田　勝也	岩手医大	1 日
	弘前医学会	会　場　係	蔵田　潔 山田　勝也 相澤　寛 二ノ倉欣久	MCC	1 日

（2）学会などの開催

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	1．弘前国際医学フォーラム	実行委員	蔵田　潔	MCC	60日
			山田　勝也		60日
	2．弘前国際医学フォーラム　サテライトワークショップ	主　催　者	山田　勝也	ナクア白神ホテル＆リゾート	7 日
	3．第41回東北生理談話会	主　催　者	蔵田　潔	MCC	60日
			山田　勝也		30日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	Journal of Neurophysiology	editorial board	蔵田　潔		12日
	Cerebral Cortex				16日
	Journal of Physiological Sciences	editorial board			8 日
09年度	Journal of Neurophysiology	editorial board	蔵田　潔		10日
	Cerebral Cortex	査　読			12日
	Journal of Physiological Sciences	editorial board			10日
	論文査読（サイエンス分野 2 件）	査　読	山田　勝也		4 日
	The Journal of Physiological Sciences	査　読	相澤　寛		5 日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	科学者発見プロジェクト共同研究	受入教員	山田　勝也		3 日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	文部科学省マカクザルバイオリソース運営委員会	委　　員	蔵田　　潔	愛知県岡崎市	6 日
09年度	文部科学省マカクザルバイオリソース運営委員会 文部科学省科学研究費審査員	委　　員 審 査 員	蔵田　　潔	愛知県岡崎市 書類審査	6 日 10日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	特許出願（番号 2008-205708 出願日平成20年 8 月 8 日）ならびに同技術を用いた製品2-NBDGの㈱ペプチド研究所からの販売	発 明 者	山田　勝也		寄与日数計算不能
09年度	国際特許出願 （PCT/JP2009/064053, 2009.8.7. WO2010/016587 A1, 2010.2.11.） 特許国内優先権主張出願 （特願2009-185010, 2009.8.7. 基礎となる出願 特願 2008-205708 主張日 2008.8.8 特開2010-57484, 2010.3.18.）ならびに同技術を用いた製品 2-NBDG の㈱ペプチド研究所からの販売	発 明 者	山田　勝也		寄与日数計算不能

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	蛍光グルコースの開発・製品化に向けた㈱ペプチド研究所との共同事業	准 教 授	山田　勝也		寄与日数計算不能
09年度	蛍光グルコースの開発・製品化に向けた㈱ペプチド研究所との共同事業	准 教 授	山田　勝也		

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	名古屋大学医学部講義	非常勤講師	蔵田　　潔	名古屋	1 日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	新聞社取材日本経済新聞社 科学技術部 吉野真由美さん 蛍光グルコース法に関する取材を受け，今後随時取材したいとの申し出を受けた。	准 教 授	山田　勝也		1 日

４．ゲノム生化学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

弘前ヘアレスラットの免疫異常を解明し，重要な知見を得ることができた。

遺伝子多型の高感受性ラットを用いてペルオキシソーム増殖剤の肝発がん過程を解析し，前がん病変の新しいマーカーを発見するとともに,遺伝毒性発がん剤による場合と同様に,多段階で進行することを解明した。これらの成果は,製薬,化学,食品工業など広い分野に影響を与え，食の安全に向けて，社会に大きく貢献した。

これから２年間の目標：

教室の研究成果を社会に還元し，成果の活用を通して，社会及び地域に貢献することを目指す。

具体的な目標として，

1　遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤の肝発がん機構と，ヒトでの低リスクの要因を解明する。

2　弘前ヘアレスラットの免疫異常を解明し，上皮細胞異常との関連を究明する。免疫系と上皮細胞の関係を解析するモデルとしての有用性を明らかにする。

これらの研究を通して，社会貢献の実践を図るとともに，ノウハウを学ぶ。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本分子腫瘍マーカー研究会	世　話　人	土田　成紀	学会運営	1日
	日本生化学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日
	日本癌学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日
	弘前医学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日
09年度	日本分子腫瘍マーカー研究会	世　話　人	土田　成紀	学会運営	1日
	日本生化学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日
	日本癌学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日
	弘前医学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	弘前医学		土田　成紀	査読	1日
	Cancer Science		土田　成紀	査読	1日
	Biochem Biophys Res Commun		土田　成紀	査読	2日
	Journal of Biochemistry		土田　成紀	査読	2日
09年度	Cancer Science		土田　成紀	査読	2日
	Biochem Biophys Res Commun		土田　成紀	査読	3日
	Journal of Biochemistry		土田　成紀	査読	2日
	Hypertension Research		土田　成紀	査読	1日
	Proteomics		土田　成紀	査読	1日
	Journal of Cancer Research and Clinical Oncology		土田　成紀	査読	1日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	代表研究者	土田　成紀	実験とデータ解析	100日
	内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	分担研究者	山田　俊幸	実験とデータ解析	50日
	内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	分担研究者	清水　武史	実験とデータ解析	50日
09年度	内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	代表研究者	土田　成紀	実験とデータ解析	100日
	内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	分担研究者	山田　俊幸	実験とデータ解析	50日
	内閣府食品安全委員会　食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	分担研究者	清水　武史	実験とデータ解析	50日

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	地域産業科学技術の活性化推進事業	分担研究者	山田　俊幸	平成19年度学術国際振興基金助成金	50日
	地域産業科学技術の活性化推進事業	分担研究者	清水　武史	平成19年度学術国際振興基金助成金	100日
	地域産業科学技術の活性化推進事業	分担研究者	土田　成紀	平成19年度学術国際振興基金助成金	30日

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

5．病態薬理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

前回設定した目標は，“地域の医療活動，啓蒙活動，教育活動を推進する”であったが，西北中央病院の治験活動に委員長としての活動，青森県要約筆記者養成講座に講師として参加，青森市立病院での診療に参加等，目標に十分到達したと考えられる。

これから2年間の目標：

これからも，地域の医療活動，啓蒙活動，教育活動に積極的に関与し，それらの底上げに貢献できるよう努めたい。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　2

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本薬理学会	理事，学術評議員	元村　成		7日
	日本心電学会	評　議　員			1日
	日本心脈管作動物質学会	評　議　員			1日
	日本薬理学会	学術評議員	古川　賢一		4日
		代　議　員			4日
	日本薬学会東北支部	委　　員			2日
	日本薬理学会	学術評議員	瀬谷　和彦		2日
09年度	日本薬理学会	評　議　員	元村　成		4日
	日本心電学会	評　議　員			1日
	日本心脈管作動物質学会	評　議　員			1日
	日本循環薬理学会	評　議　員			1日
	日本薬理学会	学術評議員	古川　賢一		4日
		代　議　員			4日
	日本薬学会東北支部	委　　員			2日
	日本薬理学会	学術評議員	瀬谷　和彦		2日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	J Pharmacol Sci	査　　読	元村　成		2日
	Journal of Pharmacological Science	査　　読	古川　賢一		6日
	Biochemical Pharmacology				3日
	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology				5日
	Journal of Pharmacy and Pharmacology	査　　読	瀬谷　和彦		1日
	Journal of Pharmacological Sciences				1日
09年度	Journal of Pharmacological Science	査　　読	元村　成		2日
	Journal of Pharmacological Science	査　　読	古川　賢一		6日
	Biochemical Pharmacology				3日
	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology				5日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	薬事・食品衛生審議会	専門委員	元村　　成	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構	1日
	西北中央病院治験運営委員会	委　員　長			3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県要約筆記者養成講座	講　　師	瀬谷　和彦	青森市	3日
09年度	国立病院機構弘前病院附属看護学校	講　　師	古川　賢一		22日
	青森県要約筆記者養成講座	講　　師	瀬谷　和彦	青森市	3日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	尾野病院（つがる市）外来診療	医　　師	木村　正臣		50日
	（社）全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	補聴医療対策部長	瀬谷　和彦	東京都	3日
09年度	西北中央病院治験審査委員会	委　員　長	元村　　成		12日
	青森市立浪岡病院での診療	助　　教	山田　雅大	外来診察	50日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第2回日中薬理・臨床薬理ジョイントミーティング	事務局長	古川　賢一		2日

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	日本循環器学会主催 ACLS プロバイダーコース （心肺蘇生法の普及活動）	助　　教	山田　雅大	インストラクターとして参加	4日

６．分子病態病理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

病理診断の重要性と病理学について，地域での社会活動から一般の方々に啓蒙活動を行うとともに，学会や研究会を通して，学術面においても活動することができた。

これから２年間の目標：

いまだ認知度の低い病理医の役割について，一般社会における認知度を高め，また，その果たす役割について理解を促す。学会や研究会を通じた学術活動に積極的に加わる。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　1，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本病理学会	東北支部役員			4 日
		評　議　員			3 日
	日本糖尿病学会	評　議　員			8 日
	日本糖尿病合併症学会	幹事・評議員			6 日
	日本末梢神経学会	幹事・編集委員	八木橋操六		16日
	日本糖尿病・肥満動物学会	理事・評議員			8 日
		副　会　長			
	北日本病理研究会	代表世話人			8 日
	糖尿病性神経障害を考える会	代表世話人			8 日
	青森悪性リンパ腫研究会	世　話　人			1 日
	粘膜下腫瘍研究会	代表世話人	和田　龍一		2 日
	つがる乳腺診断フォーラム	世　話　人			1 日
09年度	日本病理学会	東北支部役員			4 日
		評　議　員			
	日本糖尿病学会	評　議　員			3 日
	日本糖尿病合併症学会	幹事・評議員			8 日
	日本末梢神経学会	幹事・編集委員	八木橋操六		6 日
	日本糖尿病・肥満動物学会	理事・評議員			16日
		副　会　長			
	北日本病理研究会	代表世話人			8 日
	糖尿病性神経障害を考える会	代表世話人			8 日
	粘膜下腫瘍研究会		和田　龍一	世話人	2 日

（２）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Virchows Arch（欧州病理学会誌）	編集委員	八木橋操六		16日
	Exp Diab Res（国際実験糖尿病学会誌）	編集委員			6日
	末梢神経（日本末梢神経学会誌）	編集委員			10日
	弘前医学	副編集委員長			6日
	糖尿病	査読			3日
	Diabetes	査読			6日
	Diabetes Care	査読			4日
	Diabetologia	査読			8日
	Diab Res Clin Prac	査読			20日
	J Diabetes Compl	査読			4日
	Human Pathol	査読			6日
	Diab Metab Res Rev	査読			6日
	Pathol International	査読			4日
	論文査読		和田　龍一		7日
09年度	Virchows Arch（欧州病理学会誌）	編集委員	八木橋操六		16日
	Exp Diab Res（国際実験糖尿病学会誌）	編集委員			6日
	末梢神経（日本末梢神経学会誌）	編集委員長			10日
	糖尿病	査読			6日
	Diabetes	査読			3日
	Diabetes Care	査読			6日
	Diabetologia	査読			4日
	Diab Res Clin Prac	査読			8日
	J Diabetes Compl	査読			20日
	Human Pathol	査読			4日
	Diab Metab Res Rev	査読			6日
	Pathol International	査読			6日
	Pathology International		和田　龍一	論文査読	7日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	地域連携セミナー 遺伝子からがんをみる		和田　龍一		1日
09年度	弘前市民公開講座（厚生労働省支援） 糖尿病とともに生きる．合併症の克服に向けて	主催者及び講師	八木橋操六		1日
	ひばの樹大学学習会	講師	和田　龍一		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	SNK806の急性腎不全治療薬としての開発（特許）	教授	八木橋操六		

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	デジタルパソロジーセミナー		和田　龍一		1日
	糖尿病血管合併症研究会，於品川 2009年3月14日	講師	水上　浩哉		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	黒石市国保黒石病院 北秋中央病院 秋田社会保険病院	非常勤医師	八木橋操六		月 3 回 月 1 回 月 1 回
	八戸市医師会センター病理検査 三沢市立病病理検査		和田　龍一		週0.5日 週0.5日
	八戸市民病院 青森労災病院 秋田社会保険病院 北秋中央病院	助　　教	水上　浩哉		12日 12日 36日 36日
	青森県立中央病院 津軽保健生活協同組合健生病院 黒石市国民健康保険黒石病院	非常勤医師	矢嶋　信久	各施設　病理診断，病理解剖，CPC 等	48日 6 日 10日
09年度	黒石市国保黒石病院 北秋中央病院 秋田社会保険病院	非常勤医師	八木橋操六		月 3 回 月 1 回 月 1 回
	三沢市立三沢病院 八戸医師会検査センター病理診断		和田　龍一		週0.5日 週0.5日
	秋田社会保険病院 北秋中央病院 青森労災病院 八戸市立市民病院	非常勤医師	水上　浩哉		54日 54日 11日 11日
	青森県立中央病院 津軽保健生活協同組合健生病院 黒石市国民健康保険黒石病院	非常勤医師	矢嶋　信久	各施設　病理診断，病理解剖，CPC 等	48日 6 日 10日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	病理解剖	講　　師	水上　浩哉		2 日

7．病理生命科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

患者検体の正確で，迅速かつ丁寧な病理診断は，質の高い医療に直結するという信念をもち，日々の病理診断を通じて，地域医療に貢献する。また，医学科にとどまらず，医療全体における教育分野でも病理学は重要な位置を占めており，他施設からの要望に応えるため，本務に支障のない範囲で，学外での病理学教育に従事する。このような社会貢献活動は，本務にも有益な経験が得られるものと考える。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で，社会貢献活動の面でも，研究面と同様に一層の充実する時期と位置づけられる。

（1）患者検体の正確で，迅速かつ丁寧な病理診断を，質の高い医療に直結させること，

（2）教育分野での病理学の重要性に鑑み，他施設からの要望に応えるため，本務に支障のない範囲で，学外での病理学教育に従事する。

このような社会貢献活動は，本務にも有益な経験が得られるものと考える。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　1，助手　0，医員　3，大学院学生　3， 研究生（含：講座外大学院生）　6
09年度		教授　1，准教授　0，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　3， 研究生（含：講座外大学院生）　6

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本病理学会　学術評議員	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本病理学会　教育委員会委員	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本病理学会 精度管理委員会 委員	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本病理学会　若手医師確保に関する小委員会委員	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本病理学会　Pathology International 刊行委員会　委員	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	日本臨床細胞学会　評議員	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	日本病理学会　学術評議員	講　　師	楠美　智巳		1 日
09年度	日本病理学会　学術評議員	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本病理学会　精度管理委員会　委員	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本病理学会　Pathology International 刊行委員会　委員	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	日本病理学会　診断病理編集委員会　委員	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本病理学会　東北支部広報委員会　委員長	教　　授	鬼島　　宏		2 日
	日本臨床細胞学会　評議員	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	日本食道学会　評議員	教　　授	鬼島　　宏		1 日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Pathology International, Editorial Board	教　　授	鬼島　　宏		3 日
	International Journal of Molecular Medicine, Editorial Academy	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	Oncology Reports, Editorial Board	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	Molecular Medicine Reports, Editorial Board	教　　授	鬼島　　宏		1 日

09年度	Pathology International, Editorial Board	教　　授	鬼島　　宏		3 日
	International Journal of Molecular Medicine, Editorial Academy	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	Oncology Reports, Editorial Board	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	Molecular Medicine Reports, Editorial Board	教　　授	鬼島　　宏		1 日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	「サイエンスカフェ弘前」 開催（独立行政法人科学技術振興機構より発信，一般市民対象とした研究成果の発信・還元　弘前　2008年8月23日）	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	「サイエンスカフェ弘前」 開催（独立行政法人科学技術振興機構より発信，一般市民対象とした研究成果の発信・還元　弘前　2008年8月23日）	助　　教	佐藤　冬樹		1 日
09年度	「サイエンスカフェ弘前」 開催（独立行政法人科学技術振興機構より発信，一般市民対象とした研究成果の発信・還元　弘前　2009年8月）	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	「サイエンスカフェ弘前」 開催（独立行政法人科学技術振興機構より発信，一般市民対象とした研究成果の発信・還元　弘前　2009年8月）	助　　教	佐藤　冬樹		1 日
	「サイエンスカフェ弘前」 開催（独立行政法人科学技術振興機構より発信，一般市民対象とした研究成果の発信・還元　弘前　2009年8月）	助　　教	諸橋　聡子		1 日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	独立行政法人産業技術総合研究所（つくば市）ブラディオン・プロジェクト（産学官連携プロジェクト） Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用：癌の早期診断および治療，治療後の長期予後モニターシステム開発	教　　授	鬼島　　宏		3 日
09年度	独立行政法人産業技術総合研究所（つくば市）ブラディオン・プロジェクト（産学官連携プロジェクト） Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用：癌の早期診断および治療，治療後の長期予後モニターシステム開発	教　　授	鬼島　　宏		3 日

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	函館医療連携研究会（特別講演）消化器癌の臨床病理（国立病院機構函館病院　函館　2008年5月30日）	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	病理診断セミナー　胆道癌の発育進展と診断（岩手医科大学　盛岡　2008年9月12日）	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	仙台泌尿器疾患フォーラム　前立腺病理の見方－特に前立腺癌について－（仙台　2008年11月12日）	教　　授	鬼島　　宏		1 日
09年度	東北厚生局　指導医ワークショップ　タスクフォース（東北厚生局　仙台市　2009年7月10日～11日）	教　　授	鬼島　　宏		1 日
	城南膵胆道セミナー　胆嚢癌の病理形態学的特徴（目黒雅叙園　東京都目黒区　2009年9月11日）	教　　授	鬼島　　宏		1 日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	五所川原市立西北中央病院　非常勤医師	教　　授	鬼島　　宏		50日
	五所川原市立西北中央病院　非常勤医師	講　　師	楠美　智巳		50日
09年度	五所川原市立西北中央病院　非常勤医師	教　　授	鬼島　　宏		50日
	五所川原市立西北中央病院　非常勤医師	助　　教	諸橋　聡子		50日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	病理解剖	教　　授	鬼島　　宏	11件	11日
	病理解剖	講　　師	楠美　智巳	11件	11日
	病理解剖	助　　教	佐藤　冬樹	11件	11日
09年度	病理解剖	教　　授	鬼島　　宏	10件	10日
	病理解剖	助　　教	佐藤　冬樹	10件	10日
	病理解剖	助　　教	諸橋　聡子	10件	10日

8．感染生体防御学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

弘前大学大学院医学研究科の教員として関連学会での活動を積極的に行った。
研究・教育を通して社会貢献を行うべく努力した。
特許取得など，新産業基盤創成へ向けて努力し，成果を上げつつある。
中国大学・企業との共同研究を通して国際貢献を行った。
病院診療を通じて地域医療に貢献した。

これから2年間の目標：

弘前大学大学院医学研究科の教員として関連学会での活動を積極的に行う。
研究・教育を通して社会貢献を行う。
特許取得など，新産業基盤創成へ向けて実績をあげる。
企業との共同研究を通して地域貢献を行う。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本細菌学会	理　事	中根　明夫		3日
	日本細菌学会学会賞選考委員会	委　員			1日
	日本インターフェロン・サイトカイン学会	幹　事			1日
	日本細菌学会東北支部会	委　員			1日
	日本細菌学会東北支部会	委　員	胡　東良		1日
09年度	日本細菌学会	理　事	中根　明夫		3日
	日本細菌学会学会賞選考委員会	委　員			1日
	日本生体防御学会	運営委員			1日
	日本細菌学会東北支部会	委　員			1日
	日本細菌学会東北支部会	委　員	胡　東良		1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本細菌学雑誌	編集委員長	中根　明夫		3日
	Microbiol Immunol	編集委員			14日
		審査員			3日
	J Antimicrob Chemother	審査員			1日
	Appl Microb Biotech	審査員			1日
	Infect Immun	審査員			1日
	JIMB	審査員			1日
	FEMS Immunol Med Microbiol	審査員			1日
	Cell Immunol	審査員			1日
	Clin Microb Infect	審査員			1日
	Microbiol Immunol	審査員	胡　東良		3日
	J Med Microbiol	審査員			1日

09年度	日本細菌学雑誌	編集委員長	中根　明夫		3日
	Microbiol Immunol	編集委員			11日
	Microbiol Immunol	審査員			4日
	FEMS Immunol Med Microbiol	審査員			1日
	Cell Immunol	審査員			3日
	Comparative Immunol Microbiol	審査員			1日
	弘前医学	審査員			2日
	Microbiol Immunol	審査員	胡　東良		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県感染症動向調査委員会	委員	中根　明夫		1日
09年度	青森県感染症動向調査委員会	委員	中根　明夫		1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	抗原検出用センサーチップとその作製方法および抗原検出用センサー（特願2008-126535） 抗原検出用センサーチップとその作製方法および抗原検出用センサー（特願2008-126536）	教授	中根　明夫		2日

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	都市エリア産学官連携促進事業一般型「QOLの向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発」	教授	中根　明夫		4日
09年度	都市エリア産学官連携促進事業一般型「QOLの向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発」	教授 助教	中根　明夫 差波　拓志		4日 2日
	国立大学法人弘前大学・サンスター株式会社研究連携推進会議	教授 助教	中根　明夫 長内　理大		3日 3日

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	中国農業科学院上海獣医研究所．特別講演「細菌超抗原毒素的分子多様性及生物多功能性的研究与応用」	准教授	胡　東良		1日
09年度	09健康づくり提唱のつどい「免疫力を高めるライフスタイル」	教授	中根　明夫	特別講演	1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	白生会胃腸病院	助教	差波　拓志	医師	48日
09年度	白生会胃腸病院	助教	差波　拓志	医師	48日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(12) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

９．社会医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

地域保健（県の寿命対策,岩木健康増進プロジェクト,地域包括ケアなど),産業保健･精神保健（青森産業保健推進センター相談員），学校保健（岩木健康増進プロジェクト）に積極的にかかわり，その発展に寄与したい。(中路)

現在進めているスポーツ医学及び健康科学の研究を学外の各機関と連携し，情報交換等を行いながらより実践したものとしていきたい。また，これに関して現在集積しているデータ及びこれから得られるデータを，これまで同様，スポーツ指導現場並びに教育現場，地域保健に活用し，スポーツ選手の健康管理，選手強化，地域保健活動に役立つものとしたいと考えている。(梅田)

1．学外の医学教育に対しても可能な限り協力する。2．地域医療のあり方について提言していく。3．学会役員として学会の運営に協力する。(高橋)

これから２年間の目標：

地域保健（県の寿命対策,岩木健康増進プロジェクト,地域包括ケアなど),産業保健･精神保健（青森産業保健推進センター相談員），学校保健（岩木健康増進プロジェクト）に積極的にかかわり，その発展に寄与したい。(中路)

現在進めているスポーツ医学及び健康科学の研究を学外の各機関と連携し，情報交換等を行いながらより実践したものとしていきたい。また，これに関して現在集積しているデータ及びこれから得られるデータを，これまで同様，スポーツ指導現場並びに教育現場，地域保健に活用し，スポーツ選手の健康管理，選手強化，地域保健活動に役立つものとしたいと考えている。(梅田)

学外の医学教育に対しても可能な限り協力する。地域医療のあり方について提言していく。学会役員として学会の運営に協力する。(高橋)

院内がん登録を推進する（檀上）

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　3，助手　0，医員　0，大学院学生　40，研究生　4
09年度		教授　1，准教授　1，講師　0，助教　3，助手　0，医員　0，大学院学生　56，研究生　11

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本衛生学会	評　議　員	中路　重之		1 日
	日本がん疫学研究会	会　　員			1 日
	体力医学会	評　議　員			1 日
	日本公衆衛生学会	会　　員			1 日
	日本疫学会	会　　員			1 日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事			2 日
	日本民族衛生学会	評　議　員			1 日
	弘前医学会	評　議　員			3 日
	日本機能性食品医用学会	評　議　員			1 日
	日本衛生学会	評　議　員			1 日
	日本体力医学会	評　議　員			1 日
	日本レーザー治療学会	評　議　員			1 日
	日本レーザー・スポーツ医学会	理　　事			2 日
	日本食物繊維学会	評　議　員			1 日
	青森県21世紀栄養を考える会	世　話　人			1 日
	青森県スポーツ医学研究会	世　話　人			1 日
	弘前国際フォーラム	世　話　人			8 日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事	梅田　　孝	大分	1 日
	日本レーザー・スポーツ医学会	理　　事		神戸	1 日

09年度	日本衛生学会	評　議　員	中路　重之		1日
	日本がん疫学研究会	会　　員			1日
	体力医学会	評　議　員			1日
	日本公衆衛生学会	会　　員			1日
	日本疫学会	会　　員			1日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事			2日
	日本民族衛生学会	評　議　員			1日
	弘前医学会	評　議　員			3日
	日本機能性食品医用学会	評　議　員			1日
	日本衛生学会	評　議　員			1日
	日本体力医学会	評　議　員			1日
	日本レーザー治療学会	評　議　員			1日
	日本レーザー・スポーツ医学会	理　　事			2日
	日本食物繊維学会	評　議　員			1日
	青森県21世紀栄養を考える会	世　話　人			1日
	青森県スポーツ医学研究会	世　話　人			1日
	弘前国際フォーラム	世　話　人			8日
	生き物文化誌学会	会　　員			1日
	日本レーザー・スポーツ医学会	監　　事	梅田　　孝		1日
	日本衛生学会	評　議　員			1日
	日本体力医学会	評　議　員			1日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事			1日
	青森県スポーツ医学研究会	世　話　人			1日
	生き物文化誌学会	会　　員			1日
	日本内科学会	会　　員	檀上　和真		1日
	日本消化器病学会	会　　員			1日
	日本消化器内視鏡学会	会　　員			1日
	日本衛生学会	評　議　員			1日
	日本公衆衛生学会	会　　員			1日
	日本体力医学会	会　　員			1日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事			1日
	日本消化吸収学会	会　　員			1日
	日本食物繊維研究会	会　　員			1日
	生き物文化誌学会	会　　員			1日
	日本内科学会	会　　員	高橋　一平		1日
	日本衛生学会	評　議　員			1日
	日本公衆衛生学会	会　　員			1日
	日本体力医学会	会　　員			1日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事			1日
	体力・栄養・免疫学会	編集委員			1日
	日本予防医学会	会　　員			1日
	生き物文化誌学会	会　　員			1日
	日本整形外科学会	会　　員			1日
	日本内科学会	会　　員	松坂　方士		1日
	日本消化器病学会	会　　員			1日
	日本消化器内視鏡学会	会　　員			1日
	日本衛生学会	評　議　員			1日
	日本公衆衛生学会	評　議　員			1日
	日本体力医学会	会　　員			1日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事			1日
	体力・栄養・免疫学会	編集委員			1日
	弘前医学会	会　　員			1日
	日本予防医学会	会　　員			1日
	生き物文化誌学会	会　　員			1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	東北公衆衛生学会 産業衛生学会東北地方会	大　会　長	中路　重之	青森市	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	体力・栄養・免疫学会	編集委員	中路　重之	編集	30日
	体力・栄養・免疫学雑誌		檀上　和真	査読	5 日
	体力・栄養・免疫学雑誌		松坂　方士	査読	30日
09年度	体力・栄養・免疫学雑誌	副会長	中路　重之	査読	30日
	体力・栄養・免疫学雑誌	理　事	梅田　　孝	査読	4 日
	体力・栄養・免疫学雑誌	理　事	檀上　和真	査読	20日
	体力・栄養・免疫学雑誌	理　事 編集委員	高橋　一平	査読	10日
	体力・栄養・免疫学雑誌	理　事 編集委員	松坂　方士	査読	20日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2007年12月から2008年6月まで)	責任者	中路　重之		24日 (評価年度)
	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2007年12月から2008年6月まで)	指導員	梅田　　孝		
	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2007年12月から2008年6月まで) ヒロダイいきいき元気塾　健康講演会 ヒロダイいきいき元気塾　健康講習会 「医師と歩こう！青森市民健康ウォーキング」	指導員 企　画 企　画 スタッフ	檀上　和真		24日 (評価年度) 2 日 13日 1 日
	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2007年12月から2008年6月まで) 朝日新聞主催「これだけは知っておきたいがんの話」講演会 白神山地の自然と人（フィールド観察）．シニアサマーカレッジ『とことん学べ!!津軽 つがるTSUGARU』2008.9.10	指導員 司　会 引率ドクター	松坂　方士		24日 (評価年度) 2 日 1 日
09年度	岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診 岩木健康増進プロジェクト・小中学生健康調査 岩木健康増進プロジェクト・健康実践教室 岩木健康増進プロジェクト・健康実践教室・中間メディカルチェック 岩木健康増進プロジェクト・健診報告・相談会 岩木健康増進プロジェクト・年度報告会 ヒロダイ・いきいき元気塾 湘南ベルマーレ所属選手に対するスポーツ医科学調査 青森県ジュニアスキー選手に対するスポーツ医科学調査 全日本女子柔道選手に対するスポーツ医科学調査	研究代表者	中路　重之		9 日 12日 20日 2 日 2 日 1 日 14日 1 日 1 日 1 日
	岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診 岩木健康増進プロジェクト・小中学生健康調査 岩木健康増進プロジェクト・健康実践教室 岩木健康増進プロジェクト・健康実践教室・中間メディカルチェック 岩木健康増進プロジェクト・健診報告・相談会 岩木健康増進プロジェクト・年度報告会 ヒロダイ・いきいき元気塾 福岡県糸島郡少年柔道選手スポーツ医学調査 東京都講道学舎主催少年柔道教室参加者に対するスポーツ医科学調査 湘南ベルマーレ所属選手に対するスポーツ医科学調査 青森県ジュニアスキー選手に対するスポーツ医科学調査 全日本女子柔道選手に対するスポーツ医科学調査 平成21年度あおもりっ子食育フェスタ	調査責任者 調査責任者 指導員 調査責任者 報告者 相談員 指導員 調査責任者 調査責任者 調査責任者 調査責任者 調査責任者 指導員	梅田　　孝		9 日 5 日 24日 2 日 1 日 1 日 14日 2 日 2 日 12日 8 日 10日 1 日

09年度	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2008年12月から2009年6月まで)	指導員	檀上　和真		24日 (評価年度)
	ヒロダイいきいき元気塾	企画			14日
	弘前地区院内がん登録講習会	講師			12日
	青森地区院内がん登録講習会	講師			3日
	八戸地区院内がん登録講習会	講師			3日
	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2008年12月から2009年6月まで)	指導員	高橋　一平		24日 (評価年度)
	福岡県糸島郡少年柔道選手スポーツ医学調査	スタッフ			2日
	湘南ベルマーレ所属選手に対するスポーツ医科学調査				6日
	青森県ジュニアスキー選手に対するスポーツ医科学調査				2日
	全日本女子柔道選手に対するスポーツ医科学調査				2日
	平成21年度あおもりっ子食育フェスタ				1日
	ヒロダイいきいき元気塾				14日
	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2008年12月から2009年6月まで)	指導員	松坂　方士		24日 (評価年度)
	ヒロダイいきいき元気塾	スタッフ			14日
	弘前地区院内がん登録講習会	講師			12日
	青森地区院内がん登録講習会	講師			3日
	八戸地区院内がん登録講習会	講師			3日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件名	役職	氏名	備考	日数
08年度	青森県医師会産業医委員会	委員	中路　重之		1日
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会（成人病登録・評価部委員）	委員長			1日
	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	委員			1日
	弘前大学医師会	理事			1日
	青森県小児がん等がん調査委員会	委員			1日
	青森県スポーツドクターの会	世話人			1日
	青森産業保健推進センター	相談員			24日
	青森労働局	労働衛生指導医			1日
	青森県環境審議会	委員			1日
	健康寿命アップ会議	議長			2日
	弘前保健所運営協議会	委員			1日
	青森県総合健診センター骨密度判定委員会	委員			2日
	青森県がん医療検討委員会	委員長			2日
	青森県自殺対策連絡協議会	委員			2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委員			2日
	青森県医療機能調査委検討委員会	委員長			2日
	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会(2次)	専門委員			2日
	青森県調理師資格試験委員会	委員	梅田　孝		3日
	独立行政法人日本学術振興会科学研究費審査委員会	委員			10日
	青森県小児がん等調査実務検討委員会委員	委員			4日
	社団法人医療系大学間共用試験実施機構医学系CBT実施小委員会ブラッシュアップ専門部会	委員			4日
	新健康ひろさき21策定委員会委員	委員			3日
	青森県メタボリック症候群対策事業化研究会	委員			2日
	労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター産業保健相談員	相談員 (特別相談員)	檀上　和真		4日
	弘前大学白神自然観察園設置準備委員会	委員			2日
	青森県感染症発生動向企画委員会	委員	松坂　方士		1日
	労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター産業保健相談員	相談員 (特別相談員)			2日
	西北中央病院院内がん登録相談				7日
	弘前市立病院院内がん登録相談				1日
	国立病院機構弘前病院院内がん登録相談				1日

09年度	青森県医師会産業医委員会	委　　員	中路　重之		1日
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委　　員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会（成人病登録・評価部委員）	委 員 長			1日
	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	委　　員			1日
	弘前大学医師会	理　　事			1日
	青森県小児がん等がん調査委員会	委　　員			1日
	青森県スポーツドクターの会	世 話 人			1日
	青森産業保健推進センター	相 談 員			24
	青森労働局	労働衛生指導医			1日
	青森県環境審議会	委　　員			1日
	健康寿命アップ会議	議　　長			2日
	弘前保健所運営協議会	委　　員			1日
	青森県総合健診センター骨密度判定委員会	委　　員			2日
	青森県がん医療検討委員会	委 員 長			2日
	青森県自殺対策連絡協議会	委　　員			2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員			2日
	青森県医療機能調査委検討委員会	委 員 長			2日
	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会(2次)	専 門 委 員			2日
	未成年者喫煙防止対策検討委員会	委　　員			2日
	医療提供体制推進事業費補助金事後的評価委員会	委　　員			2日
	青森県平川市生活改善プログラム実行委員会委員	委　　員	梅田　　孝		4日
	青森県調理師資格試験委員会	委　　員			2日
	青森県小児がん等調査実務検討委員会	委　　員			3日
	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会	専 門 委 員			10日
	労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター産業保健相談員	特別相談員			2日
	労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター産業保健相談員	相 談 員（特別相談員）	檀上　和真		4日
	弘前大学白神自然観察園設置準備委員会	委　　員			2日
	労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター産業保健相談員	相 談 員（特別相談員）	高橋　一平		4日
	青森県感染症発生動向企画委員会	委　　員	松坂　方士		1日
	労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター産業保健相談員	相 談 員（特別相談員）			2日
	西北中央病院院内がん登録相談				7日
	弘前市立病院院内がん登録相談				1日
	国立病院機構弘前病院院内がん登録相談				1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	腸内細菌叢の様態による食生活改善プログラムの開発	教　　授 准 教 授 助　　教 助　　教 助　　教	中路　重之 梅田　　孝 檀上　和真 高橋　一平 松坂　方士	理化学研究所，テクノスルガ，インフォコムと共同	30日

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	1．市民公開講座「目からウロコの健康のはなし」．第6回日本予防医学会学術総会．東京医科大，H20.11.29-30.	講　　師	中路　重之		1日
	2．青森県民の健康．弘前大学大学祭講演．2008.10.26．弘前大学文教キャンパス				1日
	3．地域医療に対する貢献の仕方「青森県の平均寿命アップのために我々がなすべきこと」．東北北海道しんきゅう研修会講演．2008.11.16.				1日
	4．東北アルコール関連問題研究会．2008.10.19．弘前市．東北各県の平均寿命とアルコールの関係.				1日
	5．健康情報の氾濫をいかに生き抜くか．シニアサマーカレッジ『とことん学べ!!津軽 つがるTSUGARU』2008.9.5				1日
	6．産保センター産業看護者研修（8月20日）「職場の心の健康づくり対策を考える」～北海道・東北5県共同調査研究から～				1日
	7．最近の医療崩壊？を私はこう考える．セミナー医療と社会　セミナー例会第51,52回．基調講演．2007.12.8. 国立病院機構弘前病院地域研修センター．セミナー　医療と社会 2008.33:109-111.				1日
	8．平均寿命からみた健康．大村医師会講演会．2008.7.2，長崎インターナショナルホテル，長崎.				1日
	9．目で見て学ぼう，生活習慣病．「好きです！西目屋」第6回講演会．西目屋村健康祭．2008.7.18．西目屋村中央公民館.				1日
	10．朝日新聞弘前大企画「これだけは知っておきたいがんの話」朝日新聞第2回講演会「青森県でがんを治すにはどうすればよいか」2008.6.13.				1日
	11．弘前工業高校PTA講演．2008.4.19.				1日
	12．佐々木胃腸科健康講演会．2008.4.2.				1日
	13．生活習慣病講演会（社会保険庁研修会）2008.3.13，アピオ青森.				1日
	1．平成20年度青森スポーツ拠点づくり推進事業講演会パネルディスカッション	コーディネーター	梅田　　孝		1日
	2．弘前高校野球部スポーツ医学講習会．本講座．2009.3.27.	准 教 授			1日
	3．平成20年度青森北高等学校スポーツ科学科・スポーツ科学実習及び講義．本講座．2009.3.12.				1日
	4．平成20年度青森スポーツ拠点づくり推進事業　講演会パネルディスカッションコーディネーター．青森市．2009.2.28.				1日
	5．ラグビーU-20日本代表候補合宿時スポーツ科学講習会．東京都．2009.2.2.				1日
	6．平成20年度青森県高等学校教育研究会・保健体育部会研修会．スポーツ医学講演会．青森市．2008.8.18.				1日
09年度	1．目からウロコの健康の話．田舎館村健康講習会．田舎館村公民館．平成21年2月3日.	教　　授	中路　重之		1日
	2．「岩木健康プロジェクトクト」を通じた地域住民への健康アプローチ．日本体力医学会東北地方会第19回大会．公開シンポジウム．弘前大学医学部保健学科．平成21年6月13日.				1日
	3．目からウロコの健康の話．諫早医師会　市民公開講座　健康寿命を考える．諫早市文化会館．平成21年6月27日.				1日
	4．目からウロコの健康の話．市町村会講演．馬門温泉．2009.8.26.				1日

	5．シニアサマーカレッジ．講義8-11.健康のど真ん中を語りましょう．2009.9.4．弘前大学 6．週に1回の運動教室でも健脚は作れる．第20回公開シンポジウム．健脚を血管病から守る．青森文化会館．10.17 7．日本ヒューマンケア科学学会　第2回学術集会．市民公開講座．地域で健康な子どもを育む　～青森県における小児の肥満対策への取組み～．青森県立保健大学．2009.10.24 8．アンチエイジングの考え方と新しい健康指数（MANO index）．日本アンチエイジング医療協会一般講演会．コア・いけぶくろ（豊島区立豊島区民センター）．2009.10.31 9．乳がん患者会「ほほえみネットワーク　講演」．11.7				1日 1日 1日 1日 1日
	1．全日本女子柔道選手に対するスポーツ医科学講義 2．福岡県糸島郡小中学生に対するスポーツ医科学講義 3．青森北高校スポーツ科学科・スポーツ医科学講義・実習 4．弘前実業高校スポーツ科学科・スポーツ医科学講義・実習 5．青森県陸上競技協会指導者育成講習会	講　師	梅田　孝		2日 1日 2日 4日 1日
	1．シニアサマーカレッジ．講義8-10.白神山地の自然と人．2009.9.3．弘前大学 2．禁煙対策セミナー（八戸）	助　教	檀上　和真		1日 1日
	1．青森北高校スポーツ科学科・スポーツ医科学講義・実習 2．弘前実業高校スポーツ科学科・スポーツ医科学講義・実習 3．喫煙対策セミナー 2009.10.15，11.26，12.10 4．成寿園　医療セミナー 2009.7.29，9.28	助　教	高橋　一平		1日 1日 3日 2日
	1．がん予防の考え方について　保健協力員講演会　むつ市大畑健康センター　平成21年10月15日 2．青森県民の健康寿命とタバコ　東北電力三沢営業所　平成21年12月3日 3．がん予防の考え方について　保健協力員講演会　平内町中央公民館　平成22年3月4日	助　教	松坂　方士		1日 1日 1日
	1．特別講演「中年の星が伝える健康の秘訣とは」．第20回公開シンポジウム．青森文化会館10.17	研　究　生	山本　博		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	弘前市住民健康診断（岩木健康増進プロジェクト提携）	教　授 准教授 助　教 助　教 助　教	中路　重之 梅田　孝 檀上　和真 高橋　一平 松坂　方士		9日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	つがる立成人病センター	非常勤医師	中路　重之	つがる市	48日
	弘前記念病院	非常勤スポーツアドバイザー	梅田　　孝	弘前市	48日
	なかざわスポーツクリニック	非常勤スポーツアドバイザー		八戸市	24日
	尾野病院	非常勤医師	檀上　和真	五所川原市	25日
	弘前メディカルセンター			弘前市	2 日
	佐々木胃腸科内科医院	非常勤医師	松坂　方士	青森市	40日
	光智会西大舘病院			大館市	5 日
	尚友会白戸胃腸科外科医院			五所川原市	5 日
09年度	つがる立成人病センター	非常勤医師	中路　重之	つがる市	48日
	弘前記念病院	非常勤スポーツアドバイザー	梅田　　孝	弘前市	48日
	なかざわスポーツクリニック	非常勤スポーツアドバイザー			24日
	尾野病院	非常勤医師	檀上　和真	五所川原市	25日
	弘前メディカルセンター			弘前市	2 日
	尾野病院	非常勤医師	高橋　一平	五所川原市	25日
	光智会西大舘病院			弘前市	2 日
	佐々木胃腸科内科医院	非常勤医師	松坂　方士	青森市	40日
	光智会西大舘病院			大館市	5 日
	尚友会白戸胃腸科外科医院			五所川原市	5 日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	朝日新聞地方版連載「これだけは知っておきたいがんの話」第19-63回	執　筆　者	中路　重之	共同執筆	45日
	「これだけは知っておきたいがんの話」第2回講演会「青森県でがんを治すにはどうすればよいか」	講　　師			1 日
	日本医師会 テレビ健康講座 ふれあい健康ネットワーク＠ RAB 青森放送「めざせ，健康長寿の青森を！～全国最下位からの脱却～」	講　　師			1 日
	東洋大学駅伝部メディカルサポートについて　東奥日報		梅田　　孝		1 日
	東洋大学駅伝部メディカルサポートについて NHK　アップルワイド				1 日
09年度	朝日新聞地方版連載「これだけは知っておきたいがんの話」第64-107回	執　筆　者	中路　重之	共同執筆	44日
	アップルウェーブ「りんご王国こうぎょくカレッジ」11/30放送	出　　演	檀上　和真 松坂　方士 岩根かほり(大学院生)	収録8/27	1 日

10. 法医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として，青森県警察本部，青森県各警察署・第 2 管区海上保安本部青森海上保安部，青森地方検察庁，陸上自衛隊警務部，海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応出来るよう努力する。（100/100）
2. 青森県下で発生する死体検案業務に積極的に参加するとともに，本研究科の施行規則に従い，卒前・卒後教育に役立てる。（90/100）
3. 医学と社会との接点・窓口として，地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう努力する。（100/100）
4. 平日は勿論のこと，休日，夜間を問わず，警察などからの要請に応じて公平中立な立場で質の高い法医解剖を行い，公衆衛生の向上および治安の維持に貢献する。（100/100）
5. 平日は勿論のこと，休日，夜間を問わず，警察などからの要請に応じて死体検案を行い，公衆衛生の向上および治安の維持に貢献する。（100/100）
6. 札幌弁護士会の分科会である札幌医療事故問題研究会の研修に非常勤講師として参加し，医療事故の解決に向けた講義やアドバイスを行うとともに，医療界と法曹界の橋渡し役を務める。（0/100）
7. ヒロサキメディカルセンター，西大館病院に非常勤医師として勤務し，地域医療の実践を担い問題点の解決に取り組む。（0/100）
8. 要請があれば，学外の法医学の教育にも積極的に参加する。（80/100）

これから２年間の目標：

1. 青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として，青森県警察本部，青森県各警察署・第 2 管区海上保安本部青森海上保安部，青森地方検察庁，陸上自衛隊警務部，海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応出来るよう努力する。
2. 青森県下で発生する死体検案業務に積極的に参加するとともに，本研究科の施行規則に従い，卒前・卒後教育に役立てる。
3. 医学と社会との接点・窓口として，地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう努力する。
4. 平日は勿論のこと，休日，夜間を問わず，警察などからの要請に応じて公平中立な立場で質の高い法医解剖を行い，公衆衛生の向上および治安の維持に貢献する。
5. 平日は勿論のこと，休日，夜間を問わず，警察などからの要請に応じて死体検案を行い，公衆衛生の向上および治安の維持に貢献する。
6. 要請があれば，学外の法医学の教育にも積極的に参加する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	日本法医学会評議員	教　　授	黒田　直人		1 日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	学術雑誌編集（法医学の実際と研究）	教　　授	黒田　直人	査読，編集	5 日
09年度	「法医学の実際と研究」編集委員	教　　授	黒田　直人	査読14件	5 日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会	教　　授	黒田　直人	専門委員	2 日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	平成21年度青森県警察医会	教　　授	黒田　直人		1 日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	西大館病院 ヒロサキメディカルセンター	准　教　授	美作宗太郎	非常勤 医師	100日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	法医解剖 死体検案	教　　授	黒田　直人	執刀・検査	230日 25日
	法医解剖 死体検案	准　教　授	美作宗太郎	執刀・検査	210日 20日
	法医解剖検査	特任講師	北　　武	検査	220日
09年度	法医解剖執刀 死体検案	教　　授	黒田　直人	71例 10例	*71日 *10日

* 剖検・死体検案後の検査，書類作成，捜査関係者との面談等に要した日数を含まない.

11. 消化器血液内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 消化器病，血液病，膠原病領域の臨床・研究に関する最新の医療技術・知識を総括し，関連施設への情報提供を行い，地域医療のレベルアップを図る。（到達度：70％）
2. 医師，コメディカル，一般市民に対する教育および啓蒙活動を積極的に行う。（到達度：70％）
3. 健康増進のための公益事業に積極的に関与し，平均寿命の改善に貢献する。（到達度：80％）検診事業への協力を継続して行っている。

これから２年間の目標：

1. 消化器病，血液病，膠原病領域の臨床・研究に関する最新の医療技術・知識を総括し，関連施設への情報提供を行い，地域医療のレベルアップを図る。
2. 医師，コメディカル，一般市民に対する教育および啓蒙活動を積極的に行う。
3. 健康増進のための公益事業に積極的に関与し，青森県の平均寿命の改善に貢献する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　5，助手　1，医員　5，大学院学生　8，研究生　4
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　9，大学院学生　8，研究生　4

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本消化器内視鏡学会　東北セミナープログラム委員会	委　員　長		秋田	1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医制度　東北支部認定審査会	支 部 委 員		盛岡	1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医制度　中央審議会	支 部 委 員		東京	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員	福田　眞作	秋田，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		秋田，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医試験委員会　問題作成小委員会	委　　員		東京	1日
	日本消化器病学会	評　議　員		福岡，東京	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会	評　議　員		横浜，東京	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医制度　東北支部認定審査会	認 定 委 員		盛岡	1日
	青森県肝癌研究会	世　話　人		弘前	1日
	青森21世紀の栄養療法を考える会	幹　　事		弘前	1日
	東北肝炎・肝癌研究会	幹　　事		仙台	1日
	東北ウイルス肝炎治療研究会	幹　　事	坂本　十一	盛岡	1日
	青森県肝胆膵研究会	幹　　事		青森	1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		秋田	1日
	東北 PEG-IFN 研究会	幹　　事		仙台	1日
	日本消化器病学会東北支部例会	評　議　員		秋田	1日
	青森県肝疾患研究会	世　話　人		弘前	1日
	津軽 EOB-Primo visA 研究会	世　話　人		弘前	1日
	日本消化吸収学会	評　議　員		東京	1日
	日本ヘリコバクター学会	学会総務委員 認定医制度委員	下山　　克	東京，札幌	5日
	日本消化器病学会	評　議　員		秋田，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		秋田，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員	山形　和史	仙台	1日
	青森県経腸静脈栄養研究会	世　話　人		弘前	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員	遠藤　　哲	秋田，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		秋田，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部例会	評　議　員	吉村　徹郎	弘前	1日

	日本心身医学会	代　議　員 （広報委員）		札幌 仙台 秋田	1日 1日 1日
	日本心療内科学会	評　議　員 （コメディカル委員）	佐藤　　研	青森	1日
	消化器心身医学研究会	幹　　事		青森	1日
	青森心身医学懇話会	世　話　人		青森	1日
	青森こころのケア研究会	世　話　人		弘前	1日
09年度	日本内科学会	委　　員	福田　眞作	東京	3日
	Internal Medicine　編集委員会				
	日本消化器内視鏡学会　東北セミナー プログラム委員会	委　員　長		秋田	1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医制度 東北支部認定審査会	支 部 委 員		盛岡	1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医制度 中央審議会	支 部 委 員		東京	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員		福島，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		福島，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医試験委員会　問題作成小委員会	委　　員		東京	1日
	日本消化器病学会	評　議　員		札幌，京都	1日，1日
	日本消化器病学会　総務委員会	委　　員		東京	1日
	日本消化器内視鏡学会	評　議　員		名古屋，京都	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会　卒後教育委員会	委　　員		東京	1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医制度 東北支部認定審査会	認 定 委 員	坂本　十一	盛岡	1日
	青森県肝癌研究会	世　話　人		弘前	1日
	青森21世紀の栄養療法を考える会	幹　　事		弘前	1日
	東北肝炎・肝癌研究会	幹　　事		仙台	1日
	東北ウイルス肝炎治療研究会	幹　　事		盛岡	1日
	青森県肝胆膵研究会	幹　　事		青森	1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		福島	1日
	東北 PEG-IFN 研究会	幹　　事		仙台	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員		福島	1日
	青森県肝疾患研究会	世　話　人		弘前	1日
	津軽 EOB-Primo visA 研究会	世　話　人		弘前	1日
	日本消化吸収学会	評　議　員	下山　　克	東京	1日
	日本ヘリコバクター学会	学会総務委員 認定医制度委員		東京，札幌	5日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員		福島，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		福島，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員	山形　和史	福島，仙台	1日，1日
	日本消化器病学会	評　議　員		福島，仙台	1日，1日
	青森県経腸静脈栄養研究会	世　話　人	遠藤　　哲	弘前	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員		福島，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		福島，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員	吉村　徹郎	福島，仙台	1日，1日
	早期大腸癌研究会	世　話　人		仙台	1日
	日本心身医学会	代　議　員 （コメディカル委員）		札幌 福島 仙台	2日 1日 1日
	日本心療内科学会	評　議　員 （広報委員）	佐藤　　研	青森	1日
	青森心身医学懇話会	代 表 幹 事		青森	2日
	青森こころのケア研究会	代 表 幹 事		弘前	1日
	東北 MD 研究会	幹　　事		仙台	1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員	花畑　憲洋	仙台	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第13回日本心療内科学会総会学術大会	事務局長	佐藤　　研	弘前	2日
	第50回日本平滑筋学会総会	事務局長		弘前	3日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Internal Medicine	査　読　員	福田　眞作		1 日
	Journal of Gastroenterology	査　読　員			1 日
	World Journal of Gastroenterology	編　集　員	下山　　克		10日
	Helicobacter Research	編　集　員			3 日
	Journal of Gastroenterology	査　読　員			5 日
	Journal of Gastroenterology and Hepatology	査　読　員			4 日
	Japanese Journal of Infections Disease	査　読　員			2 日
09年度	Internal Medicine	編　集　員	福田　眞作		25日
	Journal of Gastroenterology	査　読　員			1 日
	World Journal of Gastroenterology	編　集　員	下山　　克		14日
	Helicobacter Research	編　集　員			3 日
	Journal of Clinical Pathology	査　読　員			2 日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第２回弘前大学医学部附属病院がん診療市民公開講座（大腸がん）	教　　授	福田　眞作	弘前	1日
	『これだけは知っておきたいがんの話』第2回講演会			むつ	1日
	がんの座談会			青森	1日
	平成21年度弘前大学公開講座「心と病」（心の病気とその対処－うつ病―）	助　　教	佐藤　　研	青森	1日
09年度	肝がん撲滅運動市民公開講座	准　教　授	坂本　十一	弘前	1日
	平成21年度弘前大学公開講座「心と病」心の病気とその対処　－うつ病－	助　　教	佐藤　　研	三沢	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県総合健診センター	理　　事	福田　眞作		1日 / 年
	青森県社会福祉審議会	委　　員			2日 / 年
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員			1日 / 年
	青森県感染症診査協議会	委　　員	坂本　十一		1日
	青森県肝炎治療特別促進事業審査会	委　　員			3日
	胃がん検診読影委員会	委　　員	下山　　克	青森県総合健診センター	12日
			遠藤　　哲		20日
			吉村　徹郎		15日
09年度	青森県総合健診センター	理　　事	福田　眞作		1日 / 年
	青森県社会福祉審議会	委　　員			2日 / 年
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員			1日 / 年
	青森県感染症診査協議会	委　　員	坂本　十一		1日
	青森県肝炎治療特別促進事業審査会	委　　員			3日
	青森県肝炎対策協議会	委　　員			2日
	胃がん検診読影委員会	委　　員	下山　　克	青森県総合健診センター	12日
			遠藤　　哲		20日
			吉村　徹郎		15日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	八戸胃腸同好会	教　　授	福田　眞作	八戸	1日
	第22回鵬桜会秋田支部総会　記念講演			秋田	1日
	北五医師会第445回集談会			五所川原	1日
	第222回南部胃腸同好会			十和田	1日
	日本内科学会東北支部第52回生涯教育講演会			仙台	1日
	第26回弘前大学医師会教育講演会			弘前	1日
	第31回弘前大学白菊会・会員の集い　特別講話			弘前	1日
	青森胃腸同好会	准 教 授	坂本　十一	青森	1日
	西北五肝疾患治療連携エリアカンファレンス			五所川原	1日
	弘前消化器病研究会			弘前	1日
	弘前インターフェロン勉強会			弘前	1日
	第240回西北五病院薬剤師勉強会	講　　師	下山　　克	五所川原	1日
	プライマリーケアシンポジウム			弘前	1日
	脳神経外科における消化器障害を考える会			盛岡	1日
	西北五肝疾患連携エリアカンファレンス			五所川原	1日
	八戸 ACID Meeting			八戸	1日
	平成20年度消化器症例講演会	助　　教	遠藤　　哲	弘前	1日
	第33回八戸超音波懇話会			八戸	1日
	医療トピックス勉強会			弘前	1日
	日常心療に生かす IBS の診断と治療	助　　教	佐藤　　研	青森	1日
09年度	第499回八戸胃腸研究会	教　　授	福田　眞作	八戸	1日
	第 9 回 HGS 研究会			出雲	1日
	青森県肝炎研修会	准 教 授	坂本　十一	青森	1日
	弘前医師会教育講演会			弘前	1 日
	平成21年度集団検診従事者研修会			青森	1日
	青森胃腸同好会	講　　師	下山　　克	青森	1日
	道北 GERD Seminar			名寄	1日
	むつ下北医師会学術講演会			むつ	1日
	第4回北九州消化管研究会			小倉	1日
	大館 GERD Seminar			大館	1日
	平成21年度消化器症例講演会	助　　教	遠藤　　哲	弘前	1日
	消化器癌治療セミナー 2010	助　　教	吉村　徹郎	弘前	1日
	第10回青森こころのケア研究会	助　　教	佐藤　　研	弘前	1日
	第64回青森心身医学懇話会			弘前	1日
	第19回医療トピックス勉強会			弘前	1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学附属小・中学校	学 校 医	下山　　克		3日
09年度	弘前大学附属小・中学校	学 校 医	下山　　克		3日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	三沢市立病院	非常勤医師	福田　眞作	三沢市	12日
	松丘保養園	非常勤医師		青森市	12日
	公立七戸病院	非常勤医師	坂本　十一	七戸町	50日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	下山　　克	青森市	50日
	弘前市立病院	非常勤医師	山形　和史	弘前市	50日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	遠藤　　哲	青森市	50日
	つがる市立成人病センター	非常勤医師	三上　達也	つがる市	50日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	吉村　徹郎	青森市	50日
	公立七戸病院	非常勤医師	佐藤　　研	七戸町	50日
	金木病院	非常勤医師	山口　公平	五所川原市	50日

09年度	三沢市立病院 松丘保養園	非常勤医師 非常勤医師	福田　眞作	三沢市 青森市	12日 12日
	公立七戸病院	非常勤医師	坂本　十一	七戸町	50日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	下山　　克	青森市	45日
	弘前市立病院	非常勤医師	山形　和史	弘前市	50日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	遠藤　　哲	青森市	50日
	大館市立記念病院	非常勤医師	吉村　徹郎	青森市	50日
	公立七戸病院	非常勤医師	佐藤　　研	七戸町	50日
	つがる成人病センター 西北中央病院	非常勤医師 非常勤医師	花畑　憲洋	つがる市 五所川原市	50日 25日
	町立大鰐病院	非常勤医師	間山　　恒	大鰐町	12日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

救急医療 BLS, ACLS の普及に努める。　100％
積極的な禁煙活動に取り組む。　100％
青森県の成人病予防に積極的に取り組む。　100％
学外役員として学会の運営に積極的に参加する。　100％

これから２年間の目標：

救急医療 BLS, ACLS の普及に努める。
積極的な禁煙活動に取り組む。
青森県の成人病予防に積極的に取り組む。
学外役員として学会の運営に積極的に参加する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　2，講師　2，助教　7，助手　0，医員　9，大学院学生　12，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　8，助手　0，医員　4，大学院学生　14，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本内科学会	評議員	奥村　謙	東京	1日
	日本循環器学会	評議員		大阪	1日
	日本不整脈学会	理事		横浜	1日
	日本心電学会	理事		新潟	1日
	日本高血圧学会	評議員	長内　智宏		1日
	日本循環器学会	評議員			1日
	日本呼吸器学会	代議員	高梨　信吾		1日
	同	用語委員			1日
	同	倫理委員			2日
	日本結核病学会	評議員			1日
	同	用語委員			1日
	日本アレルギー協会	評議員			1日
	日本循環器学会　心肺蘇生法委員会	委員	花田　裕之		10日
09年度	日本内科学会	評議員	奥村　謙		1日
	日本循環器学会	評議員			1日
	日本不整脈学会	理事			1日
	日本心電学会	理事			1日
	日本不整脈学会企画委員	委員長			1日
	日本不整脈学会カテーテル・アブレーション委員会	委員長			1日
	日本高血圧学会	評議員	長内　智宏		1日
	日本循環器学会	評議員			1日
	日本循環器学会　心肺蘇生法委員会	委員	花田　裕之		10日

（2）学会などの開催

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	第24回日本心血管インターベンション学会東北地方会	会長	花田　裕之	弘前市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Heart and Vessels	編集委員	奥村　謙		1日
	Circulation Journal	編集委員			3日
	International Heart Journal	編集委員			1日
	American Heart Journal	査読			1日
	Autonojmic Neuroscience	査読			1日
	JACC	査読			1日
	日本心電図学会誌	査読			1日
	Hypertension Research	査読	長内　智宏		4日
	Tohoku J Exp Med	査読			1日
	日本呼吸器学会雑誌	査読	高梨　信吾		1日
	Allergy International	査読			1日
	Internal Medicine	査読	花田　裕之		2日
09年度	Heart and Vessels	編集委員	奥村　謙		1日
	Circulation Journal	編集委員			3日
	International Heart Journal	編集委員			1日
	American Heart Journal	査読			1日
	Autonomic Neuroscience	査読			1日
	JACC	査読			1日
	日本心電学会誌	査読			1日
	Hypertension Research	査読	長内　智宏		2日
	Clinical and Experimental Hypertension	査読			1日
	Yonsei Medical Journal	査読			1日
	Vascular Health and Risk Management	査読			1日
	Internal Medicine	査読	花田　裕之		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	県社会福祉審議会	委員	奥村　謙	青森	2日
	県総合検診センター基本健康診査等判定検討委員会	委員		青森	2日
	県総合検診センター肺がん検診読影委員会	委員		青森	2日
	県生活習慣病検診管理指導協議会	委員		青森	2日
	県総合検診センター	理事		青森	2日
	青森県成人検診管理指導協議会	委員	長内　智宏	青森	1日
	青森県社会保険診療報酬請求書審査委員会	委員		青森	60日
	地方じん肺審査会	委員	高梨　信吾	弘前	12日
	青森県肺癌検診読影委員	委員		青森	12日
	青森県結核サーベイランス委員会	委員		青森	1日
	スポーツ医学委員会	委員	花田　裕之	弘前医師会	3日
09年度	青森県社会福祉審議会	委員	奥村　謙	青森	2日
	青森県総合検診センター基本健康診査等判定検討委員会	委員		青森	2日
	青森県総合検診センター肺がん検診読影委員会	委員		青森	1日
	県生活習慣病検診管理指導協議会	委員		青森	2日
	青森県総合検診センター	理事		青森	2日
	青森県成人検診管理指導協議会	委員	長内　智宏	青森	1日
	青森県社会保険診療報酬請求書審査委員会	委員		青森	60日
	青森県総合検診センター基本健康診査等判定検討委員会	委員		青森	1日
	スポーツ医学委員会	委員	花田　裕之	弘前	3日
	青森県総合検診センター肺がん検診読影委員会	委員	林　彰仁	青森	2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	弘前大学　学校医	医　　師	奥村　　謙		1 日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	奥村　　謙		18日
	弘前脳卒中センター	研究指導医 非常勤医師	奥村　　謙 長内　智宏		22日 48日
	国保黒石病院	医　　師	高梨　信吾 樋熊　拓未 大和田真玄 阿部　直樹 及川　広一		49日 60日 47日 14日 5 日
	板柳町立中央病院	医　　師	花田　裕之		47日
	浪岡病院	医　　師	佐々木真吾		45日
	福士病院	医　　師	中村　典雄 佐々木真吾 樋熊　拓未 及川　広一 林　　彰仁 森本　武史 佐々木憲一 村上　礼一		10日 8 日 2 日 2 日 11日 2 日 2 日 1 日
	白生会病院	医　　師	及川　広一		35日
	藤崎病院	医　　師	佐々木真吾 樋熊　拓未 阿部　直樹 及川　広一 大和田真玄 佐々木憲一		2 日 4 日 6 日 2 日 12日 9 日
	大鰐病院	医　　師	阿部　直樹		47日
09年度	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	奥村　　謙		24日
	弘前脳卒中センター	研究指導医 非常勤医師	奥村　　謙 長内　智宏		24日 48日
	板柳町立中央病院	医　　師	花田　裕之		48日
	川上クリニック	医　　師	花田　裕之		24日
	EST クリニック	医　　師	中村　典雄		48日
	八戸市民病院	医　　師	中村　典雄		12日
	青森市立浪岡病院	医　　師	佐々木真吾		48日
	国保黒石病院	医　　師	樋熊　拓未 阿部　直樹 及川　広一 大和田真玄 櫛引　　基		62日 12日 3 日 48日 9 日
	大鰐病院	医　　師	阿部　直樹		48日
	白生会病院	医　　師	及川　広一 櫛引　　基		12日 36日
	弘前中央病院	医　　師	林　　彰仁 森本　武史		48日 48日
	弘前小野病院	医　　師	櫛引　　基		9 日
	青森県障害者相談センター	医　　師	花田　裕之 中村　典雄	書類審査 書類審査	48日 48日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	アップルマラソン　医療班	講　　師	花田　裕之		1日
09年度	アップルマラソン　医療班	医　　師	花田　裕之	弘前	1日
	救急医療研修（チーム医療研修）	講　　師	奥村　　謙 花田　裕之 樋熊　拓未		5日

13. 内分泌代謝内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

80％

これから２年間の目標：

青森県内における糖尿病診療連携ネットワークを構築する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　4，助教　5，助手　0，医員　16，大学院学生　5，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　3，助教　5，助手　0，医員　20，大学院学生　3，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本内科学会	理　　事	須田　俊宏		4日
	日本内分泌学会	理　　事			3日
	日本神経内分泌学会	理 事 長			3日
	日本間脳下垂体腫瘍学会	理　　事			1日
	日本糖尿病学会	学術評議員	松井　　淳		1日
	奥羽糖尿病担当者セミナー幹事会	事務局責任者			1日
	青森臨床糖尿病研究会幹事会	事務局責任者			1日
	日本消化吸収学会	評 議 員	丹藤　雄介		4日
		幹　　事			3日
	日本病態栄養学会	評 議 員			1日
	13 C 医学応用研究会	幹　　事			2日
	日本内分泌学会	評 議 員	蔭山　和則		3日
	日本神経内分泌学会	評 議 員			
	日本内分泌学会代議員	代 議 員	二川原　健		1日
	日本消化吸収学会学術総会	評 議 員	柳町　　幸		3日
09年度	日本内科学会	評 議 員	須田　俊宏		4日
	日本内分泌学会	理　　事			3日
	日本神経内分泌学会	理 事 長			3日
	日本間脳下垂体腫瘍学会	理　　事			1日
	日本内科学会地方会評議員	評 議 員	玉澤　直樹		2日
	日本糖尿病学会	学術評議員	松井　　淳		1日
	奥羽糖尿病担当者セミナー幹事会	事務局責任者			1日
	青森臨床糖尿病研究会幹事会	事務局責任者			1日
	日本膵臓病財団研究	助成金選考委員			1日
	日本病態栄養学会	評 議 員	丹藤　雄介		2日
	日本安定同位体・生体ガス応用学会	監　　事			1日
	日本膵臓学会	監　　事			2日
	日本内分泌学会	評 議 員	蔭山　和則		2日
	日本神経内分泌学会	評 議 員			1日
	日本内分泌学会	評 議 員	二川原　健		1日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第81回日本内分泌学会学術総会	会　　長	須田　俊宏		3日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Endocrinology	レフェリー	須田　俊宏		2日
	Endocrine J	編 集 委 員			2日
	J. Clinical Endocrinol. Metab.	レフェリー			2日
	Internal Medicine	査　　読			6日
	日本糖尿病学会雑誌	審 査 員	松井　　淳		4日

09年度	Endocrinology	レフェリー	須田　俊宏		2日
	Endocrine J	編集委員			2日
	J. Clinical Endocrinol. Metab.	レフェリー			2日
	Internal Medicine	査読			6日
	日本糖尿病学会誌	編集委員	松井　淳		6日
	Endocrine J	レフェリー	二川原　健		3日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏名	備考	日数
08年度	糖尿病週間講演会	世話人	須田　俊宏		1日
	むつ総合病院糖尿病教室	講師	丹藤　雄介		12日
09年度	糖尿病週間講演会	代表世話人	須田　俊宏		2日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件名	役職	氏名	備考	日数
08年度	青森県医療計画部会	委員	須田　俊宏		2日
	青森県糖尿病対策連絡会議	議長			2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件名	役職	氏名	備考	日数
08年度	糖尿病を専門としない医師を対象とした糖尿病医療研修会	講師	松井　淳		1日
	西北五病院薬剤師会第241回勉強会	講師			1日
	第243回上十三支部薬剤師研修会	講師			1日
	青森県糖尿病週間学術講演会	講師			1日
	第 7 回糖尿病腎症を考える会	講師			1日
	むつ総合病院研修医勉強会	講師			1日
	第 9 回内科・治療学セミナー学術講演会	講師			1日
	県北医学会・医師卒後研修講座	講師			1日
	むつ下北医師会学術講演会	講師			1日
09年度	千葉下垂体疾患研究会	教授	須田　俊宏	9月12日	1日
	沖縄内分泌代謝疾患研究会			11月2日	1日
	青森臨床内科医会			12月5日	1日
	下北医療研究会			1月31日	1日
	鷹巣医談会	准教授	玉澤　直樹	7月10日	1日
	むつ下北医師会学術講演会			8月28日	1日
	鷹揚郷弘前病院医学セミナー	講師	松井　淳	7月6日	1日
	上十三地区糖尿病セミナー			9月4日	1日
	横手・湯沢インスリンセミナー			10月9日	1日
	附属病院部署公開講座			10月29日	1日
	糖尿病に関する学術講演会			11月13日	1日
	函館病院薬剤師会			12月18日	1日
	糖尿病学術講演会 in 金木			1月22日	1日
	Common Disease Meeting			2月16日	1日
	栄養士会弘南黒地区研修会			2月20日	1日
	三八糖尿病勉強会			2月26日	1日
	青森県支部薬剤部会			3月6日	1日
	むつ市役所糖尿病講演会	講師	丹藤　雄介	11月	1日
	青森県 TNT 研修会講師			2月	1日
	慢性膵炎診断基準改訂公聴会			5月	1日
	西北五地区薬剤師学術講演会	助教	柳町　幸	12月15日	1日
	青森県臨床内科医学会			1月30日	1日
	北秋田市医師講演会	助教	照井　健	11月20日	1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	板柳中央病院	内　科　医	須田　俊宏		週1回
	板柳中央病院	内　科　医	玉澤　直樹		週1回
	北秋中央病院	非常勤医師	松井　　淳		週1日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			月2日
	鷹揚郷腎研究所青森病院	非常勤医師			月1日
	弘前記念病院	非常勤医師			週1回
	白生会胃腸病院	非常勤医師	丹藤　雄介		38日
	むつ総合病院	非常勤医師			35日
	七戸公立病院	非常勤医師	蔭山　和則		週1回
	野辺地病院	非常勤医師	二川原　健		週1回
	渡辺病院	非常勤医師			週1回
	むつ病院	非常勤医師			月1回
	鰺ヶ沢中央病院	非常勤医師	柳町　　幸		週1回
	白生会胃腸病院	非常勤医師			週1回
	むつ総合病院	非常勤医師			月1回
	大館市立病院	非常勤医師	崎原　　哲		週1回
	むつ総合病院	非常勤医師			月1回
	つがる成人病センター	非常勤医師	村上　　宏		25日
	むつ総合病院	非常勤医師			7 日
	七戸公立病院	非常勤医師			7 日
09年度	板柳中央病院	非常勤医師	須田　俊宏	通年	週1回
	板柳中央病院	非常勤医師	玉澤　直樹	通年	週1回
	板柳中央病院	非常勤医師	松井　　淳	通年	週1日
	鷹揚郷弘前病院	非常勤医師		通年	月2日
	鷹揚郷青森病院	非常勤医師		通年	月1日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	丹藤　雄介	通年	週1回
	むつ総合病院	非常勤医師		通年	月1日
	弘前記念病院	非常勤医師		通年	月1日
	北秋中央病院	非常勤医師	蔭山　和則	通年	週1回
	青森渡辺病院	非常勤医師		通年	月2回
	大館市立病院	非常勤医師	二川原　健	半年	週1回
	むつ総合病院	非常勤医師		半年	月1回
	青森渡辺病院	非常勤医師		半年	月1回
	弘前小野病院	非常勤医師		半年	月2回
	野辺地病院	非常勤医師		半年	週1回
	大館市立病院	非常勤医師	崎原　　哲	通年	週1回
	むつ病院	非常勤医師		通年	月1回
	黒石病院	非常勤医師		通年	月1日
	つがる成人病センター	非常勤医師	村上　　宏	通年	週1回
	むつ総合病院	非常勤医師		通年	月1回
	七戸公立病院	非常勤医師		半年	月1回
	つがる成人病センター	非常勤医師		半年	月1回
	白生会胃腸病院	非常勤医師	柳町　　幸	通年	週1回
	弘前記念病院	非常勤医師		通年	月2回
	弘前記念病院	非常勤医師		半年	月3回
	北秋中央病院	非常勤医師	照井　　健	通年	週1回
	むつ総合病院	非常勤医師		通年	月1回
	黒石病院	非常勤医師		通年	月1回
	青森渡辺病院	非常勤医師		半年	月1回

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	青森県小児糖尿病サマーキャンプ　スタッフ	講　　師	丹藤　雄介		1日

14. 腫瘍内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

・地域医療の支援を行う

（非常勤医師として，地域の病院で診療支援を行った。また，地域からのがん患者の受け入れを積極的に行った。）

・講演会等を通じて市民にがんに対する意識の向上を図る

（病院主宰の講演会や地域の講演会に積極的に参加した。）

これから２年間の目標：

・地域医療の支援を行う。

・講演会等を通じて市民にがんに対する意識の向上を図る。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　3，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	1. 日本肺癌学会　学術委員会	委　員	西條　康夫		2日
	2. 日本肺癌学会　化学療法委員会	委　員			1日
	3. 日本臨床腫瘍学会　選挙委員会	委　員			2日
	4. 日本臨床腫瘍学会　専門部会	委　員			2日
	5. 日本呼吸器学会　ガイドライン	委　員			3日
09年度	日本呼吸器学会ガイドライン管理委員会	副委長	西條　康夫		2日
	日本臨床腫瘍学会選挙管理委員会	委　員			2日
	日本肺癌学会教育委員会	委　員			2日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	1. Stem cells 2. Cancer Science 3. Intern Med 4. 呼吸器学会雑誌 5. 肺癌	査　読	西條　康夫		
09年度	Stem Cell Dev Cancer Science Int J Clin Oncol Int Med 呼吸器学会誌	査　読	西條　康夫		
	Int Med	査　読	伊東　重豪		

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県地域連携パス委員会	委　員	西條　康夫		3日
09年度	青森県がん治療連携協議会	委　員	西條　康夫		3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	公立野辺地病院	教　　授	西條　康夫	非常勤医師	
	公立七戸病院	講　　師	伊東　重豪		
	大館市立総合病院	助　　教	高畑　武功		
09年度	野辺地病院	教　　授	西條　康夫		40日
	公立七戸病院	講　　師	伊東　重豪		40日
	青森市立浪岡病院	助　　教	高畑　武功		40日
	野辺地病院	助　　教	櫻庭　裕丈		40日
	青森市民病院	助　　教	石黒　　敦		30日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	FM アップルウェーブ 「弘大病院からこんにちは」出演	助　　教	石黒　　敦		1日

15. 神経精神医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

設定した目標は達成した。

これから２年間の目標：

- 地域，社会の要望に対応する姿勢を維持。
- 学会を育成し，学問・医療の面で貢献するだけでなく，社会からの要請に対応できる組織体とする。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　3，助教　4，助手　1，医員　2，大学院学生　4，研究生　5
09年度		教授　1，准教授　1，講師　1，助教　4，助手　1，医員　2，大学院学生　3，研究生　5

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本精神神経学会	評　議　員	兼子　　直	東京	1日
	日本てんかん学会	理　　事		東京・大阪	5日
	日本精神神経薬理学会	評　議　員		東京	1日
	日本臨床神経精神薬理学会	理　事　長		東京	4日
	日本行動遺伝学会理事	理　　事		東京	1日
	日本総合病院精神医学会	理　　事		東京	1日
	日本小児神経学会	評　議　員		東京	1日
	日本アルコール医学会	評　議　員		東京	1日
	日本精神科診断学会	理　　事		札幌	1日
	日本統合失調症学会	理　　事		大阪	1日
	日本臨床精神神経薬理学会	事務局長	古郡　規雄	東京	3日
	日本臨床精神神経薬理学会専門医制度委員会	委　　員		東京	2日
	日本臨床精神神経薬理学会新規抗うつ薬検討ワーキンググループ	委　　員		東京	2日
	日本統合失調症学会	評　議　員		大阪	2日
	日本精神科診断学会	評　議　員		札幌	2日
	日本臨床薬理学会	評　議　員		東京	2日
	アジア・環太平洋薬理遺伝学会	評　議　員		プサン	2日
09年度	日本精神神経学会	評　議　員	兼子　　直	東京	1日
	日本てんかん学会	理　事　長		東京・大阪	5日
	日本精神神経薬理学会	評　議　員		東京	1日
	日本臨床神経精神薬理学会	理　事　長		京都	4日
	日本行動遺伝学会理事	理　　事		東京	1日
	日本総合病院精神医学会	理　　事		東京	1日
	日本小児神経学会	評　議　員		東京	1日
	日本アルコール医学会	評　議　員		東京	1日
	日本精神科診断学会	理　　事		札幌	1日
	日本統合失調症学会	理　　事		大阪	1日
	日本臨床精神神経薬理学会	事務局長	古郡　規雄	京都	4日
	日本臨床精神神経薬理学会専門医制度委員会	委　　員		京都	2日
	日本統合失調症学会	評　議　員		福岡	2日
	日本精神科診断学会	評　議　員		東京	2日
	日本臨床薬理学会	評　議　員		東京	2日
	日本臨床精神神経薬理学会海外研修医選考委員会	委　　員		東京	1日
	日本精神保健予防学会	評　議　員		東京	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第49回～53回精神科治療研究会	会　　長	兼子　　直	青森市	各1

09年度	・第42回日本てんかん学会 ・The 43rd Congress of the Japan Epilepsy Society Pre Congress: Internationa Symposium "Pharmacogenomics in Epilepsy". Hirosaki, JAPAN. Oct.24 2009.	会　長 〃	兼子　直	弘前市 〃	2日 1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	Tohoku Journal of Experimental Medicine	編集委員	兼子　直		3日
	Psychiatry & Clinical Neurosciences	Advisary editor			3日
	精神医学	編集同人			
	臨床精神医学	編集顧問			1日
	最新精神医学	編集同人			
	分子精神医学	編集同人			2日
	脳21	編集協力者			3日
	臨床精神薬理	編集協力者			1日
	Epilepsia	査　読			2日
	Epilepsy Res	査　読			3日
	Reproductive Toxicology	査　読			1日
	Lancet	査　読			1日
	Lancet Neurology	査　読			2日
	Pharmacogenomics	査　読			1日
	Neuroscience Res	査　読			2日
	Neuroscience & Clinical Psychiatry	査読員	古郡　規雄		12日
	Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry				9日
	Journal of Chromatography B				3日
	The Journal of Physiological Sciences	査　読	松岡　貴志		42日
09年度	Tohoku Journal of Experimental Medicine	編集委員	兼子　直		1日
	Psychiatry & Clinical	Advisary			3日
	Neurosciences	editor			1日
	Epileptology	editor			1日
	Epilepsy &Seizure	editor			1日
	精神医学	編集同人			1日
	臨床精神医学	編集顧問			1日
	最新精神医学	編集同人			1日
	分子精神医学	編集同人			2日
	脳21	編集協力者			3日
	臨床精神薬理	編集協力者			1日
	Epilepsia	査　読			2日
	Epilepsy Res	査　読			3日
	Reproductive Toxicology	査　読			1日
	Lancet	査　読			1日
	Lancet Neurology	査　読			2日
	Pharmacogenomics	査　読			1日
	Neuroscience Res	査　読			2日
	Neuroscience & Clinical Psychiatry	査読員	古郡　規雄		12日
	Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry				9日
	Journal of Chromatography B	査読員			3日
	Current Pharmacetical Analysis	編集委員			4日
	Clinical Neuropsychopharmacology & Th Therapeutics	編集委員			2日
	The Journal of Physiological Sciences	査　読	松岡　貴志		42日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	東北電力㈱	産業医	兼子　直	メンタルヘルス（青森市）	12日
	㈶先進医薬研究振興財団	選考委員		（大阪市）	1日
	㈶てんかん治療研究振興財団	評議員		（豊中市）	1日

	㈶てんかん治療研究振興財団	審査委員		（東京都）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	治験調整委員		医薬品臨床研究（弘前市，東京都）	1日
	エーザイ㈱	忍容性・安全性評価委員		治験薬 E2007 の治験（東京都）	1日
	日本イーライリリー㈱	総合座長		Web 会議 Bery Jam（弘前市）	3日
	協和発酵工業㈱	医学専門家		医薬品臨床研究（東京近郊）	1日
	ヤンセンファーマ㈱	アドバイザー		開発品の海外データに関するインタビュー（青森市）	1日
	ファイザー㈱	座長		座談会「新規てんかん薬“ガバペン”」（盛岡市）	1日
	吉富薬品㈱	技術指導		第5回東北精神研究会（弘前市）	1日
	福岡大学医学部	講師		「第3回日本てんかん学会九州地方会」「第3回福岡大学てんかん分子病態研究センターセミナー」（福岡市）	1日
	聖路加国際病院女性総合診療部・遺伝診療部	講師		第48回日本先天異常学会学術集会講師（東京都）	1日
	大日本住友製薬㈱	座長		ロナセン発売記念講演会（青森市）	1日
	ファイザー㈱	講師		埼玉県てんかんファーラム（大宮市）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	講師		社内勉強会（東京都）	1日
08年度	ファイザー㈱	文献紹介 資材監修	兼子　直	（東京都）	1日
	大塚製薬㈱	座長		Dopamine System Stabilized Symposium in AOMORI（青森市）	1日
	協和発酵工業㈱	座長		トピナ錠発売1周年記念講演会「新規抗てんかん薬時代のてんかん治療」（東京都）	1日
	青森県精神神経科診療所協会	講師		第7回東北精神科診療所医の会（八戸市）	1日
	倉敷神経内科疾患フォーラム	講師		第6回倉敷神経内科ファーラム（八戸市）	1日
	ファイザー㈱	座長		第42回日本てんかん学会総会ランチョンセミナー（東京都）	1日
	秋田県てんかん研究会	講師		第27回秋田県てんかん研究会（秋田市）	1日
	弘前大学精神科治療研究会	総合司会		第6回弘前市民公開講座・こころの健康教室（弘前市）	1日
	弘前地区精神科医会	座長		第51回精神科治療研究会（弘前市）	1日
	協和発酵キリン㈱	講師		トピナ錠発売1周年記念講演会「てんかんの個別化治療開発への展望」（大阪市）	1日
	佐々木文子	講師		仁慈会多目的ホール竣工，故佐々木仁胸像除幕式記念講演会「うつ病の対応方法について」（大館市）	1日

08年度	神奈川けいれん治療研究会	講　　師	兼子　　直	第8回神奈川けいれん治療研究会「成人におけるてんかんの薬物療法」（横浜市）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	講　　師		記者発表会てんかん治療の最前線「てんかんい火難する新たな知見について」（東京都）	1日
	第232回青森精神科医会	講　　師		第232回青森精神医会「新規抗てんかん薬の特徴－よりよい使い方の提案－」（青森市）	1日
	青森県精神保健福祉センター，黒石市	座　　長		平成20年度黒石市自殺対策を考えるフォーラム（黒石市）	1日
	グラクソ・スムミクライン㈱	講　　師		セミクタール発売記念講演会 in 金沢「てんかん治療におけるラモトリギンの意義と使い方」（金沢市）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	講　　師		第2回京都神経内科学アカデミー「てんかんの基礎と臨床－」（京都市）	1日
	日本イーライリリー㈱	座　　長		愛8回ジプレキサ学術講演会パネルディスカッション（神戸市）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	講　　師		セミクタール発売記念講演会 in 富山「てんかん治療におけるラモトリギンの意義と使い方」（富山市）	1日
	大日本住友製薬㈱	指　　導		てんかんに関するヒアリング（大阪市）	1日
	日本イーライリリー㈱	座　　長		第53回精神科治療研究会，第32回弘前地区精神科医会（弘前市）	1日
	八戸精神科医会	講　　師	栗林　理人	思春期の精神疾患（八戸市）	1日
	つがる市立稲垣西小学校	講　　師		問題行動のある児童の見立てと支援の仕方（つがる市）	1日
	吉富薬品㈱	技術指導		第5回北東北精神科研究会（弘前市）	1日
	青森県立六ヶ所高等学校	講　　師		青森県立六ヶ所高等学校職員を対象とした「心の悩みを抱える生徒への対応についての研修会」（六ヶ所村）	1日
	青森県総合社会教育センター	講　　師		特別な支援は全ての子供の支援－発達障害のある子どもの理解と対応－（八戸市）	1日
	全国自治体病院協議会青森県支部精神科部会	講　　師		子どもの診療と親のこころ（青森市）	1日
	青森県黒石高等学校	講　　師		自傷行動の理解と対応（黒石市）	1日

08年度	青森県教育委員会	講　師	栗林　理人	平成20年度青森県子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業（黒石，平川，つがる市）	3日
	大日本住友製薬㈱	講　師		ロナセン発売記念講演会	1日
	青森県立精神保健福祉センター	講　師		児童・思春期の自傷行為への対応	1日
	弘前大学生涯学習教育研究センター	講　師		弘前大学公開講座（青森市）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	講　師		八戸市民公開講座・心の健康教室「うつを理解して心の健康をとりもどそう！」（八戸市）	1日
	ヤンセン・ファーマ㈱	講　師		弘前地区 AD/HD 懇話会（弘前市）	1日
	吉富薬品㈱	講　師	古郡　規雄	第25回北東北精神科研究会特別講演「難治うつ病の治療について」（弘前市）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	座　長		平成20年青森精神科薬物治療懇話会	2日
	ファイザー㈱	講　師		プライマリーケアのためのうつ病の診断と治療（青森市）	1日
	アステラス㈱	講　師		P 糖蛋白と薬物の関係について（弘前市）	1日
	大塚製薬㈱	講　師		社外講師招聘勉強会「統合失調症について」（弘前市）	1日
	ファイザー㈱	講　師		座談会「働く人のうつ薬治療」（ミュンヘン，ドイツ）	1日
	アステラス㈱	講　師		リスクマネジメント講演会「せん妄の予防と治療について」（弘前市）	1日
	大日本住友製薬㈱	講　師		八戸精神科医会「統合失調症における個別化医療の実践い向けて」（八戸市）	1日
	吉富薬品㈱	講　師		第14回精神科医療に関わる薬剤師のための勉強会「せん妄について」（青森市）	1日
	吉富薬品㈱	講　師		第8回精神疾患と認知機能研究会（東京都）	1日
	薬物治療モニタリング研究会	講　師		薬理・薬物動態からみた抗てんかん薬の最近の知見（東京都）	1日
	大塚製薬㈱	講　師		大塚製薬株社内勉強会「うつ病について」（弘前市）	1日
	弘前市	講　師		健康講演会「正しく知ろう！認知症 - 今日からできる予防と対応 -」（弘前市）	1日
	吉富薬品㈱	講　師		精神科領域小委員会研究会「妊娠に対する向精神薬治療について」（東京都）	1日

08年度	ファイザー㈱	講　　師		ファイザー㈱社内勉強会「うつ病について」（東京都）	1日
	大塚施薬㈱	評価尺度の検討，アドバイザー		AMAZE Investigators Meeting（福岡市）	1日
	日本イーライリリー㈱	ファシリテーター		Web 会議 Berry Jam（弘前市）	3日
	吉富薬品㈱	技術指導	菊池　淳宏	第5回北東北精神科研究会（弘前市）	1日
	弘前大学医学部附属病院	講　　師		緩和ケア研究会（弘前市）	1日
	吉富薬品㈱	演　　者	小田桐　元	第5回北東北精神科研究会において症例報告（弘前市）	1日
09年度	東北電力㈱	産業医	兼子　直	メンタルヘルス（青森市，他）	12日
	㈶先進医薬研究振興財団	選考委員		（大阪市）	1日
	㈶てんかん治療研究振興財団	評議員		（豊中市）	1日
	㈶てんかん治療研究振興財団	審査委員		（東京都）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱	治験調整委員		医薬品臨床研究（弘前市，東京都）	1日
	エーザイ㈱	忍容性・安全性評価委員		治験薬 E2007 の治験（東京都）	1日
	グラクソ・スミスクライン㈱社内勉強会	講　　師		新規抗てんかん薬の単剤療法について（東京都）	1日
	北五医師会第450回記念集団会	講　　師		うつ病の見分け方と治療法（五所川原市）	1日
	東北てんかん学術講演会	講　　師		成人てんかんの治療（盛岡市）	1日
	ヤンセンファーマ㈱学術講演会	座　　長		（青森市）	1日
	福島県精神神経科診療所協会勉強会	講　　師		てんかん治療におけるラモトリギンの意義と使い方（郡山市）	1日
	Asia Regional Neuroscience　Conference	座　　長		（東京都）	1日
	第54回精神科治療研究会	座　　長		（弘前市）	1日
	第51回日本小児科学会総会ランチョンセミナー	講　　師		妊娠可能年齢の女性に対する抗てんかん薬の使い方（米子市）	1日
	第50回青森県精神保健福祉大会	講　　師		精神科医療の現状と展望（青森市）	1日
	第34回鹿児島てんかん研究会	講　　師		新規抗てんかん薬の特徴－よりよい使い方の提案－（鹿児島市）	1日
	第1回信州てんかん治療フォーラム	講　　師		てんかん治療におけるラモトリギンの意義と使い方（松本市）	1日
	ラミクタール発売記念講演会	講　　師		成人領域におけるラモトリギンの使用経験：ラモトリギンをどう使うか（草津市）	1日
	日本精神病理・精神療法学会第32回ランチョンセミナー 3	講　　師		（盛岡市）	1日
	㈱星和書店：座談会	助言者		本邦における抗てんかん薬：最近の真のと今後の展望－作用機序の観点から（東京都）	1日
	ラミクタール錠発売記念講演会 in 群馬	講　　師		てんかん治療におけるラモトリギの意義と使い方（前橋市）	1日

	てんかんフォーラム　2009	講　　師		新しい抗てんかん薬を用いたてんかんの薬物療法（米子市）	1日
	㈳日本脳神経外科学会第68回学術ランチョンセミナー18	講　　師		新規抗てんかん薬の使い方（東京都）	1日
	新規抗うつ薬リフレックス発売記念講演会	座　　長		（弘前市）	1日
	認知症患者のADL向上を目指して『高齢者精神疾患における漢方製剤の処方と注意点』	座　　長		（弘前市）	1日
	Web会議『Berry Jam』	総合司会		（弘前市）	2日
	第39回日本臨床神経生理学会学術大会ランチョンセミナー9	講　　師		てんかんの分子病態と新たな治療（北九州市）	1日
	うつ病治療に関するアドバイザリー会議	講　　師		（弘前市）	1日
	第21回北九州てんかん懇話会	講　　師		トピラマートの臨床特性（北九州市）	1日
	精神科治療研究会	座　　長	兼子　　直	（青森市）	1日
	ラミクタール®錠発売1周年記念講演会	座　　長		（東京都）	1日
	第4回日本てんかん学会中国・四国地方会ランチョンセミナー	講　　師		妊娠可能年齢のてんかん患者（女性）に対する抗てんかん薬の使い方について最新の医学的知見（山口県吉敷郡）	1日
	ラミクタール錠発売1周年記念講演会	講　　師		新しい抗てんかん薬を用いたてんかんの薬物療法（函館市）	1日
	てんかん治療Expert Meeting	講　　師		新しい抗てんかん薬を用いたてんかんの薬物療法（つくば市）	1日
	第5回日本統合失調症学会ランチョンセミナー	座　　長		（福岡市）	1日
09年度	ジプレキサ学術講演会	講　　師		（青森市）	1日
	学術講演会	講　　師		（青森市）	1日
	第234回青森精神科医会	講　　師		妊娠中における精神科薬物療法を考える（青森市）	1日
	第54回精神科治療研究会	総合司会		（弘前市）	1日
	シェリング・プラウ㈱社内学術講座	講　　師		（弘前市）	1日
	第15回精神科医療に関わる薬剤師のための勉強会	講　　師		妊娠中における精神科薬物療法を考える（青森市）	1日
	兵庫県うつ病フォーラム2009	講　　師		（神戸市）	1日
	新規抗うつ薬リフレックス発売記念講演会	講　　師		（仙台市）	1日
	日本精神病理・精神療法学会第32回大会ランチョンセミナー	講　　師		難治性うつ病の治療ストラテジー（盛岡市）	1日
	レメロン発売記念講演会	講　　師	古郡　規雄	抗うつ薬を用いたうつ病治療を考える（盛岡市）	1日
	日本精神神経学会東北地区部会平成21年度第2回生涯教育研究会	講　　師		抗精神病薬の副作用を考える（福島市）	1日
	五所川原精神医会	講　　師		妊娠中における薬物療法を考える（五所川原市）	1日
	県南D&A研究会（Depression & Anxiety Disorders）	講　　師		双極Ⅱ型障害の診断と治療について考える（一関市）	1日
	第42回日本薬剤師会学術大会ランチョンセミナー19	講　　師		（大津市）	1日
	弘前不眠症診療座談会	発　言　者		夜間せん妄に夜間不眠について（弘前市）	1日
	第43回日本てんかん学会ランチョンセミナー	講　　師		（弘前市）	1日
	スピーカーミーティング	講　　師		（弘前市）	1日
	認知症患者のADL向上を目指して－抑肝散の使用経験－	座　　長		（弘前市）	1日

	Psychiatry Academia ExpertSeminar 2009－精神科領域の最先端 Topics と論文投稿の最新動向	座長		（京都市）	1日
	うつ病治療に関するアドバイザリー会議	講師		（弘前市）	1日
	学術講演会	講師		メンタルヘルスと睡眠－不眠がもたらす影響について（青森市）	1日
	第14回北九州臨床精神薬理研究会	講師		（北九州市）	1日
	精神科治療研究会	総合司会		（青森市）	1日
	八戸精神科医会	講師		妊娠中の精神科薬物療法を考える（八戸市）	1日
	学術月刊誌「臨床精神医学」座談会	司会		アリピプラゾールへのスイッチング症例の考察－特にリスペリドンからのスイッチングについて（旭川市）	1日
	第4回弘前睡眠呼吸障害研究会	講師		（弘前市）	1日
	第6回統合失調症研究会	講師		抗精神病薬服用中の統合失調症圏患者における性機能障害の実態調査－抗精神病薬による高プロラクチン血症関連副作用の実態調査と脆弱性因子の解明－（東京都）	1日
	『Pharma Medical』2010年4月号掲載座談会	発言者		（東京都）	1日
	うつ病講演会	座長		（弘前市）	1日
	健康講演会	講師		こころを元気にする！ストレス解消法（弘前市）	1日
09年度	大塚製薬㈱社外講師招聘勉強会	講師		（弘前市）	1日
	首都圏 ECT ネットワーク第3回研究会	講師	菊池　淳宏	せん妄の予測（東京都）	1日
	協和発酵キリン㈱社内勉強会	講師	松岡　貴志	（弘前市）	1日
	第6回北東北精神科研究会レクチャーシリーズ	座長及び技術指導		（秋田市）	1日
	DSS Symposium in AOMORI	講師		（青森市）	1日
	弘前市民生委員児童委員協議会児童福祉部会研究会	講師		（弘前市）	1日
	平成21年度中南地区市町村児童家庭相談担当者及び施設職員等研修会	講師		発達障害の概念と児童期の問題と対応（弘前市）	1日
	青森精神科薬物治療研究会	講師		ブロナンセリンへの変更により陽性症状および性機能が改善した統合失調症の1例（弘前市）	1日
	チャイルドラインボランティア養成講座	講師	斉藤まなぶ	子どもの心の病気（弘前市）	1日
	平成21年度中南地区市町村児童家庭相談担当者及び施設職員等研修会	講師		思春期の問題と対応（弘前市）	1日
	第16回精神科医療に関わる薬剤師のための勉強会	講師		弘前地区の児童思春期診療の現状について（青森市）	1日
	平成21年度青森県子どもの健康を守る地域専門家相互連携事業に係る専門医等派遣事業	講師		黒石市	1日
		講師		こころのバリアフリー宣言とは？（青森県藤崎町）	1日
	平成21年度中南地区市町村児童家庭相談担当者及び施設職員等研修会	講師		児童の精神疾患と現状	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	独立行政法人大学評価・学位授与機構	専評価委員	兼子　　直	東京都	5 日
	青森県公安委員会	指　定　医		青森市	1 日
	弘前市心身障害児就学指導委員会	専　門　員		弘前市	4 日
	青森県精神保健福祉審議会	会　　長		青森市	4 日
	青森県自殺対策連絡協議会	議　　長		青森市	2 日
	青森県警察本部交通部	専門医師		青森市	1 日
	青森県教育委員会（学校職員精神性疾患休職等審査会）	委　　員	栗林　理人	青森市	24日
	青森県児童相談所	嘱　託　医		弘前市	12日
	津軽地域精神科救急医療システム連絡調整委員会	委　　員		弘前市	1 日
	青森県障害者相談センター	嘱　託　医		弘前市	12日
	青森県情緒障害児短期治療施設検討委員会	委　　員		青森市	1 日
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医		弘前市	5 日
	弘前市教育委員会（弘前市学校保健指導）	相　談　員		弘前市	3 日
	社会保険診療報酬請求書審査委員会	審　査　員	古郡　規雄	青森市	40日
	学術振興会科学研究費審査会	審　査　員			7 日
	青森県精神医療審査会	委　　員		青森市	10日
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医		弘前市	5 日
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医	菊池　淳宏	弘前市	5 日
	津軽広域連合介護認定審査会	審査委員	松岡　貴志	弘前市	15日
	弘前市医師会付属看護学校	非常勤講師		弘前市	7 日
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医		弘前市	5 日
	独立行政法人国立病院機構　弘前病院附属看護学校	非常勤講師	藤井　　学	弘前市	15日
	津軽広域連合介護認定審査会	審査委員		弘前市	18日
09年度	独立行政法人大学評価・学位授与機構	専評価委員	兼子　　直	東京都	5 日
	青森県公安委員会	指　定　医		青森市	1 日
	弘前市心身障害児就学指導委員会	専　門　員		弘前市	4 日
	青森県精神保健福祉審議会	会　　長		青森市	4 日
	青森県自殺対策連絡協議会	議　　長		青森市	2 日
	青森県警察本部交通部	専門医師		青森市	1 日
	青森県社会保険診療報酬請求書審査委員会	審　査　員	古郡　規雄	青森市	40日
					7 日
	学術振興会科学研究費審査会	審　査　員		青森市	10日
	青森県精神医療審査会	委　　員		弘前市	5 日
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医		青森市	24日
	青森県教育委員会（学校職員精神性疾患休職等審査会）	委　　員		八戸市他	3 日
	青森県精神科病院実地審査会	措置入院者等病状実地審査医師		青森市	3 日
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医	菊池　淳宏	弘前市	5 日
	津軽広域連合介護認定審査会	審査委員	松岡　貴志	弘前市	15日
	弘前市医師会付属看護学校	非常勤講師		弘前市	7 日
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医 嘱　託　医		弘前市	5 日
	弘前市就学指導委員会	専　門　員	斉藤まなぶ	弘前市	
	青森県中南地域県民局（弘前保健所）	精神保健指定医			
	青森県地域県民局地域健康福祉部こども相談室	嘱　託　医			
	津軽広域連合障害区分判定審査会	委　　員			
	青森県立弘前高等学校	学　校　医			
	青森県地域県民局地域健康福祉部こども相談室	嘱　託　医	菅原　知子		
	独立行政法人国立病院機構　弘前病院附属看護学校	非常勤講師	藤井　　学	弘前市	15日
	津軽広域連合介護認定審査会	審査委員		弘前市	18日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	良性家族性新生児けいれん関連遺伝子変異と良性家族性新生児けいれん診断法（開発者・権利者名：兼子，廣瀬伸一，宮島佑，岡野創造，特願2003-369584号，2003年10月29日出願，出願中） 乳児重症ミオクロニーてんかん関連遺伝子変異と乳児重症ミオクロニーてんかん診断方法（発明者名：兼子直，廣瀬伸一，福間五龍，山川和弘，小国弘量，白坂幸義，祖父江文子，宮島佑，松尾宗明，安元佐和，吉良龍太郎．権利者名：JST（81%），理研（19%）．特願2003-132280号．2003年5月9日．出願中） てんかんモデル動物作出（CHRNA4:S284L）（廣瀬伸一，兼子直，岡田元宏：2004年3月5日	教　　授	兼子　　直		

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	パブリックヘルスリサーチセンター　財団神経伝達物質研究会	選考委員	兼子　　直		1日
09年度	パブリックヘルスリサーチセンター　財団神経伝達物質研究会	選考委員	兼子　　直		1日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	秋田大学医学部大学院 三重大学大学院医学系研究科	非常勤講師 非常勤講師	兼子　　直		1日 2日
09年度	秋田大学医学部大学院 三重大学大学院医学系研究科	非常勤講師 非常勤講師	兼子　　直		1日 2日
	青森大学薬学部薬学科	非常勤講師	古郡　規雄		

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県精神科薬剤師会勉強会 八戸精神科医会 デパケンのより良い使い方を求めて Lilly Web 講演会 五所川原精神科医会 GSK 社内勉強会 青森精神医会	講　　師 講　　師 講　　師 講　　師 講　　師 講　　師 講　　師	古郡　規雄		1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日
	弘前市医師会付属看護学校	非常勤講師	松岡　貴志		7日
	独立行政法人国立病院機構　弘前病院附属看護学校	非常勤講師	藤井　　学		15日
09年度	弘前市医師会付属看護学校	非常勤講師	松岡　貴志		7日
	独立行政法人国立病院機構　弘前病院附属看護学校	非常勤講師	藤井　　学		15日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学保健管理センター 弘前大学教育学部附属特別支援学校	学　校　医 学　校　医	栗林　理人		12日 12日
09年度	弘前大学保健管理センター 弘前大学教育学部附属特別支援学校	学　校　医 学　校　医	菊池　淳宏		12日 12日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	国保黒石病院	非常勤医師	兼子　　直	黒石市	48日
	青森県立つくしが丘病院	非常勤医師	栗林　理人	青森市	48日
	医療法人社団聖康会　桜田病院	非常勤医師		弘前市	96日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師	古郡　規雄	むつ市	24日
	医療法人社団来蘇圓会　黒石あけぼの病院	非常勤医師		黒石市	24日
	㈶鷹揚郷　腎研究所弘前病院	非常勤医師	菊池　淳宏	弘前市	24日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師			24日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師	松岡　貴志	むつ市	12日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	48日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師		弘前市	5日
	大館市立総合病院	非常勤医師		大館市	2日
	社団法人　青い森病院	非常勤医師		青森市	8日
	社団法人　青い森病院	非常勤医師	藤井　　学	弘前市	24日
	大館市立総合病院	非常勤医師		大館市	5日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師		弘前市	24日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師		むつ市	12日
	大館市立総合病院	非常勤医師	楠木　将人	大館市	5日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師		弘前市	24日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師		むつ市	24日
	大館市立総合病院	非常勤医師	小田桐　元	大館市	5日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師		弘前市	24日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師		むつ市	24日
09年度	国保黒石病院	非常勤医師	兼子　　直	黒石市	48日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師	古郡　規雄	むつ市	24日
	むつ総合病院				
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	4日
	㈶鷹揚郷　腎研究所弘前病院	非常勤医師	菊池　淳宏	弘前市	24日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師			24日
	社団法人慈恵会　青い森病院	非常勤医師		青森市	5日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	4日
	一部事務組合下北医療センターむつ総合病院	非常勤医師		むつ市	4日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師	松岡　貴志	むつ市	12日
	むつ総合病院				
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	48日
	社団法人　青い森病院	非常勤医師		青森市	5日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師	斉藤まなぶ	むつ市	4日
	むつ総合病院				
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	4日
	社団法人慈恵会　青い森病院	非常勤医師		青森市	10日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師		弘前市	48日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師	菅原　知子	五所川原市	4日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師		弘前市	48日
	社団法人慈恵会　青い森病院	非常勤医師	藤井　　学	弘前市	4日
	大館市立総合病院	非常勤医師		大館市	5日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師		弘前市	24日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師		むつ市	12日
	むつ総合病院				
	市立函館病院	非常勤医師		函館市	2日
	㈶愛成会　弘前愛成会病院	非常勤医師	小田桐　元	弘前市	24日
	一部事務組合下北医療センター	非常勤医師		むつ市	8日
	むつ総合病院				
	社団法人慈恵会　青い森病院	非常勤医師		青森市	10日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	4日
	医療社団法人聖康会　桜田病院	非常勤医師		弘前市	36日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	・「心の支援隊」出発－40市町村へメッセージー（東奥日報;2008年（平成20年）9月11日（木））	教　　授	兼子　　直	青森市	1日
	・「てんかんラット」開発－弘大・兼子教授らが世界発．治療法研究など応用期待－（陸奥新報;2008年（平成20年）10月10日（金））			弘前市	1日
	・弘前大学院世界初開発．てんかん持つ「ラット」－新薬やメカニズム解明へ－（毎日新聞；2008年（平成20年）10月10日（金））			弘前市	1日
	・てんかん発作ラット作製－弘前大など．治療法解明に道－（讀賣新聞；2008年（平成20年）10月10日（金））			弘前市	1日
	・「人間と同じ遺伝子変異，てんかん発作－世界初モデル動物開発.弘大･兼子教授ら研究グループ．根治治療確立に期待」（東奥日報;2008年（平成20年）10月10日（金））			弘前市	1日
	・「「てんかんネズミ」できた－遺伝子操作で人に似た症状（弘前大）.発病防ぐ治療薬開発に期待」（朝日；2008年（平成20年）10月16日（木））			弘前市	1日
	・これだけは知っておきたい㊺「適応障害とうつ病「寒暖計」でチェックを」（朝日新聞；2009年（平成21年）1月30日（金））	助　　教	菊池　淳宏	弘前市	1日
	・これだけは知っておきたい㊻「適せん妄－家族の協力，症状改善も」（朝日新聞；2009年（平成21年）2月6日（金））			弘前市	1日
09年度	・慶応賞推薦委員会	教　　授	兼子　　直	東京都	2日
	・自殺防止へ地域一丸－青森で精神保健福祉大会－（東奥日報;2009年（平成21年）6月21日（日））			弘前市	1日
	・遺伝子診断チップ開発；弘大など研究グループ発表－数年内の実用化目指す．（東奥日報；2009年（平成21年）10月23日（金））			弘前市	1日
	・最適な薬　迅速に処方 遺伝子診断用DNAチップ－弘大の研究者ら開発－（陸奥新報（平成21年10月24日（土））			弘前市	1日
	・発達障害の特徴に理解－弘前自相；市町村担当者ら研修－（陸奥新報2009年（平成21年）10月22日（木））	助　　教	斉藤まなぶ	弘前市	1日

16. 小児科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

地域の小児医療の充実させるため，地方会などを主催し，小児科医のレベルの向上に努めた。小児血液学の進歩のため，小児血液学会，日本血液学会などで役員として活動し，日本小児科学会では専門医試験委員として問題作成などに携わった。また，津軽地域の小児救急体制を維持発展させるために，委員会を開催して県や市町村の協力体制を堅固なものにすることに努めた。学会の評議員としての任務は全うした。

講義の依頼や学術雑誌の査読には積極的に協力した。地域医療へは可能な限り貢献した。日本腎臓学会学術評議員，日本小児腎臓病学会評議員として腎臓病，特に小児の腎臓病についての啓蒙活動を行なった。また，日本腎臓学会専門医試験の試験問題作成などに携わった。青森県国民健康保険審査員として月３回，毎月保険審査を継続した。欧米の腎関連，小児科関連の一流誌多数からや日本小児科学会雑誌からの査読依頼がありおおよそ月１回の頻度でこれを担当した。

全体的な到達度としては90% 程度と思われる。

これから２年間の目標：

地域の小児医療の充実させるため，地方会などを主催し，小児科医のレベルの向上に努める。
小児血液学の進歩のため，小児血液学会，日本血液学会などで役員として活動する。
小児救急体制の充実など，青森県の小児医療体制の充実のために努力する。
青森小児血液腫瘍研究会，青森骨髄移植研究会の開催を継続する。
兼業基準に従い他施設で診療を行い，地域医療に貢献する。
骨髄移植推進財団移植調整医師の業務を継続する。
青森県小児神経談話会を主催する。
学会の役員，評議員としての任務を全うする。
講演，講義，学術雑誌の査読等の依頼があれば積極的に協力する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　8，大学院学生　1，研究生　2
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　8，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	小児血液学会評議員会	教　　授	伊藤　悦朗	評議員	1日
	日本血液学会評議委員会			評議員	1日
	小児科専門医試験出題委員会			委員	1日
	日本小児保健協会理事会			理事	1日
	日本小児保健協会支部長会			支部長	1日
	日本小児科学会代議員会			代議員	1日
	日本小児循環器学会評議員会	准　教　授	高橋　　徹	評議員	1日
	日本小児科学会選挙管理委員会			委員	1日
	日本腎臓学会	講　　師	田中　　完	学術評議員	2日
	日本小児腎臓病学会			評議員	2日
	日本小児白血病・リンパ腫研究グループ（JPLSG）	助　　教	照井　君典	分子診断委員	10日
09年度	日本血液学会	教　　授	伊藤　悦朗	理事	4日
	日本小児血液学会			理事	1日
	日本小児血液学会再生不良性貧血委員会			委員	1日
	日本小児血液学会学術委員会			委員長	1日
	日本血液学会プログラム企画委員会			委員	1日
	日本小児科学会代議員会			代議員	1日
	日本小児科学会専門医試験出題委員			委員	1日
	日本小児保健協会代議員会			代議員	1日
	日本学術振興会科学研究費委員会			専門委員	1日
	日本小児循環器学会	准　教　授	高橋　　徹	評議員	1日
	日本小児科学会選挙管理委員会			委員	4日

	日本腎臓学会 日本小児腎臓病学会	講　　師	田中　　完	学術評議員 評議員	2日 2日
	日本小児血液学会評議員会 日本小児白血病・リンパ腫研究グループ (JPLSG) AML 委員会 同分子診断委員会	助　　教	照井　君典	評議員 委員 委員	5日 10日 5日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本小児科学会青森地方会	教　　授	伊藤　悦朗	会長	2日
	青森県小児保健協会夏期懇談会			会長	1日
	青森県小児保健協会総会・学術集会			会長	1日
	青森県小児血液腫瘍研究会			会長	1日
	弘前大学造血幹細胞移植研究会			会長	1日
	青森県神経談話会	助　　教	藤田　浩史	監事	2日
09年度	日本小児科学会青森地方会	教　　授	伊藤　悦朗	弘前市・青森市	2日
	青森県小児保健協会夏期懇談会			青森市	1日
	青森県小児保健協会総会・学術集会			青森市	1日
	青森県小児血液腫瘍研究会			青森市	1日
	弘前大学造血幹細胞移植研究会			弘前市	1日
	青森県神経談話会	助　　教	藤田　浩史	弘前市	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Blood	教　　授	伊藤　悦朗	査読	5日
	J Pediatrics			査読	5日
	日本小児循環器学会雑誌	准 教 授	高橋　　徹	査読	3日
	日本小児腎臓病学会雑誌	講　　師	田中　　完	編集委員	10日
	Journal of Nephrology and Renal Transplantation			Editorial Board	5日
	Pediatric Nephrology ×2回			査読	10日
	Nephron Clinical Practice			査読	5日
	Clinical Nephrology			査読	4日
	Nephrol Dial Transplant			査読	6日
	Nephrology			査読	5日
	Tohoku J Exp Med			査読	5日
	BMC Nephrology			査読	4日
	International Journal of Hematology	助　　教	照井　君典	査読	5日
09年度	International Journal of Hematology ×2回	教　　授	伊藤　悦朗	査読	14日
	Leukemia			査読	10日
	Pediatric International			査読	7日
	日本小児腎臓病学会雑誌	講　　師	田中　　完	編集委員	12日
	Journal of Nephrology and Renal Transplantation			Editorial Board	8日
	Pediatric Nephrology ×2回			査読	10日
	Nephron Clinical Practice			査読	5日
	Clinical Nephrology			査読	4日
	American Journal of Kidney Disease			査読	6日
	Nephrology			査読	4日
	Journal of Pediatrics			査読	5日
	BMC Nephrology			査読	4日
	Renal Failure			査読	5日
	日本小児血液学会雑誌	助　　教	照井　君典	査読	5日
	International Journal of Hematology			査読	10日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県小児がん等がん調査委員会	教　　授	伊藤　悦朗	委員長	2日
	青森県小児慢性特定疾患対策協議会			委員	2日
	津軽地域小児救急医療運営協議会			委員	2日
	青森県感染症発生動向調査企画委員会			委員	2日
	青森県周産期医療協議会			委員	1日
	津軽地域小児救急医療運営協議会	准　教　授	高橋　　徹	委員	6日
	青森県国民健康保険診療報酬審査委員会	講　　師	田中　　完	審査委員（月3回）	36日
09年度	青森県小児がん等がん調査委員会	教　　授	伊藤　悦朗	委員長	2日
	青森県小児慢性特定疾患対策協議会			委員	2日
	津軽地域小児救急医療運営協議会			委員	2日
	青森県感染症発生動向調査企画委員会			委員	2日
	青森県周産期医療協議会			委員	1日
	津軽地域小児救急医療運営協議会	准　教　授	高橋　　徹	委員	2日
	青森県国民健康保険診療報酬審査委員会	講　　師	田中　　完	委員	36日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第51回日本腎臓学会学術総会 ランチョンセミナー	講　　師	田中　　完		2日
09年度	遺制研セミナー（北海道大学）	教　　授	伊藤　悦朗	特別講演	1日
	第17回中部日本小児腎臓病研究会	講　　師	田中　　完	特別講演	2日
	第7回小児薬物動態研究会				2日
	第4回四国腎疾患談話会				2日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学教育学部附属小学校健診	准　教　授	高橋　　徹		1日
	鰺ヶ沢町立中央病院予防接種	講　　師	田中　　完		40日
	弘前大学教育学部附属小学校健診	助　　教	藤田　浩史		1日
	弘前大学医学部附属病院1か月健診	助　　教	照井　君典		15日
	中泊町乳児健診・1歳6ヶ月検診・3歳児健診				24日
	五所川原市金木地区ポリオ予防接種				2日
	五所川原市立金木小学校内科健診				1日
	五所川原市立金木保育園内科健診				1日
	金木小学校・吉良市小学校2種混合予防接種				2日
	弘前大学教育学部附属小学校 弘前大学教育学部附属養護学校	助　　教	佐々木伸也	学校医	5日
09年度	弘前大学教育学部附属小学校健診	准　教　授	高橋　　徹		1日
	鰺ヶ沢町立中央病院予防接種	講　　師	田中　　完		40日
	弘前大学教育学部附属小学校健診	助　　教	藤田　浩史		1日
	弘前大学医学部附属病院1か月健診	助　　教	照井　君典		15日
	中泊町乳児健診，1歳6ヶ月健診，3歳児健診				24日
	五所川原市立金木地区ポリオ予防接種				2日
	五所川原市立金木保育園内科健診				2日
	金木小学校，吉良市小学校2種混合予防接種				2日
	弘前大学教育学部附属幼稚園健診	助　　教	佐々木伸也	学校医	1日
	弘前大学教育学部附属小学校健診				1日
	弘前大学教育学部特別支援学校健診				1日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	公立金木病院（非常勤医師）	教　　授	伊藤　悦朗	週1日	48日
	弘前市立病院（非常勤医師）	准　教　授	高橋　　徹	月3日	36日
	西北中央病院（非常勤医師）			月1日	12日
	大館市立総合病院（非常勤医師）			月1日	12日
	岩手県立北上病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				2日
	鰺ヶ沢町立中央病院（非常勤医師）	講　　師	田中　　完	週1日	40日
	青森労災病院（非常勤医師）			月1日	12日
	秋田赤十字病院（非常勤医師）			月1日	12日
	岩手県立北上病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				3日
	十和田市立中央病院（非常勤医師）	助　　教	藤田　浩史	月2日	24日
	大館市立総合病院（非常勤医師）			月2日	24日
	三沢市立三沢病院（非常勤医師）			月1日	12日
	三戸中央病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市立病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				2日
	公立金木病院（非常勤医師）	助　　教	照井　君典	週1日	48日
	岩手県立北上病院 (非常勤医師)			月2日	24日
	十和田市立中央病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				4日
	西北中央病院（非常勤医師）	助　　教	佐々木伸也	月1日	72日
	青森市立浪岡病院（非常勤医師）				12日
	弘前市急患診療所				4日
09年度	公立金木病院（非常勤医師）	教　　授	伊藤　悦朗	週1日	48日
	弘前市立病院（非常勤医師）	准　教　授	高橋　　徹	月3日	36日
	五所川原市立西北中央病院（非常勤医師）			月1日	12日
	大館市立総合病院（非常勤医師）			月1日	12日
	岩手県立中部病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				3日
	鰺ヶ沢町立中央病院（非常勤医師）	講　　師	田中　　完	週1日	48日
	青森労災病院（非常勤医師）			月1日	12日
	秋田赤十字病院病院（非常勤医師）			月1日	12日
	岩手県立中部病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				3日
	十和田市立中央病院（非常勤医師）	助　　教	藤田　浩史	月2日	24日
	大館市立総合病院（非常勤医師）			月2日	24日
	三沢市立三沢病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市立病院（非常勤医師）			月1日	12日
	国立病院機構青森病院（非常勤医師）			月1日	12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				4日
	公立金木病院（非常勤医師）	助　　教	照井　君典	週1日 月1日	48日
	三戸中央病院（非常勤医師）				12日
	町立大鰐病院（非常勤医師）				18日
	岩手県立中部病院（非常勤医師）				4日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				4日
	五所川原市立西北中央病院（非常勤医師）	助　　教	佐々木伸也	月1日	76日
	青森市立浪岡病院（非常勤医師）				12日
	弘前市急患診療所（非常勤医師）				3日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	財）骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	教　　授	伊藤　悦朗	調整医師	10日
	財）骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	助　　教	照井　君典	調整医師	12日
	財）骨髄移植推進財団骨髄採取	助　　教	佐々木伸也	採取責任医師	3日
09年度	財）骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	教　　授	伊藤　悦朗	調整医師	7日
	財）骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	助　　教	照井　君典	調整医師	12日
	財）骨髄移植推進財団骨髄採取	助　　教	佐々木伸也	採取責任医師・連絡責任医師	1日

17. 胸部心臓血管外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 心臓血管外科および胸部外科関連の学会活動を活発に行う。→達成した。
2. 地域の医療施設との連携を緊密に行い，専門分野の知識の普及と医療水準の向上に寄与する。→達成した

これから２年間の目標：

1. 国際的学会活動を活発に行う。特に国際的学術雑誌の査読，国際学会の開催など。
2. 北東北医療圏の医療施設との連携を緊密に行い，専門分野の知識の普及と医療水準の向上に寄与する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　3，助教　5，助手　0，医員　3，大学院学生　4，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　3，助教　4，助手　1，医員　3，大学院学生　3，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本脈管学会	評　議　員	福田　幾夫		3日
	日本外科学会	代　議　員			4日
	日本胸部外科学会	評　議　員			4日
	日本心臓血管外科学会	評　議　員			3日
	日本血管外科学会	理　　事			6日
	日本冠動脈外科学会	評　議　員			3日
	日本血管内治療学会	理　　事			2日
	日本静脈学会	理　　事			2日
	日本胸部外科学会会誌編集員	委　　員			7日
	日本胸部外科学会広報委員	委　　員			3日
	日本心臓ペーシング電気生理学会	評　議　員			1日
	日本心臓血管外科学会誌論文査読委員	委　　員			5日
	日本血管外科学会誌論文審査委員	委　　員			7日
	日本外科学会地域医療安全管理委員	委　　員			1日
	日本小児循環器学会	評　議　員	鈴木　保之		1日
	日本胸部外科学会	評　議　員			1日
	日本内視鏡外科学会	評　議　員	對馬　敬夫		1日
	内視鏡外科フォーラム東北	世　話　人			1日
	青森呼吸器研究会	幹　　事			1日
	青森内視鏡外科研究会	幹　　事			1日
	東北肺癌研究談話会	幹　　事			1日
	弘前癌治療懇話会	幹　　事			2日
09年度	日本脈管学会	評　議　員	福田　幾夫		3日
	日本外科学会	代　議　員			4日
	日本胸部外科学会	評　議　員			4日
	日本心臓血管外科学会	評　議　員			3日
	日本血管外科学会	理　　事			6日
	日本冠動脈外科学会	評　議　員			3日
	日本血管内治療学会	理　　事			2日
	日本静脈学会	理　　事			2日
	日本胸部外科学会会誌編集員	委　　員			7日
	日本胸部外科学会広報委員	委　　員			3日
	日本心臓ペーシング電気生理学会	評　議　員			1日
	日本心臓血管外科学会誌論文査読委員	委　　員			5日
	日本血管外科学会誌論文審査委員	委　　員			7日
	日本外科学会地域医療安全管理委員	委　　員			1日
	日本小児循環器学会	評　議　員	鈴木　保之		1日
	日本胸部外科学会	評　議　員			1日

	日本内視鏡外科学会	評　議　員	對馬　敬夫		1日
	内視鏡外科フォーラム東北	世　話　人			1日
	青森呼吸器研究会	幹　　事			1日
	青森内視鏡外科研究会	幹　　事			1日
	東北肺癌研究談話会	幹　　事			1日
	弘前癌治療懇話会	幹　　事			2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	第20回健脚を血管病から守る公開シンポジウム	会　　長	福田　幾夫		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	European Journal of Cardiothoracic Surgery	Invited Reviewer	福田　幾夫	3論文	3日
	Annals of　Thoracic Surgery	Invited Reviewer		1論文	1日
	Journal of American Society of Medical Engineering	Invited Reviewer		1論文	1日
	Surgery Today	Invited Reviewer		2論文	2日
	日本血管外科学会雑誌	査 読 委 員		3論文	3日
	国内外雑誌その他	査 読 委 員		5論文	5日
	日本胸部外科学会医療安全委員	調 査 委 員			2日
	Artificial Organs	Invited Reviewer	鈴木　保之		7日
	General Thoracic and Cardiovascular Surgery.	Invited Reviewer			7日
	日本小児循環器学会総会	査 読 委 員			4日
09年度	European Journal of Cardiothoracic Surgery	Invited Reviewer	福田　幾夫	5論文	5日
	The International Journal of Medical Robotics and Computer Assisted Surgery	Invited Reviewer		1論文	1日
	Surgery Today	Invited Reviewer		2論文	2日
	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	Invited Reviewer		4	4日
	Circulation Journal	Invited Reviewer		1論文	1日
	日本血管外科学会雑誌	査 読 委 員		4論文	4日
	日本冠疾患学会雑誌	査 読 委 員		1論文	1日
	日本心臓血管外科学会雑誌	査 読 委 員		3論文	3日
	国内外学会抄録査読	査 読 委 員		4学会	8日
	日本胸部外科学会総会	査 読 委 員	鈴木　保之		3日
	日本小児循環器学会雑誌	査 読 委 員			3日
	Artificial Organs	Invited Reviewer			7日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	第20回健脚を血管病から守る公開シンポジウム	司　　会	谷口　　哲		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会	委　　員	福田　幾夫		1日
	青森県健診センター	理　　事			1日
	青森県社会保険診療報酬支払基金	准　教　授	鈴木　保之		36日
09年度	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員	福田　幾夫		2日
	青森県社会福祉審議会	臨 時 委 員			7日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Fighting Vascular Events in HIROSAKI	講　　師	谷口　　哲		1日
09年度	肺血栓塞栓症フォーラム in 名古屋	教　　授	福田　幾夫		1日
	第5回肺塞栓症セミナー	教　　授			1日
	腹部 VTE エクスパートミーティング	教　　授			1日
	福島周術期アカデミー 2009	教　　授			1日
	第4回秋田県体外循環セミナー	教　　授			1日
	第47回青森臨床循環器研究会	准　教　授	鈴木　保之		1日
	株式会社大塚製薬工場社内勉強会	助　　教	木村　大輔		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県肺がん検診	X線写真読影委員	對馬　敬夫		10日
	青森県肺がん検診	合同読影委員			3日
09年度	青森県肺がん検診	X線写真読影委員	對馬　敬夫		10日
	青森県肺がん検診	合同読影委員			3日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	西北中央病院	医　　師	福田　幾夫	非常勤医師	10日
	弘前中央病院	医　　師		非常勤医師	36日
	板柳中央病院	准　教　授	鈴木　保之		48日
	弘前中央病院	講　　師	皆川　正仁		24日
	弘愛会病院	講　　師			12日
	弘前メディカルセンター	講　　師	大徳　和之		38日
	弘前メディカルセンター	助　　教	境　　雄大		40日
	弘前中央病院	助　　教	木村　大輔		36日
	板柳町立中央病院　外科	講　　師	對馬　敬夫		40日
	鳴海病院	助　　教	谷口　　哲		38日
	鳴海病院	助　　教	渡辺　健一		38日
	弘前市立病院	助　　教	北川理映子		38日
09年度	西北中央病院	医　　師	福田　幾夫	非常勤医師	10日
	弘前中央病院	医　　師		非常勤医師	36日
	板柳中央病院	准　教　授	鈴木　保之	非常勤医師	48日
	弘前メディカルセンター	講　　師	大徳　和之	非常勤医師	38日
	弘前メディカルセンター	助　　教	境　　雄大	非常勤医師	40日
	弘前中央病院	助　　教	木村　大輔	非常勤医師	36日
	板柳町立中央病院　外科	講　　師	對馬　敬夫	非常勤医師	40日
	鳴海病院	助　　教	谷口　　哲	非常勤医師	38日
	鳴海病院	助　　教	渡辺　健一	非常勤医師	38日
	弘前メディカルセンター	助　　手	山内　早苗	非常勤医師	12日
	西北中央病院	助　　手		非常勤医師	12日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

18. 消化器外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

前回の目標を継続する。すなわち，学会及び生涯学習など，地域のリーダーとしては勿論，全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

到達度：合格点と思われるが，活動内容の充実を図りたい。

これから２年間の目標：

前回の目標を継続する。すなわち，学会及び生涯学習など，地域のリーダーとしては勿論，全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　3，助教　6，助手　0，医員　12，大学院学生　2，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　1，講師　3，助教　7，助手　0，医員　13，大学院学生　12，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本移植学会	幹　　事	袴田　健一		1日
	日本肝胆膵学会	評　議　員			1日
	日本内視鏡外科学会	評　議　員			1日
	日本外科学会	認定医認定委員	吉原　秀一		
	日本消化器病学会	評　議　員			1日
	東北内視鏡フォーラム	幹　　事			1日
	日本甲状腺学会	評　議　員	小田桐弘毅		1日
	日本乳癌学会	評　議　員			1日
	青森県内分泌疾患研究会	世　話　人			1日
	青森県乳腺疾患研究会	世　話　人			1日
	日本消化器病学会東北支部会	評　議　員	鳴海　俊治		2日
	日本胆膵生理機能研究会	世　話　人			1日
	日本食道学会	評　議　員	川﨑　仁司		1日
	日本胃癌学会	評　議　員			1日
	大腸疾患外科療法研究会	幹　　事	小山　　基		1日
	青森県骨盤外科研究会	世　話　人			1日
09年度	日本移植学会	世　話　人	袴田　健一		1日
	日本肝胆膵外科学会	評　議　員			1日
	日本内視鏡外科学会	評　議　員			1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員			2日
	Acute Care Surgery 研究会	常任世話人			1日
	日本肝移植研究会	世　話　人			1日
	日本胆膵生理機能研究会	常任世話人			1日
	日本手術手技研究会	世　話　人			1日
	日本消化器病学会	評　議　員	吉原　秀一		1日
	東北内視鏡フォーラム	幹　　事			1日
	日本甲状腺学会	評　議　員	小田桐弘毅		1日
	日本乳癌学会	評　議　員			1日
	青森県内分泌疾患研究会	世　話　人			1日
	青森県乳腺疾患研究会	世　話　人			1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員	鳴海　俊治		1日
	日本胆膵生理機能研究会	世　話　人			1日
	日本食道学会	評　議　員	川﨑　仁司		1日
	日本胃癌学会	評　議　員			1日
	大腸疾患外科療法研究会	幹　　事	小山　　基		1日
	青森県骨盤外科研究会	世　話　人			1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第19回内視鏡外科フォーラム	当番世話人	吉原　秀一		1日
09年度	第24回東北静脈経腸栄養研究会	会　　長	袴田　健一		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査読委員	袴田　健一		2日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査読委員	吉原　秀一		2日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査読委員	鳴海　俊治		2日
09年度	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査読委員	袴田　健一		2日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査読委員	吉原　秀一		2日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査読委員	鳴海　俊治		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	市民公開講座（第15回日本家族性腫瘍学会学術集会）	演　　者	小山　　基	東京都	1日
	高校生手術体験セミナー in 青森	総　　括	袴田　健一	青森市	1日
	高校生手術体験セミナー in 八戸	総　　括		八戸市	1日
	弘前乳がん市民フォーラム	総　　括	小田桐弘毅	弘前市	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	㈱医療系大学間共用試験実施評価機構医学系CBT実施賞委員会ブラッシュアップ専門部会	委　　員	袴田　健一		1日
	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会	臨時委員			2日
	青森県がん医療検討委員会	委　　員			2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員			2日
	青森県総合健診センター乳がん検診画像読影委員会	委　　員	小田桐弘毅		2日
	弘前大学医師会	幹　　事			2日
	青森県総合健診センター乳がん検診画像読影委員会	委　　員	鳴海　俊治		2日
	弘前大学医師会	幹　　事	吉原　秀一		2日
09年度	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員	袴田　健一		2日
	青森県がん医療検討委員会	委　　員			2日
	青森県社会福祉審議会	委　　員			2日
	青森県総合健診センター乳がん検診画像読影委員会	委　　員	小田桐弘毅		5日
	弘前大学医師会	幹　　事			2日
	青森県総合健診センター乳がん検診画像読影委員会	委　　員	鳴海　俊治		5日
	弘前大学医師会	幹　　事	吉原　秀一		2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	特別講演：青森胃腸同好会 「大腸癌肝転移に対する最近の外科治療」	教　　授		青森市	1日
	特別講演：青森慈恵会病院講演会 「難治消化器がんに対する外科治療2009」	教　　授		青森市	1日
	教育講演：青森県薬剤師会がん専門薬剤師研修会 「最近の大腸がん治療」	教　　授		弘前市	1日
	第109回日本外科学会定期学術集会ランチョンセミナー講演「抑えておきたい肝胆膵外科領域における経口栄養管理」	教　　授		福岡市	1日
	東北大学第一外科関連施設会議特別講演 「大腸癌肝転移に対する最近の外科治療」	教　　授		仙台市	1日
	第2回青森プリモビスト研究会特別講演 「激変する大腸癌肝転移治療」	教　　授		弘前市	1日
	第5回日本病理学会東北支部病理夏の学校教育講演「外科から病理への恋心」	教　　授	袴田　健一	弘前市	1日
	青森県薬剤師会がん専門薬剤師研修会教育講演会 「最近の大腸がん治療」	教　　授		弘前市	1日
	第27回弘前大学医師会教育講演会特別講演 「進行再発大腸癌の治療を目指した新しい集学的治療の試み」	教　　授		弘前市	1日
	第225回南部胃腸同好会特別講演 「激変する進行・再発大腸がん治療」	教　　授		十和田市	1日
	市立函館病院講演会「激変する進行大腸がん治療」	教　　授		函館市	2日
	青森県立中央病院キャンサーボード「エビデンスに基づく肝細胞癌の治療法選択　手術vs.非手術」	教　　授		青森市	1日
	第59回秋田県臨床外科談話会 「進行大腸がん治療における外科側の課題」	教　　授		秋田市	1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学教育学部附属小・中学校	学　校　医	吉原　秀一		1日
09年度	弘前大学教育学部附属小・中学校	学　校　医	吉原　秀一		1日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森市立浪岡病院	非常勤医師	袴田　健一		50日
	大鰐町立病院	非常勤医師			50日
	鶴田町立中央病院	非常勤医師	吉原　秀一		50日
	公立金木病院	非常勤医師			50日
	弘愛会病院	非常勤医師	小田桐弘毅		50日
	佐藤病院	非常勤医師			25日
	鰺ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	鳴海　俊治		50日
	寿町クリニック	非常勤医師			25日
	弘前小野病院	非常勤医師	川﨑　仁司		50日
	寿町クリニック	非常勤医師			25日
	青森市民病院	非常勤医師	豊木　嘉一		25日
	大館市立総合病院	非常勤医師			25日
	弘前小野病院	非常勤医師	村田　暁彦		50日
	黒石厚生病院	非常勤医師	柴田　　滋		50日
	鳴海病院	非常勤医師	小山　　基		50日
	公立七戸病院	非常勤医師	石戸圭之輔		50日
09年度	青森市立浪岡病院	非常勤医師	袴田　健一		50日
	大鰐町立病院	非常勤医師			50日
	鶴田町立中央病院	非常勤医師	吉原　秀一		50日
	公立金木病院	非常勤医師			50日
	弘愛会病院	非常勤医師	小田桐弘毅		50日
	佐藤病院	非常勤医師			50日

鰺ヶ沢町立中央病院 寿町クリニック	非常勤医師 非常勤医師	鳴海　俊治		50日 50日
弘前小野病院 寿町クリニック	非常勤医師 非常勤医師	川﨑　仁司		50日 50日
大館市立総合病院	非常勤医師	豊木　嘉一		50日
弘前小野病院	非常勤医師	村田　暁彦		50日
公立金木病院	非常勤医師	和嶋　直紀		50日
鳴海病院	非常勤医師	小山　　基		50日
青森厚生病院	非常勤医師	石戸圭之輔		50日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	ラジオ対談：「申吾のホットチャンネル」（FM 青森）	教　　授	袴田　健一		1日
	「弘大病院からこんには」：FM アップルウェーブ	准　教　授	吉原　秀一		1日

19. 整形外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

おおむね目標は達成できた

1．『骨と関節の10年』活動を通して，整形外科の啓蒙活動を行う
　青森臨床整形外科医会主催のもと，後援の形で講演会及び健康相談を行った。

2．積極的にフィールドワークを行い，スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアーを行う。膝前十字靭帯損傷予防の調査･研究･骨粗鬆症ほか整形外科疾患の予防･治療に関する知識を啓蒙脊柱靱帯骨化症患者団体への支援を行った。高校バスケットボール選手の膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究，アルペン・クロカンのスキー選手の体力測定，岩木健康プロジェクトの参加など目標に対する到達度は十分と考えている
ドクタースキーパトロールとして，活動を行った。

3．各種学会の役員として学会の発展に寄与する。
藤　哲は日本整形外科スポーツ医学会理事長・日本手外科学会次期会長・日本臨床スポーツ医学会次期会長として活動した。

4．青森県身体障害者更生相談所嘱託医として，厚生医療のバックアップ
問題なく施行された。

5．青森県社会福士審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福士向上のための努力
毎日新聞広告などで活動を紹介した。

6．検診業務の推進（側彎症，骨粗鬆症，発育期スポーツ障害）
県の検診事業をバックアップした。

7．弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる
適切に相談に応じた。

8．厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する
大学院の研究を積極的に紹介した。脊柱靱帯骨化症患者団体への支援を行った

これから２年間の目標：

1．『骨と関節の10年』活動を通して，整形外科の啓蒙活動を行う。ロコモテイブシンドロームの概念を普及させることにより高齢者の QOL の向上をめざす。

2．積極的にフィールドワークを行い，スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアーを行う。膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究，また障害予防のための啓蒙（一般の人に対する講演）・骨粗鬆症ほか整形外科疾患の予防・治療に関する知識を啓蒙

3．各種学会の役員として学会の発展に寄与する。

4．青森県身体障害者更生相談所嘱託医として，自立支援医療のバックアップ

5．青森県社会福士審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福士向上のための努力

6．検診業務の推進（骨粗鬆症，発育期スポーツ障害）

7．弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる

8．厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　7，大学院学生　11，研究生　2
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　7，大学院学生　10，研究生　2

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本整形外科学会	代議員・国際委員会 委　員　長	藤　　哲	札幌	2日
	日本手の外科学会	理事・評議員・ 次々期会長 専門医資格判定 委員会理事長		筑波	2日 2日
	日本整形外科スポーツ医学会	理事・評議員		東京	2日
	日本マイクロサージャリー学会	理事・評議員		東京	2日
	東日本整形外科学会	運営委員		新潟	2日
	日本創外固定骨延長学会	理事・次々期会長		東京	2日
	日本臨床スポーツ医学会	試　験　官		京都	2日
	日本整形外科学会専門医試験	次期会長		千葉	2日
	東北整形災害外科学会	世　話　人		東京	2日
	日本最小侵襲整形外科研究会	運営委員		仙台	2日
	東日本手の外科研究会	運営委員		富山	2日
	骨感染症学会	評　議　員		水戸	2日
	日本肘関節学会	評　議　員	石橋　恭之	水戸	2日
	日本整形外科学会	定款委員		東京	2日
	日本整形外科学会	代表世話人			1日
	東北膝関節研究会	代表世話人		札幌	1日
	東北肩関節懇話会	代表世話人		東京	1日
	東北スポーツ研究会	代表世話人		仙台	1日
	青森県スポーツ医学研究会	評　議　員		仙台	2日
	東日本臨床整形外科	評　議　員		仙台	2日
	日本関節鏡学会	評　議　員		青森	2日
	日本臨床バイオメカニクス学会	評　議　員		東京	2日
	日本膝学会	評議委員	津田　英一	東京	2日
	日本関節鏡・膝・整形外科スポーツ医学会	世　話　人		大阪	2日
	膝関節フォーラム	事務局担当		東京	2日
	青森県スポーツ医学研究会	事務局担当		東京	10日
	青森県骨軟骨シンポジウム	幹　　事	柳澤　道朗	東京	10日
	東北骨軟部腫瘍研究会	幹　　事		弘前	2日
	青森県骨盤外科研究会			弘前	1日
09年度	日本整形外科学会	代議員・代議員会議長	藤　　哲	福岡市	3日
	日本手の外科学会	理事・評議員機能 評価委員会担当理事 専門医資格判定 委員会理事 次期会長		つくば 東京	3日 8日
	日本マイクロサージャリー学会	理事・評議員		徳島	2日
	日本最小侵襲整形外科研究会	運営委員		鎌倉市	2日
	東日本手の外科研究会	世　話　人		土浦	2日
	東日本整形外科学会	理　　事		東京	2日
	日本創外固定骨延長学会	運営委員		東京	2日
	日本臨床スポーツ医学会	次期会長 理　　事		東京	2日
	日本整形外科スポーツ医学会	理事長		群馬	3日
	日本整形外科学会専門医試験	試　験　官		東京	2日
	東北整形災害外科学会	会　　長		新潟	2日
	日本肘関節学会	理　　事		東京	2日
	東北マイクロサージャリー学会	代表世話人		仙台	2日
	日本整形外科学会	評　議　員	石橋　恭之	札幌	2日
	日本整形外科学会	定款委員		東京	1日
	東北膝関節研究会	代表世話人		仙台市	1日

東北肩関節懇話会	代表世話人		仙台市	1日
東北スポーツ研究会	代表世話人		仙台市	1日
青森県スポーツ医学研究会	代表世話人		青森	2日
東日本臨床整形外科	評　議　員		東京	2日
日本関節鏡学会	評　議　員		東京	2日
日本臨床バイオメカニクス学会	評　議　員		大阪	2日
日本膝学会	評　議　員		東京	2日
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	評　議　員	津田　英一	東京	2日
膝関節フォーラム	世　話　人		札幌	2日
日本臨床バイオメカニクス学会	評　議　員		東京	2日
			松山市	2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	東北マイクロサージャリー研究会	代表世話人	藤　　哲	仙台	2日
09年度	東北整形災害外科学会	会　　長	藤　　哲	弘前	2日
	東北マイクロサージャリー研究会	代表世話人		仙台	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Journal of Hand Sugery-Asian volume	査読委員	藤　　哲		2日
	Jopuranal of Orthopaedic Sience				2日
	東日本整形災害外科学会誌				2日
	日本手の外科学会誌				3日
	日本整形外科学会誌				2日
	臨床スポーツ医学				2日
	日本最小侵襲整形外科学会				2日
	日本肘関節学会雑誌	編集委員長			4日
	東北膝関節研究会誌	査読委員	石橋　恭之		5日
	青森県スポーツ医学研究会誌				5日
	東日本臨床整形外科				3日
	日本関節鏡学会				5日
	日本膝学会				5日
	日本臨床バイオメカニクス学会				3日
	J Orthop Sci				10日
	東北整形災害外科学会	査読委員	津田　英一		4日
09年度	Journal of Hand Sugery-Asian volume	査読委員	藤　　哲		2日
	Jopuranal of Orthopaedic Sience				2日
	東日本整形災害外科学会誌				2日
	日本手の外科学会誌				2日
	日本整形外科学会誌				1日
	臨床スポーツ医学				2日
	日本最小侵襲整形外科学会				2日
	日本肘関節学会雑誌	編集委員長			2日
	JOSKAS	査読委員	石橋　恭之		15日
	Clin Orthop Rel Res				5日
	東北膝関節研究会誌				5日
	青森県スポーツ医学研究会誌				5日
	東日本臨床整形外科				3日
	日本整形スポーツ医学会				5日
	日本臨床バイオメカニクス学会				3日
	J Orthop Sci				10日
	American Journal of Sports Medicine	査読委員	津田　英一		10日
	Clinical Orthopaedics and Related Research				15日
	Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation, Therapy & Technology	査読委員	山本　祐司		1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	岩木町講演会「膝の痛み - その原因と予防 -」	准　教　授	石橋　恭之	岩木町	1日
	RAB テレビ「＠なまてれ」「健康に生きよう」コーナー			弘前大学	1日
	青森県医師会健康あおもり21県民公開講座			青森市	1日
	青森県鍼灸マッサージ師会市民公開講座	講　　師	津田　英一		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前市就学指導委員会	専　門　員	藤　　哲		7日
	科学研究費委員会	専　門　員			
	骨密度（骨粗鬆症）検診判定委員会	委　　員			
	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会				
	運動器の10年地域推進委員会	委　　員			
	肢体不自由児協会	理　事　長			
	青森県公安委員会運転適正検査（整形）	委　　員	石橋　恭之		30日
	青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会	委　　員			
09年度	弘前市就学指導委員会		藤　　哲		
	科学研究費委員会	専　門　員			2
	骨密度（骨粗鬆症）検診判定委員会	専　門　員			2
	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会	委　　員			2
	運動器の10年地域推進委員会	委　　員			1
	肢体不自由児協会	理　事　長			1
	青森県公安委員会運転適正検査（整形）	委　　員	石橋　恭之		
	青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会	委　　員			30日
	青森県障害者相談センター	嘱　託　医	津田　英一	弘前市	20日
	国民体育大会青森県チーム	帯　同　医		上越市	5日
	労働災害補償審査会	審　査　員		青森市	12日
	青森県特定疾患治療研究事業審査会委員		小野　　睦		12日
	身体障害者手帳 / 義肢増具交付巡回診療				3日
	義肢装具仮合わせおよび適合判定巡回診療				2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第8回群馬スポーツ医学研究会	教　　授	藤　　哲	前橋市	2日
	第38回瑞穂卒後研修セミナー			名古屋市	2日
	第18回弘大整形外科夏の研修会			大鰐町	1日
	第6回鶴舞整形外科セミナー			名古屋市	2日
	第2回金沢サンセットセミナー			金沢市	2日
	旭川整形外科医会学術講演会			旭川市	2日
	青森スポーツ外傷フォーラム			青森市	1日
	整喜会定例研究会第50回記念講演会			五所川原市	1日
	第27回新潟手の外科セミナー			新潟市	2日
	第17回防府整形外科医会			防府市	2日
	第49回秋田県臨床整形外科医会	准　教　授	石橋　恭之	秋田市	1日
	第19回安比夏季セミナー			岩手（安比）	1日
	JCOA 東北ブロック会議学術講演			八戸市	1日
	第18回大阪スポーツ傷害研究会			大阪	1日
	青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会講演			青森市	2日
	第30回神戸整形外科セミナー			神戸市	1日
					2日
	上十三地区難病特定疾患（脊柱後縦靱帯骨化症）に関する講演	助　　教	沼沢　拓也	三沢	1日

09年度	北進整形外科医会前期教育研修会． 第28回新潟手の外科セミナー． 中弘南黒整形外科医会 第10回熊本骨折セミナー学術講演会 第7回和歌山最小侵襲整形外科（MIOS）フォーラム 第6回福岡 Hand 研究会		藤　　哲	長野 新潟 弘前 熊本 和歌山 福岡	2日 2日 2日 2日 2日 2日
	青森陸上競技協会指導者資格養成講習会 小中高養護教諭のためのスポーツ医学		津田　英一		1日 1日
	青森県臨床整形外科医会		柳澤　道朗	青森	1日
	上十三地区難病特定疾患（脊柱後縦靱帯骨化症）に関する講演 骨と関節の日講演 西北地区整形外科集団会講演 十和田地区骨粗鬆症カンファレンス講演		沼沢　拓也		1日 1日 1日 1日
	OrthoPilot Navigation Meeting		山本　祐司		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　　考	日数
08年度	巡回診療	審査医師	藤　　哲		1日
	弘前大学附属養護学校 整形外科検診	校　　医	石橋　恭之		1日
09年度	巡回診療	審査医師	藤　　哲		1日
	弘前大学附属養護学校 整形外科検診 巡回診療	校　　医	石橋　恭之		1日
	青森県スポーツ科学センター 巡回診療	専門医	津田　英一	青森市	5日
	巡回診療		小野　　睦	青森県	3日
	巡回診療		柳澤　道朗	青森県	3日
	巡回診療		三井　博正	青森県	3日
	巡回診療		沼沢　拓也	青森県	3日
	巡回診療		山本　祐司	青森県	3日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　　考	日数
08年度	大館市立病院 損害保険料率算出機構審査員 青森県身体障害者更生相談所	応援医師 嘱託医 嘱託医	藤　　哲		1日/月 2回/月 2回/月
	弘前記念病院 青森県更生医療指導医	非常勤医師 非常勤医師	石橋　恭之		45日 20日
	青森県障害者相談センター 弘前記念病院	嘱託医 非常勤医師	津田　英一		20日 50日
	鰺ケ沢町立中央病院	非常勤医師	柳澤　道朗		50日
	鶴田町立病院 ヒロサキメディカルセンター 青森市立浪岡病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	三井　博正		50日 50日 50日
	青森市立浪岡病院 国立病院機構青森病院	非常勤医師 非常勤医師	沼沢　拓也		50日 50日
09年度	大館市立病院 損害保険料率算出機構審査員 青森県身体障害者更生相談所	応援医師 嘱託医 嘱託医	藤　　哲		1日/月 2回/月 2回/月
	弘前記念病院 青森県更生医療指導医	非常勤医師 非常勤医師	石橋　恭之		45日 20日
	弘前記念病院	非常勤医師	津田　英一		40日
	鶴田町立病院 ヒロサキメディカルセンター		小野　　睦		50日 50日
	鰺ケ沢町立中央病院	非常勤医師	柳澤　道朗		25日

	鶴田町立病院 ヒロサキメディカルセンター 青森市立浪岡病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	三井　博正		50日 50日 50日
	青森市立浪岡病院 国立病院機構青森病院	非常勤医師 非常勤医師	沼沢　拓也		50日 50日
	十和田市立中央病院 十和田第一病院	非常勤医師 非常勤医師	山本　祐司		50日 50日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	全日本スキー連盟	ドクターパトロール 青森支部副会長	藤　　哲	大鰐	3日
	OrthopaedicsToday International Edition,Groball News in Musculoskeletal Health & Disease	Editorial Advisory Board member		メール上会議	2日
	全日本スキー連盟 冬季国体（スキー）青森県選手団	ドクターパトロール 帯同ドクター	石橋　恭之	大鰐 新潟県	3日 3日
	国民体育大会青森県チーム	帯同ドクター	津田　英一	別府市	5日
09年度	全日本スキー連盟	ドクターパトロール 青森支部副会長	藤　　哲	大鰐	3日
	OrthopaedicsToday International Edition,Groball News in Musculoskeletal Health & Disease	Editorial Advisory Board member		メール上会議	2日
	冬季国体（スキー）青森県選手団 全日本スキー連	帯同ドクター ドクターパトロール	石橋　恭之	札幌 大鰐	2日 5日
	日本サッカー協会エリートプログラムU14トレーニングキャンプ	帯同 Dr	津田　英一	新潟県	5日
	国民体育大会冬季スケート競技会・アイスホッケー競技会	帯同 Dr	山本　祐司	別府市	4日

20. 皮膚科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

啓蒙活動は市民の QOL を高め，大学病院の患者増につなげる。

地域の医療活動のサービスに努める。

【到達度】70％

これから２年間の目標：

近隣の医療機関と密に連携をとり，高度の皮膚科医療を地域に還元する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　10，大学院学生　6，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　10，大学院学生　6，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本皮膚科学会	評　議　員	澤村　大輔		5日
	日本研究皮膚科学会	代　議　員			3日
	日本褥瘡学会東北地方会	世　話　人			1日
	日本皮膚科学会青森地方会	大　会　長			1日
	第73回日本皮膚科学会東部支部学術大会プログラム委員会	委　　員			12日
	科学研究費委員会専門委員の委嘱	審　査　員			10日
	日本皮膚科学会会則検討委員会	委　　員	中野　　創	東京都	2日
	日本光医学光生物学会	事務局長		大阪府	3日
	日本皮膚科学会青森地方会	事務局長	会津　隆幸		12日
09年度	日本皮膚科学会	評　議　員	澤村　大輔		5日
	日本研究皮膚科学会	代　議　員			3日
	日本褥瘡学会東北地方会	世　話　人			1日
	日本皮膚科学会青森地方会	大　会　長			1日
	第74回日本皮膚科学会東部支部学術大会プログラム委員会	委　　員			12日
	日本皮膚科学会会則検討委員会	委　　員	中野　　創	東京都	2日
	日本光医学光生物学会	事務局長		大阪府	3日
	日本皮膚科学会青森地方会	事務局長	中島　康爾		12日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第118回弘前大学皮膚科集談会	会　　長	澤村　大輔	弘前市	1日
	日本光医学光生物学会	事務局長	中野　　創	大阪	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第342回例会	事務局長	会津　隆幸	弘前市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第343回例会	事務局長		青森市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第344回例会	事務局長		弘前市	1日
09年度	第118回弘前大学皮膚科集談会,		澤村　大輔	弘前市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第342回例会				1日
	日本皮膚科学会青森地方会第343回例会			青森市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第344回例会			弘前市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本皮膚科学会誌	編集委員	澤村　大輔		5日
	日本皮膚科学会誌	審　査　員			2日
	Journal of Dermatolgy	審　査　員			3日
	Journal of Dermatological Science	審　査　員			4日

	Journal of Deramtological Science	審　査　員	中野　　創		42日
	J Dermatol	審　査　員			7日
	BBA	審　査　員			21日
	Journal of Deramtology	審　査　員	金子　高英		10日
	西日本皮膚科	審　査　員			7日
09年度	日本皮膚科学会誌	編集委員	澤村　大輔		5日
	日本皮膚科学会誌	審　査　員			2日
	Journal of Dermatolgy	審　査　員			4日
	Journal of Dermatological Science	審　査　員			5日
	Journal of Deramtological Science	審　査　員	中野　　創		40日
	J Dermatol	審　査　員			8日
	BBA	審　査　員			20日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	科学研究費委員会専門委員	専門委員	澤村　大輔		14日
09年度	科学研究費委員会専門委員	専門委員	澤村　大輔		14日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	サンスター株式会社との共同研究		澤村　大輔		10日

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	持田製薬社員教育	講　　師	金子　高英		1日
09年度	平成21年度弘前大学医学部動物慰霊祭		澤村　大輔		1日
	Aomori Advance Meeting（アトピー性皮膚炎におけるネオーラルの使用指針）				1日
	エーザイ社内勉強会				1日
	FM アップルウェーブ		中島　康爾		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	平成20年度附属養護学校健康診断	学　校　医	松﨑　康司		
	平成20年度定期健康診断				18日
09年度	平成20年度附属養護学校健康診断	学　校　医	松﨑　康司		1日
	平成20年度定期健康診断				18日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	大館市立総合病院	非常勤医師	澤村　大輔		24日
	秋田労災病院				12日
	扇田病院				12日
	黒石病院	非常勤医師	中野　　創		12日
	秋田労災病院				24日
	扇田病院				12日
	大館市立総合病院	非常勤医師	松﨑　康司		12日
	北秋中央病院				12日
	慈仁会尾野病院				36日
	敬仁会病院				12日

	公立野辺地病院 大館市立総合病院 黒石病院	非常勤医師	金子　高英		12日 24日 24日
	公立野辺地病院 山本組合総合病院 慈仁会尾野病院 公立金木病院 西北中央病院	非常勤医師	中島　康爾		12日 24日 12日 12日 12日
	大館市立総合病院 山本組合総合病院 扇田病院 むつ総合病院	非常勤医師	会津　隆幸		12日 12日 12日 24日
	公立金木病院 秋田労災病院 敬仁会病院 むつ総合病院	非常勤医師	皆川　智子		12日 12日 36日 12日
	北秋中央病院 山本組合総合病院 公立金木病院 西北中病院	非常勤医師	神　　可代		12日 12日 24日 12日
09年度	大館市立総合病院 秋田労災病院 扇田病院	非常勤医師	澤村　大輔		24日 12日 12日
	黒石病院 秋田労災病院 扇田病院	非常勤医師	中野　　創		12日 24日 12日
	大館市立総合病院 北秋中央病院 慈仁会尾野病院 敬仁会病院	非常勤医師	松﨑　康司		12日 12日 36日 12日
	公立野辺地病院 大館市立総合病院 黒石病院	非常勤医師	金子　高英		12日 24日 24日
	公立野辺地病院 北秋田市民病院 山本組合総合病院 慈仁会尾野病院 公立金木病院 西北中央病院	非常勤医師	中島　康爾		12日 12日 12日 12日 12日 12日
	大館市立総合病院 山本組合総合病院 扇田病院 むつ総合病院 西北中央病院	非常勤医師	会津　隆幸		12日 12日 12日 24日 12日
	公立野辺地病院 秋田労災病院 敬仁会病院 むつ総合病院	非常勤医師	木村　一之		12日 12日 36日 12日
	山本組合総合病院 公立金木病院 西北中央病院	非常勤医師	六戸　大樹		24日 24日 12日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	朝日新聞記事掲載（2009/5/8掲載）		金子　高英		1日

21. 泌尿器科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ100％達成した。

これから２年間の目標：

現在のスペースを維持する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　6，助手　0，医員　2，大学院学生　4，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　1，講師　1，助教　7，助手　0，医員　5，大学院学生　4，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本泌尿器科学会	評　議　員	大山　　力		5日
	日本泌尿器科学会倫理委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会学務委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会賞選考委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会学術委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会専門医審議会	委　　員			1日
	日本 Endourology and ESWL 学会	評　議　員			1日
	同　　査読委員会	委　　員			1日
	同　　学術委員会	委　　員			1日
	泌尿器科再建再生研究会	世　話　人			1日
	ミニマム創・内視鏡下泌尿器手術研究会	世　話　人			1日
	青森県泌尿器科研究会	代表世話人			2日
	青森県ＳＴＤ研究会	顧　　問			1日
	東北腎不全研究会	幹　　事			1日
	青森県骨盤外科研究会	世　話　人			1日
	更年期心身医学懇話会	世　話　人			1日
	東北内分泌研究会	世　話　人			1日
	日本老年泌尿器科学会	評　議　員			1日
	更年期心身医学懇話会	世　話　人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世　話　人			1日
	青森県内分泌研究会	世　話　人			1日
	青森県人工透析研究会	世　話　人			1日
	骨を語る会	世　話　人			1日
	臨床糖鎖研究会	代表世話人			1日
	青森県泌尿器科研究会	世　話　人	古家　琢也		1日
	青森県前立腺癌研究会	世　話　人			1日
	青森県 STD 研究会	世　話　人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世　話　人			1日
09年度	日本泌尿器科学会	評　議　員	大山　　力		5日
	日本泌尿器科学会倫理委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会学務委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会賞選考委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会学術委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会専門医審議会	委　　員			1日
	日本 Endourology and ESWL 学会	評　議　員			1日
	同　　査読委員会	委　　員			1日
	同　　学術委員会	委　　員			1日
	泌尿器科再建再生研究会	世　話　人			1日
	ミニマム創・内視鏡下泌尿器手術研究会	世　話　人			1日
	青森県泌尿器科研究会	代表世話人			2日
	青森県 STD 研究会	顧　　問			1日
	東北腎不全研究会	幹　　事			1日
	青森県骨盤外科研究会	世　話　人			1日
	更年期心身医学懇話会	世　話　人			1日

	東北内分泌研究会	世　話　人			1日
	日本老年泌尿器科学会	評　議　員			1日
	更年期心身医学懇話会	世　話　人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世　話　人			1日
	青森県内分泌研究会	世　話　人			1日
	青森県人工透析研究会	世　話　人			1日
	骨を語る会	世　話　人			1日
	臨床糖鎖研究会	代表世話人			1日
	青森県泌尿器科研究会	世　話　人	古家　琢也		1日
	青森県前立腺癌研究会	世　話　人			1日
	青森県 STD 研究会	世　話　人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世　話　人			1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	臨床糖鎖研究会	会　　長	大山　　力		1日
	青森県泌尿器科研究会	会　　長			2日
	青森県前立腺癌研究会	会　　長			1日
	青森県排尿障害研究会	会　　長			1日
	前立腺癌セミナー	代　　表			1日
	腎移植セミナー	代　　表			1日
09年度	臨床糖鎖研究会	会　　長	大山　　力		1日
	青森県泌尿器科研究会	会　　長			2日
	青森県前立腺癌研究会	会　　長			1日
	青森県排尿障害研究会	会　　長			1日
	前立腺癌セミナー	代　　表			1日
	腎移植セミナー	代　　表			1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	International Journal of Urology	編集委員	大山　　力		10日
	泌尿器外科	編集委員			4日
	Hirosaki Medical Journal	編集委員			5日
	泌尿器科紀要	編集委員			7日
	International Journal of Urology	査　　読			20日
	Urology	査　　読			4日
	International Journal of clinical oncology	査　　読			5日
	Hirosaki Medical Journal	査　　読			5日
	泌尿器科紀要	査　　読			21日
	科研費審査員	審　　査			14日
	International Journal of Urology	査　　読	古家　琢也		3日
09年度	・International Journal of Urology	編集委員	大山　　力		10日
	・泌尿器外科	編集委員			4日
	・Hirosaki Medical Journal	編集委員			5日
	・泌尿器科紀要	編集委員			7日
	・International Journal of Urology	査　　読			20日
	・Urology	査　　読			4日
	・International Journal of clinical oncology	査　　読			5日
	・Hirosaki Medical Journal	査　　読			5日
	・泌尿器科紀要	査　　読			21日
	・科研費審査員	審　　査			14日
	・International Journal of Urology	査　　読	古家　琢也		3日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	「市民公開講座」知っておきたい泌尿器科の病気。健康に関する市民公開講座		大山　　力		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県総合検診センター	理　　事	大山　　力		5日
	青森県社会福士審議委員	委　　員			5日
	青森県腎臓バンク	運営委員長			5日
	青森県総合検診センター	委　　員	古家　琢也		5日
09年度	青森県総合検診センター	理　　事	大山　　力		5日
	青森県社会福士審議委員	委　　員			5日
	青森県腎臓バンク	運営委員長			5日
	青森県総合検診センター	委　　員	神村　典孝		5日
	青森県総合検診センター	委　　員	古家　琢也		5日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	医学部保健学科		神村　典孝		2日
	弘前学院大学看護科		古家　琢也		4日
09年度	医学部保健学科		神村　典孝		2日
	弘前学院大学看護科		古家　琢也		4日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県総合検診センター精度管理委員	委　　員	大山　　力		2日
	青森県総合検診センター精度管理委員	委　　員	神村　典孝		2日
	青森県総合検診センター精度管理委員	委　　員	古家　琢也		2日
09年度	青森県総合検診センター精度管理委員	委　　員	大山　　力		2日
	青森県総合検診センター精度管理委員	委　　員	神村　典孝		2日
	青森県総合検診センター精度管理委員	委　　員	古家　琢也		2日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	鷹揚郷	非常勤医師	大山　　力		45日
	泌尿器科関連病院（手術指導）	非常勤医師			20日
	松丘保養園	非常勤医師	古家　琢也		45日
	西北中央病院	非常勤医師	神村　典孝		45日
	西北中央病院	非常勤医師	米山　高弘		45日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	橋本　安弘		45日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	岩渕　郁哉		45日
	青森労災病院	非常勤医師	畠山　真吾		20日
	青森労災病院	非常勤医師	今井　　篤		20日
09年度	鷹揚郷		大山　　力		50日
	泌尿器科関連病院（手術指導）				20日
	松丘保養園		古家　琢也		50日
	西北中央病院		神村　典孝		50日
	西北中央病院		米山　高弘		50日
	白生会胃腸病院		橋本　安弘		50日
	白生会胃腸病院		岩渕　郁哉		25日
	白生会胃腸病院		工藤　茂将		30日
	青森労災病院		畠山　真吾		5日
	大館市立総合病院		立和田得志		25日

(11) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(12) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

22. 眼科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

70％

これから２年間の目標：

国立大学らしい節度を保ちつつ，かつ教育・研究がおろそかにならないように貢献する

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　5，助手　0，医員　4，大学院学生　1，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　1，助教　5，助手　0，医員　4，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本眼科学会	評　議　員	中澤　　満		12日
	日本網膜硝子体学会	理　　事			2日
	日本糖尿病眼学会	理　　事			1日
	日本眼循環学会	理　　事			1日
	北日本眼科学会	評　議　員			1日
	北日本眼科学会	評　議　員	鈴木　幸彦		1日
09年度	日本眼科学会	評　議　員	中澤　　満		2日
	日本眼科学会	専門医制度委員			2日
	日本網膜硝子体学会	監　　事			1日
	日本眼循環学会	理　　事			1日
	日本糖尿病眼学会	理　　事			1日
	青森県眼科医会	理　　事			1日
	青森県眼科医会	理　　事	鈴木　幸彦		3日
	青森県眼科医会		山崎　仁志		3日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第115回青森眼科集談会	主　催　者	中澤　　満		1日
	第116回青森眼科集談会	主　催　者			1日
	第3回弘前大学眼科セミナー	主　催　者			1日
	第16回青森眼科手術懇話会	主　催　者			1日
09年度	青森眼科集談会	主　催　者	中澤　　満		2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	臨床眼科	編集委員	中澤　　満		30日
	Japanese Journal of Ophthalmology	section editor			20日
	弘前医学	編　集　長			20日
	臨床眼科	査読委員	鈴木　幸彦		20日
09年度	Japanese Journal of Ophthalmology	Section chief, section editor	中澤　　満		20日
	臨床眼科	編集委員			20日
	臨床眼科	査　読　者	鈴木　幸彦		20日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	アップルウエーブ弘大病院からこんにちは「眼底出血」	解　　説	中澤　　満		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県身体障害者更生相談所	嘱託医	中澤　満		1日
	青森県身体障害者福祉事業	審査委員			2日
	青森県特定疾患治療研究事業審査会	審査委員			5日
09年度	身体障害者福祉法第15条委員	委員	中澤　満		1日
	身体障害者福祉法第19条委員	委員			1日
	特定疾患審査委員	委員			1日
	小児がん委員	委員			1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	東北黄斑研究会（ノバルティス）	顧問	中澤　満		4日
	東北6大学ステップアップセミナー（ファイザー）	世話人			2日
	青森眼科セミナー（参天）	座長			1日
	青森眼科ファーラム（千寿）	座用			1日
	Rohto Award 選考（ロート）	審査員			2日
	Pfeizer Award 選考（ファイザー）	審査員			2日
	青森糖尿病代謝懇話会	世話人			2日
	ボシュロムジャパン網膜硝子体リサーチフェロー選考	選考委員			1日

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	東北6大学ステップアップセミナー	講師	中澤　満		1日
	秋田眼科セミナー	講師			1日
	弘前大学医学研究科公開講座	講師	山崎　仁志		1日
09年度	第3回東北6大学ステップアップセミナー	准教授	鈴木　幸彦		1日
	弘前市医師会講演	准教授			1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	弘前市立小中学校眼科健診	学校医	鈴木　幸彦		
	弘前市立小中学校眼科健診		山崎　仁志		
	弘前市立小中学校眼科健診		鈴木　香		
	弘前市立小中学校眼科健診		宮川　靖博		
	弘前市立小中学校眼科健診		伊藤　忠		
	弘前市立小中学校眼科健診		目時　友美		
	弘前市立小中学校眼科健診		竹内　侯雄		
	弘前市立小中学校眼科健診		横井由美子		
	弘前市立小中学校眼科健診		木村　智美		
	弘前市立小中学校眼科健診		盛　泰子		
09年度	横浜町小中学校の定期検診	准教授	鈴木　幸彦	すべて校医として	1日
	小沢小学校	講師	山崎　仁志		2日
	三和小学校	助教	目時　友美		2日
	浪岡町小学校，中学校	助教			2日
	草薙小学校	助教			2日
	野辺地高校	助教			2日
	六ヶ所高校	助教			2日
	青森県立浪岡養護学校	助教	宮川　靖博		2日
	弘前市立東目屋小学校	助教			2日
	青柳小学校，大和沢小学校	助教	伊藤　忠		2日
	光星学院野辺地西高校	助教	鈴木　香		1日
	小坂町立小中学校	講師	山崎　仁志		1日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	松丘保養園	非常勤医師	中澤　　満		50日
	野辺地病院	非常勤医師	鈴木　幸彦		50日
	十和田中央病院	非常勤医師	山崎　仁志		50日
	五所川原市立西北病院	非常勤医師	目時　友美		50日
	北秋中央病院	非常勤医師	宮川　靖博		50日
	米内沢病院	非常勤医師			50日
	板柳中央病院	非常勤医師	鈴木　　香		50日
	小坂診療所	非常勤医師			50日
	鰺ヶ沢中央病院	非常勤医師	竹内　侯雄		50日
	弘前市立病院	非常勤医師			50日
	平内病院	非常勤医師	加藤　朝香		50日
	七戸町立病院	非常勤医師	木村　智美		50日
	鶴田病院	非常勤医師			50日
	黒石病院	非常勤医師	盛　　泰子		50日
	三戸中央病院	非常勤医師			50日
09年度	松丘保養園非常勤医師	教　　授	中澤　　満		50日
	公立野辺地病院	准 教 授	鈴木　幸彦		50日
	公立金木病院	准 教 授			50日
	三戸町立中央病院	講　　師	山崎　仁志		50日
	十和田市立中央病院	講　　師			50日
	板柳中央病院	助　　教	目時　友美		50日
	平内中央病院	助　　教			50日
	小坂町診療所	助　　教			50日
	鰺ヶ沢町立中央病院	助　　教	宮川　靖博		80日
	公立米内沢総合病院	助　　教			80日
	鶴田町立病院	助　　教	伊藤　　忠		80日
	公立七戸病院，三戸中央病院，大鰐町立病院	助　　教	鈴木　　香		120日
	鶴田町立中央病院	助　　教			50日
	公立野辺地病院	助　　教			50日
	小坂町診療所	助　　教			50日
	北秋中央病院	助　　教	竹内　侯雄		50日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

23. 耳鼻咽喉科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

学会活動：日本専門医認定制機構の専門医制度整備指針に基づき耳鼻咽喉科専門医制度の改革を行う。　90％

社会活動：機会があれば，積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。特に耳の日には，一般人に対して難聴に関する講演や相談会を企画実行する。　60％

これから２年間の目標：

学会活動：日本専門医認定制機構の専門医制度整備指針に基づき耳鼻咽喉科専門医制度の改革を行う。

社会活動：機会があれば，積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。特に耳の日には，地域住民に対して難聴に関する講演や相談会を企画実行する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　2，講師　0，助教　5，助手　0，医員　2，大学院学生　3，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　2，講師　0，助教　5，助手　0，医員　2，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本耳鼻咽喉科学会定款委員会	委員長	新川　秀一	東京ほか	5日
	日本耳鼻咽喉科学会	評議員			
	耳鼻咽喉科専門医認定試験委員会	委員長		東京ほか	7日
	日本耳科学会	評議員			
	日本アレルギー学会　試験問題作成非常任委員	委員	松原　篤	東京ほか	2日
	日本アレルギー学会	代議員		東京ほか	2日
	日本耳科学会	評議員	欠畑　誠治	東京ほか	2日
	日本耳鼻咽喉科学会　補聴器キーパーソン	委員	南場　淳司	東京ほか	2日
09年度	日本耳鼻咽喉科学会	評議員	新川　秀一		
	日本耳科学会	評議員			
	日本アレルギー学会	代議員	松原　篤	秋田	1日
	日本アレルギー協会東北支部会	世話人		仙台	1日
	日本耳科学会	評議員	欠畑　誠治	東京他	
	日本耳鼻咽喉科学会　補聴器キーパーソン	委員	南場　淳司		

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会　学術講演会	会長	新川　秀一	青森・弘前・八戸	3日
09年度	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会	会長	新川　秀一	弘前	1日
				青森	1日
				八戸	1日
	第23回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会	実行委員長		仙台	2日
	第15回北日本頭頸部癌治療研究会	会長		仙台	1日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本耳鼻咽喉科学会	査読	新川　秀一		2日
	日本耳科学会				2日
	耳鼻咽喉科臨床学会				2日
	耳鼻と臨床				2日
	Tohoku Med J				2日
	Neuroscience Letter	審査員	松原　篤		2日
	Auris Nasus　Larynx	査読			2日
	Allergology International	査読			2日

	Auris Nasus Larynx	査　　読	新川　秀一		
	Neuroscience Letter Auris Nasus Larynx Allergology International	審　査　員	松原　　篤	1件 4件 1件	
09年度	FEBS Letters Neuroscience Letters Auris Nasus　Larynx International Working Group Association for Research	査　　読 査　　読 査　　読 Active Member Inter-national Committe	欠畑　誠治		

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	朝日新聞への記事 弘前大企画「これだけは知っておきたいがんの話（下咽頭癌，舌癌，喉頭癌）」		南場　淳司		

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県社会福祉審議会	部　会　長	新川　秀一		1日
	青森県公安委員会 青森県花粉情報研究会 NPO 花粉情報協会 青森県社会保険診療支払基金	指　定　医 理　　事 理　　事 審　委　員	松原　　篤		1日 1日 30日 2日
	青森県立弘前聾学校	評 議 委 員	南場　淳司		2日
09年度	青森県医師会 青森県社会福祉審議会	理　　事 委　　員	新川　秀一		1日／月 2回／年
	青森県公安委員会 青森県花粉情報研究会 青森県社会保険診療報酬支払基金 NPO 花粉情報協会	指　定　医 理　　事 審　委　員 理　　事	松原　　篤		 1日 30日 1日
	日本学術振興会科学研究費委員会	専 門 委 員	欠畑　誠治		
	弘前聾学校 弘前市就学指導委員会	評 議 委 員 専 門 委 員	南場　淳司		2日 2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	平成20年度慶耳会学術講演会 第30回北北海道耳鼻咽喉科懇話会	教　　授	新川　秀一		1日 1日
	青森市耳鼻咽喉科医会講演会 新旭医土曜会講演会 第43回弘前耳鼻咽喉科医会 鹿児島 Airway　Forum　2008 学術講演会 　花粉症治療における患者とコミュニケーションの重要性 弘前耳鼻咽喉科医会勉強会 兵庫県アレルギーカンファレンス 県南地区学術講演会 宮崎　Airway　フォーラム2009 学術講演会　福島 アレルギー疾患 Up to Date 学術講演会	准　教　授	松原　　篤		1日 1日 1日 1日 3日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 2日

	第10回桜山耳鼻咽喉科臨床懇話会 平成20年度青森県臨床内科医学会 津軽地区耳鼻科講演会				1日 1日 1日
	第43回弘前耳鼻咽喉科医会 三重大学病態修復医学講座セミナー	准　教　授	欠畑　誠治		1日 1日
09年度	第10回京大耳鼻科オープンラボ側頭骨セミナー	講　　師	新川　秀一		1日
	第10回京都側頭骨手術手技研究会 第43回弘前耳鼻咽喉科医会 第5回弘前神経放射線カンファレンス 医用システム開発マイスター養成塾アドバンストコース	講　　師	欠畑　誠治		1日 1日 1日 1日
	地域保健関係職員研修会	講　　師	南場　淳司		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県立青森聾学校 青森県立弘前聾学校	学　校　医	南場　淳司		2日 2日
	光星学院野辺地西高等学校 青森県立六ヶ所高等学校	学　校　医	佐々木　亮		1日 1日
09年度	青森県立青森聾学校 青森県立弘前聾学校 弘前大学	学　校　医	南場　淳司		2日 2日 7日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	板柳町立中央病院 青森県身体障害者更生相談所	嘱　　託	新川　秀一		
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原　　篤		1日/週
	七戸病院 弘前市立病院	非常勤医師	欠畑　誠治		1日/週
	青森市立浪岡病院 鰺ヶ沢町立中央病院 労災病院	非常勤医師	二井　一則		1日/週
	十和田市立中央病院 三戸中央病院 野辺地病院 国保黒石病院	非常勤医師	南場　淳司		1日/週
	国立療養所松丘保養園 五戸総合病院 青森市立浪岡病院	非常勤医師	佐々木　亮		1日/週
	十和田市立中央病院 三戸中央病院 鰺ヶ沢町立中央病院 米内沢総合病院 青森市立浪岡病院	非常勤医師	阿部　尚央		1日/週
	鰺ヶ沢町立中央病院 黎明郷リハビリテーション病院 十和田市立中央病院 三戸中央病院	非常勤医師	井上　　卓		1日/週
09年度	青森県身体障害者更生相談所 板柳中央病院	嘱　託　医 非常勤医師	新川　秀一		50
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原　　篤		50
	公立七戸病院 弘前市立病院		欠畑　誠治		100
	弘前市立病院 公立野辺地病院 いちのへ耳鼻科 黒石病院		南場　淳司		100

	国立療養所松丘保養園 青森市立浪岡病院	非常勤医師	佐々木　亮		100
	鰺ヶ沢町立中央病院 黒石病院 青森市民病院 米内沢総合病院 青森市立浪岡病院		高畑　淳子		100
	十和田市立中央病院 三戸中央病院 鰺ヶ沢町立中央病院 五戸総合病院 橋本耳鼻咽喉科クリニック		阿部　尚央		100
	鰺ヶ沢町立中央病院 公立米内沢総合病院 青森市立浪岡病院 公立野辺地病院 黎明郷リハビリテーション病院		井上　　卓		100

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

24. 放射線科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1）必要とされる社会貢献を，できる範囲で行っていく。

80％

これから２年間の目標：

1）必要とされる社会貢献を，できる範囲で行っていく。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　3，助手　0，医員　1，大学院学生　3，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　1，講師　2，助教　2，助手　0，医員　4，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本医学放射線学会	代　議　員	小野　修一	横浜	1日
	日本医学放射線学会北日本地方会	世　話　人		札幌，仙台	2日
	日本核医学会北日本地方会	世　話　人		札幌，仙台	2日
	胸部放射線研究機構	世　話　人		郡山	1日
	呼吸機能イメージング研究会	世　話　人		京都	1日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	代表世話人		弘前	2日
	SCC	世　話　人		仙台	6日
	東北胸部放射線研究会	世　話　人		新潟	1日
	宮城 CT 診断・技術研究会	世　話　人		仙台	1日
	あおば画像研究会	世　話　人		仙台	1日
	宮城総合画像研究会	世　話　人		仙台	1日
	青森呼吸器研究会	幹　　事		青森	1日
	青森核医学研究会	世　話　人		弘前	1日
	病理と放射線の夕べ	世　話　人		弘前	1日
	高精度放射線外部照射研究会	世　話　人	青木　昌彦	福岡県	2日
	青森呼吸器研究会	世　話　人		青森市	1日
	北奥羽放射線治療懇話会	幹　　事		八幡平市	2日
	高精度放射線外部照射研究会	世　話　人		名古屋市	2日
	日本放射線腫瘍学研究機構総会	委　　員		東京都	1日
	日本放射線腫瘍学会	委　　員		札幌市	3日
	青森県核医学研究会	世　話　人	三浦　弘行	弘前	1日
	東北脳神経血管内治療研究会	世　話　人	長畑　守雄		2日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人			2日
09年度	日本医学放射線学会	代　議　員	小野　修一	横浜	1
	日本医学放射線学会倫理委員会	委　　員		横浜	1
	日本医学放射線学会北日本地方会	世　話　人		弘前，仙台	2
	日本核医学会北日本地方会	世　話　人		弘前，仙台	2
	胸部放射線研究機構	世　話　人		横浜	1
	呼吸機能イメージング研究会	世　話　人		那覇	1
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	代表世話人		弘前	2
	北日本放射線診断カンファランス	幹　　事		弘前，仙台	2
	東北胸部放射線研究会	世　話　人		秋田	1
	東北びまん性肺疾患研究会	実務世話人		仙台	1
	東北感染症・化療フォーラム	世　話　人		盛岡，山形	2
	SCC	世　話　人		仙台	1
	宮城 CT 診断・技術研究会	世　話　人		仙台	1
	あおば画像研究会	世　話　人		仙台	1
	宮城総合画像研究会	世　話　人		仙台	1
	青森呼吸器研究会	幹　　事		青森	1
	青森核医学研究会	世　話　人		弘前	1
	病理と放射線の夕べ	世　話　人		弘前	1
	津軽 EOB・プリモビスト研究会	代表世話人		弘前	2

	第25回青森県核医学研究会	世　話　人	三浦　弘行	弘前	1
	東北脳神経血管内治療研究会 東北脳神経血管内治療研究会 SIRCHS 研究会	世　話　人	長畑　守雄	郡山市 仙台市 横浜市	1 1 1
	津軽 EOB・プリモビスト研究会	世　話　人	澁谷　剛一	弘前	1

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	がんプロフェッショナル養成プラン秋季セミナー	幹　　事	青木　昌彦	青森市	2日
	第13回北奥羽放射線治療懇話会	幹　　事		八幡平市	2日
09年度	第120回日本医学放射線学会北日本地方会	当番世話人（代行）	小野　修一	弘前	2
	第65回日本核医学会北日本地方会	当番世話人（代行）		弘前	2
	第120回日本医学放射線学会北日本地方会	事務局	三浦　弘行	弘前	2
	第65回日本核医学会北日本地方会	事務局		弘前	2

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Radiation Medicine	査　　読	小野　修一		1日
	日本放射線腫瘍学会誌	査　　読	青木　昌彦	2件	2日
	Annals of Nuclear Medicine	査　　読	三浦　弘行		4日
	Radiation Medicine 誌 Artery Research 誌	査　　読 査　　読	長畑　守雄		6日 7日
09年度	Jpn J Radiol	査　　読	小野　修一		1日
	Ann Nucl Med	査　　読	三浦　弘行		5日
	Japanese Journal of Radiology Journal of the Neurological Sciences Artery Research	査　　読 査　　読 査　　読	長畑　守雄		6日 6日 6日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	朝日新聞弘前大企画がんの話	執　　筆	青木　昌彦	3件	3日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県小児がん等調査実務検討委員会	委　　員	青木　昌彦	院内	2日
09年度	青森県じん肺審査医会 青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議	審 査 医 評 価 委 員	小野　修一	弘前 青森市	8 2

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	胸部造影 CT における造影意義・造影法を考える会	講　　師	小野　修一	横浜市	1日
	第88回 SCC	講　　師		仙台市	1日
	第3回青森 CT・MRI 診断・技術研究会	講　　師		弘前市	1日
	むつ総合病院平成20年度「第1回合同症例検討会」	講　　師		むつ市	1日
	第17回胸部 CT 症例検討会	講　　師		高松市	1日

	AstraZeneca 泌尿器科セミナー	特別講師	青木　昌彦	弘前市	1日
	弘前市立病院乳がん学習会	特別講師		弘前市	1日
	ゾメタ疼痛緩和セミナー	特別講師		弘前市	1日
	平成20年度科学研究費補助金山田班	研究分担		山梨県	2日
09年度	SCC 講演	講師	小野　修一	仙台	1
	かん専門薬剤師研修講義	講師		弘前	1
	岩手県立中部病院 FDG-PET 講演会	講師		北上	1
	青森市脳卒中診断・治療学術講演会	講師	長畑　守雄	青森市	1
	第22回日本 IVR 学会北日本地方会	講師		山形市	1
	第 1 回みちのく Skill Up Course and Seminar	講師		仙台市	1
	第10回庄内核医学研究会	講師		酒田市	1
	第 9 回和歌山・泉州脳神経血管内治療研究会	講師		和歌山市	1
	研修医のためのプライマリケアセミナー	講師	畑山　佳臣	弘前	1

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	八戸市立八戸市民病院	非常勤医	小野　修一		50日
	国保黒石病院	非常勤医			62日
	三沢病院	非常勤医	青木　昌彦	三沢	44日
	大館市立総合病院	非常勤医		大館	49日
	西北中央病院	非常勤医	三浦　弘行		100日
	NPO 法人国際総合研究機構	非常勤医			50日
	黒石市国保黒石病院	非常勤医	長畑　守雄		毎週
	弘前脳卒中センター	非常勤医			毎週
	青森市民病院	非常勤医			不定期
	NPO 法人国際総合研究機構	非常勤医			毎週
	大館市立総合病院	非常勤医			不定期
	山形市立病院 済生館	非常勤医			不定期
	青森市民病院	非常勤医	畑山　佳臣	青森市	100日
09年度	八戸市立市民病院	非常勤医師	小野　修一		50
	国保黒石病院	非常勤医師			50
	西北中央病院	非常勤医師	三浦　弘行		90
	NPO 国際総合研究機構	非常勤医師			50
	黒石市国保黒石病院	非常勤医師	長畑　守雄		50
	弘前脳卒中センター	非常勤医師			50
	青森市民病院	非常勤医師			20
	NPO 法人国際総合研究機構	非常勤医師			50
	大館市立総合病院	非常勤医師			10
	山形市立病院 済生館	非常勤医師			10
	青森県立中央病院	非常勤医師	澁谷　剛一		50
	八戸市立市民病院	非常勤医師			50
	三沢市立市民病院	非常勤医師			50
	青森市民病院	非常勤医師	畑山　佳臣		100

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	「PET/CT 開始」	取材協力 記者会見	青木　昌彦	朝日，東奥日報，陸奥新報，河北，読売，毎日，ABA	1日
09年度	FM アップルウェーブ番組「弘大病院から今日は」：放射線科の診療	出　演　者	小野　修一	弘前	1

25. 産科婦人科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

人員の制限はあったが可能な限りの社会貢献をおこなった。

これから２年間の目標：

現状のさらなる発展をめざし努力する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　3，大学院学生　4，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　2，医員　0，大学院学生　5，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本産科婦人科学会	代　議　員	藤井　俊策	京都他	10日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	小委員長		東京	5日
	日本産科婦人科学会学術委員会	委　　員		東京	3日
	日本産科婦人科学会教育委員会	委　　員		東京	3日
	日本更年期医学会	理　事　長		東京	7日
	日本受精着床学会	理　　事		仙台	2日
	日本母性衛生学会	理　　事		東京	2日
	日本女性心身医学会	理　　事		京都	1日
	日本内分泌学会	代　議　員		東京	2日
	日本骨代謝学会	評　議　員		大阪	2日
	日本癌治療学会			東京	1日
	日本生殖医学会	評　議　員		秋田	4日
	日本骨粗鬆症学会	評　議　員		東京	3日
	青森県臨床産婦人科医会	会　　長		青森	5日
	Healthy Aging Projects for Women	理　　事		東京	2日
	日本産婦人科医会研修委員会	委　　員		東京	16日
	日本哺乳動物卵子学会編集委員会	委　　員		東京	3日
	日本哺乳動物卵子学会培地作成委員会	委　　員		東京	3日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委　　員		東京	3日
	日本生殖医学会	評　議　員		大阪	1日
	日本不妊学会東北支部会	評　議　員		東京	1日
	日本生殖免疫学会	評　議　員		東京	1日
	日本産婦人科内視鏡学会技術認定制度	審　査　員		弘前	1日
	日本産婦人科内視鏡学会	評　議　員		東京	1日
	日本不妊予防協会	評　議　員		東京	1日
	青森県内視鏡外科研究会	世　話　人		青森	1日
	青森県 STD 研究会	世　話　人		青森	1日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世　話　人		仙台	1日
	青森県臨床産婦人科医会	理　　事		青森	5日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委　　員	樋口　　毅		5日
	日本更年期医学会	幹　　事			5日
	日本婦人科腫瘍学会	評　議　員	横山　良仁		4日
	日本婦人科腫瘍学会卵巣がん治療ガイドライン改訂委員会	作成委員			2日
	東北婦人科腫瘍研究会	幹　　事			6日
	婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構	監査委員			2日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世　話　人	福井　淳史		1日
	米国生殖免疫学会	論文編集委員			
	青森県臨床細胞学会	理　　事	二神　真行		1日
09年度	日本産科婦人科学会	代議員	水沼　英樹	京都他	10日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	小委員長		東京	5日
	日本産科婦人科学会学術委員会	委員		東京	3日

09年度	日本産科婦人科学会教育委員会	委員		東京	3日
	日本更年期医学会	理事長		東京	7日
	日本受精着床学会	理事		仙台	2日
	日本女性心身医学会	理事		京都	1日
	日本内分泌学会	代議員		東京	2日
	日本骨代謝学会	評議員		大阪	2日
	日本癌治療学会			東京	1日
	日本生殖医学会	評議員		秋田	4日
	日本骨粗鬆症学会	評議員		東京	3日
	青森県臨床産婦人科医会	会長		青森	5日
	Healthy Aging Projects for Women	理事		東京	2日
	日本産婦人科医会研修委員会	委員	藤井　俊策	東京	16日
	日本哺乳動物卵子学会編集委員会	委員		東京	3日
	日本哺乳動物卵子学会培地作成委員会	委員		東京	3日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委員		東京	3日
	日本生殖医学会	評議員		大阪	1日
	日本不妊学会東北支部会	評議員		東京	1日
	日本生殖免疫学会	評議員		東京	1日
	日本産婦人科内視鏡学会技術認定制度	審査員		弘前	1日
	日本産婦人科内視鏡学会	評議員		東京	1日
	日本不妊予防協会	評議員		東京	1日
	青森県内視鏡外科研究会	世話人		青森	1日
	青森県 STD 研究会	世話人		青森	1日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世話人		仙台	1日
	青森県臨床産婦人科医会	理事		青森	5日
	日本更年期医学会	幹事	樋口　毅	東京	5日
	東北婦人科腫瘍研究会	幹事	横山　良仁		4日
	日本婦人科腫瘍学会	評議員			6日
	婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構	監査委員			2日
	日本産科婦人科学会専門医試験作成委員会	委員			4日
	日本婦人科腫瘍学会　卵巣がん治療ガイドライン改訂委員会	委員			4日
	日本産科婦人科学会　子宮頸癌治療ガイドライン改訂委員会	委員			4日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世話人	福井　淳史		1日
	米国生殖免疫学会	論文編集委員			
	青森県臨床細胞学会	理事	二神　真行		1日

（2）学会などの開催

	件名	役職	氏名	備考	日数
08年度	第56回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会	会長	水沼　英樹		2日
	青森県臨床産婦人科医会	会長			4日
	青森県周生期医療研究会	世話人			1日
	青森婦人科癌化学療法研究会	世話人			1日
	婦人科骨粗鬆症研究会	世話人			1日
09年度	第24回日本更年期医学会学術集会	会長	水沼　英樹		2日
	青森県臨床産婦人科医会	会長			5日
	青森県周生期医療研究会	世話人			1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件名	役職	氏名	備考	日数
08年度	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY	編集委員	水沼　英樹		2日
	骨粗鬆症治療	編集委員			2日
	J Bone & Mineral Metab	査読員			4日
	今日の治療方針2008	責任担当			5日
	J Obstet Gynecol Res	なし	藤井　俊策	査読	4日
	J Mammalian Ova Research	編集委員		編集・査読	7日
	Reporod Med Biol	なし		査読	7日
	青森臨産婦誌	編集委員		編集	14日
	日本産婦人科医会研修ノート	研修委員		編集	10日
	日本更年期医学会雑誌	査読	樋口　毅		

	Molecular and Cellular Biochemistry	審　査　員	横山　良仁		7日
	Drug Design, Development and Therapy	審　査　員			7日
	Surgical Oncology	審　査　員			7日
	Tohoku Journal of Experimental Medicine	審　査　員			7日
	Cancer Detect. Prevent.	審　査　員			7日
	Journal of Cellular and Molecular Medicine	審　査　員			7日
	Editorial board of American Journal of Reproductive Immunology	Editorial board member	福井　淳史	10論文査読および編集会議参加	73日(7日×10本＋会議参加)
09年度	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY	編集委員	水沼　英樹		2日
	骨粗鬆症治療	編集委員			2日
	J Bone & Mineral Metab	査　読　員			4日
	今日の治療指針2009	責任担当			5日
	J Obstet Gynecol Res	な　　し	藤井　俊策		4日
	J Mammalian Ova Research	編集委員			7日
	Reporod Med Biol	な　　し			7日
	青森臨産婦誌	編集委員			14日
	日本産婦人科医会研修ノート	研修委員			10日
	日本更年期医学会雑誌	査　読　員	樋口　　毅	査読	
	Molecular and Cellular Biochemistry	審査委員	横山　良仁		7日
	Drug Design, Development and Therapy	審査委員			7日
	Surgical Oncology				
	Tohoku Journal of Experimental Medicine	審査委員			7日
	Cancer Detect. Prevent.				
	Journal of Cellular and Molecular Medicine	審査委員			7日
	Drugs	審査委員			7日
	Journal of Chinese Clinical Medicine	審査委員			14日
	Cancer Detect and Prevention	審査委員			7日
	Journal of Obstetrics and Gynecology Research	審査委員			7日
	Gynecologic Oncology	審査委員			7日
	European Journal of Gynecological Oncology	編集委員			14日
	Editorial board of American Journal of Reproductive Immunology	Editorial board member	福井　淳史	11論文査読および編集会議参加	80日(7日×11本＋会議参加)
	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	査　読　員		査読	7日
	The Journal of Obstetrics and Gynecology research	査　読　員		査読	7日
	Reproduction BioMedicine online	査　読　員		査読	7日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県不妊専門員相談員研修会	講　　師	藤井　俊策	青森	1日
	市民公開講座	講　　師		むつ	1日
	青森県更年期心身医療懇話会市民公開講座	講　　師	樋口　　毅		1日
09年度	市民公開講座	教　　授	水沼　英樹	むつ	1日
	青森県不妊専門員相談員研修会	准　教　授	藤井　俊策	青森	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県総合健診センター	理　　事	水沼　英樹		1日
	青森県地域保健医療対策協議会周産母子医療対策専門部会	委　　員			1日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員			2日
	日本学術振興会科学研究費委員会	専門委員			1日
	厚労省女性の健康づくり推進懇談会	委　　員			2日
	青森県骨密度判定委員会	委　　員	樋口　　毅		1日
	マンモグラフィー読影委員会				10日
	子宮がん検診管理指導委員会	委　　員	横山　良仁		1日

09年度	青森県総合健診センター	理　　事	水沼　英樹		1日
	青森県地域保健医療対策協議会周産母子医療対策専門部会	委　　員			1日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委　　員			2日
	日本学術振興会科学研究費委員会	専門委員			1日
	厚労省女性の健康づくり推進懇談会	委　　員			2日
	青森県骨密度判定委員会	委　　員	樋口　　毅		1日
	マンモグラフィー読影委員会				10日
	子宮がん検診管理指導委員会	委　　員	横山　良仁		1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	都市エリア産官学連携事業	研究分担	樋口　　毅		
09年度	都市エリア産官学連携事業	研究分担	樋口　　毅		

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学医学部学術特別賞記念講演	講　　師	横山　良仁		1日
	がん専門薬剤師研修セミナー	講　　師			1日
	JSAWI シンポジウム	講　　師			1日
	関東ホルモンと癌研究会	講　　師			1日
09年度	がん専門薬剤師研修セミナー	講　　師	横山　良仁		1日
	青森県立保健大学がん化学療法看護認定看護師教育課程				1日
	平成21年度生活習慣病等集団検診従事者研修会招請講演				1日
	青森緩和研究会外来化学療法と緩和ケア招請講演				1日
	第6回婦人科がん会議　子宮頸部腺癌術後補助化学療法招請講演				1日
	第47回日本婦人科腫瘍学会公募研究報告				1日
	JGOG コンセンサスセミナー招請講演				1日
	青森臨床産婦人科医会学術奨励賞記念講演				1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	藤井　俊策	青森県内	3日
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	樋口　　毅	青森県内	
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	横山　良仁	青森県内	5日
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	福井　淳史	青森県内	
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	二神　真行	青森県内	
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	山本　善光	青森県内	
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	木村　秀崇	青森県内	3日
09年度	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	藤井　俊策	青森県内	3日
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	樋口　　毅	青森県内	1日
	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検診医	横山　良仁	青森県内	2日

	青森県総合検診センター （子宮癌・卵巣癌検診）	検　診　医	福井　淳史	青森県内	2日
	青森県総合検診センター （子宮癌・卵巣癌検診）	検　診　医	二神　真行	青森県内	
	青森県総合検診センター （子宮癌・卵巣癌検診）	検　診　医	山本　善光	青森県内	4日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	公立野辺地病院	非常勤医師	藤井　俊策		48日
	公立野辺地病院 黒石病院 大館市立総合病院 青森市民病院	非常勤医師	樋口　　毅		26日
	十和田市立中央病院 黒石病院 大館市立総合病院 青森市民病院	非常勤医師	横山　良仁		10日
	弘前市立病院 黒石病院 大館市立総合病院 青森市立病院	非常勤医師	福井　淳史		48日
	弘前市立病院 黒石病院 大館市立総合病院 青森市立病院	非常勤医師	二神　真行		48日
	弘前市立病院 黒石病院 大館市立総合病院 青森市立病院	非常勤医師	山本　善光		50日
	十和田市立中央病院 黒石病院 大館市立総合病院 青森市立病院	非常勤医師	木村　秀崇		11日
09年度	公立野辺地病院	非常勤医師	藤井　俊策		49日
	公立野辺地病院 むつ総合病院 黒石病院 青森市民病院 西北中央病院	非常勤医師	樋口　　毅		49日
	弘前市立病院 むつ総合病院 青森市民病院 西北中央病院 黒石病院	非常勤医師	横山　良仁		48日
	弘前市立病院 むつ総合病院 黒石病院 西北中央病院 青森市民病院	非常勤医師	福井　淳史		49日
	弘前市立病院 むつ総合病院 青森市民病院 西北中央病院 黒石病院	非常勤医師	二神　真行		48日
	弘前市立病院 むつ総合病院 青森市民病院 西北中央病院 黒石病院	非常勤医師	山本　善光		50日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

26. 麻酔科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

①学外の医学教育にも可能な限り協力するとともに麻酔科領域の，学会活動，教育・啓蒙活動を展開する。=> 緩和医療を中心に啓蒙活動を展開したので100%

②救急救命士に対する気管挿管手技についての実習の充実に努める。=> 受け入れはスムーズで予定人員すべてが実習で来たので100%

③超音波ガイド下末梢神経ブロックおよび中心静脈穿刺の手技の普及，教育に努める。=> ワークショップ等も積極的に行い普及に努めたので100%

④今後も麻酔科学から見た医療安全の向上に勤める。=> リスクマネージメント報告を通して安全性向上に心がけたので100%

⑤地域病院の麻酔支援も引き続いて行うとともに地域医療のあり方についても提言していく。=> 出来るだけ努力はしているものの人員不足で必ずしも地域病院の麻酔支援が十分とは言えず到達度は60%。

これから２年間の目標：

①学外の医学教育にも可能な限り協力するとともに麻酔科領域の，学会活動，教育・啓蒙活動を展開する。

②救急救命士に対する気管挿管手技についての実習の充実に努める。

③超音波ガイド下末梢神経ブロックおよび中心静脈穿刺の手技の普及，教育に努める。

④今後も麻酔科学から見た医療安全の向上に勤める。

⑤地域病院の麻酔支援も引き続いて行うとともに地域医療のあり方についても提言していく。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　2，助教　4，助手　0，医員　13，大学院学生　9，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　10，大学院学生　7，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本麻酔科学会代議員会	代　議　員	廣田　和美		2日
	日本麻酔科学会機関編集部会	編 集 委 員			2日
	日本麻酔科学会北海道東北支部理事会	理　　事			1日
	日本麻酔科学会専門医認定委員会	試　験　官			10日
	日本ペインクリニック学会評議員会	評　議　員			1日
	日本ペインクリニック学会東北地方会世話人会	世　話　人			1日
	日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会評議員会	評　議　員			1日
	日本集中治療医学会東北地方会評議員会	評　議　員			1日
	循環制御医学会	評　議　員			1日
	日本ペインクリニック学会	評　議　員	佐藤　哲観		1日
	日本ペインクリニック学会東北地方会	世　話　人			1日
	つがる緩和医療を考える会	世　話　人			1日
	青函ペインクリニック研究会	世　話　人			1日
	青森緩和医療研究会	世　話　人			1日
	日本超音波区域麻酔研究会	評　議　員	北山　真任	ワークショップ	5日
	日本調音波区域麻酔研究会	理　　事	廣田　和美	ワークショップ	4日
09年度	日本麻酔科学会代議員会	代　議　員	廣田　和美		2日
	日本麻酔科学会機関編集委員会	編 集 委 員			3日
	日本麻酔科学会北海道東北支部理事会	理　　事			2日
	日本麻酔科学会専門医認定委員会	試　験　官			6日
	日本ペインクリニック学会評議員会	評　議　員			1日
	日本ペインクリニック学会東北地方会世話人会	世　話　人			1日
	日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会評議員会	評　議　員			1日
	日本集中治療医学会東北地方会評議員会	評　議　員			1日

	日本循環制御医学会	評　議　員	廣田　和美		1日
	日本集中治療医学会会則検討委員会	委　　員	石原　弘規		1日
	日本ペインクリニック学会東北地方会 つがる緩和医療を考える会 青函ペインクリニック研究会 日本緩和医療学会 日本ペインクリニック学会 青森緩和医療研究会	世　話　人 世　話　人 世　話　人 代　議　員 代　議　員 世　話　人	佐藤　哲観		1日 1日 1日 1日 1日 1日
	日本超音波区域麻酔研究会	評　議　員	北山真任		1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	第24回体液・代謝管理研究会	会　　長	石原　弘規	東京都	2日
09年度	第21回青森県内分泌研究会	当番世話人	廣田　和美		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	British Journal of Anaesthesia Journal of Anesthesia 英国麻酔科学会 日本臨床麻酔学会誌	国際編集委員 編 集 委 員 研究費査読員 査　読　員	廣田　和美	査読12編 査読20編 3研究査読 査読2編	84日 140日 21日 14日
	学会誌の査読 Crit Care Med 日本集中治療医学会雑誌 Journal of Anesthesia	査 読 委 員	石原弘規	 1回 4回 4回	
	British Journal of Anaesthesia Journal of Anesthesia	審　査　員 審　査　員	櫛方　哲也	2件査読 2件査読	15日 15日
09年度	British Journal of Anaesthesia Journal of Anesthesia Anesth Analg ペインクリニック学会誌 日本臨床麻酔学会誌	国際編集委員 編 集 委 員 査　読　員 査　読　員 査　読　員	廣田　和美	9件 12件 1件 1件 2件	
	学会誌の査読（Crit Care Med 2編，Anesth Analg 1編，Med Sci Monit 3編，日本集中治療医学会雑誌4編）	査 読 委 員	石原　弘規	7件	
	British Journal of Anaesthesia Journal of Anesthesia	査　読　員 査 読 委 員	櫛方　哲也	3件 7件	
	Journal of Anesthesia	査 読 委 員	佐藤　哲観	5件	

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	医学研究科公開講座 公開講座番組「リンゴ王国こうぎょくカレッジ」	広報委員会委員 出　演　者	廣田　和美	弘前市 弘前市	1日 1日
	弘前弓道会 弘前大学弓道部	副　会　長 師　　範	工藤　　剛	弘前市 弘前市	200日 10日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	弘前市 Rh（-）友の会	会　　長	工藤　　剛	5日	
09年度	日本学術振興会特別研究員当審査会	専 門 委 員	廣田　和美		

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	五所川原市立西北中央病院	非　常　勤	廣田　和美	毎週火曜	44日
	青森市民病院	非　常　勤	石原　弘規	毎週火曜	43日
	青森厚生病院 青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	非　常　勤 タスクフォース	佐藤　哲観	毎週火曜	49日
	黒石厚生病院	非　常　勤	櫛方　哲也	毎週水曜	48日
	五所川原市立西北中央病院	非　常　勤	木村　　太	毎週月曜	40日
	五所川原市立西北中央病院	非　常　勤	北山　眞任	毎週木曜	40日
09年度	五所川原市立西北中央病院	非常勤	廣田　和美	毎週火曜	43日
	青森市民病院	非常勤	石原　弘規	毎週火曜	45日
	青森厚生病院 青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ 日本緩和医療学会指導者研修会ワークショップ	非常勤 タスクフォース ファシリテータ・ディレクター	佐藤　哲観	毎週火曜	50日 2日 23日
	黒石厚生病院	非常勤	櫛方　哲也	毎週水曜	45日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤	木村　　太	毎週月曜	45日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤	北山　眞任	毎週木曜	45日
	青森市民病院	非常勤	遠瀬　龍二	毎週月曜	19日
	函館渡辺病院	非常勤	丹羽　英智	月2回	

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	国際共同研究 1. 英国レスター大学麻酔科学講座 2. イタリア・フェラーラ大学薬理学講座 3. 米国 GSK 研究所 研究者招聘 1. 釜山大学	教　　授	廣田　和美	電子メール，FAX などで交流	研究者招聘 2日
09年度	国際共同研究 1. 英国レスター大学麻酔科学講座 2. イタリア・フェラーラ大学薬理学講座 研究者招聘 1. ドイツハノーヴァー医科大学 釜山大学	教　　授	廣田　和美	電子メール，FAX などで交流	

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

27. 脳神経外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

市民，医療関係者向けの講演会開催も回数を増やし，目標を達成することができた。

これから２年間の目標：

講演会や市民講座の開催またインターネットを用い脳疾患に対する質疑にも応じていきたい

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　3，助教　3，助手　0，医員　2，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　3，助教　3，助手　0，医員　3，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本脳神経外科学会	評　議　員	大熊　洋揮		3日
	日本脳卒中学会	評　議　員			3日
	スパズムシンポジウム	世　話　人			1日
	日本意識障害学会	評　議　員			1日
	日本脳神経外科救急学会	評　議　員			2日
	日本脳卒中の外科学会	運営委員			3日
	東北脳血管障害研究会	世　話　人			2日
	東北脳循環カンファランス	世　話　人			1日
	ニューロトランスミッター研究会	世　話　人			1日
	青森県脳卒中フォーラム	世　話　人			1日
	青森県脳神経外科談話会	世　話　人			1日
	日本脳神経外科学会東北地方会	理　　事			2日
	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員			3日
	東北脳腫瘍懇話会	企　画　員	浅野研一郎		2日
	青森県脳神経外科談話会	世　話　人			1日
	青森県脳卒中フォーラム	書　　記			1日
09年度	日本脳神経外科学会	評　議　員	大熊　洋揮		3日
	日本脳卒中学会	評　議　員			3日
	スパズムシンポジウム	世　話　人			1日
	日本意識障害学会	評　議　員			1日
	日本脳神経外科救急学会	評　議　員			2日
	日本脳卒中の外科学会	運営委員			3日
	東北脳血管障害研究会	世　話　人			2日
	東北脳循環カンファランス	世　話　人			1日
	ニューロトランスミッター研究会	世　話　人			1日
	青森県脳卒中フォーラム	世　話　人			1日
	青森県脳神経外科談話会	世　話　人			1日
	日本脳神経外科学会東北地方会	理　　事			2日
	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員			3日
	東北脳腫瘍懇話会	企　画　員	浅野研一郎		2日
	青森県脳神経外科談話会	世　話　人			1日
	青森県脳卒中フォーラム	書　　記			1日
	日本脳腫瘍病理学会	評　議　員			2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第15回弘前脳疾患臨床セミナー	会　　長	大熊　洋揮	弘前市	1日
	第３回青森県脳腫瘍セミナー				1日
	第16回弘前脳疾患臨床セミナー				1日

09年度	第16回弘前脳疾患臨床セミナー 第 4 回青森県脳腫瘍セミナー 第17回弘前脳疾患臨床セミナー	会　　長	大熊　洋揮	弘前市	1日 1日 1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	CI 研究 脳神経外科 Neurologica Medico Chirurgica	編 集 委 員 編 集 同 人 編 集 委 員	大熊　洋揮		2日 2日 7日
	東北脳腫瘍懇話会	編　集　員	浅野研一郎		2日
09年度	CI 研究 脳神経外科 Neurologica Medico Chirurgica	編 集 委 員 編 集 同 人 編 集 委 員	大熊　洋揮		2日 2日 7日
	東北脳腫瘍懇話会 Brain Tumor Pathology	編　集　員 編　集　員	浅野研一郎		2日 4日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	市民脳卒中フォーラム	講　　師	大熊　洋揮	十和田市	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県公安委員会	指定専門医	大熊　洋揮		1日
09年度	青森県公安委員会	指定専門医	大熊　洋揮		1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第7回秋田フリーラジカル研究会 第13回関西脳神経外科セミナー 第6回茨城血管研究会 第17回下北医療研究会 八戸脳卒中研究会	教　　授	大熊　洋揮		5日
	北五地区若手医師の会 弘前脳疾患勉強会 第16回弘前脳疾患臨床セミナー	講　　師	中野　高広		3日
	第15回弘前脳疾患臨床セミナー 第3回研修医のためのプライマリ・ケア・セミナー 弘前脳血管内治療学術講演会	講　　師	嶋村　則人		3日
	北東北がんプロ公開講演会 青森県脳腫瘍セミナー	講　　師	浅野研一郎		2日 1日
09年度	第1回北海道整容脳神経外科セミナー 健康・医療講演会 平成21年度弘前大学公開講座 脳卒中カンファランス in 釧路	教　　授	大熊　洋揮		4日
	第7回弘前超音波研究会 弘前脳疾患勉強会	講　　師	嶋村　則人		
	青森県脳腫瘍セミナー	講　　師	浅野研一郎		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	西北中央病院 黒石病院	非常勤医師	大熊　洋揮		72日 48日
	西北病院 むつ総合病院 ヒロサキメディカルセンター 公立野辺地病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	中野　高広		30日 24日 30日 6日 22日
	西北病院 ヒロサキメディカルセンター 弘前脳卒中センター 公立野辺地病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	浅野研一郎		30日 24日 24日 6日 22日
	西北病院 むつ総合病院 ヒロサキメディカルセンター 公立野辺地病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	嶋村　則人		24日 24日 12日 6日 22日
	三沢病院 一関病院 ヒロサキメディカルセンター 弘前脳卒中センター ときわ会病院 公立野辺地病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	工藤香名江		6日 24日 30日 30日 6日 6日 6日
	むつ総合病院 ヒロサキメディカルセンター 一関病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	小笠原ゆかり		24日 12日 48日 12日
	三沢病院 一関病院 ヒロサキメディカルセンター 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	竹田　哲司		6日 6日 24日 6日
	一関病院 ヒロサキメディカルセン ときわ会病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	奈良岡征都		24日 30日 6日 30日
	ヒロサキメディカルセンター 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	棟方　　聡		48日 36日
09年度	西北中央病院 黒石病院	非常勤医師	大熊　洋揮		48日 48日
	西北病院 むつ総合病院 ヒロサキメディカルセンター 公立野辺地病院 弘前脳卒中センター	非常勤医師	中野　高広		30日 24日 30日 6日 22日
	西北病院 ヒロサキメディカルセンター 弘前脳卒中センター 公立野辺地病院 むつ総合病院	非常勤医師	浅野研一郎		30日 24日 24日 6日 24日
	西北病院 むつ総合病院 ヒロサキメディカルセンター 公立野辺地病院 弘前脳卒中センター	非常勤医師	嶋村　則人		24日 12日 24日 3日 22日
	西北病院 一関病院 ヒロサキメディカルセンター ときわ会病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	工藤香名江		24日 24日 24日 12日 30日

	一関病院 ヒロサキメディカルセンター ときわ会病院 黒石市国保黒石病院	非常勤医師	棟方　　聡		24日 24日 12日 24日

(11) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(12) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

28. 歯科口腔外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

木村　博人

○病診連携を更に推進し，患者紹介率の向上に努める。

○学会活動に積極的に貢献し，医療・福祉の向上に寄与する。

○パラメディカル教育に貢献する。

○口腔癌の早期発見のため，広報活動・地域公開講座などに積極的に参画する。

達成度　（80％）

小林　恒

○依頼があれば，進んで協力を行う。

達成度　（80％）

佐藤　寿

○青森県より依頼された，保健指導医を引き続き併任する。

○本業に支障のないように，地域医療（特に，有病者の歯科治療）に貢献する。

達成度　（90％）

成田　憲司

○専門的な知識・情報をわかりやすく説明・発信しながら地域医療に貢献すること。

達成度　（70％）

榊　宏剛

○地域医療への貢献を積極的に行う。

達成度　（90％）

これから２年間の目標：

木村　博人

○病診連携を更に推進し，患者紹介率の向上に努める。

○学会活動に積極的に貢献し，医療・福祉の向上に寄与する。

○パラメディカル教育に貢献する。

○口腔癌の早期発見のため，広報活動・地域公開講座などに積極的に参画する。

小林　恒

○地域医療への貢献・口腔外科疾患の啓蒙を積極的に行う。

佐藤　寿

○青森県より依頼された，保健指導医を引き続き併任する。

○本業に支障のないように，地域医療（特に有病者の歯科治療）に貢献する。

榊　宏剛

○地域医療への貢献を積極的に行い，広報活動にも努める。

成田　憲司

○最新の医学知識や専門的知識をわかりやすく発信しながら，地域医療に貢献すること。

久保田　耕世

○積極的に地域医療への貢献に努める。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　3，助手　0，医員　7，大学院学生　1，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　1，助教　3，助手　0，医員　7，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	㈳日本口腔外科学会	常任理事	木村　博人	東京都	27日
				徳島市	2日
				岡山市	2日
	㈳日本口腔外科学会	指導医実地審査		室蘭市	2日
				帯広市	2日
	NPO法人日本口腔科学会	理　　事		東京都	1日
				福岡市	2日
	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議	会　　長		宮崎市	3日
	国立大学歯学部長・病院長会議	オブザーバー委員		仙台市	2日
	日本歯科医学会評議会	評　議　員		東京都	3日
	㈳日本口腔インプラント学会	理　　事		東京都	3日
09年度	㈳日本口腔外科学会	常任理事	木村　博人	東京都	28日
				札幌市	2日
				神戸市	2日
	㈳日本口腔外科学会	指導医実地審査		いわき市	1日
				新潟市	2日
	NPO法人日本口腔科学会	理　　事		東京都	1日
				浜松市	2日
	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議	会　　長		東京都	1日
	日本歯科医学会評議会	評　議　員		東京都	2日
	㈳日本口腔インプラント学会	理　　事		東京都	2日
				大阪市	3日
	日本小児口腔外科学会	常任理事		東京都	4日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本口腔外科学会雑誌編集査読委員会	委　員　長	木村　博人	東京都	16日
	日本歯科医学会英文雑誌編集委員会	Editorial Board委　員		東京都	5日
09年度	日本口腔外科学会雑誌編集査読委員会	委　員　長	木村　博人	東京都	16日
	日本歯科医学会専門分科会資格審査委員会	委　　員		東京都	2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学大学院医学研究科公開講座	講　　師	木村　博人	医学部コミュニケーションセンター	1日
	第22回「市民の健康まつり」歯科相談コーナー	専　門　医	小林　　恒	弘前総合保健センター	1日
09年度	第23回「市民の健康まつり」歯科相談コーナー	専　門　医	小林　　恒	弘前市	2日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	歯科医師臨床研修マッチング協議会運営会議	委　　員	木村　博人	東京都	2日
	歯科医師臨床研修問題ワーキングチーム委員会	委　　員		東京都	1日
	青森県障害児歯科病院・診療所ネットワーク検討会	委　　員		青森市	2日
	青森県社会保険事務所	保険指導医	佐藤　　寿	青森市	32日
09年度	歯科医師臨床研修問題ワーキングチーム	委　　員	木村　博人	東京都	2日
	青森県障害児歯科病院・診療所ネットワーク検討会	オブザーバー		青森市	1日
	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会	委　　員		弘前市	1日

	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会 専 門 委 員	木村　博人	弘前市	7日
	全国健康保険協会青森支部	保険給付審査 医師(歯科)	佐藤　　寿	青森市	10日
	東北厚生局青森事務所	保険指導医		青森市	35日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	大館北秋田歯科医師会新年学術講演会	講　　師	小林　　恒	大館市	1日
	ドライマウスアドバイザーミーティング	講　　師		弘前市	1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学保健管理センター	学校歯科医	小林　　恒	幼稚園 小学校 中学校 特別支援	1日 1日 1日 1日
09年度	弘前大学保健管理センター	学校歯科医	小林　　恒	幼稚園 小学校 中学校 特別支援	1日 1日 1日 1日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森市民病院	非常勤医師	木村　博人	青森市	12日
	独立行政法人労働者健康福祉機構青森労災病院	非常勤医師		八戸市	12日
	北秋中央病院	非常勤医師		北秋田市	12日
	八戸市立市民病院	非常勤医師		八戸市	1日
	北部上北広域事務組合公立野辺地病院	非常勤医師	小林　　恒	野辺地町	48日
	独立行政法人国立病院機構弘前病院	非常勤医師		弘前市	48日
	三沢市立三沢病院	非常勤医師		三沢市	5日
	㈶鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	佐藤　　寿	弘前市	48日
	㈶鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	成田　憲司	弘前市	48日
	日本原燃株式会社げんねん診療所	非常勤医師		六ヶ所村	24日
	石江歯科クリニック	非常勤医師		青森市	12日
	㈶鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	榊　　宏剛	弘前市	25日
	秋田県立上小阿仁村国保診療所	非常勤医師		上小阿仁村	10日
	㈶黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師		平川市	29日
09年度	青森市民病院	非常勤医師	木村　博人	青森市	12日
	独立行政法人労働者健康福祉機構　青森労災病院	非常勤医師		八戸市	12日
	北秋中央病院	非常勤医師		北秋田市	12日
	北部上北広域事務組合　公立野辺地病院	非常勤医師	小林　　恒	野辺地町	50日
	独立行政法人国立病院機構　弘前病院	非常勤医師		弘前市	50日
	三沢市立三沢病院	非常勤医師		三沢市	6日
	㈶鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	佐藤　　寿	弘前市	47日
	日本原燃株式会社げんねん診療所	非常勤医師	成田　憲司	六ヶ所村	46日
	石江歯科クリニック	非常勤医師		青森市	19日
	㈶鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	榊　　宏剛	弘前市	48日
	秋田県立上小阿仁村国保診療所	非常勤医師		上小阿仁村	17日
	田舎館歯科クリニック	非常勤医師		田舎館村	7日

	秋田県立上小阿仁村国保診療所	非常勤医師	久保田耕世	上小阿仁村	10日
	㈶黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師		平川市	46日
	青森市民病院	非常勤医師		青森市	6日
	独立行政法人国立病院機構　青森病院	非常勤医師		青森市	13日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	FMアップルウェーブ「弘大病院からこんにちは。」	講　　師	佐藤　　寿	弘前市	1日

29. 形成外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

コ・メディカルも参加できる学会を開催できた。

目標はおおむね達成できたと思われる。

これから２年間の目標：

形成外科診療を通して，さらに地域に貢献できるよう努める。学会活動を積極的に行う。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　3，助手　0，医員　3，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　1，助教　3，助手　0，医員　3，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本形成外科学会評議員会	講　　師	横井　克憲	名古屋	2日
	日本形成外科学会北海道・東北支部運営委員会	講　　師		札幌	2日
	日本熱傷学会東北地方会世話人会	講　　師		盛岡	1日
	東北マイクロサージャリー懇話会世話人会	講　　師		仙台	1日
	日本形成外科学会東北地方会運営委員会	講　　師		盛岡	1日
	日本褥瘡学会東北地方会世話人会	助　　教	漆舘　聡志	山形	2日
	青森県骨盤外科研究会世話人会	助　　教		青森	1日
09年度	日本形成外科学会評議員	講　　師	横井　克憲	横浜	2日
	日本形成外科学会北海道・東北支部評議員	講　　師		仙台	1日
	日本熱傷学会東北地方会世話人	講　　師		弘前	1日
	東北マイクロサージャリー懇話会世話人	講　　師		仙台	1日
	日本褥瘡学会東北地方会	助　　教	漆舘　聡志	青森	2日
	青森県骨盤外科研究会	助　　教		青森	1日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	第15回日本熱傷学会東北地方会	講　　師	横井　克憲	弘前	1日
	第6回日本褥瘡学会東北地方会	教　　授	澤村　大輔	青森	1日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	科研製薬社内研修会	助　　教	漆舘　聡志		1日
	弘前大学医学部附属病院プライマリケアセミナー	助　　教			1日
	H20年度日本褥瘡学会在宅医療セミナー	助　　教			1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森総合検診センター	助　　教	三上　　誠		月2
09年度	青森県総合検診センター	助　　教	三上　　誠	青森市	月2回

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	三沢市立三沢病院	講　　師	横井　克憲	三沢	週1
	青森市民病院			青森	週1
	青森市民病院	助　　教	漆舘　聡志	青森	週1
	むつ総合病院			むつ	隔週
	西北中央病院			五所川原	隔週
	むつ総合病院	助　　教	渡辺　庸介	むつ	隔週
	北秋中央病院			秋田	週1
	弘愛会病院			弘前	月2
	西北中央病院	助　　教	三上　　誠	五所川原	隔週
	北秋中央病院			秋田	週1
09年度	三沢市立三沢病院	講　　師	横井　克憲	三沢	週1
	青森市民病院			青森	週1
	青森市民病院	助　　教	漆舘　聡志	青森	週1
	むつ総合病院			むつ	月2
	西北中央病院			五所川原	月2
	岩木健康増進プロジェクト			弘前	7日
	むつ総合病院	助　　教	渡辺　庸介	むつ	月2
	北秋中央病院			北秋田	週1
	弘愛会病院			弘前	月2
	西北中央病院	助　　教	三上　　誠	五所川原	月2
	北秋中央病院			北秋田	週1
	岩木健康増進プロジェクト			弘前	7日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

30. 救急・災害医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本中毒学会　評議員会	評　議　員	浅利　　靖		1
	日本中毒学会　学術委員会	委　　員			3
	日本中毒学会東日本地方会	幹　　事			1
	日本集団災害医学会　評議員会	評　議　員			1
	日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	理　　事			2
	共用試験実施評価機構　医学系 OSCE 事後評価解析小委員会課題改訂専門部会	委　　員			12
	共用試験実施評価機構　医学系 OSCE 事後評価解析小委員会学習・評価項目等改訂専門部会	委　　員			8
	日本救急医学会	評　議　員			1
	日本救急医学会　会則改訂委員会	委　　員			1
	日本臨床救急医学会	評　議　員			1
	東北救急医学会	幹　　事			1

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委　　員	浅利　　靖		1
	青森県メディカルコントロール協議会	委　　員			1
	つがる西北五地域メディカルコントロール協議会	委　　員			1
	津軽地域保健医療推進協議会医療対策部会	委　　員			1

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本原燃診療所	産　業　医	浅利　　靖		48
	原子力安全研究協会・被ばく医療青森フォーラム	講　　師			1
	原子力安全研究協会・教材検討委員会	委　　員			2
	原子力安全研究協会・搬送ワーキンググループ委員会	委　　員			2
	原子力安全研究協会・DTPA 投与方法検討委員会	委　　員			2
	国立医薬品食品研究所・化学物質による緊急危害対応のための情報に関する専門家会合	委　　員			4
	放射線医学総合研究所　地域緊急被ばく医療連絡協議会	委　　員			2
	青森厚生病院での全身麻酔管理	指導医師	大川　浩文		45
	日本原燃診療所	医　　師	安達　淳司		45
	弘愛会病院での外来診療	医　　師	矢口　慎也		45

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	国際協力事業団国際緊急援助隊総合調節部会	アドバイザー	浅利　　靖		4

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森プレホスピタル外傷研究会外傷初期診療 IPTEC 講習会	主　催　者	浅利　　靖		2
	青森プレホスピタル外傷研究会 JPTEC コースインストラクターコース	主　催　者			2
	青森県医師会 ACLS 講習会	指　導　医			1
	青森県医師会 ACLS 講習会	指　導　医	大川　浩文		1
	青森県医師会 ACLS 講習会	指　導　医	安達　淳司		1
	青森県医師会 ACLS 講習会	指　導　医	矢口　慎也		1

31. 臨床検査医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

概ね達成できた。

これから2年間の目標：

学生からの講義評価＞3.5と実習評価＞4.0の獲得を目指す。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　1，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本腎臓学会 日本高血圧学会 日本内科学会 日本臨床検査医学会 日本臨床検査自動化学会	評　議　員 評　議　員 評　議　員 評　議　員 評　議　員	保嶋　実	東京	5日
09年度	日本腎臓学会 日本高血圧学会 日本内科学会 日本臨床検査医学会 日本臨床検査自動化学会	評　議　員 評　議　員 評　議　員 評　議　員 評　議　員	保嶋　実	東京	5日

（2）学会などの開催

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本臨床検査自動化学会第22回春季セミナー	例　会　長	保嶋　実		2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	Tohoku J Exp Med	査　読　員	保嶋　実		2日
	Hypertension Res	査　読　員			2日
	日本臨床検査自動化学会会誌	査　読　員			2日
	Biomarkers の査読	査　読　者	杉本　一博		10日
	Brain Res Bull の査読	査　読　者			10日
	弘前医学の査読	査　読　者			10日
09年度	Tohoku J Exp Med	査　読　員	保嶋　実		2日
	Hypertension Res	査　読　員			2日
	日本臨床検査自動化学会会誌	査　読　員			2日
	Journal of Diabetes and Its Complications の査読	査　読　者	杉本　一博		10日
	Journal of Diabetes Investigation の査読および再査読	査　読　者			20日
	Neurochemistry International の査読	査　読　者			10日
	Experimental Diabetes Research の査読および再査読	査　読　者			20日
	Clinical Experimental and Hypertension の査読	査　読　者			10日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	第1回公開高血圧講座	相　談　員	保嶋　実		1日
09年度	第2回公開高血圧講座	相　談　員	保嶋　実		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	東北大学医学部保健学科	外部評価委員	保嶋　　実		2日
	青森県医師会	理　　事			12日
	青森県精度管理専門委員会	委　　員			3日
09年度	青森県精度管理専門委員会	委　　員	保嶋　　実		3日
	予防接種健康被害調査委員会	専門医師			2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	遠野市医師会学術講演会	演　　者	保嶋　　実	学術講演	1日
	日本臨床検査薬卸協議会定時総会	演　　者		特別講演	1日
	CKD 病診連携研究会	演　　者		教育講演	1日
	第15回日本遺伝子診療学会	演　　者		シンポジウム	1日
	第42回日本臨床検査医学会北海道支部例会	演　　者		特別講演	1日
09年度	青森大学薬学部薬学科専門必修科目	非常勤講師	杉本　一博		2日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	保嶋　　実		51日
	板柳中央病院	非常勤医師	杉本　一博		51日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			24日
	十和田市立中央病院	非常勤医師			24日
09年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	保嶋　　実		48日
	板柳中央病院	非常勤医師	杉本　一博		48日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			22日
	十和田市立中央病院	非常勤医師			24日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

32. 臨床薬理学講座　（資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

（２）学会などの開催

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

33. 小児外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

地方自治体の医療福祉行政，検診，自治体病院における診療指導および学会活動においてはほぼ目標通り貢献したものと思われる。

これから２年間の目標：

これまでの貢献に加え，要望があれば公開講座を含めた講義活動も行いたい。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本小児外科学会 日本外科学会	評　議　員 代　議　員	棟方　博文		2日 2日
	日本小児外科学会 日本腹部救急医学会	評　議　員 評　議　員	須貝　道博		2日 2日
09年度	日本小児外科学会 日本外科学会	評　議　員 代　議　員	棟方　博文		2日
	日本小児外科学会 日本腹部救急医学会	評　議　員 評　議　員	須貝　道博		2日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	第39回青森県周生期医療研究会	会　　長	棟方　博文		1日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	Surgery Today 日本小児外科学会	査読委員 査読委員	棟方　博文		1回 1回
	日本腹部救急医学会 日本小児外科学会	査読委員 査読委員	須貝　道博		1回 1回
09年度	Surgery Today 日本小児外科会	査　読　員 査　読　員	棟方　博文		1回 1回
	日本小児外科学会 日本腹部救急医学会	査　読　員 査　読　員	須貝　道博		1回 1回

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	救急医学セミナー	講　　師	須貝　道博		1日
09年度	弘前医師会特別講演	講　　師	須貝　道博		1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	1）青森県地域保健医療対策協議会 2）周産期情報調査小委員会 3）青森県小児がん等調査委員会	教　　授	棟方　博文		2日 4日 2日
	1）青森県小児がん実務検討委員会	講　　師	須貝　道博		3日

09年度	青森県地域保健医療対策協議会 周産期情報調査小委員会	委　員 委員長	棟方　博文		2日 4日
	青森県小児がん等調査委員会 青森県実務検討委員会	委　員 委　員	須貝　道博		2日 3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	弘前医師会特別講演	講　師	須貝　道博		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県総合健診センター乳がん検診 マンモグラフィー読影委員会	委　員	須貝　道博		6日
09年度	青森県総合健診センター乳がん マンモグラフィー読影委員会	委　員	須貝　道博		5日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	公立野辺地病院 五所川原市立西北病院	教　授	棟方　博文		20日 34日
	大鰐町立病院	講　師	須貝　道博		50日
09年度	公立野辺地病院 五所川原市立西北中央病院	非常勤医師 非常勤医師	棟方　博文		1日
	大鰐町立病院	非常勤医師	須貝　道博		1日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

34. 医学医療情報学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

（羽　田）20%

（佐々木）70%

（松　谷）80%

これから２年間の目標：

・学内・地域における情報セキュリティに関する啓蒙活動

・診療情報の病院内外間の流通促進

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本医療情報学会	評　議　員	羽田　隆吉		0
	日本消化器内視鏡学会	評　議　員	佐々木賀広		2
09年度	日本医療情学会	評　議　員	羽田　隆吉	（委任状）	2
	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	佐々木賀広		2

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第12回日本医療情報学会 春季学術大会プログラム委員	委　　員	羽田　隆吉	2008年1月－6月	

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県がん医療検討委員会	委　　員	松谷　秀哉		3
09年度	青森県がん医療検討委員会	委　　員	松谷　秀哉		3

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	高等学校情報部会・研修会	講　　師	松谷　秀哉		1
09年度	第27回北奥羽地区消化器内視鏡技師研究会	講　　師	佐々木賀広	内視鏡特殊観察の原理と応用	1

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	羽田　隆吉	（外科）	50
	つがる市立成人病センター	非常勤医師	佐々木賀広	（内科）	50
09年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	羽田　隆吉		50
	つがる市立成人病センター	非常勤医師	佐々木賀広		50

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

35. 総合診療医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

卒後研修に関し，学内外の理解を深めて頂くよう努める。（80％）

総合診療の専門家として地域の医師へ啓蒙活動を行う。（70％）

これから２年間の目標：

卒後研修に関し，学内外や地域の理解を深めて頂くよう努める。

総合診療の専門家として地域の医師へ啓蒙活動を行う。

県内の研修指導医に，指導医講習会などを通じて，教育的技法を修得するための援助を行う。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　2，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　2，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本救急医学会	評　議　員	加藤　博之		2日
	日本腎臓学会	学術評議員	大沢　　弘		1日
	日本腎臓学会	専門医試験問題作成委員			6日
	日本内科学会	専門医部会東北支部会長			2日
	日本内科学会	病歴評価委員			6日
09年度	日本内科学会東北支部	評　議　員	加藤　博之		1日
	東北救急医学会医師部会	幹　　事			1日
	日本腎臓学会	専門医試験問題作成委員	大沢　　弘		3日
	日本内科学会	専門医部会東北支部会長			2日
	日本内科学会	救急委員会運営WG委員			1日
	日本内科学会	病歴評価委員			6日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第182回日本内科学会東北地方会	企画・開催責任者	大沢　弘	仙台	1日
	専門医部会教育セミナー				
	日本内科学会専門医部会東北支部教育セミナー「第1回青森内科セミナー」	企画・責任者		弘前	1日
09年度	第185回日本内科学会東北地方会	企画・実施責任者	大沢　　弘	仙台	1日
	専門医部会教育セミナー				
	日本内科学会専門医部会東北支部教育セミナー「第2回青森内科セミナー」	企画・実施責任者		青森	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本臨床救急医学会雑誌	査　読　員	加藤　博之		2日
	医学教育	査　読　員			2日
	Clin Exp Nephrol	reviewer	大沢　　弘		7日
09年度	日本臨床救急医学会雑誌	査　読　員	加藤　博之		2日
	Clin Exp Nephrol	reviewer	大沢　　弘		7日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	PALS（小児二次救命処置法）プロバイダーコース 平成20年11月8，9日　弘前大学 平成21年3月7，8日　仙台	インストラクター	加藤　博之		4日
	青森県医師会 ACLS 講習会　弘前	インストラクター	大串　和久		1日
	PALS（小児二次救命処置）プロバイダーコース 山形，岩手，秋田，弘前	インストラクター			8日
	JATEC（外傷初期診療）コース　八戸	インストラクター			2日
09年度	PALS（小児二次救命処置法） プロバイダーコース				
	平成21年9月26，27日　秋田	インストラクター	加藤　博之		2日
	平成21年11月14，15日　弘前大学	インストラクター			2日
	平成22年2月27，28日　仙台	インストラクター			2日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県医師臨床研修対策協議会	副　会　長	加藤　博之		2日
	青森県医師臨床研修対策協議会企画委員会	委　員　長			9日
	東北厚生局　東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース			3日
	第3回秋田県臨床研修協議会　医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース			3日
	国立大学附属病院長会議　第5回医師臨床研修協議会	本学代表			2日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	説　明　員	加藤　博之 大沢　　弘 大串　和久		6日 2日 2日
	青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース	大沢　　弘		3日
	茨城県医師臨床研修連絡協議会主催　平成20年度第4回指導医養成講習会	タスクフォース			3日
	東北ブロック臨床研修病院合同説明会	説　明　員			1日
	青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース	大串　和久		3日
09年度	青森県医師臨床研修対策協議会	副　会　長	加藤　博之		1日
	青森県医師臨床研修対策協議会企画委員会	委　員　長			5日
	第8回青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース			3日
	第6回秋田県臨床研修協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース			3日
	平成21年度岩手県研修医合同オリエンテーション	講　　師			2日
	国立大学附属病院長会議　第6回医師臨床研修協議会	本学代表			1日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	説　明　員			5日
	青森県医師臨床研修対策協議会進路相談会	説　明　員			8日
	青森県医師臨床研修対策協議会臨床研修医ワークショップ	講　　師			2日
	弘前大学医師会理事会	理　　事			2日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	説　明　員	大沢　　弘		3日
	第8回青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース			3日
	東北ブロック臨床研修病院合同説明会	説　明　員			1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	平成20年度岩手県臨床研修医合同オリエンテーション	講　　師	加藤　博之		2日
	秋田県臨床研修協議会　医師臨床研修指導医ワークショップ	講　　師			2日
	平成20年度青森県医師会生涯教育講座	講　　師			1日
	六ヶ所村夏期研究集会	講　　師			2日
	日本内科学会北陸地方会　第45回生涯教育講演会	講　　師			2日
	岩手県医学部進学セミナー	講　　師			1日
	第11回地域循環器診療研究会	講　　師			2日
09年度	平成21年度岩手県臨床研修医合同オリエンテーションで講演	講　　師	加藤　博之		1日
	砂川市立病院で講演	講　　師			2日
	第17回日本集中治療医学会東海北陸地方会で講演	講　　師			2日
	岩手県立中部病院で講演	講　　師			1日
	市立函館病院で講演	講　　師			2日
	南大阪臨床研修フォーラムで講演	講　　師			2日
	青森市外科医会で講演	講　　師			2日
	第6回秋田県臨床研修協議会　医師臨床研修指導医ワークショップで講演	講　　師			1日
	平成21年度地域医療振興協会青森県支部会議で講演	講　　師			2日
	国立成育医療センターで講演	講　　師			2日
	むつ下北地区地域医療研究会で講演	講　　師			2日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	国民健康保険黒石病院	非常勤医師	加藤　博之		49
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	大沢　　弘		102
	青森県立さわらび医療療育センター	非常勤医師			2
	国立病院機構弘前病院	非常勤医師	大串　和久		50
	げんねん診療所	非常勤医師			33
	青森県立さわらび医療療育センター	非常勤医師			2
09年度	国民健康保険黒石病院	非常勤医師	加藤　博之		48
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	大沢　　弘		99

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	第12回日本臨床救急医学会　一般演題発表	座　　長	加藤　博之		2
	第23回東北救急医学会　一般演題発表	座　　長			2
	第37回日本救急医学会　一般演題発表	座　　長			2
	青森臨床研修セミナー　特別講演	座　　長			1
	青森研修医セミナー　特別講演	座　　長			1
	弘前卒後臨床研修セミナー　特別講演	座　　長			1

36. 薬剤学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

薬薬連携の強化を行った。1つとして院外処方率が向上とともに院外保険薬局での後発医薬品の使用頻度が高まったことから，院内で採用している後発医薬品の情報を開示し，適正な使用に貢献した。また，がん化学療法剤の院外使用が増加したため，各保険薬局との患者情報の共有化を図るため「おくすり手帳」の活用を検討した。

これから2年間の目標：

地域における患者への安全かつ適切な薬物療法を目指し，地域における薬剤師との情報の共有化を積極的に図る。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県病院薬剤師会 日本病院薬剤師会 東北病院薬剤師会 医薬品相互作用研究会	会　長 理　事 会　長 会　長	早狩　誠		
09年度	医薬品相互作用研究会	会　長	早狩　誠		2日
	医薬品相互作用研究会	理　事	藤田　祥子		2日
	医薬品相互作用研究会	評　議　員	下山　律子		2日
	医薬品相互作用研究会		野呂　秀紀		2日

（2）学会などの開催

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	医療薬学会公開シンポジウム	会　長	早狩　誠	2008.11.22	1日
09年度	医薬品相互作用シンポジウム	会　長	早狩　誠	弘前市	2日
	医薬品相互作用シンポジウム	理　事	藤田　祥子	弘前市	2日
	医薬品相互作用シンポジウム	評　議　員	下山　律子	弘前市	2日
	医薬品相互作用シンポジウム		野呂　秀紀	弘前市	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本病院薬剤師会雑誌 日本病院薬剤師会がん専門薬剤師認定審査	理　事 委　員	早狩　誠	査読 審査	3日
09年度	日本病院薬剤師会雑誌	理　事	早狩　誠	査読	
	医薬品相互作用研究会誌	理　事	藤田　祥子	査読	

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	厚生労働省科学研究費補助金「医薬品の環境評価ガイドラインに関する研究」，第2回班会議	理　事	早狩　誠	オブザーバー 東京	2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	第9回弘前大学と八戸高専とのシーズ提案会	教　授	早狩　誠	弘前	1日

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	徳島県病院薬剤師会研修会	教　授	早狩　誠	2009.3.12	1日
09年度	青森県薬剤師会青森支部大会	教　授	早狩　誠		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	弘前大学附属小学校	主　任	福士　涼子	学校薬剤師	

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本病院薬剤師会国際交流委員会 (弘前市にて講演会の開催)	委　員	早狩　誠	米国より招聘 2009.2.27	1日

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

37. 脳神経病理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

専門性を発揮し，神経病理学の普及に努める（達成度100%）。

これから2年間の目標：

専門性を発揮し，神経病理学の普及に努める。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本神経病理学会	評　議　員 広 報 委 員 将来計画委員 プログラム委員	若林　孝一		1日 1日 1日 1日
	日本神経病理学会	評　議　員	森　　文秋		1日
09年度	日本神経病理学会	監事・評議員 広 報 委 員 将来計画委員 プログラム委員	若林　孝一		1日 1日 1日 1日
	日本神経病理学会	評　議　員	森　　文秋		1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	北日本病理研究会	当番世話人	若林　孝一		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	査読（Acta Neuropathologica） 査読（Neuropathology） 査読（Pathology International） 査読（Microbiol Immunol） 弘前医学編集委員		若林　孝一		12日 18日 6日 2日 3日
09年度	査読（Acta Neuropathologica） 査読（Neuropathology） 査読（Pathology International） 査読（Lancet Neurol） 査読（Neuroltox Res） 弘前医学編集委員		若林　孝一		12日 14日 2日 2日 2日 1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	神戸臨床神経病理研究会 北海道パーキンソン病研究会 BRAIN BANK 講演会 老年期認知症研究会		若林　孝一		1日 1日 1日 1日
09年度	パーキンソン病に関する講演		若林　孝一		3日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	法医解剖例の脳の検索	教　　授	若林　孝一		20日

38. 脳血管病態学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

100％

これから２年間の目標：

可能な限り社会貢献活動を積極的に実施する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　1
09年度		教授　1，准教授　0，講師　2，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　1，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	Journal of Neurochemistry 論文査読	講　師	吉田　秀見		15日
	Journal of Neurochemistry 論文査読	講　師			6日
	BMC Immunology 論文査読	助　教	今泉　忠淳		2日
09年度	Translational Research 論文査読	助　教	今泉　忠淳		4日
	Proteomics 論文査読				4日
	MBC Research Notes 論文査読				4日
	Am J Med Sci 論文査読				4日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	弘前大学生涯教育講座	教　授	佐藤　敬	三沢市	1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県医療審議会	教　授	佐藤　敬		2日
	青森県地域医療対策協議会				2日
	青森県総合計画審議会				2日
	青森県基本計画策定委員会				2日
09年度	青森県医療審議会	教　授	佐藤　敬		1日
	青森県地域医療対策協議会				1日
	青森県総合計画審議会				2日
	青森県基本計画策定委員会				2日
	青森県産業保健推進センター運営協議会				1日

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県自治体病院協議会講演会	教　　授	佐藤　　敬		1日
	弘前安全運転管理事業主会講演会	助　　教	今泉　忠淳		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	国立青森病院非常勤歯科医師 財団法人黎明郷非常勤歯科医師	助　　教	松宮　朋穂		25日 25日
09年度	財団法人黎明郷非常勤歯科医師	助　　教	松宮　朋穂		50日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前大学白菊会　役員（監事）	講　　師	吉田　秀見		2日
09年度	弘前大学白菊会　役員（監事）	講　　師	吉田　秀見		2日

39. 脳神経生理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

特許出願を考えた動物作出。

第11回弘前国際フォーラムへの参加，講演を行った。

非常勤医師としての地域医療への貢献が行えた。全体の到達度としては80%

これから２年間の目標：

所属学会の学会開催のための委員としての活動。

心の遺伝子レポジトリ成果の学術集会の開催，参加および講演を行う。

業務に差し支えない範囲での地域医療へ貢献。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　0(1)，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　0(1)

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	弘前医学	教　授	上野　伸哉		7日
09年度	弘前医学 Brain Research 査読	教　授	上野　伸哉		10日 4日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	りんご王国こうぎょくカレッジ(ラジオ市民講座)	講　師	山田　順子		1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	大館市立病院　非常勤医師	教　　授	上野　伸哉		20日
09年度	大館市立病院　非常勤医師	教　　授	上野　伸哉		20日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

40. 脳神経内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

弘前大学附属病院神経内科，青森県における優秀な神経内科医の育成に努め，世界的な業績の発信を目標とし，神経内科専門医および大学院生を育成した。

これから２年間の目標：

以上の成果を基盤として，さらに弘前大学附属病院神経内科，青森県における優秀な神経内科医の育成に努め，世界的な業績の発信を行う。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　1，講師　1，助教　1，助手　0，医員　3，大学院学生　3，研究生　2
09年度		教授　1，准教授　1，講師　1，助教　1，助手　0，医員　3，大学院学生　3，研究生　2

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	①日本神経学会:専門医認定医，評議員，指導医，ガイドライン作製委員	教　授	東海林幹夫		10日
	②日本認知症学会：理事，専門医認定員	教　授			3日
	③日本老年医学会：代議員，指導医	教　授			5日
	④日本神経治療学会：評議員	教　授			1日
	⑤日本内科学会認定研修指導医	教　授			1日
	⑥アルツハイマー病研修会世話人	教　授			1日
	⑦日本認知症学会：評議員基礎研究促進委員会委員専門医症例報告書審査委員	准教授	松原　悦朗		10日
09年度	①日本神経学会:専門医認定医，評議員，指導医，臨床神経学査読委員，認知症ガイドライン改訂委員，専門医認定委員会委員	教　授 教　授	東海林幹夫		4日 3日
	②日本認知症学会：理事，学会奨励賞選考委員	教　授			1日
	③日本老年医学会：代議員	教　授			4日
	④日本神経学会：評議員，IT化推進委員	准教授	松原　悦朗		2日
	⑤日本認知症学会：評議員，基礎研究促進委員会委員，専門医症例報告書審査委員	准教授			3日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	1. 日本神経学会市民公開講座弘前文化センター. 2008年11月29日	教　授	東海林幹夫		1日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	Brain & Nerve 編集委員 Cognition and Dementia 編集アドバイザー Neuroscience　Research ほか査読	教　授	東海林幹夫	8件	8日
	Science ほか査読	准教授	松原　悦朗	7件	28日
	Brain および Neurobiol of Aging 査読	講　師	瓦林　毅	2件	4日
	Movement Disorders 査読	助　教	渡辺　光法	1件	1日
09年度	国内外雑誌論文査読　8件	教　授	東海林幹夫	3件	36日
	国外雑誌論文査読	准教授	松原　悦朗	4件	40日
	Brain および International Journal of Alzheimer's disease 査読	講　師	瓦林　毅	2件	6日
	Psychiatry and Clinical Neurosciences 査読	助　教	渡辺　光法	1件	1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第2回もの忘れフォーラム in 弘前打合会，ホテルニューキャッスル，2008年2月6日	教　　授			1日
	第2回弘前脳卒中セミナー（卜部貴夫先生）弘前文化センター，2008年3月14日	教　　授			1日
	もの忘れフォーラム in 五所川原，プラザマリュー五所川原，2008年3月16日	教　　授			1日
	第2回もの忘れフォーラム in 弘前　（朝田隆教授），弘前文化センター，2008年3月29日	教　　授			1日
	Fighting Vascular Events in Hirosaki.（橋本洋一郎先生，棚橋紀夫教授），ホテルニューキャッスル．2008年4月4日	教　　授			1日
	第1回弘前地区認知症医療連携交流会（瓦林毅先生），ホテルニューキャッスル，2008年4月16日	教　　授			1日
	第2回弘前地区認知症医療連携交流会（瓦林毅先生），ホテルニューキャッスル，2008年11月12日	教　　授	東海林幹夫		1日
	第3回青森パーキンソン病懇話会（森松光紀先生），ホテルニューキャッスル，2008年6月14日	教　　授			1日
	弘前市学術講演会（藤本健一先生）．ベストウエスタンニューシチー弘前．2008年10月14日	教　　授			1日
	第3回青森多発性硬化症（MS）講演会と医療相談（田中恵子先生）県民福祉プラザ．2008年11月1日	教　　授			1日
	日本神経学会市民公開講座（山田正仁教授）．弘前文化センター．2008年11月29日	教　　授			1日
	第8回青森 MG 研究会（野村恭一教授）アスパム．2008年12月13日	教　　授			1日
	第3回もの忘れフォーラム in 弘前．弘前文化センター大ホール．	准 教 授	松原　悦朗		1日
	SCD・MSA に関する医療講演会相談会	助　　教	渡辺　光法		1日
09年度	1. もの忘れフォーラム　in 五所川原，2009年3月8日　オルテンシア	教　　授			1日
	2. 第4回青森神経内科談話会　レビ - 小体病の診断と治療，最近の話題　ホテルニューキャッスル（葛原茂樹先生）2009年5月30日	教　　授			1日
	3. 第3回 青森パーキンソン病懇話会　ホテルニューキャッスル　2009年6月27日　（村松慎一先生）	教　　授			1日
	4. 弘前頭痛研究会　2009年7月3日，弘前，ベストウエスタンホテル（竹島多賀夫先生）	教　　授			1日
	5. 弘前学術講演会　パーキンソン病の最新治療戦略（神成一哉先生，高橋敏夫先生），2009年7月17日	教　　授			1日
	6. 第1回弘前神経放射線カンファランス特別講演会　（青木茂樹先生）弘前ベストウエスタンホテル，2009年　7月24日	教　　授	東海林幹夫		1日
	7. もの忘れフォーラム in 大鰐　2009年8月29日，大鰐町地域交流センター鰐 come	教　　授			1日
	8. Fighting Vascular Events in Hirosaki，2009年10月1日　ホテルニューキャッスル　（木村和美教授）	教　　授			1日
	9. 第3回弘前地区認知症医療連携交流会　ホテルニューキャッスル　2009年10月7日	教　　授			1日
	10. 第4回神経内科診療勉強会　弘前大学医学部コミュニケーションセンター　2009年10月9日（杉浦嘉泰先生）	教　　授			1日

	11. 第1回パーキンソン病市民公開講座　パーキンソン病の克服を目指して．弘前市岩木文化センターあそべーる　2009年10月25日　（布村仁一，高橋敏夫）	教　　授	東海林幹夫		1日
	12. 学術講演会　神経内科疾患と肝移植　（池田修一教授）：弘前大学医学部コミュニケーションセンター．2009年10月26日	教　　授			1日
	13. 弘前市学術講演会　言語の脳機能．ホテルニューキャッスル，2009年11月6日　（岩田誠先生）	教　　授			1日
	14. 第11回アルツハイマー病フォーラム in　青森　アピオ青森　2009年11月7日（中村祐先生）	教　　授			1日
	15. 第4回青森多発性硬化症（MS）講演会と医療相談．弘前市総合学習センター　2009年11月28日　（中島一郎先生）	教　　授			1日
	16. 2010　ニューロサイエンス研究会　ホテルニューキャッスル　2010年1月29日　（佐々木淳先生）	教　　授			1日
	17. 第4回もの忘れフォーラム in 弘前．弘前文化センター　2010年2月28日　（山口晴保先生）	教　　授			1日
	18. もの忘れフォーラム in 五所川原．五所川原オルテンシア　2010年4月24日	教　　授			1日
	19. 第3回物忘れフォーラム in 弘前．2009年2月28日，弘前	准　教　授	松原　悦朗		1日
	20. 第4回青森神経内科談話会．弘前　ホテルニューキャッスル2009年5月30日	准　教　授			1日
	21. もの忘れフォーラム in 大鰐　2009年8月29日，大鰐町地域交流センター鰐 come	講　　師	瓦林　　毅		1日
	22. 第1回パーキンソン病市民公開講座　2009年10月25日　弘前市岩木文化センターあそべーる	講　　師			1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	青森県脳卒中対策協議会会長， 青森県難病対策委員会委員 青森県医療審議会委員 青森県医療審議会医療計画部会 認知症高齢化対策検討委員会委員 認知症ネットワーク推進会議． 青森県公安員会専門医師	教　　授	東海林幹夫		
	青森県公安員会専門医師	准　教　授	松原　悦朗		
09年度	青森県難病対策委員会委員 青森県認知症対策委員会委員 青森県公安委員会指定医	教　　授	東海林幹夫		2日 2日 2日
	青森県公安委員会指定医	准　教　授	松原　悦朗		1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	パーキンソン病モデルトランスジェニックマウス　特許番号　第4174212号　2008年，8月22日 ワクチンを蓄積する形質転換ダイズ植物およびその理由　発開示08-21	教　　授	東海林幹夫		
	Aβオリゴマーに特異的に結合する抗体およびその利用　特願2008-201058	准　教　授	松原　悦朗		
09年度	1. 東海林幹夫，瓦林毅：ワクチンを蓄積する形質転換ダイズ植物およびその利用，発開示08-21，PA08-15　日付	教　　授	東海林幹夫		14日

	2. 東海林幹夫，渡辺光法：アルツハイマー病の検査法，アルツハイマー病に対して治療効果を有する物質のスクリーニング方法およびアルツハイマー病の検査キット，整理番号：P2009-145（アルツハイマー），出願番号： 特願2010-48003, 出願日：2010年3月4日				14
	3. 東海林幹夫，渡辺光法：多発性硬化症の検査法，多発性硬化症に対して治療効果を有する物質のスクリーニング方法および多発性硬化症の検査キット，整理番号：P2009-146（多発性硬化症），出願番号： 特願2010-48004, 出願日：2010年3月4日				14

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	イムナス・ファーマ株式会社	准　教　授	松原　悦朗		20日

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	認知症の早期診断と治療．もの忘れフォーラムイン五所川原．プラザマリュー五所川原．	教　授	東海林幹夫	1件	1日
	動物モデルによる神経難病治療法の開発．平成20年度弘前大学医学部動物慰霊祭記念講演．	教　授		1件	1日
	認知症:診断と研究の進歩．Alzheimer病とレビー小体型認知症．第34回城南神経懇話会．目黒雅叙園	教　授		1件	1日
	認知症の早期診断．第24回青森県核医学研究会．ホテルニューキャッスル．	教　授		1件	1日
	認知症を正しく理解する．診断と治療」認知症の人と家族の会．青森市アスパム．	教　授		1件	1日
	認知症の早期診断．第1回香川認知症研究会．リーガホテル高松．	教　授		1件	1日
	穏やかな老後のために．認知症と生活習慣．弘前大学シニアサマーカレッジ．弘前大学．	教　授		1件	1日
	アルツハイマー病と生活習慣病．老年病研究所研究会．前橋．	教　授		1件	1日
	認知症の診断と治療．室蘭市医師会認知症学術講演会．ホテルサンルート室蘭	教　授		1件	1日
	アルツハイマー病研究：最近の進歩．第8回静岡デイメンシア研究会．アクトシテイー浜松．	教　授		1件	1日
	高次脳機能障害について．専門訴訟等の特殊事例研究会．青森地方裁判所．	教　授		1件	1日
	難病とは？平成20年度難病医療相談会．蓬田村ふるさと総合センター．	教　授		1件	1日
	Aβワクチン療法の現況と展望．日本神経学会東北地方会　生涯教育講演会．フォレスト仙台．	准　教　授	松原　悦朗	1件	1日
	認知症診断とMMSE 第5回弘医生涯教育講座．ベストウエスタンホテルニューシティー弘前	講　師	瓦林　毅	1件	1日
	第3回神経内科学診療勉強会	助　教	渡辺　光法	1件	1日
09年度	1. 東海林幹夫. 認知症の理解と地域での取り組み．平成20年度第3回　地域保健関係者研修．県民福祉プラザ，青森市 2009年1月28日	教　授	東海林幹夫		1日
	2. 東海林幹夫：認知症：早期診断と治療，特別講演，第30回　いわき神経疾患研究会，いわき市，2009年2月13日，	教　授			1日
	3. 東海林幹夫：認知症の治療と進歩－将来への希望－，もの忘れフォーラム in 五所川原，五所川原　オルテンシア2009年3月8日	教　授			1日
	4. 東海林幹夫：認知症：診断と治療の進歩．鶴岡地区医療学術懇話会，鶴岡，東京第一ホテル鶴岡，2009年3月11日	教　授			1日

	5. 東海林幹夫：認知症の早期診断と治療，もの忘れフォーラム in 黒石，スポカルイン黒石　2009年5月17日	教　　授	東海林幹夫		1日
	6. 東海林幹夫：認知症の早期診断と治療．もの忘れフォーラム in 大鰐　大鰐町地域交流センター鰐 come　2009年8月29日，	教　　授			1日
	7. 東海林幹夫：認知症の治療とケア．西北五地区認知症高齢者グループホーム協会研修会，五所川原生き生きセンター，2009年7月22日	教　　授			1日
	8. 東海林幹夫：アルツハイマー病：治療における新たな展開．第18回北海道老年期認知症研究会．札幌　KKR ホテル札幌　2009年10月17日	教　　授			1日
	9. 東海林幹夫：アルツハイマー病の研究の進歩．老年病研究会．前橋，2009年10月30日	教　　授			1日
	10. 東海林幹夫：認知症の病気とケアについて．青森県認知症グループホーム大会2009 in 弘前　弘前パークホテル2009年11月18日	教　　授			1日
	11. 東海林幹夫　大館市立総合病院　2009年12月14日	教　　授			1日
	12. 東海林幹夫:認知症の医学的最新情報,合併症,認知症治療の今後．平成21年度青森県介護支援専門員協会，津軽支部研修会，2010年3月20日	教　　授			1日
	13. 東海林幹夫：認知症：診断と治療．第16回福井の認知症を考える会　福井　福井県医師会館　2010年4月3日	教　　授			1日
	14. 東海林幹夫：認知症の治療の進歩．もの忘れフォーラム in 五所川原．五所川原　オルテンシア　2010年4月24日	教　　授			1日
	15.A βワクチン療法の現況と展望 . 日本神経学会東北地方会　生涯教育講演会．フォレスト仙台．2009年3月14日	准 教 授	松原　悦朗		1日
	16. 第4回青森神経内科談話会．弘前　ホテルニューキャッスル2009年5月30日	准 教 授			1日
	17. アルツハイマー病のメカニズムと求められる新薬像．情報機構セミナー，2009年7月17日，東京	准 教 授			1日
	18. アルツハイマー病の予防・治療最前線．Brain Science Conference．2009年10月10日　京都	准 教 授			1日
	19. アルツハイマー病 病態解明の現状．第16回東北脳循環カンファレンス2009年11月28日 仙台	准 教 授			1日
	20. アルツハイマー病の現状と展望．第11回　アルツハイマー病フォーラム in 青森　アピオ青森　2009年11月7日	准 教 授			1日
	21. アルツハイマー病の分子メカニズムと治療戦略．第18回東北老年期認知症研究会．艮稜会館　2009年11月14日	准 教 授			1日
	22. 瓦林毅，認知症の診断と治療 - ケアスタッフの皆様への提言 -．津軽地区老人福祉協会総会　2010年5月14日，弘前 ホテルニューキャッスル	講　　師	瓦林　毅		1日
	23. 瓦林毅，パーキンソン病モデルマウスの開発．第3回青森パーキンソン病懇話会．2009年6月27日，弘前 ホテルニューキャッスル	講　　師			1日
	24. 瓦林毅，認知症治療のポイント．第3回弘前地区認知症医療連携交流会，2009年10月7日，弘前 ホテルニューキャッスル	講　　師			1日
	25. 瓦林毅，パーキンソン病モデルマウスの作成．弘前市学術講演会．2009年11月6日，弘前 ホテルニューキャッスル	講　　師			1日
	26. ニューロサイエンス研究会	助　　教	渡辺　光法		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前脳卒中センター・八戸市民病院	非　常　勤	東海林幹夫		36日
	大館市立総合病院・板柳中央病院	非　常　勤	松原　悦朗		39日
	黒石病院・尾野病院・板柳中央病院・むつ総合病院	非　常　勤	瓦林　　毅		34日
	弘前脳卒中センター・むつ総合病院	非　常　勤	渡辺　光法		34日
09年度	弘前脳卒中センター・八戸市民病院	教　　授	東海林幹夫	指導医	30日
	大館市立市民病院・板柳中央病院	准　教　授	松原　悦朗	非常勤医	45日
	尾野病院・むつ総合病院	講　　師	瓦林　　毅	非常勤医	48日
	弘前脳卒中センター・むつ総合病院	助　　教	渡辺　光法	非常勤医	34日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	認知症サポーター	教　　授	東海林幹夫		1日
	東奥日報 認知症に理解深める，もの忘れフォーラム「周りの協力が大切」2008年3月31日	教　　授			1日
	「認知症には早期診断を」県支部準備会，東海林弘大教授訴え　2008年7月22日				
	毎日新聞 認知症にどう向き合うか「家族の会」県準備会弘大教授と勉強会　2008年7月23日	教　　授			1日
	青森長寿セミナー．青森放送ラジオ2008年6月23日	教　　授			1日
	Japan Medicine. Academic News. 第27回日本認知証学会学術集会．アルツハイマー病根治薬が焦点に．今年度から専門医制度がスタート．臨床研究も強化2008年10月31日（金）.	准　教　授	松原　悦朗		1日
	Medical Tribune. 新春企画2009年のトレンドを探る．アミロイドを標的に実現化に進むADの早期診断・治療 2009年1月22日.	准　教　授			1日
09年度	東海林幹夫：認知症を予防するには　2009年3月10日　陸奥新報	教　　授	東海林幹夫		1日
	東海林幹夫：認知症，早期発見治療を　2009年4月21日　東奥日報	教　　授			1日
	東海林幹夫　成果激変深まる孤独.若年性認知症.東奥日報　2009年9月26日	教　　授			1日
	東海林幹夫　認知症の介護へ理解．陸奥新報　2009年11月21日	教　　授			1日
	東海林幹夫，渡辺光法，白濱育美：さっぽろバイオクラスター“Bio-S”ホームページ	教　　授			1日
	松原悦朗：アミロイドを標的に実現化，進むADの早期診断・治療．Medical Tribune　2009年1月22日	准　教　授	松原　悦朗		1日
	FMアップルウエーブ出演　2009年10月31日	准　教　授			1日
	協和発酵キリン，イムナス・ファーマと抗アミロイドβペプチド抗体の独占的実施権供与で契約締結日経電子版プレスリリース　2009年12月24日	准　教　授			1日
	第60回　弘前大学大学祭広報委員長・総合文化祭推進委員会・実施委員会委員	准　教　授			1日

41. 分子生体防御学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

・研究を通して得た成果を，ホームページ等を通じて社会に還元した。

・地域関連のある材料と方法を使った研究を模索するまでには至らなかった。

これから２年間の目標：

・研究を通して得た成果を，社会に還元できるように努力する。

・地域関連のある材料と方法を使った研究を模索する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　0，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第11回弘前国際医学フォーラム	事務局長	伊東　　健	弘前	2日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	以下の学術雑誌の査読を担当した。 J. Biochemistry Mol Cel Biol Endocrinology Plos one TAAP MCN Carcinogenesis	教　　授	伊東　　健		

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

42. 糖鎖工学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

直接的な社会貢献ではないが，青森県における産学官連携事業への参加，および関連の集会の開催や参加を積極的に行うことにより，目標はほぼ達成された。

これから２年間の目標：

・直接社会貢献をする機会は少ないと考えられるが，研究，教育に携わるものとして，また弘前大学，糖鎖工学講座の一員として何ができるか，日々アンテナを張る。

・青森県における産学官共同事業および関連の集会に参加し，事業における担当の業務を責任をもって遂行する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　3，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　1，講師　0，助教　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	・プロテオグライカンフォーラム	世話人	柿崎　育子	東京	2日
				筑波	1日
				神戸	1日
	・東北糖鎖研究会	世話人		弘前	5日
	・青森糖質研究会	世話人		弘前	2日
	・日本応用糖質科学会東北支部	理事		弘前	3日
	・日本応用糖質科学会平成21年度大会実行委員	会計		弘前	3日
09年度	・プロテオグリカンフォーラム	世話人	柿崎　育子	東京	2日
	・東北糖鎖研究会	世話人		長岡	2日
	・青森糖質研究会	世話人		弘前	2日
	・日本応用糖質科学会東北支部	理事		弘前	3日
	・日本応用糖質科学会平成21年度(第58回)大会	実行委員；会計，総務		弘前	6日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	・The Journal of Investigative Dermatology	査読	柿崎　育子		2日
	・The Journal of Biochemistry	査読			2日
	・The Open Bioinformatics Journal（Open Glycoscience）	査読			1日
09年度	・The Journal of Investigative Dermatology	査読	柿崎　育子		2日
	・Trends in Glycoscience and Glycotechnology	査読			1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	・ひろさき産学官連携フォーラム	准教授	柿崎　育子	弘前	2日
	・平成19年度学術国際振興基金助成事業に係る公開発表会			弘前	1日
	・平成20年度学術国際振興基金助成事業に係る公開発表会			弘前	1日
	・第8回青森糖質研究会			弘前	1日

	・文部科学省都市エリア産学官連携促進事業（弘前エリア）平成20年度成果発表会 ・弘大60周年記念事業プレ企画「第1回科学者発見プロジェクト」における共同研究			弘前 弘前	1日 7日
09年度	・都市エリア最終成果発表会（弘前エリア） ・第9回青森糖質研究会 ・ひろさき産学官連携フォーラム	准　教　授	柿崎　育子	弘前市 弘前市 弘前市	1日 1日 1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

43. 附属動物実験施設

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

産学共同事業への参加に関しては成果の発表等には至っていないが，基礎的データの収集を行うことができた。さらに学外での教育活動，学会における委員としての活動を行い，目標はほぼ到達できたと考える。

これから２年間の目標：

産学共同事業への参加を通して，また学外の教育施設等での教育活動，学会の委員会活動を通して社会に貢献する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	東北動物実験研究会	幹　　事	成田　浩司		1日
09年度	東北動物実験研究会	幹　　事	成田　浩司		1日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(10) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(11) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

44. 医学教育センター　（資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

45. 手術部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

手術件数は増加し，この点では目標に達することができたと思われる。外来手術室はまだ開設していない。

これから2年間の目標：

さらなる手術効率の改善により手術件数を増加させることを通じて社会に貢献する。

外来棟手術室の開設により，手術件数を増加させることを通じて社会に貢献する。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(10) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	五所川原市立西北中央病院 青森県立あすなろ医療療育センター	応　　援 医　　師	橋本　　浩	毎週 金曜日	50日
09年度	五所川原市立西北中央病院 青森県立あすなろ医療療育センター	応　　援 医　　師	橋本　　浩	毎週 金曜日	50日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	AHA BLS, ACLS 講習会インストラクター	准　教　授	橋本　　浩	日本循環器学会	10日

46. 検査部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　0，講師　0，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(10) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(11) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(12) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

47. 放射線部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本放射線技術学会東北部会	役　　員		仙台	5日
	北奥羽放射線治療懇話会	世　話　人		八幡平	2日
	青森県放射線技師会	学術企画委員		青森	3日
		治療部会長	藤森　　明		3日
	青森県放射線治療技術研究会	会　　長		青森	6日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人		弘前	2日
	青森県核医学研究会	世　話　人		青森	2日
	東北 MRI 技術研究会	世　話　人		仙台	2日
	青森県放射線技師会	学術企画委員	辻　　敏朗	青森	3日
		MRI 部会長			
	青森県 MRI 研究会	代表世話人		青森	6日
	東北デジタル医用画像研究会	世　話　人	木村　　均	仙台	2日
	東北循環器撮影研究会	幹　　事		仙台	2日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人	葛西　二郎	弘前	2日
	青森県放射線技師会	学術企画委員長		青森	8日
	青森県乳腺疾患研究会	世　話　人	長内　恒美	青森	3日
	つがる乳腺診断フォーラム	世　話　人		弘前	3日
	青森県放射線技師会	放射線管理士部会委員	須崎　勝正	青森	3日
	青森県放射線治療技術研究会	事 務 局 長		弘前	8日
	青森県放射線技師会	学術企画委員		青森	3日
		CT 部会長	神　　寿宏		
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人		弘前	2日
	青森県放射線技師会	放射線機器管理士部会委員	清野　守央	青森	3日
	青森県放射線治療技術研究会	事務局会計	森田　竹史	弘前	3日
09年度	第22回青森呼吸器研究会	世　話　人		青森	
	日本放射線腫瘍学会医療安全委員会	委　　員		横浜	1日
	日本放射線腫瘍学会倫理委員会	委　　員		横浜	1日
	第120回北日本地方会	世　話　人		弘前	1日
	第20回日本高精度放射線外部照射研究会	世　話　人	青木　昌彦	仙台	1日
	日本放射線腫瘍学研究機構	委　　員		東京	1日
	日本放射線腫瘍学会医療安全委員会	委　　員		京都	1日
	日本放射線腫瘍学会倫理委員会	委　　員		京都	1日
	第14回北奥羽放射線治療懇話会	幹　　事		八幡平	2日
	日本放射線技術学会東北部会	役　　員		仙台市他	3日
	北奥羽放射線治療懇話会	世　話　人		八幡平	2日
	青森県放射線技師会	学術企画委員		青森市	3日
		治療部会長	藤森　　明		3日
	青森県放射線治療技術研究会	会　　長		青森市弘前市	5日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人		弘前市	2日
	青森県核医学研究会	世　話　人		弘前市青森市	2日

東北 MRI 技術研究会	世　話　人	辻　　敏朗	仙台市他	2日
青森県放射線技師会	学術企画委員 MRI 部会長		青森市	3日
青森県 MRI 研究会	代表世話人		弘前市青森市	3日
東北デジタル医用画像研究会	世　話　人	木村　　均	仙台市他	2日
東北循環器撮影研究会	幹　　事		仙台市他	2日
青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人	葛西　二郎	弘前市	2日
青森県放射線技師会	学術企画委員長	長内　恒美	青森市	5日
青森県乳腺疾患研究会	世　話　人		青森市他	3日
つがる乳腺診断フォーラム	世　話　人		弘前市他	3日
青森県放射線技師会	放射線管理士部会委員	須崎　勝正	青森市	3日
青森県放射線治療技術研究会	事 務 局 長		青森市	5日
青森県放射線技師会	学術企画委員 CT 部会長	神　　寿宏	青森市	3日
青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人		弘前市	2日
青森県放射線技師会	放射線機器管理士部会委員	清野　守央	青森市	3日
青森県放射線治療技術研究会	事務局会計	森田　竹史	青森市	3日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	北奥羽放射線治療懇話会	世　話　人	藤森　　明	八幡平	1日
	青森県放射線治療技術研究会	会　　長		青森	1日
	マンモグラフィ精度管理講習会	講　　師	長内　恒美	仙台	3日
	青森県放射線技師会学術大会	講　　師		青森	2日
09年度	第14回北奥羽放射線治療懇話会	事　務　局	青木　昌彦	八幡平	2日
	北奥羽放射線治療懇話会	世　話　人	藤森　　明		2日
	青森県放射線治療技術研究会	会　　長			1日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世　話　人			1日
	マンモグラフィ精度管理講習会	講　　師	長内　恒美		3日
	青森県放射線技師会学術大会	講　　師			2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	日本医学放射線学会	査　　読	青木　昌彦	5件	1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	弘前市市民健康まつり	実 行 委 員	藤森　　明 長内　恒美 菅原かおる 柳　　勇也 鈴木　将志 福士　　都		2日
09年度	平成21年度弘前大学大学院医学研究科公開講座	特 別 講 師	青木　昌彦	弘前	1日
	ほほえみネットワーク特別講演			弘前	1日
	弘前市市民健康まつり	実 行 委 員	藤森　　明 長内　恒美 菅原かおる 鈴木　将志 福士　　都		2日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	第22回青森県小児がん等調査実務検討委員会	委　　員	青木　昌彦	弘前	1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	第2回がん拠点病院運用会議研修会	特別講師	青木　昌彦	大館	1日
	日本放射線治療専門技師統一講習会			弘前	1日
	薬剤部特別講義			弘前	1日
	がんプロセミナー			盛岡	1日
	固形がん骨転移緩和セミナー			弘前	1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	三沢病院	非常勤医師	青木　昌彦	三沢	43日
	大館市立総合病院			大館	48日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	Apple wave 生放送	取材協力	青木　昌彦	弘前	1日

48. 輸血部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

7 割程度は達成できた

これから２年間の目標：

1. 血液学・輸血学の最新情報を広く提供する
2. 学会等の委員会活動に 7 割以上出席する

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　0，講師　1，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本臨床血液学会	評　議　員	玉井　佳子	京都	2日
	日本輸血・細胞治療学会　輸血療法の安全性委員会	委　　員		大阪	1日
	日本輸血・細胞治療学会東北支部例会	世　話　人		秋田・福島	2日
	日本血液学会・日本臨床血液学会東北地方会	世　話　人		仙台	1日
	内科学会専門医部会東北支部	世　話　人		弘前	1日
	東北止血・血栓研究会	世　話　人		秋田	1日
	東北血友病インヒビター調査ワーキンググループ	世話人・監事		秋田	1日
	八幡平造血セミナー	実 行 委 員		盛岡	1日
	あおもり血液疾患研究会	世　話　人		弘前	1日
	東北血液フォーラム	世　話　人		盛岡・仙台	2日
	青森県合同輸血療法委員会	世　話　人		青森3弘前 五所川原	5日
09年度	日本血液学会	代　議　員	玉井　佳子	京都	2日
	日本輸血・細胞治療学会　輸血療法の安全性委員会	委　　員		名古屋	1日
	日本輸血・細胞治療学会東北支部例会	世　話　人		福島，仙台	2日
	日本血液学会東北地方会	世　話　人		福島，仙台	2日
	内科学会専門医部会東北支部	世　話　人		仙台	2日
	東北止血・血栓研究会	世　話　人		福島	1日
	八幡平造血セミナー	実 行 委 員		盛岡	1日
	東北血液フォーラム	世　話　人		仙台	1日
	青森県合同輸血療法委員会	世　話　人		青森弘前	4日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	総合内科専門医企画第1回青森内科セミナー	世　話　人	玉井　佳子	弘前	1日
09年度	総合内科専門医企画第2回青森内科セミナー	世　話　人	玉井　佳子	青森	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
09年度	International Journal of Hematology 査読		玉井　佳子		1編

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県医師会女性医師活躍推進委員会	委　員	玉井　佳子	青森・弘前	3日
	青森県献血推進協議会	委員代理		青森	1日
09年度	青森県医師会女性医師活躍推進委員会	委　員	玉井　佳子	青森，弘前	3日
	青森県献血推進協議会	委員代理		青森	1日
	女性医師勤務サポートシステム調査検討委員会	委　員		青森	1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	第8回血液・腎・膠原病勉強会	講　師	玉井　佳子	秋田市	2日
	第64回辛夷会総会特別講演	講　師		弘前市	1日
	自己血輸血学会教育セミナー	講　師		青森市	1日
	がんセンター合同カンファレンス	演　者		盛岡市	1日
	第389回八戸外科集団会	講　師		八戸市	1日
	第5回ワーファリン勉強会	講　師		弘前市	1日
	第12回あおもり血液疾患研究会	講　師		弘前市	1日
	青森県輸血療法委員会合同会議	講　師		青森市	1日
	抗血栓療法と内視鏡を考える会	講　師		札幌市	2日
	平成20年度青森県輸血療法委員会講演会	講　師		五所川原市	1日
09年度	「北五地区若手医師の会」講演	講　師	玉井　佳子	五所川原市	1日
	「秋田造血フォーラム2009」講演	講　師		秋田市	2日
	東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議	報　告		青森市	1日
	「むつ下北医師会学術講演」	講　師		むつ市	1日
	秋田県合同輸血療法委員会県北地区輸血講演会	講　師		大館市	2日
	学術講演会「抗血小板療法」	講　師		野辺地町	1日
	学術講演会「抗血小板療法」	講　師		むつ市	2日
	「第18回八戸血液研究会」	講　師		八戸市	1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	弘前献血ルーム・弘前献血バス	非　常　勤	玉井　佳子		年10回
	青森市立浪岡病院	非　常　勤			週1回
	非血縁者間骨髄採取施設・移植診療科認定申請に関する施設訪問	委　員		仙台市・石巻市	2日
09年度	弘前献血ルーム・弘前献血バス	非　常　勤	玉井　佳子		年3回
	鶴田町立病院	非　常　勤			週1回
	西北中央病院	非　常　勤			週1回

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	骨髄移植財団　ドナー安全委員会	委　員	玉井　佳子		2日
09年度	骨髄移植財団　ドナー安全委員会	委　員	玉井　佳子	東京	2日

49. 集中治療部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ到達した。

これから2年間の目標：

できる限り，市民や他の病院に対して情報を発信していく。学内外での教育講演を積極的に行う。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　1，准教授　1，講師　2，助教　5，助手　0，医員　10，大学院学生　7，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本集中治療医学会 日本集中治療医学会東北地方会	評議委員 評議委員	坪　　敏仁		1日 1日
09年度	日本集中治療医学会 日本集中治療医学会東北地方会	評　議　員 評　議　員	坪　　敏仁		

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	超音波医学会専門医試験委員会	試験委員	坪　　敏仁		
	Journal of Clinical Anesthesia		吉田　　仁	査読	
	Journal of Anesthesia	査　読　員	橋場　英二		
09年度	超音波医学会専門医試験委員会	試験委員	坪　　敏仁		
	Journal of Clinical Anesthesia		吉田　　仁	査読	
	Journal of Anesthesia	査　読　員	橋場　英二		

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	製薬会社研修会講義		坪　　敏仁		
	ヤンセンファーマ社内勉強会		吉田　　仁		

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	五所川原市立西北中央病院	非　常　勤	坪　　敏仁	毎週水曜	40日
	弘前中央病院	非　常　勤	吉田　　仁	毎週火曜	38日
	青森市民病院	非　常　勤	橋場　英二	毎週月曜	43日
09年度	五所川原市立西北中央病院	非　常　勤	坪　　敏仁	毎週水曜	
	弘前中央病院	非　常　勤	吉田　　仁	毎週火曜	
	青森市民病院	非　常　勤	橋場　英二	毎週月曜	

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

50. 周産母子センター

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

周産期医療の質の向上・維持はできているが，ベッド不足，スタッフ不足は依然として改善されていない，また，ここ数年なかった妊産婦死亡が 1 例発生したことから到達度60％と判断する。

これから2年間の目標：

周産期医療を目指す若手医師は増えているが，未だ地域では周産期専門医が少ないことから，効率のよい研修プログラムを作成するとともに，地域医療へのサポート強化を図る。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　1，講師　1，助教　2，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	日本妊娠高血圧学会	評　議　員	田中　幹二		2日
09年度	日本妊娠高血圧学会	評　議　員	田中　幹二		2日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	Journal of Obstetrics & Gynecology Research	査　　読	尾崎　浩士		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	高校生手術体験セミナー in 青森 高校生手術体験セミナー in 八戸		宮本　慶一		1日 1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	産科医療協議会	委　　員	尾崎　浩士		1日
	青森県周産期医療協議会	委　　員			1日
	MFICU 連絡協議会	委　　員			1日
	青森県臨床産婦人科医会母子保健委員会	委　　員			2日
	青森県周生期医療研究会	幹　　事			1日
09年度	産科医療協議会	委　　員	尾崎　浩士		1日
	青森県周産期医療協議会	委　　員			1日
	MFICU 連絡協議会	委　　員			1日
	青森県臨床産婦人科医会母子保健委員会	委　　員			2日
	青森県周生期医療研究会	幹　　事			1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	第4回青森県産婦人科超音波研究会	講　　師	尾崎　浩士		1日
09年度	周産期超音波学	非常勤講師	尾崎　浩士		8日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤医師	尾崎　浩士		5日
	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤医師	田中　幹二		5日
	㈶青森県総合検診センター	非常勤医師	奈良　昌樹		5日
09年度	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤講師	尾崎　浩士		5日
	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤講師	田中　幹二		5日
	㈶青森県総合検診センター	非常勤講師	宮本　慶一		5日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	大館市立病院	非常勤講師	尾崎　浩士		25日
	西北中央病院	非常勤講師			12日
	黒石病院	非常勤講師			12日
	大館市立病院	非常勤講師	田中　幹二		25日
	西北中央病院	非常勤講師			12日
	黒石病院	非常勤講師			12日
	公立七戸病院	非常勤講師	大谷　勝記		20日
	三戸中央病院	非常勤講師			20日
	公立金木病院	非常勤講師	奈良　昌樹		50日
09年度	大館市立病院	非常勤講師	尾崎　浩士		25日
	西北中央病院	非常勤講師			12日
	黒石病院	非常勤講師			12日
	大館市立病院	非常勤講師	田中　幹二		25日
	西北中央病院	非常勤講師			12日
	黒石病院	非常勤講師			12日
	公立七戸病院	非常勤講師	大谷　勝記		24日
	三戸中央病院	非常勤講師			12日
	弘前市立病院	非常勤医師			12日
	国立病院機構青森病院	非常勤講師			12日
	町立大鰐病院	非常勤医師			5日
	弘前市急患診療所	非常勤医師			3日
	鶴田町立中央病院	非常勤医師	宮本　慶一		50日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

51. 病理部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

患者検体の正確で，迅速かつ丁寧な病理診断は，質の高い医療に直結するという信念のもち，日々の病理診断を通じて，地域医療に貢献する。また，附属病院にとどまらず，他施設からの要望に応えるため，本務に支障のない範囲で，病理診断に従事し，地域医療に貢献する。このような社会貢献活動は，本務にも有益な経験が得られるものと考える。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で，社会貢献活動の面でも，研究面と同様に一層の充実する時期と位置づけられる。

（1）患者検体の正確で，迅速かつ丁寧な病理診断を，質の高い医療に直結させること，

（2）教育分野での病理学の重要性に鑑み，他施設からの要望に応えるため，本務に支障のない範囲で，学外での病理診断に従事し，地域医療に貢献する。

このような社会貢献活動は，本務にも有益な経験が得られるものと考える。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	International Journal of Urology	准　教　授	鎌田　義正	査読委員	8日
09年度	International Journal of Urology	准　教　授	鎌田　義正	査読委員	10日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	八戸市民病院 八戸市医師会臨床検査センター	准　教　授 准　教　授	鎌田　義正	1回／月（各3時間） 2回／月（各3時間）	12日 24日
09年度	青森労災病院　非常勤医師 八戸医師会臨床検査センター　非常勤医師	准　教　授 准　教　授	鎌田　義正		24日 24日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	病理解剖（弘前大学医学部附属病院）	准　教　授	鎌田　義正		52日
09年度	病理解剖	准　教　授	鎌田　義正		52日

52. 光学医療診療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

難治性疾患の地域連携を主眼としたアルゴリズムの策定についての検討

これから２年間の目標：

難治性疾患の地域連携を主眼としたアルゴリズムの策定についての検討

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　0，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	消化器免疫学会	評　議　員	石黒　　陽	東京	1日
	日本消化器病学会東北支部例会			仙台	2日
	日本消化器病学会			東京，福岡	2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部例会			仙台	1日
09年度	消化器免疫学会	評　議　員	石黒　　陽	東京	1日
	日本消化器病学会東北支部例会	評　議　員		仙台	2日
	日本消化器病学会	評　議　員		東京・福岡	2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部例会	評　議　員		仙台	1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY 2件	Reviewer	石黒　　陽		14日
	CLINICAL EXPERIMENTAL IMMUNOLOGY 1件				14日
	Digestive disease and science 1件				14日
09年度	J Gastroenterology	Reviewer	YOH ISHIGURO	3件	36日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	厚生労働科学研究補助金難治性疾患克服研究事業	研究協力員	石黒　　陽	東京	6日
	―難治性炎症性腸管障害に関する調査研究				
	青森県総合健診センター 胃がん検診	読 影 委 員			30日
09年度	厚生労働科学研究補助金難治性疾患克服研究事業 ―難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	研究協力員	石黒　　陽	東京	6日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	第506回八戸胃腸研究会 潰瘍性大腸炎の診断と治療		石黒　陽		1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	弘前大学本町地区安全衛生委員	産　業　医	石黒　陽		10日
09年度	本町地区安全衛生委員（産業医）		石黒　陽		24日

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	町立大鰐病院（内科）	非常勤医師	石黒　陽	大鰐町（週1回）	50日
09年度	青森県総合健診センター　胃がん検診 町立大鰐病院での非常勤医師（内科）	読影委員 非常勤医	石黒　陽		30日 40日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

53. リハビリテーション部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

整形外科における卒後教育を通して地域医療に貢献した。

臨床医師に対し，整形外科疾患および治療に関する知識の啓蒙を図った。

これから2年間の目標：

充実した卒後教育により，地域医療に習熟した臨床医を育成する。

地域住民，医療関係者に，整形外科・リハビリテーション医学に関する知識を広める。

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　0，講師　1，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　0，講師　1，助教　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	東北股関節症例検討会	講　　師	中村　吉秀		1日
	東日本整形災害外科学会				1日
	MX人工股関節研究会				1日
	バイポーラー検討会				1日
09年度	日本股関節学会	評　議　員	中村　吉秀		1日
	東北股関節症例検討会	幹　　事			1日
	東日本整形災害外科学会	評　議　員			1日
	MX人工股関節研究会	幹　　事			1日
	バイポーラー検討会	幹　　事			1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	東北整形災害外科学会	講　　師	中村　吉秀		1日
09年度	東北整形災害外科学会	講　　師	中村　吉秀		1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	運動器の10年・骨と関節の日　市民公開講座	講　　師	中村　吉秀		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	損害保険料率算出機構顧問医	講　　師	中村　吉秀		36日
	身体障害者判定巡回診療	講　　師			3日
	義肢装具巡回診療	講　　師			2日
	身体障害者判定巡回診療	助　　教	湯川　昌広		3日
09年度	損害保険料率算出機構顧問医	講　　師	中村　吉秀		36日
	身体障害者判定巡回診療	講　　師			3日
	義肢装具巡回診療	講　　師			2日
	身体障害者判定巡回診療	助　　教	湯川　昌広		3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）講演（大学での授業，研究発表を除く）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	青森県病院薬剤師会研修会 むつ下北医師会学術講演会 弘前市学術講演会リスクマネージメント講演会	講　師	中村　吉秀		1日 1日 1日
09年度	西北五グループホームスタッフ研修会 中弘南黒臨床整形外科医会 中弘南黒臨床整形外科医会	講　師	中村　吉秀		1日 1日 1日

（9）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（10）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	板柳中央病院 鷹揚郷弘前病院	講　師 講　師	中村　吉秀	診療応援	50日 24日
	弘前記念病院 なかざわ整形・リハビリテーションクリニック	助　教 助　教	湯川　昌広		48日 30日
09年度	板柳中央病院 鷹揚郷弘前病院	講　師 講　師	中村　吉秀	診療応援	50日 24日
	弘前記念病院 なかざわ整形・リハビリテーションクリニック	助　教 助　教	湯川　昌広		48日 30日

（11）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（12）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
08年度	メディカルトリビューン	講　師	中村　吉秀		1日

54. 医療安全推進室

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

08年度	研究人員	教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
09年度		教授　0，准教授　1，講師　0，助教　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	日本医療マネジメント学会青森支部	役　　員	福井　康三		1日
09年度	日本医療マネジメント学会青森支部	役　　員	福井　康三		1日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）講演（大学での授業，研究発表を除く）

該当なし。

（９）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(10) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び大学院医学研究科における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
08年度	国保黒石病院 西北中央病院 弘前中央病院	准　教　授	福井　康三		22日 12日 22日
09年度	黒石市立病院 西北中央病院 弘前中央病院	准　教　授	福井　康三		20日 10日 20日

(11) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(12) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
09年度	医療安全地域ネットワーク会議	准　教　授	福井　康三		6日

管　理・運　営

第4章　管　理・運　営

Ⅰ．所属委員会

【医学部】（2008年４月現在）

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	研究科教授会	◎佐藤　敬，加地　隆，藏田　潔，土田成紀，元村　成， 八木橋操六，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，黒田直人， 若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，伊東　健，福田眞作， 奥村　謙，須田俊宏，西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗， 福田幾夫，藤　　哲，澤村大輔，大山　力，中澤　満， 新川秀一，阿部由直，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮， 木村博人，澤田幸正，浅利　靖，保嶋　実，立石智則， 棟方博文，羽田隆吉，加藤博之，早狩　誠，花田勝美 計40名
2	医学研究科運営会議	◎佐藤　敬，奥村　謙，中根明夫，若林孝一，中路重之， 花田勝美，保嶋　実，水沼英樹，中路重之，鬼島　宏， 伊東　健，土田成紀，瀧川明伸　　計13名
3	医学研究科将来計画委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，水沼英樹，中路重之，鬼島　宏， 伊東　健，土田成紀，古川賢一，中島康爾　　計 9名
4	医学研究科予算委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，中路重之，中根明夫，木村博人 計 5名
5	医学研究科人事委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，花田勝美，水沼英樹，八木橋操六， 福田眞作　　計 6名
6	医学研究科施設整備委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，保嶋　実，中路重之，澤村大輔， 瀧川明伸　　計 6名
7	医学教育検討委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，鬼島　宏，若林孝一，中路重之， 福田幾夫，澤村大輔　　計 7名
8	附属脳神経血管病態研究施設協議会	◎佐藤　敬，若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，花田勝美， 伊東　健，藏田　潔，奥村　謙，伊藤悦朗　　計 9名
9	医学研究科学事委員会	◎若林孝一，中路重之，伊東　健，澤村大輔，福田眞作， 廣田和美　　計 6名
10	医学研究科研究推進委員会	◎佐藤　敬，保嶋　実，若林孝一，伊東　健，中根明夫， 伊藤悦朗，中澤　満　　計 7名
11	医学研究科・附属病院自己評価委員会	◎若林孝一，元村　成，中澤　満，新川秀一，福田幾夫， 藏田　潔，山田勝也，古川賢一，花田裕之，植木将人， 石黒　陽，玉井佳子，佐藤　優　　計13名
12	医学研究科広報委員会	◎澤村大輔，藤　　哲，鬼島　宏，伊東　健，上野伸哉， 廣田和美　　計 6名
13	医学研究科地域医療対策委員会	◎佐藤　敬，花田勝美，土田成紀，中路重之，伊藤悦朗， 奥村　謙，福田幾夫，新川秀一　　計 8名
14	医学研究科ネットワーク管理委員会	◎松谷秀哉，上野伸哉，立石智則，羽田隆吉，柿崎育子， 浅野義哉，沼沢拓也，二井一則，成田浩司　　計 9名
15	医学研究科国際交流研究委員会	上野伸哉，鬼島　宏，大山　力，廣田和美，大熊洋揮， 伊東　健　　計 6名
16	医学研究科教員任期審査委員会	◎八木橋操六，土田成紀，黒田直人，奥村　謙，藤　　哲， 大山　力　　計 6名
17	医学研究科教員任期再審査委員会	元村　成，鬼島　宏，須田俊宏，水沼英樹　　計 4名
18	高度先進医学研究センター運営委員会	◎佐藤　敬，伊東　健，若林孝一，上野伸哉，伊藤悦朗， 大山　力，三村純正　　計 7名
19	病理解剖運営委員会	八木橋操六，福田眞作，水上浩哉，和田龍一，楠美智己， 小山　基，小林　恒，山本善光，小笠原裕一　　計 9名
20	医学科図書委員会	◎藏田　潔，羽田隆吉，加地　隆，中根明夫，木村博人， 中澤　満，胡　東良，二神真行　　計 8名

【医学部医学科】（2008年４月現在）

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	医学科会議	◎佐藤　敬，加地　隆，藏田　潔，土田成紀，元村　成， 八木橋操六，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，黒田直人， 若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，伊東　健，福田眞作， 奥村　謙，須田俊宏，西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗， 福田幾夫，藤　　哲，澤村大輔，大山　力，中澤　満， 新川秀一，阿部由直，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮， 木村博人，澤田幸正，浅利　靖，保嶋　実，立石智則， 棟方博文，羽田隆吉，加藤博之，早狩　誠，花田勝美 計40名
2	医学科学務委員会	◎奥村　謙，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，伊藤悦朗， 大山　力　　計 6名
3	医学科入試専門委員会	◎中根明夫，佐藤　敬，鬼島　宏，上野伸哉，若林孝一， 木村博人，福田眞作　　計 7名

【任意団体】（2008年４月現在）

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	青森医学振興会医学科実務委員会	◎佐藤　敬，花田勝美，奥村　謙，黒田直人　　計 4名
2	教授団幹事	上野伸哉　　計 1名
3	弘前医学会幹事会	◎佐藤　敬，中根明夫，保嶋　実，中澤　満　　計 4名
4	弘前医学編集委員会	◎中澤　満，黒田直人，若林孝一，上野伸哉，八木橋操六， 伊東　健，須田俊宏，伊藤悦朗，立石智則，大山　力 計10名

【附属病院】（2008年４月現在）

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	病院科長会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，福田眞作，奥村　謙，須田俊宏，東海林幹夫， 西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗，袴田健一，澤村大輔， 大山　力，中澤　満，新川秀一，阿部由直，廣田和美， 大熊洋揮，棟方博文，木村博人，浅利　靖，鬼島　宏， 羽田隆吉，加藤博之，早狩　誠，立石智則，佐藤　優 計30名
2	病院運営会議	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，佐藤　優　　計 7名
3	病院将来計画委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，伊藤悦朗，大山　力，阿部由直，早狩　誠， 羽田隆吉，佐藤　優　　計12名
4	病院予算委員会	◎花田勝美，福田幾夫，藤　　哲，須田俊宏，廣田和美， 阿部由直，砂田弘子，佐藤　優　　計 8名
5	病院人事委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，兼子　直，新川秀一， 浅利　靖，砂田弘子，佐藤　優，早狩　誠　　計 9名
6	経営戦略会議	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，羽田隆吉，佐藤　優，工藤泰民，松川昌勝， 馬場　守，藤村　徹，三浦康久，木村博人　　計14名
7	医療材料委員会	◎福田幾夫，保嶋　実，奥村　謙，高橋　徹，小野修一， 鈴木幸彦，石橋恭之，杉本一博，坪　敏仁，中嶋裕子， 大徳和之，吉原秀一，及川広一，二井一則，橋本　浩， 成田憲司，大日向孝治，工藤泰民　　計18名
8	医療情報システム委員会	◎羽田隆吉，佐々木賀広，阿部由直，中澤　満，加藤博之， 蔭山和則，高畑武功，松岡貴志，川崎仁司，湯川昌広， 福井淳史，榊　宏剛，小林朱実，佐々木輝雄 計14名
9	臨床検査外注検討委員会	◎藤　　哲，保嶋　実，杉本一博，鎌田義正，玉井佳子， 福田眞作，須田俊宏，林　彰仁，松崎康司，伊藤　忠， 葛西　猛，大日向孝治，工藤泰民　　計13名

10	クリティカルパス委員会	◎福田幾夫，吉村徹郎，山形和史，佐々木真吾，大和田真玄， 崎原　哲，二川原健，渡辺光法，西條康夫，高畑武功， 菊池淳宏，藤田浩史，照井君典，鈴木保之，吉原秀一， 川崎仁司，三井博正，袴田健一，金子高英，米山高弘， 竹内侯雄，宮川靖博，佐々木亮，南場淳司，畑山佳臣， 木村秀崇，佐藤哲観，嶋村則人，浅野研一郎，漆舘聡志， 須貝道博，矢口慎也，佐藤　寿，小林　恒，大串和久， 安達淳治，木村博人，玉澤直樹，中村吉秀，小林朱実， 佐々木輝雄　　計41名
11	業務連絡会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，福井康三，坂本十一， 長内智宏，玉澤直樹，冨山誠彦，伊東重豪，古郡規雄， 高橋　徹，鈴木保之，吉原秀一，石橋恭之，中野　創， 神村典孝，鈴木幸彦，松原　篤，小野修一，藤井俊策， 石原弘規，中野高広，横井克憲，須貝道博，小林　恒， 橋本　浩，杉本一博，青木昌彦，石橋恭之，中村吉秀， 玉井佳子，坪　敏仁，尾崎浩士，鎌田義正，佐々木賀広， 石黒　陽，大沢　弘，加藤博之，米山高弘，照井君典， 東海林幹夫，西條康夫，小川吉司，豊木嘉一，楠美昭則， 藤田祥子，安部よし子，葛西　猛，藤森　明，佐藤　優， 初見定俊，大日向孝治，佐々木輝雄，工藤泰民　　計54名
12	感染対策委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，早狩　誠，佐藤　優，玉澤直樹，佐々木幸子 計10名
13	感染制御センター会議	◎保嶋　実，玉澤直樹，佐々木幸子，高梨信吾，差波拓志， 松坂方士，木村正彦，新岡丈典，中嶋裕子，須藤信子， 佐々木輝雄，遠藤　哲，谷口　哲，安田文子，杉本一博， 橋本　浩　　計16名
14	リスクマネジメント対策委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，佐藤　優，成田幸子，福井康三，早狩　誠 計10名
15	輸血療法委員会	◎保嶋　実，廣田和美，三井博正，木村　太，福田幾夫， 水沼英樹，伊藤悦朗，玉井佳子，田中一人，岡村祐嗣， 村上裕子，佐々木輝雄　　計12名
16	薬事委員会	◎保嶋　実，奥村　謙，中澤　満，山形和史，花田裕之， 松井　淳，冨山誠彦，伊東重豪，栗林理人，高橋　徹， 境　雄大，柴田　滋，石橋恭之，松崎康司，古家琢也， 竹内侯雄，南場淳司，長畑守雄，二神真行，北山眞任， 浅野研一郎，渡辺康介，須貝道博，小林　恒，杉本一博， 橋本　浩，青木昌彦，坪　敏仁，尾崎浩士，大沢　弘， 早狩　誠，藤田祥子，佐藤淳也，野呂秀紀，福士涼子， 大日向孝治，佐々木輝雄，工藤泰民　　計38名
17	先進医療専門委員会	◎花田勝美，福田眞作，奥村　謙，須田俊宏，東海林幹夫， 西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗，福田幾夫，袴田健一， 藤　　哲，澤村大輔，大山　力，中澤　満，新川秀一， 阿部由直，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，澤村大輔， 棟方博文，保嶋　実，木村博人，早狩　誠，佐藤　優 計25名
18	栄養管理委員会	◎保嶋　実，小川吉司，須田俊宏，丹藤雄介，神村典孝， 大谷勝記，砂田弘子，松田和子，村上裕子，木村淑子， 佐藤淳也，三上昭夫，大日向孝治，佐々木輝雄，平野聖治 計15名
19	褥瘡対策委員会	◎藤　　哲，松井　淳，村田暁彦，神　可代，渡辺庸介， 砂田弘子，久保田昭子，大溝昌章，下山葉子，福士涼子， 須藤信子，佐々木輝雄，古川真佐子　　計13名
20	防災対策委員会	◎花田勝美，加藤博之，浅利　靖，佐藤哲観，藤田浩史， 奈良岡征都，大畑　崇，藤森　明，下山律子，砂田弘子， 品川弘子，上原子瑞恵，樋口三枝子，木村淑子，安部よし子， 佐藤　優，初見定俊，大日向孝治，佐々木輝雄，工藤泰民， 野崎勝利，鈴木金逸　　計22名
21	医療ガス安全管理委員会	◎廣田和美，高梨信吾，石原弘規，橋本　浩，青木昌彦， 坪　敏仁，大泉昭良，安部よし子，大日向孝治 計　9名

22	放射線安全委員会	◎阿部由直，藤森　明，金　正宜，菅原かおる，青木昌彦， 奥村　謙，浅利　靖，佐々木大輔，橋本　浩，杉本一博， 玉井佳子，坪　敏仁，石黒　陽，砂田弘子，大和田優子， 佐藤　優，野崎勝利　計17名
23	臓器移植検討委員会	◎花田勝美，伊藤悦朗，大山　力，保嶋　実，浅利　靖， 福田幾夫，廣田和美，鬼島　宏，砂田弘子，佐藤　優 計10名
24	治験管理センター運営委員会	◎水沼英樹，立石智則，西條康夫，東海林幹夫，兼子　直， 新川秀一，保嶋　実，羽田隆吉，早狩　誠，砂田弘子， 大日向孝治，工藤正純　計12名
25	医薬品等臨床研究審査委員会	◎早狩　誠，福田眞作，新川秀一，石黒　陽，皆川正仁， 元村　成，立石智則，品川弘子，大日向孝治，三浦秀春， 田中一隆，中林裕雄　計12名
26	卒後臨床研修センター運営委員会	◎水沼英樹，加藤博之，大沢　弘，坂本十一，中村典雄， 玉澤直樹，菊池淳宏，髙橋　徹，鈴木保之，鳴海俊治， 藤井俊策，櫛方哲也，浅利　靖，鬼島　宏，初見定俊 計15名
27	臨床研修管理委員会	◎花田勝美，水沼英樹，加藤博之，砂田弘子，佐藤　優， 大沢　弘，藤井俊策，坂本十一，中村典雄，玉澤直樹， 菊池淳宏，髙橋　徹，鈴木保之，鳴海俊治，櫛方哲也， 浅利　靖，鬼島　宏，初見定俊，安保　亘，三浦一章， 吉川修身，佐藤年信，竹川弘美，村田有志，和賀　忍， 鈴木重晴，小川克弘，館岡　博，星　克樹，蘆野吉和， 中畑　久，相澤　中，長谷良志男，石川康朗，佐藤　博， 齋藤　豪，植山和正，福田道隆，平　紅，宮川隆美， 山中朋子，對馬健一，反町吉秀，齋藤和子，田﨑博一， 齋藤久男，木村イク子，館山俊子，今村憲市，石澤　誠， 沢田美彦，坂本祥一，五日市敬，高橋修一，若杉宏一， 小笠原幸裕，中村恵彦，梅村芳文，三浦昭人，竹内いづみ， 佐々木淳，松岡史彦，岡村良久，堀内雅之，沖津勝大， 秋山昌弘，石田　均，村上秀一，木村健一，駒井一雄， 成田祥耕，村上京子，千葉茂夫，高橋浩司，岡崎弘行， 秋山實男，清水幸雄，加藤輝夫，山田隆良，木村眞司， 淀野　啓，山口　力，佐藤優輝，晴山靖雄，三上　修， 高橋昌久，阿部朋親，盛　勇造，森山裕三，田辺和彦， 秋山昌希，冨山月子，高澤靭子，丸山博行，東海林優， 川原田恒，田村　研，武田智彦，佐々木正人，吉田順一， 石山　明，小嶋泰彦，山本孝司，蝦名宣男，和田一穂， 一瀬　篤，吉田　淳　計107名
28	歯科医師卒後臨床研修室運営委員会	◎木村博人，小林　恒，成田憲司，佐藤　寿，榊　宏剛， 加藤博之，初見定俊　計 7名
29	歯科医師臨床研修管理委員会	◎花田勝美，木村博人，小林　恒，成田憲司，佐藤　寿， 榊　宏剛，砂田弘子，佐藤　優，齋藤久夫，梅原一浩， 福井　朗，広瀬寿秀，川島貴雅，神谷　彰，小原はるみ， 小川克弘，佐藤孝雄　計17名
30	衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎保嶋　実，立石智則，棟方博文，加藤博之，福田幾夫， 羽田隆吉，小林朱実，大日向孝治　計 8名
31	診療環境向上推進委員会	◎藤　　哲，福田眞作，新川秀一，羽田隆吉，砂田弘子， 山形和史，鳴海俊治，下山　克，橋本　浩，工藤正純， 齊藤慶子，藤森　明，安田文子，佐々木輝雄　計14名
32	診療情報提供委員会	◎藤　　哲，福田眞作，阿部由直，羽田隆吉，平野　潔， 小田切達，安田文子，佐藤　優，佐々木輝雄　計 9名
33	広報委員会	◎水沼英樹，東海林幹夫，棟方博文，楠木将人，橋本安弘， 安田文子，佐々木賀広，初見定俊，佐々木輝雄　計 9名
34	院内がん登録委員会	◎中路重之，下山　克，高梨信吾，對馬敬夫，吉原秀一， 横山良仁，松谷秀哉，松方方士　計 8名
35	医療支援センター運営委員会	◎水沼英樹，保嶋　実，玉井佳子，鬼島　宏，葛西　猛， 中田伸一，齊藤慶子　計 7名
36	病院診療録管理委員会	◎花田勝美，羽田隆吉，加藤博之，福井康三，福田幾夫， 澤村大輔，大山　力，下山　克，中村典雄，木村大輔， 山本善光，小林朱実，佐々木輝雄，小野　陸　計14名

37	腫瘍センター運営委員会	◎阿部由直，西條康夫，伊東重豪，坂本十一，高梨信吾， 佐藤哲観，對馬敬夫，袴田健一，横山良仁，鬼島　宏， 粟津朱美，三上恵理，佐藤淳也，塚本利昭，佐々木輝雄， 中路重之　計16名

【全学の委員会】（2008年４月現在）

	委員会名	委員名
1	役員会	花田勝美
2	学長選考会議	佐藤　敬
3	経営協議会	花田勝美
4	教育研究評議会	佐藤　敬，中路重之，保嶋　実，中根明夫
5	学士課程教育協議会	佐藤　敬
6	運営会議	佐藤　敬，花田勝美，佐藤　優
7	総務委員会	水沼英樹，佐藤　優
8	財務・施設委員会	中路重之，木村博人，工藤泰民
9	教育・学生委員会	鬼島　宏，瀧川明伸
10	研究・産学連携委員会	伊東　健
11	社会連携委員会	土田成紀，初見定俊
12	遺伝子実験施設運営委員会	伊東　健
13	総合情報処理センター運営委員会	元村　成，羽田隆吉
14	総合情報処理センター運営委員会ネットワーク技術専門委員会	松谷秀哉
15	生涯学習教育研究センター運営委員会	大山　力
16	地域共同研究センター運営委員会	梅田　孝
17	国際交流センター運営委員会	廣田和美
18	保健管理センター運営委員会	阿部由直，保嶋　実，加藤博之
19	21世紀教育センター運営委員会	立石智則，上野伸哉
20	アイソトープ総合実験室運営委員会	阿部由直，土田成紀
21	機器分析センター運営委員会	土田成紀
22	附属図書館運営委員会	藏田　潔，八木橋操六
23	情報公開・個人情報保護委員会	鬼島　宏，羽田隆吉
24	ハラスメント防止等対策委員会	中路重之
25	ハラスメント相談員	中根明夫，早狩　誠
26	入学試験委員会	佐藤　敬，中根明夫
27	動物実験委員会	中根明夫，森　文秋，須田俊宏，成田浩司，澤村大輔
28	組換えDNA実験安全委員会	土田成紀，中根明夫
29	バイオセーフティ委員会	中根明夫，伊東　健，保嶋　実
30	放射線安全管理委員会	佐藤　敬，花田勝美，阿部由直
31	エネルギー教育推進委員会	東海林幹夫
32	スペース・コラボレーション・システム事業実施運営委員会	上野伸哉，羽田隆吉
33	サテライト運営委員会	藤　哲
34	知的財産審議会	伊東　健
35	総合文化祭実施委員会	鬼島　宏，花田裕之，瀧川明伸
36	化学物質等管理専門委員会	瀬谷和彦，工藤正純
37	出版会運営委員会	中根明夫，今泉忠淳
38	情報セキュリティ委員会	佐藤　敬，花田勝美
39	セキュリティ対策専門委員会	松谷秀哉，佐々木賀広
40	評価室	元村　成，中澤　満
41	監査室	岡崎耕衛
42	人事苦情処理室	鬼島　宏，瀧川明伸
43	弘前大学創立60周年記念事業運営委員会	佐藤　敬，花田勝美，中路重之，土田成紀，加地　隆， 黒田直人
44	入学試験改善委員会	佐藤　敬，中根明夫
45	白神教育研究林専門委員会	檀上和真

【医学研究科・保健学研究科・附属病院共通】（2008年４月現在）

	委員会名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	医学部教授会	◎佐藤　敬，加地　隆，藏田　潔，土田成紀，元村　成， 八木橋操六，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，黒田直人， 若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，伊東　健，福田眞作， 奥村　謙，須田俊宏，西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗， 福田幾夫，藤　　哲，澤村大輔，大山　力，中澤　満， 新川秀一，阿部由直，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮， 木村博人，澤田幸正，浅利　靖，保嶋　実，立石智則， 棟方博文，羽田隆吉，加藤博之，早狩　誠，花田勝美 計40名
2	学科間連絡会	◎佐藤　敬，花田勝美，中路重之，奥村　謙，保嶋　実 計 5名
3	医学研究科附属動物実験施設運営委員会	◎中根明夫，蔵田　潔，伊東　健，東海林幹夫，澤村大輔 計 5名
4	附属図書館医学部分館運営委員会	◎藏田　潔，加地　隆，中根明夫，木村博人　　計 4名
5	医学研究科環境整備委員会	◎中路重之，黒田直人，福田眞作，大山　力，瀬谷和彦， 二井一則，相馬博子，田中一人，瀧川明伸　　計 9名
6	医学研究科倫理委員会	◎黒田直人，鬼島　宏，中根明夫，奥村　謙，兼子　直， 廣田和美，早狩　誠，外崎敬和，田中　完，小林朱実 計10名
7	医学研究科動物実験倫理委員会	◎中根明夫，成田浩司，加地　隆，上野伸哉，大山　力， 廣田和美，山田俊幸，櫛方哲也　　計 8名
8	医学研究科情報公開検討委員会	◎鬼島　宏，上野伸哉，福田眞作，廣田和美， 計 4名
9	医学研究科等放射線安全管理委員会	◎阿部由直，中根明夫，土田成紀，福田幾夫，藤　　哲， 成田浩司，瀧川明伸　　計 7名

【医学研究科】（2009年４月現在）

	委員会名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	研究科教授会	◎佐藤　敬，一戸紀孝，藏田　潔，土田成紀，元村　成， 八木橋操六，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，黒田直人， 若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，伊東　健，福田眞作， 奥村　謙，須田俊宏，西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗， 福田幾夫，袴田健一，藤　　哲，澤村大輔，大山　力， 中澤　満，新川秀一，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮， 木村博人，澤田幸正，浅利　靖，保嶋　実，棟方博文， 羽田隆吉，加藤博之，早狩　誠，花田勝美 計39名
2	医学研究科運営会議	◎佐藤　敬，奥村　謙，中根明夫，若林孝一，中路重之， 花田勝美，保嶋　実，水沼英樹，中路重之，鬼島　宏， 伊東　健，土田成紀，村市　悟　　計13名
3	医学研究科将来計画委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，水沼英樹，中路重之，鬼島　宏， 伊東　健，土田成紀，古川賢一，中島康爾　　計 9名
4	医学研究科予算委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，中路重之，若林孝一，福田眞作 計 5名
5	医学研究科人事委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，花田勝美，水沼英樹，八木橋操六， 福田眞作　　計 6名
6	医学研究科施設整備委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，保嶋　実，中路重之，澤村大輔， 村市　悟　　計 6名
7	医学教育検討委員会	◎佐藤　敬，奥村　謙，鬼島　宏，若林孝一，中路重之， 福田幾夫，澤村大輔　　計 7名
8	附属脳神経血管病態研究施設協議会	◎佐藤　敬，若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，花田勝美， 伊東　健，藏田　潔，奥村　謙，伊藤悦朗　　計 9名
9	医学研究科学事委員会	◎若林孝一，中路重之，伊東　健，澤村大輔，福田眞作， 廣田和美　　計 6名
10	医学研究科研究推進委員会	◎佐藤　敬，保嶋　実，若林孝一，伊東　健，中根明夫， 伊藤悦朗，澤村大輔　　計 7名

11	医学研究科・附属病院自己評価委員会	◎若林孝一，中澤　満，元村　成，新川秀一，袴田健一， 山田勝也，古川賢一，花田裕之，小田桐元，石黒　陽， 玉井佳子，千葉　博　　計12名
12	医学研究科広報委員会	◎上野伸哉，鬼島　宏，袴田健一，澤村大輔，廣田和美， 伊東　健　　計 6名
13	医学研究科地域医療対策委員会	◎佐藤　敬，花田勝美，土田成紀，中路重之，伊藤悦朗， 奥村　謙，福田幾夫，新川秀一　　計 8名
14	医学研究科ネットワーク管理委員会	一戸紀孝，加藤博之，羽田隆吉，柿崎育子，浅野義哉， 沼沢拓也，井上　卓，成田浩司，松谷秀哉　　計 9名
15	医学研究科国際交流研究委員会	伊東　健，上野伸哉，一戸紀孝，大山　力，廣田和美， 大熊洋揮　　計 6名
16	医学研究科教員任期審査委員会	◎一戸紀孝，土田成紀，黒田直人，奥村　謙，須田俊宏， 大山　力　　計 6名
17	医学研究科教員任期再審査委員会	元村　成，鬼島　宏，福田眞作，水沼英樹　　計 4名
18	高度先進医学研究センター運営委員会	◎佐藤　敬，伊東　健，若林孝一，上野伸哉，伊藤悦朗， 大山　力，柿崎育子，三村純正　　計 8名
19	病理解剖運営委員会	八木橋操六，福田眞作，水上浩哉，和田龍一，佐藤冬樹， 小山　基，小林　恒，山本善光，小笠原裕一　　計 9名
20	医学科図書委員会	◎藏田　潔，羽田隆吉，一戸紀孝，中根明夫，木村博人， 中澤　満，胡　東良，二神真行　　計 8名

【医学科】（2009年４月現在）

	委　員　会　名	委　員　名　及　び　委　員　数　　◎印は委員長
1	医学科会議	◎佐藤　敬，一戸紀孝，藏田　潔，土田成紀，元村　成， 八木橋操六，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，黒田直人， 若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，伊東　健，福田眞作， 奥村　謙，須田俊宏，西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗， 福田幾夫，袴田健一，藤　　哲，澤村大輔，大山　力， 中澤　満，新川秀一，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮， 木村博人，澤田幸正，浅利　靖，保嶋　実，棟方博文， 羽田隆吉，加藤博之，早狩　誠，花田勝美 計39名
2	医学科学務委員会	◎奥村　謙，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，伊藤悦朗， 大山　力　　計 6名
3	医学科入試専門委員会	◎中根明夫，佐藤　敬，鬼島　宏，上野伸哉，一戸紀孝， 木村博人，福田眞作　　計 7名

【任意団体】（2009年４月現在）

	委　員　会　名	委　員　名　及　び　委　員　数　　◎印は委員長
1	青森医学振興会医学科実務委員会	◎佐藤　敬，花田勝美，奥村　謙，澤村大輔，伊東　健 計 5名
2	教授団幹事	上野伸哉　　計 1名
3	弘前医学会幹事会	◎佐藤　敬，奥村　健，中根明夫，中澤　満　　計 4名
4	弘前医学編集委員会	一戸紀孝，伊東　健，若林孝一，上野伸哉，鬼島　宏， 袴田健一，須田俊宏，伊藤悦朗，新川秀一，大山　力 計10名

【附属病院】（2009年４月現在）

	委　員　会　名	委　員　名　及　び　委　員　数　　◎印は委員長
1	病院科長会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，福田眞作，奥村　謙，須田俊宏，東海林幹夫， 西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗，袴田健一，澤村大輔， 大山　力，中澤　満，新川秀一，廣田和美，大熊洋揮， 棟方博文，木村博人，浅利　靖，鬼島　宏，羽田隆吉， 加藤博之，早狩　誠，千葉　博　　計28名
2	病院運営会議	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，千葉　博　　計 7名

3	病院将来計画委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，伊藤悦朗，大山　力，早狩　誠，羽田隆吉， 千葉　博　　計11名
4	病院予算委員会	◎花田勝美，福田幾夫，藤　　哲，須田俊宏，廣田和美， 砂田弘子，千葉　博　　計 7名
5	病院人事委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，兼子　直，新川秀一， 浅利　靖，砂田弘子，早狩　誠，千葉　博　　計 9名
6	経営戦略会議	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，羽田隆吉，木村博人，千葉　博，大日向孝治， 松川昌勝，馬場　守，藤村　徹，三浦康久　　計14名
7	医療材料委員会	◎福田幾夫，保嶋　実，奥村　謙，高橋　徹，小野修一， 鈴木幸彦，石橋恭之，杉本一博，坪　敏仁，中嶋裕子， 大徳和之，吉原秀一，橋本　浩，成田憲司，大日向孝治， 針金誠悦，及川広一　　計17名
8	医療情報システム委員会	◎羽田隆吉，佐々木賀広，中澤　満，加藤博之，蔭山和則， 高畑武功，松岡貴志，川崎仁司，湯川昌広，福井淳史， 榊　宏剛，小林朱実，佐々木輝雄　　計13名
9	臨床検査外注検討委員会	◎藤　　哲，保嶋　実，杉本一博，鎌田義正，玉井佳子， 福田眞作，須田俊宏，林　彰仁，松崎康司，伊藤　忠， 葛西　猛，大日向孝治，針金誠悦　　計13名
10	クリティカルパス委員会	◎福田幾夫，吉村徹郎，山形和史，佐々木真吾，大和田真玄， 崎原　哲，二川原健，瓦林　毅，西條康夫，高畑武功， 菊池淳宏，藤田浩史，照井君典，鈴木保之，吉原秀一， 川崎仁司，三井博正，袴田健一，金子高英，米山高弘， 竹内侯雄，佐々木亮，南場淳司，畑山佳臣，福井淳史， 佐藤哲観，嶋村則人，浅野研一郎，漆舘聡志，須貝道博， 矢口慎也，佐藤　寿，大串和久，木村博人，玉澤直樹， 中村吉秀，金澤佐知子，成田勇一，小林朱実，佐々木輝雄 計40名
11	業務連絡会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，福井康三，藤田　雄， 坂本十一，長内智宏，玉澤直樹，松原悦朗，伊東重豪， 古郡規雄，高橋　徹，鈴木保之，吉原秀一，石橋恭之， 中野　創，神村典孝，鈴木幸彦，松原　篤，小野修一， 藤井俊策，石原弘規，中野高広，横井克憲，須貝道博， 小林　恒，橋本　浩，杉本一博，青木昌彦，中村吉秀， 玉井佳子，坪　敏仁，尾崎浩士，鎌田義正，佐々木賀広， 石黒　陽，大沢　弘，加藤博之，米山高弘，照井君典， 西條康夫，松井　淳，豊木嘉一，福井淳史，藤田祥子， 安部よし子，葛西　猛，藤森　明，千葉　博，黒田義弘， 大日向孝治，針金誠悦，佐々木輝雄　　計53名
12	感染対策委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，早狩　誠，玉澤直樹，佐々木幸子，千葉　博 計10名
13	感染制御センター会議	◎保嶋　実，玉澤直樹，佐々木幸子，高梨信吾，差波拓志， 松坂方士，木村正彦，新岡丈典，中嶋裕子，須藤信子， 佐々木輝雄，遠藤　哲，谷口　哲，安田文子，杉本一博， 橋本　浩　　計16名
14	リスクマネジメント対策委員会	◎花田勝美，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，藤　　哲， 砂田弘子，千葉　博，成田幸子，福井康三，新岡丈典， 早狩　誠　　計11名
15	輸血療法委員会	◎保嶋　実，廣田和美，三井博正，木村　太，福田幾夫， 水沼英樹，伊藤悦朗，玉井佳子，田中一人，岡村祐嗣， 村上裕子，佐々木輝雄　　計12名
16	薬事委員会	◎保嶋　実，奥村　謙，中澤　満，山形和史，花田裕之， 松井　淳，瓦林　毅，伊東重豪，高橋　徹，境　雄大， 石橋恭之，松崎康司，古家琢也，竹内侯雄，南場淳司， 長畑守雄，二神真行，北山眞任，浅野研一郎，渡辺康介， 須貝道博，小林　恒，杉本一博，橋本　浩，青木昌彦， 坪　敏仁，尾崎浩士，大沢　弘，早狩　誠，藤田祥子， 佐藤淳也，野呂秀紀，福士涼子，大日向孝治，佐々木輝雄， 針金誠悦　　計36名

17	先進医療専門委員会	◎花田勝美，福田眞作，奥村　謙，須田俊宏，東海林幹夫， 西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗，福田幾夫，袴田健一， 藤　　哲，澤村大輔，大山　力，中澤　満，新川秀一， 水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，棟方博文，保嶋　実， 木村博人，早狩　誠，千葉　博　　計23名
18	栄養管理委員会	◎保嶋　実，松井　淳，須田俊宏，丹藤雄介，神村典孝， 大谷勝記，砂田弘子，松田和子，村上裕子，木村淑子， 佐藤淳也，三上昭夫，針金誠悦，佐々木輝雄，平野聖治 計15名
19	褥瘡対策委員会	◎藤　　哲，松井　淳，村田暁彦，池永五月，渡辺庸介， 砂田弘子，久保田昭子，大溝昌章，下山葉子，福士涼子， 須藤信子，佐々木輝雄，古川真佐子　　計13名
20	防災対策委員会	◎花田勝美，加藤博之，浅利　靖，佐藤哲観，藤田浩史， 奈良岡征都，藤森　明，下山律子，砂田弘子，品川弘子， 上原子瑞恵，樋口三枝子，木村淑子，安部よし子，千葉　博， 黒田義弘，大日向孝治，佐々木輝雄，針金誠悦，村上育洋， 鈴木金逸　　計21名
21	医療ガス安全管理委員会	◎廣田和美，高梨信吾，石原弘規，橋本　浩，青木昌彦， 坪　敏仁，大泉昭良，安部よし子，針金誠悦　　計 9名
22	放射線安全委員会	◎花田勝美，藤森　明，金　正宜，菅原かおる，高梨信吾， 青木昌彦，奥村　謙，浅利　靖，橋本　浩，杉本一博， 玉井佳子，坪　敏仁，石黒　陽，砂田弘子，大和田優子， 千葉　博，村上育洋　　計17名
23	臓器移植検討委員会	◎花田勝美，伊藤悦朗，大山　力，保嶋　実，浅利　靖， 福田幾夫，廣田和美，鬼島　宏，砂田弘子，千葉　博 計10名
24	治験管理センター運営委員会	◎水沼英樹，西條康夫，東海林幹夫，兼子　直，新川秀一， 保嶋　実，羽田隆吉，早狩　誠，砂田弘子，大日向孝治， 針金誠悦，工藤正純　　計12名
25	医薬品等臨床研究審査委員会	◎元村　成，福田眞作，新川秀一，石黒　陽，鈴木保之， 早狩　誠，品川弘子，齊藤慶子，工藤せい子，針金誠悦， 三浦秀春，日野辰哉，片山良子，中林裕雄　　計14名
26	卒後臨床研修センター運営委員会	◎水沼英樹，加藤博之，大沢　弘，坂本十一，中村典雄， 玉澤直樹，菊池淳宏，髙橋　徹，鈴木保之，鳴海俊治， 藤井俊策，櫛方哲也，浅利　靖，鬼島　宏，黒田義弘 計15名
27	臨床研修管理委員会	◎花田勝美，水沼英樹，加藤博之，砂田弘子，千葉　博， 大沢　弘，藤井俊策，坂本十一，中村典雄，玉澤直樹， 菊池淳宏，高橋　徹，鈴木保之，鳴海俊治，櫛方哲也， 浅利　靖，鬼島　宏，黒田義弘，安保　亘，三浦一章， 吉川修身，佐藤年信，竹川弘美，村田有志，和賀　忍， 鈴木重晴，小川克弘，八代　均，星　克樹，蘆野吉和， 中畑　久，相澤　中，長谷良志男，遠藤信夫，佐藤　博， 齋藤　豪，植山和正，今田慶行，石川幸辰，渡邉温知， 大本直樹，平　　紅，宮川隆美，山中朋子，工藤淳子， 反町吉秀，齋藤和子，田﨑博一，齋藤久夫，木村イク子， 館山俊子，今村憲市，石澤　誠，沢田美彦，坂本祥一， 五日市敬，小笠原幸裕，中村恵彦，梅村芳文，三浦昭人， 竹内いづみ，佐々木淳，松岡史彦，岡村良久，堀内雅之， 津久井厚，秋山昌弘，石田　均，村上秀一，木村健一， 駒井一雄，成田祥耕，村上京子，千葉茂夫，山田悦輝， 岡崎弘行，秋山實男，清水幸雄，加藤輝夫，山田隆良， 木村眞司，淀野　啓，山口　力，佐藤優輝，晴山靖雄， 三上　修，高橋昌久，阿部朋親，盛　勇造，森山裕三， 田辺和彦，秋山昌希，冨山月子，高澤鞆子，丸山博行， 東海林優，川原田恒，田村　研，武田智彦，佐々木正人， 吉田順一，石山　明，小嶋泰彦，山本孝司，蝦名宣男， 對馬健一，和田一穂，一瀬　篤　　計108名
28	歯科医師卒後臨床研修室運営委員会	◎木村博人，小林　恒，成田憲司，佐藤　寿，榊　宏剛， 加藤博之，黒田義弘　　計 7名
29	歯科医師臨床研修管理委員会	◎花田勝美，木村博人，小林　恒，成田憲司，佐藤　寿， 榊　宏剛，久保田耕世，砂田弘子，千葉　博，齋藤久夫， 梅原一浩，福井　朗，広瀬寿秀，川島貴雅，神谷　彰， 小川克弘，柴田典明　　計17名

30	衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎保嶋　実，棟方博文，加藤博之，福田幾夫，羽田隆吉， 小林朱実，針金誠悦　計 7名
31	診療環境向上推進委員会	◎藤　　哲，福田眞作，新川秀一，羽田隆吉，砂田弘子， 山形和史，鳴海俊治，下山　克，橋本　浩，工藤正純， 齊藤慶子，藤森　明，安田文子，佐々木輝雄　計14名
32	診療情報提供委員会	◎藤　　哲，福田眞作，羽田隆吉，平野　潔，小田切達， 安田文子，千葉　博，佐々木輝雄　計 8名
33	広報委員会	◎水沼英樹，東海林幹夫，棟方博文，藤井　学，橋本安弘， 安田文子，佐々木賀広，黒田義弘，佐々木輝雄　計 9名
34	医療支援センター運営委員会	◎水沼英樹，保嶋　実，玉井佳子，鬼島　宏，葛西　猛， 齊藤慶子，中田伸一　計 7名
35	病院診療録管理委員会	◎花田勝美，羽田隆吉，加藤博之，福井康三，福田幾夫， 澤村大輔，大山　力，下山　克，中村典雄，木村大輔， 山本善光，小林朱実，佐々木輝雄，小野　陸　計14名
36	腫瘍センター運営委員会	◎西條康夫，伊東重豪，廣田和美，花田勝美，坂本十一， 林　彰仁，佐藤哲観，對馬敬夫，袴田健一，横山良仁， 鬼島　宏，粟津朱美，三上恵理，佐藤淳也，塚本利昭， 佐々木輝雄，中路重之，青木昌彦　計18名
37	化学療法プロトコール審査委員会	◎西條康夫，伊東重豪，高畑武功，林　彰仁，南場淳司， 川崎仁司，横山良仁，佐藤淳也，照井一史，粟津朱美， 佐々木輝雄　計11名
38	医薬品安全管理委員会	◎早狩　誠，藤田祥子，福井康三，橋本　浩，杉本一博， 青木昌彦，玉井佳子，小林　恒，安部よし子，黒田義弘， 針金誠悦，佐々木輝雄，成田幸子，新岡丈典 計14名
39	医療機器安全管理委員会	◎水沼英樹，佐藤正治，福井康三，橋本　浩，杉本一博， 青木昌彦，坪　敏仁，安部よし子，黒田義弘，針金誠悦， 佐々木輝雄，成田幸子，新岡丈典　計13名
40	医療事故等被災者支援委員会	◎保嶋　実，安部よし子，福井康三，成田幸子，新岡丈典， 佐々木輝雄　計 6名
41	キャリアパス支援センター運営委員会	◎水沼英樹，藤田　雄，奥村　謙，福田幾夫，廣田和美， 加藤博之，黒田義弘　計 7名

【全学の委員会】（2009年４月現在）

	委　員　会　名	委　員　名
1	役員会	花田勝美
2	学長選考会議	佐藤　敬
3	経営協議会	花田勝美
4	教育研究評議会	佐藤　敬，中路重之，保嶋　実，中根明夫
5	学士課程教育協議会	佐藤　敬
6	運営会議	佐藤　敬，花田勝美，千葉　博
7	総務委員会	水沼英樹，千葉　博
8	財務・施設委員会	中路重之，福田幾夫，大日向孝治
9	教育・学生委員会	鬼島　宏，村市　悟
10	研究・産学連携委員会	伊東　健
11	社会連携委員会	土田成紀，黒田義弘
12	遺伝子実験施設運営委員会	伊東　健
13	総合情報処理センター運営委員会	元村　成，羽田隆吉
14	総合情報処理センター運営委員会ネットワーク技術専門委員会	松谷秀哉
15	生涯学習教育研究センター運営委員会	大山　力
16	地域共同研究センター運営委員会	梅田　孝
17	国際交流センター運営委員会	廣田和美
18	保健管理センター運営委員会	花田勝美，保嶋　実，加藤博之
19	21世紀教育センター運営委員会	伊藤悦朗，上野伸哉
20	アイソトープ総合実験室運営委員会	土田成紀，伊東　健
21	機器分析センター運営委員会	土田成紀
22	附属図書館運営委員会	藏田　潔，八木橋操六

23	情報公開・個人情報保護委員会	鬼島　宏，羽田隆吉
24	ハラスメント防止等対策委員会	中路重之
25	ハラスメント相談員	中根明夫，早狩　誠
26	入学試験委員会	佐藤　敬，中根明夫
27	動物実験委員会	中根明夫，森　文秋，須田俊宏，成田浩司，澤村大輔
28	組換え DNA 実験安全委員会	土田成紀
29	バイオセーフティ委員会	中根明夫，保嶋　実，伊東　健
30	放射線安全管理委員会	佐藤　敬，花田勝美，土田成紀
31	エネルギー教育推進委員会	東海林幹夫
32	サテライト運営委員会	藤　　哲
33	知的財産審議会	伊東　健
34	総合文化祭実施委員会	鬼島　宏，花田裕之，村市　悟
35	化学物質等管理専門委員会	瀬谷和彦，工藤正純
36	出版会運営委員会	中根明夫，今泉忠淳
37	情報セキュリティ委員会	佐藤　敬，花田勝美
38	セキュリティ対策専門委員会	松谷秀哉，佐々木賀広
39	評価室	元村　成，中澤　満
40	監査室	岡崎耕衛
41	人事苦情処理室	鬼島　宏，佐々木輝雄
42	組換えＤＮＡ実験安全委員会	中根明夫
43	弘前大学創立60周年記念事業運営委員会	佐藤　敬，中路重之，花田勝美，土田成紀，加地　隆，黒田直人
44	入学試験改善委員会	佐藤　敬，中根明夫
45	白神教育研究林専門委員会	檀上和真
46	弘前大学芸術祭実行委員会	差波拓志
47	弘前大学男女共同参画推進室準備室	山田順子
48	北日本新エネルギー研究センター運営委員会	中路重之
49	白神自然観察園運営委員会	檀上和真

【医学研究科・保健学研究科・附属病院共通】（2009年４月現在）

	委　員　会　名	委員名及び委員数　　◎印は委員長
1	医学部教授会	◎佐藤　敬，一戸紀孝，藏田　潔，土田成紀，元村　成，八木橋操六，鬼島　宏，中根明夫，中路重之，黒田直人，若林孝一，上野伸哉，東海林幹夫，伊東　健，福田眞作，奥村　謙，須田俊宏，西條康夫，兼子　直，伊藤悦朗，福田幾夫，袴田健一，藤　　哲，澤村大輔，大山　力，中澤　満，新川秀一，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，木村博人，澤田幸正，浅利　靖，保嶋　実，棟方博文，羽田隆吉，加藤博之，早狩　誠，花田勝美　計39名
2	学科間連絡会	◎佐藤　敬，花田勝美，中路重之，奥村　謙，保嶋　実　計 5名
3	医学研究科附属動物実験施設運営委員会	◎中根明夫，成田浩司，藏田　潔，伊東　健，東海林幹夫，澤村大輔　計 6名
4	附属図書館医学部分館運営委員会	◎藏田　潔，中根明夫　計 2名
5	医学研究科環境整備委員会	◎中根明夫，黒田直人，福田眞作，大山　力，瀬谷和彦，井上　卓，相馬博子，田中一人，村市　悟　計 9名
6	医学研究科倫理委員会	◎黒田直人，鬼島　宏，中根明夫，奥村　謙，兼子　直，廣田和美，元村　成，外崎敬和，田中　完，小林朱実　計10名
7	医学研究科動物実験倫理委員会	◎中根明夫，成田浩司，一戸紀孝，上野伸哉，大山　力，廣田和美，山田俊幸，櫛方哲也　計 8名
8	医学研究科情報公開検討委員会	◎鬼島　宏，上野伸哉，福田眞作，廣田和美　計 4名
9	医学研究科等放射線安全管理委員会	◎小野修一，中根明夫，土田成紀，福田幾夫，藤　　哲，成田浩司，村市　悟，黒滝孝雄　計 8名

Ⅱ．医学研究科・医学部医学科及び附属病院役付職員一覧

【医学研究科・医学部医学科】（2008年４月現在）

医学研究科長・医学部長・医学科長	佐　藤　　敬
副学部長（医学科）	奥　村　　謙
評　　議　　員	中　路　重　之
附属動物実験施設長	中　根　明　夫
附属脳神経血管病態研究施設長	若　林　孝　一
附属図書館医学部分館長	藏　田　　潔

【附属病院】

附　属　病　院　長	花　田　勝　美
副　　病　　院　　長	保　嶋　　実
副　　病　　院　　長	福　田　幾　夫
病　院　長　補　佐	藤　　哲
病　院　長　補　佐	水　沼　英　樹
病　院　長　補　佐	砂　田　弘　子

【医学研究科・医学部医学科】（2009年４月現在）

医学研究科長・医学部長・医学科長	佐　藤　　敬
副学部長（医学科）	奥　村　　謙
評　　議　　員	中　路　重　之
附属動物実験施設長	中　根　明　夫
附属脳神経血管病態研究施設長	若　林　孝　一
附属図書館医学部分館長	藏　田　　潔

【附属病院】

附属病院長	花　田　勝　美
副病院長	保　嶋　　実
副病院長	福　田　幾　夫
病院長補佐	藤　　哲
病院長補佐	水　沼　英　樹
病院長補佐	砂　田　弘　子

Ⅲ．学友会所属サークル一覧（体育系及び文化系）　（2008年４月現在）

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏　名
1	陸上競技部	25	社会医学	中路重之
2	準硬式野球部	30	整形外科学	藤　哲
3	硬式庭球部（男子）	23	統合機能生理学	藏田　潔

4	硬式庭球部（女子）	25	統合機能生理学	藏田　潔
5	ソフトテニス部	37	内分泌代謝内科学	須田俊宏
6	水泳部	20	放射線科学	阿部由直
7	サッカー部	35	病態薬理学	元村　成
8	ラグビー部	28	脳血管病態学	佐藤　敬
9	バレーボール部（男子）	25	胸部心臓血管外科学	福田幾夫
10	バレーボール部（女子）	31	胸部心臓血管外科学	福田幾夫
11	バスケットボール部（男子）	26	分子生体防御学	伊東　健
12	バスケットボール部（女子）	18	分子生体防御学	伊東　健
13	バドミントン部	34	脳神経病理学	若林孝一
14	卓球部	37	消化器血液内科学	福田眞作
15	剣道部	23	産科婦人科学	水沼英樹
16	柔道部	10	整形外科学	藤　哲
17	競技スキー部	29	生体構造医科学	加地　隆
18	ゴルフ部	34	循環呼吸腎臓内科学	奥村　謙
19	弓道部	8	歯科口腔外科学	木村博人
20	空手道部	23	病態薬理学	元村　成

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	写真部	44	統合機能生理学	藏田　潔
2	茶道部	17	感染生体防御学	中根明夫
3	ボランティア［コスモス］	54	感染生体防御学	中根明夫
4	漢方医学研究会	34	臨床薬理学	立石智則
5	国際医療研究会	33	救急・災害医学	浅利　靖
6	管弦楽団	21	耳鼻咽喉科学	新川秀一
7	Medical Cool Quartet	62	整形外科学	藤　哲
8	Green Campus Club	38	感染生体防御学	中根明夫
9	社会医学研究会［ほっと］	19	社会医学	中路重之
10	Medical English Club	24	病理生命科学	鬼島　宏

（2009年４月現在）

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	陸上競技部	30	社会医学	中路重之
2	準硬式野球部	32	整形外科学	藤　哲
3	硬式庭球部（男子）	23	総合機能生理学	藏田　潔
4	硬式庭球部（女子）	23	総合機能生理学	藏田　潔
5	ソフトテニス部	49	内分泌代謝内科学	須田俊宏
6	水泳部	19	神経解剖・細胞組織学	一戸紀孝
7	サッカー部	32	病態薬理学	元村　成
8	ラグビー部	34	脳血管病態学	佐藤　敬
9	バレーボール部（男子）	29	胸部心臓血管外科学	福田幾夫
10	バレーボール部（女子）	31	胸部心臓血管外科学	福田幾夫
11	バスケットボール部（男子）	21	分子生体防御学	伊東　健
12	バスケットボール部（女子）	20	分子生体防御学	伊東　健
13	バドミントン部	37	脳神経病態学	若林孝一
14	卓球部	34	消化器血液内科学	福田眞作
15	剣道部	45	産科婦人科学	水沼英樹
16	柔道部	3	整形外科学	藤　哲
17	スキー部	26	周産母子センター	尾崎浩士
18	ゴルフ部	37	循環呼吸腎臓内科学	奥村　謙
19	弓道部	6	歯科口腔外科学	木村博人
20	空手道部	14	病態薬理学	元村　成
21	山岳部	1	分子病態病理学	八木橋操六

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	写真部	39	総合機能生理学	藏田 潔
2	茶道部	15	感染生体防御学	中根明夫
3	ボランティアサークル［コスモス］	46	感染生体防御学	中根明夫
4	漢方医学研究会	30	薬剤学	早狩 誠
5	国際医療研究会	28	救急・災害医学	浅利 靖
6	医学部管弦楽団	20	耳鼻咽喉科学	新川秀一
7	Medical Cool Quartet	91	整形外科学	藤 哲
8	Gren Campus Club	45	感染生体防御学	中根明夫
9	社会医学研究会［ほっと］	21	社会医学	中路重之
10	Medical English Club	22	病理生命科学	鬼島 宏

Ⅳ．教員現員並びに諸会議・会合等について

1．神経解剖・細胞組織学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	1	0	1	1	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

① Labo meeting

② Scientific meeting

2009年度

主な会議及び会合名：

① 神経解剖・細胞組織学講座，生体構造医科学講座　合同ミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

学生実習用顕微鏡システム仕様策定委員　（浅野）

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

一戸紀孝　教授

動物実験倫理委員会

入試委員会

教員任期委員会

国際化委員会

解剖学教育・研究センター委員

浅野義哉　助教

ネットワーク管理委員会

2．生体構造医科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	2	0	0	1	0	2	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①教室連絡会議（ミーティング）…毎週木曜日

②食事会

2009年度

主な会議及び会合名：

①教室連絡会議（ミーティング）

②教室セミナー

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

遺体収集・管理

篤志献体団体「白菊会」事務局

倫理委員会（外崎）

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

◎遺体収集・管理

◎篤志献体団体「白菊会」事務局

◎産婦人科学講座不妊外来　治療プロトコールの検討会に月１回参加（渡邉）

◎倫理委員会（外崎）

３．統合機能生理学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議（運営・教育・研究などすべてを議題とする）

2009年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議（運営・教育・研究などすべてを議題とする）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

4．ゲノム生化学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	1	1	1	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①ゲノム生化学実験セミナー
②ゲノム生化学運営協議会

2009年度

主な会議及び会合名：
①ゲノム生化学実験セミナー
②ゲノム生化学運営協議会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

5．病態薬理学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	2	1	1	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	2	1	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①週１回スタッフミーテイング，週１回全体抄読会，週２回グループ抄読会
②２ヶ月一回リサーチミーテイング
③新年会，忘年会，同門会，医局旅行，講義・実習打ち上げ等

2009年度

主な会議及び会合名：
①週 1 回スタッフミーテイング，週 1 回全体抄読会，週 2 回グループ抄読会
② 2 ヶ月一回リサーチミーテイング
③新年会，忘年会，同門会，医局旅行，講義・実習打ち上げ等

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

6．分子病態病理学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	2	0	5	0	1

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	2	0	3	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①教室会議（教室の教育・研究・病理診断等業務のため）医師は毎週 1 回，技師を加えて月 1 回
②季節ごとの教室リクリエーション（全教室員が参加）
③年 1 回教室旅行

2009年度

主な会議及び会合名：
①教室会議（全員）月 1 回
②抄読会（月，火）毎週（全教官，大学院生）
③症例検討会（毎週月曜 1 回）（全教官，大学院生）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
病理業務の精度管理，円滑化等に心がけている。
教育・研究については，コミュニケーションを緊密化し，成果の得られるように努めている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
教室構成メンバーの意見交換，問題点討議など，月 1 回程度行事を開いて，意思の疎通を図っている。

7．病理生命科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	3	6	3	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	0	0	3	6	3	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

① 教室連絡会議
② 研究セミナー後のミーティング
③ 症例討議会のミーティング

2009年度

主な会議及び会合名：

① 教室連絡会議
② 研究セミナー後のミーティング
③ 症例討議会のミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室連絡会議には教官・大学院生のみならず，研究生・技師および補助員の意見も反映される。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室連絡会議には教官・大学院生のみならず，研究生・技師および補助員の意見も反映される。

8．感染生体防御学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	3	1	2	0	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	3	0	1	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①感染生体防御学講座運営会議

2009年度

主な会議及び会合名：

①感染生体防御学講座運営会議
②スタッフミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

9．社会医学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	40	4	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	3	0	0	56	11	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①教室会議

2009年度

主な会議及び会合名：
①教室会議

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

10．法医学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1 （特任講師）	0	0	0	0	0	1 （技術補佐員）	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	*1 1	0	0	0	0	0	*2 1	0	0

*1 特任講師
*2 非常勤技術補佐員

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①会議と呼べるほどの規模ではない（議事録もない）が，原則として一日二回行なう「コーヒーブレイク」の際に意思疎通を図っている。（少人数のためこれで充分。）

2009年度

主な会議及び会合名：

なし

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室員が 4 名（常勤教員 2 名，特任講師 1 名，技術補佐員 1 名）（本報告書作成時には常勤教員は 1 名）しかいないので，会議はない。当該人員が常に対話を絶やさず，仕事の分担，連絡の徹底，問題の解決などに心掛けている。

かく言う法医学講座でも，物事に対する見解や認識が講座構成員間で多少なりとも異なるのは，他の社会集団と同様である。基本的に，ありふれた日常会話や一見無駄と思われるような事々の遣り取りを蔑ろにすることなく，お互いに他の構成員との距離間を事ある毎に確認し合うことによって，crew resource management の向上を心掛けている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

講座運営会議に関する規則は設けているが，教室員が 3 名しかいないので，定期的あるいは形式上の会議はない。当該 3 名が常に対話を絶やさず（1 日 2 回以上のブリーフィングお行っている），仕事の分担，連絡の徹底，問題の解決などに心掛けている。

11. 消化器血液内科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	3	1	8	4	0	0	0	3

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	11	8	0	0	0	3

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座運営委員会

②抄読会

2009年度

主な会議及び会合名：

①講座運営委員会

②抄読会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教員とのコミュニケーションを大切にし，各自の意見・希望ができるだけ達成できるように努力している。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
構成員とのコミュニケーションを大切にし，各自の意見・希望ができるだけ達成できるように配慮している。

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	2	7	0	9	12	0	0	0	4

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	7	0	4	14	0	3	0	2

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①弘前大学医学部循環器内科教室会

2009年度

主な会議及び会合名：
①循環器内科教室会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

13. 内分泌代謝内科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	4	5	0	16	5	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	0	20	3	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①教室会議（年２回）
②スタッフ会議（毎月）
③病棟会議（毎月）

2009年度

主な会議及び会合名：
①教室会議（年 2 回）
②スタッフ会議（毎月）
③病棟会議（毎月）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

14. 腫瘍内科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①連絡会：毎週水曜日に消化器血液内科と合同で連絡会を行っている
②報告会：毎週月曜病棟カンファレンスの後にスケジュール確認を行っている
③リサーチカンファレンス・抄読会：毎週木曜夕方実施

2009年度

主な会議及び会合名：
①業務連絡会（消化器・血液内科と合同）毎週水曜日昼休み
②抄読会・リサーチミーティング　毎週木曜夕方
③事務連絡会　毎週月曜日カンファレンス終了後

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

15. 神経精神医学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）

（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	2	4	1	2	4	5	0	16	0

（2009年４月現在）

（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	4	1	2	3	5	0	15	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①定期講座運営会議
②卒後研修委員会
③人事会議

2009年度

主な会議及び会合名：

①定期講座運営会議
②卒後研修委員会
③人事会議

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 卒後研修システム：
   卒後 1 年目～ 5 年目までの研修生を対象に，研修病院群を含むシステムを作り，研修委員会規約を設定し，それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ，それを研修医に呈示し，それを参考に研修医が自ら研修先を決めている。
2. 定期講座運営会議：
   月 1 回，講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。
3. 人事会議：
   卒後 6 年目以降の人事は，当事者・講座マネージャー・准教授・教授で討議し，本人の了解を得た上で決定している。
4. 病棟 Conference：
   治療方針・連絡等，月 1 回 Co-medical staff と意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 卒後研修システム：
   卒後 1 年目～ 5 年目までの研修生を対象に，研修病院群を含むシステムを作り，研修委員会規約を設定し，それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ，それを研修医に呈示し，それを参考に研修医が自ら研修先を決めている。
2. 定期講座運営会議：
   月 1 回，講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。講座会議間は回覧として情報を伝え，一方で意見を集約している。
3. 人事会議：
   卒後 6 年目以降の人事は，当事者・講座マネージャー・准教授・教授で討議し，本人の了解を得た上で決定している。
4. 病棟 Conference：
   治療方針・連絡等，月 1 回 Co-medical staff と意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

16. 小児科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	8	1	2	3	0	2

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	10（うち2名大学院生）	0	0	3	0	2

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

① 小児科学講座運営会議
② 病棟カンファランス
③ 小児科人事委員会

2009年度

主な会議及び会合名：

① 小児科学講座運営会議
② 病棟カンファランス
③ 小児科人事委員会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

17. 胸部心臓血管外科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	0	3	4	0	0	26	2

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	4	1	3	3	0	0	26	2

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座連絡会（水曜日午前８時）
②術前術後検討会・症例検討会（水曜日午前８時，金曜日午前８時）
③スタッフ会議（火曜日午前８時）

2009年度

主な会議及び会合名：
①講座連絡会（水曜日午前 8 時）
②術前術後検討会・症例検討会（水曜日午前 8 時，金曜日午前 8 時）
③スタッフ会議（火曜日午前 8 時）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
死亡症例検討会を行い，経験から学ぶことを重視した。

18. 消化器外科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	0	12	2	1	0	0	3

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	0	13	12	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議（毎月 1 回）
②医員連絡会議（毎週月曜日）
③卒後研修委員会（年 4 回：3 ヶ月毎）

2009年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議（毎月 1 回）
②医員連絡会議（毎週月曜日）
③卒後研修委員会（年 4 回：3 ヶ月毎）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

19. 整形外科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	7	11	2	0	0	3

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	7	10	2	0	0	3

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

① 教室運営会議
② スタッフ会議
③ 月例研究会
④ 弘前大学整形外科勤務医会
⑤ 弘前大学整形外科研修医会

2009年度

主な会議及び会合名：

① 教室運営会議
② スタッフ会議
③ 弘前大学整形外科勤務医会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1．2週に一度の教室運営会議にて，管理・運営面に関する諸問題を検討している。
2．スタッフ会議を週３回持ち，連絡の徹底・意思の疎通を計り，できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。
3．弘前大学整形外科勤務医会を立ち挙げ，主として７年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施，研究会などの企画，人事異動などを検討している。
4．若手研修医は研修医会を作り，研修希望内容などを検討し，大学スタッフに要望するなど，活発な活動をしている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1．２週に一度の教室運営会議にて，管理・運営面に関する諸問題を検討している。
2．スタッフ会議を週３回持ち，連絡の徹底・意思の疎通を計り，できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。
3．弘前大学整形外科勤務医会を立ち挙げ，主として７年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施，研究会などの企画，人事異動などを検討している

20. 皮膚科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	5	0	10	6	1	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	2	2	9	6	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①第 1 皮膚科学講座運営会議（教授，助教授，講師，助教，医員（研修医），大学院生）

②第 2 皮膚科学講座運営会議（第 1 皮膚科学講座運営会議から教授を除く）

③皮膚科代表者会議（教授，助教授，講師，講座幹事長）

2009年度

主な会議及び会合名：

①第 1 皮膚科学講座運営会議（教授，助教授，講師，助教，医員（研修医），大学院生）

②第 2 皮膚科学講座運営会議（第 1 皮膚科学講座運営会議から教授を除く）

③皮膚科代表者会議（教授，助教授，講師，講座幹事長）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

その他講座内・外からの意見，希望に関して，E-mail での連絡も勧めている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

その他講座内・外からの意見，希望に関して，E-mail での連絡も勧めている。

21. 泌尿器科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	6	0	2	4	1	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	5	0	5	4	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座連絡会

②手術検討会

③病理検討会

2009年度

主な会議及び会合名：

①講座連絡会

②手術検討会

③病理検討会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

22. 眼科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	6	0	4	1	0	3	不明	1

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	5	0	4	1	0	4	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①医局会
②抄読会
③研究会

2009年度

主な会議及び会合名：
①医局会
②抄読会
③研究会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
円滑な意思疎通が行われるように配慮している

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

23. 耳鼻咽喉科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	5	0	2	3	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	5	0	2	2	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座連絡会議

②研究発表会

③術後症例検討会

2009年度

主な会議及び会合名：

①講座連絡会議

②研究発表会

③術後症例検討会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

24. 放射線科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	2	3	0	1	3	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	2	2	2	0	4	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①　講座運営会議（隔週）

②　抄読会（隔週）

③　同窓会，忘年会，花見など（年１回）

放射線治療連絡会議（毎週）

2009年度

主な会議及び会合名：

①　講座運営会議

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

各科カンファランス（呼吸器，肝胆膵，耳鼻科，婦人科，食道，小児腫瘍，神経放射線など）

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

25. 産科婦人科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	3	4	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	2	0	5	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①月曜会（術前術後検討会，諸連絡会／協議事項）
②婦人科カンファランス

2009年度

主な会議及び会合名：
①月曜会 (術前術後検討会，諸連絡／協議事項)
②婦人科カンファランス
③スタッフミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

26. 麻酔科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	13	9	1	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	5	0	10	7	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①教室連絡会（毎週月曜日）

②スタッフミーティング（2 ヶ月に 1 回）

③抄読会（この会議においても，連絡事項を話している。毎週月曜日）

2009年度

主な会議及び会合名：

①教室連絡会（毎週月曜日）

②スタッフミーティング（2 ヶ月に 1 回）

③抄読会（この会議においても，連絡事項を話している。毎週月曜日）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

必要に応じて毎日密接に連絡を取っている。

トラブルが生じたら，即刻，対処するようにしている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

必要に応じて毎日密接に連絡を取っている。つまり，トラブルが生じたら，現場からリスクマネジャー，教授に連絡が入るとともに，現場でその部署のその日の責任者が，即刻対処するようにしている。

27. 脳神経外科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	3	0	2	0	0	0	0	2

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	2	0	3					

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座会議

②術前症例検討会

③術後症例，病理検討会

2009年度

主な会議及び会合名：

①講座会議

②術前症例検討会

③術後症例，病理検討会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

28. 歯科口腔外科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	4	0	7	1	0	1	1	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	3	0	10	2	0	1	1	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議
②拡大講座運営会議
③抄読会

2009年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議
②拡大講座運営会議
③抄読会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教育，診療，研究，人事などの諸案件に関して，教室員との双方向的伝達を良好なものにするため，平成12年４月より，教授，准教授，助教による教員連絡会議を月１回開催することにした。しかし，教室員全員への連絡・協議事項が多く，意思疎通が図れないため，平成14年１月にこれを廃止し，教室連絡会議（旧医局会）を月２回開催することにした。平成15年２月からは名称を講座運営会議として現在に至っている。

また，外来，病棟の診療スタッフ等との意思疎通を図るため，奇数月１回拡大講座運営会議を開催している。

管理・運営での主たる案件は，医療事故防止の徹底，診療収支の改善，学生教育の自己点検，関連病院への医師派遣などである。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教育，診療，研究，人事などの諸案件に関して，教室員との双方向的伝達を良好なものにするため，平成12年４月より，教授，准教授，助教による教員連絡会議を月１回開催することにした。しかし，教室員全員への連絡・協議事項が多く，意思疎通が図れないため，平成14年１月にこれを廃止し，教室連絡会議（旧医局会）を月２回開催することにした。平成15年２月からは名称を講座運営会議として現在に至っている。

また，外来，病棟の診療スタッフ等との意思疎通を図るため，奇数月１回拡大講座運営会議を開催している。

管理・運営での主たる案件は，医療事故防止の徹底，診療収支の改善，学生教育の自己点検，関連病院への医師派遣などである。

29. 形成外科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	3	0	3	0	0	0	1	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	3	0	3	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議
②症例検討会
③連絡会議

2009年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議
②連絡会議
③症例検討会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

30. 救急・災害医学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	1							

2008年度

主な会議及び会合名：
①モーニングカンファレンス（月～金曜日）
②イブニングカンファレンス（月～金曜日）
③ ER 塾（毎週火曜日）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

31. 臨床検査医学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①検査教員会議（週一回）
②検査勉強会（週一回）
③検査抄読会（週一回）

2009年度

主な会議及び会合名：
①教員・大学院生会議
②検査部会議
③定期カンファレンス

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
弘前臨床検査勉強会を月一回講師を呼んで開催している。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
弘前臨床検査勉強会を年 2 回講師を呼んで開催している。

32. 臨床薬理学講座

資料なし

33. 小児外科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①運営会議（週２回のカンファランス後，議題があれば引き続き行っている。）

2009年度

主な会議及び会合名：
①運営会議（週２回のカンファランス，議題があれば引き続き行っている。）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
構成員が２名であるため，問題があれば適宜２人の話し合いで決定している。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
構成員が２名のみであるため，問題点があれば適宜２人の話し合いで決定している。

34. 医学医療情報学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	※6

※内訳と説明
事務職員５（全て医事課の兼務職員）
看護師長１（看護部の兼務職員）
技術補佐員１

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	※6

※内訳
事務職員５（全て医事課の兼務職員）
看護師長１（看護部の兼務職員）
技術補佐員１

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①医療情報部内会議：電算室の教官・事務職員による定例の業務会議（月 1 回）

②医療情報部門会議：電算室の教員・事務職員並びに他部門職員による業務会議（月 1 回）

③システム連絡会議：②構成員とシステムベンダーとの業務打合（月 1 回）

2009年度

主な会議及び会合名：

①医療情報部内会議：電算室の教員・事務職員による定例の業務会議（月 1 回）

②医療情報部門会議：電算室の教員・事務職員並びに他部門職員による業務会議（月 1 回）

③システム連絡会議：②構成員とシステムベンダーとの業務打合（月 1 回）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

①個人（患者）情報の保護（守秘）に留意した管理・運営を心掛ける

②情報システムの保全（対ウイルス等）に努める

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特記事項（特徴）：日常（月～金），教員（3 名）は事務職員（5 名）・看護師長（1 名）と混然一体となり診療情報流通業務に当たっている。

①個人（患者）情報の保護（守秘）に留意した管理・運営に努めている。

②情報システムの保全（対ウイルス等）に努めている。

35. 総合診療医学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①総合診療部連絡会議

2009年度

主な会議及び会合名：

①総合診療部連絡会議

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

36. 薬剤学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	22	0	5

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	1	0	22	0	5

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
① 講座人員が教授１名のため自己判断で行っている。

2009年度

主な会議及び会合名：
① 薬剤部内ミーティング（週１回）
② 各部署での連絡会議（週１回）
③ 緊急時対応の主任会議（随時）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

37. 脳神経病理学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

① Neuropathological conference

2009年度

主な会議及び会合名：

① Neuropathological conference

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

38. 脳血管病態学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	0	0	1	0	0	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	0	1	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①脳血管病態学講座会議

②脳血管病態学講座研究セミナー

③脳神経血管病態研究施設会議

2009年度

主な会議及び会合名：

①脳血管病態学講座会議

②脳研セミナー

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

高度先進医学研究センターと合同で定期的に研究セミナーを開催している。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

39. 脳神経生理学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①教室ミーティング
②脳研会議
③てんかんグループミーティング

2009年度

主な会議及び会合名：
①教室会議
②脳研会議
③てんかん研究グループ会議

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

40. 脳神経内科学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	1	0	3	3	2	3	0	6

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	1	0	3	3	2	7	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①教室会議　　毎週火曜日夕方に行っている
②スタッフ会議　　毎朝８時20分から行っている
③病棟回診，外来カンファランス　毎週火曜日に行っている

2009年度

主な会議及び会合名：

①教室会議　　毎週月曜日夕方に行っている

②スタッフ会議　　毎朝８時20分から行っている

③病棟回診，外来カンファランス　毎週火曜日に行っている

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

平成20年１月から，新外来棟で内科各科と共同して診療を開始した。また，もの忘れ外来，パーキンソン病外来，神経変性疾患外来，神経免疫疾患専門外来，遺伝子疾患外来を開始し，外来での認知リハビリテーションも開始し，神経内科外来として順調な発展がみられた。また，当科独自の取り組みとして，遺伝子診断，バイオマーカー，筋生検，電気生理学的検査などの検査が弘前でもできるように確立し，患者の診療に大きな進歩がみられた。地域医療に貢献した。科研費を始め，多くの外部資金の獲得によって，事務員や研究補助員をたくさん雇用し，研究面でも大きな進歩を遂げた。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

外来診療ではもの忘れ外来，パーキンソン病外来，神経変性疾患外来，神経免疫疾患専門外来，遺伝子疾患外来を開始し，外来での認知リハビリテーションも行っており，神経内科外来として順調な発展がみられた。また，当科独自の取り組みとして，遺伝子診断，バイオマーカー，筋生検，電気生理学的検査などの検査が弘前でもできるように確立し，患者の診療に大きな進歩がみられた。病棟では多くの紹介患者に高度な診療を行い，ネットワークの形成など地域医療に貢献した。研究室の引っ越しがあり，研究設備と教室員の居住空間を整備した。科研費を始め，多くの外部資金の獲得によって，事務員や研究補助員を雇用し，研究面でも大きな進歩を遂げた。

41．分子生体防御学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①研究発表会

②論文抄読会

③事務連絡会

2009年度

主な会議及び会合名：

①研究発表会

②論文抄読会

③事務連絡会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし。

42. 糖鎖工学講座

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①リサーチセミナー

②抄読会

③糖鎖工学講座運営会議（月１回）

2009年度

主な会議及び会合名：

①リサーチセミナー

②抄読会

③糖鎖工学講座運営会議（月１回）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

43. 附属動物実験施設

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	1

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①動物実験施設兼任教員会議
②動物実験施設スタッフミーティング

2009年度

主な会議及び会合名：
①動物実験施設兼任教員会議
②動物実験施設スタッフミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
動物実験施設利用者講習

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
新規施設利用者に対する動物実験施設利用者講習を行っている。

44. 医学教育センター

資料なし

45. 手　術　部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
なし

2009年度

主な会議及び会合名：
①手術部調整会議

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

46. 検　査　部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	1	0	0	0	0	29	0	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	1	0	0	0	0	29	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①教員・大学院会議
②検査部会議
③定期カンファレンス

2009年度

主な会議及び会合名：
①教員・大学院会議
②検査部会議
③定期カンファレンス

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
2008年度所属の教員は2009年３月で既に辞職しております。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

47. 放 射 線 部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	29	13	3

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	29	13	3

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①放射線部定例会（週1回）

②主任者会議（毎日）

③技師長，副技師長会議（週1回）

2009年度

主な会議及び会合名：

①放射線部定例会（週1回）

②主任者会議（毎日）

③技師長，副技師長会議（週1回）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

部長，副部長との会議を不定期に行なっている。

48. 材　料　部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1併任	1併任	0	0	0	0	0	0	2	1	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1併任	1併任	0	0	0	0	0	0	2	1	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①定例のスタッフ会議

②業務開始・終了時ミーティング（毎日）

2009年度

主な会議及び会合名：

①定例のスタッフ会議（メール等を含む）

②業務開始・終了時ミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

経費削減のため医療材料の見直しを実施。

診療業務支援に影響を与えることなく滅菌機器・洗浄機器の入れ替えを終了した。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

標準予防策を基に鋼製小物類の洗浄を感染症の区別なく実施し確立した。
針刺し防止機構付留置針の採用と製品紹介の企画・運営に貢献した。

49. 救　急　部

資料なし

50. 輸　血　部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

① 月例ミーティング
② 業務連絡（輸血部ミーティング）（原則週１回）

2009年度

主な会議及び会合名：

①輸血部ミーティング（月１回）
②業務連絡ミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1．血液製剤は高価な医薬品であるため，各診療科への使用状況の確認等を積極的に行い，血液製剤廃棄数を減らす努力をしている。
2．「血液型検査の輸血部2回施行」開始
主治医の血液型誤判定や検査省略など医療安全上大きな問題となったため，７月10日より輸血部で血液型検査を２回施行（平日日勤帯）することにした。その結果，本年度は血液型検査件数の大幅増加（前年度比160%）となった。
3．「各診療科の月別アルブミン使用状況」を作成・配布
輸血管理料取得を目指して，院内におけるアルブミン使用量の一層の適正化を図るため，平成20年９月分より「各診療科の月別アルブミン使用状況」を作成・配布している。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1．血液製剤は高価な医薬品であるため，各診療科への使用状況の確認等を積極的に行い，血液製剤廃棄数を減らす努力をしている。
2．「各診療科の月別アルブミン使用状況」を作成・配布
輸血管理料取得を目指して，院内におけるアルブミン使用量の一層の適正化を図るため，平成20年９月分より「各診療科の月別アルブミン使用状況」を作成・配布している。
3．高度救命救急センター稼動に伴い，緊急赤血球輸血への迅速な対応のため，センターへの放射線照射済みO型RCCの常備や，センターとの緊急時対応のシミュレーション等を実施した。

51. 集中治療部

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
毎日朝夕２回カンファレンスを行っている。

2009年度

主な会議及び会合名：
毎日朝夕２回カンファレンスを行っている。

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
週に2,3回管理について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
週に2,3回管理について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

52. 周産母子センター

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①産婦人科症例検討会
②小児科症例検討会
③周産母子センター症例検討会

2009年度

主な会議及び会合名：
①産婦人科症例検討会
②小児科症例検討会
③周産母子センター症例検討会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

次年度からの NICU・GCU 増床に向けた改修工事を行った。

53. 病　理　部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	1

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	1

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①病理部担当者会議

②抄読会

③症例検討会

2009年度

主な会議及び会合名：

① 病理部連絡会議

② 病理部担当者会議

③ 抄読会後のミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

病理部診断業務の精度維持やリスクマネージメント対策として，病理部の教官と技術職員ならびに医学部の分子病態病理学講座と病理生命科学講座の各教官との意思疎通を十分図るために，会議の開催や病理システム・ネットワークの構築の他に，個々の事案については毎日のように直接密な連絡を取り合っている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

病理部連絡会議には教官・大学院生のみならず，技師・補助員および事務員の意見も反映される。病理部担当者会議は，病理部に携わるすべての教職員（医学研究科の分子病態病理学講座・病理生命科学講座を含む）の意見が反映される。

54. 光学医療診療部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①抄読会・連絡会議

2009年度

主な会議及び会合名：
①光学医療診療部業務連絡会議
②消化器血液膠原病内科昼食会
③消化器血液膠原病内科昼食会講座運営委員会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
院内内視鏡一元管理

55. リハビリテーション部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①スタッフミーティング（毎朝8:20～8:30）
②職員会議（毎月第３または第４金曜日12:30～13:00）
③モーニング（毎週水・金曜日8:15～8:30）ランチョンカンファレンス（毎週火曜日12:10～13:30）

2009年度

主な会議及び会合名：
①ケースカンファレンス
②スタッフミーティング

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

リハビリテーション部勉強会（第1・3火曜日 18:30～20:30）

臨床リハビリテーションフォーラム（年 2 回）（当リハビリテーション部主催：年 1 回は宿泊研修）

整形外科術前術後回診・総回診など，整形外科との連携を保ちつつ，職員相互の能力向上に努めている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

56. 強力化学療法室

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①弘前大学造血幹細胞移植研究会

② ICTU 入室患者カンファレンス

③ ICTU 勉強会

2009年度

主な会議及び会合名：

①弘前大学造血幹細胞移植研究会

② ICTU 入室患者カンファレンス

③ ICTU 勉強会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし。

57. 地域連携室

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①運営カンファレンス
②業務カンファレンス
③ケースカンファレンス

2009年度

主な会議及び会合名：
①運営カンファレンス
②業務カンファレンス
③ケースカンファレンス

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
定期的にカンファレンスを開催し，業務改善に努めている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
業務上，必要に応じて医事課職員に相談・意見を求め協力体制をとっている。

58. MEセンター

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
① ME センターミーティング　1 回 / 週（火）11:00 ～ 12:00

2009年度

主な会議及び会合名：
① ME センターミーティング　1 回 / 週（火）11:00 ～ 12:00

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

59. 治験管理センター

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
① 毎週１回センター内ミーティング（事務局会議）を開催し，連絡事項の徹底を計り，治験の支援業務に支障を生じないようにして
いる。
② CRC および事務局との連絡を随時密にし，治験業務の不備が無いように心掛けている。

2009年度

主な会議及び会合名：
① 毎週１回センター内ミーティング（事務局会議）を開催し，連絡事項の徹底を計り，治験の支援業務に支障を生じないようにして
いる。
② CRC および事務局との連絡を随時密にし，治験業務の不備が無いように心掛けている。

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし。

60. 卒後臨床研修センター

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①卒後臨床研修センター運営委員会

②研修管理委員会

③研修医ミーティング（研修医のためのプライマリ・ケアセミナー後）

2009年度

主な会議及び会合名：

①卒後臨床研修センター運営委員会

②研修管理委員会

③研修医連絡会議

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- 研修医オリエンテーションを行なった（平成20年4月1日－7日）
- 研修医のためのプライマリ・ケアセミナーを11回開催した
- CPCを6回開催した
- ベスト研修医賞選考会を開催した（平成21年2月27日）
- 弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラム研修医採用時面接の面接官を務めた（加藤博之4回，大沢　弘2回）

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- 研修医オリエンテーションを行った（平成21年4月1日－7日）
- 研修医のためのプライマリケアセミナーを11回開催した
- CPCを4回開催した
- ベスト研修医賞選考会を開催した（平成22年2月25日）
- 弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラム研修医採用時面接の面接官を務めた（加藤博之4回，大沢　弘2回）
- 第27回臨床研修研究会に参加した（加藤博之，平成21年4月11日，東京）
- 東北厚生局主催卒後臨床研修プログラム説明会に参加した（加藤博之，平成21年5月13日，仙台）

61．歯科医師卒後臨床研修室

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

歯科医師卒後臨床研修管理委員会

2009年度

主な会議及び会合名：

① 歯科医師卒後臨床研修室運営委員会（委員長：木村博人教授）

② 歯科医師卒後臨床研修管理委員会（委員長：花田勝美病院長）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

2008年末に実施された研修歯科医師採用マッチング結果は，8名の面接応募者に対し5名であった。しかし，5名のうち2名が国試不合格となり，2009年度は3名の研修歯科医師の臨床研修を担当した。

研修の内容は，研修プログラムに従って例年通り実施されたが，特に問題もなく良好に研修指導が行えた。

この間，学外委員も含めた卒後臨床研修管理委員会は年度当初と年度末の2回開催した。年度当初には前年度研修の反省と本年度研修プログラム，日程表等の是非について審議された。年度末には，研修プログラムに従ったDEBUT評価結果を踏まえ修了認定され，3名全員が研修修了証を授与された。

研修歯科医師の指導に関しては，教室の指導者が毎月の講座運営会議あるいは隔月の拡大講座運営会議に於いて情報交換し審議した。管理・運営での主な審議事項は，医療事故防止の徹底，指導内容・方法の適正化などであった。

62. 腫瘍センター

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①腫瘍センター運営委員会

2009年度

主な会議及び会合名：

①腫瘍センター運営会議

②プロトコール委員会

③当日患者に関するミーティング（毎朝）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

医療事故を起こさず，外来化学療法センターを運営することができた。外来化学療法センターを使った外来化学療法実施件数は昨年度より大きく増加し，月300件を越えた。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

医療事故を起こさず，外来化学療法センターを運営することができた。外来化学療法センターを使った外来化学療法実施件数は昨年度より大きく増加し，月400件を越えた。

63. 医療支援センター

資料なし

64. 栄 養 管 理 部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：

①栄養管理委員会
②献立検討会

2009年度

主な会議及び会合名：

①栄養管理委員会
②献立検討会

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

65. 病　歴　部

【教員定員数等】（2008年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在）　（名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
なし

2009年度

主な会議及び会合名：
なし

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
複数診療科受診患者の外来カルテ配送のためにカルテメッセンジャーを配置して，15分ごとの配送を行ったことにより，カルテ配送に起因する待ち時間が短縮された。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
平成21年４月より，本院の診療記録管理規程が施行され，診療録管理体制加算の施設基準として求められている診療記録保管・管理のための規程が明文化された。

66. 医療安全推進室

【教員定員数等】（2008年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（2009年４月現在） （名）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2008年度

主な会議及び会合名：
①医療安全推進室会議（毎週月曜日）
②医療事故等事例検討会
③連絡会（必要時）

2009年度

主な会議及び会合名：
①医療安全推進室会議（毎週火曜日または月曜日）
②医療事故等事例検討会
③連絡会（必要時）

【その他】

2008年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
すべての会議の議事録の作成と保管を行っている。

2009年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
すべての会議の議事録の作成と保管を行っている。

弘前大学大学院医学研究科・附属病院自己評価委員会

委員長	若林孝一	（脳神経病理学講座教授）
委員	藏田　潔	（統合機能生理学講座教授）
	新川秀一	（耳鼻咽喉科学講座教授）
	袴田健一	（消化器外科学講座教授）
	元村　成	（病態薬理学講座教授）
	大山　力	（泌尿器科学講座教授）
	山田勝也	（統合機能生理学講座准教授）
	古川賢一	（病態薬理学講座准教授）
	中村典雄	（地域医療学講座准教授）
	藤井　学	（神経科精神科助教）
	石黒　陽	（光学医療診療部准教授）
	玉井佳子	（輸血部講師）
	千葉　博	（附属病院事務部長）

弘前大学大学院医学研究科・附属病院 **自己評価報告書** ＝2008年度－2009年度＝

2011年3月31日　印刷
2011年3月31日　発行

発行者　弘前大学大学院医学研究科・附属病院

発行所　弘前大学大学院医学研究科・附属病院
医学研究科　〒036-8562 青森県弘前市在府町5
附属病院　〒036-8563 青森県弘前市本町53
電　話 0172-33-5111（大代表）